
JD Edwards EnterpriseOne 売掛 管理 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

| | |
|--|--------|
| この PeopleBook について | xxvii |
| JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件..... | xxvii |
| アプリケーションの基礎..... | xxvii |
| 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード..... | xxviii |
| 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)..... | xxviii |
| ドキュメンテーションのダウンロード..... | xxviii |
| 追加情報..... | xxviii |
| 表記規則..... | xxx |
| 表記規則..... | xxx |
| 注意事項の表示..... | xxx |
| 国、地域、業種の表記..... | xxx |
| 通貨コード..... | xxx |
| ご意見、ご要望をお寄せください..... | xxx |
| 製品ガイドで使用する共通フィールド..... | xxx |

まえがき

| | |
|--|------|
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理 – まえがき..... | xxxv |
| JD Edwards EnterpriseOne製品..... | xxxv |
| JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎..... | xxxv |

第 1 章

| | |
|---|---|
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理 – はじめに..... | 1 |
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理の概要..... | 1 |
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理のビジネス・プロセス..... | 1 |
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理の統合..... | 2 |
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理の導入..... | 3 |
| グローバル導入の手順..... | 3 |
| 売掛管理導入の手順..... | 3 |

第 2 章

| | |
|--|---|
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムの設定..... | 5 |
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理のシステム設定について..... | 5 |

| | |
|-----------------------------|----|
| 売掛管理固定情報の設定..... | 6 |
| 売掛管理固定情報について..... | 6 |
| 拡張固定情報について..... | 7 |
| システム固定情報について..... | 8 |
| 会社固定情報について..... | 8 |
| 事前設定..... | 8 |
| 売掛管理の固定情報の設定に使用するフォーム..... | 9 |
| 拡張売掛管理固定情報の設定..... | 9 |
| 売掛管理システム制御の設定..... | 10 |
| 売掛管理会社制御の設定..... | 11 |
| 売掛管理のユーザー定義コード(UDC)の設定..... | 12 |
| 売掛管理の自動採番..... | 20 |
| 売掛管理の自動採番について..... | 20 |
| 売掛管理AAI(自動仕訳)の設定..... | 21 |
| 売掛管理AAIについて..... | 21 |
| AAIの検索順序について..... | 22 |
| 売掛管理AAIについて..... | 23 |
| 売掛管理の支払条件の設定..... | 25 |
| 損金処理のための処理コードの設定..... | 26 |
| 損金処理コードについて..... | 26 |
| 損金処理コードの設定に使用するフォーム..... | 26 |
| 損金処理コードの設定..... | 26 |

第 3 章

| | |
|--|----|
| 顧客マスター情報の設定..... | 29 |
| 顧客マスター情報について..... | 29 |
| この章で使用する共通フィールド..... | 29 |
| 顧客マスター・レコードの入力..... | 29 |
| 顧客マスター・レコードについて..... | 30 |
| 事前設定..... | 30 |
| 顧客マスター情報の入力と改訂に使用するフォーム..... | 31 |
| 顧客マスター情報(P03013)の処理オプションの設定..... | 31 |
| 顧客マスターMBF処理オプション(P0100042)の処理オプションの設定..... | 32 |
| 顧客マスター・レコードの作成..... | 33 |
| (ARG)アルゼンチン用顧客マスターの追加情報の入力..... | 37 |
| (BEL)親会社の顧客情報の入力..... | 37 |
| 顧客マスター・カテゴリ・コードの割当..... | 38 |
| 顧客マスター・カテゴリ・コードについて..... | 38 |
| 住所録からのカテゴリ・コードの自動更新について..... | 39 |

| | |
|--|----|
| 有効日付カテゴリ・コードについて..... | 39 |
| 有効日付カテゴリ・コードの更新プログラムについて..... | 40 |
| 有効日付カテゴリ・コードの除去について..... | 40 |
| 顧客マスター・カテゴリ・コード値の割当に使用するフォーム..... | 41 |
| 住所録のカテゴリ・コードによる顧客マスターの更新..... | 41 |
| 顧客マスター・カテゴリ・コードの追加..... | 41 |
| 有効日付カテゴリ・コードの追加..... | 42 |
| 有効日付カテゴリ・コードによる顧客マスター・レコードの更新..... | 42 |
| 有効日付カテゴリ・コードの更新(R03012A)のデータ選択とデータ順序の設定..... | 43 |
| 有効日付カテゴリ・コードの更新(R03012A)の処理オプションの設定..... | 43 |
| 有効日付カテゴリ・コードの削除..... | 43 |
| 有効日付カテゴリ・コードの除去(R03012B)の処理オプションの設定..... | 43 |
| 顧客マスター・レコードの改訂と削除..... | 43 |
| 顧客マスター・レコードの改訂について..... | 44 |
| 顧客マスター・レコードの削除について..... | 44 |
| カスタマ・セルフサービス・プログラムの利用..... | 46 |
| カスタマ・セルフサービス・プログラムについて..... | 46 |
| カスタマ・セルフサービスによる顧客マスター情報の更新に使用するフォーム..... | 47 |
| カスタマ・セルフサービス・プログラムの利用..... | 47 |

第 4 章

| | |
|------------------------|-----------|
| 受取手形の設定..... | 49 |
| 手形の設定について..... | 49 |
| 手形処理のUDCの設定について..... | 49 |
| 手形処理のAAIの設定について..... | 52 |
| 手形タイプ別AAI..... | 53 |
| 支払手段のデフォルト設定について..... | 55 |
| 手形処理の自動採番について..... | 55 |
| 銀行/支店情報の検証..... | 56 |
| 銀行/支店情報の検証について..... | 56 |
| 銀行口座検証レポートの印刷..... | 56 |
| 銀行口座検証の処理オプションの設定..... | 56 |

第 5 章

| | |
|-----------------------|-----------|
| 自動入金処理の設定..... | 57 |
| 自動入金処理の設定について..... | 57 |
| 銀行勘定について..... | 58 |
| 自動入金のマッピングについて..... | 59 |

| | |
|--|-----------|
| 自動入金処理のためのシステム設定..... | 60 |
| アルゴリズムの定義..... | 60 |
| アルゴリズムについて..... | 60 |
| 既知請求書照合(金額指定あり)(R03B50D)の処理オプションの設定..... | 68 |
| 既知請求書照合(金額指定なし)(R03B50E)の処理オプションの設定..... | 73 |
| 残高繰越照合(R03B50B)の処理オプションの設定..... | 75 |
| 請求書選択照合(R03B50A)の処理オプションの設定..... | 76 |
| 組合せ請求書照合(R03B50F)の処理オプションの設定..... | 79 |
| 実行リストの定義と改訂..... | 81 |
| 実行リストについて..... | 81 |
| 実行リストの定義と改訂に使用するフォーム..... | 82 |
| 実行リストの定義..... | 82 |
| 自動入金処理のための顧客の設定..... | 83 |
| 第 6 章 | |
| 与信/回収管理の設定..... | 85 |
| 与信/回収管理について..... | 85 |
| この章で使用する共通フィールド..... | 86 |
| 事前設定..... | 87 |
| 与信/回収期間パターンの設定..... | 87 |
| 与信/回収期間パターンについて..... | 87 |
| 与信/回収期間パターンの設定に使用するフォーム..... | 88 |
| 与信/回収期間パターンの追加..... | 88 |
| 活動コードの設定..... | 90 |
| 活動コードについて..... | 90 |
| 活動コードの設定に使用するフォーム..... | 91 |
| 活動タイプ・コードの追加..... | 91 |
| 延滞方針の設定..... | 92 |
| 延滞方針について..... | 92 |
| 延滞方針の設定に使用するフォーム..... | 94 |
| 延滞方針の定義..... | 94 |
| 延滞利息金指示の設定..... | 96 |
| 延滞通知指示の設定..... | 97 |
| 計算書/延滞通知のレターテキストの設定..... | 100 |
| 計算書/延滞通知レターテキストについて..... | 100 |
| 計算書/延滞通知のレターテキストの設定に使用するフォーム..... | 100 |
| 計算書/延滞通知のレターテキストの入力..... | 100 |
| 信用保険契約の設定..... | 101 |
| 信用保険契約について..... | 101 |

| | |
|-----------------------------------|-----|
| 事前設定..... | 102 |
| 信用保険契約の設定に使用するフォーム..... | 103 |
| 信用保険契約の設定..... | 103 |
| 与信/回収管理者の設定..... | 105 |
| 与信/回収管理者について..... | 105 |
| 与信/回収管理者のUDC設定..... | 105 |
| 顧客への与信/回収情報の割当..... | 106 |
| 顧客の与信/回収情報について..... | 106 |
| 顧客への与信/回収情報の割当に使用するフォーム..... | 107 |
| 顧客への与信情報の割当..... | 107 |
| 顧客への回収情報の割当..... | 109 |
| 方針に関連付けられている顧客の検討..... | 111 |
| 与信/回収のワークフロー・メッセージの有効化..... | 111 |
| 与信/回収管理者へのワークフロー・メッセージの有効化..... | 111 |
| 与信限度額の承認のためのワークフロー・メッセージの有効化..... | 112 |

第 7 章

| | |
|---|-----|
| 請求書の処理..... | 113 |
| 請求書処理について..... | 113 |
| 標準請求書について..... | 116 |
| 標準請求書入力について..... | 116 |
| 請求書入力マスター・ビジネス関数について..... | 118 |
| 貸借不一致の請求書について..... | 119 |
| クレジット・メモについて..... | 119 |
| スピード請求書について..... | 119 |
| 未転記の請求書の改訂について..... | 120 |
| 事前設定..... | 121 |
| 請求書の処理に使用するフォーム..... | 121 |
| 標準請求書入力 (P03B11) の処理オプションの設定..... | 122 |
| スピード請求書入力 (P03B11SI) の処理オプションの設定..... | 123 |
| 請求書入力MBF処理オプション (P03B0011) の処理オプションの設定..... | 124 |
| 請求書の検索..... | 126 |
| 標準請求書の入力..... | 128 |
| 勘定科目のモデル仕訳の選択..... | 131 |
| 貸借不一致の請求書入力..... | 131 |
| クレジット・メモの入力..... | 131 |
| 割引付き請求書の入力..... | 132 |
| スピード請求書の入力..... | 133 |
| 定期請求書の処理..... | 134 |

| | |
|--|-----|
| 定期請求書について..... | 134 |
| 定期請求書の改訂について..... | 134 |
| 再作成処理について..... | 135 |
| 定期請求書処理に使用するフォーム..... | 136 |
| 定期請求書入力..... | 136 |
| オンラインでの定期請求書の照会..... | 137 |
| 定期請求書レポートの印刷..... | 138 |
| 定期請求書レポート(R03B305)のデータ選択とデータ順序の設定..... | 138 |
| 定期請求書レポート(R03B305)の処理オプションの設定..... | 138 |
| 定期請求書の改訂..... | 138 |
| 定期請求書の再作成..... | 139 |
| 定期請求書の再作成(R03B8101)の処理オプションの設定..... | 139 |
| 請求書の改訂と転記..... | 140 |
| 請求書および請求書支払項目の削除について..... | 140 |
| 請求書の転記処理について..... | 141 |
| 転記済請求書の改訂について..... | 145 |
| 請求書の無効化について..... | 145 |
| スピード・リリースについて..... | 146 |
| 請求書の改訂および転記に使用するフォーム..... | 146 |
| 未転記請求書の検討と改訂..... | 147 |
| 請求書の転記..... | 148 |
| 転記済請求書の改訂..... | 148 |
| 転記済請求書の無効化..... | 148 |
| 転記済請求書の支払項目の無効化..... | 149 |
| スピード・リリース(P03B114)の処理オプションの設定..... | 149 |
| スピード・リリースを使用した個々の請求書の更新..... | 150 |
| スピード・リリースを使用した請求書のグループの更新..... | 150 |

第 8 章

| | |
|-------------------------------------|------------|
| バッチ請求書の処理..... | 153 |
| バッチ請求書の処理について..... | 153 |
| バッチ請求書取引のマッピングについて..... | 154 |
| バッチ請求書の改訂..... | 154 |
| バッチ請求書の改訂について..... | 154 |
| 事前設定..... | 155 |
| バッチ請求書の改訂に使用するフォーム..... | 155 |
| バッチ請求書の改訂(P03B11Z1)の処理オプションの設定..... | 155 |
| バッチ請求書の追加..... | 157 |
| バッチ請求書の処理..... | 158 |

| | |
|------------------------------------|-----|
| バッチ請求書処理について..... | 158 |
| 処理中のエラーについて..... | 159 |
| 処理時間について..... | 160 |
| 事前設定..... | 161 |
| バッチ請求処理の実行..... | 162 |
| バッチ請求処理(R03B11Z1A)の処理オプションの設定..... | 162 |
| バッチ請求書の転記..... | 164 |
| 処理済バッチ請求書の除去..... | 165 |
| 除去処理について..... | 165 |
| 処理済バッチ請求書の除去プログラムの実行..... | 165 |

第 9 章

| | |
|-----------------------------------|------------|
| 入金処理..... | 167 |
| 入金入力方法について..... | 167 |
| この章で使用する共通フィールド..... | 168 |
| 入金処理のステップについて..... | 171 |
| 日付および伝票タイプについて..... | 172 |
| 入金日付と元帳日付..... | 172 |
| 伝票タイプ..... | 173 |
| 入金入力または手形入力の入力タイプ・コードについて..... | 175 |
| 単純請求書照合(入力タイプ10)について..... | 177 |
| 割引を伴う請求書照合(入力タイプ10)について..... | 178 |
| 再請求を伴う請求書照合(入力タイプ11と16)について..... | 178 |
| 小額消去を伴う請求書照合(入力タイプ10と15)について..... | 179 |
| 損金を伴う請求書照合(入力タイプ17)について..... | 180 |
| 複数の入力タイプ・コードを使った請求書の照合について..... | 182 |
| マイナスの入金について..... | 182 |
| 標準的な入金の入力..... | 184 |
| 標準的な入金の入力について..... | 184 |
| 入金入力または手形入力時に更新されるフィールドについて..... | 184 |
| 未充当入金について..... | 189 |
| 事前設定..... | 190 |
| 標準的な入金入力に使用するフォーム..... | 190 |
| 入金入力の処理オプションの設定(P03B102)..... | 190 |
| 未充当入金の入力..... | 197 |
| 未決済請求書の検索..... | 198 |
| 未決済請求書の表示方法について..... | 199 |
| 事前設定..... | 201 |
| 未決済請求書の検索に使用するフォーム..... | 201 |

| | |
|---|-----|
| 顧客のすべての未決済請求書のロード..... | 201 |
| 顧客の特定の未決済請求書の選択..... | 202 |
| 未決済請求書の送金別選択..... | 204 |
| 入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込..... | 205 |
| 請求書に対して消し込む未充当入金について..... | 205 |
| 請求書に対して消し込むクレジット・メモについて..... | 206 |
| 事前設定..... | 206 |
| 入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込に使用するフォーム..... | 207 |
| 入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込..... | 207 |
| 未充当入金と請求書の消込..... | 208 |
| クレジット・メモと請求書の消込..... | 208 |
| 総勘定元帳入金の処理..... | 209 |
| 総勘定元帳入金について..... | 209 |
| 総勘定元帳入金の入力に使用するフォーム..... | 209 |
| 総勘定元帳入金の入力..... | 209 |
| 総勘定元帳入金による未充当入金の作成..... | 210 |
| 単独レコード入力..... | 210 |
| 単独レコードについて..... | 210 |
| 事前設定..... | 212 |
| 単独レコードの入力に使用するフォーム..... | 213 |
| 請求書照合を伴う単独取引の入力..... | 213 |
| 請求書照合を伴わない単独取引の入力..... | 214 |
| スピード入金入力..... | 215 |
| スピード入金について..... | 215 |
| 事前設定..... | 217 |
| スピード入金入力に使用するフォーム..... | 217 |
| スピード入金入力(P03B0001)の処理オプションの設定..... | 217 |
| 未充当入金(入力タイプ(TI)コード1)の入力..... | 221 |
| 繰越残高入金(入力タイプ(TI)コード2)の入力..... | 221 |
| 仮入金(入力タイプ(TI)コード3)の入力..... | 222 |
| 仮入金の顧客への割当..... | 222 |
| 総勘定元帳入金(入力タイプ(TI)コード4)の入力..... | 222 |
| 入金の改訂..... | 223 |
| 入金の改訂について..... | 223 |
| 入金の改訂に使用するフォーム..... | 224 |
| 未転記入金の改訂..... | 224 |
| 入金の承認および転記..... | 225 |
| 入金の転記について..... | 225 |
| 入金転記処理によって作成される自動仕訳について..... | 228 |
| 入金の承認と転記に使用するフォーム..... | 229 |

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 転記プログラムによる入金の転記..... | 229 |
| 入力仕訳の検討プログラムによる入金の転記..... | 229 |
| 入金の削除および無効化..... | 229 |
| 入金の削除および無効化について..... | 229 |
| 事前設定..... | 230 |
| 入金の削除および無効化に使用するフォーム..... | 230 |
| 入金の削除または無効化..... | 230 |
| 入金の請求書支払項目の削除または無効化..... | 231 |
| 入金の高不足 (NSF) としての指定..... | 231 |
| 高不足の指定について..... | 231 |
| 事前設定..... | 232 |
| 入金を高不足 (NSF) として指定するのに使用するフォーム..... | 232 |
| 入金の高不足 (NSF) としての指定..... | 232 |

第 10 章

| | |
|---|------------|
| 売掛金元帳情報の処理..... | 233 |
| 売掛金元帳照会について..... | 233 |
| カスタマ・セルフサービスについて..... | 234 |
| 住所録からの顧客情報の更新..... | 234 |
| 顧客の住所録情報について..... | 235 |
| 住所録からの売掛金元帳の更新プログラムの実行..... | 235 |
| 住所録からの売掛金元帳の更新 (R03B802) の処理オプションの設定..... | 235 |
| 請求書の検討..... | 236 |
| 請求書の改訂履歴について..... | 236 |
| 基準日機能について..... | 236 |
| 入金または手形入力結果について..... | 237 |
| 請求書の検討に使用するフォーム..... | 239 |
| 売掛金元帳照会 (P03B2002) の処理オプションの設定..... | 239 |
| 売掛金元帳明細の検討..... | 240 |

第 11 章

| | |
|-------------------------------------|------------|
| 自動入金処理..... | 241 |
| 自動入金処理について..... | 241 |
| 入金レコードの自動作成..... | 242 |
| 入金レコードの自動作成について..... | 242 |
| 事前設定..... | 244 |
| 入金見出しの更新プログラムの実行..... | 244 |
| 入金見出しの更新 (R03B551) の処理オプションの設定..... | 244 |

| | |
|------------------------------------|-----|
| 電子入金の自動消込..... | 248 |
| 自動入金処理について..... | 248 |
| 事前設定..... | 249 |
| 入金の消込プログラムの実行..... | 249 |
| 入金の消込(R03B50)の処理オプションの設定..... | 249 |
| 電子入金の検討、改訂、および追加..... | 250 |
| 電子入金の検討プログラムについて..... | 251 |
| 電子入金の照会、改訂、および追加に使用するフォーム..... | 252 |
| 電子入金の追加..... | 252 |
| バッチのアップロード状況の変更..... | 253 |
| 電子入金の手動消込..... | 254 |
| 電子入金の除去..... | 254 |
| 電子入金の除去プログラムについて..... | 254 |
| 電子入金の除去プログラムの実行..... | 255 |
| 電子入金の除去(R03B0041A)の処理オプションの設定..... | 255 |

第 12 章

| | |
|--|-----|
| 受取手形の処理..... | 257 |
| 受取手形について..... | 257 |
| 受取手形のタイプについて..... | 257 |
| 受取手形の処理ステップについて..... | 258 |
| 手形の振出..... | 258 |
| 手形の受取..... | 258 |
| 手形の取立(任意)..... | 259 |
| 手形の回収..... | 260 |
| 手形処理と総勘定元帳について..... | 260 |
| 手形の振出..... | 261 |
| 手形付き請求書について..... | 262 |
| 手形付き計算書について..... | 262 |
| 支払期日別手形計算書について..... | 262 |
| 事前設定..... | 262 |
| 手形付き請求書の印刷..... | 263 |
| 請求書印刷(手形)(R03B5051)のデータ選択とデータ順序の設定..... | 263 |
| 請求書印刷(手形)(R03B5051)の処理オプションの設定..... | 263 |
| 手形付き計算書の印刷..... | 264 |
| 計算書データの再作成(R03B500X)のデータ選択とデータ順序の設定..... | 264 |
| 計算書データの再作成(R03B500X)の処理オプションの設定..... | 264 |
| 計算書の印刷(手形付き)(R03B506)の処理オプションの設定..... | 268 |
| 支払期日別計算書の印刷..... | 269 |

| | |
|---------------------------------|-----|
| 手形の受取..... | 269 |
| 手入力手形について..... | 269 |
| 未充当手形について..... | 274 |
| 事前承認手形について..... | 275 |
| 手形の改訂について..... | 276 |
| 事前設定..... | 277 |
| 手形の受取に使用するフォーム..... | 278 |
| 手形入力 (P03B602) の処理オプションの設定..... | 278 |
| 未充当手形の入力..... | 285 |
| 手形を消し込む未決済請求書の検索..... | 287 |
| 手形と請求書の消込..... | 288 |
| 未充当入金と請求書の消込..... | 288 |
| クレジット・メモと請求書の消込..... | 290 |
| 単独レコード入力..... | 290 |
| 事前承認手形処理..... | 290 |
| 事前承認手形 (R03B671) のデータ順序の設定..... | 290 |
| 事前承認手形 (R03B671) の処理オプション..... | 290 |
| 受取手形の承認と転記..... | 293 |
| 手形の承認と転記について..... | 293 |
| 手形の転記によって作成される仕訳について..... | 294 |
| 手形の承認と転記に使用するフォーム..... | 299 |
| 受取手形を転記するための転記プログラムの実行..... | 299 |
| 手形仕訳の検討プログラムからの手形の転記..... | 299 |
| 手形の削除および無効化..... | 299 |
| 手形の状況について..... | 299 |
| 手形の削除および無効化について..... | 300 |
| 事前設定..... | 300 |
| 手形の削除と無効化に使用するフォーム..... | 301 |
| 手形状況の変更..... | 301 |
| 手形の削除または無効化..... | 301 |
| 手形の取立..... | 302 |
| 手形の取立について..... | 303 |
| 割引手形と偶発債務について..... | 304 |
| オンライン手形明細について..... | 305 |
| 手形の取立に使用するフォーム..... | 306 |
| 受取手形の明細の作成..... | 306 |
| 手形取立プログラムの実行..... | 307 |
| 手形取立 (R03B672) のデータ選択の設定..... | 307 |
| 手形取立 (R03B672) の処理オプションの設定..... | 307 |
| 手形の残高不足 (NSF) 指定..... | 310 |

| | |
|---|------------|
| NSF手形について..... | 310 |
| NSF手形通知レポートについて..... | 311 |
| 手形を残高不足 (NSF) として指定するために使用するフォーム..... | 312 |
| 手形のNSF (全額または部分) 指定..... | 312 |
| NSF手形通知レポートの印刷..... | 313 |
| NSF手形通知レポート (R03B574) の処理オプションの設定..... | 313 |
| 手形の回収..... | 314 |
| 手形の回収について..... | 314 |
| 手形回収 (状況更新) プログラムの実行..... | 315 |
| 手形回収 (状況更新) (R03B680) の処理オプション..... | 315 |
| 第 13 章 | |
| 自動引落とし処理..... | 319 |
| 自動引落としについて..... | 319 |
| 事前設定..... | 321 |
| 自動引落としバッチの作成と処理..... | 321 |
| 自動引落としバッチについて..... | 321 |
| 事前設定..... | 323 |
| 自動引落としバッチの作成と処理に使用するフォーム..... | 323 |
| 自動引落としの処理 (P03B571) の処理オプションの設定..... | 323 |
| 自動引落としバッチの作成 (R03B571) の処理オプションの設定..... | 324 |
| 自動引落としバッチの作成..... | 327 |
| 最終モードでの自動引落としバッチの処理..... | 327 |
| 自動引落としバッチの承認と転記..... | 327 |
| 自動引落としの承認と転記について..... | 327 |
| 自動引落としバッチの承認と転記に使用するフォーム..... | 328 |
| 自動引落としを転記する転記プログラムの実行..... | 328 |
| 「自動引落とし仕訳の検討」メニューからの自動引落としの転記..... | 328 |
| 自動引落としのフォーマット..... | 328 |
| 自動引落としのフォーマットについて..... | 328 |
| 自動引落としのフォーマットに使用するフォーム..... | 329 |
| 自動引落としバッチのフォーマット..... | 329 |
| 銀行への自動引落としバッチの転送..... | 330 |
| 銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラムについて..... | 330 |
| 銀行への自動引落としバッチの転送に使用するフォーム..... | 331 |
| 銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー (P0457D) の処理オプションの設定..... | 331 |
| フォーマット済自動引落としバッチのコピー..... | 332 |
| 自動引落としの除去..... | 333 |
| 自動引落としの除去処理について..... | 333 |

| | |
|------------------------|-----|
| 自動引落しの除去に使用するフォーム..... | 333 |
| 自動引落としバッチの除去..... | 333 |

第 14 章

| | |
|--|------------|
| 売掛管理システムのEDIトランザクションの処理..... | 335 |
| 売掛管理システムのEDIについて..... | 335 |
| この章で使用する共通フィールド..... | 335 |
| EDI入金データについて..... | 336 |
| EDI受信データの転送..... | 342 |
| 受信データの転送について..... | 343 |
| 電子入金の更新プログラムの実行..... | 343 |
| 電子入金の更新(R47111)の処理オプションの設定..... | 343 |
| EDI受信データの構成要素の検索と改訂..... | 344 |
| EDI入荷通知(受信)の照会プログラムについて..... | 344 |
| 制御情報について..... | 345 |
| EDI受信データの構成要素の検索と改訂に使用するフォーム..... | 346 |
| EDI入荷通知(受信)の照会(P47110)の処理オプションの設定..... | 346 |
| EDI受信データのトランザクションの改訂..... | 347 |
| EDI受信トランザクションの振込データの改訂..... | 347 |
| EDI受信振込データの入金データの改訂..... | 348 |
| EDI受信入金データの送金データの改訂..... | 349 |
| EDI受信データの制御情報の改訂..... | 350 |
| 振込用EDI制御情報の改訂..... | 350 |
| 支払用EDI制御情報の改訂..... | 351 |
| 送金用EDI制御情報の改訂..... | 351 |
| EDI受信データの構成要素の追加..... | 351 |
| 事前設定..... | 351 |
| EDI受信データの構成要素の追加に使用するフォーム..... | 352 |
| EDI受信トランザクションの追加..... | 352 |
| EDI受信トランザクションへの振込データの追加..... | 352 |
| EDI受信振込データへの支払データの追加..... | 353 |
| EDI受信入金データへの送金データの追加..... | 353 |
| EDI受信データの除去..... | 353 |
| EDI受信データの除去処理について..... | 353 |
| EDI入荷通知(受信)の除去プログラムの実行..... | 353 |

第 15 章

| | |
|------------------|------------|
| 損金処理..... | 355 |
|------------------|------------|

| | |
|----------------------------|-----|
| 損金処理について..... | 355 |
| この章で使用する共通フィールド..... | 357 |
| 損金の入力..... | 357 |
| 損金の入力について..... | 358 |
| 請求書に関連した損金について..... | 358 |
| 入金に関連した損金について..... | 359 |
| 事前設定..... | 359 |
| 損金の入力に使用するフォーム..... | 360 |
| 請求書に関連した損金の入力..... | 360 |
| 入金に関連した損金の入力..... | 360 |
| 損金の調査および解決..... | 361 |
| 損金の解決について..... | 361 |
| 事前設定..... | 362 |
| 損金の解決に使用するフォーム..... | 363 |
| 損金への活動コードの適用..... | 363 |
| 損金へのクレジット・メモの適用..... | 364 |
| 損金処理の無効化..... | 364 |
| 損金処理の無効化について..... | 364 |
| 損金処理を無効にするために使用するフォーム..... | 365 |
| 損金処理の無効化..... | 365 |
| 損金の無効化..... | 365 |

第 16 章

| | |
|----------------------------------|-----|
| 請求書の印刷..... | 367 |
| 売掛金請求書の印刷..... | 367 |
| 請求書の印刷について..... | 367 |
| 請求書印刷プログラムの実行..... | 368 |
| 請求書印刷 (R03B505) の処理オプションの設定..... | 368 |

第 17 章

| | |
|---|-----|
| 計算書の処理..... | 369 |
| 計算書の処理について..... | 369 |
| 計算書の作成..... | 370 |
| 計算書の作成について..... | 370 |
| 事前設定..... | 372 |
| 計算書データの再作成プログラムの実行..... | 372 |
| 計算書データの再作成 (R03B500X) の処理オプションの設定..... | 372 |
| 計算書の印刷プログラム (R03B5001) の処理オプションの設定..... | 376 |

| | |
|--|-----|
| 計算書の利用..... | 377 |
| 計算書の検討について..... | 377 |
| 計算書の検討に使用するフォーム..... | 379 |
| 計算書の検討プログラム(P03B202)の処理オプションの設定..... | 379 |
| 計算書の明細の検討..... | 379 |
| 計算書の再印刷..... | 380 |
| 計算書の再設定..... | 380 |
| 計算書/延滞通知の除去..... | 380 |
| 計算書/延滞通知の除去について..... | 380 |
| 計算書/延滞通知の除去プログラムの実行..... | 381 |
| 計算書/延滞通知の除去プログラム(R03B5010)の処理オプションの設定..... | 381 |

第 18 章

| | |
|------------------------------------|-----|
| 与信および回収管理..... | 383 |
| 顧客勘定情報の更新..... | 383 |
| 与信分析のリフレッシュ・プログラムについて..... | 383 |
| 事前設定..... | 384 |
| 与信分析のリフレッシュ・プログラムの実行..... | 384 |
| 与信分析のリフレッシュ(R03B525)の処理オプション..... | 385 |
| 与信および回収処理のための顧客勘定の管理..... | 389 |
| 与信/回収処理について..... | 390 |
| 事前設定..... | 391 |
| 与信および回収処理のための顧客勘定の管理に使用するフォーム..... | 391 |
| 顧客取引活動ログの印刷..... | 391 |
| 活動ログ・レポート(R03B31)の処理オプションの設定..... | 391 |
| 顧客活動の検討..... | 391 |
| 顧客活動の追加..... | 392 |
| 顧客取引活動ログの除去プログラムの実行..... | 392 |
| 顧客勘定情報の検討..... | 392 |
| 顧客勘定の残高情報について..... | 392 |
| 取引状況集計について..... | 393 |
| 顧客勘定情報の検討に使用するフォーム..... | 394 |
| 顧客取引残高照会を使用した顧客勘定情報の検討..... | 394 |
| 特定の日付時点における顧客勘定情報の検討..... | 394 |
| 顧客取引状況集計を使用した顧客勘定の検討..... | 395 |
| 親/子勘定残高の検討..... | 396 |
| 親/子勘定残高について..... | 396 |
| 事前設定..... | 397 |
| 親/子勘定残高の検討に使用するフォーム..... | 397 |

| | |
|--|------------|
| 親勘定に対する子勘定および関連する孫勘定情報の表示..... | 397 |
| 顧客勘定の処理..... | 397 |
| 顧客勘定の回収処理について..... | 397 |
| ワークフローを使った顧客勘定の管理について..... | 398 |
| 顧客勘定の処理に使用するフォーム..... | 400 |
| 顧客取引残高照会を使用した顧客勘定の処理..... | 400 |
| ワークフロー管理を使用した顧客勘定の処理..... | 400 |
| 回収レポートの印刷..... | 401 |
| 回収レポートについて..... | 401 |
| 回収レポート・プログラムの実行..... | 401 |
| 回収レポート(R03B461)の処理オプションの設定..... | 401 |
| 与信情報の検討と改訂..... | 402 |
| 与信情報の改訂について..... | 402 |
| 与信情報の検討と改訂に使用するフォーム..... | 402 |
| 与信情報の改訂..... | 402 |
| 信用報告テープの作成..... | 404 |
| 信用報告テープについて..... | 404 |
| 信用報告テープの要件について..... | 405 |
| 事前設定..... | 411 |
| Experian信用報告テープの作成プログラムおよびCreditel信用報告テープの作成プログラムの実行..... | 411 |
| ExperianおよびDun & Bradstreet信用報告テープの作成(R03B920)の処理オプションの設定..... | 411 |
| Creditel信用報告テープの作成(R03B920C)の処理オプションの設定..... | 411 |
| 第 19 章 | |
| 延滞通知と延滞利息金の処理..... | 413 |
| 延滞通知の作成..... | 413 |
| 延滞通知の作成について..... | 413 |
| 事前設定..... | 416 |
| 延滞通知の印刷プログラムの実行..... | 417 |
| 延滞通知の使い方..... | 417 |
| 延滞通知の処理に使用するフォーム..... | 418 |
| 売掛金延滞通知の印刷(R03B20)の処理オプションの設定..... | 418 |
| 階層化延滞通知の印刷(R03B21)の処理オプションの設定..... | 419 |
| 延滞通知の検討(P03B202)の処理オプションの設定..... | 420 |
| 延滞通知の検討..... | 420 |
| 年齢調べカテゴリによる集計請求書情報の検討..... | 421 |
| 延滞通知の検討、承認、却下..... | 421 |
| 延滞通知の再印刷..... | 422 |

| | |
|-----------------------------------|------------|
| 延滞利息金の作成..... | 422 |
| 延滞利息金の生成について..... | 422 |
| 事前設定..... | 424 |
| 延滞利息金の生成プログラムの実行..... | 424 |
| 延滞利息金の生成(R03B525)の処理オプションの設定..... | 424 |
| 延滞利息金明細(R03B22)の処理オプションの設定..... | 424 |
| 延滞利息金(R03B221)の処理オプションの設定..... | 425 |
| 延滞利息金の処理..... | 426 |
| 延滞利息金の削除について..... | 426 |
| 延滞利息金の処理に使用するフォーム..... | 426 |
| 延滞利息金の検討(P03B22)の処理オプションの設定..... | 426 |
| 延滞利息金の検討、承認、却下..... | 426 |
| 延滞利息金の削除..... | 427 |
| 延滞利息金の除去(R03B222)の処理オプションの設定..... | 427 |
| 第 20 章 | |
| 顧客分析のための売掛管理統計の更新..... | 429 |
| 売掛管理統計について..... | 429 |
| 統計情報の更新..... | 429 |
| 与信履歴の更新プログラムについて..... | 430 |
| 期間統計計算について..... | 431 |
| 期間統計の年齢調べ情報について..... | 436 |
| 事前設定..... | 438 |
| 与信履歴の更新プログラムの実行..... | 438 |
| 与信履歴の更新(R03B16A)の処理オプションの設定..... | 438 |
| 統計情報の分析..... | 440 |
| 統計情報について..... | 440 |
| 事前設定..... | 440 |
| 統計情報の分析に使用するフォーム..... | 441 |
| 統計情報の検討..... | 441 |
| 顧客勘定の期間別統計の検討..... | 441 |
| 年次締め処理..... | 442 |
| 年次締めについて..... | 442 |
| 事前設定..... | 443 |
| 年次締めプログラムの実行..... | 443 |
| 年次締め(R03B161)の処理オプションの設定..... | 443 |
| 統計実績レコードの除去..... | 443 |
| 統計実績の除去について..... | 443 |
| 統計除去データの再転記プログラムの実行..... | 444 |

| | |
|--|-----|
| 統計除去データの再転記 (R03B163) の処理オプションの設定..... | 444 |
|--|-----|

第 21 章

| | |
|-----------------------------------|------------|
| 払戻し処理..... | 445 |
| 払戻しについて..... | 445 |
| 事前設定..... | 445 |
| 払戻しの作成..... | 445 |
| 払戻しの作成について..... | 446 |
| 払戻しの作成プログラムの実行..... | 449 |
| 払戻しの作成 (R03B610) の処理オプションの設定..... | 449 |
| 払戻しの転記..... | 451 |
| 払戻しの転記について..... | 451 |
| 事前設定..... | 451 |
| 払戻しの転記プログラムの実行..... | 451 |

第 22 章

| | |
|-----------------------------------|------------|
| 売掛金と買掛金の相殺..... | 453 |
| 売掛金/買掛金相殺について..... | 453 |
| この章で使用する共通フィールド..... | 453 |
| 事前設定..... | 454 |
| 売掛金と買掛金の相殺..... | 454 |
| 売掛金/買掛金相殺処理について..... | 454 |
| 売掛金相殺の会計入力の例..... | 456 |
| 売掛金および買掛金相殺に使用するフォーム..... | 458 |
| 手動相殺機能 (P03B455) の処理オプションの設定..... | 458 |
| 売掛金相殺取引の入力..... | 461 |
| 買掛金相殺取引の入力..... | 463 |
| 売掛金/買掛金相殺取引の処理..... | 464 |
| 売掛金/買掛金相殺取引の改訂について..... | 464 |
| 売掛金/買掛金相殺取引の処理に使用するフォーム..... | 465 |
| 売掛金/買掛金相殺取引に関連付けられた伝票の確認..... | 465 |
| 売掛金/買掛金相殺取引の無効化と削除..... | 467 |

第 23 章

| | |
|-------------------------|------------|
| 売掛管理レポートの印刷..... | 469 |
| 相殺レポートの印刷..... | 469 |
| 相殺レポートについて..... | 469 |

| | |
|---|-----|
| 売掛金相殺ワークファイルについて..... | 470 |
| 売掛金/買掛金の相殺レポートの印刷..... | 470 |
| 年齢調べ相殺レポートについて..... | 471 |
| 事前設定..... | 471 |
| 相殺レポート・ファイルの作成プログラムの実行..... | 471 |
| 相殺レポート・ファイルの作成 (R03B465) の処理オプションの設定..... | 471 |
| 売掛金/買掛金の相殺レポートの印刷..... | 472 |
| 年齢調べ相殺レポートの印刷..... | 472 |
| 年齢調べ相殺レポート (R03B466) の処理オプションの設定..... | 472 |
| 顧客/仕入先残高レポートの印刷..... | 474 |
| 顧客/仕入先残高ワークテーブルについて..... | 474 |
| 顧客残高レポートと仕入先残高レポートについて..... | 476 |
| 顧客/仕入先残高ワークテーブルの作成..... | 477 |
| 仕入先残高の自動生成 (R7404001) の処理オプションの設定..... | 477 |
| 顧客残高の自動生成 (R7403B001) の処理オプション..... | 478 |
| 顧客/仕入先残高レポートの印刷..... | 478 |
| 顧客/仕入先残高レポート (R7404002) の処理オプションの設定..... | 478 |
| キャッシュフローの予測..... | 479 |
| 資金予測データのリフレッシュ・プログラムについて..... | 479 |
| 資金予測データのリフレッシュ・プログラムの実行..... | 480 |

第 24 章

| | |
|--|-----|
| 売掛管理データの整合性の確認..... | 481 |
| 売掛金整合性レポートについて..... | 481 |
| 売掛金元帳 - 総勘定元帳 (バッチ別) レポートの実行..... | 482 |
| 売掛金元帳 - 総勘定元帳 (バッチ別) レポートについて..... | 482 |
| 売掛金元帳 - 総勘定元帳 (バッチ別) レポートの印刷..... | 483 |
| 売掛金元帳 - 総勘定元帳 (バッチ別) レポート (R03B701) の処理オプションの設定..... | 483 |
| 売掛金元帳 - 勘定残高 (略式ID別) レポートの実行..... | 484 |
| 売掛金元帳 - 勘定残高 (略式ID別) レポートについて..... | 484 |
| 売掛金元帳 - 勘定残高 (略式ID別) レポートの印刷..... | 487 |
| 売掛金元帳 - 勘定残高 (略式ID別) レポート (R03B707) の処理オプションの設定..... | 487 |
| 売掛金元帳 - 勘定残高 (略式ID別) レポートのデータ選択とデータ順序の設定..... | 489 |
| 売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートの実行..... | 489 |
| 売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートについて..... | 489 |
| 売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートの印刷..... | 490 |
| 売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポート (R890911BI) の処理オプションの設定..... | 490 |

第 25 章

| | |
|---|------------|
| 請求書および入金の除去 | 491 |
| 請求書および入金の除去について..... | 491 |
| 事前設定..... | 492 |
| 請求取引の除去..... | 492 |
| 請求取引の除去プログラムについて..... | 492 |
| 請求取引の除去プログラムの実行..... | 492 |
| 請求取引の除去 (R03B800) および入金取引の除去 (R03B801) の処理オプションの設定..... | 492 |
| 入金取引の除去..... | 492 |
| 入金取引の除去プログラムについて..... | 493 |
| 入金取引の除去プログラムの実行..... | 493 |

付録 A

| | |
|---|------------|
| バッチ請求書処理のためのフィールドのマッピング | 495 |
| バッチ請求書テーブル (F03B11Z1) のフィールドのマッピング..... | 495 |
| 必須フィールド..... | 495 |
| バッチ請求書処理 (割引あり) の必須フィールド..... | 501 |
| 任意フィールド..... | 505 |
| 無視されるフィールド..... | 523 |
| ユーザー予約フィールド..... | 525 |
| 仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) のフィールドのマッピング..... | 526 |
| 必須フィールド..... | 526 |
| 収益性分析システムを使用したバッチ請求書処理の必須フィールド..... | 529 |

付録 B

| | |
|---|------------|
| 自動入金処理のためのフィールドのマッピング | 531 |
| 電子入金入力テーブル (F03B13Z1) のフィールドのマッピング..... | 531 |
| 必須フィールド..... | 531 |
| 任意フィールド、無視されるフィールド、自動更新フィールド..... | 537 |

付録 C

| | |
|---|------------|
| JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の標準ワークフロー | 545 |
| JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の標準ワークフロー..... | 545 |
| 与信限度額変更の承認..... | 545 |

付録 D

| | |
|--|----------------|
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理レポート..... | 547 |
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理レポート..... | 547 |
| 標準レポート..... | 547 |
| 分析レポート..... | 547 |
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理のすべてのレポート..... | 548 |
| JD Edwards EnterpriseOne売掛管理の主なレポート..... | 550 |
| R03B155 - 未決済売掛金集計分析..... | 550 |
| 未決済売掛金集計分析(R03B155)の処理オプション..... | 551 |
| R03B165 - 統計傾向分析レポート..... | 551 |
| R03B166 - 年齢調べ傾向分析レポート..... | 552 |
| R03B167 - 入金傾向分析レポート..... | 552 |
| R03B168 - 請求書傾向分析レポート..... | 552 |
| R03B1691 - 統計計算(会社別)レポート..... | 553 |
| R03B1692 - 統計計算(与信管理者別)レポート..... | 553 |
| R03B1693 - 統計計算(回収管理者別)レポート..... | 553 |
| R03B305 - 請求仕訳..... | 554 |
| 請求仕訳(R03B305)のデータ選択..... | 554 |
| R03B311 - 入金仕訳帳..... | 554 |
| 入金仕訳帳(R03B311)の処理オプション..... | 555 |
| R03B408 - 振込仕訳..... | 556 |
| 振込仕訳(R03B408)の処理オプション..... | 556 |
| R03B560 - 入金処理記録..... | 556 |
| 入金処理記録(R03B560)の処理オプション..... | 556 |
| R03B413A - 未決済売掛金明細(集計)レポート..... | 557 |
| 未決済売掛金明細(集計)(R03B413A)の処理オプション..... | 557 |
| R03B4201A - 未決済売掛金(備考)レポート..... | 558 |
| 未決済売掛金(備考)レポート(R03B4201A)の処理オプション..... | 558 |
| R03B4201B - 未決済売掛金(年齢調べ)レポート..... | 559 |
| 未決済売掛金(年齢調べ)レポート(R03B4201B)の処理オプション..... | 559 |
| JD Edwards EnterpriseOne用語集..... | 563 |
| 索引 | 579 |

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

| 情報 | ナビゲーション |
|----------------------|---|
| アプリケーションのメンテナンス情報 | 「Updates + Fixes」 |
| ビジネス・プロセス図 | 「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」 |
| インタラクティブ・サービス・リポジトリ | 「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」 |
| ハードウェア要件とソフトウェア要件 | 「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」 |
| インストール・ガイド | 「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」 |
| 統合情報 | 「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」 |
| 最低要件 | 「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」 |
| 最新版ドキュメンテーション | 「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」 |
| 製品ガイド・サポート・ポリシー | 「Support」、「Support Policy」 |
| プレリリース・ノート | 「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」 |
| 製品出荷予定 | 「Support」、「Roadmaps + Schedules」 |
| リリース・ノート | 「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」 |
| リリース・バリュープロポジション | 「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」 |
| 製品概要 | 「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」 |
| トラブルシューティング情報 | 「Support」、「Troubleshooting」 |
| アップグレード関連のドキュメンテーション | 「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」 |

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

| 表記規則 | 説明 |
|------------|--|
| 太字 | PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。 |
| 斜体 | PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。 |
| キー+キー | キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。 |
| 固定幅のフォント | PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。 |
| ... (省略記号) | PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。 |
| { } (中かっこ) | PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。 |
| [] (角かっこ) | PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。 |
| & (アンパサンド) | PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。 |

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

| | |
|---------|---|
| 住所録番号 | エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合もあります。 |
| 仮定通貨コード | 取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。 |
| バッチ番号 | システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。 |
| バッチ日付 | バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。 |
| バッチ状況 | <p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| | U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。 |
| 事業所 | 倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。 |
| ビジネスユニット | 原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。 |
| カテゴリ・コード | 特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。 |
| 会社 | 特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。 |
| 通貨コード | 取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。 |
| 伝票会社 | <p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p> |
| 伝票番号 | 伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。 |
| 伝票タイプ | <p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 時間および給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー伝票 S: 受注オーダー伝票</p> |
| 有効日付 | <p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住所の変更が有効になる日付 • 賃貸契約が有効になる日付 |

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 製品
- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

JD Edwards EnterpriseOne 製品

この製品ガイドには、次の JD Edwards EnterpriseOne 製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 価格管理
- JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析
- JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理
- JD Edwards EnterpriseOne 基本設定 – 住所録
- JD Edwards EnterpriseOne 一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne 不動産管理
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne サービス管理

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOne の最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOne は、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて <http://oracle.com/contracts/index.html> のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 – まえがき」

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の概要
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の統合
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の導入

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の概要

売掛管理部門では、顧客に販売した商品やサービスに対する請求書の処理、およびそれらの顧客からの支払の処理を行い、企業のキャッシュフローを管理する上で重要な役割を果たします。さらに、売掛管理部門では顧客の支払傾向に関する統計データを集めるために入金履歴のトラッキングが必要になる場合もあります。顧客をよく理解することによって、顧客サービスの向上と正確なキャッシュフロー管理が実現できます。

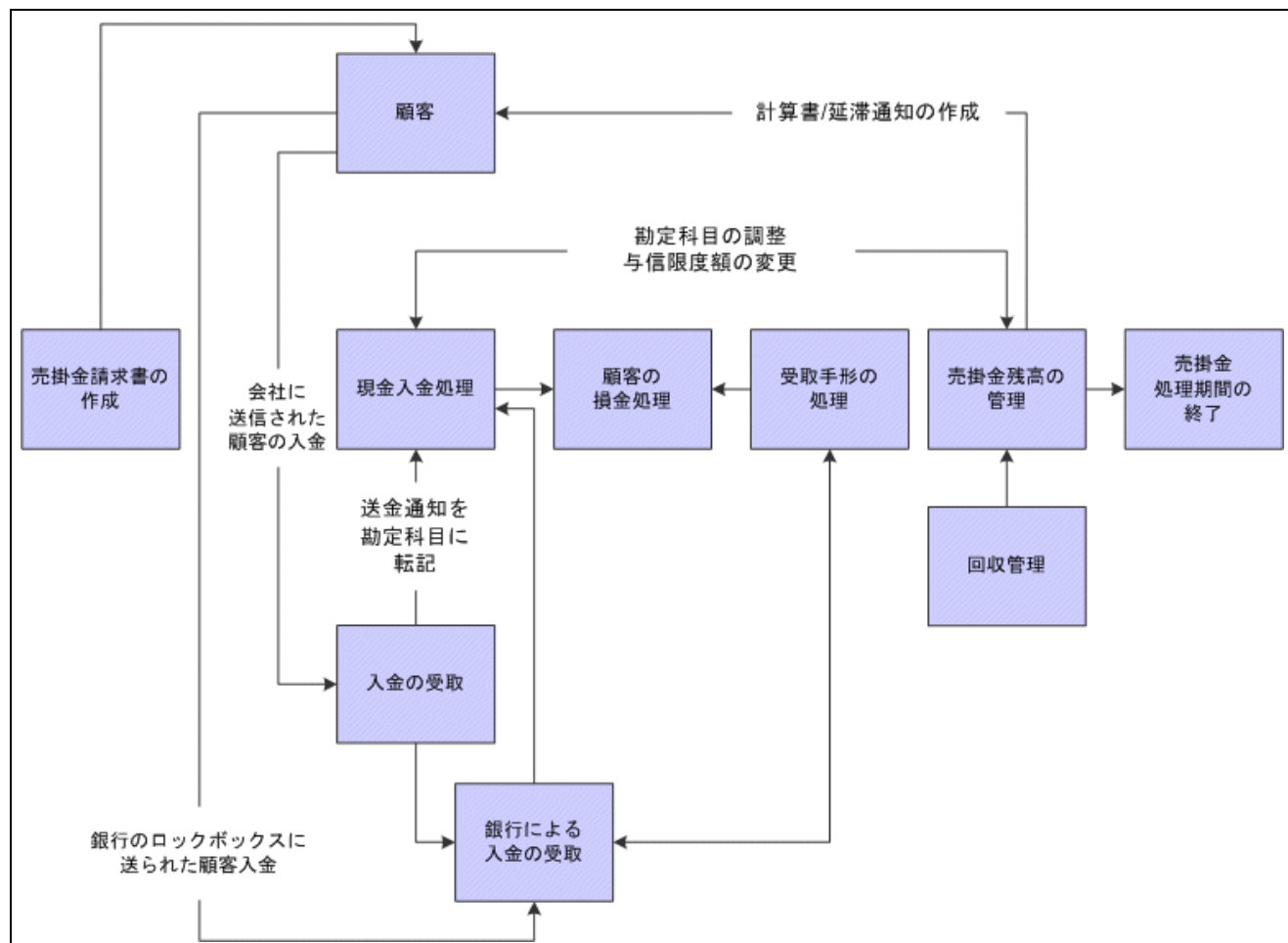
オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムは、効果的な資金管理に必要な柔軟性を備えており、企業のキャッシュフロー管理を効率的にサポートします。リアルタイムな情報を入手し、与信限度額の更新や回収フォロー、入金消込などの意思決定をすばやく行うことができます。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムを導入すると、売掛管理部門全体の日常業務の合理化が可能になります。入金処理を簡素化してスピーディに進めることができ、最新の情報を共有することで、請求、与信、回収の各部門間のコミュニケーションが向上します。

JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアは、多国籍企業が異なる通貨、言語、税法などに対応するために必要な柔軟性を備えています。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理のビジネス・プロセス

次のプロセス・フローは、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理のビジネス・プロセスを表しています。



JD Edwards EnterpriseOne売掛管理のシステム・フロー

JD Edwards EnterpriseOne売掛管理の統合

JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムは、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOneシステムと統合されています。

- 契約/サービス請求管理
- 一般会計システム
- 不動産管理システム
- 受注管理システム
- サービス管理システム

JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムは、JD Edwards EnterpriseOneの他のシステムと連動して機能し、すべての情報を総勘定元帳と売掛金元帳に取り込みます。統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。サード・パーティ・アプリケーションとの統合についての補足情報は、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトを参照してください。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムを導入するために必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOne に関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理について、どの ESU (電子ソフトウェア更新) をインストールするかを決める際は、JD Edwards EnterpriseOne and JD Edwards World Change Assistant を使用します。Java ベースのツールである JD Edwards EnterpriseOne and JD Edwards World Change Assistant を使用すると、必要となる ESU を検索してダウンロードするためにかかる時間を 75% 以上削減できます。さらに、複数の ESU を一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理を導入するための Oracle Business Accelerator ソリューションの詳細は、公開されているドキュメンテーションを参照してください。

参照: http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid_start/rapid_start_prtr_notes.jsp

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理のグローバル導入の推奨手順を示します。

| 手順 | 参照 |
|----------------------------------|---|
| 1. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。 | JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」 |
| 2. 勘定科目と勘定科目表を設定します。 | JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「勘定科目表の作成」 |
| 3. 一般会計固定情報を設定します。 | JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」 |
| 4. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。 | |
| 5. 元帳タイプ規則を設定します。 | JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプ規則の設定」 |
| 6. 住所録レコードを入力します。 | JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」 |

売掛管理導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の推奨導入手順を示します。

| 手順 | 参照 |
|--|---|
| 1. 売掛管理固定情報、ユーザー定義コード(UDC)、自動採番、AAI(自動仕訳)、支払条件を設定します。 | <u>第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムの設定」、5ページ</u> |
| 2. 顧客マスター情報と顧客銀行情報を設定します。 | <u>第 3 章、「顧客マスター情報の設定」、29ページ</u> |
| 3. (BRA)ブラジルの銀行の電子決済を設定します。 | |
| 4. 自動入金処理のアルゴリズム、実行リスト、顧客マスター・レコードを設定します。 | <u>第 5 章、「自動入金処理の設定」、57ページ</u> |
| 5. 与信および回収の期間パターン、活動コード、延滞方針、利息金指示、信用保険、与信管理者/回収管理者を設定します。 | <u>第 6 章、「与信/回収管理の設定」、85ページ</u> |
| 6. 請求書と入金のバッチ承認と転記セキュリティを設定します。承認者と入力者を設定します。 | JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチ承認と転記セキュリティの設定」 |
| 7. 手形および損金処理を設定します。 | <u>第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムの設定」、5ページ</u> |

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システム設定（システム・セットアップ）の概要と、次の方法について説明します。

- 売掛管理の固定情報の設定
- 売掛管理のユーザ一定義コード（UDC）の設定
- 売掛管理の自動採番の設定
- 売掛管理のAAI（自動仕訳）の設定
- 売掛管理の支払条件の設定
- 損金処理のための処理コードの設定

注意: アルゼンチンおよびフィンランドには、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの国別設定が用意されています。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理のシステム設定について

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムを使用する前に、処理に必要な情報を定義する必要があります。たとえば、業種別処理や有効日付カテゴリ・コードの使用、転記のバッチ処理実行時の管理者承認の要/不要、小額消去、損金、再請求の理由コードの定義、支払条件の設定などを選択します。売掛管理システムの設定によって、業務要件を満たすようにシステムをカスタマイズしたり、デフォルト値を指定して処理にかかる時間を節約できます。

次の表には、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに設定する必要がある情報がまとめられています。

| 機能 | 説明 |
|------|---|
| 固定情報 | 次のようなシステムの基本を設定します。 <ul style="list-style-type: none">• トランザクションのバッチ内の金額および伝票数と、ユーザーが別に入力した値の合計の一致検証を実行するかどうか• トランザクションのバッチ処理について、転記前に管理者の承認を必須にするかどうか• 自動相殺の実行（バッチ単位または個別）• 年齢調べレポートとオンライン照会での年齢調べ方法、経過日数および間隔• 顧客の延滞通知と計算書を自動処理するかどうか |

| 機能 | 説明 |
|------------|--|
| 拡張売掛管理固定情報 | 業種別処理または有効日付カテゴリ・コードを使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 業種別処理: 1つの顧客と複数の業務にわたって取引がある場合、製品、部門、地域などでその顧客を区別できます。 有効日付カテゴリ・コード: カテゴリ・コードを使用する場合、このオプションを選択するとカテゴリ・コードに有効日付を割り当てることができます。 |
| 支払条件 | 支払期日や割引額、割引期日など、顧客への請求書の様々な支払条件を設定します。 |
| AAI | 売掛金勘定や一時仮勘定、デフォルト銀行勘定など、システムが自動的に更新する勘定科目を定義します。 |
| UDC | 伝票タイプや理由コードなどを業務要件にあわせてカスタマイズします。 |
| 自動採番 | 伝票番号の自動採番を設定します。 |
| 顧客銀行情報 | 自動入金処理、手形処理、EDI、自動引落しに必要な様々なタイプの銀行口座情報を定義します。 |

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチ承認と転記セキュリティの設定」

売掛管理固定情報の設定

この項では、売掛管理の固定情報、拡張固定情報、システム固定情報、会社固定情報の概要、必要条件の一覧、および次の方法について説明します。

- 売掛管理の拡張固定情報の設定
- 売掛管理のシステム制御の設定
- 売掛管理の会社固定情報の設定

売掛管理固定情報について

会社の業務要件に応じて JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの基本的な動作方法を固定情報として設定できます。売掛管理固定情報の設定に際しては、年齢調べ情報などの業種別の情報と、システム全体の制御方法の設定を行います。たとえば、請求書や入金の転記に対する管理者承認の要/不要や、売掛金のバッチを転記した際の自動仕訳の作成方法を指定できます。

売掛管理固定情報の設定時には、売掛金を業種別に処理するかどうか、有効日付カテゴリ・コードを使用するかどうかを指定する必要があります。

売掛管理固定情報の設定は、ログアウトしてシステムを再起動すると有効になります。

売掛管理固定情報はF0009テーブルとF0010テーブルに保存されます。

重要: システムの設定完了後は、システム固定情報を変更しないでください。やむを得ず変更する場合は、固定情報はシステム処理の中核であるため、この情報に関する十分な知識を持った担当者が作業を行うようにしてください。また、権限を付与されたユーザーのみが固定情報にアクセスし、管理するようにしてください。

拡張固定情報について

拡張売掛管理固定情報を使用して、業種別処理と有効日付カテゴリ・コードの使用を指定します。

業種別処理

複数の業種を扱う顧客と取引がある場合は、それらの顧客との取引を業種別に処理するようにシステムを設定できます。製品、部門、地域などによって業種を区別できます。住所録レコードは1顧客当たり1件しか設定しませんが、「会社」フィールドを使用して、顧客の扱う業種当たり1つの顧客レコードを作成できます。これにより、与信限度額や回収方針などの売掛管理情報の処理や、支払条件や税情報のデフォルト設定を各顧客に対して会社（業種）別に行うことができます。

たとえば、小売店に生鮮食料品、冷凍食品、紙製品などを卸売販売する会社「Wholesale Super Foods」があるとします。紙製品を注文した顧客と生鮮食料品や冷凍食品を注文した顧客では、支払条件や税情報が異なります。業種別処理では、各業種（この場合は製品群）を個別の会社として設定します。これによって、各会社のレコードを顧客別に管理できます。

顧客レコードの入力時に、各業種に対応する住所録レコードを複数作成する必要はありません。そのかわりに、業種に関連付けた顧客レコードに会社を割り当てます。Wholesale Super Foods社の例では、会社00001を紙製品、会社00002を生鮮食料品に指定します。顧客から紙ナプキンとペーパータオルの注文があった場合、会社00001に対して請求書を入力すると、支払条件1/10、30日以内払い（支払期日は30日後、10日以内に支払われた場合は1%の割引）がデフォルトとして使用されます。同じ顧客が生鮮食料品を注文した場合に、会社00002に対して請求書を入力すると、デフォルトの支払条件“受取時払い”が指定されます。業種別処理を設定することにより、請求書に入力した会社に基づいて、デフォルトの支払条件、通貨、会計処理情報が自動的に指定されます。

業種別処理を設定しない場合、システム内では会社00000のレコードが1つだけF03012テーブルで管理されます。

有効日付カテゴリ・コード

価格管理システムを使用している場合は、「拡張売掛管理固定情報」フォームで「有効日付カテゴリ・コード」チェックボックスを選択することができます。価格管理システムでは、顧客カテゴリ・コードを使用して、顧客グループの指定や、顧客ベースで使用される価格設定を行います。この有効日付カテゴリ・コードのオプションを選択すると、1つの顧客に対して有効日別に複数組のカテゴリ・コードを設定できます。これによって、価格管理システムで、各顧客グループに指定された有効日に基づいて価格設定を調整できるようになります。

「有効日付カテゴリ・コード」チェックボックスを選択すると、顧客マスター・アプリケーションの「ロー」メニューと「フォーム」メニューにカテゴリ・コードを有効日付別に設定できるオプションが表示されます。このチェックボックスの選択を解除すると、これらのメニューは表示されません。

有効日付カテゴリ・コードを使用する場合は、顧客レコードにカテゴリ・コードの値を入力できません。かわりに、有効日付カテゴリ・コード・レコードにそれらを入力して、顧客レコードを更新するプログラムを実行します。

参照: 第 3 章、「顧客マスター情報の設定」、「顧客マスター・カテゴリ・コードの割当」、38ページ

システム固定情報について

次の固定情報は、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムですべての会社の処理に影響します。そのため、これらの固定情報は、“会社00000”のみに設定します。

- バッチ制御必須

バッチに入力する伝票の件数とそれらの金額を指定するには、このチェックボックスを選択します。この固定情報を有効にすると、バッチに関する情報を入力するためのバッチ入力フォームが表示されます。このフォームによって、実際に入力した情報と事前に指定した情報を比較できるため、入力ミスを最小限に抑えることができます。

- 管理者承認

このチェックボックスを選択すると、入力したすべての請求書と入金バッチには保留の状況が割り当てられ、転記前のバッチ承認が必須になります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチ承認と転記セキュリティの設定」

- 一般会計インターフェイス

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムを使用している場合はこのチェックボックスを選択します。一般会計システムを使用していて、このチェックボックスを選択しなかった場合は、借方または貸方のみの片側仕訳が作成されるため、整合性レポートを作成できなくなります。

- 集計方式

総勘定元帳に取引を転記する際に、各バッチに1件の相殺入力を作成するには「B」を、各取引に1件の相殺入力を作成するには「Y」を、各支払項目に1件の相殺入力を作成するには「S」を選択します。

会社固定情報について

売掛管理固定情報の設定では、入金管理オプションとデフォルトの年齢調べ情報を業種別に指定できます。この固定情報によって、計算書と延滞通知を印刷するかどうか、自動入金処理を実行するかどうか、回収処理のために個別の年齢調べカテゴリと日付を使用するかどうかを指定できます。

売掛管理固定情報を選択すると、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムで設定されている会社が表示されます。この時点では、各会社には会社00000のデフォルト値が設定されています。したがって、会社00000とは異なる設定が必要な会社については、その会社の固定情報を変更するだけで済みます。

入金管理オプションのデフォルト設定は会社レベルで行いますが、顧客情報を設定する際にこれらの設定を顧客レベルで変更できます。売掛管理システムの多くのレポートやバッチ処理では、固定情報のデフォルト値にかかわらず、処理オプションで年齢調べ情報を指定できます。

事前設定

権限を付与されたユーザーのみが売掛管理固定情報にアクセスできるようにしてください。

売掛管理の固定情報の設定に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------|--------|---|---|
| 売掛管理固定情報 | W0000D | 「売掛管理システム・セットアップ」(G03B41)、「売掛管理固定情報」 「システム・セットアップ」フォームの「売掛管理固定情報」をクリックします。 「売掛管理固定情報の処理」フォームで会社を選択し、「選択」をクリックします。 | システム制御と会社制御を設定します。システム制御を設定する際には、「売掛管理固定情報の処理」フォームで会社「00000」を選択してください。 |
| 拡張売掛管理固定情報 | W0000C | 「売掛管理固定情報」フォームで、「フォーム」メニューから「拡張売掛管理」を選択します。 | 業種別処理や有効日付カテゴリ・コードを使用するかどうかを指定します。 このフォームにアクセスするには、「売掛管理固定情報の処理」フォームで会社 00000 を選択してください。 |

拡張売掛管理固定情報の設定

「拡張売掛管理固定情報」フォームにアクセスするには、「売掛管理固定情報の処理」フォームで会社 00000 を選択します。

「拡張売掛管理固定情報」フォーム

売掛管理

業種別処理を使用しない場合はこのオプションを選択します。

警告: 設定が完了し、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの使用が開始された後には、このオプションを変更しないでください。

売掛管理 - 業種別処理

業種別処理の機能を使用する場合は、このオプションを選択します。業種別処理の機能を使用すると、会社番号別に顧客レコードを設定し、請求、与信、回収情報の処理を柔軟に行うことができます。

警告: 設定が完了し、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの使用が開始された後には、このオプションを変更しないでください。

有効日付カテゴリ・コード

有効日付カテゴリ・コードを使用する場合はこのチェックボックスを選択します。

売掛管理システム制御の設定

「売掛管理固定情報の処理」フォームで会社00000を選択し、「売掛管理固定情報」フォームにアクセスします。

売掛管理固定情報 - 売掛管理固定情報

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

会社 00000 Worldwide Company

売掛管理

☐ バッチ制御必須 ☒ 一般会計インターフェイス 集計方式 Y
☐ 管理者承認 伝票ごと

入金管理

☒ 延滞通知 ☒ 計算書の印刷
☒ 自動入金

年調調べ情報

基準日 経過日数(999 = 無限)

計算方法 1 開始 30- から 0 から 30 から 60
 年調調べ基準日 D から 90 から 120 から 150 から 999

「売掛管理固定情報」フォーム

バッチ制御必須

このチェックボックスを選択すると、各バッチの取引合計を確認する追加のフォームが表示されます。このチェックボックスを選択すると、請求書、入金、手形の入力時に追加のフォームが表示されます。バッチに含まれると予測される伝票総数および合計金額を入力します。各バッチの入力を完了してアプリケーションを閉じると、入力される予定だった値の合計と実際に入力した値の合計に差異がある場合、その差異が表示されます。

管理者承認

売掛管理のバッチについて転記前に管理者の承認を必須に設定するには、このチェックボックスを選択します。バッチには「保留」の状況が割り当てられ、管理者の承認がなければバッチを転記できなくなります。このチェックボックスの選択を解除すると、バッチには「承認」の状況が割り当てられ、管理者承認は必須ではなくなります。

一般会計インターフェイス

売掛金取引の入力時に総勘定元帳を更新する場合は、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスの選択を解除すると、F0911テーブルは更新されません。

集計方式

コードを入力して、請求書、領収書、手形などを総勘定元帳に転記する際に、取引明細テーブル (F0911) に相殺入力 (伝票タイプ AE) がどのように作成されるかを指定します。システムの処理により、実績金額 (AA) 元帳と外貨 (CA) 元帳のみに対する相殺入力を作成されます。相殺入力の値は次のいずれかを選択します。

B: バッチ内のすべての取引が国内通貨の場合は、各バッチに対して、科目別に相殺入力が1つ作成されます。転記プログラムでは、1つ以上の外貨または代替通貨を含む取引のバッチを転記できないため、この方法は多通貨処理には使用できません。

Y: 各伝票に対して、科目別に相殺入力が1つ作成されます。

S: 各支払項目に対して、科目別に相殺入力が1つ作成されます。

注意: 「一般会計固定情報」フォームの「会社間決済」フィールドの値が3の場合、集計方法はSまたはYにする必要があります。それ以外の値を指定すると、バッチの転記時にエラーが返されます。

売掛管理会社制御の設定

「売掛管理固定情報」フォームにアクセスします。

延滞通知

顧客に割り当てたポリシーに設定した通知指示に基づいて、会社向けの延滞通知書を印刷するには、このチェックボックスを選択します。

注意: このオプションは、顧客マスター情報プログラム (P03013) と売掛管理固定情報プログラム (P0000) の両方にあります。売掛管理固定情報プログラムでは、このオプションによって、特定の会社に対して入力した請求書に関する通知を印刷するかどうかを指定します。顧客マスター情報プログラムでは、このオプションによって、顧客用に通知を印刷するかどうかを指定します。

自動入金

自動入金処理プログラムを使用して JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システム内の入金を処理する場合は、このチェックボックスを選択します。

自動入金処理を実行するには、売掛管理固定情報で、顧客と会社の両方でこのオプションを有効 (チェックボックスを選択) にしておく必要があります。

計算書の印刷

会社の計算書を印刷する場合はこのチェックボックスを選択します。

注意: このオプションは、顧客マスター情報プログラム (P03013) と売掛管理固定情報プログラム (P0000) の両方にあります。売掛管理固定情報プログラムでは、このオプションによって、特定の会社に対して入力した請求書に関する計算書を印刷するかどうかを指定します。顧客マスター情報プログラムでは、このオプションによって、特定の顧客に対して入力した請求書に関する計算書を印刷するかどうかを指定します。

基準日

請求書が割り当てられる年齢調べカテゴリの決定に使用される日付を入力します。システム内では年齢調べ日付と、「年齢調べ基準日」フィールド (AGE) で定義した請求書日付、計算書日付、支払期日、または元帳日付との比較が行われ、次に「計算方法」フィールド (AGEM) の値が使用され、更新する年齢調べカテゴリが決定されます。計算方法1 (経過日数) を使用する場合、売掛管理固定情報の「経過日数」フィールド (CRDY、AGR1、

AGR2、AGR3、AGR4、AGR5、AGR6、AGR7) で年齢調べカテゴリが定義されます。

このフィールドがブランクの場合には、現在の日付が使用されます。

注意: この日付は JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムでも与信チェックに使用されます。与信チェックを常に最新の日付で行うには、このフィールドをブランクにしてください。

計算方法

請求書の割当に使用される年齢調べカテゴリを指定するためのコードを入力します。「基準日」フィールド(DAG)の日付と「年齢調べ基準日」フィールド(AGE)の値を使用して各請求書の経過期間が計算され、このコードで指定した年齢調べカテゴリにそれらの請求書が割り当てられます。値は次のとおりです。

- 1: 経過日数。経過日数の各フィールドで指定した年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられます。年齢調べカテゴリはユーザー定義が可能です。
- 2: 会計期間。会社レコードに割り当てられた期間パターンによって定義されている会計期間が、年齢調べカテゴリとして使用されます。
- 3: カレンダ。各カレンダー月が年齢調べカテゴリとして使用されます。

年齢調べ基準日

年齢調べの計算に使用される請求書レコードの日付を指定するコードを入力します。請求書レコードの日付と「基準日」フィールド(DAG)の比較によって経過日数が計算され、「計算方法」フィールド(AGEM)で指定した方法に基づいて年齢調べカテゴリが更新されます。値は次のとおりです。

- I: 請求書日付
- D: 支払期日
- G: 元帳日付
- S: 計算書日付

開始、から

年齢調べカテゴリの日数を定義する数値を入力します。システム内では、「開始」フィールドに入力した値とAGR1の値が使用されます。最新かつ最初の年齢調べカテゴリの定義には、「から」フィールドとCRDYおよびAGR2の値が使用されます。

売掛管理のユーザー定義コード(UDC)の設定

JD Edwards EnterpriseOne システム全体において、UDCのみを受け付けるフィールドは多数あります。たとえば、請求書の入力では、UDCによって請求書の伝票タイプが指定されます。システムではUDCテーブルに定義されていないUDCは受け付けられません。一部のUDCはハードコード化されていて、それらを変更することはお勧めしません。また、一部のUDCには、特定の機能を実行するための特殊取扱コードが含まれています。次のJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムのUDCの説明には、新規コードの追加、既存コードの変更、プログラム内でのコードの使用方法に関する詳細情報が含まれています。

住所録与信メッセージ(00/CM)

顧客の与信状況を通知するコードを割り当てることができます(00/CM)。これらの与信メッセージは、システム全体で使用されます。次に例を示します。

- 1: 与信限度額超過

- 2: 購買オーダー必要
- 3: 契約管理対象外
- 7: 与信保留
- B: 不良債権の恐れあり
- C: 現金取引のみ(高品引換支払)

割引理由コード(00/DE)

入金または手形の入力時に、トラッキングを目的として、または、複数の割引勘定を設定するために、割引理由コードを割り当てることができます。AAI項目RKDxxx(yyyは理由コード)を設定すると、システム内の処理では、このAAIと関連付けられている勘定科目が使用されます。

税率/税域別に割引をトラッキングする場合には、税率/税域コードと同じ割引理由コードを使用してください。割引理由コードの例を次に示します。

- ADJ: 調整済割引
- ONT: オンタリオ州の税率/税域
- QUE: ケベック州の税率/税域
- UE: 割引期日を過ぎて無効になった割引

注意: 割引理由コードを使用しない場合、このUDCの値として空白が設定されていることを確認してください。空白が有効なUDCの値として設定されていない場合、入金または手形の入金時に割引を設定しようとするとエラーが返されます。

伝票タイプ・コード(00/DT)

取引の入力時には、指定したUDCに基づいて請求書やクレジット・メモなどの伝票タイプが割り当てられます。伝票タイプには、伝票番号および会社とあわせて、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムと一般会計システム内の各取引を関連付ける機能があります。UDCテーブル00/DTで設定できる伝票タイプは、次の2種類です。

- 請求書伝票タイプ・コード
- 入金伝票タイプ・コード

請求書伝票タイプ・コード(00/DI)

請求書伝票タイプによって請求書のタイプが識別されます。UDCテーブル00/DIに、請求書の入力時に使用する各伝票タイプに対応するコードを設定する必要があります。伝票タイプがハードコード化されている場合は、その伝票タイプの請求書に別の伝票タイプを割り当てることはできません。

UDC 00/DIに設定するすべての伝票タイプは、UDC 00/DTにも設定する必要があります。請求書伝票タイプとクレジット・メモ伝票タイプのデフォルトは、請求書入力MBF処理オプション・プログラム(P03B0011)で設定します。

次の表には、請求書伝票タイプの一覧と各タイプの説明が示されています。

| 伝票タイプ | 説明 |
|---------|----------------------------|
| 請求書(RI) | 請求書を入力するとこの伝票タイプが割り当てられます。 |

| 伝票タイプ | 説明 |
|------------------|--|
| 定期請求書 (RR) | 請求書を入力して支払回数と定期頻度を指定すると、このハードコード化された伝票タイプが割り当てられます。 |
| クレジット・メモ (RM) | クレジット・メモを作成するとこの伝票タイプが割り当てられます。 |
| 再請求 (RB) | 一部しか支払われていない請求書に対して入金プログラムで再請求と指定すると、このハードコード化された伝票タイプで請求書が作成されます。 |
| 延滞利息金 (RF) | 延滞利息金を作成すると、このハードコード化された伝票タイプで請求書が作成されます。延滞利息金は延滞手数料と呼ばれる場合もあります。 |
| 仮受金 (未充当入金) (RU) | 請求書に対して消し込まない入金を入力すると、このハードコード化された伝票タイプで請求書が作成されます。 |
| 受取手形 (R1) | 手形を入力すると、このハードコード化された伝票タイプで請求書が作成されます。 |

入金伝票タイプ (00/DT)

入金伝票タイプは照合伝票タイプと呼ばれる場合もあります。入金伝票タイプは、単独で使うことはできません。仮入金以外は、対応する当初伝票に添付する(当初伝票と照合する)必要があります。たとえば、領収書は照合伝票であり、必ず当初伝票として対応する請求書があります。すべての照合伝票タイプはハードコード化されています。

請求書伝票タイプとは異なり、入金伝票タイプ・コードはUDCテーブル00/DTのみで設定します。

入金を入力時および転記時に照合伝票として使用できる伝票タイプは次のとおりです。

| 伝票タイプ | 説明 |
|-----------------|--|
| 入金 (RC) | 入金を入力すると、この伝票タイプが割り当てられます。 |
| 逆仕訳または無効仕訳 (RO) | 転記済の入金を無効にすると、この伝票タイプが割り当てられます。 |
| 配賦調整 (RS) | 入金の金額が0で、請求書に対してクレジット・メモを消し込む場合に、この伝票タイプが割り当てられます。 |
| 残高不足 (RV) | 入金をNSF(残高不足)に指定すると、この伝票タイプが割り当てられます。 |

支払状況コード (00/PS)

支払状況コード (00/PS) は、承認済、保留、入金済などの、請求書の状況を示します。システムによって割り当てられた状況を変更する必要がある場合は、手動で支払状況コードを割り当てます。次の支払状況コードはハードコード化されています。

- A: 支払承認済み

- D: 手形受取済み
- E: 手形 - 期限切れ未回収
- G: 預入済み決済前手形
- H: 支払承認保留中
- P: 全額支払済み
- R: 留保金

支払手段コード(00/PY)

支払手段コード(00/PY)を使用して、様々な支払方法を指定できます。請求書に支払手段コードを割り当てることによって、請求書を処理方法で区別できます。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムで使用する支払手段コードの例を次に示します。

- A: 自動引落とし
- D: 受取/支払手形(請求書別)
- F: 計算書別手形
- T: 電子資金決済

与信管理者コード(01/CR)と回収管理者コード(01/CM)

与信限度額などの与信情報を更新/承認する責任者を指定するコードと、延滞利息金や延滞通知などの回収情報を承認する責任者を指定するコードを割り当てることができます。このコードで指定されている責任者にワークフロー・メッセージが送信されるようにするには、その管理者の住所録番号をUDCの「記述02」フィールドで指定する必要があります。

注意: 与信管理者のUDC(01/CR)にも、ブランクを有効な値として設定してください。ブランクのコードを設定するには、「記述1」フィールドにピリオドなどのなんらかの文字を入力する必要があります。

Dun & Bradstreet 格付コード(01/DB)

顧客のDun & Bradstreet格付を示すコード(01/DB)を割り当てることができます。次に例を示します。

- BA1: 優良
- BA2: 良
- BA3: 可
- BA4: 条件付

使用言語コード(01/LP)

請求書や計算書などに使用する言語を識別するコード(01/LP)を割り当てることができます。次に例を示します。

- ブランク(デフォルト): 英語
- F: フランス語
- G: ドイツ語

Experian 信用格付コード(01/TR)

顧客のExperian信用格付を示すコード(01/TR)を割り当てることができます。次に例を示します。

- AAA: 優良
- BBB: 良好

年齢調べ表現形式コード(03B/AGおよびH00/AG)

このUDC(03B/AGとH00/AG)を使用して、売掛金の年齢調べレポートで使用する用語を指定できます。

UDC 03B/AGの例を次に示します。

- 1: 超過
- 2: 前回
- 3: 将来
- 4: 現行

UDC H00/AGの例を次に示します。

- D: 支払期日
- G: 元帳日付
- I: 請求書日付
- S: 計算書日付

再請求理由コード(03B/CB)

請求書に対して再請求を入力する場合、その理由を示す再請求理由コード(03B/CB)を割り当てる必要があります。次に例を示します。

- DA: 問題のある金額
- DD: 割引不可額
- SP: 支払不足
- SU: 分割未充当入金

回収理由コード(03B/CL)

回収理由コード(03B/CL)を割り当て、請求書の支払延滞理由を説明できます。次に例を示します。

- BK: 顧客倒産
- DP: 顧客からのクレーム
- NP: 延滞/支払なし

損金理由コード(03B/CR)

損金を作成する際には、理由を示す損金理由コード(03B/CR)を割り当てる必要があります。次に例を示します。

- DA: 金額に対するクレーム
- DG: 破損品
- GR: 返品
- PD: 価格設定の問題
- SS: 出荷不足

- UD: その他クレーム

延滞支払コード(03B/PL)

延滞支払コード(03B/PL)は、支払期日までに顧客から入金があったかどうかを示します。与信履歴の更新プログラム(R03B16A)を実行すると、入金明細テーブル(F03B14)の支払延滞フィールド(PDLT)にこのコードが割り当てられます。値は次のとおりです。

- 0: 期日前入金
- 1: 入金遅延

アクティビティ優先度コード(03B/PR)

アクティビティ優先度コード(03B/PR)で、与信/回収管理のために必要な活動項目が表示される順序を指定します。最も優先度が高い活動項目には優先度1を割り当てます。次のアクティビティ優先度コードは、ハードコード化されています。

- 1: 優先度1
- 2: 優先度2
- 3: 優先度3
- 4: 優先度4
- 5: 優先度5

小額消去の理由コード(03B/RC)

請求書の一部を消し込んで費用として処理(損失計上)する際には、請求金額の調整を示すための理由コード(03B/RC)を割り当てする必要があります。割り当てる理由コードは、借方に計上する勘定科目を検索する際にシステムが使用するAAI項目RAxx(xxは理由コード)に対応します。次に例を示します。

- BD: 不良債権
- CN: 譲歩
- DA: 未解決金額
- MW: 小額消去
- RV: 改訂(入力ミス)
- TF: 未解決税額/運送費
- VD: 無効 - 重複入力
- WO: その他の小額消去

F03B16テーブルとF03B16Sテーブルの小額消去フィールド(MWO)の小額消去を累計する場合は、各理由コードの「特殊取扱コード」フィールドに「1」を入力します。「特殊取扱コード」フィールドを空白のままにすると、関連する不良債権金額(BDBT)フィールドの金額が累計されます。

与信履歴の更新プログラム(R03B16A)を実行すると、これらの小額消去金額が更新されます。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定」、「売掛管理AAI(自動仕訳)の設定」、21 ページ

標準入金および手形入力タイプ・コード(03B/RE)

入力タイプ・コード(03B/RE)は、入金および手形の請求書への消込方法を示します。次のコードは、標準入金プログラムおよび手形入力プログラム用にハードコード化されています。

- 10: 簡易請求書照合
- 11: 照合(割引分再請求)
- 15: 照合(小額消去)
- 16: 照合(再請求)
- 17: 照合(損金)
- 25: 単独小額消去
- 26: 単独再請求
- 27: 単独損金
- 30: 部分NSF(残高不足) - 手形
- 36: 部分NSF再請求 - 手形

スピード入金タイプ入力コード(03B/SA)

スピード入金入力タイプ・コードは(03B/SA)は、スピード入金入力による入金に使用する入力方法を指定します。次のスピード入金入力タイプ・コードは、ハードコード化されています。

- 1: 未充当/仮受金
- 2: 繰越残高入金
- 3: 仮入金
- 4: 総勘定元帳

無効/残高不足理由コード(03B/VR)

無効理由コード(03B/VR)は、入金を無効にしたりNSF(残高不足)として処理する理由を示します。次に例を示します。

- DSP: 問題
- ECK: エラーチェック
- NSF: 残高不足入金
- PNS: 部分NSF(残高不足)
- RF: 払戻し
- VOD: 無効入金

置換文字(04/RC)

転送するテキスト・ファイルに銀行が認識しない文字や特殊文字が含まれている場合は、UDC 04/RCで置換文字を設定できます。

ほとんどのUDCと異なり、このUDCに指定するコードはシステム内の処理では使用されません。システム内の処理には「記述1」フィールドの先頭文字が使用され、「記述2」フィールドの先頭文字に置き換えられます。たとえば、文字Zを数値0に置き換えることができます。「記述2」フィールドに値を入力しなかったり、誤ってフィールドの2番目のスペースに値を入力したりした場合は、「記述1」フィールドで指定した文字がブランクに置換されます。

このテーブルは、P0457Dプログラムで該当する処理オプションが有効になっている場合にのみ使用されます。

システム内の処理では、UDC 04/RCで「記述1」フィールドに指定した文字のテキスト・ファイルが検索されます。次に、それらの文字は、「記述2」フィールドに指定した代替文字に置換されます。これによって、テキスト・ファイルに含まれている使用不可能な文字が使用可能な文字に置き換えられます。たとえば、銀行のシステムではウムラウト文字が認識されない場合には、「ä」を「ae」、「ö」を「oe」などの2文字に置換できます。

注意: ドイツ向けのプログラム“German Bank File Format and Statement Diskette”と“銀行テープの作成 - ドイツ”を使用している場合にのみ、1文字を2文字に置換できます。他のプログラムで置換文字UDCを使用する場合、「記述1」フィールド内の文字は、「記述2」フィールドの先頭文字のみに置換されます。

1文字を1文字の代替文字で置換するか、複数の代替文字で置換するかを選択できます。複数の代替文字を使用しても、文字列長は変わりません。たとえば、元の文字列が3文字であれば、置換された後の文字列も3文字です。すべての代替文字を挿入すると変更後の文字列長が規定の範囲を超える場合は、自動的に文字列内の特定の文字が省略されます。

1つの文字から複数の文字への置換がどのように行われるかを次の例で説明します。

| 置換 | 元の文字列 | 変更された文字列 | 結果 |
|-----------|-----------------|-----------------|---|
| AをFGで置換 | ABC | FGB | フィールド長を3に保つために、Cが文字列から削除されます。 |
| AをFGで置換 | ABCxxx (xはブランク) | FGBCxx (xはブランク) | フィールド長を6に保つために、末尾のブランクが文字列から削除されます。 |
| BをFGHIで置換 | ABC | AFG | フィールド長を3に保つために、Bが置換文字列の最初の2文字のみと置き換えられます。 |

特殊文字 (04/SC)

転送するテキスト・ファイルに銀行が認識しない文字や特殊文字が含まれている場合は、それらをUDC 04/SCに追加し、銀行ファイルのディスクへのコピー・プログラム (P0457D) の処理オプションで指定されている値と置き換えることができます。

ほとんどのUDCと異なり、このUDCに指定したコードはシステム内の処理では使用されません。システムでは、「記述1」フィールドに定義した文字が使用されます。「記述1」フィールドには最大で30文字指定できます。さらに文字を入力する必要がある場合は、別のコードを追加して、そのコードの「記述1」フィールドに追加の文字を指定できます。すべてのコードの「記述1」フィールドのすべての値が、処理オプションで指定されている値で置換されます。

たとえば、「記述1」フィールドに「!@#\$\$%」と入力し、対応する処理オプションの値に「/」を入力すると、システムの内部処理によってテキスト・ファイル内の!、@、#、\$、%のすべてのインスタンスが「/」で自動的に置き換えられます。

注意: 文字をブランクに置き換えるには、置換文字の処理オプションをブランクにします。置換文字を使用しない場合は、UDC 04/SCにコードを一切設定しないでください。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Foundation Guide

第 7 章、「請求書の処理」、113ページ第 6 章、「与信/回収管理の設定」、「与信/回収管理者の設定」、105ページ

売掛管理の自動採番

この項では、売掛管理の自動採番の概要について説明します。

売掛管理の自動採番について

プログラムでは、自動採番テーブル(F0002)から番号が取得される際に、自動採番テーブル内の適切なシステムに対応する行が参照されます。自動採番テーブルのデータが壊れた場合や、誤ってレコードを削除した場合には、その行で関連するプログラムの自動採番の番号を設定する必要があります。

次の表には、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システム(03B)用の自動採番レコードの作成に必要な情報が記載されています。

| 行番号 | 記述 | 説明 |
|-----|-------|---|
| 1.0 | 請求書番号 | 手動入力した請求書またはJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで作成された請求書の伝票番号を採番します。 |
| 2.0 | 未充当入金 | 未充当入金を入力すると作成されるRU請求書レコード(F03B11)の伝票番号を採番します。 |
| 3.0 | 再請求番号 | 無効割引分やその他の支払不足分を顧客に再請求すると作成されるRB請求書レコード(F03B11)の伝票番号を採番します。 |
| 4.0 | 計算書番号 | トラッキング目的で計算書に表示される番号を採番します。 |
| 5.0 | 入金番号 | F03B13テーブルとF03B14テーブルのRC入金レコードの伝票番号を採番します。 注意: 処理オプションで入金番号の自動割当を設定する必要があります。 |
| 6.0 | 手形番号 | 手形を入力すると作成されるR1請求書レコード(F03B11)の伝票番号を採番します。 |

| 行番号 | 記述 | 説明 |
|------|----------|---|
| 7.0 | クレジット・メモ | 手動入力または JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムで作成された、金額がマイナスの請求書の伝票番号を採番します。 |
| 8.0 | 活動ID | 顧客取引活動ログ・テーブル (F03B31) の活動明細レコードをトラッキングするための内部番号を採番します。 |
| 9.0 | 不使用 | なし |
| 10.0 | 支払ID | F03B13 テーブルと F03B14 テーブルの入金レコードをトラッキングするための内部番号を採番します。 |

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」

売掛管理AAI(自動仕訳)の設定

この項では、売掛管理AAIおよびAAIの検索順序の概要と、使用可能な売掛管理AAIについて説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI(自動仕訳)の設定」

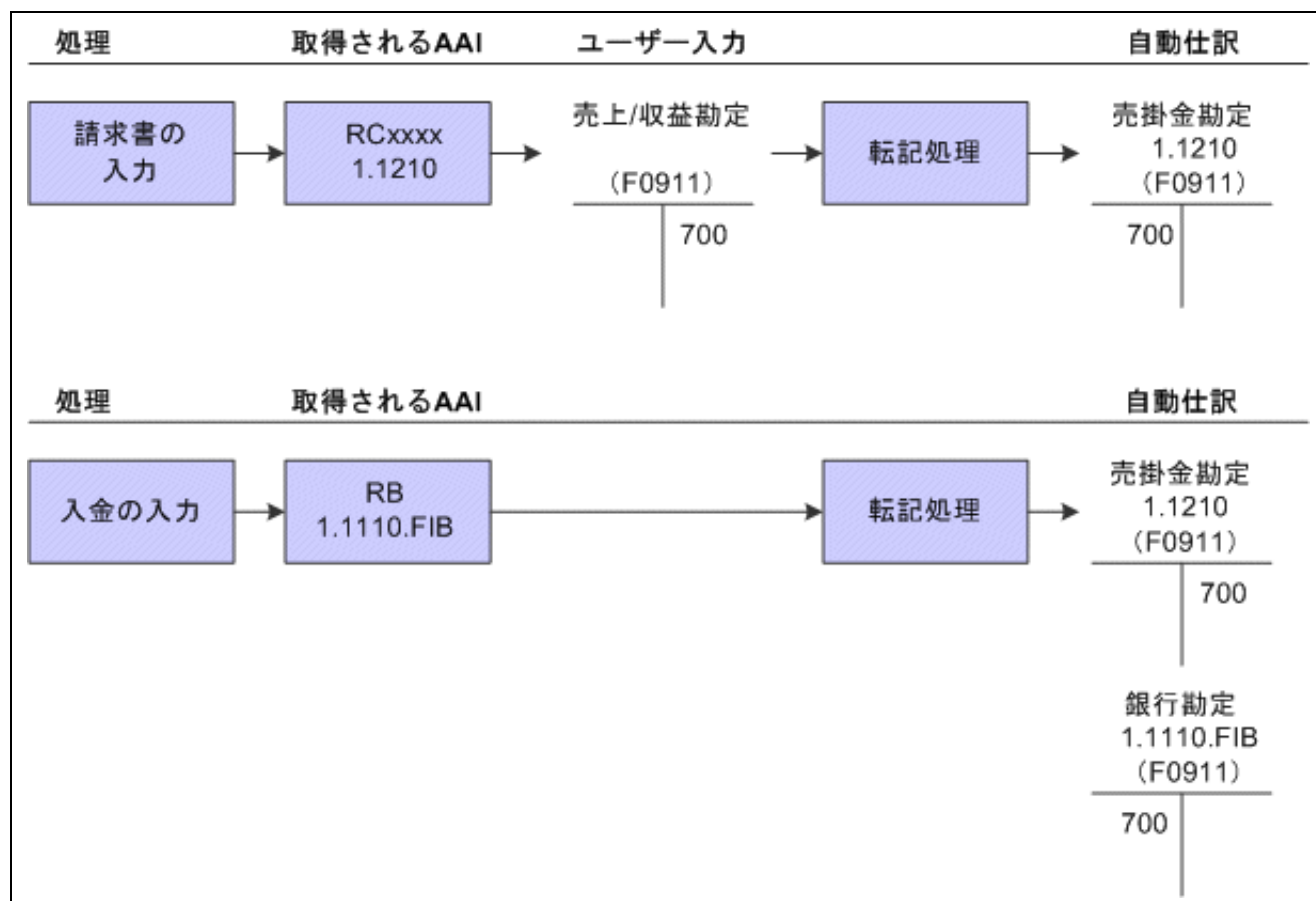
売掛管理AAIについて

仕訳入力が必要な取引の入力を行うたびに、適切な勘定科目コードが特定される必要があります。このとき、AAIテーブルで各取引に対応するコードが検索されます。たとえば、請求書の転記時に借方に計上する売掛金勘定や、入金の転記時の借方に計上する銀行勘定がAAIによって決まります。

RCなどのAAI項目の名称はハードコード化されています。売掛管理システムで使用されるAAIはすべてRで始まります。たとえば、RCは売掛金勘定用、RBは入金を記録する銀行勘定用のAAIです。各AAIには、勘定科目表にあるビジネスユニット、主科目、補助科目(任意)から構成される勘定科目コードを設定します。

AAI項目RA、RC、RKD、RFC、RFDでビジネスユニットを定義しない場合には、請求書のセキュリティ・ビジネスユニットが使用されます。セキュリティ・ビジネスユニットとは、顧客の住所録レコードに割り当てられるビジネスユニットで、請求書入力時のデフォルトとして使用されます。AAIでビジネスユニットを指定しない場合には、請求書のビジネスユニットにAAIで指定した主科目が連結され、勘定科目コードとして使用されます。この処理により、柔軟なAAI設定と、ビジネスユニット別の勘定科目のトラッキングが可能になります。

次の図は、請求書および入金処理時の JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムによる AAI の使用を示しています。



請求書/入金処理時のAAI

取引を入力するたびに、次の情報が検索されます。

- 会社番号
- 相手勘定

AAIテーブルで、会社とAAI項目の組合せに対して設定されている勘定科目コードが検索されます。その組合せに対応する勘定科目コードがあった場合は、その勘定科目が使用されます。該当する勘定科目コードがない場合は、会社00000に設定された勘定科目が使用されます。

AAIの検索順序について

各AAIには、勘定科目コードの検索に使用される階層的な検索順序が割り当てられています。次の例は、相手勘定コードを使用する場合と使用しない場合に、どのように売掛金勘定の勘定科目コードが検索されるかを示しています。

例1: 相手勘定を指定した場合の売掛金勘定の検索順序

会社00001の請求書に相手勘定TRADを入力した場合、次の階層順序に基づいて売掛金勘定が検索されます。

1. 会社00001のAAI項目RCTRADで売掛勘定が検索されます。
2. 会社00001のAAI項目RCTRADが見つからない場合、会社00000のAAI項目RCTRADが検索されます。
3. このAAI項目が見つからない場合には、AAIがないという内容のエラー・メッセージが表示されます。

例2: 相手勘定を指定しない場合の売掛金勘定の検索順序

相手勘定を指定せずに(相手勘定フィールドがblank)会社00001の請求書を入力した場合、次の階層順序に基づいて売掛金勘定が検索されます。

1. 会社00001のAAI項目RCxxxxで売掛金勘定が検索されます。
2. 会社00001のAAI項目RCxxxxが見つからない場合、会社00000のAAI項目RCxxxxが検索されます。
3. このAAI項目が見つからない場合には、AAIがないという内容のエラー・メッセージが表示されます。

売掛管理AAIについて

この項では、使用可能な売掛管理AAIについて説明します。

銀行勘定(RB)

AAI項目RB(銀行勘定)は、入金レコードで銀行勘定が指定されていない場合に使用されるデフォルトの銀行勘定を指定します。このAAIの設定は必須ではありません。使用する銀行勘定は、入金レコードの会社番号に基づいて取得されます。会社AAI項目が設定されていない場合は、会社00000のAAI項目(RB)に設定された銀行勘定が使用されます。

このAAIには、ビジネスユニットの設定は必須ではありません。ビジネスユニットをblankにすると、入金入力時に顧客の住所録レコードのビジネスユニットが使用されます。

売掛金勘定(RCxxxx)

入金があるまでの保留勘定または仮勘定として機能する売掛金(クラス)勘定です。このAAI項目RCによって、転記時に更新する売掛金勘定が指定されます。伝票タイプAE(自動仕訳)でこのレコードが自動的に作成されます。

RCクラスは、顧客別に設定できます。請求書の入力時には、顧客レコードからクラス・コードが取得されます。請求書に手動でコードを指定することも可能です。このAAI項目にはビジネスユニットを設定する必要がありません。次のRC項目を設定します。

- 会社00000のデフォルトAAI項目
- 会社固有のAAI項目
- 会社00000のRCxxxx(xxxxは相手勘定)
- 業種別の相手勘定
- その他の売掛金のデフォルトAAI項目

次の表には、RC項目の設定方法が示されています。

| 項目 | 記述 | 会社 | ビジネスユニット | 主科目 | 補助科目 | 順序番号 |
|--------|----------------|-----|----------|------|------|-------|
| RC | デフォルト売掛金勘定 | | 100 | 1210 | | 3.110 |
| RC | 会社200の売掛金勘定 | 200 | 200 | 1210 | | 3.110 |
| RCNOTE | デフォルト売掛金(手形)勘定 | | 150 | 1210 | | 3.110 |

| 項目 | 記述 | 会社 | ビジネスユニット | 主科目 | 補助科目 | 順序番号 |
|--------|-------------|-----|----------|------|------|-------|
| RCNOTE | 会社200の売掛金勘定 | 200 | 250 | 1210 | | 3.110 |
| RCUSD | 業種別の通貨 | 70 | 70 | 1210 | | 3.110 |

請求書のビジネスユニットと主科目の組合せを使用して正しい売掛金勘定が検索されます。その勘定科目の組合せ(ビジネスユニット + 主科目)が見つからない場合は、エラー・メッセージが表示されます。

未充当入金(RCUC)

AAI項目RCUCは、請求書には転記せずに特定の顧客に対して未充当入金を転記した場合に作成される自動仕訳のデフォルトの勘定科目を定義します。

同じ売掛金勘定を使用する会社には、会社00000のデフォルトAAI項目を設定し、会社00000の売掛金勘定とは異なる勘定科目を使用する会社には、業種別にAAIを指定します。この設定は必須です。

注意: RCUCを設定しない場合、RCxxxxはデフォルトとして使用されません。

このAAIの設定時には、ビジネスユニットの指定を省略できます。「ビジネスユニット」フィールドを空白にすると、顧客の住所録レコードのビジネスユニットが使用されます。

仮入金(RCLC)

AAI項目RCLCは、顧客を指定せずに入金を転記した場合に計上するデフォルトの資産勘定を定義します。このデフォルト設定を利用すると、入金を迅速に入力できます。仮入金は、後で請求書、顧客、計算書と照合されます。仮入金には、AAI項目RCLCの設定は必須です。RCLCを設定しない場合、RCxxxxはデフォルトとして使用されません。このAAIの設定時には、ビジネスユニットを指定する必要があります。

小額消去(RAxx)

AAI項目RAxxは、小額消去に使用する費用勘定を指定します。xxコードは、UDC 03B/RCで定義され、小額消去の理由コード(BD(不良債権)など)を示します。

同じ費用勘定を使用する会社には、会社00000のデフォルトAAI項目を設定し、会社00000の費用勘定とは異なる勘定科目を使用する会社には、業種別にAAIを指定します。このAAIの設定時には、ビジネスユニットの指定を省略できます。「ビジネスユニット」フィールドを空白にすると、小額消去を行う請求書のビジネスユニットが使用されます。

割引実施額(RKDxxx)

AAI項目RKDxxx(xxxは入金または手形の割引理由コード)は、実施した割引を計上する勘定科目を定義します。次の階層に基づいて、適切なAAIが検索されます。

1. 入金または手形の対象となる請求書の会社のRKDxxx(xxxは割引理由コード)
2. 見つからない場合、会社00000のRKDxxx(xxxは割引理由コード)
3. 割引理由コードが空白の場合、入金または手形の対象となる請求書の会社のRKD
4. 請求書の会社に対してRKDが設定されていない場合、会社00000のRKD

このAAIは、割引を伴う入金または手形の転記時に作成される自動仕訳で使用されます。転記プログラムを実行するまで割引は計上されません。

同じ割引勘定を使用する会社には、会社00000のデフォルトAAI項目を設定し、それ以外の割引勘定を使用する会社には、業種別にAAIを指定します。このAAIの設定時には、ビジネスユニットの指定を省略できます。

延滞利息金 (RFCとRFD)

延滞利息金には、収益と売掛金を認識する、次の2つのAAIを使用します。

- RFC: 延滞利息金を適用する場合に貸方にする収益勘定を指定します。
- RFD: 延滞利息金を適用する場合に借方にする債権勘定を指定します。

最終モードで延滞利息金を作成すると、これらの勘定科目が借方と貸方に計上されます。

会社00000に対してデフォルトAAI項目のRFCとRFDを設定します。業種別に延滞利息金を記録する場合は、各会社個別のRFCとRFDを設定します。このAAIの設定時には、ビジネスユニットの指定を省略できます。

損金 (RN)

AAI項目RNは、請求額と合わない入金や不明な入金を一時的に計上する仮勘定を指定するのに使用できます。「ビジネスユニット」フィールドをブランクにすると、損金のある請求書のビジネスユニットが使用されます。

手形 (RD1xからRD5x)

AAI項目RD1xからRD5xは、手形の処理に使用します。異なる勘定科目を使用する会社については、手形AAIを業種別に設定してください。同じ勘定科目を使用する会社については、AAIを個別に設定する必要はありません。特定の会社のAAIが見つからない場合、会社00000のAAIが使用されます。

参照: 第 4 章、「受取手形の設定」、49ページ

相殺 (NC)

相殺のAAI項目 (NC) は、相殺決済取引が完了するまでの仮勘定として使用します。たとえば、クレジット・メモ (伝票タイプRM) 分を顧客に返金する場合には、払戻しの作成プログラム (R03B610) を実行します。システムによって次の処理が行われます。

1. (借) 売掛金 (RC) / (貸) 仮勘定 (NC)
2. (借) 仮勘定 (NC) / (貸) 買掛金 (PC)
3. (借) 買掛金 (PC) - 買掛金の支払時

費用勘定がないため、相殺勘定NCが費用勘定として使用されます。

手動相殺プログラム (P03B455) を使用した売掛金または買掛金の相殺処理の実行時にもこのAAIが使用されます。

売掛管理の支払条件の設定

支払条件は、支払期日を指定するためにJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムと売掛管理システムで使用されます。必要に応じて、割引率と割引期日も指定できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「支払条件の設定」

損金処理のための処理コードの設定

この項では、損金処理コードの概要と、その設定方法について説明します。

関連項目:

第 15 章、「損金処理」、「損金の調査および解決」、361ページ

損金処理コードについて

顧客から説明もなく請求額より少ない金額が入金されたり、破損品があったなどの理由で入金額が減額されたりする場合があります。顧客が差し引いた支払金額は損金と呼ばれます。

損金の調査と解決を行う前に、処理コードを追加して、損金の解決のためにシステム内で使用される処理のタイプを指定できます(システムでは回収管理者や与信管理者による顧客への対応を“活動”と呼びます)。

JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムにはデフォルトの処理コードが用意されています。しかし、組織のニーズにあわせて、追加のコードを設定することもできます。たとえば、追加の小額消去処理コードを設定して、特定の消込理由コードと関連付けることができます。

処理コードを使用して、次のような処理を実行できます。

- 調査タスクの監査証跡の作成
- 損金の解決

システム内の処理では、処理コードを使用して処理が損金に割り当てられます。各活動によってF03B41テーブルにレコードが作成されます。

損金処理コードは、F03B42テーブルに保存されます。

損金処理コードの設定に使用するフォーム




| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------|---------|--|---------------------------------------|
| 損金処理コードの入力 | W03B42B | 「与信/回収活動セットアップ」(G03B411)、「損金処理マスター」 「損金処理コードの処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | 損金処理コードを設定して、損金の解決に使用される処理のタイプを指定します。 |

損金処理コードの設定

「損金処理コードの入力」フォームにアクセスします。

損金処理マスター - 損金処理コードの入力

OK(O) 取消(L) ツール(T)

| | | |
|-----------|----------------------|--------------|
| 損金処理コード * | CB | |
| 記述 | Deduction Chargeback | |
| 備忘日数 | 0 | |
| 再請求理由コード | DA | 問題のある金額 |
| 小額消去理由コード | | |
| 割引理由コード | | デフォルト割引理由コード |

☐ 損金の取消
 ☐ 割引として処理
 ☐ クレジット・メモとして処理

「損金処理コードの入力」フォーム

損金処理コード

損金の解決に使用される、特定の指示を示すコードを入力します。このフィールドは必須です。

備忘日数

備忘日付の計算のために、システム内の処理で活動日に追加される日数を入力します。

再請求理由コード

入金入力中に請求書に対して再請求が生成された理由を示すコードを入力します。代表的な再請求理由コードは次のとおりです。

DA: 問題のある金額

DD: 無効割引(割引不可)額

注意: UDCテーブルでblankが定義されていても、ここではblankを値として使用できません。

小額消去理由コード

小額消去として処理する理由を示すコード。代表的な理由コードは次のとおりです。

BD: 不良債権

DC: 破損品

MW: 小額消去

TF: 未解決税額/運送費

損金の取消

このチェックボックスを選択すると、損金を取り消す活動が作成されます。作成した活動を使用すると、損金レコードはクローズされ、損金の金額分だけ請求書が未決済に戻ります。

割引として処理

このチェックボックスを選択すると、損金を割引として解決する活動が作成されます。

クレジット・メモとして処理

このチェックボックスを選択すると、損金とクレジット・メモを消し込む活動が作成されます。

注意: 「記述」、「備忘日数」、「再請求理由コード」、および「小額消去理由コード」の各フィールドを空白にして、「追加情報の要求」活動を使用して損金を解決することもできます。

第 3 章

顧客マスター情報の設定

この章では、顧客マスター情報の概要と、次の方法について説明します。

- 顧客マスター・レコードの入力
- 顧客マスター・カテゴリ・コードの割当
- 顧客マスター・レコードの改訂と削除
- カスタマ・セルフサービス・プログラムの利用

顧客マスター情報について

顧客マスター・レコードには、受注オーダー、売掛金取引、および与信と回収情報を処理するために必要な情報と指示が含まれています。たとえば、顧客マスター・レコードを使用して、顧客の与信限度額を設定したり、延滞通知を送付するかどうか、計算書を印刷するかどうかを指定できます。

顧客レコードに入力した情報は、次のテーブルに保存されます。

- 業種別顧客マスター (F03012)

特に指定しないかぎり、「顧客マスターの改訂」フォームに入力した情報はすべてこのテーブルに保存されます。

- 住所組織構造マスター (F0150)

顧客レコードに設定した親/子関係はこのテーブルに保存されます。

この章で使用する共通フィールド

顧客No.

自動採番 (P0002) で割り当てられた番号が表示されます。JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムの顧客を識別する番号です。

警告: 住所録レコードを作成する前にその顧客の住所録レコードがないことを確認してください。住所録レコードとそれに対応する取引を結合する機能はありません。

顧客マスター・レコードの入力

この項では、顧客マスター・レコードの概要と、次の方法について説明します。

- 顧客マスター情報 (P03013) の処理オプションの設定

- 顧客マスターMBF処理オプション(P0100042)の処理オプションの設定
- 顧客マスター・レコードの作成
- (ARG)アルゼンチン用顧客マスターの追加情報の入力
- (BEL)親会社の顧客情報の入力

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

第 6 章、「与信/回収管理の設定」、「顧客への与信/回収情報の割当」、106ページ

第 5 章、「自動入金処理の設定」、「自動入金処理のための顧客の設定」、83ページ

顧客マスター・レコードについて

商品やサービスに対する請求を顧客に行う前に、顧客マスター・レコードを入力する必要があります。各顧客マスター・レコードは、システムの中で住所録番号と呼ばれる番号で一意に識別されます。顧客マスター情報プログラム(P03013)を使って住所録レコードを直接入力するか、または住所録プログラム(P01012)を使用できます。顧客マスター・レコードを入力する前に、顧客の住所録レコードが設定されている必要があります。

顧客マスター・レコードを入力する際には、次の情報を指定します。

- 請求書と手動入金処理の情報
- 勘定科目情報
- 自動入金処理の情報
- 税情報
- 通貨情報
- 受注オーダーを処理するための請求情報および出荷情報
- 与信および回収情報
- 受注オーダーを電子的に処理するための電子データ交換(EDI)情報
- カテゴリ・コード情報

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 業種別処理に関する情報を検討して、顧客情報を会社別に設定する必要があるかどうかを決定します。
- (ARG)住所録追加情報の(P760101A)の処理オプションを設定します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定」、「売掛管理固定情報の設定」、6ページ

顧客マスター情報の入力と改訂に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|---|-----------|---|---|
| 顧客マスターの処理 | W03013A | 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「顧客マスター情報」 | <ul style="list-style-type: none"> 顧客マスター・レコードの検索と削除を行います。 検討および改訂対象の顧客マスター・レコードを選択します。 |
| 顧客マスターの改訂 | W03013B | 「顧客マスターの処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | 顧客マスター・レコードの作成と改訂を行います。 |
| A/B Additional Information - Revision | W760101AB | <p>「顧客マスターの改訂」フォームで、標準顧客レコードを入力するステップを実行し、「OK」をクリックします。</p> <p>ユーザー優先情報にAR (アルゼンチン) のローカライゼーション国コードが含まれる場合、このフォームが表示されます。</p> | <p>アルゼンチンの顧客に関する国別の情報を入力します。</p> <p>アルゼンチンの顧客情報は、住所録タグ・テーブル - ARG 04 テーブル (F760101A) に保存されます。</p> |
| A/B Withholding Information - Revision | W760101AC | 「A/B Additional Information - Revision」フォームで、「OK」をクリックします。 | アルゼンチンの顧客に関する源泉徴収税の情報を入力します。 |
| 住所の処理 | W01012B | 「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」 | <ul style="list-style-type: none"> 住所録レコードの検索と削除を行います。 改訂対象の住所録レコードを選択します。 |
| 住所録の改訂 | W01012A | 「住所の処理」フォームで親にする顧客を選択し、「ロー」メニューから「住所録の改訂」を選択します。 | 複数の住所に同じ消費税登録番号が設定されている場合に、親に設定する顧客を指定します。このコードにより、特定の住所に対するすべての売上情報と消費税情報が指定され、レポートに印刷されます。 |

顧客マスター情報 (P03013) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

入力

この処理オプションでは、「顧客マスターの改訂」フォームで「税ID」フィールドを表示するかどうかを指定します。「税ID」フィールドをグレー表示 (入力不可) に指定することもできます。

1. 税ID

顧客レコードの追加時に「税ID」フィールドを表示するかどうかを指定します。このフィールドを非表示にすることもできます。非表示にすると、入力できません。値は次のとおりです。

ブランク: 「税ID」フィールドを表示する。

- 1: 「税ID」フィールドを表示しない。
- 2: 「税ID」フィールドをグレー・アウトする(入力不可)。

デフォルト値

この処理オプションでは、「検索タイプ」および「住所録通貨コード」フィールドに割り当てるデフォルト値を指定します。

- 1. 検索タイプ**
「顧客マスターの処理」フォームの「検索タイプ」フィールドのデフォルト値を指定します。虫眼鏡ボタンをクリックすると、使用できる検索タイプを表示できます。空白にすると、* (アスタリスク) がデフォルト値として使用され、すべての住所録レコードが検索されます。
- 2. 通貨コード**
「住所録通貨コード」フィールドのデフォルト値を指定します。この処理オプションを空白にした場合は、「顧客マスターの改訂」フォームの「住所録通貨コード」フィールドを空白にすると、「住所録の改訂」フォームの「ビジネスユニット」フィールドに割り当てられている会社の通貨コードが使用されます。

「住所録通貨コード」フィールドを「顧客マスターの改訂」フォームに表示するには、一般会計固定情報プログラム (P0000) で多通貨の設定を有効にする必要があります。

顧客マスターMBFバージョン

この処理オプションでは、使用するプログラムのバージョンを指定します。

- 1. 顧客マスターMBF (P0100042) バージョン**
使用する顧客マスターMBF処理オプション・プログラム (マスター・ビジネス関数) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルトのバージョンZJDE0001が使用されます。
- 2. 住所録 (P01012) バージョン**
使用する住所録プログラム (P01012) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルトのバージョンZJDE0001が使用されます。

顧客マスターMBF処理オプション (P0100042) の処理オプションの設定

顧客マスター・レコードのカテゴリ・コードに入力した値を住所録の対応するカテゴリ・コードに自動的に追加するには、顧客マスターのマスター・ビジネス関数 (MBF) (P0100042) の処理オプションを設定する必要があります。この処理オプションは、新しい住所録レコードを入力する際にカテゴリ・コードの値を追加した場合にのみ機能します。

顧客マスター・レコードのカテゴリ・コードは、住所録レコードにはコピーされません。

住所録レコードがすでにある場合、新規または変更されたカテゴリ・コードの値はコピーされません。住所録カテゴリ・コードの変更を顧客マスター・レコードに反映するには、カテゴリ・コードから顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピー・プログラム (R01050) を実行する必要があります。

住所録カテゴリ・コードは、住所録マスター (F0101) に保存されます。顧客マスター・カテゴリ・コードは、業種別顧客マスター (F03012) に保存されます。

送信

この処理オプションでは、送信インタオペラビリティ処理を使用する際のレコードの検索および書込方法を指定します。

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. トランザクション・タイプ | インタオペラビリティ機能を使う場合のトランザクション・タイプを指定します。空白にした場合、送信インタオペラビリティ処理は実行されません。 |
| 2. 変更トランザクションの書込み | 変更するトランザクションについて、変更前トランザクションを書き込むかどうかを指定します。変更前トランザクションとは変更前に書き込まれたレコードのことです。これに対し、変更後トランザクションとは変更後に書き込まれたレコードのことです。値は次のとおりです。 空白: 変更後トランザクションのみ書き込む。 1: 変更前後の両方のトランザクションを書き込む。 |

デフォルト

この処理オプションでは、住所録レコードに追加したカテゴリ・コードの値を自動的に顧客レコードに反映するかどうかを指定します。

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. デフォルトのカテゴリ・コード | 顧客レコードのカテゴリ・コードのデフォルト値を住所録レコードのカテゴリ・コードから取り込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。 空白: 住所録レコードからデフォルト値を取り込まない。 1: 住所録レコードからデフォルト値を取り込む。 |
|--------------------------|---|

注意: 顧客レコードのデフォルト・カテゴリ・コードを住所録レコードから取り込むことができるのは、住所録レコードを新規に追加する場合のみです。既存の住所録レコードのカテゴリ・コードの値を変更しても、顧客レコードには反映されません。

顧客マスター・レコードの作成

「顧客マスターの改訂」フォームにアクセスします。

顧客マスター情報 - 顧客マスターの改訂

顧客マスターの処理 顧客マスターの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

顧客No. 3555

詳細住所No.

会社番号 00000

タブを選択: 1-請求書

支払条件 Net 30 Days ☐ 請求書保留

支払手段 デフォルト 請求書送付先 C 顧客名 (AN8)

代替支払人 3555 Pro Bike Shop

親住所No.

☐ 自動入金(Y/N) 自動入金実行リスト

通貨コード

住所録通貨コード USD U.S. Dollar 最低入金率 0

「顧客マスターの改訂」フォーム

顧客No. 指定した顧客の名前がフィールドの横に表示されます。顧客名のリンクをクリックすると、その顧客の「住所録の改訂」フォームが表示されます。

詳細住所No. 住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この詳細住所番号を使って顧客レコードを検索したり請求書を入力するには、住所録固定情報で定義した記号を詳細住所番号の前に付けます。入力または照会プログラムで、詳細住所番号が顧客の住所録番号に自動的に変換されます。

会社番号 顧客マスターのデフォルト情報を適用する会社を指定します。請求書の入力や与信/回収情報の処理では、会社別に設定した情報が使用されます。会社に対して顧客マスター・レコードを設定しない場合は、会社00000に対して定義した情報が使用されます。特定の会社の顧客マスターの情報を追加するときに、会社00000に情報が存在しない場合は、会社00000の顧客マスター・レコードが自動的に作成され、その特定の会社に対して入力した情報が使用されます。

請求書

「請求書」タブを選択します。

支払条件

顧客のデフォルトの支払条件を示すコードを入力します。支払条件により、支払期日、割引額、割引期日が決まります。これらは、請求書の作成時に自動的に割り当てられます。最も頻繁に使用する支払条件にはブランク・コードを設定してください。支払条件には次のようなものがあります。

| | |
|--------|--|
| | <p>ブランク: 15日以内支払</p> <p>1: 30日以内支払(10日以内に支払った場合1%割引)</p> <p>2: 30日以内支払(10日以内に支払った場合2%割引)</p> <p>D: 受取時払い</p> <p>N: 30日以内支払</p> <p>P: 毎月25日</p> |
| 支払手段 | <p>顧客のデフォルトの支払手段を示すユーザー定義コード(00/PY)を入力します。支払手段を使用して、顧客による支払方法を指定します。次に例を示します。</p> <p>C: 小切手</p> <p>D: 手形</p> <p>T: 電子資金決済</p> <p>この情報は、請求書の入力時にデフォルト値として使用されます。</p> |
| 請求書送付先 | <p>請求書に印刷する請求先の名前と住所を示すコードを入力します。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>C: 顧客番号(AN8)。</p> <p>N: 印刷しない。JD Edwards EnterpriseOne不動産管理システム(15)ではこの値は無視され、請求レコードまたは賃貸契約からの「請求書の印刷」フィールド(INVP)の値が使用されます。</p> <p>P: 親番号(PA8)。</p> <p>R: 支払人(PYR)。</p> <p>1: 第1住所番号(AN81)。</p> <p>2: 第2住所番号(AN82)。</p> <p>3: 第3住所番号(AN83)。</p> <p>4: 第4住所番号(AN84)。</p> <p>5: ファクタ/代替受取人(AN85)。</p> <p>6: 第5住所番号(AN86)。</p> <hr/> <p>注意: 代替受取人フィールドで顧客レコードに設定する“支払人”を除き、各コードは住所録レコードで設定する関連住所情報に対応しています。</p> <p>タイプB(請求)で設定した人名録レコードがある場合、請求先の名称は、人名録レコードから取り込まれます。</p> <hr/> |
| 請求書保留 | <p>請求書の手動入力を不可にする場合に選択します。選択した場合、スピード請求書入力(P03B11SI)または標準請求書入力(P03B11)プログラムを使用して請求書を入力しようとすると、エラー・メッセージが表示されます。</p> <p>請求書をJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで作成する場合、このフィールドは無視されます。</p> |
| 代替支払人 | <p>顧客に対して入力する売掛金元帳レコード(F03B11)の支払人番号フィールド(PYR)に割り当てられた個人または会社の住所番号を入力します。ブランクの場合、顧客の番号が支払人として割り当てられます。</p> |

顧客への請求書の入力後にこのフィールドの値を変更した場合は、住所録からの売掛金元帳の更新プログラム(R03B802)を実行して請求書レコードの値を更新する必要があります。この値は、入金入力プログラムまたは手形入力プログラムの「支払人」フィールド(ALKY)のデフォルトとしては使用されません。ただし、この支払人の値を使用して支払の請求書レコードを選択できます。

親住所No.

顧客の親会社の住所録番号を入力します。請求書や計算書、延滞通知を印刷する場合に、複数の顧客を1つの親会社に関連付けて、取引を確認できます。

自動入金(Y/N)

自動入金処理プログラムを使用してJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムで顧客の入金を処理対象にする場合に選択します。

注意: 自動入金処理を実行するには、売掛管理固定情報で、顧客と会社の両方についてこのオプションを選択しておく必要があります。

自動入金実行リスト

自動入金処理中に顧客に対して実行されるアルゴリズムの順序を指定する実行リストの名称を入力します。

通貨コード

顧客に対して入力する請求書に自動的に割り当てられるデフォルトの通貨を示すコードを入力します。この値は、請求書の入力時に変更できます。このフィールドを空白にしておき、各取引の通貨コードを自分で割り当てることもできます。

住所録通貨コード

住所録に保存されている金額の通貨コードを入力します。たとえば、与信限度額や今年度請求額、前年度請求額などの金額が対象となります。ここで指定する通貨コードは、トランザクション履歴の記録や保存に使用されます。このフィールドを空白にすると、処理オプションの「通貨コード」で指定されている値が使用されます。この処理オプションを空白にした場合は、「住所録の改訂」フォームの「ビジネスユニット」フィールドに割り当てられた会社の通貨コードが使用されます。

最低入金率

入金後支払グループの支払済請求書が達する必要があるしきい値をパーセントで入力して、どの時点で対応する支払用伝票を自動的にリリースするかを指定します。0から100までの整数を入力します。

注意: このフィールドを空白にした場合、または「0」を入力した場合は、入金金額にかかわらず、少なくとも1回の現金入金が入金後支払グループの請求書に対して消し込まれているときに、入金後支払自動リリース・プログラム(R03B470)を実行すると、入金後支払グループに関連付けられた伝票が自動的にリリースされます。

勘定科目情報

「勘定科目情報」タブを選択して、デフォルトの勘定科目情報を入力します。

相手勘定

請求書の転記時に相手勘定として使用する売掛金勘定を決定するコードを入力します。AAI項目RCとこの値を組み合わせ、売掛金勘定が検索されます。たとえば、相手勘定に「TRAD」と入力すると、AAI項目RCとTRADが検索され、相手勘定に使用される売掛金勘定が特定されます。このフィールドの値には英数字を使用できます。または、主科目と同じコードを使用することもできます。このフィールドを空白にすると、RCに設定された売掛金勘定が使用されます。

入金入力や手形入力プログラムの処理オプションで未充当金の使用を指定すると、このフィールドの相手勘定を使って勘定科目が検索されます。処理オプションで指定されていない場合は、RCUCで設定された勘定科目が使用されます。

取引入力時にこのフィールドの値を上書きすることができます。

注意: 元帳クラスに9999は使用しないでください。この値は、転記プログラムの予約コードで、仕訳を作成しないように設定されています。

**モデル仕訳伝票タイプ
/No./会社**

顧客に対して使用するモデル仕訳を入力します。

モデル仕訳を指定する場合は、デフォルトの勘定科目コードを指定しないでください。両方指定してもデフォルトの勘定科目は無視され、モデル仕訳が使用されます。

勘定科目コード

請求書の入力時にデフォルトの収益勘定として使用される総勘定元帳の勘定科目を入力します。勘定科目は、標準形式(ビジネスユニット、主科目、補助科目)で入力する必要があります。その他の形式で入力しても認識されません。

モデル仕訳とデフォルトの勘定科目コードを入力した場合、モデル仕訳が使用されます。

(ARG)アルゼンチン用顧客マスターの追加情報の入力

「A/B Additional Information – Revision」フォームにアクセスします。

**A/B Legal Document Type
– Argentina**

顧客の法的文書タイプ(CUIT、DNI、DNRPなど)を入力します。

Tax ID

顧客のIDコードを入力します。TAXC(個人/法人コード)の値に応じて、番号が検証され、区切り文字が適切なフォーマットで印刷されます。TAXCの値が存在しない場合は、法人が使用されます。

**Profit Withholding Concept
– Argentina**

請求書の入力時にデフォルトとして使用される概念を入力します。

(BEL)親会社の顧客情報の入力

ベルギー当局では、四半期および年度レポートにおいて消費税登録番号ごとに1つの消費税リストのみを許可しています。JD Edwards EnterpriseOneシステム内で複数の顧客が同じ消費税登録番号を持つ場合、親会社はすべての顧客に関する集計情報をベルギー当局に報告する必要があります。

「住所録の改訂」フォームにアクセスします。

税申告者ID(個人)

このフィールドには「2」を入力します。これにより、同じ消費税番号を持つ複数の顧客のすべての売上および消費税情報がこの親顧客レコードの一部として報告されます。

顧客マスター・カテゴリ・コードの割当

この項では、顧客マスター・カテゴリ・コード、住所録からのカテゴリ・コードの自動更新、有効日付カテゴリ・コード、有効日付カテゴリ・コードの更新プログラム、および有効日付カテゴリ・コードの削除の概要と、次の方法について説明します。

- 住所録のカテゴリ・コードによる顧客マスターの更新
- 顧客マスター・カテゴリ・コードの追加
- 有効日付カテゴリ・コードの追加
- 有効日付カテゴリ・コードによる顧客マスター・レコードの更新
- 有効日付カテゴリ・コードの更新 (R03012A) のデータ選択とデータ順序の設定
- 有効日付カテゴリ・コードの更新 (R03012A) の処理オプションの設定
- 有効日付カテゴリ・コードの除去
- 有効日付カテゴリ・コードの除去 (R03012B) の処理オプションの設定

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Foundation Guide

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの設定」、「カテゴリ・コードの設定」

顧客マスター・カテゴリ・コードについて

カテゴリ・コードは、システム処理とレポート作成用に顧客マスター・レコードをグループにまとめる目的で使用します。たとえば、顧客に特定の地域を示すカテゴリ・コード値を割り当て、計算書または請求書の処理のためにそれらの顧客を選択できます。

顧客マスター・レコードにカテゴリ・コードを割り当てるには、3つの方法があります。

| 方法 | 用途 |
|--|---|
| 「顧客マスターの改訂」フォームの「フォーム」メニューを使ってカテゴリ・コードを追加する | 「フォーム」メニューの「カテゴリ・コード」を選択して、いつでも顧客マスター・レコードにカテゴリ・コードを手動で追加できます。 |
| 住所録から自動的にカテゴリ・コードを更新する | 顧客マスターMBF処理オプション・プログラム (P0100042) の処理オプションを設定すると、住所録レコードに入力したカテゴリ・コードの値で顧客マスター・レコードが更新されます。この更新は、住所録レコードを追加した場合にのみ行われます。 住所録カテゴリ・コードの値の変更を顧客マスター・レコードに反映するには、顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピー・プログラム (R01050) を実行する必要があります。 |
| 有効日付カテゴリ・コードを入力して、有効日付カテゴリ・コードの更新プログラム (R03012A) を実行する | 有効日付カテゴリ・コードを使用する場合、バッチ・アプリケーションを実行して、その値で顧客マスター・レコードを更新する必要があります。 |

顧客マスター・レコードには最高30個のカテゴリ・コード値を割り当てることができます。

注意: 請求書を入力すると、顧客マスター・レコードの最初の10個のカテゴリ・コードが、売掛金元帳 (F03B11) の請求書レコードの対応するカテゴリ・コードのフィールドにコピーされます。請求書の入力後に顧客マスター・カテゴリ・コードの値を追加または変更した場合は、住所録からの売掛金元帳の更新プログラム (R03B802) を実行して、請求書のカテゴリ・コードの値を更新する必要があります。

住所録からのカテゴリ・コードの自動更新について

住所録カテゴリ・コードに対して行った変更と顧客マスター・カテゴリ・コードの同期を保つには、顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピー・プログラム (R01050) を実行する必要があります。これにより、住所録カテゴリ・コードの値が顧客マスター・レコードの対応するカテゴリ・コードにコピーされます。業種別処理を使用している場合は、データ選択で会社を指定しないかぎり、すべての会社の全顧客マスター・レコードにカテゴリ・コードがコピーされます。

処理オプションを使用して、更新するカテゴリ・コードを指定できます。また、データ選択を使用して、更新する顧客マスター・レコードを絞り込むことができます。

すでに入力済の請求書のカテゴリ・コードの値を更新するには、住所録からの売掛金元帳の更新プログラム (R03B802) を実行する必要があります。

有効日付カテゴリ・コードについて

将来の日付で有効になるカテゴリ・コードの値を新規に割り当てる場合には、有効日付カテゴリ・コードを使用します。価格管理システム (45) を使用している場合は、この有効日付カテゴリ・コードを使って、価格を割り当てる顧客グループを作成できます。価格設定が変更されるたびに、新しいカテゴリ・コードの値に基づいて顧客グループが自動的に更新されるようにすることができます。

有効日付カテゴリ・コードを有効にするには、売掛管理固定情報で設定を行います。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定」、「拡張売掛管理固定情報の設定」、9 ページ

この設定を行うときには、「顧客マスターの改訂」フォームで「フォーム」メニューから「カテゴリ・コード」を選択してカテゴリ・コードの値は追加できません。かわりに「有効日付カテゴリ」を選択してください。有効日付カテゴリ・コードに入力した値を顧客マスターのカテゴリ・コードに反映するには、有効日付カテゴリ・コードの更新プログラム (R03012A) を実行します。

有効日付カテゴリ・コードの値を変更すると、「有効日フラグ」フィールドは「N」に更新されます。有効日付カテゴリ・コードの更新プログラム (R03012A) を実行するまで、新しいカテゴリ・コードの値は顧客マスターに反映されません。入力済の請求書に新しいカテゴリ・コードの値を表示するには、住所録からの売掛金元帳の更新プログラム (R03B802) を実行する必要があります。

有効日付カテゴリ・コードを削除して有効日付カテゴリ・コードの更新プログラムを実行しても、カテゴリ・コードの値はブランクになりません。値を削除するには、その値をブランクにした後で更新プログラムを実行する必要があります。有効日付カテゴリ・コードは、削除すると、システム内から完全に消去されます。

有効日付カテゴリ・コードは、顧客有効日付カテゴリ・コード・テーブル (F03012A) に保存されます。有効ではなくなったカテゴリ・コードを削除するには、有効日付カテゴリ・コードの除去プログラム (R03012B) を実行します。

有効日付カテゴリ・コードを追加すると、顧客有効日付カテゴリ・コード・テーブル (F03012A) にレコードが作成されます。「有効日付カテゴリ・コードの改訂」フォームでは、有効日付が異なる複数のレコードを同時に入力できます。有効日付カテゴリ・コードのレコードを追加すると、そのレコードの「有効日付フラグ」フィールドは、レコードが未使用であることを示す「N」に更新されます。有効日付カテゴリ・コードの更新プログラムを実行すると、有効日付カテゴリ・コード・レコードの値が業種別顧客マスター (F03012) の顧客レコードのカテゴリ・コードにコピーされ、有効日付使用フィールドは「Y」に更新されます。

重要: 有効日付カテゴリ・コードのレコードを入力する際、入力するレコードと前のレコードとの関連性はありません。このため、各レコードには必要なすべての情報を入力する必要があります。たとえば、カテゴリ・コード1にはあらかじめ値が設定されている場合に、カテゴリ・コード2に値を設定して新しいレコードを追加するとします。この場合、その新しいレコードにカテゴリ・コード1の値をもう一度入力する必要があります。そうしなければ、新しいレコードのカテゴリ・コード1はブランクになります。

有効日付カテゴリ・コードの更新プログラムについて

有効日付カテゴリ・コードを追加した後は、有効日付カテゴリ・コードの更新プログラム (R03012A) を実行して、入力した値を顧客有効日付カテゴリ・コード・テーブル (F03012A) から業種別顧客マスター (F03012) にコピーする必要があります。

このプログラムを実行すると、処理オプションに入力した日付とカテゴリ・コードに対して入力した有効日が比較されます。処理オプションの日付が有効日付と同じか後の場合、顧客レコードのカテゴリ・コードの値が更新され、「有効日付フラグ」フィールドは「Y」に更新されます。

次の表は、「有効日付フラグ」フィールドの値の意味を示しています。

| 有効日付フラグ | 説明 |
|---------|---|
| N | 新しいカテゴリ・コード・レコードが入力されたか、または既存のレコードが変更され、有効日付カテゴリ・コードの更新プログラムはまだ実行されていない。顧客マスター・レコードは、このカテゴリ・コードの値にまだ更新されていない。 |
| Y | 有効日付カテゴリ・コードの更新プログラムがすでに実行されており、顧客マスター・レコードは表示されているすべての値に更新済。 |

また、更新された顧客マスター・レコードとその新しい値を示すレポートも作成されます。

新しい有効日付カテゴリ・コードが使用された場合、以前使用されたカテゴリ・コードの「有効日付フラグ」フィールドは「N」に変更されません。これにより、過去に行われた更新の履歴が残ります。有効日付カテゴリ・コードは、除去プログラムを実行するまでシステムで保持されます。

すでに入力済の請求書のカテゴリ・コードの値を更新するには、住所録からの売掛金元帳の更新プログラム (R03B802) を実行する必要があります。

有効日付カテゴリ・コードの除去について

カテゴリ・コード・レコードが有効ではなくなった場合は、有効日付カテゴリ・コードの除去プログラム (R03012B) を実行してシステムから削除できます。このプログラムを実行すると、次の条件を満たすカテゴリ・コードがすべて削除されます。

- 「有効日付フラグ」フィールドの値が「Y」。

- ・ カテゴリ・コード・レコードの有効日付が除去プログラムの処理オプションで指定した日付と同じかそれより前。
- ・ カテゴリ・コード・レコードが現在有効でない。

たとえば、有効日付が2008年6月1日と15日の2件のカテゴリ・コード・レコードがある場合に、2008年6月30日を使って除去プログラムを実行すると、6月15日のレコードはまだ有効であるため削除されません。6月1日のレコードはもう有効ではないため削除されます。

また、削除された顧客番号とカテゴリ・コード・レコードのレポートが作成されます。カテゴリ・コード・レコードは、F03012Aテーブルから削除されます。

顧客マスター・カテゴリ・コード値の割当に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-----------------|----------|--|--|
| 顧客マスターの処理 | W03013A | 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「顧客マスター情報」 | 既存の顧客マスター・レコードにアクセスします。 |
| 顧客マスターの改訂 | W03013B | 「顧客マスターの処理」フォームで、顧客を選択して「選択」をクリックします。 | 各顧客マスター・レコードの確認または変更を行います。 |
| カテゴリ・コード | W03013D | 「顧客マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「カテゴリ・コード」を選択します。 | カテゴリ・コードを顧客マスター・レコードに手動で追加します。 注意: 「フォーム」メニューの「カテゴリ・コード」が使用不可になっている場合は、「拡張売掛管理固定情報」フォームの「有効日付カテゴリ・コード」が選択されています。 |
| 有効日付カテゴリ・コードの改訂 | W03012AA | 「顧客マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「有効日付カテゴリ」を選択します。 | 有効日付カテゴリ・コードを顧客マスター・レコードに追加します。 このフォームにアクセスする前に、「拡張売掛管理固定情報」フォームの「有効日付カテゴリ・コード」オプションが選択されていることを確認してください。 |

住所録のカテゴリ・コードによる顧客マスターの更新

「住所録上級/技術的操作」メニュー (G0131) から「顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピー」を選択します。

顧客マスター・カテゴリ・コードの追加

「カテゴリ・コード」フォームにアクセスします。

顧客マスター情報 - カテゴリ・コード

OK(O) 取消(L) ツール(T)

顧客No. 3001 Global Enterprises

会社番号 00000

カテゴリ・コード1-14 カテゴリ・コード 15-30

| | | | | | |
|------------|-----|-------------|------------|-----|----------|
| カテゴリ・コード01 | 100 | ブエノスアイレス事業所 | カテゴリ・コード08 | | . |
| カテゴリ・コード02 | | . | カテゴリ・コード09 | 456 | 付加価値再販業者 |
| カテゴリ・コード03 | 350 | 部門 6 | カテゴリ・コード10 | | . |
| 地域 | | . | カテゴリ・コード11 | | . |
| カテゴリ・コード05 | | . | カテゴリ・コード12 | | . |
| カテゴリ・コード06 | | . | カテゴリ・コード13 | | . |
| カテゴリ・コード07 | | . | カテゴリ・コード14 | | . |

「カテゴリ・コード」フォーム

カテゴリ・コード01 から カテゴリ・コード30

レポートや宛名ラベルなどの作成に使用する住所録レコードをグループ化するコードを入力します。カテゴリ・コードは、ユーザー定義コード(システム01、タイプ01から30)です。次のようなカテゴリ・コードがあります。

カテゴリ・コード01: 所在地または事業所

カテゴリ・コード02: 販売担当者

カテゴリ・コード03: 製品

カテゴリ・コード04: 信用調査係

有効日付カテゴリ・コードの追加

「有効日付カテゴリ・コードの改訂」フォームにアクセスします。

有効日付

入力したカテゴリ・コードの値が有効になる日付を入力します。カテゴリ・コードの値は、有効日付カテゴリ・コードの更新プログラムを実行すると、業種別顧客マスター(F03012)に反映されます。

注意: 有効日付カテゴリ・コードの更新プログラムを実行してプログラムの条件を満たすまでは、「有効日付フラグ」フィールドは「N」になります。

有効日付カテゴリ・コードによる顧客マスター・レコードの更新

「住所録上級/技術的操作」メニュー(G0131)から「有効日付カテゴリ・コードの更新」を選択します。

有効日付カテゴリ・コードの更新 (R03012A) のデータ選択とデータ順序の設定

このプログラムには、次のデータ選択があらかじめ設定されています。

BC EFTF (有効日付フラグ) が Y と等しくない

この選択は変更したり削除したりしないでください。選択条件を追加することは可能です。

このプログラムには、次のデータ順序があらかじめ設定されています。

1. 住所番号
2. 会社
3. 有効開始日付

データ順序は変更しないでください。

有効日付カテゴリ・コードの更新 (R03012A) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト基準日

この処理オプションでは、有効日付カテゴリ・コードの更新に使用するデフォルト日付を指定します。

1. 基準日
有効日付カテゴリ・コード・レコードの検索に使用する日付を指定します。顧客レコードのカテゴリ・コードは、有効日付カテゴリ・コード・レコードに指定された値に更新されます。入力した日付以前のレコードが検索されます。この処理オプションをブランクにすると、現行のシステム日付が使用されます。

有効日付カテゴリ・コードの削除

「住所録上級/技術的操作」メニュー (G0131) から「有効日付カテゴリ・コードの除去」を選択します。

有効日付カテゴリ・コードの除去 (R03012B) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト日付

この処理オプションでは、有効日付カテゴリ・コード・レコードを選択するのに使用する日付を指定します。

1. 基準日
顧客有効日付カテゴリ・コード・テーブル (F03012A) からレコードを削除する際に使用する日付を指定します。入力した日付以前のレコードで、現在有効ではないすべてのレコードが削除されます。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。

顧客マスター・レコードの改訂と削除

この項では、顧客マスター・レコードの改訂と削除の概要について説明します。

顧客マスター・レコードの改訂について

顧客マスター情報はいつでも変更できます。売掛管理システムでは、顧客マスターの情報をスピーディに変更できるように、顧客マスター・レコードに直接アクセスするための「フォーム」メニューが多くのフォームに備わっています。

請求書が入力済の場合は、顧客マスター・レコードを改訂する前に、次の点に留意する必要があります。つまり、請求書を入力すると、F03B11テーブルにレコードが作成され、顧客マスター・レコードから様々なタイプの顧客情報が保存されます。このため、顧客マスターの次の情報を変更した場合は、住所録からの売掛金元帳の更新プログラム(R03B802)を実行するまで、請求書にはその変更は反映されません。

- 代替支払人
- 親番号
- 請求書送付先
- 計算書送付先
- 計算書の印刷
- 回収レポート
- カテゴリ・コード1から10

また、住所録レコード内の名称を変更した場合は、住所録からの売掛金元帳の更新プログラムを実行してその名称を請求書に反映させる必要があります。住所録レコード内の名称は、作成する請求書や計算書に印刷されるため、R03B802プログラムは頻繁に実行してください。

顧客マスター・レコードの削除について

顧客マスター・レコードを削除すると、次のテーブルにその顧客のトランザクションがないかどうかを検証されます。トランザクションが1つでもある場合、その顧客マスター・レコードは削除できません。まず、次のテーブルからレコードを削除した後、顧客マスター・レコードを削除してください。

| テーブル | 記述 |
|---------|------------------------------|
| F0150 | 住所組織構造マスター |
| F03B11 | 売掛金元帳 |
| F03B13 | 入金見出し |
| F03B29 | 信用保険 |
| F0411 | 買掛金元帳 |
| F060116 | 従業員マスター情報 |
| F08901 | 参加者ファイル |
| F0911 | 取引明細 |
| F0902 | 勘定残高(住所録番号が補助元帳として使用されている場合) |
| F1501B | 賃貸契約マスター見出し |

| テーブル | 記述 |
|-------|-------------------|
| F1797 | サービス/ワランティ管理住所録情報 |
| F4013 | オーダー処理相互参照 |
| F4102 | 事業所品目 |
| F4211 | 受注オーダー明細 |
| F4311 | 購買オーダー明細 |
| F4801 | 作業オーダー・マスター |
| F5201 | 契約マスター |

転記済の請求書や受注オーダーが存在するために顧客マスター・レコードを削除できない場合は、次の方法で取引を入力できないようにすることができます。

- ・ 請求書: 「顧客マスターの改訂」フォームの「請求書保留」フィールド(HDAR)を選択して、その顧客に対して新しい請求書を入力できないようにします。
- ・ 受注オーダー: 「請求情報」フォームの「オーダー保留コード」フィールドを更新して、受注オーダーを入力できないようにします。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「顧客情報の設定」、「顧客請求指示の設定」

顧客レコードを削除すると、F03012テーブル以外に、次で示すテーブルからもレコードが削除されます。

| テーブル | 記述 |
|--------|----------------|
| F0030 | 銀行/支店マスター |
| F0101 | 住所録マスター |
| F01092 | 補足データベース - コード |
| F01093 | 補足データベース - 説明 |
| F0111 | 住所録 - 人名録 |
| F0115 | 住所録 - 連絡先電話番号 |
| F0116 | 日付別住所 |
| F01815 | 住所録語句検索マスター |
| F0401 | 仕入先マスター |

カスタマ・セルフサービス・プログラムの利用

この項では、カスタマ・セルフサービス・プログラムの概要と、その使用方法について説明します。

カスタマ・セルフサービス・プログラムについて

カスタマ・セルフサービス・プログラム (P03013SS) を使用すると、顧客自身が顧客マスター情報をオンラインで確認でき、与信限度額の変更をリクエストできます。顧客は、次の顧客マスター・レコードの情報を確認できます。

- 税
- 請求書
- 与信
- 回収
- 請求

顧客がカスタマ・セルフサービス・プログラムを使用して与信限度額の変更をリクエストすると、割り当てられた与信管理者にワークフロー・メッセージが送信されます。与信管理者は、そのリクエストを承認または却下します。リクエストが承認された場合、それに応じて、顧客マスター・レコードの与信限度額が更新されます。

与信限度額変更の承認 (CREDLIMIT) ワークフローにより、顧客によって与信限度額の変更がリクエストされ、承認が必要であることを通知するメッセージが与信管理者に送信されます。このメッセージが送信されるようにするには、次の設定タスクを実行する必要があります。

- 顧客に対する与信管理者の割当
- その与信管理者に有効な住所録番号が設定されていることの確認
- 住所録の改訂プログラムの「電子メール/インターネットの改訂」フォームで、その与信管理者の内部アドレスを追加
- CREDLIMITワークフローのアクティブ化

顧客に与信管理者を割り当てていない場合、「与信限度額の変更を要求」ボタンは使用不可になり、顧客による変更のリクエストは行えません。与信管理者は割当済で、CREDLIMITワークフローをアクティブにしていない場合は、通知のみのワークフロー・メッセージが該当する与信管理者に送信されます。このメッセージは、顧客が与信限度額の変更をリクエストしたという情報のみを与信管理者に通知するだけで、承認要求は通知されません。与信管理者に内部アドレスが設定されていない場合は、「電子メール/インターネットの改訂」フォームで該当する与信管理者に対して設定されている電子メール・アドレスに通知メッセージが送信されます。

参照: [第 6 章、「与信/回収管理の設定」、「顧客への与信/回収情報の割当」、106 ページ](#)

参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」、「人名録レコードへの電子メール/インターネット・アドレス情報の追加」

参照: [第 6 章、「与信/回収管理の設定」、「与信/回収のワークフロー・メッセージの有効化」、111 ページ](#)

カスタマ・セルフサービスによる顧客マスター情報の更新に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|--------------|-----------|---|----------------------------------|
| カスタマ・セルフサービス | W03013SSA | 「セルフサービス・アプリケーション」(4/G01101)、「カスタマ・セルフサービス」 | 顧客マスター情報の確認と与信限度額の変更要求を行います。 |
| 与信限度額 | W03013SSC | 「カスタマ・セルフサービス」フォームで「与信限度額の変更を要求」ボタンをクリックします。 | 与信限度額の変更額を入力します。 |
| 送信メッセージ | W03013SSB | 「与信限度額」フォームで「要求与信限度額」フィールドに金額を入力し、「OK」をクリックします。 | 「OK」をクリックして、与信限度額の変更リクエストを送信します。 |

カスタマ・セルフサービス・プログラムの利用

「カスタマ・セルフサービス」フォームにアクセスします。

カスタマ・セルフサービス - カスタマ・セルフサービス

閉じる(L)

会社名:

AB Common

住所録No.:

1001

税情報

税IDタイプ

税目コード

税ID

追加税ID

66595263000170

492 028 480 114

請求書情報

支払条件

親

代替支払人

通貨コード

請求書送付先

Fixed Date Payment Term

U.S. Dollar

AB Common

AB Common

与信情報

与信限度額

顧客レコード作成日付

30000.00

2004-01-01

与信限度額の変更を要求

回収情報

計算書送付先

AB Common

請求情報

最大オーダー値

最小オーダー値

配送指示

貨物の運賃取扱コード

「カスタマ・セルフサービス」フォーム

「カスタマ・セルフサービス」フォームで確認用に表示されるフィールドは、「顧客マスターの改訂」フォームで表示されるものと同じです。

「与信限度額の変更を要求」ボタンをクリックして、与信限度額の変更をリクエストします。顧客に対して与信管理者を割り当てていない場合は、このボタンは使用不可になります。

参照: 第 3 章、「顧客マスター情報の設定」、「顧客マスター・レコードの入力」、29ページ

第 4 章

受取手形の設定

この章では、手形の設定、手形処理のUDC(ユーザー定義コード)の設定、手形処理のAAI(自動仕訳)の設定、支払手段のデフォルト設定、手形処理の自動採番の設定の概要と、銀行/支店情報の検証方法について説明します。

手形の設定について

手形の処理では、専用のユーザー定義コード(UDC)とAAI(自動仕訳)が使用されます。また、ほとんどの会社では、銀行手数料の負担を避けるため、手形を処理する顧客の銀行口座情報を設定します。支払手段によって、手形を処理する顧客とそれ以外の顧客を区別したり、自社から手形を発行する顧客と顧客側で手形を発行する顧客を区別できます。また、銀行口座情報がある顧客とそれ以外の顧客も支払手段によって区別できます。

手形処理のUDCの設定について

UDCはJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システム全般にわたって使用されます。この項では、手形処理に使用するUDCについて、新規コードの追加や既存のコードの変更や、プログラムでの使用方法の詳細を説明します。

手形状況コード(03B/DS)

手形状況コードはハードコード化されています。手形の処理状況によって、F03B13テーブルの手形レコードは次のいずれかの状況に更新されます。

| コード | コード記述 | 用途の説明 |
|-----|-----------------|--|
| 4 | 手形受取済み | 手形入力プログラムを使用して手形を入力するか、事前承認手形プログラム(R03B671)を実行して手形を作成すると、手形はこの状況に更新されます。 |
| 3 | 現金化または割引手形として取立 | 手形の取立プログラム(R03B672)を実行し、手形の現金化や割引手形での取立を指定すると、手形はこの状況に更新されます。 |

| コード | コード記述 | 用途の説明 |
|-----|-----------|--|
| 2 | 偶発債務を伴う取立 | 手形の取立プログラムを実行し、偶発債務での手形の取立を指定すると、手形はこの状況に更新されます。 |
| 0 | 決済 | 手形の回収(状況更新)プログラム(R03B680)を実行すると、手形はこの状況に更新されます。 |

支払手段コード(00/PY)

手形処理での支払手段の使用は必須ではありません。支払手段を使用すると、レポート作成と会計処理のために手形を分類できます。たとえば、自社で発行した手形と顧客が発行した手形を区別する場合や、銀行口座情報がある顧客とない顧客を区別する場合に、手形にそれぞれ異なる支払手段を割り当てることができます。手形に割り当てた支払手段をRD1x、RD2x、RD3x、RD4x(xは支払手段)などのAAI項目と併用し、支払手段に基づいて個別の勘定科目を割り当てすることも可能です。

次の表は、手形処理用に設定されている支払手段の例を示しています。これらのコードを使用することも、別のコードを設定することもできます。

| コード | コード記述 | 手形処理での推奨使用法 |
|-----|--------------------|--|
| D | 請求書別手形 | 請求書別に手形を印刷する際にデータ選択でできるように、作成する請求書にこの支払手段を割り当てます。 |
| F | 計算書別手形 | 計算書別に手形を印刷する際にデータ選択でできるように、作成する請求書にこの支払手段を割り当てます。 |
| 1 | 銀行口座番号が記載された自社作成手形 | 手形入力(自社)プログラム(P03B602)を使用して入力した手形に顧客の銀行口座情報があることを示すために、手形にこの支払手段を割り当てます。 |
| 2 | 銀行口座番号が記載された顧客発行手形 | 手形入力(顧客)プログラム(P03B602)を使用して入力する顧客作成手形にこの支払手段を割り当て、顧客の銀行口座情報が記載されていることを示すことができます。 |

| コード | コード記述 | 手形処理での推奨使用法 |
|-----|---------------------------|--|
| 3 | 銀行口座番号が記載されていない 自社作成手形 | 手形入力(自社)プログラムを使用して入力する手形にこの支払手段を割り当てて、手形に顧客の銀行口座情報が記載されていないことを示すことができます。 |
| 4 | 銀行口座番号が記載されていない 顧客発行手形 | 手形入力(顧客)プログラムを使用して入力する手形にこの支払手段を割り当てて、顧客の銀行口座情報が記載されていないことを示すことができます。 |

注意: 支払手段は他のシステムでも使用されるため、この表にあるコードの記述はUDC(00/PY)の記述と異なる場合があります。

支払状況コード(00/PS)

支払状況コードはハードコード化されています。請求書が手形処理のどの段階にあるかによって、F03B11 テーブルの請求書レコード(伝票タイプRI)と手形レコード(伝票タイプR1)は次のいずれかの支払状況に更新されます。

| コード | コード記述 | 手形処理の段階 | 用途の説明 |
|-----|-----------|----------|---|
| A | 支払承認済み | 請求書の作成 | 顧客が手形で支払う前提で請求書を作成すると、この支払状況コードが請求書に割り当てられます。 |
| P | 全額支払済み | 手形の受取と回収 | 手形を受け取ると、請求書はこの支払状況に更新されます。また、手形を回収した場合も手形がこの支払状況に更新されます。 |
| D | 手形受取済み | 手形の受取 | 手形を受け取ると、手形はこの支払状況に更新されます。 |
| # | 明細に登録済 | 手形登録 | 手形を登録すると、手形はこの支払状況に更新されます。 |
| G | 預入済み決済前手形 | 手形の取立 | 手形を銀行に持ち込んで、手形の情報を更新すると、手形はこの支払状況に更新されます。 |

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Foundation Guide

手形処理のAAIの設定について

AAIによって、自動的に仕訳入力を作成するプログラムのルールが定義されます。会社別の手形AAIは、固有の勘定科目を使用する会社のみに対して設定します。同じ勘定科目を使用する会社に対して個別にAAIを設定する必要はありません。会社AAIが見つからない場合は、デフォルトの会社00000のAAIが使用されます。手形処理で使用するAAIの設定は、売掛管理システムの他のAAIと同じ方法で行います。

手形処理には次のAAIが使用されます。xは支払手段を示します。

受取手形(RD1x)

AAI項目RD1xには、手形の受取時に借方に計上する受取手形勘定を定義します。処理オプションの設定を上書きしないかぎり、受取手形勘定(RD1x)が借方に、売掛金勘定RCxxxx(xxxxは相手勘定)が貸方に自動的に仕訳されます。

次の図は、手形受取時の仕訳作成に使用されるAAIを示しています。

| 手形の入力 | |
|-------|----------------|
| RD1x | RCXXXX RCUC |

AAI項目RD1xによる手形入力のT字勘定

手形の取立時には、取立手形勘定(RD2x、RD3x、RD4x)が借方に、売掛金勘定(RD1x)が貸方に仕訳されます。

取立手形(RD2x)

AAI項目RD2xには、現金化のための取立処理時に借方に計上する取立手形勘定を定義します。処理オプションの設定を上書きしないかぎり、取立手形勘定(RD2x)が借方に、受取手形勘定(RD1x)が貸方に仕訳されます。

次の図は、手形取立時の仕訳作成に使用されるAAIを示しています。

| 手形の取立 | |
|-------|------|
| RD2x | RD1x |

AAI項目RD2xによる手形取立のT字勘定

手形を回収すると、銀行勘定(RB)が借方に、取立手形勘定(RD2x)が貸方に仕訳されます。

次の図は、手形回収時の仕訳作成に使用されるAAIと勘定科目を示しています。

| 手形の回収 | |
|-------|------|
| 銀行勘定 | RD2x |

AAI項目RD2xによる手形回収のT字勘定

割引取立手形(RD3x)

AAI項目RD3xには、割引手形として取立処理を行う際に借方に計上する割引取立手形を定義します。手形の取立処理時に、処理オプションで割引手形勘定を設定する必要があります。割引取立手形勘定(RD3x)が借方に、受取手形勘定(RD1x)が貸方に自動的に仕訳されます。

手形を回収すると、銀行勘定(RB)が借方に、割引取立手形勘定(RD3x)が貸方に仕訳されます。

偶発債務(RD4x)

AAI項目RD4xには、割引手形として取立処理を行う際に貸方に計上する偶発債務勘定を定義します。これは、割引手形を処理する場合に、満期日が到来するまで偶発債務として計上しておく必要がある場合に必要です。手形の取立処理時に、処理オプションで偶発債務勘定を設定する必要があります。割引取立手形勘定(RD3x)が借方に、受取手形勘定(RD1x)が貸方に仕訳されます。また、処理オプションに基づいて、取立の銀行勘定または登録処理で使用された銀行勘定が借方に計上され、処理オプションを変更しないかぎり偶発債務勘定(RD4x)が貸方に計上されます。

手形の決済時には、偶発債務勘定(RD4x)の借方仕訳と割引取立手形勘定(RD3x)の貸方仕訳が自動的に作成されます。

無効/残高不足(RD5)

AAI項目RD5には、手形を無効または残高不足(NSF)として処理した場合に作成される新しい手形に対する受取手形勘定を指定します。無効またはNSFに指定したときの手形状況によって、AAI項目RD5に関連付けられた勘定科目が借方に、受取手形勘定(RD1x)または取立手形勘定(RD2xまたはRD3x)のいずれかが貸方に計上されます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI(自動仕訳)の設定」

手形タイプ別AAI

次の各表には、手形処理の各ステップで、各種の手形に対して使用されるAAIが示されています。表中のAAI項目には、支払手段を表すxが含まれています。

標準の手形

次の表には、標準の手形に使用されるAAIが示されています。

| ステップ | 借方勘定科目 | AAI項目 | 貸方勘定科目 | AAI項目 |
|------|--------|-------|--------|-------|
| 受取 | 受取手形 | RD1x | 売掛金勘定 | RC |
| 取立 | 取立手形 | RD2x | 受取手形 | RD1x |
| 回収 | 銀行勘定科目 | RB | 取立手形 | RD2x |

割引手形

次の表には、割引手形に使用されるAAIが示されています。

| ステップ | 借方勘定科目 | AAI項目 | 貸方勘定科目 | AAI項目 |
|------|--------|-------|--------|-------|
| 受取 | 受取手形 | RD1x | 売掛金勘定 | RC |
| 取立 | 割引取立手形 | RD3x | 受取手形 | RD1x |
| 回収 | 銀行勘定科目 | RB | 割引取立手形 | RD3x |

偶発債務を伴う割引手形

次の表には、偶発債務を伴う割引手形に使用されるAAIが示されています。

| ステップ | 借方勘定科目 | AAI項目 | 貸方勘定科目 | AAI項目 |
|------|--------|-------|--------|-------|
| 受取 | 受取手形 | RD1x | 売掛金勘定 | RC |
| 取立 | 割引取立手形 | RD3x | 受取手形 | RD1x |
| 取立 | 銀行勘定科目 | RB | 偶発債務手形 | RD4x |
| 回収 | 偶発債務手形 | RD4x | 割引取立手形 | RD3x |

各ステップで作成される手形レコード

手形を処理すると、入金明細テーブル (F03B14) に、使用した状況別にレコードが作成されます。略式IDフィールド (AID2) の値は、手形用のAAIから特定される勘定科目IDに更新されます。手形の状況ごとに新しいレコードが作成されます。手形を転記すると、AID2フィールドの略式IDを使用して該当する勘定科目の仕訳が作成されます。手形で支払われる各請求書に対して作成されたレコード (F03B14テーブル内) と区別するため、手形処理の各ステップで作成される手形レコードの入金タイプ・コード・フィールド (TYIN) の値はDに更新されます。

たとえば、2件の請求書に対して支払われる手形を入力すると、F03B14テーブルには3件のレコードが作成されます。このうちの2件は請求書の支払の記録に使用され、もう1件は手形の受取の記録に使用されます。このレコードのTYINフィールドの値はDに更新され、AID2フィールドの値はAAI項目RD1xから特定された略式IDに更新されます。

この手形の取立処理を行うと、偶発債務を伴うかどうかによって、F03B14テーブルに次の2件または3件のレコードが作成されます。

- 受取手形勘定を相殺 (貸方計上) するレコード
- 取立手形勘定を更新するレコード

- ・ 偶発債務勘定を更新するレコード(取立に偶発債務が伴う場合)

各レコードのTYINフィールドの値はDに更新され、AID2フィールドの値はAAI項目RD3xから特定された略式IDに更新されます。

この手形の回収時には、次の処理が実行されます。

- ・ F03B14テーブルにレコードが追加作成されます。
- ・ TYINフィールドの値がDに更新されます。
- ・ 取立レコード(取立が未処理の場合はAAI項目RB)で指定された銀行勘定科目コードで銀行口座フィールド(GLBA)の値が更新されます。

支払手段のデフォルト設定について

手形で支払われる請求書とそれ以外の請求書を区別するために、顧客マスターでデフォルトの支払手段を設定できます。請求書で変更しないかぎり、請求書レコードは顧客マスターで指定した支払手段に更新されます。手形処理では、支払手段を使用して、手形とともに請求書を印刷する顧客と計算書を印刷する顧客を区別できます。

また、銀行口座情報がある手形とそれ以外の手形も支払手段によって区別できます。手形入力プログラムの処理オプションでは、この区別を行うために支払手段を設定できます。F03B11テーブルの請求書レコード(伝票タイプR1)とF03B13テーブルの入金レコードは、処理オプションで指定された支払手段に更新されます。

UDC 00/PYに設定されている手形用の支払手段であれば、いずれの支払手段も選択できます。支払手段はハードコード化されていません。

以前に入力した請求書の支払手段を更新する場合は、スピード・リリース・プログラム(P03B114)を使用して、特定の顧客の全請求書を対象として、または請求書別に更新できます。

関連項目:

第 3 章、「顧客マスター情報の設定」、「顧客マスター・レコードの入力」、29ページ

手形処理の自動採番について

手形処理時には、次の自動採番機能によって伝票番号が割り当てられます。

- ・ 小切手番号(システム03B、行5): 入金用の自動採番です。
- ・ 未充当金(システム03B、行2): 伝票タイプRUに対して会社別、会計年度別の自動採番を設定できます。
- ・ 再請求番号(システム03B、行3): 伝票タイプRBに対して会社別、会計年度別の自動採番を設定できます。
- ・ 支払ID(システム03B、行10):
- ・ 手形番号(システム03B、行6): 伝票タイプR1に対して会社別、会計年度別の自動採番を設定できます。

関連項目:

第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムの設定」、「売掛管理の自動採番」、20ページ

銀行/支店情報の検証

この項では、銀行/支店情報の検証の概要と、次の方法について説明します。

- 銀行口座検証レポートの印刷
- 銀行口座検証の処理オプションの設定

銀行/支店情報の検証について

銀行口座例外 (R00310) プログラムを使用して、各顧客の銀行/支店コードの有効性を確認できます。レポートには銀行/支店マスター (F0030) の情報が印刷されます。

このレポートには次の2つのバージョンがあります。

- 銀行検証 - 国別: このバージョンでは、銀行/支店番号が国別の規則に準拠していない顧客銀行口座レコードを印刷します。
- 銀行検証 - Bタイプ銀行: このバージョンでは、銀行/支店番号がタイプ「B」のレコードに関連付けられていない顧客銀行口座レコードを印刷します。

このレポートでは、住所番号が設定されていない口座番号は無視されます。

このレポートを実行してもデータは更新されません。例外レポートを実行して、例外のレコードが検出された場合には、次のいずれかの処理を行う必要があります。

- 銀行相互口座参照プログラム (P0030A) を使用して、顧客の銀行/支店コードを修正します。
- 住所別銀行口座プログラム (P0030A) を使用して銀行口座レコードを設定し、未設定のBレコードを追加します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「銀行口座の設定」

銀行口座検証レポートの印刷

「手形の取立/回収」(G03B162)、「銀行口座例外レポート」を選択します。

銀行口座検証の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

妥当性検査

銀行/支店コードの検証

銀行/支店コードの検証基準として、銀行タイプまたは国別の検証規則のいずれかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 適用可能な国別の規則 (現時点ではイタリア、日本、フランスの規則) に基づいて銀行/支店コードの検証が行われます。

B: 銀行タイプの方法に基づいて銀行/支店コードの検証が行われます。

第 5 章

自動入金処理の設定

この章では、自動入金処理、銀行勘定、自動入金マッピングの設定の概要と、次の方法について説明します。

- 自動入金処理のためのシステム設定
- アルゴリズムの定義
- 実行リストの定義と変更
- 自動入金処理のための顧客の設定

自動入金処理の設定について

顧客の入金を自動的に処理するには、事前に次の設定を行う必要があります。

| 設定ステップ | 説明 |
|-----------|---|
| システムの設定 | 売掛管理固定情報プログラム (P0000) で、自動入金処理を行う各会社の「自動入金」チェックボックスを選択します。 |
| アルゴリズムの定義 | <p>入金を顧客の売掛金勘定と照合する方法を決定するアルゴリズムを定義します。</p> <p>次のアルゴリズムは、システムで標準提供されています。</p> <ul style="list-style-type: none">• 既知請求書照合 (金額指定あり)• 既知請求書照合 (金額指定なし)• 残高繰越照合• 請求書選択照合• 組合せ請求書照合 |
| 実行リストの定義 | <p>アルゴリズムの定義の完了後に、それらを実行する順序を指定する実行リストを定義します。実行リストの定義を完了したら、顧客の支払形態に基づいてそのリストを顧客に割り当てます。</p> <p>この設定を行うユーザーは、顧客の支払慣習を熟知している必要があります。それによって、顧客からの入金を効率的かつ正しく処理できます。</p> |

| 設定ステップ | 説明 |
|--------------------------------|--|
| 顧客の設定 | 顧客レコードの「自動入金(Y/N)」チェックボックスを選択する必要があります。さらに、入金処理時に割当可能なデフォルトの実行リストとは異なるアルゴリズムを使用する場合は、その実行リストを顧客に割り当てる必要があります。 |
| 電子入金入力テーブル(F03B13Z1)への情報のマッピング | <p>銀行からの顧客入金情報をJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに転送するには、事前に銀行情報をF03B13Z1テーブルの各フィールドにマッピングしておく必要があります。この設定は、次のいずれかの方法で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 銀行で使用されている媒体(テープ、フロッピーディスク、CDなど)から入金情報をアップロードするカスタム・プログラムの作成 電子データ交換(EDI)によるロックボックス処理 テキスト・ファイル処理プログラム(P007101)を使用した入金情報の転送 |

銀行勘定について

F03B13Z1テーブルの情報と入金見出しの更新プログラム(R03B551)の処理オプションの設定によっては、会社の銀行の銀行勘定レコードの入力が必要になる場合があります。

次の表は、入力されたフィールドと、入金見出しの更新プログラム(R03B551)の処理オプションの「デフォルト」タブにある「銀行勘定の略式ID」処理オプションの値に基づいて、システム内で銀行勘定情報がどのような条件の下でどのように使用されるかを示しています。

テーブルのキーフィールドは次のとおりです。

- GLBA = 銀行勘定科目
- EHBK = 口座番号(自社)
- EHTN = 銀行/支店(自社)

注意: 銀行勘定科目の検索には、口座番号(自社)のフィールドと銀行/支店情報(自社)のフィールドの両方が使用されます。EHBKに値を入力した場合は、EHTNにも値を入力する必要があります。

| F03B13Z1テーブルのフィールドの組合せ | 「銀行勘定の略式ID」処理オプション | 銀行勘定の必要条件 | 結果 |
|---|--------------------|--|---|
| GLBA - 値 EHBK - 対象外 EHTN - 対象外 | なし | なし | GLBAに値が入力されている場合、EHBK、EHTNおよび処理オプションの値は無視されます。 GLBAで指定された銀行勘定科目に情報が更新されます。 |
| GLBA - ブランク EHBK - 値 EHTN - 値 | なし | 銀行勘定レコード(レコード・タイプG)が銀行/支店マスター(F0030)に格納されている必要があります。 顧客の銀行口座に対する必要条件はありません。 | 銀行勘定の略式IDの検索にはEHBKとEHTNの値が使用されます。 |
| GLBA - ブランク EHBK - ブランク EHTN - ブランク | 値 | なし | 処理オプションで指定した値が使用されます。 |

注意: これらのフィールドと処理オプションに対して前述以外の組合せを使用した場合はエラーが返され、自動入金処理を行うことができません。

顧客銀行口座の必要条件

自動入金処理を行う各顧客の銀行口座情報の設定に関する必要条件はありません。ただし、顧客銀行口座(CBNK)と顧客銀行/支店(TNST)フィールドに値がある場合、その値を使って銀行/支店マスター(F0030)で住所録番号が検索され、入金見出しテーブル(F03B13)の支払人フィールド(PYR)でその住所録番号が使用されます。最初に支払人の銀行レコード(レコード・タイプP)の取得が試行され、見つからない場合は、顧客の銀行レコード(レコード・タイプC)が使用されます。

銀行口座レコードが見つからない場合は、請求書レコードの支払人や顧客番号などの別の条件を使って支払人フィールドが更新されます。

自動入金のマッピングについて

自動入金処理には、F03B13Z1テーブルとF03B13テーブルが使用されます。自動入金アップロード・テーブルには銀行テーブルからロードされた情報が格納されるため、銀行で入力された情報が含まれています。入金見出しの更新プログラム(R03B551)を実行すると、F03B13Z1テーブルからF03B13テーブルとF03B14テーブルにレコードが作成されます。

入金と請求書の照合を正しく行うには、入金の消込プログラム(R03B50)の実行のためにF03B13Z1テーブルから取得する必要のあるデータのタイプを確認しておく必要があります。

参照: 付録 B、「自動入金処理のためのフィールドのマッピング」、531 ページ

関連項目:

第 11 章、「自動入金処理」、「電子入金の検討、改訂、および追加」、250ページ

自動入金処理のためのシステム設定

自動入金処理を行う各会社に対しては、売掛管理固定情報で「自動入金」チェックボックスを選択する必要があります。会社00000に対してこのチェックボックスを選択できますが、それによってすべての会社の自動入金処理が有効になるわけではありません。

関連項目:

第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定」、「売掛管理会社制御の設定」、11ページ

アルゴリズムの定義

この項では、アルゴリズムの概要を示し、次の方法について説明します。

- 既知請求書照合（金額指定あり）（R03B50D）処理オプションの設定
- 既知請求書照合（金額指定なし）（R03B50E）処理オプションの設定
- 残高繰越照合（R03B50B）処理オプションの設定
- 請求書選択照合（R03B50A）処理オプションの設定
- 組合せ請求書照合（R03B50F）処理オプションの設定

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Report Design Aid

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Report Printing Administration Technologies

第 5 章、「自動入金処理の設定」、「実行リストの定義と改訂」、81ページ

アルゴリズムについて

入金と請求書の照合を自動的に行うには、アルゴリズムを定義する必要があります。アルゴリズムとは、限られた処理ステップの中で特定の問題を解決するためにあらかじめ定義された一連の指示です。処理対象の顧客情報の量に基づいて、自動入金処理時の入金と請求書の照合方法を指示するアルゴリズムを定義します。

次の5つのアルゴリズムは、システムに標準提供されています。各アルゴリズムは1つのバッチ・バージョンとして提供されています。

| アルゴリズム | 説明 |
|----------------------------|--|
| 既知請求書照合 (金額指定あり) (R03B50D) | 顧客から請求書を特定する情報が提供され、請求書に対して消し込む金額が指定されます。 |
| 既知請求書照合 (金額指定なし) (R03B50E) | 顧客から請求書を特定する情報が提供されますが、消し込む金額は指定されません。 |
| 残高繰越照合 (R03B50B) | 顧客から具体的な情報は提供されません。入金を請求書の新旧またはその逆順に消し込みます。 |
| 請求書選択照合 (R03B50A) | 顧客から具体的な情報は提供されません。支払期日に基づいて、1件の請求書または現在の残高に対して入金が消し込まれます。 |
| 組合せ請求書照合 (R03B50F) | 顧客から具体的な情報は提供されません。組み合わせた請求書に対して入金が消し込まれます。照合のパターンを特定するために選択される請求書の件数を定義します。 |

既存のバージョンをそのまま使用することも、既存のバージョンの処理オプション、データ選択、データ順序を変更して、新しいバージョンを作成することもできます。

アルゴリズムは、入金消込アルゴリズム実行リスト・テーブル (F03B50) に保存されます。

アルゴリズムのデータ選択とデータ順序

アルゴリズムのデータ選択またはデータ順序の変更では、処理対象として選択される入金とその順序のみを変更できます。たとえば、特定の日付、特定の顧客または顧客のグループの入金を処理するように設定できます。

照合処理で選択される請求書を指定するには、請求書選択照合レポートの請求書選択/読み込み (F03B11) グループ・セクションと関連するデータ選択を変更する必要があります。これには、レポート設計ツール (RDA) を使用します。たとえば、再請求や延滞利息金処理によって作成された請求書のみが処理されるように指定できます。

照合処理で選択される請求書の順序を指定するには、請求書選択照合レポートの請求書選択/読み込み (F03B11) グループ・セクションと関連するデータ順序を変更する必要があります。この設定は、対象のバージョンを RDA で開いて行います。たとえば、他の請求書を処理する前に、再請求や延滞利息金によって作成された請求書を処理できます。

重要: RDA でのデータ選択やデータ順序の変更は、バッチ・プログラムとその設計に詳しい担当者が行ってください。レポートに不適切な変更を加えると、プログラムが正しく動作しなくなる場合があります。

既知請求書照合 (金額指定あり) (R03B50D)

入金と請求書の消込の最も標準的な方法は、既知請求書照合 (金額指定あり) アルゴリズムの使用です。このアルゴリズムは、支払対象の請求書と、各請求書に対して消し込む金額を顧客が指定する場合に使用します。この情報は、電子入金入力テーブル (F03B13Z1) から検索されます。

この方法を使用して、50,000.00 の入金を次のように消し込むことができます。

- 請求書 123 に対して 20,000.00 を消込
- 請求書 124 に対して 15,000.00 を消込

- 請求書125に対して15,000.00を消込

請求書番号と金額はF03B13Z1テーブルで指定されているため、正しい金額が正しい請求書に対して消し込まれます。請求書の支払項目が既知である場合、入金是指定された支払項目に対して消し込まれます。

既知請求書照合(金額指定なし)(R03B50E)

既知請求書照合(金額指定なし)アルゴリズムは、顧客によって請求書が指定され、各請求書に対して消し込む金額が指定されていない場合に使用します。指定された請求書に対して消し込む金額が入金額に一致しない場合に使用する限度額を処理オプションで指定します。このアルゴリズムを使用するには、電子入金入力テーブル(F03B13Z1)で請求書番号を指定する必要があります。

残高繰越照合(R03B50B)

残高繰越照合の方式を使用すると、請求書の順番で入金を消し込むことができます。一番古い請求書または最新の請求書に対して入金を消し込むことができます。支払期日に基づいて最初の請求書が自動的に決定されます。また、顧客と支払人、または支払人のみで照合するように指定できます。この方式では、顧客の未決済請求書が読み込まれ、入金額が0になるか、処理する請求書がなくなるまで、各請求書と入金の消込処理が行われます。

入金額が請求書の全額に満たない場合は、部分入金が消し込まれます。すべての未決済請求書に対して消し込んでも入金の全額に満たない場合は、未充当入金レコードが作成されます。

この方式には、新しい請求書から消し込む後入先出法(LIFO)と、古い請求書から消し込む先入先出法(FIFO)の2つのデモ・バージョンがあります。

請求書選択照合(R03B50A)

請求書選択照合は、入金と特定の請求書または請求書の現在高の消込に使用します。最初の請求書の金額と入金額が比較され、割引が適用されるかどうかの確認が行われます。次に「入金不足許容額」と「過入金許容額」の処理オプションで指定された限度額が加算されるか、または差し引かれます。最初の請求書の金額との差額が許容限度額内の場合、その請求書は消し込まれ、次の入金の処理に移ります。最初の請求書金額との差額が許容限度を超える場合は、同じ顧客の最初の請求書と2番目の請求書の金額が合計され、入金額と比較されます。この処理は、請求書の合計金額が、定義された許容限度額の範囲内で、支払われるまで続行されます。請求額の累計と入金額の累計は、割引と許容限度額を考慮に入れた上で完全に一致する必要があります。一致しない場合はどの請求書に対しても支払は行われません。残高繰越照合(R03B50B)と異なり、部分入金として処理されたり、差額分の未充当入金が作成されることはありません。

最初の請求書と現在の請求書合計のみが比較されます。その他の比較は考慮されません。単独の請求書または請求書の合計(累計)と入金額が一致すると、処理は停止されます。そして、選択した請求書に対して入金の消込が行われます。

支払期日によって最初に読み込まれる請求書が決まります。

処理オプションの設定によって、入金を次の項目と照合することができます。

- 合計未決済金額
- 合計未決済金額から割引可能額を差し引いた金額
- 合計未決済金額から割引実施額を差し引いた金額

例: 請求書選択照合アルゴリズム - 未決済金額の照合

この例では、処理オプションを次のように設定した場合に、請求書選択照合アルゴリズムによって請求書がどのように消し込まれるかを説明します。

- 照合: 未決済請求金額

- 入金不足許容額: 10

- 過入金許容額: 10

入金額: 220

| 請求書番号 | 請求書の未決済金額 |
|-------|-----------|
| 112 | 100 |
| 113 | 200 |

最初に請求書112と入金の照合が試行されます。金額が一致しないため、請求書112と113の入金の照合が試行されます。この場合も金額が一致せず、許容限度額10の範囲内でもないため、どの請求書も支払が行われません。

入金額: 100

| 請求書番号 | 請求書の未決済金額 |
|-------|-----------|
| 278 | 100 |
| 285 | 200 |
| 290 | 300 |

最初に請求書278と入金の照合が試行されます。金額が一致するため、この請求書の入金の消込が行われ、処理が停止されます。

入金額: 300

| 請求書番号 | 請求書の未決済金額 |
|-------|-----------|
| 335 | 100 |
| 362 | 200 |

最初に請求書335と入金の照合が試行されます。金額が一致しないため、請求書335と362の入金の照合が試行されます。入金額がこの2つの請求書の金額と一致するため、両方の請求書に対して支払が行われます。

例: 請求書選択照合アルゴリズム – 割引可能額差引き後の未決済金額の照会

この例では、処理オプションを次のように設定した場合に、請求書選択照合アルゴリズムによって請求書がどのように消し込まれるかを説明します。

- 照合: 割引可能額差引き後の未決済額

- 入金不足許容額: 10

- 過入金許容額: 10

入金額: 297

| 請求書番号 | 請求書の未決済金額 | 割引 |
|-------|-----------|----|
| 587 | 100 | 1 |
| 695 | 200 | 2 |

最初に請求書587と入金の照合が試行されます。金額が一致しないため、請求書587と695の入金の照合が試行されます。この場合も金額が一致しませんが、差額の3は許容限度額10の範囲内であるため、両方の請求書に対して支払が行われます。

組合せ請求書照合 (R03B50F)

特定の組合せの請求書を消し込む場合は、「組合せ請求書照合」の方式を使用します。処理オプションの設定によって、最大10件までの請求書を複数組み合わせて照合を行うことができます。このタイプの照合処理は入金別にしか実行できません。この照合アルゴリズムでは、指定した数の請求書で金額が一致しなかった場合、処理は続行されず、請求書の次のグループの処理は行われません。

「差額除外による照合」処理オプションを設定して、この照合方式で別の処理を実行できます。除外処理では、支払対象とならない請求書を特定して、それ以外の請求書に対して入金が消し込まれます。これは、未払いとなる請求書が少なく、ほとんどの請求書に対して入金が行われる場合に便利です。入金額と合計勘定残高の差額が計算され、その差額と一致する請求書の組合せが検索されます。一致する請求書の組合せが見つかった場合、その組合せに含まれる請求書を除くすべての請求書に対して入金が消し込まれます。

差額除外による照合を行う場合、新しい日付の請求書が先に除外対象となるように請求書日付の降順でソートすることを検討してください。

例: 組合せ請求書照合

次の例では、請求書の組合せに対する入金の消込に、組合せ請求書照合アルゴリズムがどのように使用されるかを説明します。「パフォーマンス」タブの処理オプションで、選択する請求書の件数を6に指定し、請求書組合せ制限を3に指定します。

| 請求書番号 | 金額 |
|-------|--------|
| 122 | 100.00 |
| 123 | 200.00 |
| 124 | 450.00 |
| 125 | 50.00 |
| 126 | 100.00 |

合計金額が700.00の入金がある場合、まず、最初の請求書が参照され、次の順序で請求書の照合が試行されます。

| 請求書番号 | 金額 | 一致/不一致 |
|-------|--------|--------|
| 122 | 100.00 | 不一致 |
| 123 | 200.00 | 不一致 |

| 請求書番号 | 金額 | 一致/不一致 |
|-----------------|--------|--------|
| 123 + 122 | 300.00 | 不一致 |
| 124 | 450.00 | 不一致 |
| 124 + 122 | 550.00 | 不一致 |
| 124 + 123 | 650.00 | 不一致 |
| 124 + 122 + 123 | 750.00 | 不一致 |
| 125 | 50.00 | 不一致 |
| 125 + 122 | 150.00 | 不一致 |
| 125 + 123 | 250.00 | 不一致 |
| 125 + 122 + 123 | 350.00 | 不一致 |
| 125 + 124 | 500.00 | 不一致 |
| 125 + 124 + 122 | 600.00 | 不一致 |
| 125 + 124 + 123 | 700.00 | 一致/不一致 |

このアルゴリズムの処理オプションでは、組合せに使用する請求書を10件まで選択できます。1つの組合せには最大10件の請求書を含めることができます。

重要: 処理の完了には相当の時間を要します。この処理には時間がかかるため、他の照合方法をすべて試みた後で、実行リストの最後にこの組合せ請求書照合アルゴリズムを使用することをお勧めします。

例: 請求書の許容限度額を超えた場合

この例では、入金額が、既知請求書照合(金額指定あり)アルゴリズムの処理オプションで指定された請求書の許容限度額を超過している場合に、F03B13Z1テーブルの情報に基づいて、請求書に対する消込がどのように行われるかを説明します。

| 金額 | 設定 |
|------------------|----------------------------------|
| 入金番号445 = 850.00 | |
| 請求書許容限度額 = 10.00 | 許容限度額を超過した場合は、一部支払済請求書として処理されます。 |
| 入金許容限度額 = 25.00 | 入金額が不足している場合は、再請求が作成されます。 |

売掛金元帳テーブル(F03B11)は次のようになります。

| 請求書番号 | 未決済金額 | 小切手金額(CKAM) | 消込金額(F03B13Z1のAGフィールド) |
|-----------|---------|-------------|------------------------|
| 222 | 200.00 | 850.00 | 200.00 |
| 223 | 300.00 | 0 | 300.00 |
| 224 | 600.00 | 0 | 550.00 |
| クレジット・メモ1 | 200.00- | 0 | 200.00- |

支払われた請求書の中で、最初の請求書のみ「小切手金額」フィールドに値を入力してください。システムによって次の処理が行われます。

- 請求書222が全額支払われ、請求書の未決済金額が0になり、支払状況がPに変更されます。
- 請求書223が全額支払われ、請求書の未決済金額が0になり、支払状況がPに変更されます。
- 請求書224は請求書の許容限度額を超えているため、50.00は未決済のままとなります。支払状況はAのままです。
- クレジット・メモ1が全額支払われ、請求書の未決済金額が0になり、支払状況がPに変更されます。

請求書の未決済金額と消込金額の比較によって、入金不足が検証されます。次に、入金全体に対する消込金額の合計が入金額と等しいかどうかチェックされます。等しくない場合、入金許容限度額に従って入金が処理されます。

例: 入金の許容限度額を超えた場合

この例では、入金額が、既知請求書照合(金額指定あり)アルゴリズムの処理オプションで指定された入金の許容限度額を超過している場合に、F03B13Z1テーブルの情報に基づいて、請求書に対する消込がどのように行われるかを説明します。

| 金額 | 設定 |
|------------------|----------------------------------|
| 入金番号446 = 700.00 | |
| 請求書許容限度額 = 10.00 | 許容限度額を超過した場合は、一部支払済請求書として処理されます。 |
| 入金許容限度額 = 10.00 | 入金額が不足している場合は、再請求が作成されます。 |

売掛金元帳テーブル(F03B11)は次のようになります。

| 請求書番号 | 未決済金額 | 小切手金額(CKAM) | 消込金額(F03B13Z1のAGフィールド) |
|-----------|----------|-------------|------------------------|
| 300 | 1,000.00 | 700.00 | 1,000.00 |
| クレジット・メモ2 | 100.00- | 0 | 100.00- |

この例では、銀行から誤った情報が送信されたと仮定します。小切手金額(入金額)は700.00ですが、請求書の消込に必要な金額は900.00(未決済金額1000.00 - クレジット・メモ100.00)です。入金の許容限度額は10.00に設定されているため、許容限度額を200.00超過しているとみなされ、再請求が作成されます。

システムによって次の処理が行われます。

- 請求書300が全額支払われ、請求書の未決済金額が0になり、支払状況がPに変更されます。
- クレジット・メモ2が全額支払われ、請求書の未決済金額が0になり、支払状況がPに変更されます。
- 200.00の再請求が作成されます。

顧客が請求書の一部を支払う場合は、金額を次のように変更します。

| 請求書番号 | 未決済金額 | 小切手金額(CKAM) | 消込金額(F03B13Z1のAGフィールド) |
|-----------|---------|-------------|------------------------|
| 300 | 1000.00 | 700.00 | 800.00 |
| クレジット・メモ2 | 100.00– | 0 | 100.00– |

消込金額は700.00で小切手金額(入金額)と等しいため、許容限度額には影響しません。請求書300の消込金額は800.00であり、未決済金額の1000.00より200.00少ないため、部分入金として処理され、200.00が未決済で残されます。

例: 支払項目が複数ある請求書に対する入金の消込

既知請求書照合(金額指定あり)アルゴリズムを使用して、支払項目が複数ある請求書进行处理する場合、F03B13Z1テーブルで支払項目を指定する必要があります。支払項目を指定しなかった場合は、残高繰越照合アルゴリズム(R03B50B)によって各支払項目が処理されます。

この例では、消込入金額(100.00)が最初の支払項目の未決済金額より少ないため、最初の支払項目のみが処理されます。

| 金額 | 設定 |
|------------------|----------------------------------|
| 入金番号447 = 100.00 | |
| 請求書許容限度額 = 10.00 | 許容限度額を超過した場合は、一部支払済請求書として処理されます。 |
| 入金許容限度額 = 25.00 | 入金額が不足している場合は、再請求が作成されます。 |

売掛金元帳テーブル(F03B11)は次のようになります。

| 請求書番号 | 支払項目 | 未決済金額 |
|-------|------|--------|
| 932 | 001 | 150.00 |
| 932 | 002 | 50.00– |

電子入金の検討プログラム(P03B121)では次のように表示されます。

| 請求書番号 | 支払項目 | 未決済金額 | 小切手金額(CKAM) | 消込金額(F03B13Z1 のAGフィールド) |
|-------|------|--------|-------------|----------------------------|
| 932 | | 150.00 | 100.00 | 150.00 |
| 932 | | 50.00- | | -50.00 |

請求書番号932の請求書は、請求書全体ではなく最初の支払項目のみが支払済とされ、最初の支払項目に対して50.00の再請求が作成されます。2番目の支払項目は未決済として残ります。

既知請求書照合(金額指定あり)アルゴリズム(R03B50D)を使用して請求書932の同じ入金を全額消し込むには、F03B13Z1テーブルで支払項目番号を指定する必要があります。電子入金の検討プログラムでは次のように表示されます。

| 請求書番号 | 支払項目 | 未決済金額 | 小切手金額(CKAM) | 消込金額(F03B13Z1 のAGフィールド) |
|-------|------|--------|-------------|----------------------------|
| 932 | 001 | 150.00 | 100.00 | 150.00 |
| 932 | 002 | 50.00- | | 50.00- |

システムによって次の処理が行われます。

- 請求書932の支払項目001が全額支払われ、請求書の未決済金額が0になり、支払状況がPに変更されます。
- 請求書932の支払項目002が全額支払われ、請求書の未決済金額が0になり、支払状況がPに変更されます。

既知請求書照合(金額指定あり)(R03B50D)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

入金消込(Apply Invoices)

この処理オプションでは、割引を伴う請求書と入金の照合方法や、消込金額が請求書の未決済金額と異なる場合の過入金および入金不足の処理方法を指定します。

- 割引認識方法**

すべての割引を処理するか、または有効な割引のみを処理するかを指定します。入金の元帳日付が割引期日以前の場合のみ、割引が有効になります。値は次のとおりです。

ブランク: すべての割引が処理されます。

1: 有効な割引のみが処理されます。
- 割引理由コード**

割引が行われる際に使用される割引理由コードを指定します。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxx(xxは理由コード)も設定してください。
- 猶予日数**

割引の有効期間を延長する日数を指定します。
- 入金不足許容額**

請求書レベルで発生した入金不足の償却に適用される限度額を指定します。電子入金入力コード(F03B13Z1)の総額フィールド(AG)と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、小額消去として自動的に処理されます。

複数の通貨を使用する場合、入金不足の請求書の小額消去処理の限度額には、請求書や会社の通貨コードではなく、入金の通貨コードが使用されます。入金の消込プログラム(R03B50)を使用して自動入金処理を実行する場合は、このプログラムに入金通貨別のバージョンを設定し、データ選択で通貨コードを指定します。

5. 入金不足理由コード

入金不足分が限度額以内の請求書に対して作成される小額消去レコードに割り当てる理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

6. 入金不足の処理

入金不足限度額を超過している請求書の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 再請求が作成されます。

1: 該当分のみ充当されます。

2: 損金が作成されます。

再請求理由コード

請求書の入金不足分が小額消去処理の限度額を超過している場合に作成される再請求に割り当てる理由コードを指定します。「入金不足の処理」処理オプションをブランクにした場合のみ、この処理オプションを使用します。有効な再請求理由コードはUDC 03B/CBに定義されています。再請求が作成された請求書に割り当てられている相手勘定科目が使用されます。

損金理由コード

請求書の入金不足分が小額消去処理の限度額を超過している場合に作成される損金に割り当てる理由コードを指定します。「入金消込(Apply Invoices)」タブの「入金不足の処理」処理オプションで2を指定した場合のみ、この処理オプションを使用します。有効な損金理由コードは、UDC 03B/CRに定義されています。使用する損金仮勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RNも設定する必要があります。

8. 過入金許容額

請求書レベルで発生した過入金の処理に適用される限度額を指定します。F03B13Z1テーブルで、総額フィールド(AG)と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合は、小額消去として自動的に処理されます。

プラスの金額を入力します。

複数通貨を使用する場合、過入金の請求書の小額消去限度額には、請求書や会社の通貨コードではなく、入金の通貨コードが使用されます。入金の消込プログラム(R03B50)を使用して自動入金処理を実行する場合は、このプログラムに入金通貨別のバージョンを設定し、データ選択で通貨コードを指定します。

9. 過入金理由コード

請求書の入金過剰分が限度額を超えていない場合に作成される小額消去レコードに割り当てる理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

10. 過入金の処理

過入金限度額を超過している請求書の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 未充当入金が作成されます。

1: 過剰消込(請求書の未決済金額は返金額を示すマイナスの値になります)。

入金消込 (Apply Receipts)

この処理オプションでは、入金額が請求書に対する合計消込金額と異なる場合の過入金および入金不足の処理方法を指定します。

1. 入金不足許容額

入金レベルで発生した入金不足の償却に適用される限度額を指定します。F03B13Z1テーブルで、入金額 (小切手金額フィールド - CKAM) と請求書の消込金額 (総額フィールド - AG) の差額がここで指定した金額以下の場合、その差額の単独の小額消去が作成されます。

注意: 1件の請求書のみに対する入金の場合、その請求書は自動的に小額消去として処理され、単独の小額消去は作成されません。

たとえば、限度額が25.00の場合、合計1000.00の2件の請求書 (各請求書は500.00) に対して980.00の入金があれば、入金不足分の20.00は自動的に小額消去として処理されます。請求書の未決済金額と消込金額は同じであるため、請求書レベルでの小額消去処理は行われません。

請求書と入金の差額の小額消去は、特定の状況で発生します。たとえば、未決済金額がそれぞれ100.00 USDの2件の請求書に対して、192.00 USDの入金があったとします。限度額は、請求書と入金のいずれにも5.00を設定しています。

8.00の差額を補うために、各請求書に対して98.00、合計196.00を充当します。合計4.00の請求書レベルでの小額消去は次のように行われます。

- 請求書1に対する入金額 = 98.00 (請求書レベルの小額消去額2.00)
- 請求書2に対する入金額 = 98.00 (請求書レベルの小額消去額2.00)

消し込んだ金額は196.00ですが、実際には192.00しか入金されていないため、まだ4.00の差額があります。そのため、次にこの4.00の小額消去が入金レベルで行われます。

複数通貨を使用する場合は、このプログラムの通貨別のバージョンを作成します。この処理オプションでは特定の通貨ごとに指定します。使用されるのは入金通貨です。

小額消去理由コード

入金不足分に対して入金レベルで作成される小額消去レコードに割り当てる理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RAxx (xxは理由コード) も設定する必要があります。

2. 入金不足の処理

入金レベルで発生し、設定した許容額を超過している入金不足の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 再請求レコードが作成されます。

1: 損金 that 作成されます。

注意: 複数の請求書に対する支払の場合、単独の再請求または損金レコードが作成されます。

再請求理由コード

入金不足分が小額消去処理の限度額を超過している場合に作成される再請求に割り当てる理由コードを指定します。処理オプション「入金不足の処理」をブランクにした場合のみ、この処理オプションを使用します。有効な再請求理由コードはUDC 03B/CBに定義されています。

注意: 単独の再請求レコードが作成される場合、相手勘定フィールドはブランクです。1件のみの請求書に対して入金があり、再請求レコードが作成される場合は、元の請求書に割り当てられた相手勘定科目が使用されます。

損金理由コード

入金レベルでの入金不足に対して作成される損金に割り当てる理由コードを指定します。「入金消込 (Apply Receipts)」タブで「入金不足の処理」処理オプションに1を設定した場合のみ、この処理オプションを使用します。有効な損金理由コードは、UDC 03B/CRに定義されています。使用する損金仮勘定科目を指定するには、それに対応するAAI項目RNも設定する必要があります。

3. 過入金許容額

入金レベルで発生した過入金の処理に適用される限度額を指定します。F03B13Z1テーブルで、入金額 (小切手金額フィールド「CKAM」) と請求書の消込金額 (総額フィールド「AG」) の差額がここで指定した金額以下の場合、残額は小額消去として自動的に処理されます。プラスの金額を入力します。

注意: 複数の請求書に対する入金の場合、単独の小額消去が作成されません。

たとえば、980.00の請求に対して1000.00の入金があり、許容額が25.00に設定されている場合には、差額の20.00は小額消去として自動的に処理されます。

差額がここで指定した金額を超える場合、未充当入金レコードが作成されます。

たとえば、950.00の請求に対して1000.00の入金があり、許容額が25.00に設定されている場合には、50.00の未充当入金レコードが作成されます。

複数通貨を使用する場合は、このプログラムの通貨別のバージョンを作成します。この処理オプションでは特定の通貨ごとに指定します。使用されるのは入金通貨です。

4. 過入金理由コード

入金レベルで過入金があった場合に小額消去に割り当てる理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RAxx (xxは理由コード) も設定する必要があります。

金額照合

この処理オプションでは、重複する請求書番号の処理方法や、「入金消込 (Apply Invoices)」タブで指定した許容限度額を照合対象の請求書の選択に使用するかどうかを指定します。

1. 重複請求書照合

重複した請求書番号を処理するかどうかを指定します。F03B13Z1テーブルで支払項目を指定せず、請求書に複数の支払項目が含まれている場合、同じ請求書番号を持つすべての請求書レコードは重複とみなされます。値は次のとおりです。

ブランク: 重複請求書は処理されません。請求書の重複が見つかった場合、入金の消込はどの請求書に対しても行われません。

1: 支払対象となる請求書が金額によって識別されます。未決済金額が入金額と最も近い請求書に対して入金が消し込まれます。

2. 許容額

処理対象の請求書レコードの選択に、「入金消込 (Apply Invoices)」タブで指定した許容額を使用するかどうかを指定します。指定した許容額を超過している請求書の処理が不要な場合は、このオプションを使用して処理時間を短縮できます。

空白: 請求書レコードの選択には、指定された許容額は適用されません。すべての請求書が処理されてから、指定した許容額に基づいて、入金不足や過入金の処理を行うかどうかが決まります。

1: 指定した許容額が使用されます。請求書の金額が許容額を超えている場合は、処理が停止され、その請求書に対して入金は消し込まれません。

照合優先順位

この処理オプションでは、売掛金元帳テーブル (F03B11) での請求書レコードの検索方法を指定します。有効な値は1から6であり、1が最も高い優先順位を表します。このタブでは次の項目に優先順位を設定できます。

- 請求書番号
- 受注オーダー番号
- 顧客参照番号
- 計算書番号
- 出荷番号
- 入金照合参照番号1

「照合優先順位」タブのすべての処理オプションに値を入力する必要はありません。複数のオプションを設定する場合は、各オプションに異なる値を指定してください。

請求書番号、受注オーダー番号、顧客参照番号、計算書番号、出荷番号、入金照合参照番号1

自動入金処理で請求書の選択に使用される検索方法の優先順位を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 最高優先度: この検索方法が最初に使用されます。
- 2: 高優先度: この検索方法が2番目に使用されます。
- 3: 中優先度: この検索方法が3番目に使用されます。
- 4: 低優先度: この検索方法が4番目に使用されます。
- 5: 最低優先度: この検索方法が最後に使用されます。
- 6: 最低優先度: この検索方法が最後に使用されます。

検索方法フィールドを空白にした場合、その検索方法は使用されず、指定した他の検索方法のみを使用して検索されます。5つのフィールドをすべて空白にした場合、すべての検索方法が表示されている順序で使用されます。

割引

この処理オプションでは、請求書の未決済金額から割引額を差し引いた金額がF03B13Z1テーブルに対して消し込まれる金額よりも小さい場合の割引の処理方法を指定します。差額分の小額消去を作成するかわりに、割引額をゼロに調整できます。

次に例を示します。

- 請求書番号5: 100.00

- 割引額: 5.00
- 入金額: 97.00

「割引額の調整」処理オプションに「1」を入力すると、請求書に対して97.00が消し込まれ、割引額が5.00から3.00に減らされます。

このオプションを空白にすると、請求書には95.00、割引額には5.00が消し込まれ、2.00の小額消去が作成されます。

割引額の調整

請求書の未決済金額から割引額を差し引いた金額より入金額が大きい場合に割引額を調整するかどうかを指定します。

たとえば、未決済金額100.00 USD、割引額5.00 USDの請求書に対して97.00 USDの入金があったとします。割引額を3.00に減額して97.00の全額を消し込むか、95.00を消し込んで2.00を小額消去として処理できます。

値は次のとおりです。

空白: 割引実施額は減額されず、差額の小額消去が作成されます。

1: 割引実施額は減額され、小額消去は作成されません。

既知請求書照合(金額指定なし)(R03B50E)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

入金消込 (Apply Invoices)

この処理オプションでは、割引を伴う請求書と入金の消込方法を指定します。

1. 割引認識方法

すべての割引を処理するか、または有効な割引のみを処理するかを指定します。入金の元帳日付が割引期日以前の場合のみ、割引が有効になります。値は次のとおりです。

空白: すべての割引が処理されます。

1: 有効な割引のみが処理されます。

2. 割引理由コード

割引が行われる際に使用される割引理由コードを指定します。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxx(xxは理由コード)も設定してください。

3. 猶予日数

割引の有効期間を延長する日数を指定します。

入金消込 (Apply Receipts)

この処理オプションでは、入金額が請求書に対する合計消込金額と異なる場合の過入金および入金不足の処理方法を指定します。

1. 入金不足許容額

入金不足分を小額消去として処理できる限度額を指定します。F03B13Z1テーブルで、入金額(小切手金額フィールド「CKAM」)と支払われた請求書の合計未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、その差額(残額)に対して単独の小額消去が作成されます。

注意: 1件の請求書のみに対する入金の場合、その請求書は自動的に小額消去として処理され、単独の小額消去は作成されません。

たとえば、許容額が25.00 USDの場合、合計1000.00 USDの請求書（各請求書は500.00 USD）に対して980.00 USDの入金があれば、入金不足分の20.00 USDは小額消去として自動的に処理されます。

複数の通貨を使用する場合、入金不足の請求書の小額消去処理の限度額には、請求書や会社の通貨コードではなく、入金の通貨コードが使用されます。入金の消込プログラム（R03B50）を使用して自動入金処理を実行する場合は、このプログラムに入金通貨別のバージョンを設定し、データ選択で通貨コードを指定します。

小額消去理由コード

入金不足が発生した場合に入金レベルで作成される小額消去に割り当てる理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目 RAXx（xxは理由コード）も設定する必要があります。

2. 入金不足の処理

指定した許容額を超過している入金不足の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 再請求レコードが作成されます。

1: 損金が発生します。

注意: 複数の請求書に対する支払の場合、単独の再請求または損金レコードが作成されます。

再請求理由コード

入金不足が小額消去処理の限度額を超過している場合に作成される再請求に割り当てる理由コードを指定します。処理オプション「入金不足の処理」をブランクにした場合のみ、この処理オプションを使用します。有効な再請求理由コードはUDC 03B/CBに定義されています。

注意: 単独の再請求レコードが作成される場合、相手勘定フィールドはブランクです。1件のみの請求書に対して入金があり、再請求レコードが作成される場合は、元の請求書に割り当てられた相手勘定科目が使用されます。

損金理由コード

入金不足に対して作成される損金に割り当てる理由コードを指定します。「入金消込（Apply Receipts）」タブで処理オプション「入金不足の処理」に1を設定した場合のみ、この処理オプションを設定します。有効な損金理由コードは、UDC 03B/CRに定義されています。使用する損金仮勘定科目を指定するには、それに対応するAAI項目 RNも設定する必要があります。

3. 過入金許容額

過入金を小額消去として処理できる限度額を指定します。F03B13Z1テーブルで、入金額（小切手金額フィールド - CKAM）と支払われた請求書の合計未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、残額は小額消去として自動的に処理されます。プラスの金額を入力します。

注意: 複数の請求書に対する入金の場合、単独の小額消去が作成されません。

たとえば、980.00の請求に対して1000.00の入金があり、許容額が25.00に設定されている場合には、差額の20.00は小額消去として自動的に処理されます。

差額がここで指定した金額を超える場合、未充当入金レコードが作成されます。

たとえば、950.00の請求に対して1000.00の入金があり、許容額が25.00に設定されている場合には、50.00の未充当入金レコードが作成されます。

複数通貨を使用する場合、過入金の請求書の小額消去限度額には請求書や会社の通貨コードではなく、入金通貨コードが使用されます。入金の消込プログラム(R03B50)を使用して自動入金処理を実行する場合は、このプログラムに入金通貨別のバージョンを設定し、データ選択で通貨コードを指定します。

4. 過入金理由コード

過入金が発生した場合に入金レベルで作成される小額消去に割り当てる理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

照合優先順位

この処理オプションでは、F03B11テーブルでの請求書レコードの検索方法を指定します。有効な値は1から6であり、1が最も高い優先順位を表します。このタブでは次の項目に優先順位を設定できます。

- 請求書番号
- 受注オーダー番号
- 顧客参照番号
- 計算書番号
- 出荷番号
- 入金照合参照番号1

このタブのすべての処理オプションに値を入力する必要はありません。複数のオプションを設定する場合は、各オプションに異なる値を指定してください。「照合優先順位」タブの処理オプションをブランクにした場合、次のいずれかの処理が行われます。

- F03B13Z1テーブルの請求書番号フィールド(RUD0C)がブランクではない場合、処理オプション「請求書番号」が使用されます。
- F03B13Z1テーブルの請求書番号フィールド(RUD0C)がブランクの場合、請求書と入金の照合は行われません。

請求書番号、受注オーダー番号、顧客参照番号、計算書番号、出荷番号、入金照合参照番号1

自動入金処理で請求書の選択に使用される検索方法の優先順位を指定します。

有効値は、ブランク、「1」、「2」、「3」、「4」、「5」および「6」です。検索方法フィールドをブランクにした場合、その検索方法は使用されず、指定した他の検索方法のみを使用して検索されます。5つのフィールドをすべてブランクにした場合、すべての検索方法が表示されている順序で使用されます。

残高繰越照合(R03B50B)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

入金消込

この処理オプションでは、割引を伴う請求書と入金の照合方法を指定します。

1. 割引認識方法
すべての割引を処理するか、または有効な割引のみを処理するかを指定します。入金元帳日付が割引期日以前の場合のみ、割引が有効になります。値は次のとおりです。
空白: すべての割引が処理されます。
1: 有効な割引のみが処理されます。
2. 割引理由コード
割引が行われる際に使用される割引理由コードを指定します。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxx(xxは理由コード)も設定してください。
3. 猶予日数
割引の有効期間を延長する日数を指定します。
4. 請求書照合モード
自動入金処理の対象として選択される請求書を指定します。値は次のとおりです。
空白: 支払人と顧客の情報が使用されます。売掛金元帳テーブル(F03B11)の入金レコードと同じフィールドの値を持つ請求書レコードのみが、入金見出しテーブル(F03B13)から選択されます。同じ値が入力されている必要があるフィールドは、請求書レコード(F03B11)の顧客フィールド(AN8)および支払人フィールド(PYR)と、入金レコードの住所番号フィールド(AN8)および支払人フィールド(PYR)です。
たとえば、F03B11の請求書レコードの顧客が1001、支払人が1002の場合、F03B13の入金レコードの住所番号は1001、支払人は1002である必要があります。
1: 支払人の情報のみが使用されます。支払人フィールド(PYR)の値が入金レコードの支払人フィールド(PYR)の値と同じである請求書レコードのみが入金見出しテーブルから選択されます。

請求書選択照合(R03B50A)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

照合

この処理オプションでは、請求書照合を、未決済金額、割引可能額を差し引いた金額、または割引実施額を差し引いた金額のどれに基づいて実行するかを指定します。割引は、入金日付が割引期日と同じかそれより前の日付の場合に実施されます。請求書選択照合の処理を実行するには、いずれかのオプションを選択する必要があります。処理オプションをより多く選択すると、一致する請求書が見つかる可能性はその分だけ高くなります。

1. 未決済請求額
未決済の請求書に対して入金を消し込む際に割引を無視するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 未決済金額から割引額を差し引いた金額と入金が消し込まれます。処理オプション2(「提示割引額の差引後」)または処理オプション3(「有効割引額の差引後」)のいずれかに値を入力する必要があります。
1: 未決済金額と入金が消し込まれ、割引は無視されます。
2. 提示割引額の差引後
この処理オプションは、未決済金額から割引可能額を差し引いた金額と入金の消込を行う場合に使用します。入金の消込の前に、請求書の未決済金額から割引可能額が差し引かれます。値は次のとおりです。

ブランク: 未決済金額と入金が消し込まれ、割引は無視されます。ブランクを選択した場合、「未決済請求額」処理オプションには「1」を入力する必要があります。

1: 未決済金額から割引可能額を引いた金額と入金が消し込まれます。

3. 有効割引額の差引後

この処理オプションは、未決済金額から割引実施額を差し引いた金額と入金の消込を行う場合に使用します。入金の消込の前に、請求書の未決済金額から割引実施額が差し引かれます。入金の元帳日付が割引期日以前の場合のみ、割引が有効になります。値は次のとおりです。

ブランク: 未決済金額と入金が消し込まれ、割引は無視されます。ブランクを選択した場合、「未決済請求額」処理オプションには「1」を入力する必要があります。

1: 未決済金額から割引実施額を引いた金額と入金が消し込まれます。

4. 入金不足許容額

入金不足分を小額消去として処理できる限度額を指定します。F03B13Z1テーブルで、入金額(小切手金額フィールド - CKAM)と支払われた請求書の合計未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、その差額(残額)に対して単独の小額消去が作成されます。

注意: 1件の請求書のみに対する入金の場合、その請求書は自動的に小額消去として処理され、単独の小額消去は作成されません。ここで指定する限度額は、個別の請求書の金額ではなく、請求書の累計に対して適用されます。

複数の通貨を使用する場合、入金不足の請求書の小額消去処理の限度額には、請求書や会社の通貨コードではなく、入金の通貨コードが使用されます。入金の消込プログラム(R03B50)を使用して自動入金処理を実行する場合は、このプログラムに入金通貨別のバージョンを設定し、データ選択で通貨コードを指定します。

5. 入金不足理由コード

入金不足分が発生した場合に入金レベルで作成される小額消去に割り当てる理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

6. 過入金許容額

過入金を小額消去として処理できる限度額を指定します。F03B13Z1テーブルで、入金額(小切手金額フィールド - CKAM)と支払われた請求書の合計未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、残額は小額消去として自動的に処理されます。プラスの金額を入力します。

注意: 複数の請求書に対する入金の場合、単独の小額消去が作成されず。

たとえば、980.00の請求に対して1000.00の入金があり、許容額が25.00に設定されている場合には、差額の20.00は小額消去として自動的に処理されます。

差額がここで指定した金額を超える場合、未充当入金レコードが作成されます。

たとえば、950.00の請求に対して1000.00の入金があり、許容額が25.00に設定されている場合には、50.00の未充当入金レコードが作成されます。

複数通貨を使用する場合、過入金の請求書の小額消去限度額には、請求書や会社の通貨コードではなく、入金の通貨コードが使用されます。入金の消込プログラム(R03B50)を使用して自動入金処理を実行する場合は、このプログラムに入金通貨別のバージョンを設定し、データ選択で通貨コードを指定します。

7. 過入金理由コード

過入金が発生した場合に入金レベルで作成される小額消去に割り当てる理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

消込

この処理オプションでは、「照合」タブでのオプションの設定に基づいて、請求書に対する入金の消込方法を指定します。

1. 失効割引の処理

無効な割引(顧客が割引期日を過ぎてから割引額を差し引いて支払った場合)を処理する方法を指定します。この処理オプションは、「照合」タブの「提示割引額の差引後」処理オプションで1を設定した場合のみ有効です。値は次のとおりです。

ブランク: 失効した割引が許可されます。

1: 失効した割引に対して小額消去が作成されます。

2: 失効した割引に対して再請求が作成されます。

3: 該当分のみ充当され、割引額分が未決済として残されます。

4: 損金を作成されます。

小額消去理由コード

無効割引が発生した場合に作成される小額消去に割り当てる理由コードを指定します。処理オプション「失効割引の処理」で1を設定した場合のみ、この処理オプションを設定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

再請求理由コード

無効割引が発生した場合に作成される再請求に割り当てる理由コードを指定します。処理オプション「失効割引の処理」で2を設定した場合のみ、この処理オプションを設定します。有効な再請求理由コードはUDC 03B/CBに定義されています。

注意: 単独の再請求レコードが作成される場合、相手勘定フィールドはブランクです。1件のみの請求書に対して入金があり、再請求レコードが作成される場合は、元の請求書に割り当てられた相手勘定科目が使用されます。

損金理由コード

無効割引が発生した場合に作成される損金に割り当てる理由コードを指定します。処理オプション「失効割引の処理」で4を設定した場合のみ、この処理オプションを設定します。有効な損金理由コードは、UDC 03B/CRに定義されています。使用する損金仮勘定科目を指定するには、それに対応するAAI項目RNも設定する必要があります。

3. 猶予日数

割引の有効期間を延長する日数を指定します。

4. 割引理由コード

割引が行われる際に使用される割引理由コードを指定します。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxx(xxは理由コード)も設定してください。

組合せ請求書照合(R03B50F)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

照合

この処理オプションでは、請求書の照合時に割引とクレジット・メモを考慮するかどうかを指定します。

1. 未決済請求額

この処理オプションを設定すると、未決済請求額と入金が消し込まれ、割引は無視されます。値は次のとおりです。

空白: 未決済金額から割引額を差し引いた金額と入金が消し込まれます。処理オプション2(「提示割引額の差引後」)または処理オプション3(「有効割引額の差引後」)のいずれかに値を入力する必要があります。

1: 未決済金額と入金が消し込まれ、割引は無視されます。

2. 提示割引額の差引後

この処理オプションは、未決済金額から割引可能額を差し引いた金額と入金の消込を行う場合に使用します。入金の消込の前に、請求書の未決済金額から割引可能額が差し引かれます。値は次のとおりです。

空白: 未決済金額と入金が消し込まれ、割引は無視されます。空白を選択した場合、「未決済請求額」処理オプションには「1」を入力する必要があります。

1: 未決済金額から割引可能額を引いた金額と入金が消し込まれます。

3. 有効割引額の差引後

この処理オプションは、未決済金額から割引実施額を差し引いた金額と入金の消込を行う場合に使用します。入金の消込の前に、請求書の未決済金額から割引実施額が差し引かれます。入金の元帳日付が割引期日以前の場合のみ、割引が有効になります。値は次のとおりです。

空白: 未決済金額と入金が消し込まれ、割引は無視されます。空白を選択した場合、「未決済請求額」処理オプションには「1」を入力する必要があります。

1: 未決済金額から割引実施額を引いた金額と入金が消し込まれます。

4. 差額除外による照合

この処理オプションは、支払対象としない請求書を指定し、それ以外のすべての請求書に対して入金消込処理を行う場合に使用します。1件の入金で多数の請求書に対する支払が行われる可能性がある場合に、この処理オプションを設定します。入金額と合計未決済金額の差額が計算され、合計額がその金額と一致する請求書の組合せが検索されます。一致する請求書の組合せが見つかった場合、その組合せに含まれないすべての請求書に対して入金の消込が行われます。

たとえば、900.00の入金があり、次のような請求書があるとします。

- 請求書番号 100: 50.00
- 請求書番号 102: 150.00
- 請求書番号 103: 200.00
- 請求書番号 104: 500.00
- 請求書番号 105: 30.00
- 合計 930.00

請求書の合計金額は930.00と算出され、金額が30.00の請求書または合計すると30.00になる請求書の組合せが検索されます。30.00の請求書が見つ

かった場合、入金額に達するまで各請求書の金額を順に加算するのではなく、見つかった請求書以外の、残りの請求書に対して入金が消し込まれます。

値は次のとおりです。

ブランク: 除外による照合は実行されません。

1: 除外による照合が実行されます。

除外による照合を行う場合、新しい日付の請求書が先に除外対象となるように請求書日付の降順でソートします。

5. クレジット・メモの適用

照合処理にクレジット・メモを含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: クレジット・メモを含めません。

1: クレジット・メモを含めます。

消込

この処理オプションでは、請求書に対する入金の消込方法を指定します。

1. 失効割引の処理

無効な割引(顧客が割引期日を過ぎてから割引額を差し引いて支払った場合)を処理する方法を指定します。この処理オプションは、「照合」タブの「提示割引額の差引後」処理オプションで1を設定した場合のみ有効です。値は次のとおりです。

ブランク: 失効した割引が許可されます。

1: 失効した割引に対して小額消去が作成されます。

2: 失効した割引に対して再請求が作成されます。

3: 該当分のみ充当され、割引額は未決済として残されます。

4: 損金が発生します。

小額消去理由コード

無効割引が発生した場合に作成される小額消去に割り当てる理由コードを指定します。処理オプション「失効割引の処理」で1を設定した場合のみ、この処理オプションを設定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。使用する小額消去勘定を指定するには、それに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

再請求理由コード

無効割引が発生した場合に作成される再請求に割り当てる理由コードを指定します。処理オプション「失効割引の処理」で2を設定した場合のみ、この処理オプションを設定します。有効な再請求理由コードはUDC 03B/CBに定義されています。

注意: 単独の再請求レコードが作成される場合、相手勘定フィールドはブランクです。1件のみの請求書に対して入金があり、再請求レコードが作成される場合は、元の請求書に割り当てられた相手勘定科目が使用されます。

損金理由コード

無効割引が発生した場合に作成される損金に割り当てる理由コードを指定します。処理オプション「失効割引の処理」で4を設定した場合のみ、この処理オプションを設定します。有効な損金理由コードは、UDC 03B/CRに定義されています。使用する損金仮勘定科目を指定するには、それに対応するAAI項目RNも設定する必要があります。

- | | |
|-------------------|--|
| 3. 猶予日数 | 割引の有効期間を延長する日数を指定します。 |
| 4. 割引理由コード | 割引が行われる際に使用される割引理由コードを指定します。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxx(xxは理由コード)も設定してください。 |

パフォーマンス

この処理オプションでは、組合せ照合で利用できる請求書の数を指定します。一度に選択される請求書の件数と、各組合せに利用できる請求書の件数を設定できます。

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 選択する請求書の件数 | <p>組合せを決定する際に選択される請求書の件数(最大10件まで)を指定します。このフィールドは「請求書組合せ制限」処理オプションとあわせて使用されます。</p> <p>たとえば、請求書の最大件数を6、この組合せ制限の値を3と指定すると、6件の請求書が選択され、3件の請求書を様々な組み合わせることにより一致する金額が検索されます。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、10件の請求書が選択されます。</p> |
| 2. 請求書組合せ制限 | <p>検証に使用される1つの組合せに含めることができる請求書の件数を指定します。</p> <p>たとえば、請求書の最大件数を6、この組合せ制限の値を3と指定すると、6件の請求書が選択され、3件の請求書を様々な組み合わせることにより一致する金額が検索されます。</p> <p>処理オプション「選択する請求書の件数」で指定した件数を超えない件数を指定してください。この処理オプションをブランクにすると、処理オプション「選択する請求書の件数」で指定した件数が自動的に請求書組合せの上限となります。</p> |

実行リストの定義と改訂

この項では、実行リストの概要と、実行リストの定義方法について説明します。

実行リストについて

アルゴリズムを定義した後には、自動入金処理でのアルゴリズムの処理順序を指定する必要があります。アルゴリズムとその処理順序は、各顧客とその支払慣習によって異なる場合があります。実行リストの定義によって、アルゴリズムの処理順序を指定できます。

定義した実行リストは、自動入金処理の実行前にいつでも変更できます。たとえば、次のようにできます。

- アルゴリズムの処理順序の変更
- 処理される基本方式のバージョンの変更
- アルゴリズムの追加または削除

実行リストに関する情報は、入金消込アルゴリズム実行リスト・テーブル(F03B50)に保存されます。

実行リストの定義と改訂に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------------|---------|--|-----------------------------------|
| アルゴリズム実行リストの処理 | W03B50A | 「自動入金処理」(G03B13)、「実行リストの定義」 | 実行リストを検索します。 |
| アルゴリズム実行リストの改訂 | W03B50C | <ul style="list-style-type: none"> 「アルゴリズム実行リストの処理」で、「追加」をクリックして新しい実行リストを作成します。 「アルゴリズム実行リストの処理」で、変更する実行リストを選択して、「選択」をクリックします。 | 新規の実行リストを追加するか、または既存の実行リストを改訂します。 |

実行リストの定義

「アルゴリズム実行リストの改訂」フォームにアクセスします。

実行リストの定義 - アルゴリズム実行リストの改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

実行リスト STANDARD Standard Execution List

レコード 1 - 7 グリッドのカスタマイズ

| | 順序 No. | 基本 * 方式 | 記述 | アルゴリズムバージョン | アルゴリズム記述 |
|----------------------------------|--------|---------|---------------|-------------|------------------------|
| <input checked="" type="radio"/> | 1.00 | R03B50D | 既知請求書照合(金額付き) | XJDE0001 | Match All Invoices |
| <input type="radio"/> | 2.00 | R03B50E | 既知請求書照合(金額なし) | XJDE0001 | Match All Invoices |
| <input type="radio"/> | 3.00 | R03B50A | 請求書選択照合 | XJDE0002 | Exclude Chargebacks |
| <input type="radio"/> | 4.00 | R03B50A | 請求書選択照合 | XJDE0001 | Match All Invoices |
| <input type="radio"/> | 5.00 | R03B50A | 請求書選択照合 | XJDE0003 | Only Match Chargebacks |
| <input type="radio"/> | 6.00 | R03B50F | 組合せ請求書照合 | XJDE0001 | Match All Invoices |
| <input type="radio"/> | 7.00 | | | | |

「アルゴリズム実行リストの改訂」フォーム

実行リスト

プログラムの実行順序を定義するアルゴリズムのリストに割り当てる名前を入力します。

実行リストの記述

実行リストのユーザー定義名や説明を入力します。

順序No.

実行リスト内でのアルゴリズムの処理順序を示す数値が表示されます。

基本方式

アルゴリズムのプログラム番号を入力します。プログラム番号とは、入金と請求書の照合を行うために、実行リストで使用される指示のセットです。UDC 03B/ALに設定されているプログラム番号を入力してください。

記述

「基本方式」フィールドに入力したアルゴリズムに割り当てられている記述が表示されます。

アルゴリズムバージョン 実行リストの実行時に使用されるアルゴリズムのバージョンを入力します。

自動入金処理のための顧客の設定

顧客からの入金を自動的に処理するには、顧客マスター・レコードの「自動入金 (Y/N)」チェックボックスを選択しておく必要があります。

また、顧客の支払慣習が標準的な形態と異なるために独自の実行リストが必要な場合は、該当する顧客レコードに対して実行リストを指定できます。通常は、入金見出しの更新プログラム (R03B551) の処理オプションで、複数の顧客に適用できるデフォルトの実行リストを指定します。ただし、特定の顧客に対して独自の実行リストを作成し、その顧客への請求書に対しては異なるアルゴリズムを実行することもできます。

最後に、自動入金処理では、支払条件の指定は必須ではありませんが、自動入金処理を行う顧客別に支払条件を割り当てると、支払条件を使用して処理する対象を選択したり、レポートを作成できます。

関連項目:

第 3 章、「顧客マスター情報の設定」、「顧客マスター・レコードの作成」、33 ページ

第 6 章

与信/回収管理の設定

この章では、与信/回収管理の概要、事前設定、および次の作業を行う方法について説明します。

- 与信/回収期間パターンの設定
- 活動コードの設定
- 延滞方針の設定
- 計算書/延滞通知レターテキストの設定
- 信用保険契約の設定
- 与信/回収管理者の設定
- 顧客への与信/回収情報の割当
- 与信/回収のワークフロー・メッセージの有効化

与信/回収管理について

与信や回収情報を効果的に管理することは、経理部門にとって必須事項です。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムには、収入の回収、顧客勘定の管理、顧客の支払行動の追跡を行うための、様々な与信/回収機能が含まれています。

これらの機能には、顧客請求書の期日や与信限度額の超過などを自動的に通知する機能も含まれています。請求書の年齢調べまたは重要度レベルに応じて、様々な文章を使用して延滞通知を設定できます。顧客とのビジネスにあわせた延滞処理方針を設定したり、延滞利息金を請求書の期日からの経過日数に応じて加算するか、固定金額として課すかを設定できます。

顧客の与信情報や回収情報を様々な方法で効果的に管理できます。

与信情報

与信情報の管理では、各種の機能が集中するオンライン・ロケーションから、様々な顧客情報にアクセスできます。たとえば、次のようにできます。

- 顧客の与信状況集計の検討と与信限度額の超過の識別
- 予定検討日付の顧客勘定科目の監視
- 与信限度額や与信検討日付の変更と更新
- 信用保険限度の設定
- 顧客に関する備考の入力と検討
- 与信に関して注意が必要な顧客の日次リストの作成
- 特定の与信管理者や販売地域、顧客担当者別の未処理および処理済項目の履歴データの検討

- ・ 顧客の現在の年齢調べ情報の表示と検討

回収情報

回収情報の管理では、次の処理が可能です。

- ・ 多様な売掛管理情報を利用した迅速な顧客勘定の分析と回収決定
- ・ 支払約束を追跡管理するための将来のメッセージの作成
- ・ カスタマイズした顧客リストを使用した回収問題やその他の情報の検討と記録
- ・ 請求書の印刷
- ・ 計算書の作成
- ・ 支払期日を過ぎている顧客勘定に対する延滞通知の作成
- ・ 支払期日を過ぎている請求書に対する延滞利息金の計算
- ・ 延滞通知と延滞利息金の検討と承認
- ・ 顧客の期間情報や実績情報の検討
- ・ 顧客の支払傾向や取引実績の検討と分析
- ・ 必要な回収作業を決定するための顧客の活動ログの検討
- ・ 外部機関用のレポートの作成

この章で使用する共通フィールド

回収管理者の承認必須

このチェックボックスを選択すると、次の項目に保留の状況が割り当てられます。

- ・ 延滞利息金: 延滞利息金を設定する場合
- ・ 延滞通知: 延滞通知指示を設定する場合

このチェックボックスを選択すると、延滞利息金や延滞通知の処理には回収管理者による事前の承認が必須になります。このチェックボックスの選択を解除すると、延滞利息金と延滞通知に承認済の状況が自動的に割り当てられます。

注意: 延滞利息金のレコード(伝票タイプRF)は、延滞利息金が承認された後でF03B11テーブルに作成されます。

通貨コード

延滞通知指示と延滞利息金指示の「最低金額」フィールドで指定する金額の通貨コードを入力します。

猶予日数

回収を行うために請求書の支払期日を延長する日数を入力します。通常は、支払期日に小切手を郵送してから受け取るまでに要する日数を指定します。

この日数は、延滞利息金の初回計算時に使用されます。同じ請求書の2回目以降の計算には、前回延滞利息金計算日付フィールドの値が使用されます。

回収管理者への通知

このチェックボックスを選択すると、請求書の支払期日が過ぎている場合に与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)を実行したときに、回収管理者にワークフロー・メッセージが送信されます。このチェックボックスの

選択が解除されている場合、回収管理者にワークフロー・メッセージは送信されません。

一時与信メッセージ

暫定的な与信状況を示すユーザー定義コード(UDC)を入力します。通常、このコードは、勘定の支払期日が過ぎた場合に手動で割り当てます。顧客に割り当てられている方針の延滞通知指示に基づいて、一時与信メッセージが自動的に更新されます。方針に含まれるこのオプションを有効にした場合、一時与信メッセージは自動的に与信メッセージにリセットされます。顧客レコードに対し、一時与信メッセージの入力および更新を手動で行うことも可能です。

このフィールドを空白にすると、請求書が指定した年齢調べカテゴリに含まれる場合に、与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)を実行したときに、与信メッセージ・フィールドの値が割り当てられます。

一時与信メッセージは、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムと受注管理システムの取引入力フォームに表示されます。

事前設定

UDCテーブル03B/LTにレタータイプを指定する値を設定します。

与信/回収期間パターンの設定

この項では、与信/回収期間パターンの概要と、与信/回収期間パターンの追加方法について説明します。

与信/回収期間パターンについて

特定の期間内に発生した顧客取引情報を検討する場合は、与信/回収期間パターンを設定する必要があります。期間パターンは、会計年度の開始日付とその会計年度の各期間の終了日付を示します。指定した期間パターンを使用して、統計情報の処理と表示が行われます。たとえば、次の項目の計算には期間パターンが使用されます。

- 一定期間内に特定の顧客に請求した合計金額
- 支払遅延請求書の金額と件数
- 顧客の最高残高の金額と日付
- 売掛金回収平均日数(DSO)
- 年齢調べ情報

システム内に保存されている請求書と入金の各会計年度とそれらの次の年度の与信/回収期間パターンを設定する必要があります。

期間パターンを使用すると、特殊なレポートの要件にあわせて、各期間を柔軟に設定できます。期間パターンは必要な数だけ設定できます。たとえば、52期間を設定しておく、週単位で顧客状況のレポートを作成できます。また、会計年度ではなくカレンダー年度で情報を検討することもできます。

顧客の与信/回収期間パターンの設定時に会社を指定しなかった場合は、与信/回収期間パターンの会社00000のデフォルト情報が使用されます。会社00000に対しては、期間パターンを設定する必要があります。各会社に対して期間パターンを設定する必要はありません。ただし、固有のレポート要件を持つ会社に対しては個別に期間パターンを設定します。

与信/回収期間パターンは、与信履歴の更新プログラム(R03B16A)を実行する場合にのみ使用されます。その他のすべての売掛管理プログラムでは、会社に対して設定された期間パターンが使用されます。与信/回収期間パターンは、与信/回収期間パターン・テーブル(F03B08)に保管されます。

与信履歴の更新プログラムを実行した後は、与信/回収期間パターンを変更しないでください。期間パターンの変更は、統計除去データの再転記プログラム(R03B163)を実行して売掛金統計履歴テーブル(F03B16)と売掛金統計サマリーテーブル(F03B16S)のデータをリセットできる場合のみ行ってください。

参照: 第 20 章、「顧客分析のための売掛管理統計の更新」、「統計実績レコードの除去」、443ページ

与信/回収期間パターンの設定に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------------|---------|--|---|
| 与信/回収期間パターンの処理 | W03B08A | 「与信/回収管理セットアップ」(G03B411)、「与信/期間回収パターン」 | 与信/回収期間パターンを検索します。 |
| 与信/回収期間パターンの設定 | W03B08C | 「与信/回収期間パターンの処理」フォームで「追加」をクリックします。 | 会計期間パターンを設定して、会計年度の開始日付とその年度内の各期間の終了日付を指定します。 |

与信/回収期間パターンの追加

「与信/回収期間パターンの設定」フォームにアクセスします。

与信/回収期間パターン - 与信/回収期間パターンの設定

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

会社番号 *

00001

Financial/Distribution C

会計年度開始日付

2004/01/01

会計年度

4

西暦上2桁 *

20

☐ 現行年度

レコード 1 - 10 > < グリッドのカスタマイズ

| | 終了日付 | 期間日数 |
|----------------------------------|------------|------|
| <input checked="" type="radio"/> | 2004/01/31 | 31 |
| <input type="radio"/> | 2004/02/29 | 29 |
| <input type="radio"/> | 2004/03/31 | 31 |
| <input type="radio"/> | 2004/04/30 | 30 |
| <input type="radio"/> | 2004/05/31 | 31 |
| <input type="radio"/> | 2004/06/30 | 30 |
| <input type="radio"/> | 2004/07/31 | 31 |
| <input type="radio"/> | 2004/08/31 | 31 |
| <input type="radio"/> | 2004/09/30 | 30 |
| <input type="radio"/> | 2004/10/31 | 31 |

「与信/回収期間パターンの設定」フォーム

- 会計年度開始日付

会計年度の初日を入力します。
- 会計年度

会計期間が終了する年ではなく、最初の会計期間が終わる年を会計年度として指定します。
たとえば、会計年度が2008年10月1日に始まり、2009年9月30日に終了する場合は、「09」ではなく「08」と入力します。最初の会計期間の終了日は2008年10月31日です。
請求書金額の更新処理を実行すると、与信/回収期間パターンの会計年度は自動的に更新されます。
- 西暦上2桁

西暦の上2桁を入力します。たとえば、19は19で始まる年度（1998、1999など）、20は20で始まる年度（2000、2001など）を示します。
- 現行年度

会計年度を現行年度に指定するには、このチェックボックスを選択します。
現行年度に期間パターンを1つ指定する必要があります。
- 終了日付

指定した期間パターンの与信/回収期間が終了する日付を指定します。与信/回収期間パターンは、統計レポートの作成のみに使用されます。
- 期間日数

1つの会計期間に含まれる日数を入力します。

このフィールドをblankにすると、入力した終了日付に基づいてその期間の日数が計算されます。

活動コードの設定

この項では、活動コードの概要と、活動タイプ・コードの追加方法について説明します。

活動コードについて

特定の活動が発生すると活動メッセージが自動的に作成されます。各メッセージはハードコード化されている活動タイプと関連付けられています。次の表は、活動タイプ、自動作成される活動メッセージ、メッセージを作成するプロセスの一覧です。

| 活動タイプ | 活動メッセージ | プロセスの説明 |
|-------|----------|---|
| 20 | 回収の検討が必要 | 「顧客マスターの改訂」フォームの「与信検討日付」フィールドの期日が過ぎ、与信分析のリフレッシュ・プログラムが実行されると、このメッセージが作成されます。 |
| 21 | 与信限度超過額 | 未決済請求書の合計金額が「顧客マスターの改訂」フォームの「与信限度額」フィールドに入力された金額を超過し、与信分析のリフレッシュ・プログラムが実行されると、このメッセージが作成されます。 |
| 22 | 与信限度額更新 | 「顧客マスターの改訂」フォームの「与信限度額」フィールドの金額が変更されると、このメッセージが作成されます。 与信限度額の変更に承認が必要な場合は、変更が承認されるまでメッセージは作成されません。 |
| 30 | 支払約束メモ | 支払約束メッセージを手動で入力します。 |
| 40 | 延滞通知送付 | 延滞通知の処理と承認が完了するとこのメッセージが作成されます。 |
| 41 | 延滞通知却下 | 保留されていた延滞通知が却下されるとこのメッセージが作成されます。 |
| 42 | 計算書送付 | 発行されるすべての計算書に対してこのメッセージが作成されます。 |

| 活動タイプ | 活動メッセージ | プロセスの説明 |
|-------|---------|------------------------------------|
| 50 | 延滞利息金適用 | 延滞利息金の処理と承認が完了するとこのメッセージが作成されます。 |
| 51 | 延滞利息金却下 | 保留されていた延滞利息金が却下されるとこのメッセージが作成されます。 |

その他の活動を追跡する必要がある場合は、新しい活動コードを作成し、必要に応じて活動メッセージを手動で追加できます。

活動コードの設定に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-------|---------|---|-----------------|
| 活動の設定 | W03B30B | 「与信/回収管理セットアップ」(G03B411)、「与信/回収活動コード」 「活動の設定処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | 新規の活動コードを作成します。 |

活動タイプ・コードの追加

「活動の設定」フォームにアクセスします。

重要: 新たに作成する活動コードの活動メッセージは自動的に処理されません。新規の活動コードを使用する活動に対しては、活動メッセージを手動で追加する必要があります。

参照: 第 18 章、「与信および回収管理」、「顧客活動の追加」、392 ページ

活動

顧客取引活動ログに設定するメッセージを識別するコードを入力します。

次の活動コードは、ハードコード化されています。

20: Credit Review Required (与信検討必須)

21: Over Credit Limit (与信限度額超過)

22: Credit Limit Updated (与信限度額更新)

30: Promise (支払約束メモ)

40: Delinquency Notice Sent (延滞通知送付)

41: Delinquency Notice Rejected (延滞通知却下)

42: Statement Sent (計算書送付)

50: Delinquency Fee Applied (延滞利息金適用)

51: Delinquency Fee Rejected (延滞利息金却下)

新規の活動タイプを作成する場合は、ハードコード化されている値を使用しないでください。

デフォルト優先度

計算書、延滞通知、延滞利息金などの処理時に表示される活動メッセージの順序を指定するコードを入力します。有効値は1から5であり、1が最高優先度、5が最低優先度を示します。

活動停止

現在まで使用されていた活動が今後使用されなくなる場合は、このチェックボックスを選択します。停止された活動タイプの活動は、顧客取引活動ログ・テーブル(F03B31)に作成されません。

延滞方針の設定

この項では、延滞方針の概要を示し、次の方法について説明します。

- 延滞方針の定義
- 延滞利息金指示の設定
- 延滞通知指示の設定

延滞方針について

支払期限を過ぎた請求について顧客に通知するには、延滞している顧客勘定の自動処理に使用される規則を設定する必要があります。各顧客グループに適用する複数の規則の組合せや、特定の顧客のみに適用する規則を定義できます。このようにユーザーが設定する規則の組合せを“方針”と呼びます。

方針とは、特定のグループに所属する顧客に対して一様に適用される共通の規則の組合せです。顧客グループに適用する規則は、複数のレベルで管理できます。顧客に対して共通に適用できる規則を使用して方針を設定すると、延滞金の処理に必要な設定の作業量を減らすことができます。

方針には、支払期限を過ぎた請求書に対して延滞利息金を課すタイミングや、延滞の各段階における通知の作成方法を指定できます。

方針の設定に際しては、最初に一般的な規則(デフォルトの規則)を定義してから、例外に対応するための特定の指示を定義してください。たとえば、次のようなタイプの方針を定義できます。

| 方針タイプ | 説明 |
|--------------------|--|
| 標準方針 | ほとんどの顧客に対して一様に適用可能なデフォルトの方針です。 |
| 標準方針(例外あり) | 特定のデフォルト情報を変更する指示の付いた標準方針です。この方針では、標準方針と異なる年齢調べカテゴリやしきい値パーセントを指定できます。この方針は、リスクの高い顧客や新規の顧客などに適用します。 |
| 特定の会社または特定業種用の標準方針 | 会社別または業種別に異なる規則を適用できます。これは、特定の会社のデフォルト情報を変更する指示の付いた標準方針です。 |

| 方針タイプ | 説明 |
|---------|--|
| ハイリスク方針 | 特定の会社ではなく、特殊な取扱いをする複数の顧客に対して設定できる方針です。この方針は、ハイリスクの顧客などの特殊な取扱いが必要な顧客の管理に使用できます。 |
| 優遇方針 | 延滞利息金が発生しない顧客向けの方針です。ある程度の日数の延滞が発生した場合は、丁寧な通知を送付できます。 |

方針に関する情報は、次のテーブルに保管されます。

- 延滞方針 (F03B25)
- 売掛金延滞方針通知 (F03B26)
- 売掛金延滞方針詳細 - 利息金 (F03B27)

注意: 会社00000に設定済のデフォルト方針を手動または自動でを使用して顧客に方針を関連付けると、その方針は、その顧客に別の方針を関連付けるまで維持されます。デフォルト方針として使用するプランクの方針名を会社00000に対して設定してください。

延滞方針の設定に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------|-----------|---|---|
| 延滞方針の処理 | W03B2501N | 「与信/回収管理セットアップ」(G03B411)、「延滞方針の定義」 | 延滞方針を表示し、設定する方針を選択します。 |
| 延滞処理方針の定義 | W03B2501Q | 「延滞方針の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | 新規の延滞方針の情報を定義します。 |
| 延滞利息金指示の処理 | W03B2501V | 「延滞方針の処理」フォームで「検索」をクリックして、表示された方針から延滞利息金指示を設定する方針を選択します。 「ロー」メニューの「利息金」を選択します。 | 既存の延滞利息金指示を特定します。 |
| 延滞利息金指示 | W03B2501S | 「延滞利息金指示の処理」フォームで「追加」をクリックします。 | 方針の定義後、請求書の期日が超過した場合に、延滞利息金の計算に使用する延滞利息金指示を設定できます。延滞利息金は支払項目レベルで作成されます。 <u>参照: 第 19 章、「延滞通知と延滞利息金の処理」、「延滞利息金の作成」、422 ページ</u> |
| 延滞通知指示の処理 | W03B2501W | 「延滞方針の処理」フォームで、規則を設定する方針を選択し、「ロー」メニューから「延滞」を選択します。 | 既存の延滞通知指示を特定します。 |
| 延滞通知指示 | W03B2501R | 「延滞通知指示の処理」フォームで「追加」をクリックします。 | 請求書の期日が超過した顧客に送付する延滞通知を作成するための、延滞通知の規則を設定します。たとえば、年齢調べカテゴリや送信済の通知の件数に基づいて、延滞通知の重要度を制御できます。延滞通知は顧客レベルで作成され、1 通の通知には、その顧客のすべての期日超過請求書の情報が含まれます。 |

延滞方針の定義

「延滞処理方針の定義」フォームにアクセスします。

| 延滞方針の定義 - 延滞処理方針の定義 | |
|--|-------------------------------------|
| OK(O) 取消(L) ツール(T)    | |
| 方針の詳細情報 | |
| 方針名 | HIGH RISK |
| 会社番号 * | 00000 |
| 記述 | High Risk Policy |
| 集計再作成オプション | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 一時与信メッセージのリセット | <input type="checkbox"/> 階層型延滞方針を使用 |

「延滞処理方針の定義」フォーム

方針名

いつの時点で請求書を期日超過とみなすかを決定する規則の組合せ、および実行する措置を特定する名称を入力します。方針には、延滞通知指示と延滞利息金指示に使用する年齢調べ情報が含まれます。顧客の支払慣習や業種に基づいて方針を設定し、顧客をグループ化できます。

方針名は大文字でも小文字でも入力できますが、システム内の処理では大文字と小文字は区別されません。たとえば、PREMIERという方針を作成した後に、Premierという方針を作成しようとする、重複キーに関するエラーが返されます。

会社番号

方針を適用する会社の住所録番号を入力します。

記述

方針の説明を入力します。

一時与信メッセージのリセット

与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)の実行時に顧客のすべての請求が全額支払済となった場合に、顧客の一時与信メッセージを顧客マスターに設定済の元の値にリセットするには、このチェックボックスを選択します。

顧客のすべての請求書が全額支払済(顧客に未決済の請求書がない)の場合は、支払済請求書(支払状況はP)を含むようにプログラムのデータ選択を変更する必要があります。この変更を行わなければ、顧客レコードの値はリセットされません。

階層型延滞方針を使用

このチェックボックスを選択すると、延滞通知の作成用に設定した延滞通知指示のみが使用されます。

たとえば、ある顧客には、年齢調べカテゴリ3のみを対象に設定した延滞通知指示を関連付けていて、その顧客には現在2件の未決済請求書があり、そのうちの1件である請求書123は期日前であり、もう1つの請求書234は年齢調べカテゴリ4であるとしします。いずれの請求書も年齢調べカテゴリ3に該当しないため、このチェックボックスを選択した場合、延滞通知は作成されません。

同じ例で、このチェックボックスの選択を解除した場合、請求書234は年齢調べカテゴリ3に指定された日数を超えて期日超過しているので、延滞通知が作成されます。請求書は特定の要件を満たす必要はなく、支払期日から、年齢調べカテゴリ3に定義されている日数以上を超過しているだけで延滞通知の対象になります。

注意: 1つの延滞通知には、年齢調べカテゴリに関係なく、すべての期日超過の請求書が表示されます。

延滞利息金指示の設定

「延滞利息金指示」フォームにアクセスします。

延滞方針の定義 - 延滞利息金指示

OK(O) 取消(L) ツール(T)

延滞処理方針

方針名: PREMIER Premier Policy

会社番号: 00000 Worldwide Company

延滞利息金条件

有効開始日付: 2005/01/01 有効終了日付: 2009/12/31

経過計算開始日数: 61 経過計算終了日数: 90

猶予日数: 15 ☐ 遡及手数料

通貨コード: USD 最低金額: 15.00

延滞利息金処理

年率: 1.000000 固定延滞利息金: .00

利息金の間隔日数: 30

☐ 複合延滞利息金 ☒ 回収管理者への通知

☒ 未決済金額に対して計算 ☒ 回収管理者の承認必須

☐ 期日後入金に対して計算

「延滞利息金指示」フォーム

有効開始日付、有効終了日付

延滞利息金が発効する日付と失効する日付を入力します。

経過計算開始日数、経過計算終了日数

方針で指定した延滞利息金が請求書に対して課金されるかどうかを判定するために使用される日数の範囲の起点と終点を入力します。延滞日数がこれらのフィールドで指定した日数の範囲内である場合は、延滞利息金が計算されます。

複数の延滞利息金指示を作成し、延滞日数の増加に応じて延滞利息金を増額できます。延滞利息金を計算する開始日数と終了日数を指定して、指定した日数のみに対応した延滞利息金を作成するように設定できます。

たとえば、1日目から30日目までの延滞利息率を15%とし、31日目から60日目までを18%とする延滞利息金指示を設定できます。

遡及手数料

このチェックボックスを選択すると、請求書の支払期日に基づいて延滞利息金が計算されます。ただし、猶予日数が消化されるまで計算は開始されません。このオプションは初めて延滞利息金を計算する請求書に対してのみ有効です。2回目以降の延滞利息金は前回延滞利息金計算日付フィールドに基づいて計算され、猶予日数は考慮されません。

最低金額

延滞利息金レコードを作成するためにシステム内で計算される必要がある延滞利息金の最低金額を入力します。請求書の支払項目に対して、この

フィールドで指定した金額未満の延滞利息金が計算された場合、延滞利息金レコードは作成されません。

年率

支払期日を過ぎた未決済の請求書の延滞利息金の計算に使用する利率を入力します。1年の日数に基づいて、請求書の支払期日を超過した各日に利息金が配分されます。一日当たりの延滞利率は、次の計算式で計算されます。

$(\text{利率} \div 365 \times 0.01) \times \text{請求書の未決済額} \times \text{期日を超過した日数}$

たとえば、年率が15%であり、請求書の未決済額は1000.00で、期日を20日経過している場合、延滞利息金は8.22になります。

利率を指定しない場合、固定延滞利息金に指定された金額のみが使用されます。

固定延滞利息金

年率(指定した場合)とあわせて延滞利息金の計算に使用される金額を入力します。年率が指定されていない場合は、このフィールドの金額が延滞利息金となります。

利息金の間隔日数

延滞利息金または延滞通知を次に作成するまでの日数を入力します。

延滞利息金の場合、前回延滞利息金計算日付フィールド(LFCJ)の値と延滞利息金の作成日付から経過日数が計算され、次にその日数がこのフィールドの値と比較されて、請求書が新たな延滞利息金の対象かどうか判定されます。

延滞通知の場合、「督促状前回送付日」フィールド(RDDJ)の値と延滞利息金の作成日付から経過日数が計算され、次にその日数がこのフィールドの値と比較されて、請求書が新たな延滞通知の対象かどうか判定されます。

複合延滞利息金

このチェックボックスを選択すると、前に作成された延滞利息金の未払い分が計算に加えられます。

未決済額に対して計算

このチェックボックスを選択すると、未決済の延滞請求書に基づいて延滞利息金が計算されます。

期日後入金に対して計算

このチェックボックスを選択すると、期日を過ぎてから支払われた請求書の延滞利息金が計算されます。請求書レコードの「完済日付」フィールド(JCL)と「期日」フィールド(DDJ)が比較され、期日の超過日数に基づく日割りの利息金額が計算されます。

延滞通知指示の設定

「延滞通知指示」フォームにアクセスします。

| 延滞方針の定義 - 延滞通知指示 | | | |
|--|---------|-------------------|-----------------|
| OK(O) 取消(L) ツール(T)    | | | |
| 延滞処理方針 | | | |
| 方針名 | PREMIER | Premier Policy | |
| 会社番号 | 00000 | Worldwide Company | |
| 延滞通知条件 | | | |
| 年齢調べカテゴリ/重要度 | 4 | しきい値(%) | 25 猶予日数 |
| 通貨コード * | | 最低金額 | 500.00 支払期限までのE |
| 延滞通知送付間隔 | 30 | 活動優先順位 | 5 優先度 5 |
| 延滞通知処理 | | | |
| レター名タイプ | LETTER1 | >> | Late Payment |
| <input checked="" type="checkbox"/> 回収管理者の承認必須 <input checked="" type="checkbox"/> 回収管理者への通知 | | | |
| <input type="checkbox"/> 請求書保留 <input checked="" type="checkbox"/> 回収管理者の検討必須 <input type="checkbox"/> 外部回収機関推奨 一時与信メッセージ | | | |

「延滞通知指示」フォーム

年齢調べカテゴリ/重要度

年齢調べカテゴリまたは重要度レベルを示す数値を入力します。この年齢調べカテゴリまたは重要度レベルにある請求書に対して延滞通知が自動的に作成されます。

送信された催促状の数を使用して重要度レベルが判定されます。たとえば、督促状が1通送信済である場合、重要度レベル2に設定された方針が検索されます。また、督促状が2通送信済である場合は、重要度レベル3に設定された方針が検索されます（重要度レベルは督促状の数に比例します）。

延滞通知の印刷プログラムの処理オプション「重要度の決定」で、延滞通知の作成を決定するために年齢調べカテゴリと重要度のどちらを使用するかを設定します。

この処理オプションがblank（年齢調べカテゴリを使用）の場合、このフィールドの数値は、期限超過の請求書が割り当てられる売掛管理固定情報または延滞通知印刷プログラムの処理オプションのいずれかに指定された日付範囲、会計期間、またはカレンダー月を表します。指定した年齢調べカテゴリに延滞請求書のある顧客は、延滞通知の対象となります。

この処理オプションの値が1（延滞通知送付回数合計を使用）の場合、このフィールドの数値は、送付済延滞通知の数に基づく重要度レベルを表します。たとえばこのフィールドの数値が3の場合、その請求書は、最初に2件の延滞通知が送付された後で、もう1件の延滞通知の対象となります。

しきい値(%)

顧客の延滞通知の作成を決定するために使用されるパーセンテージの数値を入力します。指定した年齢調べカテゴリまたは重要度レベルに該当する、期限超過の未決済請求書の合計が、パーセント表示で顧客の未決済残高以上である場合、その顧客に対して延滞通知が作成されます。たとえ

ば、年齢調べカテゴリ1の未決済請求書の合計が1200、しきい値(%)が20の場合、延滞通知が作成されるには、顧客の未決済請求書の合計が6000以上である必要があります。

パーセンテージは整数で入力してください。

注意: 別の年齢調べカテゴリに設定した延滞通知指示を使用して、延滞通知が作成される場合があります。たとえば、年齢調べカテゴリ2の未決済請求書の金額が、延滞通知の作成に必要な条件に適合する場合、その未決済請求書の支払項目が指定した最低金額を下回らないかぎり、年齢調べカテゴリ1の請求書も通知の対象に含まれます。

最低金額

延滞通知の対象となる請求書支払項目の未決済金額の最小値を指定します。未決済請求書支払項目の金額が指定した最低金額に満たない場合、その請求書は延滞通知に含まれません。

支払期限までの日数

与信分析のリフレッシュ・プログラムの処理オプションで定義した年齢調べ日付に追加する日数、または、延滞処理指示で指定した猶予日数に追加する日数を入力し、延滞通知に記載される支払期日を決定します。

延滞通知送付間隔

同じ請求書に対して延滞利息金や延滞通知を次に作成するまでの日数を入力します。

延滞利息金の場合、前回延滞利息金計算日付フィールド(LFCJ)の値と延滞利息金の作成日付から経過日数が計算され、次にその日数がこのフィールドの値と比較されて、請求書が新たな延滞利息金の対象かどうか判定されます。

延滞通知の場合、「督促状前回送付日」フィールド(RDDJ)の値と延滞利息金の作成日付から経過日数が計算され、次にその日数がこのフィールドの値と比較されて、請求書が新たな延滞通知の対象かどうか判定されます。

活動優先順位

計算書、延滞通知、延滞利息金などの処理時に作成される活動メッセージの表示順序を指定するコードを入力します。有効値は1から5であり、1が最高優先度、5が最低優先度を示します。

レター名/タイプ

延滞方針の定義に割り当てるレターを指定します。レターテキスト・テーブル(F03B28)に設定したレターを使用してください。このフィールドでは大文字と小文字が区別されるため、テーブルに作成したレター名(たとえば「Letter1」など)をそのまま入力する必要があります。レターテキストは英語以外でも入力できます。

請求書保留

このチェックボックスを選択すると、年齢調べカテゴリに未請求請求書がある場合に顧客マスターの対応フィールドが更新されます。このチェックボックスが選択されている場合は、請求書を手動で入力できません。

注意: 請求書が支払済になってもこのチェックボックスは自動的に選択が解除されないため、手動で変更する必要があります。

与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)を実行するまで、顧客レコードは更新されません。

回収管理者の検討必須

期日超過の金額を含む顧客勘定について、回収管理者による検討を必須化するかどうかを指定します。このチェックボックスを選択すると、回収管理者に対してワークフロー・メッセージが送信されます。このチェックボック

スの選択を解除すると、回収管理者に対してワークフロー・メッセージは送信されません。

外部回収機関推奨

外部の回収機関による回収を可能にするかどうかを選択します。このチェックボックスを選択すると、顧客を回収レポートに含めることを推奨するワークフロー・メッセージが送信されます。顧客レコードの回収レポート・オプション(COLL)を手動で更新する必要があります。

注意: 回収レポート・フィールドは請求書が支払済になっても自動的にリセットされないため、手動で更新する必要があります。

計算書/延滞通知のレターテキストの設定

この項では、計算書と延滞通知のレターテキストの概要を示し、計算書と延滞通知にレターテキストを入力する方法を説明します。

計算書/延滞通知レターテキストについて

計算書/延滞通知レターテキスト・プログラム(P03B2801)を使用して、計算書や延滞通知に表示する文章を設定できます。レターテキストは、ユーザー・プロファイルで指定されている言語で印刷されます。

計算書を印刷する場合は、計算書データの再作成プログラム(R03B500X)の関連処理オプションで、印刷するテキストを指定します。たとえば、年末年始の挨拶文や、迅速な支払に対する感謝を表す文章を計算書に印刷できます。

延滞通知を印刷する場合は、延滞方針の延滞通知指示に含まれる年齢調べカテゴリや重要度レベルにレターを割り当てて、印刷するテキストを指定します。年齢調べカテゴリにレターテキストを関連付けることによって、最も古い年齢調べカテゴリ(または最高重要度レベル)の請求書を含む延滞通知には、より強い文章を印刷できます。

レターに関する情報は、次のテーブルに保存されます。

- レターテキスト(F03B28)
- メディア・オブジェクト・ストレージ(F00165)

計算書/延滞通知のレターテキストの設定に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------------|-----------|---|-------------------------|
| レター文の処理 | W03B2801F | 「与信/回収管理セットアップ」(G03B411)、「計算書/延滞通知レター・テキスト」 | 既存のレターの検索と削除を行うことができます。 |
| レター文 | W03B2801G | 「レター文の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | レター名と記述を作成します。 |
| メディア・オブジェクト・ビューア | 該当なし | 「レター文」フォームの「フォーム」メニューから「添付」を選択します。 | レターとして使用する文章を指定します。 |

計算書/延滞通知のレターテキストの入力

「レター文」フォームにアクセスします。

レター文を設定するには、次の手順に従います。

1. 「レター文」フォームで、「レター名」、「記述」、「レター・タイプ」、「言語」の各フィールドに値を入力します。
2. テキストを指定するには、「フォーム」メニューから「添付」を選択します。
3. 「メディア・オブジェクト・ビューア」フォームで「テキスト」をクリックし、必要なメッセージを入力します。
テキストの体裁にタブは使用しないでください。計算書や延滞通知に表示するテキストの体裁にはスペースを使用してください。
4. 「保存」をクリックします。
5. 「レター文」フォームで「OK」をクリックします。

レター名

F03B28テーブルに定義済のレターを識別する名称を入力します。このフィールドでは大文字と小文字が区別されるため、テーブルに作成したレター名（たとえば「Letter1」など）をそのまま入力する必要があります。レターテキストは英語以外でも入力できます。

レター・タイプ

計算書や遅延通知書に印刷するテキストの識別と編成に使用するコードを入力します。UDC 03B/LTに定義済の値を指定してください。たとえば、次のような用途でレタータイプを設定できます。

- 延滞通知や計算書など、レター（テキスト）が使用される処理の識別
- 延滞通知に使用するレターと計算書に使用するレターの区別
- 優良顧客など、顧客別のレターの識別
- 重要度レベルの表示

たとえば、LETTER1を最低重要度、LETTER5を最高重要度の通知に使用します。

言語

フォームと印刷するレポートで使用する言語を示すUDC (01/LP)を入力します。ここで指定する言語コードは、システム・レベルまたはユーザー基本設定で定義されている必要があります。

信用保険契約の設定

この項では、信用保険契約の概要と、信用保険契約の設定方法を説明します。

信用保険契約について

未収債権を補償する保険を購入すると、与信/回収のシステムでそれらの保険を記録できます。保険を記録すると、指定した保険のタイプ（方針タイプ）によって、レポートを使用するか、または取引を基準にして、顧客の保証与信限度額を監視できます。

標準保険（標準方針）では、複数の顧客を対象にすることができ、レポートを使用して継続的に保険を検討できます。単一保険（単一方針）では、指定した有効日付に基づいて単独の顧客またはプロジェクトが対象とされます。各保険の監視は取引ベースで行います。

1つの保険会社について複数の保険を設定できます。これらの保険契約は、信用保険テーブル(F03B29)で購入時の通貨を使用して管理されます。購入した保険の補償率は会社別に確定され、顧客への債権の全額が補償されない場合もあります。

注意: 業種レベルで顧客の信用保険契約は設定できません。

標準信用保険契約

複数の顧客または特定の顧客に対して1つの保険を使用する場合は、標準保険(標準方針)を設定します。標準保険を設定するには、特定の期間において顧客が負う債務を確定します。補償限度額が低すぎると判断した場合、または、高すぎると判断した場合には、保険会社と契約内容を調整して、補償額を更新できます。

複数の標準保険を設定する際は、保険の対象となる顧客を個別に追跡する必要があります。これを行うには、添付ファイルを保険契約に追加し、カテゴリ・コードを使用して顧客を一覧表示します。または、Excelスプレッドシートで個別に顧客を追跡します。

この保険契約は、レポートを使用して月次で方針の検討と検証を行うことができます。検討と検証の結果、必要に応じて、保険金額を保険会社と調整できます。次のレポートを使用して、標準保険の情報を検討できます。

- 未決済売掛金(年齢調べ)(R03B4201B)
- 未決済売掛金計分析(R03B155)
- 外貨/国内通貨 - 年齢調べ付き(R03B429C)

単一信用保険契約

取引ベースで検討する顧客またはプロジェクトには単一保険(単一方針)を設定します。通常、単一保険は特定の期間を対象に購入されるため、有効期間を指定します。

保証与信限度額は、内部の与信限度額と同様に請求書の入力時にチェックされます。保険契約は、信用保険テーブルに保存されている保険会社の住所録番号や保証限度額の更新時に、顧客に割り当てます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 保険会社の住所録レコードを作成します。
参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」
- 保険会社の仕入先レコードを作成します。
参照: JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の入力」

信用保険契約の設定に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------|-----------|---|---|
| 信用保険の処理 | W03B2901A | 「与信/回収管理セットアップ」(G03B411)、「信用保険の処理」 | 信用保険契約を表示し、検討対象の契約を選択します。 |
| 信用保険の定義 | W03B2901B | <ul style="list-style-type: none"> 「信用保険の処理」フォームで「追加」をクリックします。 「信用保険の処理」フォームで、保険契約を選択し、「選択」をクリックするか、または「ロー」メニューで「保険」を選択します。 | 新規の信用保険契約を作成するか、または既存の信用保険契約を検討します。 |
| 仕入先マスターの改訂 | W04012A | 「信用保険の処理」フォームで保険契約を選択し、「ロー」メニューで「仕入先」を選択します。 | 保険会社の仕入先マスターを検討します。 |
| 顧客マスターの処理 | W03013A | 「信用保険の処理」フォームで保険契約を選択し、「ロー」メニューで「顧客」を選択します。 | 保険契約に関連付けられている顧客の顧客マスターを検討します。 |
| 売掛金元帳照会の処理 | W03B2002A | 「信用保険の処理」フォームで保険契約を選択し、「ロー」メニューで「売掛金元帳」を選択します。 | 保険契約に関連付けられている顧客の元帳情報を検討し、その顧客が保険の対象とみなされる理由を判断します。 |
| 顧客取引残高照会 | W03B218B | 「信用保険の処理」フォームで保険契約を選択し、「ロー」メニューで「残高」を選択します。 | 保険契約に関連付けられている顧客の残高情報を検討し、その顧客が保険の対象とみなされる理由を判断します。 |

信用保険契約の設定

「信用保険の定義」フォームにアクセスします。

信用保険の処理 - 信用保険の定義 i ?

信用保険の処理 信用保険の定義

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

| | | | | |
|--------|------------|------------------------|-----------|--------------|
| 保険会社 * | 4445 | Credit Insurance, Inc. | 保険証書No. * | 4448-7845612 |
| 保険タイプ | 2 | 単一保険 | | |
| 顧客No. | 3002 | Atlantic Corporation | 会社番号 | 00000 |
| 有効開始日付 | 2005/01/01 | | 有効期限 | 2005/01/31 |

| | | | | |
|--------|------------|---------|-----|------|
| 補償金額 * | 150,000.00 | 通貨コード * | EUR | Euro |
|--------|------------|---------|-----|------|

| | | | |
|---------|-----------|------|--|
| 保険料 | 12,500.00 | 単価 | |
| 通貨コード | EUR | 購入数量 | |
| 補償範囲(%) | 80.00 | | |

「信用保険の定義」フォーム

保険会社 保険会社の住所録番号を入力します。住所録番号によって保険契約と保険会社に関連付けられます。

保険証書No. 参照専用の番号を入力します。

保険タイプ 保証与信限度額を設定するための保険契約のタイプを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

1: 標準保険。複数の顧客に使用できます。

2: 単一保険。単独の顧客に使用します。

3: 単一保険(与信チェックなし)。保証与信限度額のかわりに標準与信限度額を確認する場合はこの方針を使用します。たとえば、保証与信限度額で指定した金額を超える金額を与信限度額にすることができます。これを行うには、信用保険の処理プログラムで設定した保証与信限度額より大きな金額を、顧客マスター・プログラムで標準与信限度額として設定します。この場合、受注オーダーの入力時には標準与信限度額が確認され、保証与信限度額は無視されます。

有効開始日付、有効期限 保険契約が発効する日付と失効する日付を入力します。

補償金額 顧客が支払不能に陥った場合に、保険会社によって補償される金額の最高値を入力します。

通貨コード 補償金額の通貨を指定します。

保険料 保証与信限度額を定めた保険契約を結ぶために保険会社に支払う金額を入力します。

通貨コード 保険料の通貨を指定します。

単位 コストの合計を単位数量で割った金額を入力します。

| | |
|---------|--|
| 購入数量 | 購入した単位数量を入力します。 |
| 補償範囲(%) | 未決済で未払の売掛金が保険で補償される割合をパーセント単位で入力します。たとえば、50を入力すると、回収できなくなった合計未決済額の50%が保険で支払われることを意味します。このフィールドに入力する値は参照専用です。 |

与信/回収管理者の設定

この項では、与信/回収管理者の概要と、与信/回収管理者用のUDCの設定方法を説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Foundation Guide

与信/回収管理者について

与信/回収の処理を特定の担当者が管理する場合は、与信/回収管理者を設定し、顧客レコードに割り当てることができます。各管理者は、担当顧客に関してのみ、データの照合とレポート作成を実行できます。また、顧客の与信限度額や支払期限の超過など、様々な与信/回収処理のワークフロー・メッセージを管理者に送信できます。

与信/回収管理者を設定するには、管理者を住所録に追加してから、UDCテーブルで管理者の設定を行います。UDCテーブルで使用するコードと管理者の住所録番号を相互参照させ、このコードを顧客レコードに割り当てます。

1人の担当者が与信管理と回収管理の両方を兼任する場合、住所録レコードを2つ作成する必要はありません。ただし、その管理者の住所録番号は、次のUDCテーブルの両方に追加する必要があります。

- 01/CR(与信管理者)
- 01/CM(回収管理者)

UDCテーブルに与信/回収管理者を設定したら、UDC値を顧客レコードに割り当ててする必要があります。

参照: [第 6 章、「与信/回収管理の設定」、「顧客への与信/回収情報の割当」、106ページ](#)

注意: 与信/回収管理者にCR1またはCM1などの汎用コードを割り当てると、該当するUDCテーブルの「記述02」フィールドの住所録番号を変更することで、その管理者への参照を簡単に変更できます。これは、担当者が頻繁に変更される場合に役立ちます。フィールドに割り当てる値の横に管理者の氏名が表示されます。

たとえば、担当者の氏名を使用するように指定(Dominique Abbottの場合はABBOTT)すると、その人がポジションを離れた場合、データ・ファイル・ユーティリティを使用しなければ、すべての顧客マスター(F03012)を一括して新しい氏名に更新することはできません。しかし、CM1などの汎用コードを使用した場合は、「記述02」フィールドを簡単に変更でき、顧客マスターを更新する必要はありません。

与信/回収管理者のUDC設定

与信管理者を設定する場合はUDCテーブル01/CRにアクセスし、回収管理者を設定する場合はUDCテーブル01/CMにアクセスします。

| | |
|-----|--|
| コード | 管理者を示す10桁の英数字コードを入力します。 |
| 記述1 | 管理者の名前を入力します。 |
| 記述2 | 管理者の住所録番号を入力します。住所番号を指定しない場合、ワークフロー・メッセージは送信されません。 |

顧客への与信/回収情報の割当

この項では、与信/回収情報の概要を示し、次の方法について説明します。

- 顧客への与信情報の割当
- 顧客への回収情報の割当
- 保険契約に関連付けられている顧客の検討

顧客の与信/回収情報について

延滞利息金、延滞通知、ワークフロー・メッセージを作成したり、与信情報を更新するには、様々な与信/回収情報を顧客レコードに割り当てる必要があります。これは、既存の顧客に対して行う他、新規の顧客に与信/回収情報を入力する際にも行います。

顧客レコードには次の与信/回収情報を指定できます。

- 顧客の延滞方針
手動で顧客に方針を割り当てない場合は、会社00000用のデフォルト方針(標準)が自動的に割り当てられます。
- 顧客の与信限度額
- 顧客勘定に割り当てられた与信/回収管理者
- 延滞通知の作成
- 延滞利息金の作成
- 外部回収機関への回収レポートに顧客を含めるかどうか
- 計算書の作成

延滞処理方針を設定して、それを顧客に割り当てた後、各方針にどの顧客が割り当てられているかを確認できます。たとえば、「方針の相互参照」フォームを使用して、標準方針に関連付けられている顧客を表示できます。

顧客への与信/回収情報の割当に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-----------|-----------|---|------------------------------|
| 顧客マスターの処理 | W03013A | 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「顧客マスター情報」 | 既存の顧客マスターの検索と削除を行います。 |
| 顧客マスターの改訂 | W03013B | 顧客レコードを選択した後、「顧客マスターの処理」フォームで「選択」をクリックします。 | 顧客に与信/回収情報を割り当てます。 |
| 方針の相互参照 | W03B2502G | 「与信/回収管理セットアップ」(G03B411)、「延滞方針の定義」 「延滞方針の処理」フォームで延滞方針を選択し、「ロー」メニューで「相互参照」を選択します。 | 特定の回収方針に関連付けられた顧客の一覧を確認できます。 |

顧客への与信情報の割当

「顧客マスターの改訂」フォームにアクセスし、「与信」タブを選択します。

顧客マスター情報 - 顧客マスターの改訂

顧客マスターの処理 顧客マスターの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

顧客No. 3333

詳細住所No.

会社番号 00000

タブを選択: 2-与信

| | | | |
|------------------|-----------|---------------|------------|
| 与信限度額 | 25,000.00 | 与信検討日付 | |
| 与信管理者 | CR02 | 与信管理者2 | |
| 与信メッセージ | | 顧客レコード作成日付 | 1998/10/12 |
| 一時与信メッセージ | 7 | 与信保留 | |
| 顧客情報設定者 | BW5482707 | ABCコード - 売上 | C C級 |
| 最終与信チェック者 | | ABCコード - 粗利益 | C C級 |
| 財務諸表受領日 | | ABCコード - 平均日数 | C C級 |
| Dun Bradstreet日付 | | | |
| Experian日付 | | | |

「顧客マスターの改訂」フォーム - 「与信」タブ

与信限度額

この顧客に対する掛売販売の限度額を入力します。この金額を超えるとワークフロー・メッセージが送信されます。この値は、与信管理プログラム

| | |
|------------------|--|
| | <p>全体で使用されます。与信限度額は子(顧客)レベルで管理され、親レベルでは管理されません。与信限度額の超過が発生すると、超過したすべての顧客にワークフロー・メッセージが送信されます。与信限度額を設定または変更すると、与信管理者宛てに、承認待ちの限度額変更があることを知らせるワークフロー・メッセージが送信されます。この与信限度額は、与信管理者が承認するまで顧客レコードには反映されません。</p> |
| 与信管理者 | <p>与信限度額の入力や変更を承認する権限を持つ与信管理者のコードを入力します。住所録レコードで与信管理者を設定し、UDCテーブル01/CRにコードを作成しておく必要があります。UDCの設定時には、「記述2」フィールドにその与信管理者の住所録番号を入力します。</p> <p>与信管理者を識別するUDCをこのフィールドに入力します。</p> |
| 与信メッセージ | <p>顧客/仕入先の与信状況を示すUDCテーブル00/CMの値を入力します。次に例を示します。</p> <ol style="list-style-type: none">1: 与信限度額超過2: 購買オーダー必要3: 契約管理対象外 <p>フォームの詳細セクションをクリックするとメッセージが表示されます。</p> |
| 顧客情報設定者 | <p>顧客レコード作成者のユーザーIDが表示されます。ユーザーIDはシステムにより自動的に入力されます。</p> |
| 最終与信チェック者 | <p>最後に与信情報を検討した人のユーザーIDが表示されます。与信限度額を入力または変更したユーザーのユーザーIDが自動的に入力されます。</p> |
| 財務諸表受領日 | <p>会社の信用価値を評価するための財務諸表が受領された日付を入力します。このフィールドに値を指定して、顧客からいつ財務諸表を受領したかを特定します。</p> |
| Dun Bradstreet日付 | <p>Dun & Bradstreet格付が提供された日付を入力します。</p> |
| Experian日付 | <p>Experian格付が提供された日付を入力します。</p> |
| 与信検討日付 | <p>顧客の与信情報の検討日を入力します。</p> |
| 前回与信検討日 | <p>前回、与信管理者がこの顧客の支払記録を検証し、顧客勘定に支払状況を割り当てた日付を入力します。</p> |
| 顧客レコード作成日付 | <p>顧客レコードが作成された日付が表示されます。</p> |
| ABCコード - 売上 | <p>顧客または在庫品目の販売活動のレベルを表す等級を入力します。この等級は80対20の法則(重要な成果の80%は企業努力の20%に起因する)に基づいています。A(最高)からF(最低)までの等級があります。</p> |
| ABCコード - 粗利益 | <p>平均投資額によって品目の順位を表すコードを入力します。このコードは、手動または自動のいずれかで割り当てることができます。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>A: 品目を第1の金額ランク(A級)に割り当てます。</p> <p>B: 品目を第2の金額ランク(B級)に割り当てます。</p> <p>C: 品目を第3の金額ランク(C級)に割り当てます。</p> <p>D: 品目をABC分析の対象から除外します。</p> |

このフィールドをblankにすると、ABC分析プログラム(R4164)の実行時には、次のような品目の価値に基づいてコードが割り当てられます。

- 平均投資総額をビジネスユニットの平均値で除算した値
- 投資額と算出された品目価値の合計との一致

ABCコード - 平均日数

顧客が請求額の支払に要した日数の平均に基づく等級を入力します。このコードは80対20の法則に基づいています。A(最高)からF(最低)までの等級があります。

顧客への回収情報の割当

「顧客マスターの改訂」フォームにアクセスし、「回収」タブを選択します。

顧客マスター情報 - 顧客マスターの改訂

顧客マスターの処理 顧客マスターの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

顧客No. 3333

詳細住所No.

会社番号 00000

タブを選択: 3-回収

回収管理者 CM02 回収管理者2

方針名/会社 00000 Standard Policy

損金管理者

計算書送付先 C 顧客番号(AN8)

計算書発行サイクル C

☒ 回収レポート

☒ 計算書の印刷

☒ 延滞利息金

☒ 延滞通知

「顧客マスターの改訂」フォーム - 「回収」タブ

回収管理者

この顧客の回収管理の責任を負う回収管理者のコードを入力します。住所録レコードで回収管理者を設定し、UDCテーブル01/CMにコードを作成しておく必要があります。UDCの設定時には、「記述02」フィールドにその回収管理者の住所録番号を入力します。

回収管理者を識別するUDCをこのフィールドに入力します。

方針名/会社

顧客に割り当てる延滞方針を選択します。請求書が期日超過であるかどうかの判断と実行する措置の決定に使用される、規則の組合せを示す延滞

損金管理者

方針を入力します。方針には、延滞通知指示と延滞利息金指示に使用する年齢調べ情報が含まれます。顧客の支払慣習や業種に基づいて方針を設定し、顧客をグループ化できます。

延滞方針の定義プログラム (P03B2501) を使用して有効な方針を設定します。方針は延滞方針テーブル (F03B25) に保存されます。

延滞方針に関連付けられている会社が「方針名/会社」フィールドの右に表示されます。

損金管理の責任者の住所録番号を入力します。住所録番号の他に、名称や税ID番号を入力できます。

名称を入力すると、対応するレコードが検索され、住所録番号が表示されます。複数のレコードが見つかった場合は、すべての名称が表示され、正しいレコードを選択できます。

税IDを入力する場合は、住所録固定情報プログラムで定義した特殊記号を税IDの前に付けてください。税IDに基づく住所録番号が表示されます。

レコードが見つからない場合、0 (ゼロ) が表示されます。

計算書の印刷

顧客の計算書を印刷する場合はこのチェックボックスを選択します。

注意: このオプションは、顧客マスター情報プログラム (P03013) と売掛管理固定情報プログラム (P0000) の両方にあります。売掛管理固定情報プログラムでは、このオプションによって、特定の会社に対して入力した請求書に関する計算書を印刷するかどうかを指定します。顧客マスター情報プログラムでは、このオプションによって、特定の顧客に対して入力した請求書に関する計算書を印刷するかどうかを指定します。

計算書送付先

計算書に印刷する請求先住所を示すコードを入力します。値は次のとおりです。

C: 顧客番号 (AN8)

P: 親番号 (PA8)

R: 代替支払人 (ARPY)

1: 第1住所番号 (AN81)

2: 第2住所番号 (AN82)

3: 第3住所番号 (AN83)

4: 第4住所番号 (AN84)

5: ファクタ/代替受取人 (AN85)

6: 第5住所番号 (AN86)

計算書発行サイクル

計算書の印刷のために顧客をグループ化するコードを入力します。たとえば、毎月1日発行のサイクルA、毎月2日発行のサイクルBなどに設定されたすべての顧客への計算書を印刷できます。

このフィールドをブランクにすると、顧客名称の最初の文字が自動的に割り当てられます。

回収レポート

外部機関に送付する回収レポートにこの顧客の支払期日を超過した請求書を記載する場合は、このチェックボックスを選択します。

延滞通知

顧客に割り当てた延滞方針に設定済の延滞通知指示に基づいて、この顧客への延滞通知書を印刷するには、このチェックボックスを選択します。

注意: このオプションは、顧客マスター情報プログラム (P03013) と売掛管理固定情報プログラム (P0000) の両方にあります。売掛管理固定情報プログラムでは、このオプションによって、特定の会社に対して入力した請求書に関する通知を印刷するかどうかを指定します。顧客マスター情報プログラムでは、このオプションによって、顧客用に通知を印刷するかどうかを指定します。

延滞利息金

この顧客に対して延滞利息金の処理を行う場合は、このチェックボックスを選択します。

方針に関連付けられている顧客の検討

「方針の相互参照」フォームにアクセスします。

延滞方針の定義 - 方針の相互参照

検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ツール(T)

方針名 Standard Policy Company 00200

会社 00200

レコード 1-3 [グリッドのカスタマイズ](#)

| 住所 No. | 名称 | 会社番号 | 会社名 |
|--|-----------------------------|-------|--------------------------------|
| <input checked="" type="radio"/> 42452 | Cloud Nine-DAL | 00200 | Manufacturing/Distribution Co. |
| <input type="radio"/> 42452 | Cloud Nine-DAL | 00000 | Worldwide Company |
| <input type="radio"/> 6074 | Eastern Manufacturing Plant | 00000 | Worldwide Company |

「方針の相互参照」フォーム

与信/回収のワークフロー・メッセージの有効化

この項では、次の方法について説明します。

- 与信/回収管理者へのワークフロー・メッセージの有効化
- 与信限度額の承認のためのワークフロー・メッセージの有効化

与信/回収管理者へのワークフロー・メッセージの有効化

与信限度額の入力や変更が行われると、与信管理者にワークフロー・メッセージが自動的に送信されます。メッセージは、変更が承認待ちであることを示します。この与信限度の変更は、該当する与信管理者がこの変更を承認するまで「顧客マスターの改訂」フォームには反映されません。

また、与信分析のリフレッシュ・プログラムを実行すると、対象となる顧客に設定された方針に基づいて、回収管理者にワークフロー・メッセージが自動的に送信されます。

与信/回収管理者がワークフロー・メッセージを受信するためには、そのユーザーと与信/回収管理者のユーザー・プロファイルを有効な住所録番号と関連付ける必要があります。この関連付けを設定するには、ユーザー・プロファイルの管理プログラム(P0092)でレコードを作成します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: System Administration Guide

また、顧客に関連付けられている与信管理者をUDCテーブル01/CRに設定し、回収管理者をUDCテーブル01/CMに設定する必要があります。UDCの「記述02」フィールドには、与信/回収管理者の住所番号が含まれる必要があります。

与信限度額の承認のためのワークフロー・メッセージの有効化

与信限度額の承認機能が適切に機能するには、ワークフロー状況のCREDLIMITが有効になっている必要があります。

CREDLIMITワークフロー・プロセスが有効になっていない場合、顧客マスターが新しい与信限度額で即座に更新されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Workflow Tools Guide

第 7 章

請求書の処理

この章では、請求書処理の概要と、次の方法について説明します。

- 請求書の処理
- 定期請求書の処理
- 請求書の改訂と転記

注意: アルゼンチン、チリ、ポーランド、ペルー、ロシア、ベネズエラには、請求書进行处理するための国別機能が用意されています。

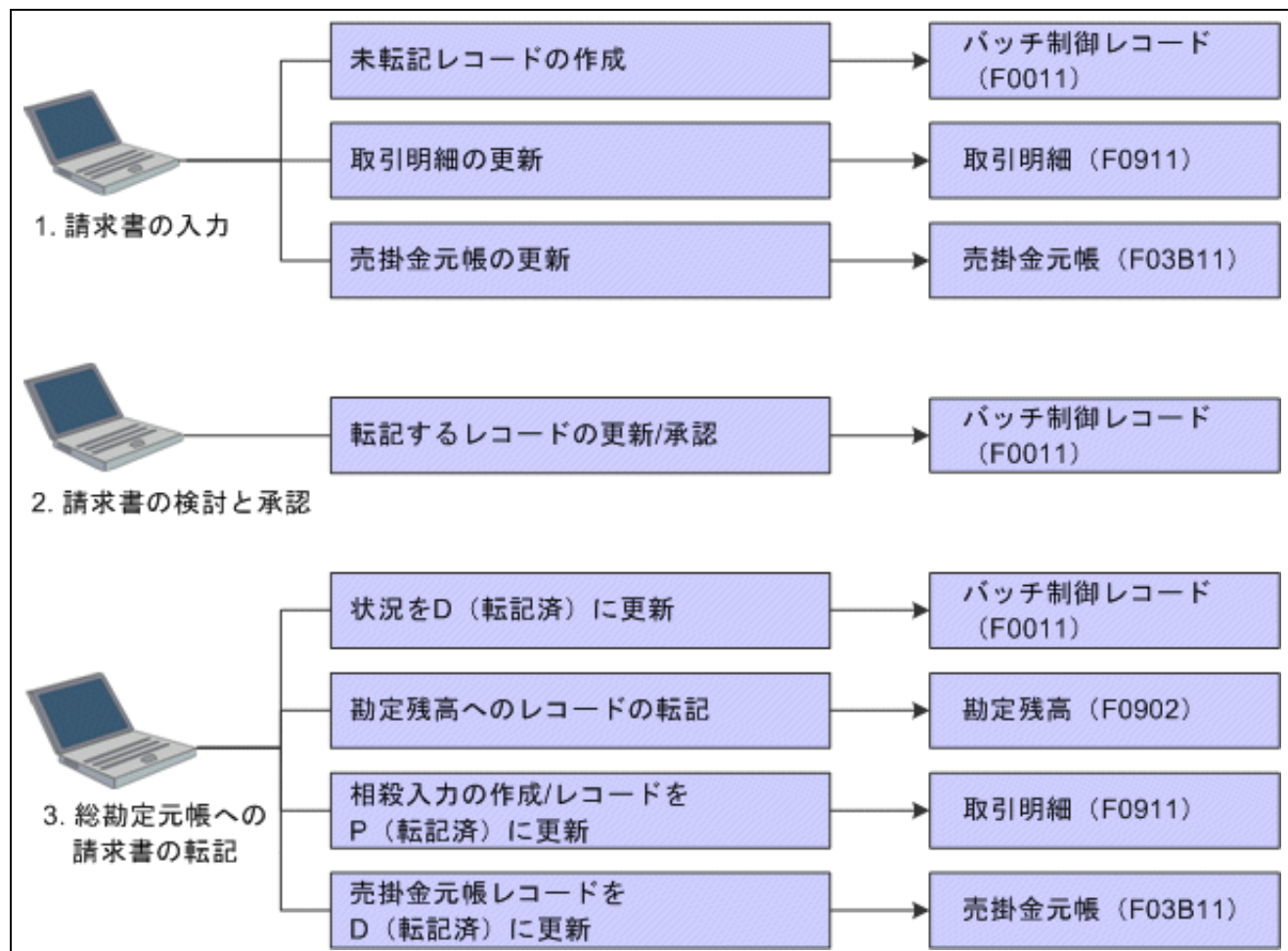
請求書処理について

売掛管理部門では、効率的に請求処理を進めることが非常に重要です。通常は、顧客から入金を受ける前に請求書を作成します。そのため、請求書のほとんどはオラクル社のJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムなど他システムで作成されます。しかし、売掛管理システムでも顧客請求書の入力や改訂が必要になることがあります。

請求書の処理には3つのステップがあります。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのシステムでは、取引のバッチを3つのステップで処理します。処理の3つのステップは次のとおりです。

1. 取引（請求書、入金、手形など）の入力
2. 転記のための取引の検討と承認
3. 総勘定元帳への取引の転記

次の図は、3ステップ処理における処理の内容を示しています。



3ステップの処理

請求書入力

組織の必要に応じて、次の方法で請求書を入力できます。

- 標準請求書入力: 柔軟性があり多くの機能を備えています。
- スピード請求書入力: 標準請求書入力に比べて、柔軟性が低く機能が少なくなります。しかし、請求書や勘定科目情報をすばやく入力できます。

標準請求書入力とスピード請求書入力の長所と短所を考慮して、どちらの方法を使うか決めてください。

| 請求書入力方法 | 長所と短所 |
|-----------|--|
| 標準請求書入力 | <p>次の処理が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 分割払いの作成 • 複数支払項目の使用 • 定期請求書の設定 • 請求書の変更、削除、無効 • モデル仕訳の作成または利用 • 相手勘定の一時変更 <p>請求書と勘定科目情報の入力にフォームを2つ使うため、請求書にすばやく入力することはできません。</p> |
| スピード請求書入力 | <p>次の処理が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入力プログラム1つで、請求書と勘定科目情報の両方を入力 • 限られた請求書情報のスピーディな入力 <p>次の処理は実行できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 分割払いの作成 • 請求書の変更、削除、無効 • 定期請求書の設定 • 各請求書への複数の支払項目の入力 • モデル仕訳の作成または利用 • 相手勘定の一時変更 |

請求書バッチ

請求書を入力した後、総勘定元帳に転記する前に、各請求書の検討、承認、および改訂を行うことができます。請求書仕訳の検討プログラム(P0011)を使って、次のことができます。

- 請求書バッチの検討と承認
- 既存のバッチへの請求書の追加
- 各請求書の検討と改訂
- 関連する仕訳の検討と改訂

総勘定元帳への転記

請求書を検討、承認した後、総勘定元帳に転記します。転記用の請求書バッチを送信すると、次の処理が実行されます。

- 承認済で未転記の請求書を選択し、各取引を検証します。
- 売掛金勘定と税勘定の自動仕訳を作成します。
- 勘定残高テーブル(F0902)へ承認済の取引を転記します。
- 売掛金元帳(F03B11)、請求書改訂履歴(F03B112)、取引明細(F0911)の各テーブルで請求書を転記済に更新します。

- ワーク・センターにワークフロー・メッセージを送信します。
- 転記レポートまたは転記詳細エラーレポート(あるいはその両方)を印刷します。

標準請求書について

この項では、標準請求書、請求書入力マスター・ビジネス関数、貸借不一致の請求書、クレジット・メモ、スピード請求書、未転記請求書の改訂の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 標準請求書入力(P03B11)の処理オプションの設定
- スピード請求書入力(P03B11SI)の処理オプションの設定
- 請求書入力MBF処理オプション(P03B0011)の処理オプションの設定
- 請求書の検索
- 標準請求書入力
- モデル仕訳の選択
- 貸借不一致の請求書入力
- クレジット・メモの入力
- 割引付き請求書の入力
- スピード請求書入力

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「丸めとソフト丸めについて」

標準請求書入力について

顧客に販売した商品やサービスに対して、請求書レコードを作成する必要があります。ほとんどの請求書は、JD Edwards EnterpriseOne受注管理、JD Edwards EnterpriseOne不動産管理、JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理など他システムで作成されますが、売掛管理システムでも様々な請求書を入力できます。請求書入力時には、顧客レコードに設定したデフォルト情報が使用されます。

請求書の情報を入力した後、勘定科目の情報を入力します。通常、収益勘定を貸方に入力します。請求書を転記すると、AAI(自動仕訳)で設定した売掛金勘定の仕訳が自動的に作成されます。

また、いつも同じ複数の勘定科目を入力する場合は、モデル仕訳を設定できます。標準請求書では、基本的な情報を入力する以外に、その他の情報を入力、改訂できます。たとえば、1件の請求書に支払期日や税情報が異なる複数の明細行を入力したり、定期請求書を入力できます。

注意: 一部入金済の請求書は入力できません。

請求書にはバッチ・タイプIBが割り当てられます。標準請求書を入力すると、売掛金元帳と取引明細テーブルにレコードが追加されます。請求書のバッチを転記すると、F0902テーブルが更新され、次のテーブルの請求書の状況が転記済に更新されます。

- F03B11
- 請求書改訂履歴(F03B112) - 改訂がある場合

- F0911
- バッチ制御レコード (F0011)

請求書およびクレジット・メモには、請求書入力MBF処理オプション・プログラム (P03B0011) の処理オプションで指定した伝票タイプが割り当てられます。標準請求書入力プログラム (P03B11) の処理オプションで使用するMBFプログラムのバージョンを指定し、次に売掛金元帳照会 (P03B2002) の処理オプションで使用する標準請求書入力処理オプションのバージョンを指定してください。通常、請求書には伝票タイプRI、クレジット・メモには伝票タイプRMが割り当てられます。

カテゴリ・コード

請求書を入力すると、F03B11テーブルにある請求書レコードのカテゴリ・コード・フィールド (AR01 から AR10) は、会社番号に基づいた業種別顧客マスター (F03012) の値に自動的に更新されます。請求書に入力した会社のカテゴリ・コードの値が設定されていない場合でも、会社00000に設定された値は使用されません。

業種別処理を使用しない場合は、常に会社00000の値が使用されます。

デフォルト情報

顧客レコードでデフォルトの収益勘定またはモデル仕訳を指定すると、「勘定科目情報」フォームの詳細グリッドにはデフォルトの収益勘定が自動的に表示されます。「金額」フィールドには、請求書の総額がマイナスで表示されます。必要に応じてこの金額を変更できます。

勘定科目IDフィールドの更新

請求書を入力すると、F03B11テーブルにある請求書レコードの勘定科目ID (AID) フィールドは売掛金勘定の略式IDに更新されます。この売掛金勘定は自動仕訳で使用されます。請求書で指定された相手勘定と会社のAAI項目RCから勘定科目コードが検索されます。AAIにビジネスユニットが含まれていない場合、請求書の支払項目で指定されたビジネスユニットが使用されます。

比率を使った複数の勘定科目の配分

複数の勘定科目情報の金額を比率を使用して配分するには、「勘定科目情報」フォームの見出し領域にある「パーセント」オプションを選択します。次に、詳細グリッドの「%」フィールドに比率を入力します。金額が自動的に計算されます。入力した比率の合計が100%になるようにしてください。

比率は整数で入力してください。たとえば25%の場合、「.25」ではなく「25.0」と入力します。

モデルに基づく勘定科目情報の入力

入力処理を簡単にするために、モデル仕訳を設定して使用できます。計上する勘定科目が同じ伝票および請求書がある場合、モデル仕訳を設定すると便利です。取引の勘定科目情報を入力するときにモデルを選択するか、仕入先または顧客レコードに対してデフォルトのモデルを設定できます。

割引

早期の入金や支払に対する特典として割引付きの請求書を入力できます。割引付きの請求書を入力すると、取引に設定した支払条件に従って割引額と支払期日が計算されます。

割引の入力には、次の3つの方法があります。

- 支払条件の使用。支払条件を指定して、請求書を入力します。支払条件に従って、割引可能額と支払期日、割引期日が自動的に計算されます。自動計算された割引額をゼロに変更する場合は、割引を計算しない支払条件を設定し、「請求書の入力」フォームでその支払条件を指定してください。

支払条件を変更して新たに割引額または期日を計算しなおす場合は、次のフィールドをクリアして、自動計算された情報を削除してください。

- 割引可能額
- 割引期日
- 支払期日
- 支払条件を変更してもこれらのフィールドをクリアしないと、割引情報は再計算されません。
- 割引額の入力。請求書入力時に割引可能額を指定します。同時に割引期日と支払期日を指定することもできます。
- 割引率の入力。請求書入力時に割引率を指定します。同時に割引期日と支払期日を指定することもできます。

添付

添付を入力することによって、請求書および勘定科目情報にコメントを追加できます。添付は社内参照のみに使用し、レポートや請求書、計算書には表示されません。たとえば、請求書の変更や無効に関する顧客の指示を入力できます。

「売掛金元帳照会の処理」フォームまたは「請求書の入力」フォームで、請求書の支払項目に添付を追加できます。請求書レコードは「OK」をクリックするまで作成されないため、請求書の入力中は請求書の支払項目に対して添付は追加できません。また、「売掛金元帳照会の処理」で集計して表示されている請求書の支払項目にも添付を追加できません。

請求書の支払項目とは異なり、「勘定科目情報」フォームでは勘定科目の入力中に勘定科目に添付を追加することは可能です。これは、勘定科目情報入力時には伝票番号、タイプ、会社がすでにレコードに割り当てられているためです。

追加できる添付ファイルの種類は次のとおりです。

- テキスト
- イメージ
- OLE
- ショートカット
- URL/ファイル

添付を追加すると、添付を追加した支払項目または勘定科目の明細行の左にペーパークリップのボタンが表示されます。添付の入力方法は、使用するプログラムやシステムにかかわらず同じです。

請求書入力マスター・ビジネス関数について

マスター・ビジネス関数(MBF)の目的は、請求書や伝票、仕訳などの伝票入力に関する標準的なビジネス規則をシステム全体で共有することです。マスター・ビジネス関数には処理オプションがあります。MBFの処理オプションを設定してから、入力プログラムの処理オプションで使用するMBFのバージョンを指定します。

請求書入力MBF処理オプション(P03B0011)は、次のプログラムを使って請求書が作成される場合に使用されます。

- 標準請求書入力(P03B11)
- スピード請求書入力(P03B11SI)
- バッチ請求書の処理(R03B11Z1A)

さらに、次のシステムでは請求書が自動的に作成されます。

- 受注管理
- 契約/サービス請求管理
- 不動産管理

請求書MBFを使用するプログラムでは、使用するMBFのバージョンを指定する必要があります。バージョンを指定しない場合、ZJDE0001が使用されます。

貸借不一致の請求書について

通常、請求書を入力する場合、請求書と勘定科目情報の2つのフォームに入力します。取引を保存するには、この2つの情報の金額を一致させる必要があります。「勘定科目情報」フォームに入力しないで終了した場合、請求書の情報は失われ、もう一度最初から取引を入力する必要があります。

途中まで入力した内容を保存するために、貸借不一致のまま請求書を終了して、後で勘定科目情報を入力できます。転記プログラムではバッチの全取引において貸借が一致していることが必須となるため、貸借不一致の取引を誤って転記することを防ぐことができます。

重要: 貸借不一致でも取引を転記できるように設定することは可能ですが、この手順は使用しないでください。貸借が一致しない取引を転記すると必要な勘定科目がすべては更新されず、整合性の問題が発生します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「バッチ見出しの管理」、「貸借不一致バッチの改訂」

クレジット・メモについて

顧客への超過請求分を計算書に反映させるには、クレジット・メモを入力します。総額をマイナスで入力する以外は、請求書を入力するのと同じステップに従います。

請求書入力MBF処理オプション・プログラムを使用して検索された伝票タイプの値が、クレジット・メモに割り当てられます。通常は、伝票タイプRMが割り当てられます。クレジット・メモに自動採番される伝票番号は、請求書の伝票番号に使用される自動採番の番号とは異なります。また、クレジット・メモの支払期日には元帳日付が使用されます。

支払条件が正しく設定されている場合、クレジット・メモでも割引は自動的に計算されます。総額にはマイナス(貸方)の金額を入力するため、「割引可能額」フィールドもマイナスの金額になります。このマイナスの割引額を削除するには、「支払条件」フィールドを割引を計算しない支払条件に変更し、「割引可能額」フィールドの金額をクリアした後「OK」をクリックします。

注意: 標準請求書入力プログラムの処理オプションで使用する請求書入力MBF処理オプション・プログラムのバージョンを指定し、次に売掛金元帳照会プログラムの処理オプションで使用する標準請求書入力プログラムのバージョンを指定してください。

スピード請求書について

単純な内容の請求書を大量に入力する場合、標準請求書入力のかわりにスピード請求書入力を使用できます。スピード請求書入力では、請求書と勘定科目情報を1つのフォームで入力します。支払項目が1つ、つまり支払期日および税率/税域が1つだけで定期的には作成しない請求書を入力する場合に、この方法を使用することをお勧めします。

スピード請求書入力では、請求書の改訂や削除はできません。

標準請求書と同様、スピード請求書の情報は、次のテーブルに保管されます。

- F03B11
- F0911
- F0011

注意: スピード請求書入力では、「相手勘定」フィールドは表示されません。顧客マスター・レコードに相手勘定が設定されている場合は、その値が自動的に取り込まれます。標準請求書でこの値を変更する必要がある場合は、標準請求書入力プログラムを使用してください。

未転記の請求書の改訂について

請求書を入力した後、請求書の修正が必要になることがあります。請求書の修正は標準請求書入力プログラムで行います。このプログラムには「売掛金元帳照会」または「請求書仕訳の検討」からアクセスします。

注意: 未転記の請求書を改訂する前に、売掛金元帳照会の「カスタマ・セルフサービス」処理オプションが選択されていないことを確認する必要があります。この処理オプションが選択されている場合は、請求書は変更できません。

すべてのフィールドは変更できませんが、未転記で未入金 of 請求書では次のフィールドを変更できます。

- 支払条件

支払条件を変更する場合は、「割引額」、「割引期日」、「支払期日」の3つのフィールドをクリアし、新しい支払条件に基づいて自動的に再計算されるようにします。

- 総額

未決済金額が自動的に再計算されます。

総額を変更する場合は、割引額の変更が必要かどうかを確認してください。総額を変更しても割引額は自動的に再計算されません。支払条件から割引額を自動的に再計算するには、「割引可能額」フィールドをクリアしてください。

総額を変更する場合は、課税対象額と税額の変更が必要かどうかを確認してください。総額を変更しても課税対象額と税額は自動的に再計算されません。税率/税域に基づいて課税対象額と税額を再計算するには、「課税対象」フィールドと「税額」フィールドをクリアしてください。

総額を変更すると、「勘定科目情報」フォームが表示されます。

- 備考
- 割引可能額
- 期日
- 割引期日
- 相手勘定
- 支払状況

支払状況がP(支払済)の場合は値を変更できません。

- 頻度
- 支払回数

その他のフィールドを変更する必要がある場合は、請求書を削除してもう一度入力する必要があります。

割引額など、特定の情報を複数の請求書で一度に変更するには、スピード・リリース・プログラム(P03B114)を使用します。

重要: 受注管理など他システムで作成された請求書を変更すると、元のシステムで請求書の変更を行うことを薦めるメッセージが表示された後、変更に基づいて再処理が行われます。請求書が作成された元のシステムのシステム・コードは、OMOD(当初モジュール)フィールドに保管されます。

請求書を変更すると、金額のフィールドを変更していない場合でも、国内通貨建ての金額と税額が再計算されます。たとえば、税付き外貨建て請求書の備考を変更した場合、次の処理が行われます。

税額と総額が再計算されます。総額が課税対象額と税額の合計と等しくならない場合、会社別税規則で設定された許容範囲によって警告またはエラー・メッセージが表示され、請求書を変更できないこともあります。

国内通貨建ての金額が再計算されます。国内通貨建ての総額、課税対象額、税額に対して異なる値が計算された場合、請求書と勘定科目間の貸借不一致や、2つのシステム(受注管理と売掛管理など)の間での不整合の問題が生じる可能性があります。

関連項目:

第 7 章、「請求書の処理」、「スピード・リリースについて」、146 ページ

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 顧客レコードを設定します。
- 売掛金元帳照会プログラムの処理オプションを正しく設定します。
- 次のプログラムの処理オプションを正しく設定します。
 - 標準請求書入力 (P03B11)
 - スピード請求書入力 (P03B11SI)
 - 請求書入力MBF処理オプション (P03B0011)
 - 仕訳入力MBF処理オプション (P0900049)

これらのプログラムの処理オプションを設定するには、「システム・アドミニストレーション・ツール」メニュー (GH9011) から「対話型バージョン」を選択します。

- AAI項目 RCを設定します。

請求書の処理に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------|-----------|--|--|
| 売掛金元帳照会の処理 | W03B2002A | <ul style="list-style-type: none"> • 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「請求書入力」 請求書を追加する場合には、このナビゲーションを使用してください。 • 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「売掛金元帳照会」 | <p>請求書を検索、検討、削除します。</p> <p>顧客に対する請求書を入力する前に、その請求書がすでに入力されていないかどうか確認できます。重複して入力するのを防ぐために最初に請求書を検索し、必要に応じて修正や削除を行ったり無効にしたりします。</p> |

| ページ名 | オブジェクト名 | ナビゲーション | 用途 |
|------------------|-----------|---|--|
| 請求書の入力 | W03B11A | 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「請求書入力」 「売掛金元帳照会の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | 標準請求書を入力します。 |
| 追加情報 | W03B11E | 「請求書の入力」フォームの「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。 | 自動設定されたサービス/税日付、ビジネスユニットまたは支払手段の値を変更します。 |
| 勘定科目情報 | W03B11C | 「請求書入力」フォームに入力し、「OK」をクリックします。 | 勘定科目に請求書金額を計上します。 |
| モデル仕訳の検索/選択 | W03B11G | 「勘定科目情報」フォームで、「フォーム」メニューから「モデル仕訳」を選択します。 | 取引の勘定科目情報入力時に勘定科目情報のモデルを選択します。 モデル選択後は、そのモデルを基準として使い、必要に応じて「勘定科目情報」フォームの金額を追加、変更します。必要に応じて他のフィールドの情報を置換またはクリアすることもできます。 |
| 追加情報 | W03B11F | 「勘定科目情報」フォームで、「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。 | 貸借不一致のまま請求書を終了します。勘定科目情報は後で入力します。 |
| メディア・オブジェクト・ビューア | なし | 「売掛金元帳照会の処理」フォーム、「請求書の入力」フォームまたは「勘定科目情報」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューから「添付」を選択します。 | 添付を入力し、請求書にコメントを追加します。添付は社内でのみ参照されます。 集計された請求書の支払項目には添付を追加できません。 |
| スピード請求書入力 | W03B11SIA | 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「スピード請求書入力」 | 単純な内容の請求書を大量に入力します。 |

標準請求書入力(P03B11)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示オプション

この処理オプションでは、「請求書の入力」フォームに購買オーダー、税情報、外貨建て金額のフィールドを表示するかどうかを指定します。

- 1. 購買オーダーフィールド** 購買オーダー・フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: フィールドを表示しない。

2. 税情報

1: フィールドを表示する。

請求書用の税情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 税情報を表示する。

1: 税情報を表示しない。

表示しないを指定した場合、請求書入力時の税処理は無効になります。

3. 国内通貨と外貨フィールド

「請求書の入力」フォームの詳細グリッドに国内通貨と外貨両方の金額フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 国内通貨と外貨フィールドを表示しない。

1: 国内通貨と外貨フィールドを表示する。次のフィールドが表示されます。

- 総額(国内)
- 割引可能額(国内)
- 課税対象額(国内)
- 税額(国内)
- 金額(外貨)
- 割引可能額(外貨)
- 課税対象額(外貨)
- 税額(外貨)

実行バージョン

この処理オプションを使用して、請求書の処理に使用するマスター・ビジネス関数(MBF)のバージョンを指定します。

1. 請求書入力MBF (P03B0011)バージョン

使用する請求書入力MBF処理オプション・プログラム(P03B0011)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

2. 仕訳入力MBF (P0900049)バージョン

使用する仕訳入力MBF処理オプション・プログラム(P0900049)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

スピード請求書入力(P03B11SI)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示オプション

この処理オプションでは、フォームに税および購入オーダー・フィールドを表示するかどうかを指定します。

1. 税フィールド

「スピード請求書入力」フォームに「税率/税域」、「税目コード」、「税額」、および「課税対象額」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 税フィールドを表示しない。

1: 税フィールドを表示する。

- 2. 購買オーダー・フィールド** 「スピード請求書入力」フォームに「購買No./タイプ/会社」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 購買オーダー・フィールドを表示しない。
 1: 購買オーダー・フィールドを表示する。
- 3. サービス/税日付フィールド** 「スピード請求書入力」フォームに「サービス/税日付」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 「サービス/税日付」フィールドを表示しない。
 1: 「サービス/税日付」フィールドを表示する。

実行バージョン

この処理オプションでは、請求書追加時に使用するプログラムのバージョンを指定します。

- 1. 請求書入力MBFバージョン** 使用する請求書入力MBF処理オプション・プログラム(P03B0011)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 2. 仕訳入力MBFバージョン** 使用する仕訳入力MBF処理オプション・プログラム(P0900049)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

デフォルト値

この処理オプションでは、マイナス金額を表示するかどうかを指定します。

- 1. マイナス金額の表示形式** マイナス金額をプラスの数字で表示するか、マイナスの数字で表示するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: マイナスで表示する。
 1: プラスで表示する。

請求書入力MBF処理オプション(P03B0011)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト値

この処理オプションでは、各フィールドで使用するデフォルト値を指定します。

- 1. サービス/税日付** 「サービス/税日付」フィールドに設定される日付を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 元帳日付
 1: 請求書日付

注意: この処理オプションで指定したデフォルト値は、請求書の入力時に変更できます。

- 2. 支払状況コード** 「支払状況コード」フィールドに設定される値を指定します。この処理オプションをブランクにすると、データ辞書の項目PST(支払状況)に設定されている値が使用されます。

3. **標準請求書伝票タイプ** 請求書に割り当てられる伝票タイプを指定します。ユーザー定義コード (UDC) 00/DTと00/DIに設定されている伝票タイプを指定してください。この処理オプションをブランクにすると、伝票タイプRIが使用されます。
4. **クレジット・メモ伝票タイプ** クレジット・メモに割り当てられる伝票タイプを指定します。ユーザー定義コード00/DTと00/DIに設定されている伝票タイプを指定してください。この処理オプションをブランクにすると、伝票タイプRMが使用されます。
5. **クレジット・メモ支払期日** クレジット・メモに使用する支払期日を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 支払期日に元帳日付を使用する。
 1: 支払条件コードで指定された支払期日を使用する。

検証

この処理オプションでは、請求書日付を入力する際の規則を指定します。

1. **請求書日付が今日の日付より後** 請求書日付が今日の日付より後の場合、警告メッセージを表示する、エラー・メッセージを表示する、メッセージを表示しないのいずれかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: メッセージなし
 1: 警告
 2: エラー
2. **請求書日付が元帳日付より後** 請求書日付が元帳日付より後の場合、警告メッセージを表示する、エラー・メッセージを表示する、メッセージを表示しないのいずれかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: メッセージなし
 1: 警告
 2: エラー

税

この処理オプションでは、外貨建て請求書に付加価値税 (VAT) (税目コードV) を入力できるようにするかどうかを指定します。

1. **外貨建て取引における税** 外貨建て請求書に付加価値税を入力できるようにするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 付加価値税を許可しない。
 1: 付加価値税を許可する。

通貨オプション

この処理オプションでは、為替レートを使用するための規則を指定します。

1. **為替レート日付** 為替レートを取り込む日付を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 請求書日付
 1: 元帳日付

2. 有効日付の検証

為替レートを取り込むのに使用する有効日付が入金入力で入力された元帳日付と同じ期間かチェックするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 有効日付を検証しない。

1: 有効日付を検証する。為替レート・テーブル (F0015) から取り込まれた為替レートの有効日付が請求書の元帳日付と同じ期間にない場合、警告が表示されます。

3. 為替レート許容限度額

請求書入力時の為替レートの変更に対する許容範囲を指定します。計算された金額が指定した許容範囲内にない場合は、請求書入力時に警告メッセージが表示されます。

たとえば、為替レートの変更を5%まで認める場合は「5」と指定します。前回入力した為替レートと6%異なる値を入力すると、警告メッセージが表示されます。これにより、入力為替レートが妥当であるかが確認され、データ入力ミスと考えられる場合に警告されます。

バージョン

この処理オプションでは、実行する請求書インタオペラビリティ処理オプション・プログラム (P03B0190) のバージョンを指定します。

1. インタオペラビリティ (P03B0190) バージョン

使用する請求書インタオペラビリティ処理オプション・プログラム (P03B0190) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

請求書の検索

「売掛金元帳照会の処理」フォームにアクセスします。

売掛金元帳照会 - 売掛金元帳照会の処理

選択(S) 検索(I) 追加(A) 削除(D) 開じる(L) フォーム(F) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

顧客3333Continental Incorporated

親住所3004Pacific Company, Theバッチ番号*

請求書番号範囲*から*

☒すべて☐入金済み☐未入金

日付範囲から

☒請求書日付☐支払期日☐元帳日付☐計算書日付

基準日

☐定期請求書☐集計

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 伝票 番号 | 伝票 タイプ | 伝票 会社 | 支払 項目 | 請求書 日付 | 総額 | 未入 金額 | 割引 可能額 | 有効 割引額 | 期日 | 割引 期日 |
|--------------------------|--------------------------|----------|-----------|----------|----------|------------|--------|----------|-----------|-----------|------------|------------|
| <input type="checkbox"/> | | 1015 | R5 | 00001 | 001 | 2005/06/15 | 500.00 | 500.00 | | | 2005/06/15 | 2005/06/15 |
| <input type="checkbox"/> | | 1016 | R5 | 00001 | 001 | 2005/06/28 | 36.00 | 36.00 | | | 2005/06/28 | 2005/06/28 |
| <input type="checkbox"/> | | 1017 | R5 | 00001 | 001 | 2005/07/02 | 16.36 | 16.36 | | | 2005/07/02 | 2005/07/02 |
| <input type="checkbox"/> | | 1018 | R5 | 00001 | 001 | 2005/08/10 | 122.04 | 122.04 | | | 2005/08/10 | 2005/08/10 |
| <input type="checkbox"/> | | 9008 | RB | 00001 | 001 | 2005/08/10 | 37.71 | 37.71 | | | 2005/08/10 | 2005/08/10 |
| <input type="checkbox"/> | | 9009 | RB | 00001 | 001 | 2005/08/10 | .25 | .25 | | | 2005/08/10 | 2005/08/10 |
| <input type="checkbox"/> | | 3095 | RF | 00001 | 001 | 2005/08/31 | 685.11 | 685.11 | 6.85 | | 2005/09/30 | 2005/09/10 |

「売掛金元帳照会の処理」フォーム

- 顧客

顧客の住所録番号を入力します。
- 親住所

顧客の親会社の住所録番号を入力します。
親と子両方の顧客レコードが表示されます。孫および次のレベルの親/子関係のレコードは表示されません。
- バッチ番号

請求書を検証するバッチ番号を入力します。
- 請求書番号範囲（請求書の開始番号）、から（請求書の終了番号）

検証する請求書番号の範囲を入力します。
- すべて、入金済み、未入金

請求書を表示するオプションを次の中から1つ選択します。
すべて: すべての請求書を表示します。
入金済み: 支払済の請求書のみが表示されます。
未入金: 未払いの請求書のみが表示されます。
- 日付範囲、から（請求書範囲の終了日付）

請求書を検証する日付範囲を入力します。
- 請求書日付、支払期日、元帳日付、計算書日付

「日付範囲」フィールドに入力する日付に使用する日付タイプをこれらのオプションの中から1つ選択します。
- 注意: 基準日機能を使用するには「すべて」を選択してください。

基準日

特定の時点での請求書を検討するために使用する日付を入力します。入金
の元帳日付と基準日を比較し、指定した日付時点で請求書が未決済と
入金済のどちらであったかを判断した結果をもとに請求書が表示されます。

基準日を使った検索で正しい結果を得るには、支払状況オプションは「す
べて」を指定してください。

定期請求書

定期請求書が表示されます。このチェックボックスを選択すると、支払回数
や頻度などの定期情報が含まれる請求書のみ表示されます。

集計

請求書を集計モードで表示します。このチェックボックスを選択すると、複
数の支払項目がある請求書は1件の集計レコードとして表示され、「支払
項目」フィールドには、「*」が表示されます。選択を解除した場合は、請求
書支払項目は個別のレコードとして表示されます。

標準請求書の入力

「請求書の入力」フォームにアクセスします。

請求書入力 - 請求書の入力 i ?

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 00070 バッチNo. * 7906

顧客 3333 Continental Incorporated

会社番号 00070 Luxe de France

請求書日付 2005/06/16 元帳日付 2005/06/30

通貨 EUR 為替レート 基本 EUR ☐ 外貨

☒ 割引率 支払条件 001

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

| | 支払項目 | 総額 | 備考 | 支払条件 | 割引率 | 割引可能額 | 課税対象額 | 税額 |
|----------------------------------|------|----------|----|------|-----|-------|-------|----|
| <input type="radio"/> | 001 | 4,450.00 | | 001 | | 44.50 | | |
| <input checked="" type="radio"/> | 002 | 50.00 | | | | | | |
| <input type="radio"/> | 003 | | | | | | | |

総額 4,450.00 割引 44.50 税額 課税対象

「請求書の入力」フォーム

標準請求書を入力するには、次の手順に従います。

1. 伝票番号、伝票タイプ、伝票会社を割り当てるには、見出し領域の「伝票No./タイプ/会社」フィールドに値を入力します。このフィールドの入力は任意です。

伝票番号は自動採番によって割り当て、伝票タイプは請求書入力MBF処理オプション・プログラムから、伝票会社は請求書に割り当てた会社番号から自動的に割り当てる必要があります。この情報は、請求書入力を終えて「OK」を押したときに割り当てられます。

2. 見出し領域の「顧客」、「会社番号」、「請求書日付」、「元帳日付」フィールドに入力します。

3. (省略可) 必要に応じて、「支払条件」フィールドの値を変更します。
4. 「フォーム」メニューから「追加情報」を選択し、「追加情報」フォームにアクセスします。
5. (省略可) 必要に応じて「追加情報」フォームのフィールドの値を変更した後、「OK」をクリックすると「請求書の入力」フォームに戻ります。
6. 「請求書の入力」フォームの詳細グリッドで、「総額」フィールドに入力します。
7. (省略可) 詳細グリッドで、各支払項目に対して「備考」、「支払条件」、「ビジネスユニット」、「支払期日」、「相手勘定」フィールドに入力します。
「支払条件」フィールドにはフォームの見出しと同じ値が表示されますが、すべてまたは必要な支払項目に対して値を変更できます。

注意: 支払項目入力後に支払条件コードを変更した場合は、「割引可能額」、「支払期日」、「割引期日」フィールドの値が自動的に再計算されるように、各フィールドをクリアしてください。

8. 「OK」をクリックして、「勘定科目情報」フォームにアクセスします。
入力にエラーがあると、そのフィールド(2つ以上ある場合は最初のフィールド)がハイライトされます。エラーを表示するには、ヘルプ・メニューからエラーの表示を選択します。
請求書情報入力後、明細行を入力し請求書金額を勘定科目に配賦します。請求書の全額を配賦しないとエラー・メッセージが表示されます。
9. 「勘定科目情報」フォームで、各勘定科目の詳細グリッドの「勘定科目コード」と「金額」フィールドに入力します。
10. (省略可) 「説明-摘要-」フィールドに入力し、「OK」をクリックします。

注意: 収益性分析を使用している場合、コスト・オブジェクトおよびオブジェクト・タイプ・フィールドにも入力する必要があります。

請求書の入力

「請求書の入力」フォームでは、次のフィールドを使用します。

| | |
|---------------------|---|
| 伝票No./タイプ/会社 | 取引に割り当てられる伝票番号、伝票タイプ、伝票会社が表示されます。自動採番プログラム(P0002)を使って自動的に割り当てるかわりに、伝票番号を割り当てることができます。 |
|---------------------|---|

| | |
|-----------|-------------------------|
| 顧客 | 請求書を入力する顧客の住所録番号を入力します。 |
|-----------|-------------------------|

| | |
|-------------|----------------------|
| 会社番号 | 請求書を転記する会社の番号を入力します。 |
|-------------|----------------------|

注意: 日付やAAI(自動仕訳)などのデフォルト値には会社00000を使用できます。取引の入力には会社00000は使用できません。

| | |
|--------------|--|
| 請求書日付 | 請求書の日付を入力します。 空白にすると、「元帳日付」フィールドの日付が自動的に割り当てられます。 |
|--------------|--|

| | |
|-------------|--|
| 元帳日付 | 取引を転記する日付を入力します。 空白にすると、「請求書日付」フィールドの日付が自動的に割り当てられます。 |
|-------------|--|

| | |
|-------------|-----------------------------|
| 支払条件 | 顧客レコードから割り当てられた支払条件が表示されます。 |
|-------------|-----------------------------|

| | |
|-------------|--|
| 総額 | 伝票の合計金額を入力します。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。消込のときもこの総額は変わりません。取引を無効にすると、総額フィールドの金額はクリアされます。 |
| | 「請求書の入力」の詳細グリッドで未決済金額を入力したり変更することはできません。未決済金額は自動的に計算されます。ただし、総額を変更した場合は、次の支払項目をクリックするか「OK」をクリックすると、未決済金額が再計算されます。 |
| 備考 | 摘要、説明、名前、または住所を入力します。請求書で入力した備考は、「勘定科目情報」フォームの「説明-摘要-」フィールドに使用されます。 |
| 期日 | 支払の期日が表示されます。 入力した支払条件に基づいて自動的に計算されますが、手入力で指定することもできます。マイナスの金額で請求書(クレジット・メモ)を入力すると、支払条件にかかわらず元帳日付が支払期日となります。マスター・ビジネス関数(P03B0011)の処理オプションに従って、クレジット・メモの支払期日が計算されます。 |
| 相手勘定 | 請求書を転記する際に相手勘定として使用する売掛金勘定のコードを入力します。AAI項目RC(売掛管理用)とこの値を組み合わせ、売掛金勘定が検索されます。たとえば、「TRAD」と入力すると、AAI項目「RCTRAD」(売掛)が検索されます。 相手勘定を表す最大4文字の英数字、または3文字の通貨コード(多通貨環境で取引を入力する場合)を割り当てることができます。ただし、対応するAAI項目をシステムに設定しておく必要があります。設定されていない場合は相手勘定は無視され、指定された会社のRCに設定されている勘定科目が使用されます。 顧客レコードの「相手勘定」フィールドにデフォルト値を設定した場合、変更しないかぎり、取引入力中はこのデフォルト値が使用されます。 <hr/> 注意: コード9999は使用しないでください。仕訳を作成しないように設定されている転記プログラムの予約コードです。 <hr/> |

追加情報

「追加情報」フォームでは、次のフィールドを使用します。

| | |
|-----------------|--|
| サービス/税日付 | 商品またはサービスの購入時、またはその課税時を示す日付を入力します。 空白にすると、請求書入力MBF処理オプション・プログラム(P03B0011)の処理オプションの設定に基づいて日付が設定されます。 |
| ビジネスユニット | 顧客の住所録レコードに割り当てられたビジネスユニットが表示されます。「請求書の入力」フォームの請求書支払項目のビジネスユニットを一時変更できます。 |
| | <hr/> 注意: AAIに関する考慮事項: RCで始まるAAI項目にビジネスユニットを設定しない場合、請求書に入力されたビジネスユニットとAAI項目の主科目および補助科目を結合した値が売掛金勘定として使用されます。たとえば、請求書に割り当てられたビジネスユニットが20、AAI項目RCに主科目1210が設定されている場合、請求書転記時に更新される売掛金勘定は20.1210になります。 <hr/> |

支払手段 顧客マスター・レコードに割り当てられている支払手段が表示されます。

勘定科目情報

「勘定科目情報」フォームでは、次のフィールドが使用されます。

勘定科目コード 取引を転記する勘定科目コードを入力します(売上収益勘定科目など)。

金額 勘定科目コードに転記される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて入力します。

勘定科目の合計金額は、請求書の総額フィールドに入力した合計金額と一致させる必要があります。フォーム最下部にある「金額」フィールドには、入力した勘定科目の合計金額が表示されます。「差異」フィールドには、請求書の総額と一致させるために必要な過不足額が表示されます。

摘要 -備考- 取引に割り当てる勘定科目などの情報の使用目的を示す名前や摘要を入力します。

このフィールドをブランクにすると、請求書の「備考」フィールドに入力された値が使用されます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「仕訳の処理」、「モデル仕訳の処理」

第 3 章、「顧客マスター情報の設定」、29ページ

勘定科目のモデル仕訳の選択

「モデル仕訳の検索/選択」フォームにアクセスします。

「モデル仕訳の検索/選択」で、適切なモデルを選択し「選択」をクリックします。

伝票入力 - 勘定科目情報または勘定科目情報にモデルが表示されます。ここで、モデルの情報に基づいて実際の仕訳を追加または改訂できます。

貸借不一致の請求書入力

「請求書の入力」フォームにアクセスします。

貸借不一致請求書を入力するには、次の手順に従います。

1. 請求書を入力するステップに従います。
2. 「勘定科目情報」フォームで、「勘定科目コード」と「金額」フィールドに入力します。
3. 貸借不一致の入力を保存するには、「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。
4. 「追加情報」で、「貸借不一致の許可」チェックボックスを選択します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「勘定科目情報」フォームで、「OK」をクリックします。

クレジット・メモの入力

「請求書の入力」フォームにアクセスします。

クレジット・メモを入力するには、次の手順に従います。

1. 基本的な請求書情報を入力するステップに従います。
2. フォームの詳細グリッドで、「総額」フィールドにマイナスの金額を入力し、「OK」をクリックします。
3. 必要な勘定科目情報を入力します。

クレジット・メモを入力する場合、「勘定科目情報」フォームでは借方(プラス)の金額を入力してください。

割引付き請求書の入力

「請求書の入力」フォームにアクセスします。

割引付き請求書を入力するには、次の手順に従います。

1. 基本的な請求書を入力するステップに従います。
2. 割引率を指定する場合は、「割引率」チェックボックスが選択されていることを確認します。
請求書入力時に「割引率」チェックボックスはデフォルトで選択されています。詳細グリッドで「割引率」を指定すると、「割引可能額」が自動的に計算されます。小数点を使用して割引率を入力してください。たとえば、2%の割引の場合は「.02」と入力します。
自動計算された割引可能額を変更するには、「割引可能額」フィールドの金額を変更します。
チェックボックスの選択を解除すると、フォームの詳細グリッドには「割引率」フィールドは表示されません。
3. 支払条件に基づいて割引を計算する場合は、「支払条件」フィールドに入力します。
デフォルト値が顧客マスター・レコードに設定されている場合は、その値が設定されます。必要に応じて、支払条件や詳細グリッドの割引率または割引可能額を変更できます。
4. (省略可) 詳細グリッドで、「支払条件」、「割引率」、「割引可能額」フィールドを変更または入力します。

見出し領域の「支払条件」の値が詳細グリッドの対応する支払項目にそれぞれ割り当てられます。必要に応じて、支払項目レベルでデフォルト値を変更できます。新しい支払条件に基づいた割引額を再計算するには、「割引可能額」フィールドをブランクにする必要があります。

割引額をゼロに変更する場合は、割引を計算しない支払条件に変更してください。

割引率は保存されません。このため、割引率が入力した割引額に基づいて自動的に計算されたり、変更した割引額に基づいて再計算されることはありません。

割引額を変更した場合、「支払条件」フィールドまたは「割引率」フィールドを変更する必要はありません。

注意: 分割または割賦支払条件を使用した場合、請求書を入力し終わるまで割引関連のフィールドは更新されません。複数の支払項目に分割された総額、割引額、税額を見るには、もう一度請求書を照会する必要があります。

5. (省略可)「支払期日」および「割引期日」フィールドに入力し、「OK」をクリックします。
6. 必要な勘定科目情報を入力します。

割引率

このチェックボックスを選択すると、フォームの詳細グリッドに「割引率」フィールドが表示され、総額に対する割引額の割合を指定できます。

割引率

割引期日前の入金に対する請求書総額から割り引く割引率を入力します。たとえば、2%割引の場合は「.02」と、小数点以下の数値で入力します。

割引可能額

支払時に、総額から割り引くことができる請求書の支払項目の金額が表示されます。割引金額は、請求書または伝票の入力時に指定した支払条件に基づいて計算されます。

注意: 割引額の自動計算が、指定した支払項目に正しく適用されていることを確認してください。通常、総額に含まれる運賃、消費税、労務費は割引の対象にはなりません。

割引期日

割引を受けるために、請求書を支払わなければならない期日が表示されます。支払条件に基づいて割引期日が計算されます。支払条件に割引が指定されていない場合、支払期日が自動的に表示されます。

スピード請求書の入力

「スピード請求書入力」フォームにアクセスします。

スピード請求書入力 - スピード請求書入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 RI 00077 バッチ 7926 前の伝票

顧客 3333 Continental Incorporated

会社番号 00077 Canadian Company 購買No./タイプ/会社

請求書金額 500.00 サービス税日付 2005/06/30 BU 1

請求書日付 2005/06/15 税率/税域 支払条件 001

元帳日付 2005/06/30 税目コード 支払手段

期日 2005/07/30 税額 支払状況 A

割引期日 2005/06/22 課税対象額

備考

通貨 USD 為替レート 1.5384615 割引 5.00 基本 CAD 外貨

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

| 勘定科目コード | 勘定科目名 | 金額 | 税トラッキング | 税率/税域 | 税目コード | 備考 | 数量 |
|----------|-------------|--------|---------|-------|-------|----|----|
| 777.5010 | Store Sales | 500.00 | 0 | | | | |

計上金額 500.00 差異

「スピード請求書入力」フォーム

処理オプションの設定に応じて、プラスまたはマイナスの金額を入力します。

定期請求書の処理

この項では、定期請求書の概要、定期請求書の改訂と再作成処理の概要、および次の方法について説明します。

- 定期請求書の入力
- オンラインでの定期請求書の照会
- 定期請求書レポートの印刷
- 定期請求書レポート(R03B305)のデータ選択とデータ順序の設定
- 定期請求書レポート(R03B305)の処理オプションの設定
- 定期請求書の改訂
- 定期請求書の再作成
- 定期請求書の再作成(R03B8101)の処理オプションの設定

定期請求書について

月次または四半期ごとなど定期的に顧客に同じ金額を請求する場合は、定期請求書を入力できます。定期取引を入力するには、作成する請求書の合計数およびその間隔を指定します。たとえば、1年間にわたって毎月請求する場合、毎月計12回の定期請求書を設定できます。それにより毎月請求書を入力しなくても、再作成プログラムを実行することにより元の請求書から新しい取引を作成できます。この新しい取引には伝票番号とバッチ番号が新規に割り当てられ、取引回数が1減らされます。請求書が残り1回になるまで、再作成プログラムを実行して新しい取引の作成を続けます。

標準請求書プログラムを使用し、支払回数と定期頻度を入力して定期請求書を設定します。定期請求書を設定するには、「フォーム」メニューから「定期請求書の処理」フォームにアクセスするか、請求書の詳細グリッドの「頻度」および「支払回数」フィールドに入力します。

定期請求書を入力すると、伝票タイプRRが割り当てられます。定期請求書の情報は、F03B11テーブルに保存されます。

請求書送付または来月の請求書の再作成前に、内容を確認できます。次のプログラムを使って、定期請求書をオンラインまたはレポートに印刷して確認できます。

- 定期請求書の照会 (P03B120)
- 定期請求書レポート(請求書仕訳) (R03B305)

通常は、オンラインで請求書を照会します。ただし、請求書の数が多い場合はレポートを利用した方が便利です。定期請求書レポートは、請求仕訳とプログラムが同じです。データ選択を使用して定期請求書のみのレポートに限定したり、処理オプションを使用して定期頻度や支払回数などの定期情報の印刷ができる特別バージョン(定期請求書の照会)が用意されています。F03B11テーブルの取引やF0911テーブルの関連情報が印刷されます。このレポートを使って、支払のない請求書やその支払期日を確認できます。

定期請求書の改訂について

定期請求書を再作成する前に、改訂が必要な場合があります。たとえば、顧客から賃貸契約やサービス契約の延長または終了を告げられた場合には、支払回数の変更、または資産や設備を維持するための追加費用の加算が必要な場合があります。

再作成した新しい請求書にはそれぞれ新しい伝票番号が割り当てられます。これにより、定期取引を改訂した場合でも、古い定期取引情報と混同することはありません。定期請求書の改訂では、次のことができます。

- 一部のフィールドの変更
- 取引の定期情報の取消
- 定期取引の削除または無効化

定期請求書の取消

「定期頻度」と「支払回数」フィールドをクリアすると、定期請求書を取消できます。この2つのフィールドの値を削除すると、取引は再作成されなくなります。誤って定期情報を削除した場合は、標準の入力プログラムを使って明細行に定期情報を入力しなおすことができます。

定期取引を取り消しても伝票タイプはそのままですが、元帳照会プログラムで定期伝票オプションを使って取引を検索できなくなります。

既存の取引に対する定期情報の追加

定期的ではない通常の請求書を入力した後で定期情報を追加するには、標準の入力プログラムを使って、詳細グリッドの頻度と支払回数を入力します。定期情報の追加時には、その取引の伝票タイプは変更されません。請求書を次に再作成したときに伝票タイプが変更されます。

関連項目:

第 7 章、「請求書の処理」、「請求書の改訂と転記」、140ページ

再作成処理について

定期請求書の入力、照会、改訂後に再作成して、来月、来四半期、来年用の取引のバッチを新規に作成します。定期請求書の再作成プログラム (R03B8101) を実行すると、当初の定期取引の作成時に指定した支払回数と定期頻度に基づいて新しい取引が作成されます。請求書再作成処理では、以前の取引がコピーされ必要なフィールドが更新されます。支払回数が1になるまで、再作成プログラムを実行するたびにこの処理が繰り返されます。支払回数が残り1になった時点で、取引の再作成は終了します。たとえば、1年間の定期請求書を設定する場合、支払回数を12に指定します。当初の取引が最初の支払になるため、支払回数が残り1回になった取引は再作成の対象とみなされません。

既存の請求書または伝票に対して支払をしなくても、次の定期取引を作成できます。

この処理を実行すると、次のテーブルの情報が更新されます。

- F0011
- F03B11
- F0911

定期請求書を再作成すると、次の処理が行われます。

- 当初の取引または最新の取引から定期頻度と支払回数を削除します。
- 新しい請求書を作成し、次の情報を更新します。
 - 伝票番号 (新規)
 - バッチ番号 (新規)
 - 支払回数 (1減らす)
 - 元帳日付と支払期日 (定期頻度を使って次回の日付を計算)

- 請求書日付 (処理オプションの設定による)
- 請求書番号 (伝票のみ) (処理オプションの設定による)
- 再作成された請求書の件数とエラーのため再作成できなかった取引の件数を示した例外レポートを作成します。エラー・メッセージは、ワーク・センターで見ることができます。エラーには次のようなものがあります。
 - 勘定科目レコードが作成されていません。これは、定期請求書または定期伝票のレコードが取引明細テーブルに見つからない場合に発生します。
 - 元帳日付が過去の会計年度です (PYEB)。
 - 元帳日付が過去の期間 (PBCO) で、かつ一般会計固定情報プログラム (P0000) で「PBCO (過去期間) 転記の許可」のチェックボックスが選択されていません。
 - 元帳日付が会社の会計期間パターンの範囲外です。

定期請求書の再作成後、総勘定元帳に転記する必要があります。

顧客が過去の請求書に対して支払をしなくても、次回の定期取引は作成できます。

定期請求書処理に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------|-----------|---|---|
| 請求書の入力 | W03B11A | 「その他の請求書入力方式」(G03B111)、「請求書入力」 「売掛金元帳照会の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | 定期請求書を入力し、月次または四半期ごとなど定期的に、顧客に同じ金額を請求します。 |
| 定期請求書履歴の処理 | W03B120A | 「その他の請求書入力方式」(G03B111)、「定期請求書の照会」 | 複数の定期請求書をオンラインで検索、照会します。 |
| 請求書明細 | W03B120AB | 「定期請求書履歴の処理」フォームで、請求書を選択し、「ロー」メニューから「明細」を選択します。 | 定期請求書1件についての明細情報を照会します。 |
| 定期請求書情報の改訂 | W03B120B | 「定期請求書履歴の処理」フォームで、請求書を選択し、「選択」をクリック、または「ロー」メニューから「改訂」を選択します。 | 請求書の定期情報を変更します。 |

定期請求書入力

「請求書の入力」フォームにアクセスします。

定期請求書を入力するには、次の手順に従います。

1. 必要な見出し情報を入力します。
2. 「フォーム」メニューから「定期請求書履歴」を選択します。
3. 「定期請求書履歴の処理」で、「定期頻度」と「支払回数」フィールドに入力し、「OK」をクリックします。

4. 「請求書の入力」で、必要な詳細情報を入力し、「OK」をクリックします。

請求書に複数の支払項目を追加すると、各支払項目に定期情報が追加されます。定期情報は、必要に応じて変更できます。

重要: 定期請求書に定期頻度や支払回数が異なる支払項目が複数含まれていると、定期請求書の再作成プログラム(R03B8101)実行時に取引が貸借不一致になる場合があります。たとえば、支払項目が2つある定期請求書を入力するとします。最初の支払項目1,000.00に対して、定期頻度「MO」(月次)、支払回数「12」を設定します。2番目の支払項目25.00に対して、定期頻度「QT」(四半期)、支払回数「4」を設定します。定期頻度を「MO」に設定して請求書支払項目を再作成すると、支払項目両方(1,025.00)の勘定科目が新しく作成される請求書金額に割り当てられ、取引の貸借不一致は25.00になります。

5. 必要な勘定科目情報を入力します。

定期頻度

取引を作成する間隔を指定するコードを入力します。定期頻度の有効値は次のとおりです。

MO: 月次

AN: 年次

WK: 週次

QT: 四半期

SA: 半期

BW: 隔週

支払回数

定期請求書の処理回数を入力します。この回数には最初に入力する取引も含まれます。たとえば、「12」を入力すると、あと11回取引が行われます。取引を作成するたびに支払回数が1ずつ減っていきます。値が1になると、新しい取引は作成されなくなります。かわりに、このフィールドがクリアされます。

オンラインでの定期請求書の照会

「定期請求書履歴の処理」フォームにアクセスします。

定期請求書の照会 - 定期請求書履歴の処理

選択(S) 検索(I) 開じる(L) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

支払期日 * 会社 *

定期頻度 * 相手勘定 *

レコード 1 - 3 グリッドのカスタマイズ

| | 顧客 No. | 顧客 名称 | 期日 | 総額 | 外貨 総額 | 通貨 | 支払 状況 | 伝票 タイプ | 伝票 番号 | 伝票 会社 | 支払 項目 |
|--------------------------|--------|---------------------------------|------------|-----------|-----------|----|-------|--------|-------|-------|-------|
| <input type="checkbox"/> | 3333 | Continental Incorporated | 2005/08/02 | 1,550.00 | | D | A | RR | 1034 | 00001 | 001 |
| <input type="checkbox"/> | 1001 | AB Common | 2005/08/07 | 1,500.00 | | D | A | RR | 1035 | 00001 | 001 |
| <input type="checkbox"/> | 3007 | Schwartz Warenhaus Gemeinschaft | 2005/07/01 | 35,532.00 | 42,000.00 | F | A | RR | 3057 | 00001 | 001 |

「定期請求書履歴の処理」フォーム

定期請求書をオンラインで照会するには、次の手順に従います。

1. 詳細グリッドで請求書を表示および照会します。

2. 詳細グリッドではなくフォーム全体で請求書情報を照会するには、請求書を選択して「ロー」メニューから「明細」を選択します。

注意:「売掛金元帳照会の処理」フォームから、定期請求書にアクセスすることもできます。「定期請求書」チェックボックスを選択した後、「検索」をクリックします。

定期請求書レポートの印刷

「その他の請求書入力方式」(G03B111)、「定期請求書レポート」を選択します。

定期請求書レポート(R03B305)のデータ選択とデータ順序の設定

このレポートのバージョンを追加作成する場合、次に示す順序でデータ順序を使用してください。

- ユーザーID(アルファベット順)
- バッチ日付
- バッチNo.(日付の新しい順)
- 伝票会社
- 伝票タイプ
- 伝票No.(昇順)
- 支払項目

定期請求書レポート(R03B305)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

この処理オプションでは、レポートに勘定科目コードを印刷する際に使用する形式を指定します。

勘定科目コード形式

勘定科目コードを印刷するのに使用する形式を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入力時と同じ形式で印刷する。

1: 標準形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)または自由形式で印刷する。

2: 勘定科目マスター(F0901)で勘定科目コードに割り当てられる8桁の勘定科目IDを印刷する。

3: F0901テーブルで自由形式(第3勘定科目コード)フィールドに割り当てられている第3勘定科目コードを印刷する。

定期請求書の改訂

「定期請求書情報の改訂」フォームにアクセスします。

「定期請求書情報の改訂」フォーム

請求書が支払済の場合、「定期頻度」と「支払回数」フィールドのみ更新できます。

注意:「定期請求書履歴の処理」フォームでは、定期情報以外の請求書の内容を変更することもできます。請求書を選択して、「ロー」メニューから「請求書」を選択します。「請求書の入力」で、必要なフィールドを変更してください。

定期請求書の再作成

定期請求書を再作成する前に、次の作業を行います。

- ・ 月次、四半期、年間など、使用する定期頻度ごとに定期請求書の再作成プログラム(R03B8101)のバージョンを設定します。必要に応じて、データ選択を使用して特定の頻度を選択します。
- ・ (省略可) 定期請求書に自動採番を設定します。

請求書を再作成するには、「その他の請求書入力方式」メニュー(G03B111)から「定期請求書の再作成」を選択します。

定期請求書の再作成(R03B8101)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

この処理オプションでは、請求書に割り当てる請求書日付を指定します。

請求書日付

再作成の処理で作成する新しい請求書に割り当てる日付を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 割り当てられた定期頻度に基づいて設定される。たとえば、定期頻度に月次を割り当てた場合、請求書日付は前の日付の1か月後に変更されます。

- 1: 今日の日付を使用する。
- 2: 再作成する請求書の請求書日付を使用する。

請求書の改訂と転記

この項では、請求書と請求書支払項目の削除、請求書転記処理、転記済請求書の改訂、請求書の無効化、スピード・リリースの概要、および次の方法について説明します。

- 未転記請求書の検討または改訂
- 請求書の転記
- 転記済請求書の改訂
- 転記済請求書の無効化
- 転記済請求書の支払項目の無効化
- スピード・リリース (P03B114) の処理オプションの設定
- スピード・リリースを使用した個々の請求書の更新
- スピード・リリースを使用した請求書のグループの更新

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチの処理」

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「財務取引の転記」、「財務転記処理について」

請求書および請求書支払項目の削除について

未転記で未入金 of 請求書は削除できます。請求書を削除すると、削除レコードは保持されず、レコードはシステムから消去されます。削除した請求書は次のテーブルから消去されます。

- F03B11
- F03B112
- F0911

削除する請求書が含まれているバッチにそれ以外の請求書が含まれていない場合は、対象のバッチ制御レコードも削除されます。バッチに他の請求書が含まれている場合は、レコードが更新されます。

注意: 伝票タイプが R1、RU、RB、R5 の請求書は削除できません。これらの請求書は入金プログラムによって作成され、バッチ・タイプが IB ではなく RB になります。入金バッチが転記済かどうかにかかわらず、これらの伝票は転記コード D で作成されます。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「入金の削除および無効化」、229 ページ

未転記請求書を削除するには、「売掛金元帳照会」フォームで削除する請求書を検索して「削除」をクリックし、削除を確認するダイアログで「OK」をクリックします。

重要: 請求書の支払項目を削除する場合は、「請求書の入力」フォームから削除してください。「売掛金元帳照会の処理」フォームで削除を行うと、関連するすべての請求書の支払項目が削除されます。したがって、「売掛金元帳照会の処理」で請求書支払項目を選択して「選択」をクリックしてください。次に「請求書の入力」で請求書支払項目を選択して「削除」をクリックし、削除を確認するダイアログで「OK」をクリックします。

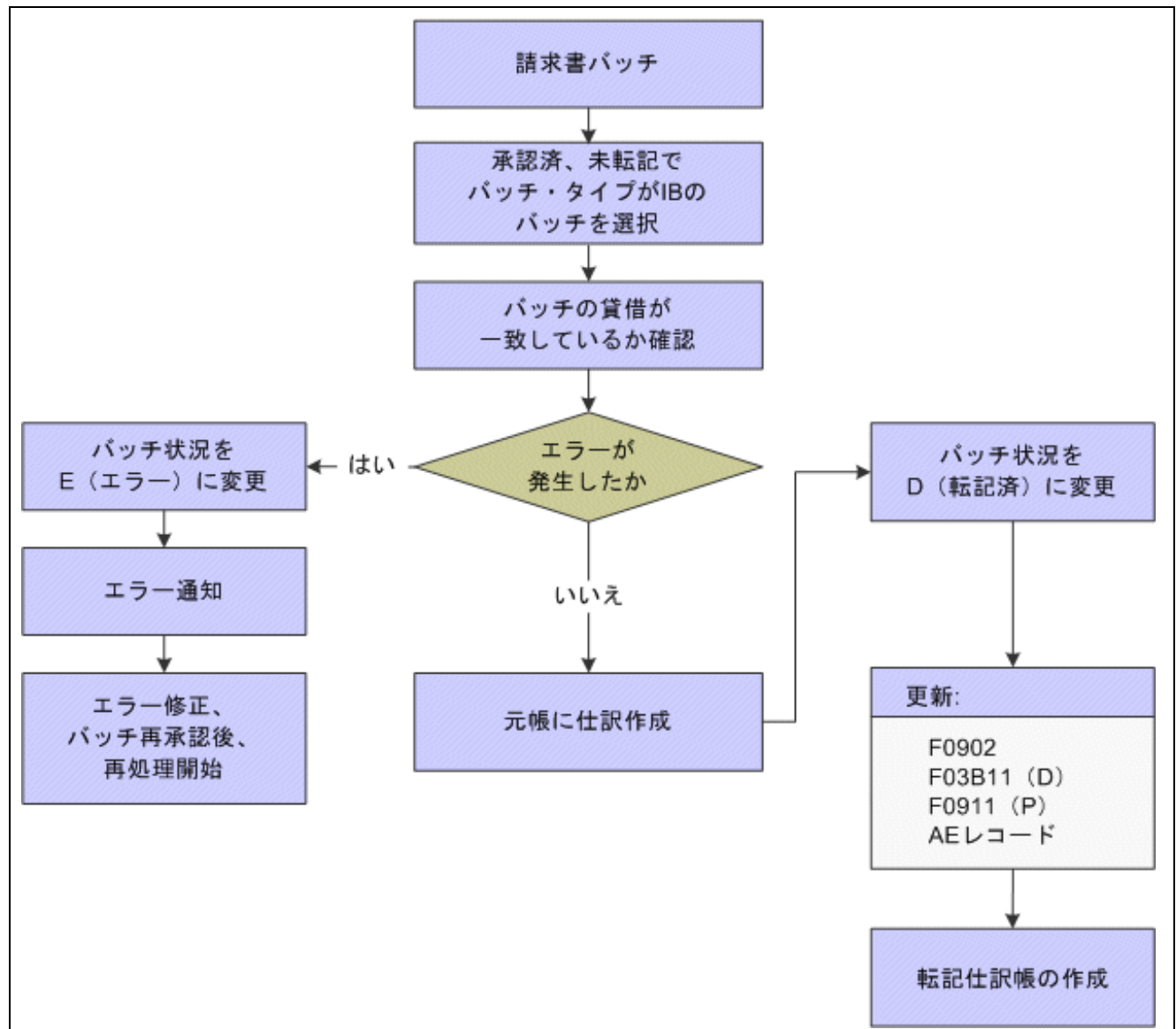
請求書の転記処理について

請求書バッチの転記時には、次の処理が実行されます。

- バッチの状況が承認済であることを確認します。
- 転記コードを持たない、または転記コードがPである請求書を検索します。
- F0911テーブルに対応するレコードがあり、その金額が請求書のコロと一致するカを確認します。
- 自動仕訳を作成します。
- F0902テーブルを更新します。
- 請求書の転記コードをDに変更します。
- F0911テーブルの対応するレコードの転記コードをPに変更します。
- バッチ制御レコードの転記コードをDに変更します。

ある請求書取引にエラーが見つかった場合、そのバッチ全体がエラーとなり、レコードは一切転記されません。ワークフロー・メッセージが送信され、エラーレポートが作成されます。

次の図は、請求書の転記処理を示しています。



請求書の転記処理

請求書転記によって作成される自動仕訳

請求書バッチを転記すると、税金、会社間決済、売掛金勘定に自動仕訳が作成されます。売掛金勘定に対する相殺金額は、AAI項目RCによって制御されます。AAI項目RCの検索には、各請求書に入力されている会社番号と相手勘定を使用します。検索対象には相手勘定も含まれます。

転記処理中に、売掛管理固定情報で指定した集計方式に基づき、自動仕訳レコードに関する次の情報が検索されます。

- 売掛金勘定の金額
 - 集計方式がBである場合、請求書金額が累計され、請求書バッチ全体に対して1つの自動仕訳が作成されます。
 - 集計方式がSである場合、支払項目金額が累計され、請求書ごとに自動仕訳が作成されます。
 - 集計方式がYである場合、請求書支払項目ごとに自動仕訳が作成されます。
- 伝票番号

- 集計方式がBである場合、自動仕訳の伝票番号にはバッチ番号が割り当てられます。
- 集計方式がYまたはSである場合、自動仕訳の伝票番号には請求書の伝票番号が割り当てられます。
- 勘定科目名
 - 集計方式がBである場合、バッチ・タイプ (IB: 請求書バッチ番号) 別に売掛金を書き込まれます。
 - 集計方式がYまたはSである場合、伝票タイプ (RI: 請求書伝票番号) 別に売掛金を書き込まれます。
- 元帳日付 - 集計方式に関係なく常に請求書の元帳日付が使用されます。

税額が含まれている請求書の場合、同様に自動仕訳が作成されますが、勘定科目名はAAI項目RT(売掛金にかかる税)に基づきます。処理オプションに基づいて、税額が税テーブル(F0018)に記録されます。

注意: 貸借不一致のバッチを転記した場合、会社間決済は作成されませんが、売掛金勘定の自動仕訳は作成されます。

自動集計方式Y(詳細)

集計方式Yを使用すると、転記処理により各伝票に対して1つの仕訳が作成されます。請求書伝票にプラスとマイナスの支払項目が含まれる場合も作成されます。

注意: (FRA)フランスでは集計方式Yを使用します。この方式では、プラスの伝票(請求書)とマイナスの伝票(クレジット・メモ)が同じバッチに含まれている場合でも、借方と貸方の残高が別々に正しく管理されるためです。

次の例では、バッチに、項目が2つある請求書が含まれています。10,000の項目と5,000の項目です。また、バッチには項目が2つあるクレジット・メモも含まれています。3,000の項目と1,000の項目です。転記処理により自動仕訳が2つ作成されます。請求書の2項目に対する15,000の仕訳が借方に、クレジット・メモの2項目に対する4,000の仕訳が貸方にそれぞれ作成されます。

| 内容 | 伝票 | 借方 | 貸方 |
|----------|-----------------|--------|---------|
| 請求書 | RI 3042 - 項目001 | | 10,000- |
| 請求書 | RI 3042 - 項目002 | | 5,000- |
| 仕訳 | AE 3042 | 15,000 | |
| クレジット・メモ | RM 504 - 項目001 | 3,000 | |
| クレジット・メモ | RM 504 - 項目002 | 1,000 | |
| 仕訳 | AE 504 | | 4,000- |
| 合計 | | 19,000 | 19,000- |

自動集計方式S

集計方式Sを使用すると、転記処理により、割引や税など各支払項目に対して1つの仕訳が作成されます。集計方式Sでは、総勘定元帳テーブルにレコードが複数作成されます。フランスの法制度において必要な借方と貸方の残高が正しく管理されます。この集計方式では大量の自動仕訳が作成されるため、総勘定元帳テーブルのサイズが大幅に増加します。

次の例では、バッチに、項目が2つある請求書が含まれています。10,000の項目と5,000の項目です。また、バッチには項目が2つあるクレジット・メモも含まれています。3,000の項目と1,000の項目です。転記処理により自動仕訳が2つ作成されます。請求書の各項目に対する10,000と5,000の仕訳が借方に、クレジット・メモの各項目に対する3,000と1,000の仕訳が貸方にそれぞれ作成されます。

| 内容 | 伝票 | 借方 | 貸方 |
|----------|------------------|--------|---------|
| 請求書 | RI 3042 - 項目 001 | | 10,000- |
| 請求書 | RI 3042 - 項目 002 | | 5,000- |
| 仕訳 | AE 3042 | 10,000 | |
| 仕訳 | AE 3042 | 5,000 | |
| クレジット・メモ | RM 504 - 項目 001 | 3,000 | |
| クレジット・メモ | RM 504 - 項目 002 | 1,000 | |
| 仕訳 | AE 504 | | 3,000- |
| 仕訳 | AE 504 | | 1,000- |
| 合計 | | 19,000 | 19,000- |

自動集計方式B

集計方式Bを使用すると、累計した自動仕訳が作成され、借方と貸方を別々に合計することはありません。

注意: (FRA) フランスで集計方式Bを使用して取引を転記する場合は、同じ転記用バッチに請求書や借方のメモなど種類の異なる取引を入力しないように作業手順を規定する必要があります。

フランスでは一般的な業務習慣となっていますが、明細仕訳を作成して支払や入金ごとに銀行勘定の相手勘定科目を明らかにする必要は法的にはありません。複数の支払および入金と同じ銀行勘定に行われた場合は、銀行勘定に対する入力を累計して印刷できます。

集計方式Bを使用した場合、取引仕訳を使用して、システムによって作成された集計自動仕訳を仕訳レポート実行時に調整できます。

次の例では、バッチに、項目が2つある請求書が含まれています。10,000の項目と5,000の項目です。また、バッチには項目が2つあるクレジット・メモも含まれています。3,000の項目と1,000の項目です。転記処理により自動仕訳が2つ作成されます。全項目を集計した11,000の仕訳が借方に作成されます。自動仕訳の伝票番号にはバッチ番号が割り当てられます。

| 内容 | 伝票 | 借方 | 貸方 |
|----------|------------------|-------|---------|
| 請求書 | RI 3042 - 項目 001 | | 10,000- |
| 請求書 | RI 3042 - 項目 002 | | 5,000- |
| クレジット・メモ | RM 504 - 項目 001 | 3,000 | |
| クレジット・メモ | RM 504 - 項目 002 | 1,000 | |

| 内容 | 伝票 | 借方 | 貸方 |
|----|---------|--------|---------|
| 仕訳 | AE 4360 | 11,000 | |
| 合計 | | 15,000 | 15,000— |

転記済請求書の改訂について

請求書を転記した後でも、入金前であれば請求書を改訂できます。たとえば、入力後に総額または勘定科目情報を改訂しなければならない場合があります。転記済の請求書を改訂または無効にすると、次の処理が行われます。

- 請求書の転記コードの削除
- 請求書改訂履歴テーブル (F03B112) にレコードを追加
- 請求書レコードの売掛金転記状況フィールド (ISTR) を 1 に更新

このフィールドは、「売掛金元帳照会の処理」フォームの「改訂有無」カラムに表示されます。請求書を改訂すると、回数には関係なく常に「改訂有無」カラムに「1」が表示されます。

転記済で未払いの請求書では、次のフィールドを改訂できます。

- 総額
未決済金額が自動的に再計算されます。
- 備考
- 割引可能額
このフィールドを消去すると、支払条件に基づいて割引金額が自動的に再計算されます。
- 期日
- 割引期日
- 支払状況
「支払状況」が P (支払済) の場合は値を変更できません。

「請求書の入力」フォームで請求書を改訂すると、バッチの状況が転記済から未転記へ変更されるので、再転記が必要になります。バッチを再転記しなくても済むようにするには、スピード・リリースを使用して請求書の総額または勘定科目情報に影響を与えない情報を改訂します。それ以外のフィールドを変更する必要がある場合は、請求書を無効にしてもう一度入力する必要があります。

請求書の無効化について

総勘定元帳から転記済の請求または請求書支払項目を削除するには、一度無効にしてバッチを再転記する必要があります。転記済の請求書は削除できません。

請求書を無効にする場合は、元帳日付を指定して総勘定元帳の仕訳に逆仕訳します。「売掛金元帳照会の処理」フォームまたは「請求書の入力」フォームから請求書を無効にできます。

重要:「売掛金元帳照会の処理」フォームを使用して請求書支払項目を無効にすると、請求書全体が無効になります。

請求書支払項目を1つのみ無効にする場合は、「請求書の入力」フォームを使用する必要があります。無効日付は指定できません。常に請求書の元帳日付が使用されます。

請求書を無効にすると、次の処理が行われます。

- 総額をゼロに更新します。
- 請求書から転記コードを削除します。
- 支払状況コードをP(入金済)に更新します。
- F03B112テーブルに総額が変更されたことを示す監査証跡のレコードを作成します。
- 売掛金元帳(F03B11)のレコードの売掛金転記状況フィールド(ISTR)を1に更新します。
「売掛金元帳照会の処理」の「改訂有無」カラムにこのフィールドの値が表示されます。

請求書を無効にした後は、バッチを再転記してください。

入金済や部分的に入金されている請求書を無効にするには、まずその入金を無効にしてください。

注意: 伝票タイプがR1、RU、RB、R5の請求書は無効にできません。これらの請求書は入金アプリケーションによって作成され、バッチ・タイプがIBではなくRBになります。入金バッチが転記済かどうかにかかわらず、これらの伝票は転記コードDで作成されます。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「入金の削除および無効化」、229ページ

スピード・リリースについて

期日、割引額、備考など総勘定元帳に影響しない請求書情報を改訂する場合は、スピード・リリースを使用します。スピード・リリースでは、1つのフォームで変更を行い、勘定科目情報を入力しなくて済むので、請求書をすばやく改訂できます。

また、スピード・リリースを使用して、請求書を延滞通知および延滞利息金に利用できるかどうかを決定します。たとえば、特定の請求書には延滞利息金を適用しないように変更したり、延滞通知のリストに表示しないように変更できます。

スピード・リリースを使用すると、個々の請求書を更新できるだけでなく、請求書のグループを一括して変更できます。たとえば、ある優先顧客に対して割引期間を延長する場合があります。このとき最も効率的な方法は、その顧客に対するすべての請求書の割引期日を一括して更新することです。

スピード・リリースを使用して請求書を変更すると、F03B11テーブルのみ更新されます。

請求書の改訂および転記に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------|----------|------------------------------------|---|
| バッチの処理 | W0011A | 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「請求書仕訳の検討」 | 請求書バッチを検討、承認、転記します。 バッチの金額は、請求書が部分的に支払われている場合でも請求書の総額が表示されます。バッチ合計にはクレジット・メモの金額も含まれます。 |
| 請求書仕訳の検討 | W03B11AA | バッチを選択し、「バッチの処理」フォームで「選択」をクリックします。 | 請求書の情報を検討します。 |

| ページ名 | オブジェクト名 | ナビゲーション | 用途 |
|---------------|-----------|--|--|
| 勘定科目情報 | W03B11C | 「請求書仕訳の検討」フォームで、「ロー」メニューから「勘定科目情報」を選択します。 | 請求書の勘定科目情報を検討します。 |
| 請求書の入力 | W03B11A | <ul style="list-style-type: none"> 「請求書仕訳の検討」フォームで請求書を選択し、「選択」をクリックします。 「売掛金元帳照会の処理」フォームで改訂する請求書を検索し、「選択」をクリックします。 | 特定の請求書を改訂します。 |
| 勘定科目情報 | W03B11C | 「請求書の入力」フォームで、「フォーム」メニューから「勘定科目情報」を選択します。 | 請求書の勘定科目情報を改訂します。 |
| 売掛金元帳照会の処理 | W03B2002A | <ul style="list-style-type: none"> 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「請求書入力」 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「売掛金元帳照会」 | 顧客請求書を検索し、無効にします。 |
| スピード・リリース(明細) | W03B114C | <p>「入金処理」(G03B12)、「スピード・リリース」</p> <p>「スピード・リリースの処理」フォームで更新する請求書を選択し、「選択」をクリック、または「ロー」メニューから「明細」を選択します。</p> | <p>総勘定元帳に影響しない請求書情報を改訂します。</p> <p>「スピード・リリースの処理」フォームで複数の請求書を選択した場合、「スピード・リリース(明細)」フォームには、更新する請求書が順番に1つずつ表示されます。</p> <p>スピード・リリースで再請求、損金、手形、または仮受金請求書レコードは検索できません。バッチ・タイプIBの請求書レコードのみが表示されます。</p> |
| 一括変更 | W03B114B | <p>「入金処理」(G03B12)、「スピード・リリース」</p> <p>「スピード・リリースの処理」フォームで更新する請求書を選択し、「ロー」メニューから「一括」を選択します。</p> | 請求書のグループを一括して変更します。 |

未転記請求書の検討と改訂

「請求書仕訳の検討」フォームにアクセスします。

未転記請求書を検討または改訂するには、次の手順に従います。

1. 仕訳と請求書の金額が等しいかどうか、「貸借一致」フィールドを確認します。
2. 勘定科目情報を見るには、「ロー」メニューから「勘定科目情報」を選択します。
3. 「取消」をクリックし、「請求書仕訳の検討」に戻ります。
4. 請求書の情報を修正するには、「ロー」メニューから「請求書入力」を選択します。
5. 「請求書の入力」で、変更可能なフィールドのうち必要なフィールドの情報を変更します。
6. 「フォーム」メニューから「勘定科目情報」を選択します。
7. 「勘定科目情報」で、必要なフィールドを修正して「OK」をクリックします。

注意: 転記済の請求書を改訂すると、バッチ状況が“転記済”からデフォルトの状況(売掛管理固定情報の設定によって“保留”または“承認済”)に変更されます。

金額を改訂した場合は、バッチを再転記し、F0911テーブルとF0902テーブルを更新する必要があります。転記を実行すると、変更した取引のみが処理されます。

請求書の転記

「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「請求書の転記」を選択します。

転記済請求書の改訂

「売掛金元帳照会の処理」フォームにアクセスします。

転記済の請求書を改訂するには、次の手順に従います。

1. 改訂する請求書を選択し、「選択」をクリックします。
2. 「請求書の入力」で必要なフィールドを修正して、「OK」をクリックします。
総額を変更する場合は、割引額の変更が必要かどうかも確認してください。総額を変更しても割引額は再計算されません。
総額を変更すると、「勘定科目情報」フォームが表示されます。
3. 「勘定科目情報」フォームで、新しいグリッド行の「勘定科目コード」と「金額」フィールドに入力し、貸借一致仕訳を作成します。
金額はマイナスで入力してください。
4. 勘定科目情報のみを変更するには、「請求書の入力」フォームで「フォーム」メニューから「勘定科目情報」を選択し、必要なフィールドを変更して「OK」をクリックします。

転記済請求書の無効化

「売掛金元帳照会の処理」フォームにアクセスします。

転記済の請求書を無効にするには、次の手順に従います。

1. 無効にする請求書を選択し、「削除」をクリックします。

重要: 複数の支払項目を含む請求書を選択すると、そのすべての支払項目が無効になります。

2. 「削除の確認」で「OK」をクリックします。
3. 「無効情報の入力」で、「無効日付」フィールドと「請求書改訂コード」フィールドに入力し、「OK」をクリックします。

4. 「無効の確認」で「OK」をクリックすると、無効が確定します。
5. 無効を確認するには、無効にした請求書を「売掛金元帳照会の処理」で検索して「選択」をクリックして、「請求書の入力」にアクセスします。
6. 売掛金元帳で逆仕訳された金額を見るには、「請求書の入力」で「ロー」メニューから「請求書の改訂」を選択します。
7. 無効時にF0911テーブルに自動的に作成された逆仕訳を表示するには、「請求書の入力」で「フォーム」メニューから「勘定科目情報」を選択します。

無効元帳日付

無効にした取引を転記する日付を入力します。

先日付または後日付の元帳日付は入力しないでください。

請求書改訂コード

請求書の支払項目が無効にされた理由を示すコードを入力します。

転記済請求書の支払項目の無効化

「請求書の入力」フォームにアクセスします。

転記済請求書の支払項目を無効にするには、次の手順に従います。

1. 無効にする請求書の支払項目を選んで「削除」をクリックします。
2. 「削除の確認」フォームで、「OK」をクリックします。
3. 「無効情報の入力」フォームで、「請求書改訂コード」フィールドに入力し、「OK」をクリックします。
4. 「無効の確認」フォームで「OK」をクリックすると、無効が確定します。
5. 「勘定科目情報」フォームで、新しいグリッド行の「勘定科目コード」と「金額」フィールドに入力し、貸借一致仕訳を作成します。

金額はマイナスで入力してください。

スピード・リリース(P03B114)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

この処理オプションでは、「計算書No.」フィールドを入力可能にするかどうか、および「支払条件の一時変更」フィールドおよび「ビジネスユニット」フィールドを表示するかどうかを指定します。

1. 計算書番号

「計算書No.」フィールドを変更可能にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 変更不可にする。

1: 変更可能にする。

2. 支払条件コード

「支払条件の一時変更」フィールドの表示/非表示を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「支払条件の一時変更」フィールドを非表示にする。

1: 「支払条件の一時変更」フィールドを表示する。

表示した場合、請求書の一括更新はできず、個別にのみ更新できます。支払条件を変更しても、新しい支払条件に基づいて割引額や支払期日は再計算されません。

3. ビジネスユニット

「ビジネスユニット」フィールドの表示/非表示を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「ビジネスユニット」フィールドを非表示にする。

1: 「ビジネスユニット」フィールドを表示する。

スピード・リリースを使用した個々の請求書の更新

「スピード・リリース(明細)」フォームにアクセスします。

スピード・リリース - スピード・リリース(明細)

OK(O) 取消(L) ツール(T)

| | | | |
|--------------|----------|-------|---|
| 住所No. | 3006 | | |
| 伝票No./タイプ/会社 | 3043 | RI | 00070 |
| 支払項目 | 001 | 請求書日付 | 2005/06/01 |
| 総額 | 1,200.00 | 未決済金額 | 1,200.00 |
| 通貨コード | EUR | 為替レート | 基本 EUR <input type="checkbox"/> 外貨 <input type="checkbox"/> |

| | | |
|----------|-------------|---------------------|
| 支払状況 | A | 支払承認済み |
| 支払手段 | | デフォルト |
| 割引可能額 | | 割引期日 |
| 期日 | 2005/07/01 | 計算書No. |
| 計算書送付先 | 3006 | 延滞利息金 |
| 支払人No. | 3006 | Editions de l'Odeon |
| 延滞通知 | Y | 支払条件の一時変更 |
| 備考 | Red helmets | |
| ビジネスユニット | 1 | 延滞通知送付回数 |
| 相殺状況 | | |

「スピード・リリース(明細)」フォーム

注意: スピード・リリースを使用した請求書の更新は、「売掛金元帳照会の処理」から「ロー」メニューを選択してもできます。

スピード・リリースを使用した請求書のグループの更新

「一括変更」フォームにアクセスします。

スピード・リリース - 一括変更

OK(O) 取消(C) ツール(T)

| | | | |
|----------|---|--------|---------------------------------------|
| 支払状況 | A | 支払承認済み | 更新 |
| 割引期日 | | | <input type="checkbox"/> P |
| 割引可能額 | | EUR | <input type="checkbox"/> |
| 備考 | | | <input type="checkbox"/> C |
| 支払人No. | | | <input type="checkbox"/> C |
| 計算書送付先 | | | <input type="checkbox"/> C |
| 期日 | | | <input type="checkbox"/> C |
| 支払手段 | | デフォルト | <input type="checkbox"/> C |
| 計算書No. | | | <input type="checkbox"/> C |
| 延滞通知 | Y | | <input type="checkbox"/> C |
| 延滞利息金 | N | | <input checked="" type="checkbox"/> C |
| ビジネスユニット | | | <input type="checkbox"/> C |
| 延滞通知送付回数 | | | <input type="checkbox"/> C |
| 相殺状況 | 1 | | <input checked="" type="checkbox"/> C |

「一括変更」フォーム

注意: ビジネスユニットの値を変更しても、F03B11テーブルにある請求書レコードの対応するAIDフィールドは新しい値に応じて更新されません。このため、レポート用にビジネスユニット・フィールドを使用する場合、会計処理方法を変更せずにビジネスユニットの値を変更できます。

第 8 章

バッチ請求書の処理

この章では、バッチ請求書の処理およびバッチ請求書取引のマッピングの概要と、次の項目について説明します。

- バッチ請求書の改訂
- バッチ請求書の処理
- バッチ請求書の転記
- 処理済バッチ請求書の除去

注意: アルゼンチン、チリおよびペルーには、バッチ請求書を処理するための国別機能が用意されています。

バッチ請求書の処理について

バッチ請求書処理プログラム(R03B11Z1A)を使用することで、外部システムを使用して作成した請求書をJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに転送できます。バッチ請求書処理を行うには、外部システムから次のテーブルヘデータをコピーするカスタム・プログラムを作成する必要があります。

- バッチ請求書(F03B11Z1)
- 仕訳アップロード(F0911Z1)

外部システムからバッチ請求書を変換したら、バッチ請求書処理プログラムを実行してJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに請求書を作成します。バッチ請求書処理プログラムを実行すると、次の処理が実行されます。

- 変換されたデータのチェック
- デフォルト値の設定
- 売掛金元帳テーブル(F03B11)への請求書レコードの作成
- 取引明細テーブル(F0911)への仕訳情報の作成

処理オプションの設定に基づき、システムによって生成された請求書バッチは自動的に転記され、正常に処理されたレコードはバッチ・テーブル(F03B11Z1およびF0911Z1)から除去されます。

注意: バッチ請求書処理は、未決済の請求書のみ処理するように設計されています。入金済の請求書(一部入金も不可)や入金レコード、再請求伝票、損金も処理できません。未決済請求書以外の情報を処理するようにプログラムをカスタマイズした場合、サポートの対象となりません。プログラムのカスタマイズについては、弊社のコンサルタントにご相談ください。

バッチ請求書取引のマッピングについて

コンピュータでのデータ入力、サード・パーティや顧客のシステム、電子データ交換(EDI)などの外部ソースから請求書レコードを変換するには、バッチ請求書テーブル(F03B11Z1)と仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)、および国固有のテーブルの各フィールドに正しいデータを書き込むカスタム・プログラムを作成する必要があります。

基本的な請求書アップロード処理を実行するには、特定のフィールドへの入力が必要になります。その他に割引額や税額、通貨、入金情報などの詳しい情報を指定するフィールドもあります。これ以外のフィールドは、無視されるか、ユーザー用として予約されています。

参照: 付録 A、「バッチ請求書処理のためのフィールドのマッピング、」495ページ

バッチ請求書の改訂

この項では、バッチ請求書の改訂の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- バッチ請求書の改訂(P03B11Z1)の処理オプションの設定
- バッチ請求書の追加

バッチ請求書の改訂について

外部ソースからJD Edwards売掛管理システムへ請求書を転送した後で、請求書を処理する前に検討および改訂する必要がある場合があります。バッチ請求書は手作業で改訂できますが、改訂する情報によっては削除してから再追加することがあります。バッチ請求書は、処理する前または処理が失敗した際に改訂できます。

バッチ請求書を訂正するには、次の情報を入力する必要があります。

- バッチ番号
- トランザクション番号
- 顧客番号
- 会社番号

「バッチ請求書の処理」フォームを使用して、最終モードで処理済のバッチ請求書を改訂または削除することはできません。「請求書の入力」フォームを使用してください。

バッチ請求書を追加、改訂、または削除すると、バッチ請求書テーブル(F03B11Z1)と仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)のレコードが更新されます。

バッチ請求書の追加

請求書を既存のバッチに追加することはできません。請求書は新しいバッチ内に作成できます。通常は、バッチ請求書を追加する必要はありません。例外として、JD Edwards売掛管理と連動するシステムからの取引を正常に処理できない場合があげられます。相違を検出し訂正するには、手入力したバッチ請求書をインターフェイス・システムで作成した請求書と比較します。

バッチ請求書の削除

改訂ができないように設定されているためフィールドを改訂できない場合は、そのバッチ請求書を削除してソースの情報を訂正するか、適切な情報を使用して新しいバッチ請求書を追加する必要があります。

バッチ・テーブルから処理済の取引を削除するには、それらを除去する必要があります。処理オプションの設定により、バッチ請求書の処理で正常に処理された取引を自動的に除去するか、別の除去プログラムを実行できます。

関連項目:

第 7 章、「請求書の処理」、「標準請求書について」、116 ページ

第 8 章、「バッチ請求書の処理」、「処理済バッチ請求書の除去」、165 ページ

事前設定

請求書を入力するステップを確認します。

参照: 第 7 章、「請求書の処理」、「標準請求書の入力」、128 ページ

バッチ請求書の改訂に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|---------------|-----------|---|--|
| バッチ請求書の処理 | W03B11Z1C | 「バッチ請求書処理」(G03B311)、「バッチ請求書の改訂」 | バッチ請求書を追加します。 |
| 請求書入力-バッチ請求書 | W03B11Z1D | 「バッチ請求書の処理」フォームの「追加」をクリックするか、バッチ請求書を選択して「選択」をクリックします。 | バッチ請求書を検討、改訂した後、新規バッチに請求書を作成します。 総額または総額に影響するフィールドを変更する場合は、総勘定元帳の配賦金額を変更できるように「勘定科目情報-バッチ請求書」フォームが自動的に表示されます。 |
| 請求書明細-バッチ請求書 | W03B11Z1A | 「請求書入力-バッチ請求書」フォームの詳細グリッドから支払項目を選択し、「ロー」メニューから「詳細」を選択します。 | バッチ請求書の支払項目を検討します。 |
| 勘定科目情報-バッチ請求書 | W03B11Z1B | 「請求書入力-バッチ請求書」フォームの「フォーム」メニューから「勘定科目情報」を選択します。 | バッチ請求書の勘定科目情報を検討および改訂します。 |

バッチ請求書の改訂(P03B11Z1)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、請求書を追加する際に使用するデフォルト値を指定します。

1. サービス/税日付 「サービス/税日付」フィールド(DSVJ)で使用する日付を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 元帳日付を使用する。
 1: 請求書日付を使用する。
2. 支払状況 「支払状況」フィールド(PST)に割り当てる値を指定します。ユーザー定義コード(UDC)の00/PS(支払状況コード)に設定されている値を指定してください。この処理オプションをブランクにすると、データ辞書のデフォルト値が割り当てられます。
3. 支払人 支払人フィールド(PYR)に割り当てる値を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 顧客の住所録番号を使用する。
 1: 業種別顧客マスター(F03012)の顧客レコードの代替支払人フィールド(ARPY)の値を使用する。

チェック

この処理オプションでは、入力された請求書日付に応じて、警告またはエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。

1. 請求書日付が今日の日付より後の場合 今日の日付より後の請求書日付が入力された場合、警告またはエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 警告またはエラー・メッセージを表示しない。
 1: 警告メッセージが表示される。
 2: エラー・メッセージが表示される。
2. 請求書日付が元帳日付より後の場合 元帳日付より後の請求書日付が入力された場合、警告またはエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 警告またはエラー・メッセージを表示しない。
 1: 警告が表示される。
 2: エラー・メッセージが表示される。

通貨

この処理オプションでは、外貨建て請求書に税を入力できるようにするかどうかを指定します。

1. 税処理 外貨建て請求書に税を入力できるようにするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 外貨建て請求書への税の入力を許可しない。
 1: 外貨建て請求書への税の入力を許可する。

処理

この処理オプションでは、請求書金額が仕訳金額と一致しない場合、警告またはエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。

1. 貸借不一致

請求書金額が仕訳金額と一致しない場合、エラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。税によっては、異なる仕訳が計上される場合があります。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書金額が仕訳金額と一致しない場合、エラー・メッセージが表示される。

1: 請求書金額が仕訳金額と一致しない場合、エラー・メッセージを表示しない。

表示

この処理オプションでは、「バッチ請求書の処理」フォームで複数の請求書支払項目を集計するかどうかを指定します。

1. 集計

「バッチ請求書の処理」フォームで、支払項目が複数ある請求書を1件の集計請求書として表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 集計しない。請求書支払項目ごとに表示する。

1: 集計する。支払項目の数に関係なく、1件の請求書として表示する。

バッチ請求書の追加

「バッチ請求書の処理」フォームにアクセスします。

バッチ請求書を追加するには、次の手順に従います。

1. 「請求書入力 - バッチ請求書」フォームにアクセスするには、「追加」をクリックします。
2. 「請求書入力 - バッチ請求書」で、「ユーザーID」および「トランザクションNo.」フィールドに値を入力して請求書を指定します。
3. 請求書を入力するステップに従います。

処理済み

レコードが正常に処理されたかどうかを示します。アプリケーションに応じて、テーブルのEDSPフィールドが次のいずれかの値に更新されます。

1 (またはY): このレコードは正常に処理されました。

ブランクまたはN: このレコードは処理されませんでした。

集計

請求書を集計モードで表示します。このオプションを選択した場合、支払項目が複数ある請求書が、支払項目フィールドの「*」で1件の集計レコードとして表示されます。このオプションを選択しなかった場合、請求書支払項目は個別のレコードとして表示されます。

バッチNo.

検討対象のバッチ請求書のバッチ番号を入力します。バッチ処理中に、検出された各制御(ユーザー)バッチ番号のJD Edwards EnterpriseOneトランザクションに新規のバッチ番号が割り当てられます。

バッチ請求書の処理

この項では、バッチ請求書の処理、処理中のエラー、処理時間の概要、事前設定、および次の作業方法について説明します。

- バッチ請求書処理の実行
- バッチ請求書処理 (R03B11Z1A) の処理オプションの設定

バッチ請求書処理について

外部請求書を変換し、バッチ処理テーブル (F03B11Z1 および F0911Z1) に転送した後で、バッチ請求書処理プログラム (R03B11Z1A) を実行します。このプログラムを実行すると、バッチ・テーブルからの情報が処理され、F03B11Z1 テーブルおよび F0911Z1 テーブルにレコードが作成されます。

バッチ請求書処理プログラムは、テスト・モードまたは最終モードのどちらでも実行できます。

テスト・モードでは、次の処理が実行されます。

- データの確認
- レポートの作成

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- F03B11Z1 テーブルに請求書、F0911Z1 テーブルに関連する仕訳を作成する。
- 伝票番号およびバッチ番号を割り当てる。
- ブランクのまま残された任意フィールドへデフォルト情報を設定する。次に例を示します。
 - 伝票番号は自動採番プログラム (P0002) により自動採番される。
 - 会計年度および会計期間は、会社名および番号で会社用に設定されている元帳日付および期間パターンから取得する。
 - F0911Z1 の摘要は、顧客番号の顧客名 (漢字) から取り込む。
 - F0911Z1 の会社番号は、仕訳の最初の明細行にあるビジネスユニットに基づいて割り当てられる。
- 仕訳のエラーチェックを行う。
- 例外レポートを作成する (エラーがある場合のみ)。

ある取引にエラーがあっても、バッチ処理は中止されません。バッチの取引にエラーがあると、その取引は残りのバッチでは処理されません。

バッチ・テーブルの伝票番号とバッチ番号のフィールドがブランクの場合、自動採番によって、最終処理時に生成された請求書に伝票番号とバッチ番号が自動的に割り当てられます。自動採番を使用して伝票番号とバッチ番号を割り当てる必要があります。ただし監査の観点から、使用しているソース・システムの伝票番号 (または請求書参照) の記録用に「トランザクション No.」フィールドを使用する必要があります。

バッチの処理が正常に終了すると、「処理済」フィールド (VJEDSP) が更新されます。これらのレコードは、除去されるまで F03B11Z1 テーブルおよび F0911Z1 テーブルに残ります。これらのテーブルを自動的に除去するよう処理オプションで設定することもできます。

処理オプション

次の処理オプションを使用して、トランザクション・セットを構成する 2 つのテーブル (F03B11Z1 および F0911Z1) のレコードに対してデータ選択の設定を行います。

- EDI - ユーザーID
- EDI - バッチ番号
- EDI - トランザクション番号
- EDI - 伝送日付

その他のデータ選択は許可されておらず、バッチ処理プログラムにデータ選択を追加すると予期せぬ結果になる場合があります。

レポート

監査情報の処理オプションが適切に設定されている場合、バッチ・プログラムは処理中に検出したエラーのレポートを作成します。レポートにはEDI行番号が含まれ、エラーが発生したテーブルを示します。履歴レポートを印刷するかどうかに関係なく、エラーの性質を詳細に示す情報を記したメッセージがワーク・センターに書き込まれます。

トラブルシューティングのヒント

プログラムは最初のレコードを読み取って処理する前にトランザクションのデータ選択と順序設定を行います。これにより次のような状況となりエラーが発生することがあります。

- 対応するF03B11Z1レコードが存在しない伝票番号を持つF0911Z1レコードが存在する。この状況では、F0911Z1レコードの処理が停止され、この時点以降からのテーブルのすべてのレコードが残高不一致となります。
- 対応するF0911Z1レコードが存在しない伝票番号を持つF03B11Z1レコードが存在する。この状況では、エラー・メッセージが書き込まれますが、後続のレコードの処理は継続されます。

処理中のエラーについて

次の表は、エラー・メッセージを示しています。

| エラー・メッセージ | 説明 |
|----------------------|--|
| 最初のバッチの2、3のレコードを処理する | <p>バッチのレコードの処理は、エラーが発生した場合のみ中断されます。警告メッセージは正常ではない事態に対して警告を発しますが、処理が中止されることはありません。処理オプションで警告メッセージをオフに設定できます。</p> <p>あるレコードで発生するヘッダーレベルのエラーは、すべてのレコードで発生することがあります。少ない件数のレコードでエラーを修正してから、同じ手順に従って、バッチ上の多数のレコードを処理します。</p> |

| エラー・メッセージ | 説明 |
|--|--|
| エラー・メッセージを確認する | <p>このレポートで確認する以外に、従業員ワーク・センターでバッチに関する特定のエラーを照会することもできます。エラー・メッセージによりエラーになっているバッチに直接アクセスできます。これによりオンラインで問題の検索および訂正ができます。</p> <p>次の3つの方法のうちのいずれかの方法で、エラー・メッセージをワーク・センターで表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ワークフロー管理」メニュー (G02) から「従業員ワーク・センター」を選択します。 バッチ処理プログラムを右クリックして、「プロンプト」-「バージョン」を選択します。「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」で、「ツール」メニューから「ワーク・センター」を選択します。 「システム・アドミニストレーション・ツール」メニュー (GH9011) から「サーバーの処理」を選択します。「サーバーの処理」で、「ツール」メニューから「ワーク・センター」を選択してください。 <p>すべてのエラー・メッセージはデータ辞書にも収められており、エラーの数を調べたり用語解説を検討できます。</p> |
| バッチ請求書の改訂プログラム (P03B11Z1) を使用して作成された請求書を処理する | <p>エラーを解決できない場合、バッチ改訂プログラムで取引を手入力して処理します。次に、手入力した F03B11Z1 および F0911Z1 のレコードを変換したトランザクションと比較します。差異を比較することで、矛盾点を特定し、エラーを解決できます。</p> |

処理時間について

変換エラーを解決した後で、次の表の提案を使用して処理時間を改善できます。

| 提案 | 説明 |
|-------------|--|
| 大きなバッチを作成する | <p>データをより大きなバッチに編成します。処理時間は、プログラムがバッチを開いたり閉じたりする必要がなければ改善できます。</p> <p>重要: 大きなバッチを作成すると、バッチ処理のパフォーマンスは向上しますが、バッチの転記にかかる処理時間が長くなる場合があります。</p> <p>また、バッチ処理ではあるレコードにエラーがあっても残りのバッチ処理は中止されませんが、バッチ転記時にエラーが発生した場合はバッチのレコードは一切転記されません。</p> |

| 提案 | 説明 |
|-------------------------------------|--|
| バッチ処理プログラムのバージョンを複数作成する | <p>バッチ処理プログラム (R03B11Z1A) のバージョンを複数作成して、同時に実行します。</p> <p>このためには、バッチ・トランザクション・テーブルのデータを変更して、バッチをいくつかの大きなバッチにまとめます。次に、プログラムのバージョンを新規に作成し、処理オプションでバッチの1つを指定します。最後に、プログラムのすべてのバージョンを同時に実行します。</p> <p>注意: バッチ処理プログラムのバージョンを複数作成した場合のパフォーマンスの向上は、処理するデータのタイプに応じて大きく異なります。レコードのロックなどの技術的な問題により、複数のバージョンを同時に実行することで実際の処理時間が長くなる場合があります。使用データに適したソリューションを把握するには、テストを行う必要があります。</p> |
| できるだけ多くの情報を入力する | <p>システムが処理に必要とする情報を F03B11Z1 テーブルおよび F0911Z1 テーブルに入力しておく、システムがデフォルト情報を参照する時間を短縮できます。</p> <p>たとえば、F0911Z1 テーブルの「備考」フィールド (VNEXA) に顧客名称を入力すると効果があります。システムが取り込むその他の情報には、支払条件や為替レート、会社番号などがあります。これらのフィールドに入力してバッチ処理プログラムを実行すると、デフォルト情報を取り込まずにデータの妥当性チェックのみが行われるため、処理時間が短縮されます。</p> |
| 収益性分析固定情報 (システム 16) を無効にする | <p>収益性分析システム (システム 16) を使用していない場合、収益性分析固定情報プログラム (P1609) で「コスト・オブジェクトをアクティブにする」オプション (CO01) と「ABC を有効にする」オプション (CO03) が選択されていないことを確認してください。「システム・セットアップ」メニュー (G1641) から「収益性分析固定情報」を選択して確認できます。</p> |
| データと関連プログラムが存在するサーバーでバッチ・プログラムを実行する | <p>バッチ・テーブル (F03B11Z1、F0911Z1) およびその他の関連テーブル (業種別顧客マスター (F03012)、為替レート・テーブル (F0015)、税域 (F4008) など) が存在するサーバー上で、バッチ処理プログラム (R03B11Z1A) を実行します。</p> <p>また、適用可能なマスター・ビジネス関数 (P03B0011、P0900049) とその他の関連プログラムも同じサーバーに置きます。</p> |

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 請求書が変換される顧客の住所録レコードが存在するかどうか確認します。
- 外部ソースから請求書取引を変換して、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムへ適切なフォーマットで転送します。

バッチ請求処理の実行

「バッチ請求書処理」メニュー (G03B311) から「バッチ請求処理」を選択します。

バッチ請求処理 (R03B11Z1A) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

この処理オプションでは、処理するバッチ・レコードの選択基準を指定します。

- | | |
|---------------------|---|
| 1. EDI - ユーザーID | 処理するバッチ請求書レコードのEDIユーザーID (データ項目EDUS) を指定します。ブランクの場合、このフィールドは選択基準として使用されません。 |
| 2. EDI - バッチ番号 | 処理するバッチ請求書レコードのEDIバッチ番号 (データ項目EDBT) を指定します。ブランクの場合、このフィールドは選択基準として使用されません。 |
| 3. EDI - トランザクション番号 | 処理するバッチ請求書レコードのEDIトランザクション番号 (データ項目EDTN) を指定します。ブランクの場合、このフィールドは選択基準として使用されません。 |
| 4. EDI - 伝送日付 | 処理するバッチ請求書レコードのEDI伝送日付 (データ項目EDDT) を指定します。ブランクの場合、このフィールドは選択基準として使用されません。 |

処理

この処理オプションでは、トランザクションの処理方法を指定します。

- | | |
|----------|---|
| 1. 処理モード | <p>プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードでは、レポートは作成されますがどのテーブルも更新されません。最終モードでは、レポートが印刷されるだけでなく、入力した情報に基づいて売掛金元帳 (F03B11) と取引明細テーブル (F0911) が更新されます。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: テスト・モード</p> <p>1: 最終モード</p> |
| 2. 貸借不一致 | <p>請求書の合計金額と対応する仕訳の合計金額が一致しない場合に、売掛金元帳 (F03B11) と取引明細テーブル (F0911) を更新するかどうかを指定します。請求書と仕訳のどちらにおいても税額は考慮されます。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 金額が一致しない請求書は処理しない。</p> <p>1: 金額が一致しない請求書も処理する。旧システムからデータをアップロードする場合など、請求書レコードを仕訳とは切り離して処理する場合のみこのオプションを選択してください。</p> <hr/> <p>警告: 金額が一致しない請求書を処理すると、他のアプリケーションで予期せぬ結果が生じる可能性があります。</p> <hr/> |
| 3. 自動除去 | <p>請求書アップロード・テーブル (F03B11Z1) および仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) から正常に処理された請求書レコードを自動的に削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> |

ブランク: 請求書レコードを除去しない。

1: 請求書レコードを除去する。

バージョン

この処理オプションでは、請求書の作成および転記に使用する対応プログラムのバージョンを指定します。

- | | |
|------------------------------|--|
| 1. 請求書入力MBF処理オプション(P03B0011) | 請求書取引の売掛金元帳レコードを処理するのに使用する請求書入力MBF処理オプション・プログラム(P03B0011)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 2. 仕訳入力MBF処理オプション(P0900049) | 請求書取引の取引明細レコードを処理するのに使用する仕訳入力MBF処理オプション・プログラム(P0900049)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 3. 総勘定元帳転記レポート(R09801) | 正常に処理された請求書取引を自動的に勘定残高テーブル(F0902)に転記するかどうかを指定します。使用する転記プログラムのバージョンを指定する必要があります。ブランクにすると、取引は転記されません。 |

メッセージ処理

この処理オプションでは、警告メッセージをワーク・センター・プログラム(P012501)に送信するかどうか、誰に送信するかを指定します。

- | | |
|----------------|--|
| 1. 警告メッセージの非表示 | <p>処理中に発生した警告メッセージを従業員ワーク・センターに送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 警告メッセージを従業員ワーク・センターに送信する。</p> <p>1: 警告メッセージを従業員ワーク・センターに送信しない。</p> |
|----------------|--|

注意: 警告メッセージはレポートには印刷されません。また、警告メッセージが表示されても処理は正常に行うことができます。

- | | |
|-------------------|--|
| 2. ワークセンターのユーザーID | ワークフローの警告メッセージを受け取るユーザーを指定します。この処理オプションをブランクにすると、警告メッセージはトランザクションを入力したユーザーに送信されます。 |
|-------------------|--|

デフォルト

この処理オプションでは、バッチ請求書処理のデフォルト情報を指定します。

- | | |
|-------------|--|
| 1. 代替受取人 | <p>F03B11Z1の「代替受取人」フィールド(AN8J)の値を、F03012の対応するフィールド(ARPY)の値に更新するか、または住所録マスター(F0101)の「第5住所録」フィールド(AN86)の値に更新するかを指定します。</p> <p>バッチ請求書レコードで値が指定されていない場合のみ、このフィールドが更新されます。この処理オプションがブランクで値が指定されていない場合は、顧客マスター(F03012)の値が使用されます。</p> |
| 2. 税域/税目コード | <p>正常に処理された請求書レコードの税目コードと税率/税域を、顧客マスター(F03012)およびビジネスユニット・マスター(F0006)で指定された値に更新するかどうかを指定します。両方のテーブルの税率/税域フィールドに値がある場合、顧客マスター(F03012)の値が使用されます。値は次のとおりです。</p> |

ブランク: 税情報を更新する。

1: 税情報を更新しない。

3. バッチ・タイプ

正常に処理された請求書に割り当てるバッチ・タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バッチ・タイプIBが割り当てられます。有効なバッチ・タイプは次のとおりです。

IB: JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理、JD Edwards EnterpriseOne 契約請求の各システムの設定に基づいて割り当てられた請求書に使用する。

2B: JD Edwards EnterpriseOne 不動産管理システムの設定に基づいて割り当てられた請求書に使用する。

注意: ユーザー定義コードの98/ITに設定されている値を入力してください。

4. 総勘定元帳タイプ

正常に処理された取引明細テーブル(F0911)のレコードに割り当てる元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、元帳タイプAAが割り当てられます。

注意: バッチ請求書テーブル(F03B11Z1)の外貨建て金額フィールドに値を入力すると、この処理オプションで指定した元帳タイプにかかわらず、対応する取引明細レコードには元帳タイプCAが割り当てられます。

5. バッチ状況

正常に処理された請求書バッチに割り当てる状況を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「売掛管理固定情報」フォームの「管理者承認」オプションの設定に基づいて値を割り当てる。

1: A(承認済み)を割り当てる。

印刷

この処理オプションでは、バッチ請求書の処理時に生成されるレポートに監査情報を印刷するかどうかを指定します。

ブランク = 監査情報を印刷しない

テスト・モードおよび最終モードでレコードを処理したときに作成されるレポートに、監査情報を印刷するかどうかを指定します。監査情報にはユーザーID、EDIバッチ番号、EDIトランザクション番号、総額(売掛金元帳(F03B11)より)、金額(取引明細テーブル(F0911)より)、および通貨コードが含まれます。監査情報は、バッチにエラーがあった場合にどのレコードにエラーが発生したかを調べるのに役立ちます。値は次のとおりです。

ブランク: 監査情報を印刷しない。

1: 監査情報を印刷する。

バッチ請求書の転記

バッチ請求書を処理した後、総勘定元帳に転記する必要があります。

「顧客および請求書の入力」メニュー (G03B11) から、請求書を総勘定元帳に転記できます。または、バッチ請求書処理プログラム (R03B11Z1A) の処理オプションで、次のように処理済のバッチ請求書を自動的に転記するよう設定することもできます。

- 「デフォルト」タブの「バッチ状況」処理オプションに「1」を入力して、処理済のバッチの状況を自動的に「承認済み」に設定する。
- 「バージョン」タブの対応する処理オプションに総勘定元帳転記レポート・プログラム (R09801) のバージョンを入力する。

注意: 処理オプションに総勘定元帳転記レポート・プログラムのバージョンを指定すると、転記プログラムの選択条件を満たすすべてのバッチが転記されます。たとえば、転記プログラムのバージョンに、バッチ・タイプがIBでバッチ状況がAのバッチを選択するようデータ選択が設定されている場合、バッチ請求書処理で作成されるバッチだけでなく、この選択条件を満たすすべての請求書が転記されます。

関連項目:

第 7 章、「請求書の処理」、「請求書の転記処理について」、141 ページ

処理済バッチ請求書の除去

この項では、除去処理の概要と処理済みバッチ請求書の除去プログラムの実行方法について説明します。

除去処理について

バッチ請求書は、検討、処理、および転記の後に除去する必要があります。処理済の請求書は、除去プログラムを実行するまでシステムに保管されます。バッチ請求書は、次のいずれかの方法で除去できます。

- 処理オプションを設定して、バッチ請求書を最終モードで処理する際に自動的に除去する。
- 個別のタスクとして除去する。

バッチ請求書を除去する場合、バッチに関係なく次のテーブルからすべての処理済請求書が削除されます。

- F03B11Z1
- F0911Z1

除去を実行してもバッチ請求書が削除されるだけで、F03B11テーブルの請求書は削除されません。

処理済バッチ請求書の除去プログラムの実行

「バッチ請求書処理」メニュー (G03B311) から「処理済みバッチ請求書の除去」を選択します。

第 9 章

入金処理

この章では、入金入力方法、入金処理のステップ、日付、伝票タイプ、標準的な入金入力または手形入力の入力タイプ・コード、およびマイナスの入金の概要と、次の方法について説明します。

- 標準的な入金の入力
- 未決済請求書の検索
- 入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込
- 総勘定元帳入金の処理
- 単独レコードの入力
- スピード入金入力
- 入金の改訂
- 入金の承認および転記
- 入金情報の削除および無効化
- 入金の残高不足 (NSF) としての指定

入金入力方法について

入金のタイプによって、入金入力プログラム (P03B102) またはスピード入金入力プログラム (P03B0001) を使って入金を入力できます。未充当入金や総勘定元帳入金は、どちらのプログラムを使っても入力できます。入金入力プログラムとスピード入金入力プログラムには、次の特徴があります。これらを考慮してどちらの方法を使うかを決めてください。

標準の入金入力

次の処理が可能です。

- ロード機能または選択機能を使った顧客の未決済項目の表示
- 顧客からの送金伝票を使用した直接入力
- 割引や小額消去を含む請求書に対する入金の消込
- 割引額または入金不足に対する再請求の作成
- 入金不足に対する損金の作成
- 再請求、小額消去、損金の単独作成
- 未充当金額の請求書への消込
- スピード入金入力での仮入金された入金の消込

- 入金入力結果の表示
- 入金の検索と改訂
- 未転記の入金および入金支払項目の削除
- 転記済の入金および入金支払項目の無効化
- 入金の残高不足 (NSF) としての指定
- 代替通貨での入金の消込

次の処理は実行できません。

- スピード入金入力と同様の短時間での入力 (未決済項目の表示や入金情報の入力で複数のフォームを使用するため)
- 仮入金の入力
- 残高繰越方式を使った入金の消込

スピード入金入力

次の処理が可能です。

- 1つのフォームでの複数の入金の入力
- 仮入金の入力
- 残高繰越入金の入力
- 自動小額消去の作成

次の処理は実行できません。

- 再請求/手動小額消去/損金の作成
- 未決済項目の事前ロード
- 単独システムとしてのプログラムの使用
- 入金の検索や改訂
- 入金の削除や無効化
- 入金の残高不足 (NSF) としての指定
- 入金消込結果の表示
- 代替通貨の使用

この章で使用する共通フィールド

未充当金額

入金見出しに入力された入金額と入金明細に入力された支払金額の差額を表示します。このフィールドに表示する金額の充当金レコードが作成されます。

銀行勘定

入金を消し込む銀行勘定科目を入力します。このフィールドを空白にすると、入力した会社番号に基づいて、AAI項目RBに設定された勘定科目が使用されます。

再請求金額

顧客への再請求用に作成する新しい請求書の金額を入力します。

再請求理由

入金入力中に請求書に対して再請求が生成された理由を示すコードを入力します。代表的な再請求理由コードは次のとおりです。

DA: 問題のある金額

DD: 割引不可額

注意: ブランクは、ユーザー定義コード・テーブルで定義されていても有効な値として受け入れられません。

会社番号

入金を消し込む会社番号を入力します。

通貨

現金入金の通貨コードを入力します。このフィールドをブランクにすると、会社に関与された通貨コードが使用されます。

顧客

請求書に対して実際に支払業務を行う会社(親会社や代理支払機関など)の住所録番号を入力します。

顧客レコード(F03012)から「代替支払人」フィールドに入力された値は、このフィールドのデフォルト値として使用されません。

このフィールドをブランクにすると、「支払人」フィールドの値が使用されます。

損金額

損金を作成された取引の通貨で損金額を入力します。たとえば、売掛金元帳照会から損金を作成した場合、取引通貨は請求書の通貨になります。入金または手形から損金を作成した場合、取引通貨は入金または手形の通貨になります。

この金額の通貨は、取引通貨コード・フィールド(TCRC)に表示されます。

損金理由

顧客によって請求書の全額が入金されていない理由を示すコードを入力します。代表的な損金理由コードは、次のとおりです。

DG: 破損品

SS: 出荷不足

UD: その他の理由

割引実施額

特定の日付までに支払が行われた場合に請求書から割引く金額を入力します。割引可能額と異なる金額にすることもできます。

割引が実施されて請求書が全額支払われた場合、このフィールドに割引可能額の値が入力されます。

割引が有効でない(入金の元帳日付が割引期日より後)場合、または請求書の全額が支払われていない場合は、このフィールドには何も入力されません。

このフィールドを上書きして、別の割引額を指定できます(0も可)。

割引理由

割引理由を指定するコードを入力します。

為替レート

指定した元帳日付に基づく為替レートが表示されます。

元帳日付

取引を転記する日付を入力します。この日付を使って多通貨取引の為替レートが取り込まれ、割引が発生するかどうかが決まります。

相手勘定

売掛金勘定を取り込む際に使用する相手勘定を入力します。このフィールドをブランクにすると、処理オプションで顧客レコードの元帳クラスを使用するように設定しないかぎり、UCが割り当てられます。

入金額

取引通貨(外貨)で表された入金額を入力します。

入金額が請求書の未決済金額より大きい場合、入金額を未決済金額より小さい額に変更するまで再請求金額、小額消去額、または損金金額は自動計算されません。

請求書の未決済金額より大きい入金額を指定すると、過入金分がマイナスの未決済金額として請求書に表示されます。

注意: 処理オプションの設定によっては、請求書の未決済金額と入力した支払金額の差額が自動的に小額消去として処理される場合があります。

| | |
|------------|--|
| 支払人 | <p>請求書に対して実際に支払業務を行う会社（親会社や代理支払機関など）の住所録番号を入力します。</p> <p>顧客レコード (F03012) から「代替支払人」フィールドに入力された値は、このフィールドのデフォルト値として使用されません。</p> |
| 入金額 | <p>実際の入金額を入力します。</p> <p>「入金額」フィールドから他のフィールドにカーソルを移動すると、フォームの右下にある「未充当金額」フィールドが自動的に更新されます。</p> |
| 入金日付 | <p>システムに入金を入力した日付、または小切手に記載された日付を入力します。入力された値は各明細行にコピーされますが、上書きが可能です。この入金日付は照会とレポート作成のためにのみ使用されます。</p> <p>このフィールドを空白にすると、元帳日付が使用されます。</p> |
| 入金No. | <p>入金を特定する番号を入力します。自動採番で入金番号を割り当てるように処理オプションを設定できます。</p> <p>処理オプションの「入金番号の重複検証」フィールドの設定に基づいて、同じ入金番号がすでに入力されている場合は警告またはエラー・メッセージが表示されます。</p> |
| 備考 | <p>取引の説明を入力します。見出し領域に入力された備考は各明細行の該当フィールドにコピーされますが、変更が可能です。</p> |
| 入力タイプ (TI) | <p>入金入力時の取引の処理方法を指定するコードを入力します。空白にしたり無効な入力タイプを選択すると、取引は処理されません。</p> <p>入金入力プログラム (P03B102) で使用する入力タイプ・コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">10: 簡易請求書照合 「10」を入力してこのフィールドからカーソルを動かすと、「入金額」フィールドに請求書の金額が自動入力されます。割引が有効な請求書の場合は、「割引実施額」フィールドに「取引割引可能額」フィールドの金額が自動入力されます。11: 割引額の自動再請求を伴う請求書照合 「11」を入力してこのフィールドからカーソルを動かすと、請求書の金額が「入金額」フィールドに、また「取引割引可能額」フィールドの金額が「再請求金額」フィールドに自動入力されます。15: 小額消去を伴う請求書照合 「15」を入力してこのフィールドからカーソルを動かすと、入力した支払金額と請求書の未決済金額の差額が「小額消去額」フィールドに自動入力されます。 |

- 16: 再請求を伴う請求書照合

「16」を入力してこのフィールドからカーソルを動かすと、入力した支払金額と請求書の未決済金額の差額が「再請求金額」フィールドに自動入力されます。

- 17: 損金を伴う請求書照合

「17」を入力してこのフィールドからカーソルを動かすと、入力した支払金額と請求書の未決済金額の差額が「損金額」フィールドに自動入力されます。

スピード入金入力プログラム(P03B0001)で使用する入力タイプ・コードは次のとおりです。

- 1: 未充当/仮受金
- 2: 繰越残高入金
- 3: 仮入金
- 4: 総勘定元帳入金

取引割引可能額

取引の支払時に総額から割引可能な請求書の支払項目の金額を入力します。割引額が、取引時に入力した支払条件に基づいて計算されます。

注意: 割引額の自動計算が、指定した支払項目に正しく適用されていることを確認してください。通常、総額に含まれる運賃、消費税、労務費は割引の対象にはなりません。

小額消去額

請求書の未決済金額から自動的に差し引かれ、顧客が支払う必要のない金額を入力します。

小額消去理由

小額消去として処理する理由を示すコード。代表的な理由コードは次のとおりです。

BD: 不良債権

DC: 破損品

MW: 小額消去

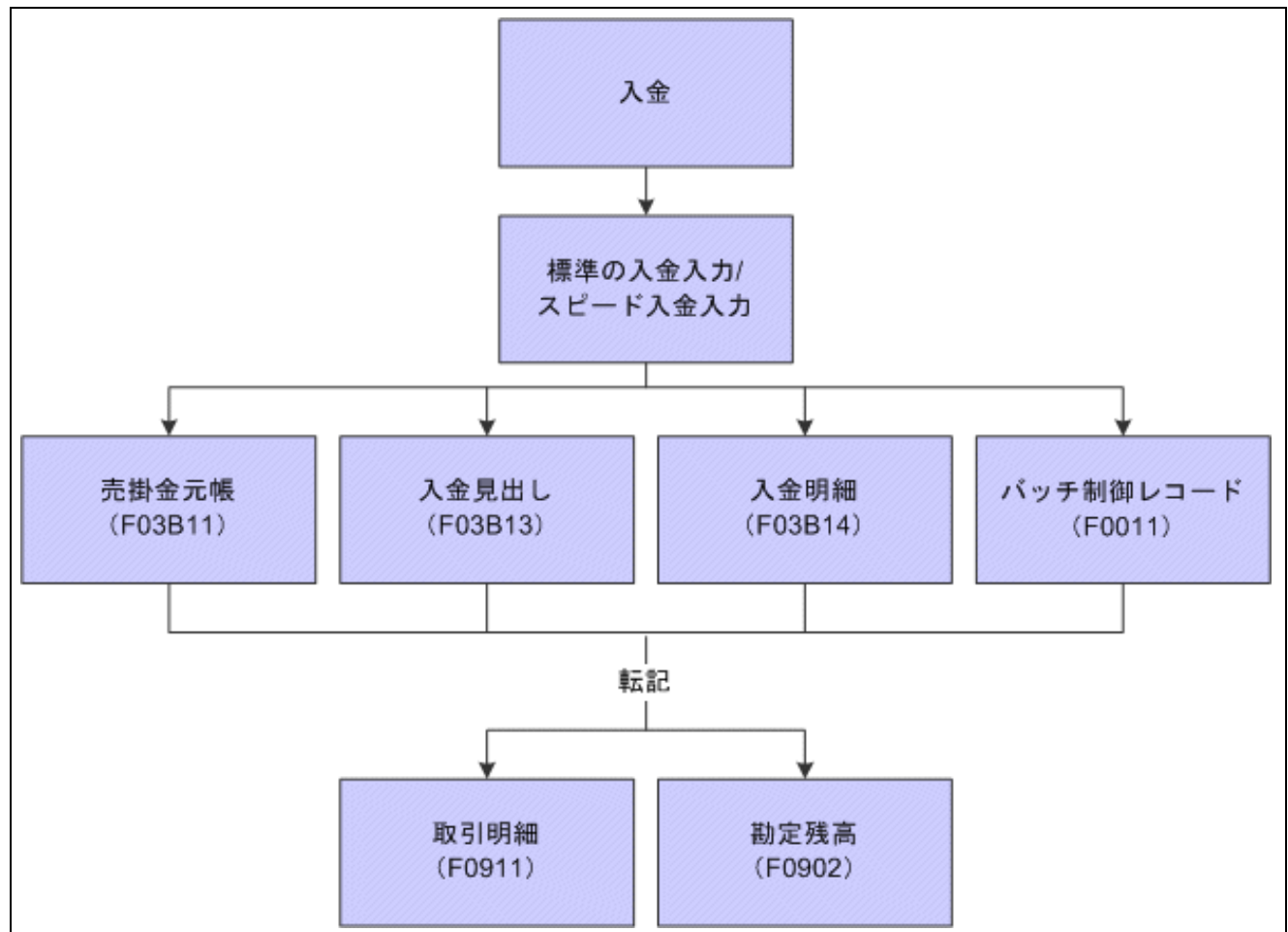
TF: 未解決税額/運送費

入金処理のステップについて

入金処理では、次の標準的な3つのステップを使って入金を処理します。

- 入力
- 検討
- 転記

次の図は、入金入力の流れと更新されるテーブルを示しています。



入金処理

日付および伝票タイプについて

入金を入力して処理するには、システムでの入金日付と元帳日付の扱われ方を理解しておく必要があります。また、請求書と入金レコードに割り当てられる伝票タイプについても理解しておく必要があります。

入金日付と元帳日付

入金を入力する際、入金日付と元帳日付の両方を入力する必要があります。

入金日付

入金日付には、システムに入金を入力する日付または実際に入金が行われた日付を入力します。入金日付が会計処理で使用されることはありません。参照用としてのみシステムに保存されます。

元帳日付

元帳日付は、為替レートを計算したり、割引を実施するかどうかを決定したり、入金の転記時に会計情報を更新するために、システム内で使用されます。元帳日付は非常に多くの目的で使用されるため、入金を入力した後は変更できません。

伝票タイプ

伝票タイプは、システム上で請求書および入金の取引を特定するために使用されます。伝票タイプは取引の検索に使用されるキー・データの一部であるため、システムで伝票タイプがどのように割り当てられ、使用されるかを理解することが重要です。

請求書伝票タイプ

請求書の伝票タイプは、ユーザーが定義するものと、システムによって自動的に定義されるもの（RRなど）があります。請求書の取引は他の取引に依存しないため、独立してシステムに入力できます。請求書は売掛金元帳テーブル（F03B11）に保存されます。

すべての入金取引には、自動的に伝票タイプが割り当てられます。入金、F03B11テーブルに対応するレコードがないと入力できません。入金によって請求書レコードが自動的に作成される場合を除き、入金に割り当てられる伝票タイプは「照合伝票タイプ」フィールド（DCTM）に保存されます。入金プログラムによって作成される請求書レコードは次のとおりです。

- 未充当入金（RU）
- 再請求（RB）
- 損金（R5）
- 手形（R1）

未決済項目を表示すると、各支払項目には請求書伝票タイプが割り当てられます。請求書に対して入金を消し込むと、請求書に対する入金伝票が作成されます。

一般的な伝票タイプは次のとおりです。

| 伝票タイプ | 説明 |
|--------------|--|
| RI（標準的な請求書） | 請求書入力MBF処理オプション・プログラム（P03B0011）の処理オプションを変更しないかぎり、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで作成された請求書、および請求書入力またはスピード請求書入力が入力された請求書にはRIが割り当てられます。 |
| RM（クレジット・メモ） | 請求書入力MBF処理オプション・プログラム（P03B0011）の処理オプションを変更しないかぎり、請求書入力またはスピード請求書入力が入力されたクレジット・メモにはRMが割り当てられます。 |
| RR（定期請求書） | 定期頻度と支払回数を入力した定期請求書にはRRが割り当てられます。 |
| RN（手動請求） | JD Edwards EnterpriseOne不動産管理システムで手入力による請求によって作成された請求書にはRNが割り当てられます。 |
| RD（定期請求） | JD Edwards EnterpriseOne不動産管理システムで定期請求から作成された請求書にはRDが割り当てられます。 |
| RH（経費負担） | JD Edwards EnterpriseOne不動産管理システムで経費負担請求から作成された請求書にはRHが割り当てられます。 |

| 伝票タイプ | 説明 |
|---------------|--|
| RJ(歩合請求) | JD Edwards EnterpriseOne不動産管理システムで歩合請求から作成された請求書にはRJが割り当てられます。 |
| RL(賃料増額) | JD Edwards EnterpriseOne不動産管理システムで賃料増額請求から作成された請求書にはRLが割り当てられます。 |
| RT(延滞手数料/利息金) | JD Edwards EnterpriseOne不動産管理システムで延滞手数料と延滞利息金の請求から作成された請求書にはRTが割り当てられます。 |
| RB(再請求) | 入金入力時に作成された再請求レコードにはRBが割り当てられます。再請求は、実際には発生しない割引に対して割引額を差し引いて入金された場合や、クレームなどのために支払を受けていない場合に、支払を促す目的でもう一度請求するために使用します。 |
| R5(損金) | 入金入力時に作成された損金レコードにはR5が割り当てられます。損金は、クレームや問題を解決するまでの間、未入金の金額を記録するために使用します。 |
| R1(手形) | 手形の請求書レコードにはR1が割り当てられます。手形は債務に対する支払約束です。手形は、紙の場合も電子データの場合もあります。手形には金額や満期日、銀行情報、また債務に関する情報を含めることができます。 |
| RF(延滞利息金) | 延滞利息金の請求書にはRFが割り当てられます。延滞利息金の請求書には、延滞利息金の対象となるすべての請求書の一定期間における延滞利息金の合計金額が示されます。 |
| NP(部分NSF) | 部分NSF手形を入力した際にNSF金額に対して作成される単独の請求書レコードにはNPが割り当てられます。 |

入金伝票タイプ

入金と請求書を消し込むと、次の2つのレコードが作成されます。

- 入金見出しレコード。入金された金額、入金日付および元帳日付、小切手番号などが含まれます。入金見出しレコードは入金見出しテーブル(F03B13)に保存されます。
- 入金明細レコード。各請求書に対して消し込まれる入金の金額が含まれています。入金明細レコードは入金明細テーブル(F03B14)に保存されます。

F03B14テーブルの入金明細レコードには、入金の伝票タイプが割り当てられます。入金伝票タイプには次のような種類があります。

| 伝票タイプ | 説明 |
|--------|----------------------------|
| RC(入金) | 入金を入力すると、この伝票タイプが割り当てられます。 |

| 伝票タイプ | 説明 |
|-----------------|---|
| RO (無効入金) | 入金を無効にすると、この伝票タイプが割り当てられます。 |
| RS (配賦入金) | 入金の金額が0で、請求書に対してクレジット・メモを消し込む場合に、この伝票タイプが割り当てられます。未充当入金と請求書を消し込む場合には、この伝票タイプは割り当てられません。 |
| RV (NSF - 残高不足) | 顧客の銀行口座に十分な残高がない場合にこの伝票タイプが割り当てられます。 |
| RU (未充当入金) | 特定の請求書に対して消し込まれていない入金には、この伝票タイプが割り当てられます。この入金と顧客への売掛金を消し込むことによって未決済残高を減らします。 |
| RL (仮入金) | 顧客または支払人に関連付けられていない入金には、この伝票タイプが割り当てられます。 |
| RR (端数処理レコード) | 入金の外貨建て金額が全額消込済で国内通貨建て金額が一部未消込の場合、または外貨建ては全額未消込であるのに対し国内通貨建ては一部消込済の場合に、この伝票タイプが割り当てられます。このレコードの端数処理は入金レベルで行われ、特定の請求書支払項目とは関連しません。 |

入金入力または手形入力の入力タイプ・コードについて

入金または手形と請求書を消し込むときに、入金や割引、小額消去、再請求、損金として処理する金額は入力タイプ (TI) コードを使って自動的に計算されます。

次の表は、標準入金入力または手形入力で使用する入力タイプ・コードと、それぞれのコードで各金額がどのようにして自動計算されるかを示しています。

| 入力タイプ・コード | 計算 |
|--------------|---|
| 10 - 単純請求書照合 | <ul style="list-style-type: none"> 支払金額 = 現在の未決済額 - 割引可能額 割引実施額 = 割引可能額 小額消去 = 任意 再請求 = 任意 損金 = 任意 |

| 入力タイプ・コード | 計算 |
|------------------------|--|
| 11 - 割引額の自動再請求を伴う請求書照合 | <ul style="list-style-type: none"> 支払金額 = 現在の未決済額 - 割引可能額 割引実施額 = 任意 小額消去 = 任意 再請求 = 割引可能額 損金 = 任意 |
| 15 - 小額消去を伴う請求書照合 | <ul style="list-style-type: none"> 消込金額 = 現在の金額 - 割引可能額 割引実施額 = 割引可能額 小額消去額 = 現在の未決済額 - 消込金額、割引実施額、再請求額、損金 再請求 = 任意 損金 = 任意 |
| 16 - 再請求を伴う請求書照合 | <ul style="list-style-type: none"> 消込金額 = 現在の未決済額 - 割引可能額 割引実施額 = 割引可能額 小額消去 = 任意 再請求額 = 現在の未決済額 - 消込金額、割引実施額、小額消去、損金 損金 = 任意 |
| 17 - 損金を伴う請求書照合 | <ul style="list-style-type: none"> 消込金額 = 現在の未決済額 - 割引可能額 割引実施額 = 割引可能額 小額消去 = 任意 再請求 = 任意 損金 = 現在の未決済額 - 消込金額、割引実施額、小額消去、再請求 |

次の例は、入力タイプ・コードを使って入金または手形を入力する方法を示しています。各例の未処理の請求金額は1000.00、支払条件は“10日以内の支払は1%の割引、支払期限は請求日から30日以内”です。

単純請求書照合(入力タイプ10)

請求書123に対して割引期間内に990.00の入金がありました。

| 入力タイプ・コード | 消込金額 | 割引 | 小額消去 | 再請求 | 総額 | 伝票番号 | 伝票タイプ |
|-----------|--------|-------|------|-----|---------|------|-------|
| 10 | 990.00 | 10.00 | | | 1000.00 | 123 | RI |

入力タイプ10を使って990.00が消し込まれ、10.00が割引引かれます。

割引額の自動再請求を伴う請求書照合(入力タイプ11)

請求書123に対して割引期日以降に990.00の入金がありました。

| 入力タイプ・コード | 消込金額 | 割引 | 小額消去 | 再請求 | 総額 | 伝票番号 | 伝票タイプ |
|-----------|--------|----|------|-------|---------|------|-------|
| 11 | 990.00 | | | 10.00 | 1000.00 | 123 | RI |

入力タイプ11を使って990.00が消し込まれ、10.00の再請求が作成されます。

小額消去を伴う請求書照合(入力タイプ・コード15)

請求書123に対して割引期間内に970.00の入金がありました。再請求は作成せず、20.00の小額消去を行います。

| 入力タイプ・コード | 消込金額 | 割引 | 小額消去 | 再請求 | 総額 | 伝票番号 | 伝票タイプ |
|-----------|--------|-------|-------|-----|---------|------|-------|
| 15 | 970.00 | 10.00 | 20.00 | | 1000.00 | 123 | RI |

入力タイプ15を使って970.00が消し込まれ、10.00が割引かれ、20.00が小額消去として処理されます。

再請求を伴う請求書照合(入力タイプ16)

請求書123に対して割引期間内に600.00の入金がありました。

| 入力タイプ・コード | 消込金額 | 割引 | 小額消去 | 再請求 | 総額 | 伝票番号 | 伝票タイプ |
|-----------|--------|-------|------|--------|---------|------|-------|
| 16 | 600.00 | 10.00 | | 390.00 | 1000.00 | 123 | RI |

入力タイプ16を使って600.00が消し込まれ、10.00が割引かれ、390.00の再請求が作成されます。

損金を伴う請求書照合(入力タイプ17)

請求書123に対して割引期間内に850.00の入金がありました。後で調査、解決することに決め、一時的に不足額140.00を損金として処理します。

| 入力タイプ・コード | 消込金額 | 割引 | 小額消去 | 損金 | 総額 | 伝票番号 | 伝票タイプ |
|-----------|--------|-------|------|--------|---------|------|-------|
| 17 | 850.00 | 10.00 | | 140.00 | 1000.00 | 128 | RI |

入力タイプ17を使って850.00が消し込まれ、10.00が割引かれ、140.00の損金を作成されます。

単純請求書照合(入力タイプ10)について

入金により請求書の全額または一部が支払われるときに、小額消去、再請求、損金を手動で指定しない場合は、入力タイプ・コード10を使用します。元帳日付が割引期日以前の場合は、自動的に割引が適用されます。入金により消し込む請求書の金額は、「入金額」フィールドで指定します。このフィールドをブランクにすると、請求書で未決済となっている全額(入金額を限度額とする)が支払われます。

入金および手形を入力したら、総勘定元帳に転記する必要があります。

- 入金レコードを転記すると、(借)銀行勘定/(貸)売掛金勘定の仕訳が作成されます。この売掛金勘定は、請求書の転記時に使用されるのと同じ勘定科目です。

- 手形レコードを転記すると、(借)受取手形/(貸)売掛金勘定の仕訳が作成されます。この売掛金勘定は、請求書の転記時に使用されるのと同じ勘定科目です。

割引を伴う請求書照合(入力タイプ10)について

請求書または請求書のグループに対して入金または手形を消し込む際には、割引を処理するかどうかを選択できます。顧客から割引期日またはそれ以前に請求書の支払があった場合は割引が発生し、「割引実施額」フィールドに割引額が自動的に入力されます。入金の元帳日付が割引期日より後の場合、割引は無効とみなされ、「割引実施額」フィールドに値は入力されませんが、手入力で割引額を指定できます。割引を行わない場合、請求書は割引額の分だけ未決済のままとなります。

処理オプションを設定して、割引実施額が割引可能額や消込金額(入金額)を超過することを許可できます。たとえば、顧客からクレームがあった場合に、割引という形で赤伝を切る場合などがあります。また、割引期日に追加する猶予日数を指定することもできます。

入金および手形を入力したら、それを転記する必要があります。

割引が発生した支払を転記すると、銀行勘定(または受取手形勘定)と売掛金勘定の他に割引勘定も更新されます。システムでは次の順序で割引勘定が検索されます。

1. AAI項目RKDxxx(xxxは入金に入力する会社用に指定した割引理由コード)が検索されます。
2. 見つからない場合、会社00000のRKDxxxが使用されます。
3. 見つからない場合、エラー・メッセージが表示されます。

再請求を伴う請求書照合(入力タイプ11と16)について

入金と請求書を消し込む際、入金額が請求書の未決済金額より少ない場合は再請求を作成できます。たとえば、顧客が割引期日後に割引額を差し引いて支払ったり、送料の支払を拒否した場合などです。

再請求用の請求書を生成するには、次の入力タイプ・コードを使用します。

| 入力タイプ・コード | 用途 |
|-----------|---|
| 11 | 無効な割引に対して再請求を作成する場合に使用します。「再請求金額」フィールドには割引可能額と同じ金額が自動的に入力されます。 |
| 16 | 割引とは無関係な入金不足に対して再請求を作成する場合に使用します。「再請求金額」フィールドには入力した入金額と請求書の未決済金額の差額が自動的に入力されます。 |

再請求を伴う入金を入力すると、次のテーブルにレコードが作成されます。

| テーブル | 作成レコード |
|--------|---|
| F03B11 | <p>特定の請求書になされた入金に対して、顧客にもう一度請求する金額のレコード。元の請求書は支払済として更新され、伝票タイプRB(再請求)の請求書レコードが新しく作成されます。</p> <p>再請求の請求書レコードには次のような特徴があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入金の支払IDに対して監査証跡が作成される。 • 再請求が特定の請求書に対して作成された場合は、元の請求書に対して監査証跡が作成される。 • 借方の金額で表される。 • バッチ・タイプはRB(入金プログラムで作成された場合)またはDB(手形プログラムで作成された場合)。 • 転記状況はD(転記済)。 <p>F03B13テーブルとF03B14テーブルの支払レコードの転記コードは、入金または手形を転記するまでblankのままとなります。</p> |
| F03B13 | 支払レコード |
| F03B14 | 再請求を作成する元となった請求書への支払の明細レコード |

再請求金額と理由コードを指定すると、使用した入力タイプ・コードにかかわらず再請求レコードが作成されます。

入金および手形を入力したら、それを転記する必要があります。再請求を伴う支払を転記すると、銀行勘定(または受取手形勘定)と売掛金勘定が更新される他、支払レコードの「再請求相手勘定」フィールドに値が入力されているかどうかによって、再請求の金額で別の売掛金勘定が更新される場合もあります。

小額消去を伴う請求書照合(入力タイプ10と15)について

入金された金額が請求書の未決済金額に満たない場合やわずかに多い場合は、差額を小額消去として計上し、請求書を支払済にすることができます。たとえば、顧客から請求額をわずかに下回る額の入金があったとします。顧客と良好な関係を保つために、差額分を再請求したり未決済で残さないで小額消去として処理することがあります。

小額消去を行うには次の2つの方法があります。

| 方法 | 用途 |
|-------------------------|--|
| 自動小額消去 (入力タイプ・コード10) | <p>システムによって支払額と請求書の未決済金額の差額が計算されます。差額が処理オプションで定義された許容限度の範囲内であれば、自動的に小額消去が行われます。</p> <p>たとえば、小額消去の最高額を10とした場合、500の請求書に対して490の入金または手形を入力したとします。「入金額」フィールドに「490」と入力するかデフォルトで表示される金額をそのままにすると、差額の10が自動的に小額消去されます。小額消去の金額を自分で計算したり指定する必要はありません。</p> <p>自動的に小額消去を行うには、計上する勘定科目を決定するのに使用するデフォルトの理由コードを処理オプションで入力する必要があります。自動小額消去では、入金または手形の入力時に小額消去理由コードは変更できません。</p> <p>請求書に対して入金を消し込むと、未決済金額の残高が表示されます。入金または手形を入力して検討すると、小額消去金額とその理由コードが表示されます。この時点で、小額消去理由コードを変更することが可能です。</p> |
| 手動小額消去 (入力タイプ・コード15) | <p>入力タイプ15を使って小額消去の実行を指定すると、小額消去金額が自動的に計算されます。処理オプションで指定した手動小額消去の最高額を超えている場合は、「OK」をクリックするとエラー・メッセージが表示されます。その場合、小額消去金額を手動で調整できます。</p> <p>手動で小額消去を行う場合のデフォルトの理由コードを設定できますが、必須ではありません。設定した場合も、入金または手形の入力時に変更可能です。</p> |

小額消去金額と理由コードを指定すると、使用した入力タイプ・コードにかかわらず小額消去レコードが作成されます。

請求書の未決済金額を超える金額(過入金)の小額消去を行うには、取引の支払金額を入金または手形の金額に変更する必要があります。この変更を行わないと、その金額分の未充当入金レコードが作成されます。たとえば、95.00の請求書に対して100.00の支払があったとします。5.00を自動的に小額消去として処理するには、グリッド行の入金額を95.00から100.00に変更する必要があります。変更しないと、5.00分の未充当入金レコードが作成されます。

入金および手形を入力したら、それを転記する必要があります。小額消去を伴う支払を転記すると、借方に売掛金勘定、貸方に銀行(または受取手形)勘定が計上され、AAI項目RAxx(xxは小額消去理由コード)で指定した小額消去勘定が更新されます。使用する理由コードごとにAAIを設定する必要があります。

損金を伴う請求書照合(入力タイプ17)について

顧客からの入金が不足している場合に、対応を後にして先に入金入力を行うためには、損金を使用して入金および手形の入力を行います。入金をただちにシステムに入力し、その間に別の担当者が入金不足の調査と解決に当たることができます。損金の主な理由は次のとおりです。

- 破損品または欠陥品
- 無効割引(割引期日後の支払)

- 請求ミス
- 送料または税の支払拒否
- 出荷数量不足

入力タイプ・コード17を使って損金自動的に計算されるように指定します。請求書に消し込んだ金額が入金額より少ない場合は、その差額で「損金額」フィールドが自動的に更新されます。また、損金理由コードも処理オプションで指定したデフォルト値で更新されます。

損金を伴う入金または手形を入力すると、次のテーブルに伝票が作成されます。

| テーブル | 伝票 |
|--------|---|
| F03B11 | <p>特定の請求書(複数可)にかわって作成される、調査して解決すべき不足金額分の損金請求書伝票。元の請求書は支払済とされ、伝票タイプR5の新しい損金請求書レコードが作成されます。</p> <p>損金の請求書レコードには次のような特徴があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入金の支払IDに対して監査証跡が作成される。 • 元の請求書に対して監査証跡が作成される(損金が特定の請求書に対して作成された場合)。 • 借方の金額で表される。 • バッチ・タイプはRB(入金プログラムで作成された場合)またはDB(手形プログラムで作成された場合)。 • 転記状況はD(転記済)。 <p>F03B13テーブルとF03B14テーブルの支払レコードの転記コードは、入金または手形を転記するまでブランクのままとなります。</p> |
| F03B13 | 支払レコード |
| F03B14 | 損金を作成する元となった請求書への支払の明細レコード |

損金の金額と理由コードを指定すると、使用した入力タイプ・コードにかかわらず損金レコードが作成されます。

入金および手形を入力したら、それを転記する必要があります。損金を伴う入金を転記すると、銀行勘定(または受取手形勘定)と売掛金勘定が更新されるだけでなく、AAI項目RNで設定された損金仮勘定が借方に計上されます。また、損金管理テーブル(F03B40)にもレコードが作成されます。この損金レコードを使って、後で損金の理由を調査したり解決できます。

注意: 転記後に損金の金額を変更したり支払を無効にするには、事前に損金プログラムを使って損金レコード(F03B40)を取り消すか無効にする必要があります。ただし、損金以外の支払明細レコードは改訂できます。

関連項目:

第 15 章、「損金処理」、355ページ

複数の入力タイプ・コードを使った請求書の照合について

入金または手形を入力したら、その入金または手形をそれぞれ別の処理が必要な複数の請求書に対して同時に消し込むことができます。たとえば、3つの請求書がある場合に、1つの請求書は割引を行い、2つめの請求書は割引額の再請求を行い、3つめの請求書は送料の小額消去を行うといった状況に対応できます。

複数の入力タイプ・コードを使って入金または手形を請求書に対して消し込む場合、入力タイプ・コードを様々に組み合わせて使用し、請求書ごとに必要な処理を行うことができます。

注意: 各入金明細行の支払金額は、次の基準を使用して決定されます。

入金または手形の金額

請求書の未決済金額

入力タイプ・コード

未充当金額

たとえば、「入金額」または「手形金額」フィールドに値を入力せずに複数の請求書を支払おうとすると、最初に入力した支払金額は2番目の明細行にマイナスの支払金額が入力されることにより相殺されます。

マイナスの入金について

入金をマイナスの金額で入力することが必要な場合があります。たとえば、クレジット・カード支払額より多く入金された場合、顧客への返金額を記録する必要があります。(借)銀行勘定および(貸)売掛金勘定の仕訳が総勘定元帳に正しく反映されるように、返金額をマイナスの金額で入力しクレジット・メモで相殺できます。入金をマイナスの金額で入力すると、入金明細レコード(F03B14)が作成され、再び返金処理が行われないように、クレジット・メモの支払状況がPに更新されます。

次のような場合にも、入金をマイナスの金額で入力できます。

- 現金送金など、総勘定元帳に対して直接マイナス調整を行う場合
- 銀行振込を入力する場合
- 残高不足(NSF)入金を総勘定元帳入金として記録する場合

マイナス入金の入力には、入金入力プログラム(P03B102)を使用します。処理オプションで、マイナス入金の入金を可能に設定します。

例: クレジット・カード返金

顧客がクレジット・カードを使って商品またはサービスを購入したとします。購入品目に対して、90.00の請求書が作成されます。クレジット・カード会社は顧客の購入に際して、銀行口座に直接入金を行います。一方、顧客がすでに支払を済ませた返品品目に対して、クレジット・カード会社により150.00の返金が必要されたとします。返金額が顧客のクレジット・カード支払額(90.00)を超える場合、60.00のマイナス金額になります。マイナス金額を相殺するには、-60.00の入金を作成し、返金のクレジット・メモおよび顧客が支払を済ませた請求書に対して、そのマイナス金額を消し込む必要があります。

クレジット・カード会社は入金した銀行口座からその金額分を直接差し引きます。

このシナリオを完成させるには、次のステップを実行します。

1. 顧客に90.00の金額の請求書(RI)を作成します。
2. 請求書を転記して、次の仕訳を作成します。

- (借) 売掛金勘定 90.00
 - (貸) 売上高 90.00
3. 払戻金額 150.00 のクレジット・メモ (RM) を作成します。
 4. クレジット・メモを転記して、次の仕訳を作成します。
 - (貸) 売掛金勘定 150.00
 - (借) 売上高 150.00クレジット・メモ 60.00 が売掛金勘定に反映されます。
 5. 入金入力プログラムを使用して、60.00 のマイナス入金を作成し、150.00 のクレジット・メモ (RM) に消し込みます。
 6. 残額 90.00 を顧客の請求書 (RI) に対して消し込みます。
入金が完了すると、F03B11 テーブルのクレジット・メモおよび未決済請求書が支払済になります。
 7. 入金を転記して、次の仕訳を作成します。
 - (借) 売掛金勘定 60.00この仕訳により、クレジット・メモで作成されたマイナス金額が相殺されます。
 - (貸) 銀行勘定 60.00

例: マイナス元帳調整

クレジット・カード会社を通じて顧客の支払を処理します。クレジット・カード会社は取引の処理に 3.5% の手数料を請求します。クレジット・カード会社から支払を受け取ったら、処理手数料を総勘定元帳に直接入力し、顧客が支払った全金額を関連する請求書に対して消し込みます。

たとえば、顧客は次の請求書に対して 9,647.05 をクレジット・カード会社に支払ったとします。

- RI 3125 に 1,162.75
- RI 3126 に 5,034.30
- RI 3127 に 3,000

顧客の支払金額をこれらの請求書に対して全額消し込む他に、3.5% のクレジット・カード処理手数料として 337.65 のマイナス総勘定元帳入金を作成する必要があります。これにより、請求書は支払済として処理され、総勘定元帳に対応する経費勘定科目に仕訳が作成されます。

このシナリオを完成させるには、次のステップを実行します。

1. 入金入力プログラムを使用して、入金額に 9,309.40 を指定する入金情報を入力します。
2. 支払対象となる 3 つの請求書を選択し、請求書金額を支払金額として各請求書に消し込みます。
マイナスの金額 337.65 は未充当のままです。
3. 「フォーム」メニューから「総勘定元帳」を選択します。
4. 処理手数料の調整を行う勘定科目を指定します。
5. マイナスの金額 337.65 を入力します。
6. 入力を完了します。
顧客がクレジット・カード会社に支払った金額が全額消し込まれ、3 つの請求書は支払済になります。
7. 入金を転記して、次の仕訳を作成します。

- ・（借）経費勘定にクレジット・カード処理手数料として337.65
- ・（借）銀行勘定に9,309.40
- ・（貸）マイナス入金分が差し引かれ、売掛金勘定に9,647.05

標準的な入金の入力

この項では、標準的な入金、入金または手形入力時に更新されるフィールド、未充当入金の概要と次の方法について説明します。

- ・ 入金入力 (P03B102) の処理オプションの設定
- ・ 未充当入金の入力

アルゼンチンには、標準的な入金を入力するための国別機能が用意されています。

標準的な入金の入力について

この標準の入金入力プログラムを使って、入金対象の請求書を選択したり、入金不足や無効な割引の処理方法を選択します。これは入金消込の最も一般的な方法で、入金プログラムの柔軟性を最大限に活用できます。

入力タイプ (TI) コードを使って、入金金額をどのように消し込むかを指定します。入力する入金額および使用する入力タイプ・コードに基づいて、自動的に小額消去や再請求、損金の金額が計算され、有効な割引が実施されたかどうかも特定されます。また、請求額以上の金額を入力して、顧客への返金 (赤伝) レコードを作成することもできます。

請求書をバッチ単位で入力するのと同様に、入金もバッチ単位で入力します。売掛管理固定情報の設定によっては、取引件数や合計金額などのバッチに関する情報を入力するための「バッチ制御」フォームが表示されます。銀行残高調整を簡単にするために、入金の種類ごとにバッチを分けて入力することもできます。

注意: 「入金照会」フォーム (「入金の入力」フォームではありません) を閉じてもう一度開いたときのみ、新しいバッチ番号が割り当てられます。「入金照会」フォームを閉じるまでは、バッチの状況は“使用中”のままです。入金プログラムで作成されたすべてのレコードには、バッチ・タイプ RB が割り当てられます。

請求書に対して入金を消し込むと、入金見出しテーブル (F03B13) に入金の伝票が1件作成され、入金明細テーブル (F03B14) には入金を消し込んだ各請求書に対して1件ずつ伝票が作成されます。

関連項目:

第 10 章、「売掛金元帳情報の処理」、「請求書の検討」、236ページ

入金入力または手形入力時に更新されるフィールドについて

入金を入力すると、特定のフィールドが略式IDで更新されます。入金が請求書に対して消し込まれる方法に基づいてAAIが検索されます。入金の転記時に、この略式IDを使って自動仕訳が作成されます。次の表は、入金のタイプに基づいて更新されるフィールドと、勘定科目の検索に使用されるAAIの一覧です。

| 勘定科目 | 入金消込のタイプ | 入力タイプ・コード | 更新されるフィールド | 更新されるテーブル | 使用されるAAI |
|-------|----------|-----------|------------|-----------|--|
| 銀行勘定 | すべて | なし | GLBA | F03B13 | <p>入金入力時に指定した銀行勘定科目のコードが使用されます。</p> <p>「銀行勘定科目」フィールドがブランクの場合、次の順序で勘定科目が検索されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入金に入力された会社のRB • 会社00000のRB <p>注意: 入金入力時に銀行勘定科目フィールドは自動的に更新されます。ただし手形の場合は、取立または回収処理を行うまで銀行勘定科目フィールドは更新されません。</p> |
| 売掛金勘定 | 消込済入金 | 10 | AID | F03B14 | <p>AAIは使用されません。</p> <p>F03B11テーブルで請求書レコードのAIDフィールドに入力された勘定科目が使用されます。</p> |

| 勘定科目 | 入金消込のタイプ | 入力タイプ・コード | 更新されるフィールド | 更新されるテーブル | 使用されるAAI |
|-------|-------------|-----------|------------|---------------|---|
| 売掛金勘定 | 未充当入金 | なし | AID | F03B13 | <p>次の順序で勘定科目が検索されます (xxxxは「未充当相手勘定」フィールドの値)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入金または手形レコードに入力された会社のRCxxxx 会社00000のRCxxxx 入金または手形レコードに入力された会社のRCUC 会社00000のRCUC |
| 売掛金勘定 | 再請求の必要がある入金 | 11と16 | AIDCとAID | F03B14とF03B11 | <p>次の順序で勘定科目が検索されます (xxxxは「再請求相手勘定」フィールドの値)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 請求書に入力された会社のRCxxxx 会社00000のRCxxxx 請求書に入力された会社のRC 会社00000のRC |

| 勘定科目 | 入金消込のタイプ | 入力タイプ・コード | 更新されるフィールド | 更新されるテーブル | 使用されるAAI |
|-------|-----------|-----------|------------|-----------|--|
| 売掛金勘定 | 単独の再請求 | 26 | AIDC | F03B14 | <p>次の順序で勘定科目が検索されます(xxxxは「再請求相手勘定」フィールドの値)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入金または手形レコードに入力された会社のRCxxxx 会社00000のRCxxxx 入金または手形レコードに入力された会社のRC 会社00000のRC |
| 割引実施額 | 割引を伴う支払 | 10 | AIDD | F03B14 | <p>次の順序でAAIが検索されます(xxは割引理由コード)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入金または手形レコードに入力された会社のRKDxx 会社00000のRKDxx 入金または手形レコードに入力された会社のRKD 会社00000のRKD |
| 小額消去 | 小額消去を伴う支払 | 10と15 | AIDW | F03B14 | <p>次の順序でAAIが検索されます(xxは小額消去理由コード)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 請求書に入力された会社のRAxx 会社00000のRAxx |

| 勘定科目 | 入金消込のタイプ | 入力タイプ・コード | 更新されるフィールド | 更新されるテーブル | 使用されるAAI |
|-------|----------|-----------|------------|-----------|--|
| 小額消去 | 単独の小額消去 | 25 | AIDW | F03B14 | 次の順序でAAIが検索されます (xxは小額消去理由コード)。 <ul style="list-style-type: none"> 入金または手形レコードに入力された会社のRAxx 会社00000のRAxx |
| 損金仮勘定 | 損金を伴う支払 | 17 | DAID | F03B14 | 次の順序で検索されます。 <ul style="list-style-type: none"> 請求書に入力された会社のRN 会社00000のRN |
| 損金仮勘定 | 単独の損金 | 27 | DAID | F03B14 | 次の順序で検索されます。 <ul style="list-style-type: none"> 入金または手形に入力された会社のRN 会社00000のRN |

次の表は、手形の受取、取立、回収を行ったときに、F03B14テーブルのレコードのAID2フィールドがどのように更新されるかを示しています。これらのレコードは、表に示したAAIに基づいて、手形の各段階で作成されます。xは支払手段を示します。

| 手形の状況 | AAI |
|-----------|------|
| 受取 | RD1x |
| 送金 | RD2x |
| 割引手形の取立 | RD3x |
| 偶発債務を伴う取立 | RD4x |

未充当入金について

入金を計上して顧客への売掛金残高から差し引く最も簡単でスピーディな方法は、未充当入金を入力することです。このタイプの入金を使用すると、顧客から受けた入金を即座にシステムに入力でき、これによって常に最新の資金状況を把握することが可能になります。未充当入金を入力すると、特定の請求書に対してではなく、顧客の売掛金残高に対して入金を消し込むことができます。たとえば、銀行口座に振り込まれた日に入金を計上して、請求書に対する消込は後で行うことができます。

未充当入金を入力すると、次の各テーブルにレコードが作成されます。

| テーブル | 用途 |
|--------|---|
| F03B11 | <p>未充当入金用の請求書レコード。入金伝票は単独では存在することはないため、なんらかの請求書レコードと関連付ける必要があります。このため、未充当入金に対しては請求書レコードが自動的に作成され、伝票タイプRUが割り当てられます。</p> <p>未充当入金用の請求書レコードには次のような特徴があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入金の支払IDに対して監査証跡が作成される。 • マイナスの金額で表される。 • バッチ・タイプRBを持つ。 • 転記状況はD(転記済)。F03B13テーブルとF03B14テーブルの入金レコードの転記コードは、入金を転記するまでブランクのままです。 |
| F03B13 | 取引用の入金レコード。 |
| F03B14 | <p>支払われる請求書に関連する入金レコード。</p> <p>請求書消込によって作成される未充当入金(RU)、再請求(RB)、損金(R5)の請求書レコードには、転記に使用される明細レコードが含まれます。転記状況が「D」の請求書レコード(F03B11)が自動的に作成されます。総勘定元帳を更新するには、入金レコード(F03B14)を転記する必要があります。</p> |

未充当入金は、適切な請求書と消し込むまでは未決済のままです。

未充当入金を入力したら、それを転記する必要があります。未充当入金を転記すると、(借)銀行勘定/(貸)売掛金勘定の仕訳が作成されます。このとき、入金入力時に「未充当相手勘定」フィールドを上書きするか、顧客マスターで設定されている相手勘定を使うよう指定しないかぎり、AAI項目RCUCに関連付けられた売掛金勘定が貸方に仕訳されます。

未充当入金は、スピード入金入力プログラム(P03B0001)を使って入力することもできます。このプログラムを使うと、未充当入金をすばやく入力できます。ただし、スピード入金入力では、未充当入金の改訂、請求書消込、削除はできません。未充当入金の請求書消込、変更、削除を行うには、入金入力プログラム(P03102)を使用してください。

関連項目:

第 9 章、「入金処理」、「未充当入金(入力タイプ(TI)コード1)の入力」、221ページ

事前設定

AAI項目RCxxxxに適切な勘定科目が設定されていることを確認してください。xxxxは、未充当相手勘定（未充当手形の場合）または再請求相手勘定（再請求を作成する手形の場合）です。未充当手形を入力する場合、別の未充当相手勘定を指定するか、顧客レコードの値を使用するよう処理オプションで指定しないかぎり、デフォルトのRCUCが使用されます。

標準的な入金入力に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-------|----------|--|-------------------------|
| 入金の入力 | W03B102E | 「入金処理」(G03B12)、 「入金入力」 「入金照会」フォームで、 「追加」をクリックします。 | 標準的な入金を入力します。 |
| 追加情報 | W03B102I | 「入金の入力」フォームの 「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。 | 未充当入金にUC以外の相手勘定を割り当てます。 |

入金入力の処理オプションの設定 (P03B102)

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

この処理オプションでは、「入金の入力」フォームで前に入力した値をそのまま残すことができます。類似した入金を連続して入力する場合に入力時間を短縮できます。

- 1. 会社**
 入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した会社番号を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 会社番号を保持しない。
 1: 会社番号を保持する。
- 2. 銀行勘定**
 入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した銀行勘定科目を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 銀行勘定を保持しない。
 1: 銀行勘定を保持する。
- 3. 元帳日付**
 入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した元帳日付を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 元帳日付を保持しない。
 1: 元帳日付を保持する。
- 4. 入金日付**
 入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した入金日付を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 入金日付を保持しない。
 1: 入金日付を保持する。
- 5. 支払人番号**
 入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した支払人番号を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- ブランク: 支払人番号を保持しない。
1: 支払人番号を保持する。
- 6. 顧客番号**
入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した顧客番号を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 顧客番号を保持しない。
1: 顧客番号を保持する。
- 7. 備考**
入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した備考を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 備考を保持しない。
1: 備考を保持する。
- 8. 通貨**
入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した通貨を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 通貨を保持しない。
1: 通貨を保持する。
- 9. 為替レート**
入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した為替レートを保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 為替レートを保持しない。
1: 為替レートを保持する。
- 10. 支払手段**
入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した支払手段を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 支払手段を保持しない。
1: 支払手段を保持する。
- 11. 決済日付**
入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した決済日付を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 決済日付を保持しない。
1: 決済日付を保持する。

デフォルト

この処理オプションでは、「入金照会」、「入金の入力」、「追加情報」、「請求書のロード」、「請求書の選択」フォームで使用するデフォルト値を指定できます。この処理オプションで入力した値は、入金入力時に変更できます。

- 1. 入金タイプの表示**
「入金照会」フォームに表示する入金タイプを指定します。
値は次のとおりです。
1: すべて
2: 未充当
3: 仮入金
4: 総勘定元帳

- 2. 日付タイプ** 「日付選択」の「開始」および「終了」フィールドで使用する日付タイプを指定します。値は次のとおりです。
- 1: 入金日付
 - 2: 元帳日付
- 3. 入力タイプ** 請求書と入金の消込に使用するデフォルトの入力タイプ・コードを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: デフォルト値を使用しない。
- 10: 簡易請求書照合。
 - 11: 照合 - 割引の自動再請求。
 - 15: 照合 - 小額消去あり。
 - 16: 照合 - 再請求あり。
 - 17: 照合 - 損金処理あり。
- 4. 備考** 入金明細レコードに使用するデフォルトの備考を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 請求書の備考を使用する。
- 1: 入金見出しの備考を使用する。
- 5. 入金の番号の採番** 自動採番を使って入金番号を割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 自動採番を使用しない。
- 1: 自動採番を使用する。
- 6. 損金理由コード** 損金金額の入力時に使用するデフォルトの損金理由コードを指定します。ブランクの場合は、「入金の入力」フォームの詳細グリッドに手動で損金理由コードを入力する必要があります。有効な損金理由コードは、UDC 03B/CR に定義されています。
- 7. 会社番号の一時変更** ロード、選択、送金入力フォームで使用するデフォルトの会社番号を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 入金入力の会社番号を使用する。
- 1: 「*」を入力してすべての会社を表示する。
- 8. 未充当入金のデフォルト相手勘定** 未充当入金を入力する際に、顧客レコード (F03012) の相手勘定を「未充当相手勘定」フィールドのデフォルト値として使用するかどうかを指定します。売掛金勘定は、使用する相手勘定に基づいて検索されます。値は次のとおりです。
- ブランク: 顧客レコードの値を使用しない。UCがデフォルト値として使用されます。
- 1: 顧客レコードの相手勘定を使用する。顧客レコードに相手勘定が設定されていない場合、UCがデフォルト値として使用されます。

検証

この処理オプションでは、小額消去や残高不足の処理などの特定機能を有効に設定したり、重複する入金番号の使用時や過入金の入力時にメッセージを表示するかどうかを設定できます。

1. **入金番号**

入金を入力する際に、入金番号を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入金番号を必須にしない。

1: 入金番号を必須にする。
2. **小額消去**

小額消去を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 小額消去を許可する。

1: 小額消去を許可しない。
3. **未転記入金の削除/NSF**

未転記入金の削除およびNSF(残高不足)処理を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 削除およびNSFを許可する。

1: 削除およびNSFを許可しない。
4. **過入金の検証**

請求額以上の金額が入力された場合に表示するエラー・メッセージの重要度を指定します。値は次のとおりです。

0: 検証なし

1: 警告

2: エラー

請求額以上の金額を入力すると、マイナスの未決済金額として表示されます。
5. **入金番号の重複検証**

重複する入金番号が検出された場合に表示するメッセージの重要度を指定します。個々の顧客についてではなく、F03B13テーブルのすべてのレコードについて、重複する入金番号が検索されます。値は次のとおりです。

0: 検証なし

1: 警告

2: エラー

処理

この処理オプションでは、デフォルトの入力タイプ・コードを使用する場合の入金と請求書の消込方法を指定できます。また、取引明細テーブル(F0911)のレコードの集計方式(入力された入金のバッチごとに作成するか、入金ごとに明細レコードを作成するか)も指定します。

1. **入金消込**

使用するデフォルトの入力タイプ・コードを指定する際に詳細グリッドに表示される請求書に対して、入金をどのように消し込むかを指定します。「デフォルト」タブの入力タイプ・コードの処理オプションをブランクにした場合は、この処理オプションが無視されます。値は次のとおりです。

ブランク: 入金額に達するまで請求書を消し込みます。請求書に対する消込が、入金額に達するまで自動的に行われます。詳細グリッドに表示される残りの請求書は処理されません。クレジット・メモと請求書の両方を選択する場合、最初にクレジット・メモを選択して、請求書の前に処理されるようにしてください。次に例を示します。

 - 処理オプション「入力タイプ」(「デフォルト」タブ)は10に設定されています。
 - 処理オプション「入金消込」はブランクです(入金額に達するまで消し込まれます)。

- 入金額は100です。
- 請求書金額は200で、支払期日は2008年6月15日です。
- クレジット・メモは100で、支払期日は2008年6月30日です。

ロード機能を使用して顧客の未決済請求書を表示すると、クレジット・メモの前に請求書レコードが表示されます。これは、請求書の方が支払期日が多いためです。処理オプションで入力タイプ・コードを10に指定したため、請求書に対して入金額100が消し込まれ、残り100は未決済金額として残ります。入金額の全額が最初の請求書に対して消し込まれるため、クレジット・メモは処理されません。

1: すべての請求書を消し込みます。入金額が超過しているかどうかにかかわらず、入金を請求書の未決済金額に消し込みます。詳細グリッドに表示されるすべての請求書およびクレジット・メモが対象になります。

この処理オプションは、小額消去、再請求、および損金の処理方法にも影響します。次に例を示します。

- 処理オプション「入力タイプ」(「デフォルト」タブ)は15に設定されています。
- 処理オプション「入金消込」は1(すべての請求書を消し込む)に設定されています。
- 最高小額消去額の処理オプションは、自動と手動で、25に設定されています。
- 入金額は80です。
- 請求書金額は100です。

入力タイプに「15」(手動小額消去)が表示され、100が請求書に対して消し込まれ、小額消去は無視されます。入金額を超える金額が消し込まれたため、エラーとなります。システムが小額消去を処理できるようにするには、取引入金額を80に変更する必要があります。

2. 仕訳の形式

転記プログラムで入金バッチに対して1件の集計仕訳を作成するか、入金ごとに仕訳を作成するかを指定します。この処理オプションで設定した値は、F03B13テーブルの売掛金転記フィールド(ISTR)に割り当てられます。転記プログラムでは、この値を使って仕訳レコードが作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: 集計仕訳を作成する。転記する入金バッチごとに、伝票タイプRKの仕訳が1件作成されます。仕訳の伝票番号には入金のバッチ番号が割り当てられます。この方法を使用するには、次の事項を確認する必要があります。

- 売掛管理固定情報の売掛金集計方式が「B」(バッチごと)に設定されている。
- バッチに外貨建て取引が含まれていない。

条件を満たしていない場合、仕訳は明細形式で作成されます。

1: 明細仕訳を作成する。バッチに含まれる入金ごとに、伝票タイプRCの仕訳が1件作成されます。入金仕訳の伝票番号は、仕訳入力(システム09)の自動採番によって自動的に割り当てられます。

監査証跡を記録するために、F03B14テーブルの次のフィールドは仕訳の情報で更新されます。

- 仕訳伝票タイプ (RZDCTG)
- 仕訳伝票番号 (RZDOCG)
- 仕訳伝票会社 (RZKCOG)

注意: この処理オプションの設定に関係なく、売掛管理固定情報の売掛金集計方式が「B」に、一般会計固定情報の会社間決済方式が「3」に設定されている場合、入金 は 転記されません。

3. 請求書の表示

支払状況が承認済の請求書のみを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: すべての請求書を表示する。

1: 承認済請求書のみを表示する。

4. マイナス金額の入金

入金入力プログラム (P03B102) でマイナス入金を許可するかどうかを指定します。マイナス入金は、完全に消し込まれた入金があるマイナスの支払金額や、マイナスの総勘定元帳仕訳がある完全に消し込まれた入金のいずれかになります。値は次のとおりです。

blank: マイナス金額の入金を許可しない。

1: マイナス金額の入金を許可する。

5. 相殺プログラム・バージョン

使用する各相殺プログラムのバージョンを入力します。この処理オプションを blank にすると、バージョン ZJDE0002 が使用されます。

通貨

この処理オプションでは、為替レートの有効性を検証するかどうか、入金を代替通貨で入力できるようにするかどうかを指定します。

1. 有効日付検証

為替レートを取り込むのに使用する有効日付が、入金入力で入力された元帳日付と同じ期間かチェックするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 有効日付を検証しない。

1: 有効日付を検証する。為替レート・テーブル (F0015) から取り込まれた為替レートの有効日付が請求書の元帳日付と同じ期間ではない場合、警告メッセージが表示されます。

2. 代替通貨による入金

代替通貨 (基本通貨または請求書の取引通貨以外の通貨) による請求書の支払を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 代替通貨による支払を許可しない。

1: 代替通貨による支払を許可する。

再請求

この処理オプションでは、システムによって作成された再請求レコードに割り当てる値を指定します。

1. 支払状況

再請求に割り当てるデフォルトの支払状況を指定します。この処理オプションを blank にすると、データ辞書項目 PSTI に設定されている値が使用されます。有効な値は、UDC 00/PS (支払状況) に定義されています。

2. 日付オプション 再請求に割り当てる請求書日付と支払期日を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 入金日付を使用する。
1: 対応する請求書の日付を使用する。
3. 理由コード 再請求金額を入力する際に割り当てるデフォルトの理由コードを指定します。この処理オプションをブランクにした場合は、再請求理由コードを手動で入力する必要があります。有効な再請求理由コードはUDC 03B/CBに定義されています。

自動小額消去

この処理オプションでは、自動小額消去機能を有効にし、入金不足と過入金の限度額を指定します。自動小額消去機能を有効にする場合、小額消去理由コードを指定する必要があります。

1. 入金不足額の上限 入金不足分を小額消去として処理できる限度額を指定します。支払金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、その差額は入金入力時に自動的に消し込まれます。
2. 入金不足理由コード 自動小額消去処理を有効にし、入金不足分の自動消込で使用するデフォルトの理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。指定する小額消去理由コードに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。
3. 過入金額の上限 過入金分を小額消去として処理できる最高金額を指定します。支払金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、その差額は入金入力時に自動的に消し込まれます。
マイナスの金額を入力してください。
4. 過入金理由コード 自動小額消去処理を有効にし、過入金分の自動消込で使用するデフォルトの理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。指定する小額消去理由コードに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

小額消去

この処理オプションでは、入金不足と過入金の小額消去限度額を指定し、理由コードのデフォルト値を設定します。

1. 入金不足額の上限 入金不足分を小額消去として処理できる最高金額を指定します。支払金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、入金入力時に小額消去として処理できます。
2. 過入金額の上限 過入金分を小額消去として処理できる最高金額を指定します。支払金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、入金入力時に小額消去として処理できます。
マイナスの金額を入力してください。
3. 小額消去理由コード 小額消去金額を入力する際に割り当てるデフォルトの理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。指定する小額消去理由コードに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

割引

この処理オプションでは、割引を処理するための規則を設定します。

- | | |
|--------------------------|--|
| 1. 割引可能額を超える割引実施額 | <p>割引可能額を超える割引を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 割引可能額を超える割引を許可しない。</p> <p>1: 割引可能額を超える割引を許可する。</p> |
| 2. 入金額を超える割引 | <p>入金額を超える割引を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 入金額を超える割引を許可しない。</p> <p>1: 入金額を超える割引を許可する。</p> |
| 3. 猶予期間日数 | <p>割引期日を延長する日数を指定します。この処理オプションは、割引実施額を自動的に計算する場合にのみ使用されます。</p> |
| 4. 割引理由コード | <p>割引を実施する際に使用するデフォルトの割引理由コードを指定します。このコードは、必要に応じて入金入力時に上書きできます。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxxx(yyyは理由コード)も設定する必要があります。</p> |

照合優先順位

この処理オプションでは、送金による入金を入力する際に請求書を検索する順序を指定します。

- | | |
|---|--|
| 請求書番号、受注オーダー照合、顧客参照照合、計算書照合、出荷番号照合、入金照合参照番号1 | <p>「取立の入力」フォームで請求書を選択する際のフィールドの検索順序を指定します。有効な値は、「1」、「2」、「3」、「4」、「5」および「6」です。検索方法処理オプションをブランクにした場合、その検索方法は使用されず、指定した他の検索方法のみを使用して検索されます。5つのフィールドをすべてブランクにすると、左に記載されている順序ですべてのフィールドを使って検索されます。</p> |
|---|--|

未充当入金の入力

「入金の入力」フォームにアクセスします。

入金入力 - 入金の入力 i ?

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

| | | | | | |
|-------|----------|--------------------------|--------------|------|---------------------------------|
| 会社 | 00070 | 銀行勘定科目 | 70.1110.BEAR | 元帳日付 | 2005/06/30 |
| 支払人 | 3333 | Continental Incorporated | | 入金日付 | 2005/06/18 |
| 顧客 | 3333 | Continental Incorporated | | バッチ | 7910 |
| 入金No. | 161599 | 前 | | | |
| 入金額 | 3,250.00 | 備考 | | | |
| 通貨 | EUR | 為替レート | | 基本 | EUR <input type="checkbox"/> 外貨 |

レコードが取込まれていません。 グリッドのカスタマイズ

| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> 入力 タイプ | 入金額 | 割引 実施額 | 割引 理由 | 小額 消去額 | 小額消去 理由 | 再請求 金額 | 再請求 理由 | 損金額 |
|---|---|-----|-----------|----------|-----------|------------|-----------|-----------|-----|
| <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> | | | | | | | | | |

☐ 総勘定元帳入金

充当済み金額
 保留金額
 未充当金額

「入金の入力」フォーム

未充当入金を入力するには、次の手順に従います。

1. 「入金の入力」フォームで、フィールドに値を入力します。
2. UC以外の相手勘定を割り当てる場合は、「フォーム」メニューから「追加情報」を選択して、「未充当元相手勘定」フィールドに値を入力してください。
顧客レコードのデフォルトの相手勘定を使用するように、処理オプションを設定することもできます。
3. 「追加情報」でその他の該当するフィールドに値を入力して、「OK」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。
5. 「入金の入力」で、「OK」をクリックして未充当入金レコードを作成します。または、入金を請求書に対して消し込むか送金情報を入力します。

未決済請求書の検索

この項では、未決済請求書の表示方法の概要と、次の方法について説明します。

- 顧客のすべての未決済請求書のロード
- 顧客の特定の未決済請求書の選択
- 未決済請求書の送金別選択

未決済請求書の表示方法について

入金または手形の対象となる請求書を特定するには、支払入力フォームでその請求書を表示する必要があります。どの方法で未決済請求書を検索する場合も、各フォームで検索条件を指定して検索すると、入金または手形入力フォームに指定した条件を満たす請求書が表示されます。

支払対象の未決済請求書を表示するには、次の方法があります。

| 方法 | 説明 |
|---------|---|
| 請求書のロード | <p>次の追加の検索条件を満たす特定の支払人について、未決済請求書をすべて表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 会社: 1つの会社またはすべての会社(「*」を入力)を指定できます。• 通貨コード: 1つの通貨コードまたはすべての通貨コード(*を入力)を指定できます。 <p>支払期日順に請求書が表示されます。</p> |

| 方法 | 説明 |
|-----------|---|
| 請求書の選択 | <p>次の検索条件を満たす未決済請求書をすべて表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 支払人または顧客 • 会社: 1つの会社またはすべての会社(「*」を入力)を指定できます。 • 通貨コード: 1つの通貨コードまたはすべての通貨コード(*を入力)を指定できます。 <p>さらに、QBEローを使って伝票タイプや計算書番号などのその他の検索条件を指定することもできます。</p> <p>指定した条件を満たす請求書が表示されます。次に、支払対象となる請求書の支払項目をそれぞれ選択します。請求書の選択後は、検索条件を変更して別の請求書を選択できます。入金入力フォームには、選択したすべての請求書が選択した順に表示されます。</p> |
| 送金別請求書の選択 | <p>この方法を使って、銀行からの送金情報を入力します。「請求書参照」フィールドに請求書番号などの請求書に関する情報を入力すると、指定した基準を満たす請求書の数が表示されます。別の検索条件を指定するには、別の明細行を使用します。</p> <p>処理オプションを使用して、請求書参照フィールドに入力した値に基づいて請求書を検索する際に使用されるデフォルトの検索順序を設定できます。未決済請求書は、次の分類ごとに検索できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 請求書番号 (DOC) • 受注オーダー番号 (DOCO) • 顧客参照番号 (VR01) • 計算書番号 (CTL) • 出荷番号 (SHPN) <p>計算書番号以外は、請求書参照を使ってF03B11テーブルから請求書が検索されます。また、売掛金通知実績明細テーブル (F03B21) の計算書番号を使って請求書が検索されます。</p> |

未決済請求書のどの表示方法を使用した場合も、次の請求書タイプは取り込まれません。

- RU (未充当入金)
- R1 (手形)
- R5 (損金)
- NP (部分NSF)

関連項目:

第 9 章、「入金処理」、「未充当入金と請求書の消込」、208ページ

第 12 章、「受取手形の処理」、「手形の受取」、269ページ

第 15 章、「損金処理」、「損金の調査および解決」、361ページ

事前設定

送金別に請求書を選択する場合は、不動産管理の入金入力プログラム(P15103)の「照合優先順位」タブで、処理オプションが正しく設定されていることを確認してください。

未決済請求書の検索に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|---------|----------|---|---|
| 入金の入力 | W03B102E | 「入金処理」(G03B12)、 「入金入力」 「入金照会」フォームで、 「追加」をクリックします。 | 未充当入金を入力します。 |
| 手形入力 | W03B602B | 「手形日次処理」メニュー (G03B161)から「手形入力 (自社)」または「手形入力 (顧客)」を選択します。 「手形の処理」フォームで、 「追加」をクリックします。 | 未充当手形を入力します。 |
| 請求書のロード | W03B102J | 「入金の入力」または「手形 入力」で、「フォーム」メ ニューから「ロード」を選択 します。 | 顧客のすべての未決済請 求書をロードし、入金との 消込を行います。 |
| 請求書の選択 | W03B602E | 「入金の入力」または「手形 入力」で、「フォーム」メ ニューから「選択」を選択 します。 | 顧客の特定の未決済請 求書を選択し、入金との消込 を行います。 |
| 取立の入力 | W03B602K | 「入金の入力」または「手形 入力」で、「フォーム」メ ニューから「取立の入力」 を選択します。 | 送金別に未決済請求書を選 択し、入金との消込 を行います。 |

顧客のすべての未決済請求書のロード

未決済請求書を選択する手順は、入金入力プログラムと手形入力プログラムのどちらを使っても同じです。ここでは「入金の入力」フォームのみを使って手順を説明します。

「入金の入力」フォームまたは「手形入力」フォームにアクセスします。

次の例は、「請求書のロード」フォームを示しています。

| 会社 | 00070 | Luxe de France |
|-----|-------|--------------------------|
| 支払人 | 3333 | Continental Incorporated |
| 通貨 | EUR | Euro |
| 基本 | EUR | Euro |

「請求書のロード」フォーム

顧客のすべての未決済請求書をロードするには、次の手順に従います。

1. 未充当入金または未充当手形を入力するステップを実行します。
2. 「入金の入力」(または「手形入力」)で、「フォーム」メニューから「ロード」を選択します。
3. 「請求書のロード」で、必要に応じて「会社」フィールドまたは「支払人」フィールドに値を入力して、「OK」をクリックします。

指定した会社の請求書のみがロードされます。すべての会社の請求書をロードするには、「*」を入力します。

注意: 「入金の入力」または「手形入力」フォームの詳細グリッドには、支払期日順にすべての未決済請求書が表示されます。必要に応じて、別の顧客の請求書を続けてロードできます。

処理オプションでデフォルトの入力タイプを使用するように設定すると、請求書のロード時に入力タイプ・フィールドには処理オプションで指定した値が表示されます。

RU(未充当入金)、R5(損金)、R1(手形)の請求書レコードはロードされません。

顧客の特定の未決済請求書の選択

未決済請求書を選択する手順は、入金入力プログラムと手形入力プログラムのどちらを使っても同じです。ここでは「入金の入力」フォームのみを使って手順を説明します。

「入金の入力」フォームまたは「手形入力」フォームにアクセスします。

次の例は、「請求書の選択」フォームを示しています。

入金入力 - 請求書の選択

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

1001

タイプ

会社 00001

通貨コード USD

未充当金額

レコード 1 - 10

| 伝票番号 | 伝票タイプ | 伝票会社 | 支払項目 | 取引通貨 | 取引未決済金額 | 取引割引可能額 | 取引総額 | 基本通貨 | 未決済金額 | 割引可能額 | 総 |
|--------|-------|-------|------|------|----------|---------|----------|------|----------|-------|---|
| 3050 | RI | 00150 | 001 | USD | 1,035.00 | 20.00 | 2,000.00 | USD | 1,035.00 | 20.00 | |
| 1122 | RI | 00001 | 001 | USD | 2,760.00 | 35.00 | 3,500.00 | USD | 2,760.00 | 35.00 | |
| 112201 | RI | 00001 | 001 | USD | 2,775.00 | 35.00 | 3,500.00 | USD | 2,775.00 | 35.00 | |
| 112202 | RI | 00001 | 001 | USD | 3,500.00 | 35.00 | 3,500.00 | USD | 3,500.00 | 35.00 | |
| 112203 | RI | 00001 | 001 | USD | 3,500.00 | 35.00 | 3,500.00 | USD | 3,500.00 | 35.00 | |
| 112204 | RI | 00001 | 001 | USD | 3,070.00 | 35.00 | 3,500.00 | USD | 3,070.00 | 35.00 | |
| 112205 | RI | 00001 | 001 | USD | 3,225.00 | 35.00 | 3,500.00 | USD | 3,225.00 | 35.00 | |
| 112206 | RI | 00001 | 001 | USD | 3,500.00 | 35.00 | 3,500.00 | USD | 3,500.00 | 35.00 | |
| 112207 | RI | 00001 | 001 | USD | 3,190.00 | 35.00 | 3,500.00 | USD | 3,190.00 | 35.00 | |
| 112208 | RI | 00001 | 001 | USD | 3,085.00 | 35.00 | 3,500.00 | USD | 3,085.00 | 35.00 | |

選択件数 2 合計額 3,795.00

「請求書の選択」フォーム

顧客の特定の未決済請求書を選択するには、次の手順に従います。

1. 未充当入金または未充当手形を入力するステップを実行します。
2. 「入金の入力」(または「手形入力」)で、「フォーム」メニューから「選択」を選択します。
3. 「請求書の選択」で、必要に応じて、見出し領域またはQBEのフィールドに値を入力し、「検索」をクリックすると、検索条件に合う未決済請求書がロードされます。

注意: RU(未充当入金)、R5(損金)、R1(手形)の請求書レコードは表示されません。このため、これらのレコードは選択できません。

4. 請求書(複数可)を選んで「選択」をクリックします。

選択した請求書にはチェックマークが表示されます。または、「ロー」メニューから「選択/選択解除」を選択するか、「伝票番号」フィールドをダブルクリックしても請求書の選択または選択解除ができます。

複数の顧客の請求書を選択できます。選択した請求書の件数とその合計額が自動的に表示されます。

5. 「閉じる」をクリックすると、「入金の入力」フォームの詳細グリッドに選択した請求書がロードされます。

注意: 請求書は、選択した順序で表示されます。

処理オプションでデフォルトの入力タイプを使用するよう設定すると、請求書のロード時に「入力タイプ」フィールドは処理オプションで指定した値で更新されます。

未決済請求書の送金別選択

送金情報を入力する手順は、入金入力プログラム(P03B102)と手形入力プログラムのどちらを使っても同じです。ここでは「入金の入力」フォームのみを使って手順を説明します。

「入金の入力」フォームまたは「手形入力」フォームにアクセスします。

送金別に未決済請求書を選択するには、次の手順に従います。

1. 未充当入金または未充当手形を入力するステップを実行します。
2. 「入金の入力」(または「手形入力」)で、「フォーム」メニューから「取立の入力」を選択します。
3. 「送金別請求書の選択」で、請求書の検索条件を絞り込むために任意のフィールドに値を入力し、「検索」をクリックします。

「*」を使用すると、すべての値を指定できます。

注意: フィールドに入力した情報が請求書に含まれていない場合、請求書は検索されません。

4. 詳細グリッドで、「請求書参照」フィールドに顧客の送金情報を入力します。
請求書番号、計算書番号、受注オーダー番号、顧客参照番号、出荷番号のいずれかを入力してください。「処理タイプ」フィールドに入力しないかぎり、処理オプションの「照合優先順位」タブで指定した順序でF03B11テーブルから請求書が検索されます。

注意: 計算書番号は売掛金通知実績明細テーブル(F03B21)から検索されるため、計算番号別に請求書を検索できるように計算書データの再作成プログラム(R03B500X)を使って計算書を作成する必要があります。

5. (省略可)「入力タイプ」フィールドまたは「処理タイプ」フィールドのいずれかに値を入力します。
6. 次の明細行をクリックして、自動入力される次のフィールド値を確認します。
 - 件数
 - 未決済金額
 - 割引可能額
 - 割引予定額
 - 処理タイプ
7. 現時点の送金合計を見るには、「支払金額」と「割引実施額」フィールドに入力してください。フォームの下の合計金額が更新されます。

注意: 入力した送金額は、「入金の入力」フォームまたは「手形入力」フォームで入金額および割引額としては使用されません。

入力タイプ・コードが指定されている場合(処理オプションでデフォルトが設定されている場合、またはこのフォームで上書きされている場合)のみ、入金額が自動的に計算されます。そうでない場合は、「入金の入力」フォームまたは「手形入力」フォームで入金額を指定する必要があります。

8. 「OK」をクリックします。

請求書は、送金フォームで入力した順序で入力フォームに表示されます。

処理タイプ

請求書を検索するのに使用する照合プロセスを示す番号を入力します。このフィールドをブランクにすると、入金入力プログラム

(P03B102)の処理オプションで指定した照合プロセスが使用されます。値は次のとおりです。

- 1: 請求書番号による照合
- 2: 受注オーダー番号による照合
- 3: 顧客参照番号による照合
- 4: 計算書番号による照合
- 5: 出荷番号による照合

処理時間を短縮するには、検索条件を指定して、入力した情報を基に請求書が検索されるようにします。たとえば、「請求書参照」フィールドに請求書番号を入力した場合は、「処理タイプ」フィールドに「1」を入力すると、請求書番号のみを基に請求書が検索され、処理オプションの「照合優先順位」処理オプションの指定は無視されます。

入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込

この項では、請求書に対して消し込む未充当入金およびクレジット・メモの概要と次の方法について説明します。

- 入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込
- 未充当入金と請求書の消込
- クレジット・メモと請求書の消込

請求書に対して消し込む未充当入金について

未充当の入金または手形を入力した後、使用可能なあらゆる入力タイプ・コードを使って適切な請求書（複数可）に対して消し込むことができます。未充当の支払と請求書を照合するには、まず未充当の支払を選択してから、未決済請求書レコードを表示します。「フォーム」メニューの「ロード」や「選択」を使って未充当入金と未決済請求書を同時に表示することはできません。

請求書に対して未充当入金を完全に消し込むと、支払が消し込まれた各請求書に対して次の処理が実行されます。

- 入金消込時に未充当入金が転記される場合、バッチ制御レコード・テーブル(F0011)にバッチ・タイプRB(入金の場合)またはDB(手形の場合)のバッチ・レコードが新規に作成されます。
- F03B11テーブルのRU請求書伝票の支払状況がPに更新され支払済になります。
- 請求書の全額が入金された場合、F03B11テーブルのRI請求書伝票は、支払状況がPに更新され、支払済になります。
- F03B14テーブルにRC請求書伝票が作成されます。

未充当入金を転記する前に全額を請求書と消し込むと、F03B11およびF03B14テーブルから未充当入金レコード(伝票タイプRU)が削除されます。

請求書との消込を行う前に未充当入金を転記したかどうかにかかわらず、入金を請求書と消し込んだ後には入金を転記して、総勘定元帳の適切な勘定科目を更新する必要があります。

請求書に対して消し込むクレジット・メモについて

顧客に対して未払のクレジット・メモがある場合、入金入力プログラム(P03B102)または手形入力プログラム(P03B602)を使って未決済請求書との消込を行うことができます。実際に支払は発生しないため、「入金額」または「手形金額」フィールドには「0」と入力します。ロード、選択、または送金機能を使ってクレジット・メモと請求書を表示し、該当する入力タイプ・コードを使ってクレジット・メモを請求書に対して消し込みます。クレジット・メモで請求書の全額を支払えない場合、請求書との差額を未決済のままとするか、または差額に対する小額消去、再請求、損金レコードを作成できます。

請求書に対してクレジット・メモを完全に消し込むと、次の処理が行われます。

- F03B11テーブルのRMクレジット・メモ伝票は、支払状況がPに更新され、支払済になります。
- 請求書の全額が入金された場合、F03B11テーブルのRI請求書伝票は、支払状況がPに更新され、支払済になります。
- F03B13テーブルに金額ゼロのレコードが作成されます。
- F03B14テーブルにクレジット・メモと請求書の両方のRS入金伝票が作成されます。

クレジット・メモを請求書に対して消し込んだら、そのバッチを転記して総勘定元帳を更新する必要があります。

関連項目:

第 9 章、「入金処理」、「入金の転記について」、225ページ

第 12 章、「受取手形の処理」、「手形の承認と転記について」、293ページ

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 次のAAI項目に、該当する割引勘定が指定されていることを確認してください。
 - RKD (割引実施額)
 - RCxxxx (xxxxは再請求売掛金勘定の再請求相手勘定)
 - RAxx (xxは小額消去理由コード)
 - RN (損金仮勘定)
- 理由コードを指定するために次のUDCテーブルが設定されていることを確認してください。
 - 割引理由コード (00/DE)
 - 再請求理由コード (03B/CB)
 - 小額消去理由コード (03B/RC)
 - 損金理由コード (03B/CR)
- 割引、再請求、小額消去、および損金の処理オプション、または使用する入力タイプ・コードの処理オプションが正しく設定されていることを確認します。

入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-------|----------|---|--|
| 入金の入力 | W03B102E | 「入金処理」(G03B12)、 「入金入力」 「入金照会」フォームで、 「追加」をクリックします。 | 入力タイプ・コードを使った 入金と請求書の消込、未 充当入金と請求書の消 込、またはクレジット・メモと 請求書の消込を行います。 |
| 手形入力 | W03B602B | 「手形日次処理」メニュー (G03B161)から「手形入力 (自社)」または「手形入力 (顧客)」を選択します。 「手形の処理」フォームで、 「追加」をクリックします。 | 入力タイプ・コードを使った 手形と請求書の消込、また はクレジット・メモと請求書 の消込を行います。 |

入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込

「入金の入力」フォームまたは「手形入力」フォームにアクセスします。

入金または手形と請求書を消し込むには、次の手順に従います。

1. 「入金の入力」または「手形入力」で、未充当の入金または手形を入力するステップを実行します。
2. 顧客の未決済請求書を表示するステップを実行します。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「顧客のすべての未決済請求書のロード」、201 ページ

3. 詳細グリッドで、「入力タイプ」フィールドに、使用するプログラムに該当する入力タイプ・コードを入力します。
4. 必要に応じて、「入金額」、「備考」、「割引実施額」、「小額消去額」、「再請求金額」、および「損金額」のフィールドの値を上書きします。
5. 入力した入力タイプ・コードに応じて、理由コードを入力する必要があります。

入力タイプ・コードが11または16の場合、CB CD (再請求理由コード) フィールドに入力します。

入力タイプ・コードが15の場合、WO CD (小額消去理由コード) フィールドに入力します。

入力タイプ・コードが17の場合、DD CD (損金理由コード) フィールドに入力します。

注意: ブランクは、ユーザー定義コードで設定されていても、有効な値としては認識されません。処理オプションの設定によっては、理由コードが自動的に入力されます。

6. (省略可) 入力タイプ・コードが11または16の場合、「再請求相手勘定」フィールドに入力して、再請求を別の売掛金勘定に計上できます。
7. フォームの最下部にある「充当済み金額」および「未充当金額」フィールドに正しい情報が表示されていることを確認します。

請求書に対して入金を完全に消し込んだ場合は、入力フォームの見出しに表示される入金額と保留金額が等しくなります。

8. 「OK」をクリックします。

関連項目:

第 9 章、「入金処理」、「入金の転記について」、225 ページ

第 12 章、「受取手形の処理」、「手形の承認と転記について」、293 ページ

未充当入金と請求書の消込

「入金照会」フォームで未充当入金を選択して、「入金の入力」フォームにアクセスします。

未充当入金と請求書を消し込むには、次の手順に従います。

1. 「入金の入力」で、顧客の未決済請求書を表示するステップを実行します。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「顧客のすべての未決済請求書のロード」、201 ページ

2. 見出し領域で、「元帳日付」フィールドに値を入力します。

注意: 割り当てる元帳日付によって、F03B13 テーブルの未充当入金レコードの元帳日付が更新されることはありません。F03B14 テーブルに作成されるレコードの元帳日付が請求書の支払に使用されます。

3. 詳細グリッドで、「入力タイプ」フィールドに該当するコードを入力します。
4. 必要に応じて、「入金額」、「割引実施額」、「備考」、「小額消去額」、「再請求金額」、および「損金額」のフィールドの値を上書きします。
5. フォームの最下部にある「充当済み金額」および「未充当金額」フィールドに正しい情報が表示されていることを確認します。

請求書に対して入金を完全に消し込んだ場合、保留金額は入金見出しに表示されている入金額と等しくなります。
6. 「OK」をクリックします。

クレジット・メモと請求書の消込

クレジット・メモと請求書を消し込む手順は、入金入力プログラムと手形入力プログラムのどちらを使っても同じです。

「入金の入力」フォームまたは「手形入力」フォームにアクセスします。

クレジット・メモと請求書を消し込むには、次の手順に従います。

1. 未充当入金または未充当手形を入力するステップを実行します。ただし、「入金額」または「手形金額」フィールドはブランクのままにします。
2. 「入金の入力」または「手形入力」で、顧客の未決済請求書を表示するステップを実行します。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「未決済請求書の検索」、198 ページ
3. 請求書に対してクレジット・メモを完全に消し込むには、クレジット・メモの横の「入力タイプ」フィールドに「10」を入力します。
4. 該当するコードを使って、請求書の横にある「入力タイプ」フィールドに値を入力します。

クレジット・メモで請求書の全額を支払えない場合、請求書の差額を未決済のままとするか、または入力タイプ・コードを使って小額消去、再請求、損金レコードを作成できます。
5. 「OK」をクリックします。

総勘定元帳入金の処理

この項では、総勘定元帳入金の概要と次の方法について説明します。

- 総勘定元帳入金の入力
- 総勘定元帳入金による未充当入金を作成

関連項目:

第 9 章、「入金処理」、「総勘定元帳入金(入力タイプ(TI)コード4)の入力」、222ページ

総勘定元帳入金について

保険会社からの返金やその他払戻しなど、販売先の顧客とは関連しない入金があった場合、入金入力プログラム(P03B102)またはスピード入金入力プログラム(P03B0001)で総勘定元帳入金オプションを使って入力できます。総勘定元帳入金を入力すると、該当する貸方科目に仕訳が作成され、入金額が銀行預金残高に反映されます。

総勘定元帳入金を入力したら、その入金を転記して銀行勘定と元帳勘定を更新する必要があります。

総勘定元帳入金の入力に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-----------|-----------|---|---------------------------------------|
| 入金照会 | W03B102A | 「入金処理」(G03B12)、 「入金入力」 | 既存の入金を検索し、 選択します。 |
| 入金を入力 | W03B102E | 「入金照会」フォームで、 「追加」をクリックします。 | 標準の未充当入金を入力 します。 |
| 総勘定元帳入金入力 | W03B0001C | 「入金を入力」フォームで、 「フォーム」メニューから「総 勘定元帳」を選択します。 | 顧客の売掛金勘定とは関 連しない総勘定元帳入金 を入力します。 |

総勘定元帳入金の入力

「入金を入力」フォームにアクセスします。

総勘定元帳入金を入力するには、次の手順に従います。

1. 「入金を入力」で、未充当入金を入力するステップを実行します。

注意: 総勘定元帳入金を入力したら、「顧客」または「支払人」フィールドに値を入力する必要はありません。

2. 「フォーム」メニューから「総勘定元帳」を選択します。
3. 「総勘定元帳入金入力」で、各勘定科目について「勘定科目No.」および「入金額」フィールドに値を入力します。
複数のグリッド行を使って、必要な数の勘定科目に入金を計上できます。各勘定科目の合計金額は、入金額と等しくする必要があります。
4. 「OK」をクリックして「入金を入力」フォームに戻ります。

5. フォームの最下部にある「充当済み金額」および「未充当金額」フィールドに正しい情報が表示されていることを確認します。

請求書に対して入金を完全に消し込んだ場合、入金見出しの入金額と保留金額は等しくなります。「未充当金額」フィールドの金額の未充当入金レコードが作成されます。

注意:「未充当金額」フィールドに金額がある場合は、「OK」をクリックする前に、フォームの「支払人」および「顧客」フィールドに値を入力する必要があります。この値を入力しないと、エラーが表示されます。

6. 「入金の入力」で、「OK」をクリックします。

総勘定元帳入金による未充当入金の作成

「入金照会」フォームにアクセスします。

総勘定元帳入金から未充当入金を作成するには、次の手順に従います。

「入金照会」フォームで総勘定元帳入金を検索して選択します。

1. 「入金の入力」で、「フォーム」メニューから「総勘定元帳」を選択します。
2. 「総勘定元帳入金入力」で、入金の勘定科目情報が表示されているグリッド行を削除します。
入金が転記済の場合は、「無効日付」と「無効理由」フィールドに値を入力するようプロンプトが表示されます。
3. 「OK」をクリックして「入金の入力」フォームに戻ります。
4. 顧客番号と支払人番号を入力し、「OK」をクリックします。
勘定科目情報がない入金は未充当入金となるため、顧客番号または支払人番号を指定する必要があります。

単独レコード入力

この項では、単独レコードの概要と次の方法について説明します。

- 請求書照合を伴う単独取引の入力
- 請求書照合を伴わない単独取引の入力

関連項目:

第 9 章、「入金処理」、「入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込」、205ページ

第 15 章、「損金処理」、355ページ

単独レコードについて

単独レコードは、既知の請求書に関連付けられていない小額消去、再請求、または損金です。顧客から複数の請求書に対してまとめて入金された金額が請求書合計と合わない場合には、単独レコードを作成します。また、未充当入金を複数の請求書と消し込んだ際に合計が合わない場合にも、この単独レコード作成の機能を使うことができます。これらの場合には、支払と請求書の照合が自動的に行われますが、不足分は特定の請求書を指定しないで記録されます。

単独レコード作成機能は、請求書照合を行わない場合にも使用できます。たとえば、損金を作成したり、少額の重複支払の小額消去を行うことができます。さらに、未充当入金を複数の顧客に配賦するために、請求書照合を行わずに単独の再請求レコードを作成することが可能です。請求書照合を行わずに単独レコードを作成する場合は、金額をマイナスで入力する必要があります。プラスの金額を入力すると、指定した金額の2倍の額の未充当入金を作成されます。

可能なかぎり請求書照合と組み合わせて単独レコードを作成することをお薦めします。

入金または手形の入力プログラムで単独取引を作成するには、次の入力タイプ・コードを使用します。

| 入力タイプ・コード | 用途 |
|------------|--|
| 25(単独小額消去) | 送料にかかる消費税分など、特定の請求書と関連しない入金不足分を小額消去処理する場合に使用します。 |
| 26(単独再請求) | 特定の請求書と関連しない未払分を再請求する場合に使用します。 |
| 27(単独損金) | 特定の請求書と関連しない金額を損金として処理する場合に使用します。 |

単独小額消去(入力タイプ・コード25)

単独小額消去は、特定の請求書に関連付けられない金額の小額消去です。たとえば、顧客から複数の請求書に対する支払または手形を受け取った際、どの請求書に対する支払が足りなかったかが顧客によって示されていない場合に、この金額を単独で小額消去として処理できます。また、どの請求書とも関連しない小額消去を処理するために単独レコード作成機能を使うこともできます。たとえば、少額の重複支払を受け取りその金額を消し込む場合に単独小額消去を使用します。

単独小額消去(入力タイプ・コード25)を作成すると、小額消去の金額が顧客の未決済残高から差し引かれます。

単独再請求(入力タイプ・コード26)

問題のある金額に特定の請求書が関連付けられていない場合、その金額の再請求を単独で作成できます。この方法を使うと、問題のある金額について顧客に再請求できます。通常、支払額が請求書の合計額に満たない場合に、不足分を再請求するときにこの方法を使います。このような場合は、請求書照合を行って単独再請求を入力します。顧客の未決済残高が不足額分だけ増額されます。

未充当の入金や手形を複数の顧客に配賦する場合は、請求書照合を行わずに単独再請求を入力します。このとき、指定した支払人に対してF03B13テーブルにレコードが作成されると同時に、F03B14とF03B11テーブルに各顧客に対する再請求金額(マイナス)の関連レコードが作成されます。この処理は、各顧客に対して未充当入金を作成する処理と類似しています。

例: 単独再請求を使った複数の顧客への未決済入金の配賦

請求書との消込を行わずに1件の支払を複数の顧客に配賦する場合は、単独再請求機能を使用します。

たとえば、支払人3001から15,000の入金を受け取り、その入金を次のように配賦するとします。

- 顧客3004に5,000
- 顧客3333に5,000
- 顧客3334に5,000

単独再請求機能を使って、振り分ける顧客と金額を指定します。支払金額はマイナスで入力してください。全額を顧客に振り分けるまで処理を繰り返します。

次のレコードが作成されます。

| テーブル | 伝票タイプ | 総額 | 顧客番号 | 支払ID |
|--------|---------------------------------|--------|------|------|
| F03B13 | なし | 15,000 | 3001 | 521 |
| F03B11 | RB | -5,000 | 3004 | 521 |
| F03B11 | RB | -5,000 | 3333 | 521 |
| F03B11 | RB | -5,000 | 3334 | 521 |
| F03B14 | RC 注意: これは照合伝票タイプ (DCTM) です。 | -5,000 | 3004 | 521 |
| F03B14 | RC 注意: これは照合伝票タイプ (DCTM) です。 | -5,000 | 3333 | 521 |
| F03B14 | RC 注意: これは照合伝票タイプ (DCTM) です。 | -5,000 | 3334 | 521 |

支払IDを使って、F03B11とF03B14のレコードから元のF03B13の支払レコードに監査証跡が記録されます。

後で、マイナスの再請求レコードを対象の請求書に消し込む必要があります。

単独損金 (入力タイプ・コード27)

支払金額が支払対象の請求書の金額と一致しない場合、単独損金を作成して、支払不足分の原因調査と解決を後で行うようにすることができます。また、どの請求書にも関連付けられていない損金に対して、単独損金機能を使用することもできます。たとえば、少額の重複する支払があり、どのように処理するか不明な場合にこの機能を使用できます。

単独損金 (入力タイプ・コード27) を入力すると、入金不足の金額が顧客の未決済残高から差し引かれます。

損金を転記すると、問題解決に使用するレコードが損金管理テーブル (F03B40) に作成されます。

事前設定

単独小額消去を作成するには、事前に次の作業を実行しておく必要があります。

- 処理オプションで、手動小額消去の限度額が単独レコードの入力を受け入れるのに十分な金額に設定されていることを確認します。
- 各小額消去理由コードに使用する勘定科目がAAI項目RAxx (xxは小額消去理由コード) に設定されていることを確認します。
- 処理オプションの「検証」タブで、小額消去を許可する設定になっていることを確認します。

- ・ 小額消去理由コードとして使用する値が、ユーザー定義コード03B/RCに設定されていることを確認します。

単独再請求を作成するには、事前に次の作業を実行しておく必要があります。

- ・ 再請求売掛金勘定に使う勘定科目がAAI項目RCxxxx (xxxxは再請求相手勘定)に設定されていることを確認します。
- ・ 処理オプションの「再請求」タブが設定されていることを確認します。
- ・ 再請求理由コードに使用する値が、ユーザー定義コード03B/CBに設定されていることを確認します。

単独損金を作成するには、事前に次の作業を実行しておく必要があります。

- ・ 損金仮勘定として使用する勘定科目がAAI項目RNに設定されていることを確認します。
- ・ 損金理由コードに使用する値が、ユーザー定義コード03B/CRに設定されていることを確認します。

単独レコードの入力に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|---------|----------|---|---|
| 入金の入力 | W03B102E | 「入金処理」(G03B12)、 「入金入力」 「入金照会」フォームで、 「追加」をクリックします。 | 未充当入金を入力します。 |
| 手形入力 | W03B602B | 「手形日次処理」メニュー (G03B161)から「手形入力 (自社)」または「手形入力 (顧客)」を選択します。 「手形の処理」フォームで、 「追加」をクリックします。 | 未充当手形を入力します。 |
| 単独入金の作成 | W03B602H | 「入金の入力」または「手形 入力」フォームで、「フォー ム」メニューの「単独」から 「小額消去」、「再請求」、ま たは「損金」を選択します。 | 単独取引レコードを入力 します。 このフォームに含まれる フィールドは、「小額消 去」、「再請求」、または「損 金」のいずれを選択したか によって異なります。 |

請求書照合を伴う単独取引の入力

請求書照合を伴う単独小額消去を入力する手順は、入金入力プログラム(P03B102)と手形入力プログラムのどちらを使っても同じです。ここでは「入金の入力」フォームのみを使って手順を説明します。

「入金の入力」フォームまたは「手形入力」フォームにアクセスします。

請求書照合を伴う単独取引の入力するには、次の手順に従います。

1. 未充当入金または未充当手形を入力するステップを実行します。
2. 「入金の入力」または「手形入力」で、顧客の未決済請求書を表示するステップを実行します。

参照: [第 9 章、「入金処理」、「顧客のすべての未決済請求書のロード」、201ページ](#)

3. 詳細グリッドで、各請求書の「入力タイプ」フィールドに該当する値を入力します。

4. 「フォーム」メニューの「単独」から「小額消去」、「再請求」、または「損金」を選択します。
「単独入金の作成」フォームが表示されます。
5. 単独小額消去の場合、「小額消去額」および「小額消去理由コード」フィールドに値を入力します。
6. 単独再請求の場合、「再請求相手勘定」、「再請求額」、および「再請求理由コード」フィールドに値を入力します。
7. 単独損金の場合、「損金額」および「損金理由コード」フィールドに値を入力します。
8. 「OK」をクリックします。
「入金の入力」(または「手形入力」フォーム)に新しいグリッド行が追加され、「入金額」フィールドには指定した単独取引金額が表示され、「入力タイプ」フィールドには該当する入力タイプが割り当てられます。
9. フォームの最下部にある「保留金額」および「未充当金額」フィールドに正しい情報が表示されていることを確認します。
請求書に対して支払を完全に消し込んだ場合は、入力フォームの見出しに表示される入金額と保留金額が等しくなります。
10. 「OK」をクリックします。

再請求相手勘定

再請求の転記時に使用する売掛金勘定のコードを入力します。再請求を別の売掛金勘定に計上しない場合、このフィールドはブランクのままにすることができます。

請求書照合を伴わない単独取引の入力

請求書照合を伴わない単独取引を入力する手順は、入金入力プログラムと手形入力プログラムのどちらを使っても同じです。ここでは「入金の入力」フォームのみを使って手順を説明します。

「入金の入力」フォームまたは「手形入力」フォームにアクセスします。

請求書照合を伴わない単独取引を作成するには、次の手順に従います。

1. 「入金の入力」または「手形入力」で、未充当の入金または手形を入力するステップを実行します。
2. 「フォーム」メニューの「単独」から「小額消去」、「再請求」、または「損金」を選択します。
3. 「単独入金の作成」で、「顧客」および「顧客参照」フィールドに値を入力します。
4. 単独小額消去の場合、「小額消去額」および「小額消去理由コード」フィールドに値を入力します。
5. 単独再請求の場合、「再請求相手勘定」、「再請求額」、および「再請求理由コード」フィールドに値を入力します。
6. 単独損金の場合、「損金額」および「損金理由コード」フィールドに値を入力します。
7. 「OK」をクリックします。

「入金の入力」フォームに新しいグリッド行が追加され、「入金額」フィールドには指定した単独取引金額(プラスの金額)が表示され、「入力タイプ」フィールドには該当する入力タイプが割り当てられます。

注意: 未充当入金を複数の顧客に配賦するために単独再請求を作成する場合は、金額を配賦する各顧客に対してステップ2、3、5を繰り返します。

8. フォームの最下部にある「保留金額」および「未充当金額」フィールドに正しい情報が表示されていることを確認します。

請求書に対して支払を完全に消し込んだ場合は、入力フォームの見出しに表示される入金額と保留金額が等しくなります。

9. 「OK」をクリックします。

| | |
|------------------|---|
| 顧客 | 未充当入金を複数の顧客に配賦するために単独再請求を作成する場合は、未充当入金を配賦する顧客番号を入力します。F03B11 テーブルには該当する顧客のマイナスのレコード(RB)が作成され、後で検索して請求書と消し込むことができます。 |
| 小額消去額 | 請求書照合を伴わない単独小額消去の場合、小額消去額にはマイナスの金額を入力する必要があります。プラスの金額を入力すると、指定した金額の2倍の額の未充当レコードが作成されます。 |
| 小額消去理由コード | ブランクは、ユーザー定義コードで設定されていても、有効な値としては認識されません。このフィールドをブランクにしても、処理オプションで指定したデフォルトの小額消去理由コードは使用されません。 |
| 再請求金額 | 最初の顧客に配賦する金額をマイナスで入力します。マイナスの金額を入力しないと、2倍の金額の未充当レコードが作成されます。 |
| 損金額 | 請求書照合を伴わない単独損金の場合、損金額はマイナスで入力する必要があります。 |
| 損金理由コード | ブランクは、ユーザー定義コードで設定されていても、有効な値としては認識されません。このフィールドをブランクにすると、処理オプションで指定したデフォルト損金理由コードは使用されません。 |
| 未充当金額 | このフィールドの金額の未充当レコードが作成されます。 |

スピード入金入力

この項では、スピード入金の概要と次の方法について説明します。

- スピード入金入力(P03B0001)の処理オプションの設定
- 未充当入金(入力タイプ(TI)コード1)の入力
- 繰越残高入金(入力タイプ・コード2)の入力
- 仮入金(入力タイプ・コード3)の入力
- 仮入金の顧客への割当
- 総勘定元帳入金(入力タイプ・コード4)の入力

スピード入金について

単純な入金を数多く入力するには、標準入金入力のかわりにスピード入金入力プログラム(P03B0001)を使うことができます。スピード入金入力プログラムを使用する場合、入金と請求書を照合したり、特定の顧客に対して入金を消し込む必要はありません。入金について最小限の情報を入力することにより、総勘定元帳に入金をすばやく反映させることができます。

スピード入金を入力すると、次のテーブルにレコードが作成されます。

- F03B13

- F03B14

スピード入金入力では、入金を検討したり改訂することはできません。標準の入金入力プログラムを使用してください。

スピード入金入力を使って入金を入力したら、総勘定元帳に転記して適切な銀行勘定と売掛金勘定を更新する必要があります。

入力タイプ(TI)コード1(未充当入金)

特定の1件または複数の請求書に対して入金を照合せずに、顧客の売掛金残高に対して入金を消し込むことができます。このコードを使用すると、すばやく顧客の売掛金残高を更新して総勘定元帳に入金を反映させ、後でその入金と請求書の照合を行うことができます。

入力タイプ(TI)コード2(繰越残高入金)

繰越残高方式を使用すると、請求書との消込を開始する日付を指定できます。入金と請求書は、古い順に消込が行われます。入金と請求の消込は、全入金額が消し込まれるまで行われます。入金額が請求書の全額に満たない場合、その入金は部分入金として処理されます。入金額が請求書の金額より大きい場合は、その差額分の未充当入金が自動的に作成されます。後で同じ顧客に対して新しい請求書を作成するときに、その未充当入金を消し込むことができます。入金額が請求書の全額に満たない場合、その入金は部分入金として処理されます。また、請求書番号を指定して、その請求書のすべての支払項目に対して入金を自動的に消し込むこともできます。

処理オプションを設定して、繰越残高入金を入力する際に割引が適用されるようにすることができます。入金入力時に指定した元帳日付と割引期日を比較して、割引を行うかどうか決定されます。請求書の全額が支払われた場合のみ、割引期日より前の入金に対して割引が行われます。スピード入金入力プログラム(P03B0001)では割引額を変更できません。割引額を変更するには、入金入力プログラム(P03B102)を使用してください。

入力タイプ(TI)コード3(仮入金)

受け取った支払の支払人または顧客が見つからない場合は、仮入金(入力タイプ・コード3)を入力して収益をすばやく認識し、顧客の売掛金勘定と入金の消込は後で行うことができます。仮入金を入力すると、ただちに入金を計上してキャッシュフローを向上し、顧客への売掛金および請求書との消込は後で行うことができます。この方法は、入金を入力して銀行勘定残高を更新する担当者と、入金と顧客または請求書の照合を行う担当者が異なる場合に便利です。

仮入金を入力すると、F03B13とF03B14テーブルの両方にレコードが作成されます。

仮入金を入力したら、転記して銀行勘定科目の残高を更新する必要があります。仮入金を転記すると、AAI項目RCLCで指定した仮勘定に入金の合計金額が計上されます。その入金を顧客への売掛金に対して消し込むと、仮勘定は逆仕訳され、適切な売掛金勘定が更新されます。

注意: 顧客への売掛金に対して消込を行う前に仮入金を転記しないと、F03B14テーブルから仮入金レコードが削除されます。

入力タイプ(TI)コード4(総勘定元帳入金)

顧客への売掛金とは関係ない払戻金など、その他の入金があった場合は、総勘定元帳入金(入力タイプ・コード4)を使ってその入金を入力できます。この方法では、該当する勘定科目を貸方に計上し、入金額を銀行預金残高に反映できます。

総勘定元帳入金を入力する場合、指定した勘定科目(複数可)に記録できます。総勘定元帳入金を入力する場合、入金を選択して複数の勘定科目に振り替えることができます。たとえば、1件の払戻金を異なる収益勘定や現金勘定に計上できます。仕訳の合計金額と入金合計額が等しくなるようにする必要があります。

総勘定元帳入金を入力したら、転記して勘定情報を更新する必要があります。

入金の削除

詳細グリッドの各行は、それぞれ個別の入金を示します。「スピード入金入力」フォームで、「OK」をクリックする前に入金を削除できます。削除する場合は、入金を選択して「削除」をクリックします。この方法を使用すると、各カラムの情報をそれぞれ削除しなくても、ローごと一度に削除できます。

テキストやオブジェクトの添付

入金を入力した後、テキストやOLEオブジェクト、スキャナで読み取った受領書などのイメージを添付できます。たとえば、入金内容の変更や無効についてのメモやメッセージを添付できます。添付物の追加は、入金レベルでのみ行えます。

テキストまたはオブジェクトを添付するには、「スピード入金入力」フォームで入金を選択します。次に、「ロー」メニューから「添付」を選択します。

事前設定

仮入金（入力タイプ・コード3）を入力する前に、仮勘定のAAI項目RCLC（仮入金）を設定してください。

スピード入金入力に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-----------|-----------|---|------------------------|
| スピード入金入力 | W03B0001A | 「入金処理」(G03B12)、「スピード入金入力」 | 多数の単純な入金を入力します。 |
| 入金照会 | W03B102A | 「入金処理」(G03B12)、「入金入力」 | 仮入金を検索します。 |
| 入金の入力 | W03B102E | 「入金照会」フォームで、仮入金を選択して「選択」をクリックします。 | 仮入金を顧客に割り当てます。 |
| 総勘定元帳入金入力 | W03B0001C | 「入金処理」(G03B12)、「スピード入金入力」 「スピード入金入力」フォームで、「ロー」メニューから「入金の分割」を選択します。 | 総勘定元帳入金を複数の勘定科目に配賦します。 |

スピード入金入力(P03B0001)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

この処理オプションでは、複数の入金を続けて入力する場合に、前のレコードに入力した値をそのまま表示するかどうかを指定します。

1. 会社

入金を入力した後、「スピード入金入力」フォームで入力した会社番号をそのまま表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 会社番号を保持しない。

1: 会社番号を保持する。

- 2. 銀行勘定** 入金を入力した後、「スピード入金入力」フォームで入力した銀行勘定をそのまま表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 銀行勘定を保持しない。
1: 銀行勘定を保持する。
- 3. 入金日付** 入金を入力した後、「スピード入金入力」フォームで入力した入金日付をそのまま表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 入金日付を保持しない。
1: 入金日付を保持する。
- 4. 備考** 入金を入力した後、「スピード入金入力」フォームで入力した備考をそのまま表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 備考を保持しない。
1: 備考を保持する。
- 5. 元帳日付** 入金を入力した後、「スピード入金入力」フォームで入力した元帳日付をそのまま表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 元帳日付を保持しない。
1: 元帳日付を保持する。
- 6. 決済日付/満期日** 入金を入力した後、「スピード入金入力」フォームで入力した決済日付をそのまま表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 決済日付を保持しない。
1: 決済日付を保持する。
- 7. 通貨** 入金を入力した後、「スピード入金入力」フォームで入力した通貨をそのまま表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 通貨を保持しない。
1: 通貨コードを保持する。
- 8. 為替レート** 入金を入力した後、「スピード入金入力」フォームで入力した為替レートをそのまま表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 為替レートを保持しない。
1: 為替レートを保持する。
- 9. 通貨モード** 入金を入力した後、「スピード入金入力」フォームで入力した通貨モード(「外貨」チェックボックスで制御)をそのまま表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 通貨モードを保持しない。
1: 通貨モードを保持する。

デフォルト

この処理オプションでは、各フィールドのデフォルト値を指定します。

- 1. 入力タイプ・コード** 「スピード入金入力」フォームに表示するデフォルトの入力タイプ・コードを指定します。値は次のとおりです。
1: 未充当

- 2: 残高繰越入金
- 3: 仮入金
- 4: 総勘定元帳入金

2. 未充当入金のデフォルト相手勘定

未充当入金を入力する際に、顧客レコード(F03012)の相手勘定の値を「未充当相手勘定」フィールドのデフォルト値として使用するかどうかを指定します。売掛金勘定は、使用する相手勘定に基づいて検索されます。値は次のとおりです。

ブランク: 顧客レコードの値を使用しない。UCがデフォルト値として使用されます。

1: 顧客レコードの相手勘定を使用する。顧客レコードに相手勘定が設定されていない場合は、UCがデフォルト値として使用されます。

検証

この処理オプションでは、入金番号を必須にするかどうかを指定します。

1. 入金番号

入金を入力する際に、入金番号を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入金番号を必須にしない。

1: 入金番号を必須にする。

処理

この処理オプションでは、状況が承認済(A)でない場合に請求書を支払対象にできるかどうか、入金転記時に取引明細テーブル(F0911)に集計レコードと明細レコードのどちらを作成するかを指定します。

1. 承認済み請求書の支払

入金をすべての請求書に対して消込可能にするか、承認済の請求書(支払状況がA)に対してのみ消込可能にするかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべての請求書を支払対象とする。

1: 承認済請求書のみを支払対象とする。

2. 仕訳の形式

転記プログラムで入金バッチに対して1件の集計仕訳を作成するか、入金ごとに仕訳を作成するかを指定します。この処理オプションで設定した値は、F03B13テーブルの売掛金転記フィールド(ISTR)に割り当てられます。転記プログラムでは、この値を使って仕訳レコードが作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: 集計仕訳を作成する。転記する入金バッチごとに、伝票タイプRKの仕訳が1件作成されます。仕訳の伝票番号には入金のバッチ番号が割り当てられます。この方法を使用するには、次の事項を確認する必要があります。

- 売掛管理固定情報の売掛金集計方式が「B」(バッチごと)に設定されている。
- バッチに外貨建て取引が含まれていない。

条件を満たしていない場合、仕訳は明細形式で作成されます。

1: 明細仕訳を作成する。バッチに含まれる入金ごとに、伝票タイプRCの仕訳が作成されます。入金仕訳の伝票番号は、仕訳入力(システム09)の自動採番によって自動的に割り当てられます。

監査証跡を記録するために、入金明細テーブル(F03B14)の次のフィールドは仕訳の情報で更新されます。

- 仕訳伝票タイプ(RZDCTG)
- 仕訳伝票番号(RZDOCG)
- 仕訳伝票会社(RZKCOG)

自動小額消去

この処理オプションでは、入金不足と過入金の限度額、および関連する理由コードを指定します。

- 1. 最高入金不足金額**
入金不足分を小額消去として処理できる限度額を指定します。入金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、入金消込時に差額の小額消去が自動的行われます。
- 2. 小額消去理由コード**
入金不足分を自動的に消し込む場合のデフォルトの理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。指定する小額消去理由コードに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。
- 3. 最高過入金金額**
過入金分を小額消去として処理できる最高金額を指定します。入金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、入金消込時に差額の小額消去が自動的行われます。
マイナスの金額を入力してください。
- 4. 過入金理由コード**
自動小額消去処理を有効にし、過入金分の自動消込で使用されるデフォルトの理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。指定する小額消去理由コードに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。

割引

この処理オプションでは、デフォルトの割引理由コードに加え、すべての割引を処理するかまたは実施された割引のみを処理するかを指定します。

- 1. 割引の許可**
入金の消込時に割引可能額の処理を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 割引を許可しない。割引可能額がある場合、消込処理では無視されます。
1: 割引を許可する。割引可能額がある場合、消込処理で割引が処理されます。
- 2. 有効割引の許可**
入金の消込時に割引実施額のみを処理するかどうかを指定します。「スピード入金入力」フォームで入力した元帳日付が請求書の割引期日以前である場合に、割引は実施されます。値は次のとおりです。
空白: すべての割引を許可する。実施の有無にかかわらず、すべての割引可能額が処理されます。
1: 実施された割引のみを許可する。割引実施額のみが処理されます。

3. 割引理由コード

割引を実施する際に使用するデフォルトの割引理由コードを指定します。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxxx(yyyは理由コード)も設定する必要があります。

未充当入金(入力タイプ(TI)コード1)の入力

スピード入金入力プログラム(P03B0001)では、標準の入金入力プログラム(P03B102)とまったく同じように未充当入金レコードが作成されます。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「未充当入金の入力」、197ページ

「スピード入金入力」フォームにアクセスします。

スピード入金入力 - スピード入金入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

会社番号 * 00077 Canadian Company バッチ番号 7916

銀行勘定科目 77.1110.BEAR 元帳日付 * 2005/06/30

備考 入金日付 2005/06/06

入力タイプ 1 未充当/仮受金 決済日付

通貨 CAD 為替レート 基本 CAD 外貨

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

| 入力タイプ | 支払人名 | 顧客住所 | 入金No. | 支払人住所 | 入金額 | 入金日付 |
|-------|------|------|-------|-------|--------|-----------|
| 1 | | 3333 | 7896 | | 500.00 | 2005/06/0 |
| 1 | | | | | | |

「スピード入金入力」フォーム

未充当入金を入力するには、次の手順に従います。

1. 「スピード入金入力」で、見出し領域にある「会社番号」、「銀行勘定科目」、「入力タイプ」、「元帳日付」、「入金日付」、「備考」(任意)の各フィールドに値を入力します。
2. 詳細グリッドの「支払人住所」、「顧客住所」、「入金No.」、および「入金額」フィールドに値を入力します。
3. 詳細グリッドで、必要に応じて「相手勘定」フィールドの値を変更します。
4. 「OK」をクリックします。

繰越残高入金(入力タイプ(TI)コード2)の入力

「スピード入金入力」フォームにアクセスします。

繰越残高入金を入力するには、次の手順に従います。

1. 「スピード入金入力」で、見出し領域にある「会社番号」、「銀行勘定科目」、「入力タイプ」、「元帳日付」、「入金日付」、「備考」フィールドに値を入力します。
2. 詳細グリッドの「支払人住所」、「顧客住所」、「入金No.」、および「入金額」フィールドに値を入力します。
3. 「繰越残高開始日付」か「伝票No.」フィールド、またはその両方に値を入力します。

4. 「OK」をクリックします。

繰越残高開始日付

残高繰越方式(入力タイプ・コード2)を使って支払う請求書の自動選択で使用される日付を入力します。指定した顧客の請求書のうち、支払期日が指定した日付以降の請求書が支払対象となります。このフィールドをブランクにした場合、指定された顧客の最も古い未決済請求書と入金が消し込まれます。

伝票番号

入金を消し込む請求書番号を入力します。入金を入力した請求書番号のすべての支払項目に対して消し込まれます。

伝票番号を入力した場合、「繰越残高開始日付」フィールドに値を入力する必要はありません。ただし、支払期日までに支払う請求書の支払項目の数を制限する場合は、両方のフィールドに値を入力できます。

仮入金(入力タイプ(TI)コード3)の入力

「スピード入金入力」フォームにアクセスします。

仮入金を入力するには、次の手順に従います。

1. 「スピード入金入力」で、見出し領域にある「会社番号」、「銀行勘定科目」、「入力タイプ」、「元帳日付」、「入金日付」、「備考」フィールドに値を入力します。
2. 詳細グリッドの「入金No.」および「入金額」フィールドに値を入力し、「OK」をクリックします。

仮入金の顧客への割当

仮入金を選択して、「入金の入力」フォームにアクセスします。

仮入金を顧客に割り当てるには、次の手順に従います。

1. 「入金の入力」で、「支払人」および「顧客」フィールドに値を入力します。
2. (省略可)「元帳日付」フィールドに値を入力します。
3. 支払う請求書がわかっている場合、未決済項目を表示して入金の照合を行うことができます。
4. 「OK」をクリックします。

総勘定元帳入金(入力タイプ(TI)コード4)の入力

「スピード入金入力」フォームにアクセスします。

総勘定元帳入金を入力するには、次の手順に従います。

1. 「スピード入金入力」で、見出し領域にある「会社番号」、「銀行勘定科目」、「入力タイプ」、「元帳日付」、「入金日付」、「備考」フィールドに値を入力します。
2. 詳細グリッドの「入金No.」、「入金額」、および「勘定科目コード」フィールドに値を入力します。
3. 入金を複数の勘定科目に計上するには、「ロー」メニューから「入金の分割」を選択します。
4. 「総勘定元帳入金入力」で、追加する各勘定科目について「勘定科目No.」、「入金額」、および「備考」フィールドに値を入力します。

注意: 勘定科目の合計金額が入金額と一致しないと、エラー・メッセージが表示されます。

5. 「OK」をクリックします。
6. 「スピード入金入力」で、「OK」をクリックします。

入金の改訂

この項では、入金の改訂の概要と次の方法について説明します。

入金の改訂について

入金とは、入力後に改訂が必要になることがあります。たとえば、入金を間違った請求書や顧客に対して消し込んだ場合や、間違った元帳日付を使った場合などです。転記状況や変更するデータによっては、入金を削除または無効にして入力しなおすことが必要になることもあります。

「一般会計固定情報」の「PBCO (過去期間) 転記の許可」チェックボックスの選択が解除されている場合、元帳日付が現行期間内の未転記の入金のみを改訂できます。

注意: 売掛金勘定 AAI 項目 (RC) の設定によっては、未転記入金の建物を改訂しようとするエラーが発生することがあります。

未充当入金を入力すると、未充当相手勘定を入力しないかぎり、デフォルト AAI 項目 RCUC を使って売掛金勘定が取り込まれます。未充当相手勘定を入力すると、AAI 項目 RCxxxx (xxxx は相手勘定の値) の勘定科目設定が使用されます。AAI にビジネスユニットが指定されていない場合は、未充当入金に入力された建物番号 (MCU2) がその勘定科目のビジネスユニットとして使用されます。AAI から取り込まれた勘定科目に基づいて、入金見出しテーブル (F03B13) の AID フィールドが更新されます。

未充当入金の建物番号を変更しても、AID の値が再度書き込まれることはありません。AAI の設定に基づいて、AID フィールドを別の勘定科目で更新する必要があると判断された場合は、エラー・メッセージが表示されます。その場合は、その未充当入金を削除してから再度入力する必要があります。

未転記入金

入金が無転記の場合は、次のフィールドを改訂できます。

- 銀行勘定
- 備考
- 入金額

入金額を改訂する場合は、詳細グリッドの支払額情報も改訂する必要があります。

- 支払手段
- 決済日
- 未充当相手勘定
- 入金参照
- 賃貸契約 No.
- 建物
- 区画

注意:「賃貸契約No.」、「建物」、および「区画」フィールドは、未充当入金で、不動産管理の入金入力プログラム(P15103)を使用した場合のみ改訂できます。

また、支払金額や入力タイプ・コードの変更、請求書の支払項目の削除、別の支払請求書の選択を行うこともできます。

転記済入金

入金を転記した後は、次のフィールドの情報のみを変更できます。

- 備考
- 支払手段
- 決済日
- 入金参照

入金を再度転記する必要はありません。

また、請求書の支払項目を無効にして、新しい支払請求書を指定することもできます。支払情報を改訂する場合は、入金を再転記する必要があります。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「入金の削除および無効化」、229 ページ

仮入金

仮入金の金額を変更する場合は、支払人と顧客を指定する必要があります。この情報を割り当てることのできない場合は、仮入金を削除するか無効にして、もう一度取引を入力してください。

入金の改訂に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|--------------|----------|---|---|
| 入金の入力 | W03B102E | 「入金処理」(G03B12)、「入金入力」 「入金照会」で、改訂する入金を選択して「選択」をクリックします。 | 未転記入金を改訂します。 入金額を改訂する場合は、詳細グリッドの支払額情報も改訂する必要があります。 |
| 追加情報 | W03B102I | 「入金の入力」フォームの「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。 | 追加入金情報を改訂します。 |
| バッチの処理 | W0011A | 「入金処理」メニュー(G03B12)、「入金仕訳の検討」 | 入金バッチを検索します。 |
| バッチ見出しの作成/改訂 | W0011D | 「バッチの処理」フォームで、バッチを選択し、「ロー」メニューから「改訂」を選択します。 | バッチの状況を改訂します。 |

未転記入金の改訂

「入金の入力」フォームにアクセスします。

未転記入金を改訂するには、次の手順に従います。

1. 「入金の入力」で、「銀行勘定科目」、「備考」、または「入金額」フィールドの情報を改訂します。
2. これ以外に入金情報を改訂するには、「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。
3. 「追加情報」で、「支払手段」、「決済日」、「未充当相手勘定」、「入金参照」フィールドの情報を改訂し、「OK」をクリックします。
4. 「入金の入力」で、支払対象の請求書の入金額と入力タイプ・コードを変更します。
5. 請求書の支払項目を削除するには、支払項目を選択して「削除」をクリックします。
6. 支払項目を追加するには、「フォーム」メニューの「ロード」または「選択」機能を使用します。
7. フォームの最下部にある「保留金額」および「未充当金額」フィールドに正しい情報が表示されていることを確認します。

請求書に対して入金を完全に消し込んだ場合、保留金額は入金見出しで指定した入金額と等しくなります。「未充当金額」フィールドの金額の未充当入金レコードが作成されます。

注意:「未充当金額」フィールドがマイナスの場合、「OK」をクリックするとエラー・メッセージが表示されます。

8. 「OK」をクリックします。

入金の承認および転記

この項では、入金の転記と入金転記処理で作成される自動仕訳の概要、および次の方法について説明します。

- 転記プログラムによる入金の転記
- 入力仕訳の検討プログラムによる入金の転記

入金の転記について

入金を入力したら、それを承認し、総勘定元帳に転記して、該当する勘定科目情報を更新する必要があります。会社の方針によっては、入金バッチを転記する前に管理者の承認が必要な場合もあります。バッチの検討および承認には、バッチ・タイプにかかわらず同じ処理が実行されます。

入金を転記するとすべての仕訳が取引明細テーブル(F0911)に作成されるため、転記プログラムが中断された場合のみ貸借不一致エラーが発生します。転記プログラムが完了する前に中止された場合は、転記プログラムを再度実行して自動作成済の仕訳を削除した後、もう一度転記プログラムを実行して新しい仕訳を作成します。

注意:「入金照会」フォームを閉じるまで、入金バッチ見出しの状況は“使用中”のままです。

転記プログラムでは次の処理が実行されます。

- 次のテーブルから未転記入金取引が選択されます。
 - F03B13
 - F03B14
- 各取引が検証されます。

エラーがない場合、次の処理が実行されます。

- 入金額で借方に適切な銀行勘定が計上されます。これによりF0911テーブルに銀行勘定レコードが作成されます。
- F0911テーブルに売掛金勘定の自動仕訳(貸方)が作成されます。
- 必要に応じて、割引、小額消去、再請求、損金勘定の自動仕訳が作成されます。
- 勘定残高テーブル(F0902)の残高が更新されます。
- F0911テーブルの取引の転記コードが「P」(転記済)に更新されます。
- F03B13およびF03B14テーブルの転記コードが「D」に更新されます。
- バッチ制御テーブル(F0011)のバッチ状況が「D」に更新されます。

入金仕訳の検討または不動産管理仕訳の検討プログラム(P0011)からアクセスする「バッチの処理」フォームからも入金を転記できます。これらのプログラムは転記プログラムと同じメニューにあります。

注意: F03B11テーブルに転記状況「D」の未充当入金(RU)、再請求(RB)、損金(R5)請求書が作成されます。これらのレコードが転記されたかどうかを判断するには、元となる入金伝票の転記状況を検索して確認する必要があります。

入金転記処理によって作成される仕訳

入金を総勘定元帳に転記すると、入金入力プログラムの処理オプションで設定した仕訳の形式に基づいて、取引明細レコード(F0911)がそれぞれの方法で作成されます。

仕訳の作成にどの形式を設定したかにかかわらず、入金明細レコード(F03B14)の次のフィールドが、作成された仕訳データで更新されます。

- RZDCTG(伝票タイプ - JE)
- RZDOCG(伝票番号 - JE)
- RZKCOG(伝票会社 - JE)

明細方式

処理オプションで明細形式の仕訳を作成するように設定した場合、入金を入力すると、F03B13テーブルの売掛金転記状況フィールド(ISTR)の値が「1」に更新されます。入力の転記時には、次の処理が実行されます。

- バッチ内の入金ごとに1件の伝票が、F0911テーブルに作成されます。
- 銀行勘定の仕訳に対して伝票タイプ「RC」が割り当てられます。
- システム09、行2(仕訳)の自動採番プログラムによって、伝票番号が割り当てられます。

フィールドの長さが異なるため、入金番号は使用されません。入金番号フィールドの長さは25文字ですが、仕訳伝票番号フィールドの長さは8文字です。

- F03B14テーブルのレコードが、監査用として仕訳に割り当てられる伝票番号で更新されます。

集計方法

処理オプションで集計形式の仕訳を作成するように設定した場合、入金を入力してもF03B13テーブルの売掛金転記状況フィールド(ISTR)は更新されません。入力の転記時には、次の処理が実行されます。

- 入力を転記したバッチごとに1件の伝票が、F0911テーブルに作成されます。
- 銀行勘定の仕訳に対して伝票タイプ「RK」が割り当てられます。
- バッチ番号が伝票番号として割り当てられます。

集計方式で仕訳を作成するには、次のことを確認する必要があります。

- 売掛管理固定情報の集計方式の値がB(バッチ・モード)に設定されている。
- 一般会計固定情報の会社間決済オプションが「2」と「3」以外の値に設定されている。

これ以外の設定の場合、仕訳は明細方式で作成されます。

使用される方式

次の表に、一般会計固定情報および売掛管理固定情報の設定を基に作成される仕訳タイプを示します。

| 会社間決済(一般会計固定情報) | 売掛金の集計方式(売掛管理固定情報)* | 仕訳作成方式(集計(S)/明細(D)) | 作成される仕訳の形式(F0911) |
|-----------------|---------------------|---------------------|-------------------|
| 1(ハブ) | B | D | 明細 |
| 1 | Y | D | 明細 |
| 1 | S | D | 明細 |
| 2(詳細) | B | D | 明細 |
| 2 | Y | D | 明細 |
| 2 | S | D | 明細 |
| 3(構成ハブ) | B | D | エラー(仕訳作成は不可) |
| 3 | Y | D | 明細 |
| 3 | S | D | 明細 |
| 1 | B | S | 集計 |
| 1 | Y | S | 明細 |
| 1 | S | S | 明細 |
| 2 | B | S | 集計 |
| 2 | Y | S | 明細 |
| 2 | S | S | 明細 |
| 3 | B | S | エラー(仕訳作成は不可) |
| 3 | Y | S | 明細 |
| 3 | S | S | 明細 |

* 集計方式

- Y = 項目行の数に関係なく伝票ごとに1件の自動仕訳作成

- S = 支払項目ごとに1件の自動仕訳作成
- B = バッチごとに1件の自動仕訳作成

無効入金および残高不足 (NSF) 入金の転記

無効となった入金または残高不足 (NSF) と指定された入金を転記した場合も、個別の仕訳が作成されません。処理オプションでの仕訳作成方法の設定にかかわらず、次の処理が行われます。

- 無効の入金を転記すると、伝票タイプROの仕訳が作成されます。
- 残高不足 (NSF) に指定された入金を転記すると、伝票タイプRVの仕訳が作成されます。

仕訳に割り当てられた伝票番号と伝票タイプを使って、F03B13レコードのDOCQ、DCTQ、KCOQフィールドの値が更新されます。

金額ゼロの入金の転記

請求書に対してクレジット・メモまたは未充当入金を全額消し込む場合は、入金額がゼロのため銀行勘定に対して仕訳は生成されません。

また、未充当入金またはクレジット・メモが転記された売掛金勘定と請求書が転記された売掛金勘定が異なる場合のみ、自動仕訳(伝票タイプAE)が作成されます。クレジット・メモや未充当入金を記録する売掛金勘定と請求書の売掛金勘定が同じ場合は、AE仕訳が作成されず、転記編集レポートも作成されません。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「入金入力または手形入力時に更新されるフィールドについて」、184ページ

入金転記処理によって作成される自動仕訳について

入金を転記すると、F0911テーブルに伝票タイプAEの仕訳が自動的に作成されます。入金入力時に更新されたフィールドの略式IDが使用されます。次の表は、入力した入金のタイプによって、転記処理でAE仕訳の勘定科目を検索するのに使用されるフィールドを示しています。

| 勘定科目 | 入金タイプ | フィールド | テーブル |
|-------|--------------------------|-------|--------|
| 売掛金勘定 | 消込済入金 (入力タイプ・コード10) | AID | F03B14 |
| | 未充当入金 | AID | F03B13 |
| | 再請求 (入力タイプ・コード11、16、26) | AIDC | F03B14 |
| 割引実施額 | 割引 (入力タイプ・コード10) | AIDD | F03B14 |
| 小額消去 | 小額消去 (入力タイプ・コード10、15、25) | AIDW | F03B14 |
| 損金仮勘定 | 損金仮勘定 (入力タイプ・コード17、27) | DAID | F03B14 |

会社00000

入金の自動仕訳が作成される時には、固定情報の集計方式の設定にかかわらず、仕訳の伝票会社フィールド(KCO)に必ず会社00000が割り当てられます。入金入力処理では、1対多の関係(1件の入金で異なる会社の多数の請求書を支払うことが可能)が成り立つため、会社00000が割り当てられます。転記プログラムで会社00000が使用されなかった場合は、各請求書伝票の会社に対応する仕訳を作成する必要があります。

入金の承認と転記に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|--------|--------|--|---------------|
| バッチの処理 | W0011D | 「入金処理」メニュー (G03B12)、「入金仕訳の検討」 | 入金バッチを検索します。 |
| バッチ承認 | W0011C | 「バッチの処理」フォームで、バッチを選択し、「ロー」メニューから「バッチ承認」を選択します。 | 転記用バッチを承認します。 |

転記プログラムによる入金の転記

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

「入金処理」メニュー (G03B12) から、「入金の転記」を選択します。

「入金処理」メニュー (G1513) から、「入金の転記」を選択します。

入力仕訳の検討プログラムによる入金の転記

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

転記対象のバッチを選択し、「ロー」メニューの「バッチ別の転記」を選択します。

入金の削除および無効化

この項では、入金の削除および無効化の概要と次の方法について説明します。

- 入金の削除と無効化
- 入金の請求書支払項目の削除と無効化

入金の削除および無効化について

支払人や元帳日付などの入金情報を改訂できない場合は、その入金を削除するか無効にする必要があります。入金の削除と無効化は同じステップに従って実行します。入金が未転記の場合は、すべての入金が削除されます。入金が転記済の場合は、新しい逆仕訳レコードが作成されます。

入金を削除または無効にすると、次の処理が行われます。

- 入金を消し込んだ請求書(複数可)の未決済金額が元に戻されます。
- 請求書の支払状況が支払済(P)から承認済(A)に変更されます。

さらに、入金を無効にすると、次の処理が実行されます。

- F03B13テーブルのレコードに無効のマークが付けられます。
- バッチ制御レコード・テーブル(F0011)とF03B14テーブルに新しいレコードが作成されます。

新しいバッチを転記して、この取消情報を総勘定元帳の勘定科目に反映させる必要があります。無効にした入金を転記すると、取引明細テーブル(F0911)に伝票タイプROのレコードが作成されます。

事前設定

無効/残高不足理由コードに使用する値が、ユーザー定義コード(03B/VR)に設定されていることを確認してください。

入金の削除および無効化に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------|----------|--|--|
| 入金照会 | W03B102A | 「入金処理」(G03B12)、 「入金入力」 | 削除または無効にする入金を検索します。 |
| 入金の入力 | W03B102E | 「入金照会」フォームで、入金を選択して「選択」をクリックします。 | 入金の請求書支払項目を削除または無効にします。 |
| 削除の確認 | W03B602D | <ul style="list-style-type: none"> • 「入金照会」フォームで、ツールバーから「削除」、または「ロー」メニューから「無効/削除」を選択します。 • または、「入金の入力」フォームで、「ロー」メニューから「無効/削除」を選択します。 | 入金の削除または無効化/削除を確認します。 |
| 無効/NSF入金 | W03B102C | 「削除の確認」フォームが表示されます。「OK」をクリックします。 | 転記済入金を削除するか、無効にするかがこのフォームに表示されます。このフォームで、入金を無効にする元帳日付と理由コードを指定します。 |

入金の削除または無効化

「入金照会」フォームにアクセスします。

入金を削除または無効にするには、次の手順に従います。

1. 「入金照会」で、削除または無効にする入金を選択します。
2. ツールバーから「削除」、または「ロー」メニューから「無効/削除」を選択します。
3. 「削除の確認」で「OK」をクリックします。
入金が転記されていない場合は、レコードが削除されます。
4. 入金が転記済の場合、「無効/NSF入金」で、「元帳日付」と「理由コード」フィールドに入力します。
5. 「OK」をクリックします。

入金の請求書支払項目の削除または無効化

「入金照会」フォームにアクセスします。

入金の請求書支払項目を削除または無効にするには、次の手順に従います。

「入金処理」メニュー（G03B12）から、「入金入力」を選択します。

1. 「入金照会」フォームで、適切な入金を選択して「選択」をクリックします。
2. 「入金の入力」で、削除または無効にする支払項目を選択します。
3. 「ロー」メニューから、「無効/削除」を選択します。
4. 「削除の確認」で「OK」をクリックします。

入金が未転記の場合は、支払項目レコードが削除されます。

5. 入金が転記済の場合は、「無効/NSF入金」で「理由コード」フィールドに値を入力して「OK」をクリックします。

「入金の入力」で、無効にした支払項目にXの印が表示され、取り消した金額の支払項目が新たに作成されます。

6. 「入金の入力」で、他の請求書を選択して支払金額を振り分けるか、取り消した支払項目の金額分の未充当入金を作成するには「OK」をクリックします。

入金の残高不足（NSF）としての指定

この項では、残高不足の指定の概要と指定方法について説明します。

残高不足の指定について

支払人の銀行口座に十分な残高がなく指定請求書の支払ができない場合、入金を残高不足（NSF）に指定して請求書（複数可）を未決済に戻すことができます。入金が転記済の場合も未転記の場合も、同じステップで入金を残高不足（NSF）に指定します。入金を残高不足（NSF）に指定すると、次の処理が実行されます。

- F03B13テーブルのレコードにNSFとしてマークされます。顧客またはテナントの支払傾向を分析する際に、NSFのマークを参考にして、入力ミスなどの理由から取り消した入金とNSFを区別できます。

NSFと指定された時点で入金が未転記の場合、その入金レコードには転記状況「D」のマークが付けられます。

- 入金を消し込んだ請求書（複数可）の未決済金額が元に戻されます。
- 請求書の支払状況が支払済（P）から承認済（A）に変更されます。
- 入金が転記された場合、バッチ制御レコード・テーブル（F0011）に新しいレコードが作成されます。
- 入金が転記された場合、照合伝票タイプRVの新しいレコードがF03B14テーブルに作成されます。

残高不足に指定された時点で入金が未転記の場合は、F03B14テーブルから元のレコードが削除されます。

新しいバッチを転記して、この取消情報を総勘定元帳の勘定科目に反映させる必要があります。NSFに指定された入金を転記すると、F0911テーブルに伝票タイプRVのレコードが作成されます。

事前設定

銀行の住所や口座番号を表示するには、住所録システムおよび「銀行勘定科目の設定」フォームで必要な情報を設定してください。

入金を残高不足 (NSF) として指定するのに使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------|----------|--|-------------------------|
| 入金照会 | W03B102A | 「入金処理」(G03B12)、 「入金入力」 | 削除または無効にする入金を検索します。 |
| 削除の確認 | W03B602D | 「入金照会」フォームで、 「ロー」メニューから「NSF」 を選択します。 | 入金を残高不足 (NSF) として指定します。 |
| 無効/NSF入金 | W03B102C | 「削除の確認」フォームが表示されます。「OK」をクリックします。 | NSF入金の元帳日付と理由コードを指定します。 |

入金の残高不足 (NSF) としての指定

「入金照会」フォームにアクセスします。

入金を残高不足 (NSF) に指定するには、次の手順に従います。

1. 「入金照会」で、残高不足 (NSF) に指定する入金を選択します。
2. 「ロー」メニューから「NSF」を選択します。
3. 「削除の確認」で「OK」をクリックします。
4. 「無効/NSF入金」で、「元帳日付」フィールドと「理由コード」フィールドに入力して、「OK」をクリックします。

第 10 章

売掛金元帳情報の処理

この章では、売掛金元帳照会およびカスタマ・セルフサービスの概要と、次の方法について説明します。

- 住所録の顧客情報の更新
- 請求書の検討

注意: アルゼンチンには、売掛金元帳情報を処理するための国別機能が用意されています。

売掛金元帳照会について

売掛金元帳照会は、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムで請求書を検索、検討、更新するための中心的機能を担っています。このプログラムを使って請求書や入金情報をすばやく照会したり、顧客の取引履歴を確認できます。

フォームの見出しにあるフィールドで検索する情報を絞り込むことができます。特定の日付範囲で未決済、支払済、またはすべての請求書を照会できます。また、請求書日付、計算書日付、元帳日付、支払期日の中から任意の日付で検索することが可能です。請求書番号の範囲を指定して照会することもできます。

請求書の支払項目の割引情報や支払期日、税情報、転記状況および支払状況を確認したり、勘定科目情報を見たりする場合に、請求書の明細を検討します。請求書の金額は国内通貨と外貨の両方で表示できる他、仮定通貨や基準日機能を使って代替通貨や特定の日付でも見ることができます。

売掛金元帳照会を使って、顧客に対する売掛金の残高をすばやく確認できます。請求書を検索してからフォームの一番下にスクロールすると、国内通貨と外貨建ての総額および未決済金額の合計を見ることができます。合計はハイライトされた色で表示されます。

売掛金元帳照会プログラムには、その他の必要な売掛金プログラムに直接アクセスできる便利な機能が備わっています。「フォーム」メニューや「ロー」メニューを使って次のプログラムにアクセスできます。

- 顧客マスター（次のような顧客情報の追加および修正が可能）
 - 銀行口座
 - 人名録
 - 親/子関係
- 売掛金元帳明細（請求書情報を1つのフォームに表示）
- 請求書入力（請求書金額の改訂）
- 勘定科目情報（勘定科目の検討）
- スピード・リリース（割引情報と支払期日の更新）
- 請求書の改訂履歴（請求書の修正情報の検討）
- 定期請求書情報の改訂（定期請求書の変更）
- 入金/手形明細（請求書と消込済の入金の検討）

- 入金入力(入金の検索、検討、追加、改訂)
- バッチ(バッチの承認と転記)
- 損金(損金の追加)
- 損金の処理(損金の解決)
- 取引状況集計(与信および回収情報の検討)
- アクティビティ・ログおよび支払約束(内部処理レコードの検討と追加)
- 受注残/完了オーダー照会(受注オーダーの追加と検討)

契約/サービス請求管理、不動産管理、および受注管理システムなどの、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに関連して入力を行う JD Edwards EnterpriseOne の他システムを使用できます。売掛金元帳照会プログラムを使って、取引の入力元であるシステムを照会できます。「売掛金元帳照会の処理」フォームの詳細グリッドの「入力元システム」フィールド(OMOD)を、「ロー」メニューの「ソース・システム」項目と組み合わせて使用すると、当初取引にアクセスできます。この機能が便利なのは、たとえば、顧客の支払を消し込む際に当初取引情報を検討する必要がある場合です。

注意: 売掛金元帳情報の検討の際に、「集計」オプションを選択している場合は、「ロー」メニューの「ソース・システム」項目は使用不可になっています。

カスタマ・セルフサービスについて

顧客にセルフサービス機能を提供すると、顧客が自ら請求書や支払の情報にアクセスできます。カスタマ・セルフサービスは、請求書を照会して合計請求金額や支払期日、割引情報などを確認したり、正しい請求書に対して支払が処理されているかどうかを顧客が確認できる機能です。

カスタマ・セルフサービスのアプリケーションを有効にするには、「カスタマ・セルフサービス」の処理オプションを設定する必要があります。セルフサービスが有効になっている場合、顧客がログインするとその顧客のユーザー・プロファイルのレコードに基づいて住所録番号が取り込まれます。顧客は別の顧客の請求書や入金情報にアクセスすることはできません。

顧客がWebページにアクセスすると「売掛金元帳照会の処理」フォームが表示され、次の点を除いて社内で行うのとまったく同じように請求書情報を検索、照会できます。

- 「伝票番号」が「請求書番号」、「完済日付」が「支払完了日付」などと、いくつかのカラムが異なって表示されます。
- 無効にされている請求書は表示されません。
- 請求書が外貨建てで入力されている場合、「請求書金額」と「未入金額」のフィールドには外貨建ての金額のみ表示されます。
- グリッドのレコードを選択したり、「ロー」メニューは使用できません。

住所録からの顧客情報の更新

この項では、顧客の住所録情報の概要と次の方法について説明します。

- 住所録からの売掛金元帳の更新プログラム(R03B802)の実行
- 住所録からの売掛金元帳の更新の処理オプションの設定

顧客の住所録情報について

請求書を作成する際は、別のシステムから手動または自動で、顧客の名称などの特定の住所録情報が各レコードに書き込まれます。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムでは、計算書やレポートの印刷、照会プログラムでの使用などの様々な目的で住所録情報を使用します。住所録情報が変更されたら、住所録からの売掛金元帳の更新プログラム (R03B802) を実行して請求書レコードを更新できます。

売掛金元帳テーブル (F03B11) のレコード件数によっては、ピーク時を避けて住所録からの売掛金元帳の更新プログラムを実行してください。定期的に行うと売掛金元帳テーブルの情報を正しく保つことができます。特に年齢調レポートを実行したり計算書を印刷する前などに実行します。与信分析のリフレッシュ (R03B525) などのプログラムと住所録とは関係ないため、このプログラムを毎日夜間に実行する必要はありません。ただし、売掛金元帳照会プログラムを使って親顧客番号で検索する場合や、住所録の親住所番号を変更した場合などは、変更を反映するためにそのつど実行する必要があります。

F03B11 テーブルの次のフィールドが更新されます。

- 支払人 (PYR) – 更新タブの処理オプションに基づく

業種別顧客マスター (F03012) の代替支払人フィールド (ARPY) の値が取り込まれます。代替支払人フィールドがブランクの場合、住所録番号フィールド (AN8) の値が取り込まれます。

- 住所録マスター (F0101) の名称 (ALPH)
- 住所組織構造マスター (F0150) の親住所番号 (PA8)
- 代替受取人 (AN8J) – F03012 テーブルの計算書送付先フィールド (STTO) の値に基づく

代替受取人フィールドの住所録番号は、計算書送付先フィールドの値に基づいて割り当てられます。たとえば顧客 (C) に計算書を送る場合は、代替受取人フィールドには顧客の住所録番号 (AN8) が入ります。親顧客番号 (P) に計算書を送る場合は、「代替受取人」フィールドには住所組織構造マスターの親住所録番号 (PA8) が入ります。

- F03012 テーブルのカテゴリ・コード 1 から 10 (AC01 から AC10)
- F03012 テーブルの回収レポート (COLL)

入金見出しテーブル (F03B13) の次のフィールドが更新されます。

- F0101 テーブルの名称 (ALPH) – 処理オプションの設定に基づく
- 住所組織構造マスターの親住所番号 (PA8)

住所録からの売掛金元帳の更新プログラムの実行

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの場合は、「売掛管理システムの上級/技術的操作」メニュー (G03B31) から「住所録からの売掛管理更新」を選択します。

JD Edwards EnterpriseOne 不動産管理システムの場合は、「一括更新」メニュー (G15311) から「住所録からの売掛金更新」を選択します。

住所録からの売掛金元帳の更新 (R03B802) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

この処理オプションでは、F03B11 テーブルの特定のフィールドを更新するかどうかを指定します。

1. 支払人

F03B11テーブルの支払人フィールド(PYR)を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 支払人フィールドを更新しません。

1: 支払人フィールドを更新します。F03012テーブルの代替支払人フィールド(ARPY)の値が使用されます。代替支払人フィールドがブランクの場合、顧客の住所録番号が使用されます。
2. 名称

F03B11テーブルの名称フィールド(ALPH)を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: フィールドを更新しません。

1: フィールドを更新します。F0101テーブルの名称フィールドの値が使用されます。

請求書の検討

この項では、請求書の改訂履歴、基準日機能、および入金または手形入力結果の概要、および次の方法について説明します。

- 売掛金元帳照会(P03B2002)の処理オプションの設定
- 売掛金元帳の詳細情報の検討
- 入金入力結果の検討

アルゼンチンには、請求書を検討するための国別機能が用意されています。

請求書の改訂履歴について

転記済請求書の総額を変更したり、請求書を無効にした場合、請求書改訂履歴テーブル(F03B112)に改訂情報が保存され、売掛金元帳(F03B11)のレコードの転記状況フィールド(ISTR)が「1」に更新されます。この値は「売掛金元帳照会の処理」フォームの「改訂有無」フィールドに表示され、請求書が変更されたことを示します。どのように請求書が変更されたかを検討するには「ロー」メニューから「改訂監査」を選択します。

注意: 請求書の変更回数にかかわらず、「改訂有無」フィールドは「1」に更新されます。

基準日機能について

売掛金元帳照会プログラムを使って請求書を検討する際、「売掛金元帳照会の処理」フォームで「基準日」フィールドに特定の日付を入力して請求書を検討できます。これにより、過去の期間における顧客への請求状況や売掛金残高を見ることができます。

基準日を使用すると、入力した日付が請求書の「完済日付」フィールドと比較されます。基準日が決済日付より後の場合、そのレコードはスキップされます。基準日が決済日付より前の場合、その基準日は請求書に対して消し込まれた入金明細レコード(F03B14)の元帳日付と比較され、入力した基準日における未決済金額が計算されます。

次に例を示します。

- 請求書番号1234、請求額1,000.00、支払期日2008/06/30
- 入金番号44321、入金額200.00、消込日付2008/06/10(元帳日付)

- 入金番号44955、入金額800.00、消込日付2008/06/30(元帳日付)
- 決済日付2008/06/30
- 基準日2008/06/15

基準日(2008/06/15)が決済日付(2008/06/30)より前であるため、入金明細テーブルのレコードが読み込まれます。最初の入金の元帳日付は基準日より前であるため、2008年6月15日における請求書の未決済金額は800.00(1,000.00 – 200.00)と計算され、次の入金レコードの処理に進みます。しかし、次の入金の元帳日付は基準日より後のため、このレコードは無視されます。

注意: 請求書の入金日付と基準日が比較されるため、フォームの見出し部分で「すべて」というオプションを選択する必要があります。「すべて」を選択しないと、完全な情報は表示されません。

手形処理

手形は、回収済(支払状況が「P」)になった場合のみ、システム上で支払済とみなされます。

入金または手形入力結果について

入金または手形を入力した後、正しい請求書に対して消し込まれているかどうかを確認したり、顧客の現在の未決済金額を確認することがあります。このためには、売掛金元帳照会プログラムを使って入金入力の結果を確認します。

売掛金元帳照会プログラムを使用して支払済請求書や一部支払済請求書を検討する際、請求書と消込済の入金や手形に関する情報(入金番号、支払ID、バッチ番号や、小額消去、再請求、損金の金額など)も表示することができます。売掛金元帳照会プログラムでこれらの情報を照会できるため、入金情報を他のアプリケーションで検索して検討する必要がほとんどありません。

入金明細を検討するには、支払済請求書(支払状況「P」)を選んで、「ロー」メニューから「入金/手形明細」を選択します。

再請求、損金、未充当入金

入金または手形を請求書に対して消し込む際、未決済の再請求、損金、または未充当入金レコードを作成できます。これらの請求書には伝票タイプRB(再請求)、R5(損金)、RU(未充当入金)、バッチ・タイプRB(IBではありません)が割り当てられます。これらの請求書はまだ決済されていないため、「ロー」メニューの「入金/手形明細」を使用してこれらの請求書の生成元となる入金は検討できません。次の表は、未決済の再請求、損金、または未充当入金請求書レコードの生成元となる入金を検索するのに使用可能なオプションを示しています。

| 請求書 | 入金検索のオプション |
|-----------------------|--|
| 入金または手形から生成された再請求(RB) | <ul style="list-style-type: none">• 当初伝票フィールドを使って、再請求の発生元となった請求書番号を検索します。次に請求書を選択し、「ロー」メニューの「入金/手形明細」を選択します。• 「売掛金元帳照会の処理」で支払IDを使って入金または手形を検索します。 <p>注意: 再請求が損金から生成されている場合は、再請求を作成したことにより支払済となった損金レコード(R5)を検索して、「ロー」メニューから「入金/手形明細」を選択します。</p> |

| 請求書 | 入金検索のオプション |
|-------------------------|---|
| 請求書、入金、手形から生成された損金 (R5) | <ul style="list-style-type: none"> 「当初伝票」フィールドを使って、損金の対象となった請求書番号を検索します。次に請求書を選択し、「ロー」メニューの「入金/手形明細」を選択します。 「売掛金元帳照会の処理」で支払IDを使って入金または手形を検索します。 |
| 損金から生成された再請求 (RB) | 再請求レコードの支払IDを検索してQBEに入力します。検索基準に「すべて」のオプションが含まれていることを確認して、「検索」をクリックします。再請求および損金レコードが表示されます。損金 (R5) を選び、「ロー」メニューから「入金/手形明細」を選択します。 |
| 未充当入金または手形 (RU) | 「売掛金元帳照会の処理」で支払IDを使って入金または手形を検索します。 |

これらの伝票が支払済になった後、「ロー」メニューの「入金/手形明細」から支払を検討できます。

手形

手形を使用すると、伝票タイプR1が割り当てられます。手形を検討するには、R1伝票を選択して「ロー」メニューから「入金/手形明細」を選択します。「手形入力」フォームが表示されます。

請求書の検討に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------|-----------|---|---|
| 売掛金元帳照会の処理 | W03B2002A | 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「売掛金元帳照会」 | 請求書を検索します。 |
| 売掛金元帳明細 | W03B2002E | 「売掛金元帳照会の処理」フォームで、「ロー」メニューの「売掛金元帳明細」を選択します。 | 売掛金元帳の詳細情報を検討します。 請求書の検索時に「集計」オプションが選択されている場合、「ロー」メニューの「売掛金元帳明細」は選択できません。 |
| 請求書の改訂履歴 | W03B0002A | 「売掛金元帳照会の処理」フォームで改訂された請求書を選び、「ロー」メニューから「改訂監査」を選択します。 請求書が改訂されている場合、「売掛金元帳照会の処理」の「改訂有無」フィールドには「1」が表示されます。 | 請求書の改訂履歴を検討します。 表示される金額は改訂された金額のみを反映しています。たとえば、「総額」フィールドに「50」と表示されている場合、金額が「50」増えたことを示します。 |
| 入金明細の処理 | W03B103B | 「売掛金元帳照会の処理」フォームで、R1(手形)を選び、「ロー」メニューから「入金/手形明細」を選択します。 | 顧客入金を検索します。 |

売掛金元帳照会 (P03B2002) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

この処理オプションでは、売掛金元帳照会 (P03B2002) を使用する際にカスタマ・セルフサービス機能を使用できるように設定します。

- 1. カスタマ・セルフサービス** Java/HTML環境でカスタマ・セルフサービス機能を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: カスタマ・セルフサービスを有効にしない。
 1: カスタマ・セルフサービスを有効にする。

通貨

この処理オプションでは、仮定通貨機能を有効にします。指定した仮定通貨コードと為替レート日付に基づいて、仮定通貨建ての金額が計算されます。

- 1. 仮定通貨** 「売掛金元帳照会の処理」フォームに「仮定通貨コード」フィールドを表示するかどうかを指定します。指定した仮定通貨と「為替レート」処理オプションで指定した日付に基づいて、国内通貨建ての金額が仮定通貨に換算され、フォームの詳細グリッドの仮定通貨建て金額カラムに表示されます。

この処理オプションをblankにすると、「仮定通貨コード」フィールドや仮定通貨建ての金額カラムは表示されません。

2. 為替レート日付

仮定通貨と国内通貨の間の為替レートを取り込むのに使用する日付を指定します。この処理オプションをblankにすると、「売掛金元帳照会の処理」フォームの終了日付フィールドで指定した日付が使用されます。この処理オプションがblankで終了日付フィールドもblankの場合は、最新の為替レートが使用されます。為替レートがない場合はエラーとなります。

バージョン

請求書を追加したり修正する際に使用する請求書入力プログラム (P03B11) のデフォルトのバージョンを指定します。

1. 請求書入力 (P03B11) バージョン

請求書入力プログラム (P03B11) のバージョンを指定します。このフィールドをblankにすると、ZJDE0001が使用されます。

2. 相殺 (P03B455) バージョン

「フォーム」メニューから「相殺」を選択した場合に実行する、相殺プログラム (P03B455) のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

3. 入金後支払 (P03B470) バージョン

「フォーム」メニューから「入金後支払」を選択した場合、または「ロー」メニューから「入金後支払明細」を選択した場合に実行する、入金後支払マニュアル・リンク・プログラム (P03B470) のバージョンを指定します。このフィールドをblankにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

売掛金元帳明細の検討

「売掛金元帳明細」フォームにアクセスします。

OK(O) 取消(L) ツール(T)





売掛金元帳照会 - 売掛金元帳明細

住所No.

3333

Continental Incorporated

親住所No.

3004

Pacific Company, The

会社番号

00001

Financial Distribution Company

伝票No./タイプ/会社

1015

R5

00001

当初伝票No.

1013

支払項目

001

総額

500.00

期日

2005/06/15

未入金額

500.00

請求書日付

2005/06/15

割引期日

2005/06/15

元帳日付

2005/06/15

割引可能額

バッチ番号

6357

有効割引額

バッチ日付

2003/03/17

ビジネスユニット

1

サービス税日付

2005/06/15

購買オーダーN

決済日付

支払回数

請求書No.

受注伝票

参照

「売掛金元帳明細」フォーム

第 11 章

自動入金処理

この章では、自動入金処理の概要と次の方法について説明します。

- 入金レコードの自動作成
- 電子入金の自動消込
- 電子入金の検討、改訂、および追加
- 電子入金の手動消込
- 電子入金の除去

注意: ブラジル、デンマーク、ノルウェー、スウェーデンおよびスイスには、自動入金処理するための国別機能が用意されています。

関連項目:

第 5 章、「自動入金処理の設定」、57ページ

自動入金処理について

入金を即座に記録することは、売掛金の基本的な処理の1つです。自動入金処理を使用すると、顧客からの入金をすばやく請求書に対して消し込んで入金処理できます。この入金処理方法では、次のことができます。

- 請求書との照合を行うかどうかにかかわらず、総勘定元帳に入金を即座に記録する。
- 顧客および会社レベルで請求書の照合方法を保存する。
- 対象となる請求書の件数を減らすために、プログラムの実行時にデータ選択条件およびデータ順序を柔軟に定義する。
- 手動で入力された未充当入金を処理する。
- 正常に処理されなかった入金を再度処理する。

自動入金処理には次のようなタスクがあります。

1. 顧客入金情報のアップロード

カスタム・プログラムまたはEDIロックボックス・プログラムを使用して、顧客の銀行のテープなどの媒体から電子入金入力テーブル (F03B13Z1) に入金情報を転送します。

2. 入金レコードの自動作成

電子入金レコードから入金情報を抽出して入金見出しテーブル(F03B13)および入金明細テーブル(F03B14)に未充当入金または仮入金レコードを作成するバッチ・プログラムを実行します。このプログラムの実行後に自動的に入金が消し込まれるように、処理オプションを設定できます。

3. 入金の自動消込

定義したアルゴリズムを使用して入金を未決済請求書に対して自動的に消し込むバッチ・プログラムを実行します。入金と請求書が正しく照合された場合、F03B14テーブルにレコードが作成されます。

4. 電子入金の検討、改訂、および追加

システムが正常に処理できなかった入金を確認し、必要な修正を行って後で処理できます。必要に応じて電子入金を追加することもできます。

5. 電子入金の除去

入金を処理した後、F03B13Z1テーブルから電子入金を除去できます。このバッチ処理によって、不要なレコードを取り除いて処理時間を短縮できます。

また、入金を手動で消し込んで、レポートで銀行振込および取引を確認できます。

入金を自動的に処理する前に、この章で説明されている設定を行う必要があります。

入金レコードの自動作成

この項では、自動入金処理の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 入金見出しの更新プログラムの実行
- 入金見出しの更新(R03B551)の処理オプションの設定

入金レコードの自動作成について

銀行のデータをF03B13Z1アップロード・テーブルにアップロードした後、入金見出しテーブル(F03B13)と入金明細テーブル(F03B14)に入金または手形レコードを作成するための処理を行う必要があります。この処理は、入金と請求書を照合する前に実行する必要があります。このバッチ・プログラムでは、次のことができます。

- 照合アルゴリズムの成功率にかかわらず、総勘定元帳の銀行勘定を更新します。
- 正常に処理されなかったレコードを修正する前にすべての入金を明らかにします。

入金見出しの更新プログラム(R03B551)を実行すると、未充当入金、手形、仮入金のいずれかのレコードが作成されます。支払人または顧客が見つからない場合、仮入金レコードが作成されます。支払人または顧客が見つかった場合は未充当入金レコードが作成されます。

入金見出しの更新プログラムを実行すると、次の処理が実行されます。

1. 自動採番プログラムから支払IDが取り込まれます。
2. F03B13Z1テーブルのバッチ・タイプ(9B)を検証します。
3. 次のように支払人番号を検索します。
 - 銀行口座フィールド(CBNK)と銀行/支店フィールド(TNST)で顧客の銀行口座情報が指定されている場合、それを使って銀行/支店マスター(F0030)から支払人の銀行レコード(レコード・タイプP)の住所録番号を検索します。

- 見つからない場合、顧客の銀行レコード(レコード・タイプC)の住所録番号を支払人として使用します(銀行情報がある場合)。
- 見つからない場合、伝票番号または汎用参照フィールド(値が指定されている場合)を使って請求書レコードから支払人番号を検索します。
- 見つからない場合、顧客番号フィールド(AN8)の値を使用します。
- 見つからない場合、対応する処理オプションの住所番号を使用します。
- 処理オプションがブランクの場合、仮入金レコードを作成します。

注意: 電子入金レコードに顧客番号が存在する場合、支払人フィールドの値が顧客番号フィールドに入力されることはありません。

4. 顧客マスター(F03012)から実行リストを取り込みます。実行リストが見つからない場合、処理オプションで指定された実行リストを使用するか、フィールドをブランクのままにします。
5. 次のように銀行勘定を取り込みます。
 - 銀行勘定略式IDフィールド(GLBA)の値を使用します。
 - GLBAがブランクの場合、「口座No.」(EHBK)と「銀行/支店コード」(EHTN)フィールドの値を使ってF0030テーブルから銀行勘定レコードを取り込みます。
 - 見つからない場合、「銀行勘定の略式ID」処理オプションの値を使用します。
 - この処理オプションがブランクの場合、指定された会社のAAI項目RBに関連付けられた勘定科目を使用します。
 - 見つからない場合、エラー・メッセージを表示します。
6. 勘定科目マスター(F0901)から会社を取り込みます。
このテーブルに会社が存在しない場合、処理オプションから会社を取り込みます。
7. 処理オプションから元帳日付を取り込みます。
8. 入金日付の形式と妥当性を検証します。
電子入金のレコード(F03B13Z1)で入金日付が指定されていない場合、元帳日付が入金日付として使用されます。
9. 処理されなかった入金を示す例外レポートを作成します。
10. バッチ制御レコード・テーブル(F0011)でバッチ・タイプ9Bのバッチ状況を転記済に更新します。
バッチ見出しレコードは、電子入金の検討プログラム(P03B121)を使って入金レコードを作成した場合のみ表示されます。
11. F0011テーブルにバッチ・タイプRBのバッチ見出しレコードを作成します。
12. F03B13テーブルに入金見出しレコードを保存します。
13. F03B14テーブルに対応する入金明細レコードを保存します。

注意: 入金見出しの更新プログラムの終了後に入金の消込プログラム(R03B50)を実行するように処理オプションで設定できます。

参照: 第 11 章、「自動入金処理」、「電子入金の自動消込」、248ページ

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 必要な売掛管理システムのAAIが設定されているかどうか確認します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定」、「売掛管理 AAI (自動仕訳) の設定」、21 ページ

- 自動入金処理の設定を確認します。

入金見出しの更新プログラムの実行

「自動入金処理」(G03B13)、「入金見出しの更新」を選択します。

入金見出しの更新 (R03B551) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、処理するレコードの値がブランクの場合の各フィールドのデフォルト値を指定します。

- 1. 元帳日付**

F03B13Z1 テーブルのレコードで日付が指定されていない場合のデフォルトの元帳日付を指定します。元帳日付が見つからない場合、レコードは処理されません。
- 2. ブランク元帳日付オプション**

F03B13Z1 テーブルで日付が指定されておらず、処理オプションでも元帳日付が指定されていない場合に元帳日付として使用する日付を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: システム日付を使用します。

1: 電子入金入力レコードのバッチ日付を使用します。
- 3. 会社**

F03B13Z1 のレコードで指定されていない場合のデフォルトの会社を指定します。会社番号が見つからない場合、レコードは処理されません。
- 4. 銀行勘定の略式ID**

F03B13Z1 のレコードで指定されていない場合のデフォルトの銀行勘定の略式IDを指定します。

勘定科目マスター (F0901) のレコードで勘定科目に割り当てられている 8 桁の略式IDを指定してください。たとえば、1.1110.BEAR の略式IDは00000108です。

銀行勘定が見つからない場合、レコードは処理されません。
- 5. クラークID**

F03B13 レコードの入力者として使用する担当者のIDを指定します。このIDを使用して、入金の消込プログラム (R03B50) のデータを選択し、処理する入金を指定できます。

この処理オプションをブランクにすると、このプログラムを実行した担当者のユーザーIDが使用されます。
- 6. 住所番号**

入金の支払人が検索できなかった場合に使用する住所番号を指定します。銀行口座情報、請求書情報、または電子入金処理で指定した顧客番号から支払人の検索が行われます。この処理オプションをブランクにすると、支払人として使用する住所番号が検索できない場合は仮入金が作成

され、入金入力プログラム(P03B102)使って支払人を手動で入力する必要があります。

7. 受取手形勘定

手形を総勘定元帳に転記する際に使用する受取手形勘定を指定します。標準の勘定科目コード形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で入力してください。ブランクの場合、AAI項目RD1x(xは顧客レコード(F03012)で指定されている支払手段)に関連付けられている勘定科目コードが使用されます。

8. 手形満期日

手形の満期日を指定します。ブランクの場合、入金日付が満期日となります。F03B13Z1テーブルの入金日付フィールドがブランクの場合、入金日付と手形の満期日には元帳日付が使用されます。

9. 実行リスト

顧客レコードに実行リストが指定されていない場合に、入金(F03B13)に割り当てられる実行リストを指定します。この処理オプションがブランクで、顧客レコードに実行リストが設定されていない場合は、実行リストなしで入金レコードを作成します。

10. 未充当入金のデフォルト相手勘定

顧客レコード(F03012)の相手勘定を未充当入金レコードの未充当相手勘定・フィールド(GLC)のデフォルト値として使用するかどうかを指定します。売掛金勘定は、使用する相手勘定に基づいて検索されます。値は次のとおりです。

ブランク: 顧客レコードの値を使用しない。

1: 顧客レコードの相手勘定を使用する。顧客レコードに相手勘定が設定されていない場合、UCがデフォルト値として使用されます。

処理

この処理オプションでは、アップロードする入金のタイプおよび対応する仕訳の作成方法を指定します。

1. 手形のアップロード

入金レコードまたは手形レコードを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入金レコードを作成する。

1: 手形レコードを作成する。

2. 処理する電子入金

すべての電子入金レコードを処理するか、アップロード状況がBの電子入金レコードのみ処理するかどうかを指定します。この処理オプションは、エラーとして処理された入金を再処理する場合に便利です。値は次のとおりです。

ブランク: すべての電子入金レコードを処理する。

1: アップロード状況がBの電子入金レコードのみ処理する。

3. 仕訳の作成形式

入金バッチに対して1件の集計仕訳を作成するか、各入金に対してそれぞれ仕訳を作成するかを指定します。この処理オプションで設定した値は、F03B13テーブルの売掛金転記フィールド(ISTR)に割り当てられます。転記プログラムでは、この値を使って仕訳レコードが作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: 集計仕訳を作成する。転記する入金バッチごとに、伝票タイプRKの仕訳が1件作成されます。仕訳の伝票番号には入金のバッチ番号が割り当てられます。この方法を使用するには、次の事項を確認する必要があります。

- 売掛管理固定情報の売掛金集計方式がB(バッチ・モード)に設定されている。
- 一般会計固定情報の会社間決済オプションが2(詳細)に設定されている。
- バッチに外貨建て取引が含まれていない。

条件を満たしていない場合、仕訳は明細形式で作成されます。

1: 明細仕訳を作成する。バッチに含まれる入金ごとに、伝票タイプRCの仕訳が作成されます。入金仕訳の伝票番号は、仕訳入力(システム09)の自動採番によって自動的に割り当てられます。

監査証跡を記録するために、入金明細テーブル(F03B14)の次のフィールドは仕訳の情報で更新されます。

- 仕訳伝票タイプ(RZDCTG)
- 仕訳伝票番号(RZDOCG)
- 仕訳伝票会社(RZKCOG)

バージョン

この処理オプションでは、入金の消込プログラム(R03B50)を自動的に実行するかどうかと、その際使用するバージョンを指定します。

1. 入金の消込プログラム(R03B50)の実行

入金見出しの更新プログラムの終了時に、入金の消込プログラム(R03B50)を自動的に実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 入金の消込プログラム(R03B50)を自動的に実行しない。

1: 入金の消込プログラム(R03B50)を自動的に実行する。

注意: blankにした場合、入金の消込プログラムは手動で実行する必要があります。

2. 入金消込のバージョン

使用する入金の消込プログラム(R03B50)のバージョンを指定します。blankにすると、入金の消込プログラムのバージョンXJDE0001が使用されます。

注意: 入金の消込プログラムの実行の処理オプションがblankの場合、この処理オプションは無視されます。

更新

この処理オプションでは、入金見出しテーブル(F03B13)で特定の情報をどのように更新するかを指定します。

1. 銀行口座情報

電子入金入力テーブル(F03B13Z1)のレコードに指定された情報で、銀行/支店マスター(F0030)の銀行口座レコードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: F0030テーブルを更新しない。

1: F0030テーブルを更新する。

2. 銀行参照タイプ

顧客または支払人のF0030テーブルの銀行口座情報を更新するかどうかを指定します。この処理オプションが有効なのは、「銀行口座情報」処理オプションに1を入力した場合のみです。値は次のとおりです。

ブランク: 支払人の銀行/支店マスターのレコードを更新する。

C: 顧客の銀行/支店マスターのレコードを更新する。

3. 請求書番号

F03B13Z1テーブルの支払人フィールドがブランクで、F0030テーブルでも支払人が見つからない場合に、売掛金元帳(F03B11)から支払人を検索する順序を指定します。次の5つのフィールドで検索できます。

- 請求書番号
- 受注オーダー番号
- 顧客参照
- 計算書番号
- 出荷番号
- 入金照合参照番号1

有効値は、ブランク、1、2、3、4、5および6です。ブランクにしたフィールドは検索には使用されず、指定したその他のフィールドが使用されます。5つのフィールドをすべてブランクにした場合、すべての検索方法が表示されている順序で使用されます。

これらのフィールドで検索する前に、F03B13Z1テーブルの顧客の銀行口座番号または銀行/支店コードを使って支払人が検索されます。銀行/支店マスターで最初に支払人レコード(タイプP)が検索され、次に顧客レコード(タイプC)が検索されます。

F0030テーブルで支払人が見つからず、伝票番号または汎用照合フィールドのどちらかに値がある場合、この処理オプションで指定されたフィールドを使って売掛金元帳から支払人が検索されます。たとえば、「請求書番号」処理オプションを1、「受注オーダー番号」処理オプションを4、「顧客参照番号」処理オプションを2、「計算書番号」処理オプションを3にした場合、最初に「伝票No.」または「汎用照合」フィールドと請求書番号が照合されます。伝票番号と汎用照合フィールドのどちらも請求書番号と一致しない場合、次に顧客参照番号、計算書番号、受注オーダー番号の順に一致する番号が見つかるまで検索されます。

指定したフィールドを使って支払人番号が見つからない場合、または伝票番号と汎用照合フィールドがブランクの場合、F03B13Z1テーブルの顧客番号が支払人として割り当てられます。

「顧客」フィールドがブランクの場合、「デフォルト」タブの処理オプション6(住所番号)の値が使用されます。

処理オプション6がブランクの場合、仮入金が作成され、支払人を手動で入力する必要があります。

4. 未決済金額の処理

売掛金元帳テーブル(F03B11)の手形請求書レコード(伝票タイプR1)を未決済金額とともに作成するかどうかを指定します。この処理オプションによって、手形を年齢調べの対象とできるかどうかが決まります。未決済金額なしで手形を作成した場合、入金処理や年齢調べでその手形は選択できません。値は次のとおりです。

ブランク: 未決済金額とともに手形請求書レコード(R1)を作成する。

1: 未決済金額なしで手形請求書レコード(R1)を作成する。

注意:「処理」タブの「手形のアップロード」処理オプションで1を設定した場合のみ、この処理オプションは使用されます。

電子入金の自動消込

この項では、自動入金消込の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 入金の消込プログラムの実行
- 入金の消込(R03B50)の処理オプションの設定

関連項目:

第 9 章、「入金処理」、「入金の承認および転記」、225 ページ

自動入金処理について

未充当入金、手形、仮入金を作成した後、入金を消し込むために入金の消込プログラム(R03B50)を実行する必要があります。このプログラムは、実行リストで設定されたアルゴリズムと入金レコードの情報に基づいて、入金を請求書(1件または複数含まれるグループ)と照合するために必要な情報を決定します。

入金の消込プログラムを実行すると、システムは次の処理を行います。

- 顧客レコードに実行リストが設定されている場合は顧客レコードから、設定されていない場合は処理オプションの値を使って入金見出しテーブル(F03B13)のレコードを更新します。
- 実行リストで最初に見つかったアルゴリズムのプログラム番号で入金レコードを更新します。
- 必要に応じて、対応する電子入金(F03B13Z1)の請求書情報を取り込み、既知請求書照合アルゴリズム(R03B50DまたはR03B50E)によって入金の自動消込を実行します。
- 入金または手形レコードが転記済の場合、新しいバッチを作成します。転記済でない場合は元のバッチを再び未処理に戻します。
- エラーがある場合、エラーレポートを作成します。
- 入金レコードの入金状況フィールド(ASTA)を次のいずれかの値に更新します。
 - 1: 入金見出しの更新プログラム(R03B551)によって入金を作成された。
 - 2: 入金の消込プログラムが実行されたが、入金は消し込まれなかった。
 - 3: 入金は正しく消し込まれた。

プログラムによって入金の消込が行われなかった場合、電子入金レコードの情報を修正してもう一度自動的に処理するか、入金入力プログラムを使って手動で消し込むことができます。

入金の消込を行った後、その入金バッチを転記して総勘定元帳を更新する必要があります。

前期間に作成された入金の消込

未充当入金の元帳日付の期間が、請求書で指定された元帳日付の期間よりも前の場合、一般会計固定情報で「PBCO(過去期間)転記の許可」オプションを選択しないかぎり、入金の消込プログラムは入金の消込を行いません。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計固定情報の設定」

クレジット・メモを含め、支払項目が複数ある請求書に対する入金の消込

支払項目が複数ある請求書に対する入金の場合、電子入金レコードで支払項目を指定する必要があります。そうしないと、最初の支払項目とのみ消込が行われるため、再請求、損金、小額消去などの不要なレコードが作成される場合があります。

または、既知請求書照合(金額指定あり)プログラム(R03B50D)のアルゴリズムの次に既知請求書照合(金額指定なし)プログラム(R03B50E)のアルゴリズムを含むよう実行リストを設定してください。支払項目を指定しなくても、システムは未決済請求書を検索して入金を消し込むことができます。

参照: 第 5 章、「自動入金処理の設定」、「アルゴリズムについて」、60ページ

事前設定

実行するアルゴリズムの処理オプションが正しく設定され、システムが作成する小額消去、損金、再請求レコードに必要な理由コードが含まれていることを確認してください。

参照: 第 5 章、「自動入金処理の設定」、「アルゴリズムについて」、60ページ

入金の消込プログラムの実行

「自動入金処理」(G03B13)、「入金の消込」を選択します。

注意: 入金見出しの更新プログラム(R03B551)の処理オプションの「バージョン」タブを設定すると、入金レコードを作成した後でこのプログラムを自動的に実行するよう指定できます。

入金の消込(R03B50)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト処理

この処理オプションでは、入金の消込方法を指定します。

1. 実行リスト

顧客レコードまたは入金の実行リストが指定されていない場合に使用する、デフォルトの実行リストを指定します。使用する実行リストは次の順序で検索されます。

1. 入金で指定された実行リスト。
2. 顧客レコードで指定された実行リスト。
3. 処理オプションで指定された実行リスト。
4. 前述の順で検索して見つからない場合、入金の消込は行われません。

2. 未充当入金のデフォルト相手勘定

顧客レコード(F03012)の相手勘定を未充当入金レコードの未充当相手勘定・フィールド(GLC)のデフォルト値として使用するかどうかを指定します。売掛金勘定は、使用する相手勘定に基づいて検索されます。値は次のとおりです。

ブランク: 顧客レコードの値を使用しない。

1: 顧客レコードの相手勘定を使用する。顧客レコードに相手勘定が設定されていない場合、UCがデフォルト値として使用されます。

3. 入金の元帳日付の一時変更

入金見出しレコード(F03B13)の元帳日付とは異なる自動入金を処理するために元帳日付を使用するかどうかを指定します。支払われる請求書より前の会計期間に入金がある場合、元帳日付を一時変更することもできます。値は次のとおりです。

ブランク: 入金の元帳日付を一時変更しない。

1: 入金の元帳日付を一時変更する。

注意: 入金バッチが転記された場合のみ、元帳日付が一時変更されます。手形の場合、受取サービスを転記する必要があります。

4. 一時変更元帳日付

「入金の元帳日付の一時変更」処理オプションで元帳日付の一時変更を指定した場合、使用する元帳日付を指定します。

処理オプション

この処理オプションでは、手形や手入力による入金、前回処理されなかった自動入金を処理するかどうかを指定します。

1. 手形処理

手形レコードと入金レコードのどちらを選択するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入金レコードを選択する。

1: 手形レコードを選択する。

2. 入金処理

入金入力プログラム(P03B102)またはスピード入金入力プログラム(P03B0001)のいずれかで手入力された未充当入金を処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 自動入金プログラムで作成された入金のみ処理する。

1: 作成したプログラムにかかわらずすべての入金を処理する。この処理オプションを1に設定した場合、自動入金を処理するために顧客レコードを設定する必要があります。

3. 未照合入金の処理

このプログラムを前回実行したときに正常に消し込まれなかったために作成された未充当入金を処理するかどうかを指定します。入金を自動的に消し込むことができない場合、自動入金状況フィールド(ASTA)は2に更新されます。値は次のとおりです。

ブランク: 自動入金状況が2のレコードを処理しない。

1: 自動入金状況が2のレコードを処理する。

電子入金の検討、改訂、および追加

この項では、電子入金の検討プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 電子入金の追加
- バッチのアップロード状況の変更

関連項目:

付録 B、「自動入金処理のためのフィールドのマッピング」、531 ページ

電子入金の検討プログラムについて

システムには、必要に応じて F03B13Z1 テーブルのレコードを照会、修正したり、レコードを追加する機能が備わっています。次のような理由で電子入金レコードの修正や追加が必要になる場合があります。

- 入金見出しの更新プログラム (R03B551) の実行時に、F03B13 テーブルにレコードを作成するために必要な情報が銀行テープになかった。
- 銀行テープから入金情報のアップロード中に起きた停電などの問題により、入金レコードが見つからない。
- 既知請求書照合プログラム (R03B50D および R03B50E) のアルゴリズムによって取り込まれた請求書情報が正しくない。
- 除去プログラムで削除対象となるようにレコードの状況を更新する必要がある。たとえば、F03B13Z1 テーブルで重複するレコードがある場合や、データが壊れている場合など。
- 誤って処理したレコードのバッチの状況を更新する必要がある。

電子入金の検討プログラムを使って、F03B13Z1 テーブルのレコードを修正したり、新しいレコードを追加できます。

電子入金を修正する場合、バッチ番号、バッチ日付、入金番号は変更できません。

電子入金を修正または追加した後、システムによって適切なテーブルに適切なレコードが作成されるように、それらを処理する必要があります。アプリケーションには必要なプログラムを直接実行できる「フォーム」メニューがあります。

未充当入金

処理が正常に完了しなかった入金レコード (未充当入金レコードは作成されたが請求書照合は実行されていない) を再度処理するには、最初に次のことを行ってください。

- 入金入力プログラムを使って未充当入金を削除します。
- 電子入金レコードを修正します。
- 「アップロード状況」フィールドをブランクまたは B に変更します。

参照: 第 11 章、「自動入金処理」、「バッチのアップロード状況の変更」、253 ページ

顧客番号の変更

指定した銀行口座情報から取り込まれた支払人番号と異なる顧客番号を入力し、(請求書の伝票番号または「汎用照合」フィールドのいずれかを使って) 請求書情報を指定した場合、システムが作成する入金レコードには顧客番号ではなく支払人番号が割り当てられます。

請求書情報を指定しない場合は、支払人番号ではなく顧客番号が割り当てられます。

電子入金の削除

1 件の電子入金レコードを削除しても、その入金番号のすべてのレコードが削除されるわけではありません。このため、レコードを 1 件削除した場合は、システムで入金を照合するためにその他のレコードの変更が必要になることもあります。

たとえば、入金444が2件の請求書に対する支払の場合、「電子入金入力の処理」フォームには2件のレコードが表示されます。入金額は最初のレコードにのみ入力するため、最初のレコードを削除した場合、入金額を含めるよう2件目のレコードを修正する必要があります。

電子入金の照会、改訂、および追加に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-------------|----------|---|---|
| 電子入金入力の処理 | W03B121A | 「自動入金処理」(G03B13)、「電子入金 の検討」 | F03B13Z1テーブルの電子 入金レコードを検索および 削除します。 |
| 電子入金入力の改訂 | W03B121C | 「電子入金入力の処理」 フォームで、検討する入金 を選択して、「選択」をク リックします。 | F03B13Z1テーブルの電子 入金レコードを検討および 改訂します。 |
| 電子入金入力 | W03B123A | 「電子入金入力の処理」 フォームで、「追加」をク リックします。 | F03B13Z1テーブルに電子 入金レコードを追加します。 |
| 電子入金入力状況の改訂 | W03B124A | 「電子入金入力の処理」 フォームで、「フォーム」メ ニューから「入力状況の改 訂」を選択します。 | バッチのアップロード状況 を変更します。 |

電子入金の追加

「電子入金入力」フォームにアクセスします。

電子入金の検討 - 電子入金入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

会社番号 00001 Financial Distribution Company バッチ番号 7917

元帳日付 2005/06/30 バッチ日付 2009/03/12

備考 Daily Deposit 支払手段

銀行勘定科目 1.1110.BEAR Bear Creek National Bank

予定金額 5600.00 合計残高 5,600.00

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

| トランザクション No. | 行 No. | 入金 No. | 顧客 No. | 通貨 コード | 入金 総額 | 入金 日付 | 参照 |
|-----------------|----------|-----------|-----------|-----------|----------|------------|----|
| 159 | | 1005 | 3001 | EUR | 5,600.00 | 2005/06/17 | |

「電子入金入力」フォーム

複数の請求書に対する入金の場合、最初の行のみ「入金総額」フィールドに入力してください。次に例を示します。

| トランザクションNo. | 行No. | 入金No. | 顧客 | 総額 | 伝票タイプ | 伝票No. | 請求金額 |
|-------------|------|-------|------|-----|-------|-------|------|
| 123 | 1 | 456 | 4343 | 800 | RI | 4455 | 400 |
| 123 | 2 | 456 | 4343 | | RI | 4456 | 300 |
| 123 | 3 | 456 | 4343 | | RI | 4457 | 100 |

結果: 入金処理時に入金見出しテーブル (F03B13) には金額「800」のレコードが1件作成されます。

マイナスの金額は入力しないでください。マイナスの金額は請求書に対して消し込むことができません。

| | |
|--------------------|--|
| 予定金額 | 入金予定の金額を入力します。 |
| トランザクションNo. | トランザクションを特定する番号を入力します。 |
| 入金総額 | 入金または支払の実績金額を入力します。 |
| 通貨コード | 入金の通貨コードを入力します。ブランクの場合、フォームの見出しに入力した会社の通貨コードが割り当てられます。 |
| 行No. | EDITランザクションの開始時に割り当てる行番号を入力します。この番号には、オーダー行番号 (どのオーダー・タイプにも使用可)、請求書の支払項目、仕訳行番号などを指定できます。 |
| 伝票タイプ | 既知請求書照合アルゴリズムを使用する場合、請求書の伝票タイプを入力します。 |
| 伝票番号 | 既知請求書照合アルゴリズムを使用する場合、請求書の伝票番号を入力します。 |
| 消込総額 | 既知請求書照合 (金額指定あり) アルゴリズムを使用する場合、支払対象となる請求書の金額を入力します。 |
| 計算書No. | このフィールドに入力した値はすべて無視されます。計算書番号を使って請求書照合を行うには、「汎用照合」フィールドに値を入力してください。 |
| 支払人銀行 | 入金決済を管理するため連邦準備制度により特定の銀行へ割り当てられる番号を表します。 |
| 支払人口座No. | 会社、顧客、または仕入先の銀行口座番号を識別するために銀行によって割り当てられた番号を表します。 |

注意: 北欧諸国のユーザー: 取引銀行、Bankgiro、またはPostgiroの口座番号を入力します。

バッチのアップロード状況の変更

「電子入金入力状況の改訂」フォームにアクセスします。

1. 「バッチ番号」と「バッチ日付」フィールドに値を入力して、「検索」をクリックします。

アップロード状況がブランク (未処理)、E (エラー)、Y (アップロード済) のいずれかのバッチのみ表示されます。

2. アップロード状況を変更するレコードを含むバッチを選び、「状況をアップロードに設定」オプションまたは「状況を除去に設定」オプションのいずれかのオプションをクリックして、「選択」をクリックします。

選択したバッチにはチェックマークが表示されます。選択を解除するにはもう一度「選択」をクリックしてください。

3. 「閉じる」をクリックします。
4. 適切な出力オプションを指定して「OK」をクリックします。

更新されなかったレコードを示すレポートが作成されます。レポートがブランクの場合、バッチ内のすべてのレコードは指定したアップロード状況に更新されています。

状況をアップロードに設定 このオプションを選択するとアップロード状況がBに変更されます。

状況を除去に設定 このオプションを選択するとアップロード状況がYに変更されます。

電子入金の手動消込

入金の消込プログラムで入金レコードの消込が行われなかった場合、入金入力プログラムを使って手動で入金を消し込むことができます。入金を自動的に消し込むことができない場合、「自動入金状況」フィールド(ASTA)は2に更新されます。これらの入金のみ検索するには、「入金照会」フォームでQBE(例示照会プログラム)ローの「入金状況」フィールドに2を入力して「検索」をクリックします。そして、未充当入金とを消し込むステップに従います。

参照: 第 11 章、「自動入金処理」、「バッチのアップロード状況の変更」、253ページ

電子入金の除去

この項では、電子入金プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 電子入金の除去プログラムの実行
- 電子入金の除去(R03B0041A)の処理オプションの設定

電子入金の除去プログラムについて

処理時間の短縮とディスク・スペースの節約のために、銀行からJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに転送した入金レコードを削除してください。処理オプションで除去するレコードを指定できます。

電子入金を除去すると、F03B13Z1テーブルからのみレコードが削除されます。

重要: 正常に処理された入金レコードのみ削除するよう処理オプションが設定されていることを確認してください。正常に処理された入金レコードは、アップロード状況フィールド(RUEUPS)がYになっています。処理オプションを正しく設定しないと、請求書と照合していない入金レコードが削除されてしまう場合があります。

除去処理が完了した後、関連テーブルを最適化してインデックスを再作成できます。この処理の詳細は、データベース管理者に問い合わせてください。

電子入金の除去プログラムの実行

「自動入金処理」(G03B13)、「電子入金の除去」を選択します。

電子入金の除去(R03B0041A)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、アップロード状況フィールド(EUPS)がYになっている場合にのみ除去するレコードを指定します。

1. レコードの除去

現在のアップロード状況にかかわらず、入力したデータ選択に基づいてF03B13Z1テーブルのレコードを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: アップロード状況フィールド(EUPS)がYになっている場合にのみ、データ選択で指定されたレコードを除去します。

1: アップロード状況フィールドの値にかかわらず、データ選択で指定されたレコードを除去します。

第 12 章

受取手形の処理

この章では、受取手形、受取手形のタイプ、受取手形の処理ステップ、および手形処理と総勘定元帳の概要と、次の方法について説明します。

- 手形の振出
- 手形の受取
- 受取手形の承認と転記
- 手形の改訂、削除、および無効化
- 手形の取立
- 手形の残高不足 (NSF) 指定
- 手形の回収

注意: スペインには、受取手形を処理するための国別機能が用意されています。

関連項目:

[第 4 章、「受取手形の設定」、49ページ](#)

受取手形について

手形は、支払人の取引銀行と受取人の取引銀行との間で直接決済される支払手段です。ほとんどの国で、手形は債務に対する支払約束を意味します。支払義務を履行するために手形を使用する場合、基本的な債務に関する法的要件を満たす必要があります。このため、手形はそれ以外の支払および債務とは分けて分類、管理、レポート作成を行う必要があります。手形処理は多くの国で使用されていますが、支払手段は手形とは別の言い方をされる場合があります。たとえば、通常、アジア太平洋地域では手形処理は先日付小切手に使用されます。米国では、クレジット・カード支払に使用されます。

手形は、自社側が振り出すことも顧客側が振り出すこともできます。どちらの場合もシステムに手形を入力し(手形の受取とも呼びます)、手形代金を回収するために手形を銀行に持ち込み、回収したらそれを記録する必要があります。手形は、満期日より前に割り引いて現金化したり、偶発債務として計上できます。

受取手形のタイプについて

手形の各タイプは、特定の支払手段に対応しています。各タイプは次のような2つのカテゴリに分けられます。

手入力手形

手入力手形は、銀行に持ち込む前に顧客が引き受ける必要があることから、顧客引受手形とも呼ばれます。次のタイプの手入力手形が使用できます。

- 自社が銀行口座情報を明記して手形を印刷する。
- 自社が銀行名のみを明記して手形を印刷する。
- 顧客が銀行口座情報を明記して手形を印刷する。
- 顧客が銀行名のみを明記して手形を印刷する。

銀行名のみが明記されている手形と銀行口座情報が明記されている手形は区別されます。これは、口座情報がない手形の決済には追加の手数料がかかることが多いからです。

自動手形

自動手形は、顧客が引き受ける必要がないことから、事前承認手形とも呼ばれます。自社と顧客との間で、顧客側が手形を使用して支払う旨を事前に同意します。

受取手形の処理ステップについて

手形は、様々な処理ステップが必要な支払手段です。各ステップでは、紙や電子データのレコードが作成されるだけでなく、ステップごとに仕訳も作成されます。

手形の振出

手形処理は、自社または顧客が手形を振り出す（印刷する）ところから開始します。手形には、支払金額や満期日、銀行情報の他、特定の債務（請求書）に関する情報などが記載されます。

手形は、手形付きの請求書または手形付きの計算書を印刷することによって作成します。顧客によっては、請求書ごとに手形を要求することもあれば、複数の請求書をまとめた計算書に対して1枚の手形を要求する場合があります。手形は、請求書か計算書に添付して送ることができます。

このステップにより、売掛金元帳の手形番号（計算書番号）が更新されますが、総勘定元帳はこの影響を受けません。

次の表は手形の振出処理の結果を示しています。この場合、計算書を作成すると売掛金元帳テーブル（F03B11）に請求書レコードが作成されます。顧客が手形を作成した場合は、このステップを省略できます。

| 顧客番号 | 伝票タイプ | 伝票番号 | 伝票金額 | 計算書番号 |
|------|-------|------|--------|-------|
| 7001 | RI | 1234 | 10,000 | 10005 |

手形の受取

顧客が手形を引き受けた後で手形を入力します。顧客が引き受けるまでは手形に法的効力はありません。手形の引受が完了すると、請求書の状況が変更されます。手形の取扱は、国ごとに若干異なる場合があります。

手入力手形の場合に顧客による手形の引受を得る際、顧客側は次の方法を使用して手形を引き受けることができます。

- ・ 自社が振り出した手形に署名して返送する。
- ・ 自社が振り出した手形の日付、金額、銀行などを変更し、署名して返送する。
- ・ 顧客自身が振り出して署名した手形を自社に送付する。

自動手形の場合は、事前に引受の合意が成立しているため、顧客による手形の引受けを得る必要はありません。

手形の受取には、システムでの手形入力も含まれます。手動で手形を処理する場合、手形を入力して適切なレコードを作成します。手形を自動的に処理する場合は、適切な手形レコードがシステムによって作成されます。

手形を手動で作成するか自動的に作成するかにかかわらず、システムでは次の処理が行われます。

- ・ 入金見出しテーブル (F03B13) と入金明細テーブル (F03B14) にレコードが作成されます。
- ・ 請求書の支払状況が P (支払済) に変更されます。
- ・ F03B11 テーブルに請求書レコード (伝票タイプ R1) が作成されます。

次の表は F03B11 テーブルにおける手形の受取処理の結果を示しています。

| 顧客番号 | 伝票タイプ | 伝票番号 | 伝票金額 | 支払状況 | 支払手段 |
|------|-------|-------|--------|------|------|
| 7001 | RI | 1234 | 10,000 | P | 2 |
| 7001 | R1 | 10005 | 10,000 | D | 2 |

手形を入力したら、それを総勘定元帳に転記する必要があります。手形を転記すると、(借) 受取手形勘定 / (貸) 売掛金勘定の仕訳が作成されます。

手形の取立 (任意)

手形の取立は次のステップで実行します。

1. 顧客の銀行から手形代金を回収するためには、取引銀行に手形を持ち込み (預け入れ) ます。手形の持込みは、電子的に処理する他、手形登録明細などのような用紙を使って処理できます。手形を持ち込むと、手形請求書レコード (伝票タイプ R1) の支払状況は G に更新されます。

次の表は売掛金元帳における手形の取立処理の結果を示しています。

| 顧客番号 | 伝票タイプ | 伝票番号 | 伝票金額 | 支払状況 | 支払手段 |
|------|-------|-------|--------|------|------|
| 7001 | R1 | 10005 | 10,000 | G | 2 |

2. 次の仕訳が自動的に作成されます。この仕訳は転記する必要があります。
 - ・ (借) 取立手形 / (貸) 受取手形
 - ・ (借) 割引取立手形 / (貸) 受取手形 - 割引手形として持ち込んだ場合
 - ・ (借) 割引取立手形、銀行勘定 / (貸) 受取手形、偶発債務 - 偶発債務を伴う手形として持ち込んだ場合
3. 次のいずれかの方法で手形代金の回収を行う手配をします。
 - ・ 手形の満期日まで待つ。

- 手形を満期日前に銀行に持ち込んで現金化する。一般に、満期日前に銀行から手形の支払を受けた場合、手数料が請求されます。

注意: 国によって、手形の持込は任意のプロセスです。

手形の回収

手形の回収は次のステップで実行します。

1. 手形の満期日に、取引銀行によって顧客の銀行から手形代金が回収されます。回収不能の場合は取引銀行から連絡を受けます。
2. 満期日が到来したら、自社と顧客の両方で資金の移動を計上します。手形の回収を処理するプログラムを実行すると、手形請求書レコードの支払状況は回収済に更新されます。

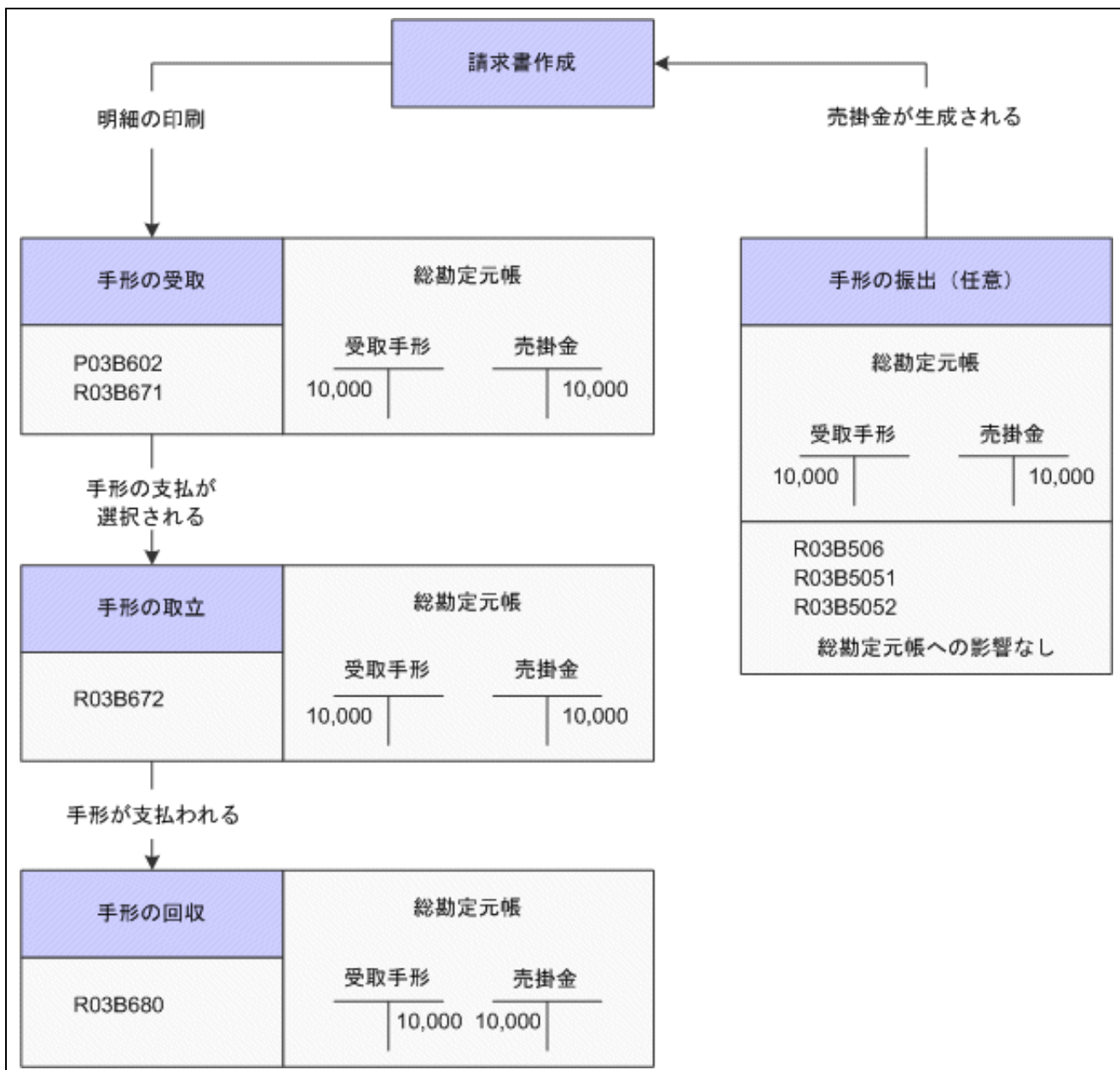
次の表はF03B11テーブルにおける手形の回収処理の結果を示しています。

| 顧客番号 | 伝票タイプ | 伝票番号 | 伝票金額 | 支払状況 | 支払手段 |
|------|-------|-------|--------|------|------|
| 7001 | R1 | 10005 | 10,000 | P | 2 |

3. 次の仕訳が自動的に作成されます。この仕訳は転記する必要があります。
 - (借)銀行勘定 / (貸)取立手形
 - (借)銀行勘定 / (貸)割引取立手形 – 割引手形として持ち込んだ場合
 - (借)偶発債務 / (貸)割引取立手形 – 偶発債務を伴う手形として持ち込んだ場合

手形処理と総勘定元帳について

次の図は、手形処理の各段階における総勘定元帳への影響を示しています。



手形処理の総勘定元帳への影響

手形の振出

この項では、手形付き請求書、手形付き計算書、および手形の支払期日別計算書の概要とともに、事前設定と次の方法について説明します。

- 手形付き請求書の印刷
- 請求書印刷(手形)(R03B5051)のデータ選択とデータ順序の設定
- 請求書印刷(手形)(R03B5051)の処理オプションの設定
- 手形付き計算書の印刷

- 計算書データの再作成 (R03B500X) のデータ選択とデータ順序の設定
- 計算書データの再作成 (R03B500X) の処理オプションの設定
- 計算書の印刷 (手形付き) (R03B506) の処理オプションの設定
- 支払期日別手形計算書の印刷

注意: 手形のデフォルト形式は、フランス銀行協会の形式に準拠します。その他の国では、その国ごとの仕様に従って形式を変更することが必要な場合があります。

手形付き請求書について

手形を添付して請求書やクレジット・メモを印刷するには、請求書印刷 (手形) (R03B5051) プログラムを使用します。各バージョンを選択して、延滞利息金や再請求のみを印刷することもできます。

手形とともに請求書を印刷すると、請求書には手形番号が割り当てられ、請求書レコードの計算書番号フィールド (CTL) がこの番号に更新されます。添付の手形には、顧客の銀行口座番号と手形番号が印刷されます。

このプログラムでは、F03B11 テーブルのレコードが印刷、更新されます。

手形付き計算書について

1つの手形にまとめられた請求書を含む計算書を印刷するには、手形処理用に設定された計算書データの再作成プログラム (R03B500X) のバージョンを使用します。

手形を含む計算書を印刷すると、計算書には手形番号が割り当てられ、請求書レコードの計算書番号フィールド (CTL) が更新されます。添付の手形には、顧客の銀行口座番号と手形番号が印刷されます。

このプログラムでは、F03B11 テーブルのレコードが印刷、更新されます。

支払期日別手形計算書について

1つの手形にまとめられた請求書を含む計算書を印刷するには、手形処理用に設定された計算書データの再作成プログラムのバージョンを使用します。手形を含む計算書を印刷すると、計算書には手形番号が割り当てられ、請求書レコードの計算書番号フィールド (CTL) が更新されます。

この処理オプションを使用して、計算書に印刷する請求書を支払期日別に選択します。これにより、支払期日と通貨コード別の各請求書グループに対して新しい計算書が作成されます。手形の計算書には銀行手形コードと顧客の銀行口座番号が印刷され、必要に応じて手形番号も印刷されます。

F03B11 テーブルのレコードが更新されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 手形を含む請求書を印刷するには、「顧客マスターの改訂」フォームの「請求書」タブで、手形を含む請求書に請求先と住所を印刷するための正しい値が「請求書送付先」フィールド (SITO) に設定されていることを確認してください。
- 手形を含む計算書を印刷するには、次の処理を実行してください。
 - 「顧客マスターの改訂」フォームの「回収」タブで、手形を添付して計算書を印刷する各顧客の「計算書の印刷」チェックボックスを選択してください。

- 計算書データの再作成プログラム (R03B500X) の処理オプションで、手形の印刷オプションを有効に設定し、印刷プログラム・オプションを計算書の印刷 (手形付き) プログラム (R03B506) に指定してください。

手形付き請求書の印刷

「手形日次処理」メニュー (G03B161) から「請求書の印刷 (手形あり)」を選択します。

請求書印刷 (手形) (R03B5051) のデータ選択とデータ順序の設定

顧客レコードに支払手段を割り当てる場合、データ選択を使って特定の支払手段の請求書レコードのみを選択できます。たとえば、「支払手段 = (等しい) D (請求書別手形)」と設定すると、通常の支払手段として手形を使用している顧客の請求書のみが選択されます。

データ順序は、次のように設定する必要があります。

- 会社
- 住所番号
- 伝票番号 (伝票、請求書など)
- 伝票タイプ
- 伝票会社
- 伝票支払項目

この順序を変更すると、合計が正しく計算されません。

請求書印刷 (手形) (R03B5051) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷オプション

この処理オプションを使用して、使用する日付と、税額を請求書に印刷するかどうかを指定します。

1. 請求書印刷日付 請求書に印刷する日付を指定します。空白にすると、システム日付が使用されます。
2. 税額の印刷 請求書に税額を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 税額を印刷しない。
1: 税額を印刷する。

通貨オプション

この処理オプションでは、請求書に通貨情報を印刷するかどうかを指定します。

1. 通貨の印刷 金額を国内通貨と外貨のどちらで請求書に印刷するかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 通貨コードなしで国内通貨で印刷する。
1: 通貨コードとともに外貨で印刷する。

この処理オプションでは、関連する汎用テキストを請求書に印刷するかどうかを指定します。

請求書レコードの汎用テキスト(添付)を請求書に印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 汎用テキストを印刷しない。

1: 汎用テキストを印刷する。

この処理オプションでは、請求書の発行元の市を指定します。

手形に印刷する市町村を指定します。この処理オプションを空白にすると、手形に市町村は印刷されません。

「手形目次処理」メニュー(G03B161)から「計算書の印刷(手形あり)」を選択します。

顧客レコードに支払手段を割り当てる場合、データ選択を使って特定の支払手段の請求書レコードのみを選択できます。たとえば、“支払手段 = (等しい)F(計算書別手形)”と設定すると、通常の支払手段として手形を使用している顧客の請求書のみが選択されます。

データ順序は、次のように設定する必要があります。

- ・ 代替受取人住所番号
- ・ 会社
- ・ 通貨コード(開始)
- ・ 住所番号
- ・ 伝票番号(伝票、請求書など)
- ・ 伝票タイプ
- ・ 伝票会社
- ・ 支払項目

この順序を変更すると、計算書の合計が正しく計算されません。

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

この処理オプションでは、顧客に対して、すべての会社のレコードを含んだ計算書を作成するか、会社別の計算書を作成するかを指定します。

送金先住所の検索に使用する会社を入力します。請求書でその会社が指定されているかどうかにかかわらず、ここで指定した会社の顧客ごとに計

算書が作成されます。会社固定情報の年齢調べ設定を使用するように指定した場合、送金先処理オプションおよび年齢調べの設定に基づいて、指定した会社番号から送金先住所が検索されます。

この処理オプションをblankにすると、顧客ごとに1件の計算書が会社別に作成されます。たとえば、会社00001、00020、00050の顧客に対する請求書を入力した場合、3件(会社ごとに1件)の計算書が作成されます。

年齢調べ

この処理オプションを使用して、計算書の経過日数の計算方法を指定します。

1. 会社固定情報

売掛管理固定情報から年齢調べの設定と計算書日付を取得するかどうかを指定します。この処理オプションをblankにすると、計算書日付、日付タイプ、年齢調べカテゴリの各処理オプションを使って年齢調べが行われず、値は次のとおりです。

blank: 処理オプション2から10を使用する。

1: 売掛管理固定情報を使用する。

2. 計算書日付

未決済の請求書を割り当てる年齢調べカテゴリの決定に使用する日付を指定します。入力した日付と請求書の日付(「日付タイプ」処理オプションで指定した日付)が比較され、請求書の延滞日数が計算されます。この日付が計算書の計算書日付として出力されます。

この処理オプションをblankにすると、未決済請求書の年齢調べにはシステム日付が使用されます。

3. 日付タイプ

年齢調べカテゴリの決定に使用する請求書の日付を指定します。ここで指定した日付と「計算書日付」処理オプションの値を比較して、請求書の延滞日数計算されます。値は次のとおりです。

D: 請求書の支払期日を使用する。

I: 請求書日付を使用する。

G: 元帳日付を使用する。

S: 計算書日付を使用する。

4. 年齢調べカテゴリ

請求書の割当に使用する年齢調べカテゴリ指定します。「計算書日付」処理オプションで指定した日付と「日付タイプ」処理オプションで指定した値によって各請求書の経過期間が計算され、このコードで指定した年齢調べカテゴリに割り当てられます。値は次のとおりです。

1: 経過日数。「年齢調べカテゴリ1」から「年齢調べカテゴリ6」の処理オプションで指定した年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられます。年齢調べカテゴリには、自由に日数を設定できます。

2: 会計期間。会社レコードに割り当てられた期間パターンによって定義されている会計期間が、年齢調べカテゴリとして使用されます。

3: カレンダ。各カレンダー月が年齢調べカテゴリとして使用されます。

この処理オプションをblankにすると、デフォルト値の1(経過日数)が使用されます。

5. 年齢調べカテゴリ1

この処理オプションを使用して、ここで指定する値と「年齢調べカテゴリ2」オプションで指定する値を組み合わせ、計算書に印刷する将来および現行の年齢調べカテゴリの間隔を決定します。

- 6. 年齢調べカテゴリ2** この処理オプションを使用して、ここで指定する値と、「年齢調べカテゴリ1」オプションおよび「年齢調べカテゴリ3」オプションで指定する値とを組み合わせ、計算書に印刷する現行および1番目の年齢調べカテゴリの間隔を決定します。
- 7. 年齢調べカテゴリ3** この処理オプションを使用して、ここで指定する値と、「年齢調べカテゴリ2」オプションおよび「年齢調べカテゴリ4」オプションで指定する値とを組み合わせ、計算書に印刷する1番目と2番目の年齢調べカテゴリの間隔を決定します。
- 8. 年齢調べカテゴリ4** この処理オプションを使用して、ここで指定する値と、「年齢調べカテゴリ3」オプションおよび「年齢調べカテゴリ5」オプションで指定する値とを組み合わせ、計算書に印刷する2番目と3番目の年齢調べカテゴリの間隔を決定します。
- 9. 年齢調べカテゴリ5** この処理オプションを使用して、ここで指定する値と、「年齢調べカテゴリ4」オプションおよび「年齢調べカテゴリ6」オプションで指定する値とを組み合わせ、計算書に印刷する3番目と4番目の年齢調べカテゴリの間隔を決定します。
- 10. 年齢調べカテゴリ6** この処理オプションを使用して、ここで指定する値と「年齢調べカテゴリ5」オプションを組み合わせ、計算書に印刷する4番目および5番目の年齢調べカテゴリの間隔を決定します。
- 11. マイナス金額** 年齢調べの設定に従ってクレジット・メモの年齢調べを行うか、マイナス金額を年齢調べの現行カラムに適用して計算書に印刷するかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: マイナス金額の年齢調べを行う。
1: マイナス金額を年齢調べの現行残高に適用する。
- 12. 将来金額を除外** 将来の請求金額が計算書に印刷されないようにするかどうかを指定します。請求書の金額が将来のものかどうかは、売掛管理固定情報または処理オプションの年齢調べの設定によって判断されます。たとえば、支払期日に基づいて請求書の年齢調べを行い、2008年6月30日付けの計算書を作成するとします。この場合、支払期日が2008年6月30日より後の請求書は、この計算書には印刷されません。
- 13. 多通貨** 国内通貨と外貨のどちらで計算書の作成および印刷を行うかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 国内通貨。国内通貨建てか外貨建てかにかかわらず、請求書と入金はずべて送金先会社の国内通貨で印刷されます。
1: 外貨。請求書と入金はすべて請求書の取引通貨で印刷されます。
- 14. 手形の印刷** この処理オプションを使用して、手形付き計算書を作成します。計算書には計算書番号ではなく手形番号が割り当てられます。

印刷

この処理オプションを使用して、送付先住所、印刷プログラムとバージョン、印刷するレターを指定します。

- 1. 送金先住所** 計算書に出力する送金先住所を指定します。顧客は、送金先住所宛てに支払を送付します。この住所は、住所録マスター (F0101) に設定されている、請求書で指定した会社の住所録レコードから取得されます。値は次のとおりです。

ブランク: 「連結」処理オプションで会社が指定されていないかぎり、F03B11 テーブルに指定されている会社の住所が使用される。会社固定情報テーブル (F0010) から会社の住所録番号が取得されます。

A: 会社レコードの第1住所番号フィールド (AN81) の値が使用される。

B: 会社レコードの第2住所番号フィールド (AN82) の値が使用される。

C: 会社レコードの第3住所番号フィールド (AN83) の値が使用される。

D: 会社レコードの第4住所番号フィールド (AN84) の値が使用される。

E: 会社レコードのファクタ/代替受取人フィールド (AN85) が使用される。

F: 会社レコードの第5住所番号フィールド (AN86) の値が使用される。

住所録番号: 会社の住所録番号のかわりに使用する住所録番号を指定する。

たとえば、会社00001の計算書の作成で送金先をロックボックスとする場合、住所録システムのレコードにロックボックスを設定し、その住所録番号を会社00001の住所録レコードの住所録番号フィールドの1つに割り当てます。

2. 支払期日別計算書の印刷

請求書の支払期日別に計算書を印刷するかどうかを指定します。このオプションを選択すると、支払期日と通貨コード別に請求書が表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: 支払期日別に計算書を印刷しない。

1: 支払期日別に計算書を印刷する。支払期日が変わる度に新しい計算書が印刷されます。

3. 印刷プログラム

計算書の作成に使用する計算書印刷プログラムを指定します。検索ボタンをクリックすると、使用できる計算書印刷プログラムを表示できます。この処理オプションをブランクにすると、R03B5001が使用されます。各計算書印刷プログラムには、計算書に出力される情報のタイプを指定する処理オプションがあります。印刷プログラムのデータ選択とデータ順序設定によって、計算書に出力される詳細データの量と順序を指定します。

4. 印刷プログラムのバージョン

使用する計算書印刷プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

5. レター名

計算書に印刷する、あらかじめ定義されている文章を指定します。レター・タイプを使用して文章が設定されている場合は、レター・タイプも指定してください。

6. レター・タイプ

計算書に印刷する、あらかじめ定義されている文章を指定します。レター・タイプを使用して文章が設定されている場合は、レター・タイプも指定してください。

更新

この処理オプションを使用して、基準日を使用して請求書の未決済金額を計算するかどうか、請求書レコードの計算書番号を更新するかどうか、請求書ごとまたは請求書の支払項目ごとに1件のレコードを売掛金通知実績明細テーブル (F03B21) に作成するかどうかを指定します。

1. 基準日

前期間の計算書を作成する日付を指定します。特定の日付の計算書や当初作成した計算書とは異なる日付の計算書を顧客から求められた場合に便利です。

たとえば、数か月前からの計算書を作成する場合、計算書日付として使用する日付をこの処理オプションで指定すると、この日付と請求書の決済日付(入金日)が比較され、指定した基準日において請求書が未決済であったかどうか判断されます。請求書が未決済の場合、未決済金額が再計算され、計算書に印刷されます。現行の未決済金額に、元帳日付が基準日以降の、その請求書に適用されている入金額を加算して未決済金額が再計算されます。

以前に作成した前の期間の計算書を再度印刷するには、計算書の検討プログラム(P03B202)を使用します。

警告: 指定した日付時点で請求書が未決済であったかどうかを判断する処理には時間がかかります。このため、過去の特定の日付における計算書が必要でない場合は、この処理オプションを設定しないでください。基準日処理を実行するには、計算書データの再作成プログラム(R03B500X)のデータ選択で入金済の請求書を含める必要があります。また、データ選択で顧客を指定して、特定の顧客への計算書を作成することもできます。

2. 計算書番号の更新

この処理オプションを使用して、複数の計算書に含まれる請求書の計算書番号を上書きするかどうかを指定します。たとえば、計算書123に含まれる未決済の請求書が再度計算書を実行したときもまだ未決済だった場合、新しい計算書番号がその請求書に割り当てられ、前回の番号は上書きされます。値は次のとおりです。

ブランク: すべての請求書レコードの計算書番号を更新する。

1: 計算書番号フィールド(CTL)がブランクの請求書レコードのみ計算書番号を更新する。

3. 請求書の集計

各請求書の支払項目レコードの他に、請求書の集計レコードを売掛金通知実績明細テーブル(F03B21)に作成するかどうかを指定します。このテーブルの情報を検討するには、計算書の検討プログラム(P03B202)を使用します。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書の支払項目レコードのみが作成される。

1: 請求書の支払項目レコードの他に、集計レコードが作成される。

注意: 計算書に請求書の集計情報を出力する場合は、使用する計算書印刷プログラム(R03B5001など)の該当する処理オプションを使用します。

計算書の印刷(手形付き)(R03B506)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

1. 市

計算書に印刷する市町村を指定します。

2. 銀行手形コード

計算書に印刷する銀行手形コードを指定します。ユーザー定義コード03B/BDに設定されている値を入力してください。コードのみが計算書に印刷され、コード記述は印刷されません。この処理オプションをブランクにすると、銀行手形コードは印刷されません。

支払期日別計算書の印刷

「手形日次処理」メニュー (G03B161) から「計算書の印刷 (手形あり)」を選択します。

手形の受取

この項では、手入力手形、未充当手形、事前承認手形、および手形の改訂の概要とともに、事前設定と次の方法について説明します。

- 手形入力 (P03B602) の処理オプションの設定
- 未充当手形の入力
- 手形を消し込む未決済請求書の検索
- 手形と請求書の消込
- 未充当入金と請求書の消込
- クレジット・メモと請求書の消込
- 単独レコードの入力
- 事前承認手形処理
- 事前承認手形 (R03B671) のデータ順序の設定
- 事前承認手形 (R03B671) の処理オプションの設定

手入力手形について

手入力手形は、銀行に持ち込む前に顧客の引受を得る必要があることから、顧客引受手形とも呼ばれます。次のタイプの手入力手形が使用できます。

- 自社が銀行口座情報を明記して手形を印刷する。
- 自社が銀行名のみを明記して手形を印刷する。
- 顧客が銀行口座情報を明記して手形を印刷する。
- 顧客が銀行名のみを明記して手形を印刷する。

自社で手形を振り出すか、顧客が振り出すかによって、次のいずれかのプログラムを使って手形を入力します。

| プログラム | 用途 |
|---------------------|---|
| 手形入力 (自社) (P03B602) | 自社で手形を振り出し、顧客がそれに署名して返送する場合にこのプログラムを使用します。 |
| 手形入力 (顧客) (P03B602) | 顧客が振り出し、引き受け、送付した手形を、自社が入力する場合にこのプログラムを使用します。 |

手形入力 (自社) プログラムと手形入力 (顧客) プログラムで入力するフィールドは同じです。手形は外貨 (請求書の取引通貨) で入力できますが、代替通貨では入力できません。

手形と未決済請求書の消込には、入金入力で使用するのと同じ入力タイプ・コードを使用できます。コードには次のようなものがあります。

- 10: 単一請求書照合
- 11: 照合(割引分再請求)
- 15: 照合(小額消去)
- 16: 照合(再請求)
- 17: 照合(損金)
- 25: 単独小額消去
- 26: 単独再請求
- 27: 単独損金

参照: 第 9 章、「入金処理」、「入金入力または手形入力の入力タイプ・コードについて」、175ページ
手形を入力すると、次の処理が実行されます。

- バッチ制御レコード・テーブル(F0011)にバッチ・タイプDB(受取手形)のバッチ見出しレコードが作成されます。
- 入金見出しテーブル(F03B13)に手形状況4(受取)の手形レコードが作成されます。
- 手形入力(自社)プログラムを使用した場合、入力した手形番号が請求書印刷(手形)プログラム(R03B5051)または計算書の印刷(手形付き)プログラム(R03B506)を使って作成した請求書に割り当てられた手形番号と同じであるかどうか検証されます。
- 手形によって決済される各支払項目に対して、入金明細テーブル(F03B14)に手形レコードが作成されます。これらのレコードの入金タイプ・コード(TYIN)フィールドをA(消込済)に更新します。
- F03B14テーブルに支払われた請求書の合計金額の手形レコードが作成され、状況4(受取)が割り当てられます。消込済のレコードと区別するために入金タイプ(TYIN)フィールドがD(手形入金)に更新されます。
- F03B11テーブルに支払状況D(手形受取済)の請求書レコード(伝票タイプR1)が作成されます。
- 手形が消し込まれていない場合、F03B11テーブルに支払状況A(手形による支払承認済)の請求書レコード(伝票タイプRU)が作成されます。

手形を入力したら、その手形を承認して総勘定元帳に転記できます。状況が手形受取の手形を転記すると、(借)受取手形/(貸)売掛金の仕訳が作成されます。

このプログラムでは、F03B11、F03B13、およびF03B14の各テーブルのレコードが更新および作成されます。

入金または手形入力時に更新されるフィールド

入金を入力すると、特定のフィールドが略式IDで更新されます。入金が請求書に対して消し込まれる方法に基づいてAAIが検索されます。入金の転記時に、この略式IDを使って自動仕訳が作成されます。次の表は、入金のタイプに基づいて更新されるフィールドと、勘定科目の検索に使用されるAAIの一覧です。

| 勘定科目 | 入金消込のタイプ | 入力タイプ・コード | 更新されるフィールド | 更新されるテーブル | 使用されるAAI |
|--|----------|-----------|------------|-----------|---|
| 銀行勘定 注意: 入金入力時に銀行勘定科目フィールドは自動的に更新されます。ただし手形の場合は、取立または回収の処理を行うまで銀行勘定科目フィールドは更新されません。 | すべて | なし | GLBA | F03B13 | <p>入金入力時に指定した銀行勘定科目のコードが使用されます。</p> <p>銀行勘定科目フィールドがブランクの場合、次の順序で勘定科目が検索されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入金に入力された会社のRB 会社00000のRB |
| 売掛金勘定 | 消込済入金 | 10 | AID | F03B14 | <p>AAIは使用されません。</p> <p>F03B11テーブルで請求書レコードのAIDフィールドに入力された勘定科目が使用されます。</p> |
| 売掛金勘定 | 未充当入金 | なし | AID | F03B13 | <p>次の順序で勘定科目が検索されます (xxxxは未充当相手勘定フィールドの値)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入金または手形レコードに入力された会社のRCxxxx 会社00000のRCxxxx 入金または手形レコードに入力された会社のRCUC 会社00000のRCUC |

| 勘定科目 | 入金消込のタイプ | 入力タイプ・コード | 更新されるフィールド | 更新されるテーブル | 使用されるAAI |
|-------|-------------|-----------|------------|---------------|--|
| 売掛金勘定 | 再請求の必要がある入金 | 11と16 | AIDCとAID | F03B11とF03B14 | 次の順序で勘定科目が検索されます(XXXXは再請求相手勘定フィールドの値)。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 請求書に入力された会社のRCXXXX ・ 会社00000のRCXXXX ・ 請求書に入力された会社のRC ・ 会社00000のRC |
| 売掛金勘定 | 単独の再請求 | 26 | AIDC | F03B14 | 次の順序で勘定科目が検索されます(XXXXは再請求相手勘定フィールドの値)。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 入金または手形レコードに入力された会社のRCXXXX ・ 会社00000のRCXXXX ・ 入金または手形レコードに入力された会社のRC ・ 会社00000のRC |

| 勘定科目 | 入金消込のタイプ | 入力タイプ・コード | 更新されるフィールド | 更新されるテーブル | 使用されるAAI |
|-------|-----------|-----------|------------|-----------|--|
| 割引実施額 | 割引を伴う支払 | 10 | AIDD | F03B14 | 次の順序でAAIが検索されます(xxは割引理由コード)。 <ul style="list-style-type: none"> 入金または手形レコードに入力された会社のRKDxx 会社00000のRKDxx 入金または手形レコードに入力された会社のRKD 会社00000のRKD |
| 小額消去 | 小額消去を伴う支払 | 10と15 | AIDW | F03B14 | 次の順序でAAIが検索されます(xxは小額消去理由コード)。 <ul style="list-style-type: none"> 請求書に入力された会社のRAxx 会社00000のRAxx |
| 小額消去 | 単独の小額消去 | 25 | AIDW | F03B14 | 次の順序でAAIが検索されます(xxは小額消去理由コード)。 <ul style="list-style-type: none"> 入金または手形レコードに入力された会社のRAxx 会社00000のRAxx |

| 勘定科目 | 入金消込のタイプ | 入力タイプ・コード | 更新されるフィールド | 更新されるテーブル | 使用されるAAI |
|-------|----------|-----------|------------|-----------|--|
| 損金仮勘定 | 損金を伴う支払 | 17 | DAID | F03B14 | 次の順序で検索されます。 <ul style="list-style-type: none"> 請求書に入力された会社のRN 会社00000のRN |
| 損金仮勘定 | 単独の損金 | 27 | DAID | F03B14 | 次の順序で検索されます。 <ul style="list-style-type: none"> 入金または手形に入力された会社のRN 会社00000のRN |

次の表は、手形の受取、取立、回収を行ったときに、F03B14テーブルのレコードのAID2フィールドがどのように更新されるかを示しています。これらのレコードは、表に示したAAIに基づいて、手形の各段階で作成されます。xは支払手段を示します。

| 手形の状況 | AAI |
|-----------|------|
| 受取 | RD1x |
| 取立 | RD2x |
| 割引手形の取立 | RD3x |
| 偶発債務を伴う取立 | RD4x |

未充当手形について

手形によって支払われた請求書が不明な場合は、未充当手形を入力します。未充当手形は、手形を回収するまで顧客の売掛金残高から減額されません。未充当手形を入力すると、次のテーブルにレコードが作成されます。

| テーブル | 作成されるレコード |
|--------|--|
| F03B11 | <p>次の2つのレコードが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 未充当手形の請求書レコード(伝票タイプRU)。手形を請求書に対して消し込むまでの一時レコードとして作成されます。このレコードは、請求書に対して消し込む前に転記しないと、請求書の支払時に削除されます。 手形請求書レコード(伝票タイプR1)。手形請求書レコード(RUとR1)には次のような特徴があります。 手形の支払IDに対して監査証跡が作成される。 バッチ・タイプはDB。 転記状況はD(転記済)。F03B13テーブルとF03B14テーブルの手形レコードの転記コードは、手形を転記するまでブランクのままです。 |
| F03B13 | 手形支払レコードが作成されます。 |
| F03B14 | <p>次の2つのレコードが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 未充当手形の請求書レコード 手形請求書レコード <p>手形の消込によって作成される次の請求書レコードも、対応する明細レコードがF03B14に作成され、転記のために使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手形(R1) 未充当手形(RU) 損金(R5) <p>F03B11テーブルに請求書レコードが作成される際、転記状況Dが使用されます。総勘定元帳を更新するには、F03B14テーブルの入金レコードを転記する必要があります。</p> |

未充当手形は、適切な請求書に対して消込まれるまでは未決済のままです。

未充当手形を入力したら、それを転記する必要があります。未充当手形を転記すると、(借)受取手形勘定/(貸)売掛金勘定の仕訳が作成されます。この売掛金勘定は、手形入力時に相手勘定フィールドを上書きするか、顧客マスターで設定された相手勘定を使うよう指定しないかぎり、AAI項目RCUCに関連付けられます。

未充当手形と請求書の消込処理は、未充当入金と請求書の消込処理とほぼ同じです。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「未充当入金と請求書の消込」、208ページ

事前承認手形について

自動手形は、顧客による引受を必要としないことから、事前承認手形とも呼ばれます。自社と顧客との間で、顧客側が手形を使用して支払う旨を事前に同意します。顧客に対して手形を印刷、送付する必要はありませんが、回収するためには、手形を銀行に持ち込む(預け入れる)必要があります。

自動手形は、事前承認手形プログラム(R03B671)を実行して作成します。データ選択を使用して各手形の入金を消し込む請求書を選択します。このバッチ処理は、テスト・モードと最終モードのいずれかで実行できます。

テスト・モードを使用すると、取引の明細または集計レポートを作成できます。

- 明細 - 支払う各請求書を手形別に表示します。
- 集計 - 手形で支払われるすべての請求書の集計を顧客または支払人、期日、および支払手段別に印刷します。

最終モードの使用時にも、テスト・モードと同じ選択をすることができます。最終モードでは、次の処理が実行されます。

- 手形が作成されます。
- 手形の支払状況をD(手形受取済)が更新されます。
- レポートが生成されます。

どちらのモードを選択した場合も、情報を検討し、必要な変更を加えることが可能です。支払状況を変更する場合は、請求書入力またはスピード・リリースを使用してください。

次の点を除き、手形は入金と同様に処理されます。

- バッチ・タイプDB(受取手形)が使用されます。
- 未決済の顧客請求書に対して手形入金が消し込まれます。
- F03B11テーブルに手形の合計金額の請求書レコード(伝票タイプR1)が作成されます。
- 手形の支払状況がD(手形受取済)に更新されます。

手形を作成したら、その手形を承認して総勘定元帳に転記し、適切な仕訳を作成する必要があります。

このプログラムでは、F03B11、F03B13、およびF03B14の各テーブルのレコードが更新および作成されます。

注意: このレポートのカラム見出しには、支払手段の略語であるPIが印刷されます。

手形の改訂について

手形は入力した後で、総勘定元帳に転記する前に検討したり改訂できます。通常は、次のような目的で手形を確認します。

- 特定の顧客の情報を確認する。
- 満期日、支払手段、顧客銀行口座などの手形情報を改訂する。

手形の情報を変更する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- 未充当入金がある場合以外は、手形に請求書は追加できません。
- 手形が受取済の場合は次のフィールドを変更できます。

- 満期日

手形が取立済になった後もこのフィールドを変更できます。

- 手形金額

手形が転記済の場合や状況が手形受取以外の場合は、このフィールドは変更できません。

- 支払手段

- 銀行名
- 顧客口座番号
- 銀行/支店
- 手形の元帳日付はどのような場合でも変更できません。ただし、転記済の手形を請求書に対して消し込んだり、手形を無効にするなど、別の処理を行う際には新しい元帳日付を割り当てることができます。入力した元帳日付は、F03B14テーブルのレコードに反映されます。F03B13テーブルのレコードの元帳日付は変更されません。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 次のAAI項目に、該当する割引勘定が指定されていることを確認してください。
- RKD (割引実施額)
- RCxxxx (xxxxは再請求売掛金勘定の再請求相手勘定)
- RAxx (xxは小額消去理由コード)
- RN (損金仮勘定)
- AAI項目RCxxxx (xxxxは未充当手形の場合は未充当相手勘定、再請求を作成する手形の場合は再請求相手勘定)に適切な勘定科目が設定されていることを確認してください。未充当手形を入力する場合、別の未充当相手勘定を指定するか、顧客レコードの値を使用するよう処理オプションで指定しないかぎり、デフォルトのRCUCが使用されます。
- 理由コードを指定するために次のUDCテーブルが設定されていることを確認してください。
- 00/DE (割引理由コード)
- 03B/CB (再請求理由コード)
- 03B/RC (小額消去理由コード)
- 03B/CR (損金理由コード)
- 割引、再請求、小額消去、および損金の処理オプション、または使用する入力タイプ・コードの処理オプションが正しく設定されていることを確認します。

手形の受取に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------|----------|--|--|
| 手形の処理 | W03B602A | <ul style="list-style-type: none"> 「手形日次処理」メニュー (G03B161) から「手形入力 (自社)」を選択します。 「手形日次処理」メニュー (G03B161) から「手形入力 (顧客)」を選択します。 | 手形の検索と削除を行います。 |
| 手形入力 | W03B602B | 「手形の処理」フォームで、QBE (例示照会プログラム) ローの「未充当相手勘定」フィールドにUCを入力します。「検索」をクリックし、未充当手形を選んで「選択」または「追加」をクリックします。 | <p>未充当手形を入力します。</p> <p>入力タイプ・コードを使った手形と請求書の消込、またはクレジット・メモと請求書の消込を行います。</p> <p>請求書と消し込む未充当手形を検索します。</p> |
| 住所別銀行口座の処理 | W0030AD | 「手形入力」フォームで、「フォーム」メニューから「銀行情報」を選択します。 | 手形の銀行口座の検索と選択をします。 |
| 追加情報 | W03B602J | 「手形入力」フォームで、「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。 | UC以外の相手勘定を割り当て、参照情報を入力し、手形のビジネスユニットを変更します。 |

手形入力 (P03B602) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

この処理オプションでは、「手形入力」フォームでフィールドに入力した値をそのまま残すように設定できます。類似した手形を連続して入力する場合に入力時間を短縮できます。

- 1. 支払人番号**

手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した支払人番号を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 支払人番号を保持しない。

1: 支払人番号を保持する。
- 2. 手形日付**

手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した手形日付を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 手形日付を保持しない。

1: 手形日付を保持する。
- 3. 会社**

手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した会社番号を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 会社番号を保持しない。

1: 会社番号を保持する。

- 4. 元帳日付** 手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した元帳日付を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 元帳日付を保持しない。
1: 元帳日付を保持する。
- 5. 手形満期日** 手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した手形満期日を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 手形満期日を保持しない。
1: 手形満期日を保持する。
- 6. 銀行名** 手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した銀行名を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 銀行名を保持しない。
1: 銀行名を保持する。
- 7. 顧客銀行口座** 手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した顧客銀行口座を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 顧客銀行口座を保持しない。
1: 顧客銀行口座を保持する。
- 8. 支払手段** 手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した支払手段を保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 支払手段を保持しない。
1: 支払手段を保持する。
- 9. 銀行/支店コード** 手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した銀行/支店コードを保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 銀行/支店コードを保持しない。
1: 銀行/支店コードを保持する。
- 10. 通貨** 手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した通貨コードを保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 通貨コードを保持しない。
1: 通貨コードを保持する。
- 11. 為替レート** 手形を入力した後、「手形入力」フォームで入力した為替レートを保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 為替レートを保持しない。
1: 為替レートを保持する。

デフォルト

この処理オプションでは、「手形入力」フォームと「追加情報」フォームで使用するデフォルト値を指定します。この処理オプションに入力した値は、手形入力時に変更できます。

- 1. 入力タイプ** 手形と請求書を消し込む際に使用するデフォルトの入力タイプ・コードを指定します。値は次のとおりです。
blank: デフォルト値を使用しない。

- 10: 簡易請求書照合。
- 11: 照合 - 割引の自動再請求。
- 15: 照合 - 小額消去あり。
- 16: 照合 - 再請求あり。
- 17: - 損金処理あり。

「10」を入力した場合、スピード入金入力の繰越残高入金(入力タイプ・コード1)と同様に、手形は顧客の売掛金勘定の中で最も古い未決済請求書(複数可)に対して消し込まれます。

2. 損金理由コード

損金金額の入力時に使用するデフォルトの損金理由コードを指定します。ブランクの場合は、「入金の入力」フォームの詳細グリッドに手動で損金理由コードを入力する必要があります。有効な損金理由コードは、UDC 03B/CR に定義されています。

3. 銀行口座を使用する支払手段

銀行口座番号が設定されている手形を処理する際に使用するデフォルトの支払手段を指定します。

4. 銀行口座を使用しない支払手段

銀行口座番号が設定されていない手形を処理する際に使用するデフォルトの支払手段を指定します。

5. 受取手形勘定科目(AAI)

手形を総勘定元帳に転記する際に使用する受取手形勘定科目を指定します。標準の勘定科目コード形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で入力してください。ブランクの場合、AAI項目RD1x(xは顧客レコード(F03012)で指定されている支払手段)に関連付けられている勘定科目コードが使用されます。

6. 未充当手形のデフォルト相手勘定

未充当手形を入力する際に、顧客レコードの元帳クラス・コードを「未充当相手勘定」フィールドのデフォルト値として使用するかどうかを指定します。売掛金勘定は、使用する相手勘定に基づいて検索されます。値は次のとおりです。

ブランク: デフォルトを使用しない。

1: 元帳クラス・コードを使用する。

顧客レコードに元帳クラス・コードが設定されていない場合は、デフォルトの相手勘定(UC)が未充当手形に使用されます。

7. 手形番号

自動採番で手形番号を割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 自動採番を使用しない。

1: 自動採番を使用する。

編集

この処理オプションでは、次の処理を有効にするかどうかを指定します。

- 小額消去
- 未転記手形の削除
- 手形状況の変更

また、過入金などの特定の状況が発生した場合にメッセージを表示するように指定することもできます。

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 小額消去 | <p>小額消去を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 小額消去を許可する。</p> <p>1: 小額消去を許可しない。</p> |
| 2. 未転記入金の削除/NSF | <p>未転記手形の削除およびNSF(残高不足)処理を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 削除およびNSFを許可する。</p> <p>1: 削除およびNSFを許可しない。</p> |
| 3. 過入金チェック | <p>請求額以上の金額が入力された場合に表示するエラー・メッセージの重要度を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>0: 検証なし</p> <p>1: 警告</p> <p>2: エラー</p> <p>請求額以上の金額を入力すると、マイナスの未決済金額として表示されます。</p> |
| 4. 銀行名 | <p>「手形入力」フォームで「銀行名」フィールドを入力可能にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 「銀行名」フィールドを入力可能にしない。F0030テーブルで顧客または支払人に対して設定されている銀行名が自動的に使用されます。</p> <p>1: 「銀行名」フィールドを入力可能にする。銀行名の変更が可能です。</p> <hr/> <p>注意: 銀行名を指定しない場合は、顧客の銀行口座番号および銀行/支店コードを指定する必要があります。</p> <hr/> |
| 5. 手形を前の状態に戻す | <p>手形状況を前の状態にリセットすることを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 手形状況を前の状態にリセットすることを許可する。</p> <p>1: 手形状況を前の状態にリセットすることを許可しない。</p> |
| 6. 手形番号 | <p>手形番号が割り当てられていない場合に表示するメッセージの重要度を指定します。この処理オプションは、「処理」タブの「手形タイプ」処理オプションで1(顧客が作成した手形)を設定した場合にのみ使用できます。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 検証なし</p> <p>1: 警告</p> <p>2: エラー</p> |

処理

この処理オプションでは、デフォルトの入力タイプ・コードを使用した場合の手形と請求書の消込方法や、取引明細テーブル(F0911)のレコードの作成方法(入力された手形をバッチ別に集計するか、手形ごとに明細レコードを作成するか)を指定します。

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 手形タイプ | <p>処理する手形のタイプを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 自社で作成した手形</p> |
|-----------------|--|

1: 顧客が作成した手形

2. 未決済金額

売掛金元帳テーブル (F03B11) に未決済金額を含めて手形請求書レコード (伝票タイプ R1) を作成するかどうかを指定します。この処理オプションによって、手形の年齢調べを行うかどうかが決まります。未決済金額を含めずに手形を作成した場合、そのレコードは一時レコードとしてのみ使用できます。入金または年齢調べの対象としてこのレコードは選択できません。値は次のとおりです。

ブランク: 未決済金額を含めて手形請求書レコードを作成する。

1: 未決済金額を含めずに手形請求書レコードを作成する。

3. 仕訳の形式

手形バッチごとに1件の集計仕訳を作成するか、各手形に対してそれぞれ仕訳を作成するかを指定します。この処理オプションで設定した値は、F03B13テーブルの売掛金転記フィールド (ISTR) に割り当てられます。転記プログラムでは、この値を使って仕訳レコードが作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: 集計仕訳を作成する。転記する手形バッチごとに、伝票タイプ RK の仕訳が1件作成されます。仕訳の伝票番号には手形のバッチ番号が割り当てられます。この方法を使用するためには、次のことを確認してください。

- 売掛管理固定情報の売掛金集計方式が B (バッチ・モード) に設定されている。
- バッチに外貨建て取引が含まれていない。

条件を満たしていない場合、仕訳は明細形式で作成されます。

1: 明細仕訳を作成する。バッチに含まれる手形ごとに、伝票タイプ RC の仕訳が作成されます。入金仕訳の伝票番号は、仕訳入力 (システム 09) の自動採番によって自動的に割り当てられます。監査証跡を記録するために、F03B14テーブルの次のフィールドは仕訳の情報で更新されます。

- 仕訳伝票タイプ (RZDCTG)
- 仕訳伝票番号 (RZDOCG)
- 仕訳伝票会社 (RZKCOG)

4. 請求書の表示

支払状況が承認済の請求書のみを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべての請求書を表示する。

1: 承認済請求書のみを表示する。

通貨

多通貨を使用する場合、為替レートを取り込むのに使用する有効日付が手形入力で入力された元帳日付と同じかどうかのチェックを行うか行わないかを指定します。

1. 有効日付チェック

為替レートを取り込むのに使用する有効日付が手形入力で入力された元帳日付と同じかどうかのチェックを行うか行わないかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 有効日付を検証しない。

1: 有効日付を検証する。為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれた為替レートの有効日付が手形の元帳日付と同じではない場合、警告メッセージが表示されます。

再請求

この処理オプションでは、システムによって作成された再請求レコードに割り当てる値を指定します。

- | | |
|-------------------|--|
| 1. 支払状況 | 再請求に割り当てるデフォルトの支払状況を指定します。この処理オプションをブランクにすると、データ辞書項目PSTに設定されている値が使用されます。有効な値は、UDC 00/PS(支払状況)に定義されています。 |
| 2. 日付オプション | 再請求に割り当てる請求書日付と支払期日を指定します。値は次のとおりです。 ブランク: 手形元帳日付を使用する。 1: 対応する請求書の日付を使用する。 |
| 3. 理由コード | 再請求金額を入力する際に割り当てるデフォルトの理由コードを指定します。この処理オプションをブランクにした場合は、再請求理由コードを手動で入力する必要があります。有効な再請求理由コードはUDC 03B/CBに定義されています。 |

自動小額消去

この処理オプションでは、自動的小額消去機能を有効に設定し、入金不足と過入金のそれぞれの場合の限度額を指定します。自動小額消去機能を使用する場合は、小額消去理由コードを指定する必要があります。

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 入金不足額の上限 | 入金不足分を小額消去として処理できる限度額を指定します。支払金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、手形入力時に残額は自動的に消し込まれます。 |
| 2. 入金不足理由コード | 入金不足分を自動的に消し込む場合のデフォルトの理由コードを指定します。この処理オプションの値を指定すると、自動小額消去処理が有効になります。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。指定する小額消去理由コードに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。 |
| 3. 過入金額の上限 | 過入金分を小額消去として処理できる最高金額を指定します。入金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、手形入力時に差額は自動的に消し込まれます。 マイナスの金額を入力してください。 |
| 4. 過入金理由コード | 過入金分を自動的に消し込む場合のデフォルトの理由コードを指定します。この処理オプションの値を指定すると、自動小額消去処理が有効になります。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。指定する小額消去理由コードに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。 |

手動小額消去

この処理オプションでは、入金不足と過入金それぞれの場合の小額消去限度額を指定し、理由コードのデフォルト値を設定します。

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 入金不足額の上限 | 入金不足分を小額消去として処理できる最高金額を指定します。入金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、手形入力時に小額消去として処理できます。 |
| 2. 過入金額の上限 | 過入金分を小額消去として処理できる最高金額を指定します。入金額と請求書の未決済金額の差額がここで指定した金額以下の場合、手形入力時に小額消去として処理できます。マイナスの金額を入力してください。 |
| 3. 小額消去理由コード | 小額消去金額を入力する際に割り当てるデフォルトの理由コードを指定します。有効な小額消去理由コードはUDC 03B/RCに定義されています。指定する小額消去理由コードに対応するAAI項目RAxx(xxは理由コード)も設定する必要があります。 |

割引

この処理オプションでは、割引を処理するための規則を設定します。

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 割引可能額を超える割引 | 割引可能額を超える割引を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。 空白: 割引可能額を超える割引を許可しない。 1: 割引可能額を超える割引を許可する。 |
| 2. 入金額を超える割引 | 入金額を超える割引を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。 空白: 入金額を超える割引を許可しない。 1: 入金額を超える割引を許可する。 |
| 3. 猶予期間日数 | 割引期日以降も割引を与える日数を指定します。この処理オプションは、割引実施額を計算する場合にのみ適用されます。割引額は手入力することもできます。 |
| 4. 割引理由コード | 割引を実施する際に使用するデフォルトの割引理由コードを指定します。このコードは、必要に応じて手形入力時に変更できます。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxx(xxは理由コード)も設定してください。 |

照合優先順位

この処理オプションでは、「取立の入力」フォームで請求書を検索する際の順序を指定します。有効な検索方法は次のとおりです。

- 請求書番号
- 受注オーダー番号
- 顧客参照
- 計算書番号
- 出荷番号

1. 請求書照合、受注オーダー照合、顧客参照照合、計算書照合、出荷番号照合、入金照合参照番号照合

「取立の入力」フォームで請求書を選択する際に使用する検索方法の順序を指定します。

値は、ブランク、1、2、3、4、5および6です。検索方法フィールドをブランクにした場合、その検索方法は使用されず、指定した他の検索方法のみを使用して検索されます。5つのフィールドをすべてブランクにした場合、すべての検索方法が表示されている順序で使用されます。

無効/NSF

この処理オプションでは、手形を無効にしたりNSF(残高不足)に指定する場合に使用する値を指定します。

1. 支払手段の更新

手形を無効にしたりNSFに指定した場合に、F03B11テーブルの手形請求書レコード(R1)の支払手段を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 支払手段を更新しない。

1: 支払手段を更新する。

注意: この処理オプションで1を設定した場合、「手形の支払手段」処理オプションにも値を入力する必要があります。

2. 手形の支払手段

手形を無効にしたりNSFに指定した場合に、F03B11テーブルの手形請求書レコード(R1)に割り当てる支払手段を指定します。有効値はUDC 00/PYで設定します。

注意: 「支払手段の更新」処理オプションがブランクの場合、この処理オプションは無視されます。

3. 再発行手形の支払手段

手形を再発行するオプションを選択して手形を無効にしたりNSFと指定した場合に、F03B11テーブルに作成される新しい手形請求書レコードに割り当てる支払手段を指定します。有効値はUDC 00/PYで設定します。

4. 手形勘定科目(AAI)

手形を再発行するオプションを選択して手形を無効にしたりNSFに指定した場合に、手形を転記する際に使用する受取手形勘定科目コード指定します。標準の勘定科目コード形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で入力してください。ブランクにすると、AAI項目RD5に設定された勘定科目コードが使用されます。

未充当手形の入力

「手形入力」フォームにアクセスします。

手形入力(自社) - 手形入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

支払人 3003 CSC Corporation バッチ 7918

手形No. 500 500 前

手形日付 2005/07/05 会社 00001 元帳日付 2005/06/30

満期日 2005/07/05 銀行名 First Interstate

手形金額 375.00 顧客口座No. 2165987458

支払手段 D 受取/支払手形(請求書別) 銀行/支店コード 852200451

通貨コード USD 為替レート 基本 USD 外貨

レコードが取込まれていません。 グリッドのカスタマイズ

| 入力 タイプ | 入金額 | 割引 実施額 | 割引 理由 | 小額 消去額 | 小額 消去 理由 | 再請求 金額 | 再請求 理由 | 損金 金額 | 損金 理由 |
|-----------|-----|-----------|----------|-----------|----------------|-----------|-----------|----------|----------|
| | | | | | | | | | |

消込金額 375.00 保留金額 未充当金額

「手形入力」フォーム

未充当手形を入力するには、次の手順に従います。

1. 「手形入力」フォームで、フィールドに値を入力します。
顧客に対して受取手形(レコード・タイプD)の銀行口座情報が設定されている場合、「銀行名」、「顧客口座No.」、および「銀行/支店コード」の各フィールドが更新されます。
レコード・タイプDに対して顧客の銀行口座情報が設定されていない場合、ステップ3から6を実行して手形処理のために銀行口座を有効にすることができます。
顧客の銀行口座情報がない場合はステップ7に進んでください。
2. 「フォーム」メニューから「銀行情報」を選択します。
3. 「住所別銀行口座処理」フォームで、設定されている口座番号レコードを選択し、「ロー」メニューから「手形として有効」を選択します。
4. 「閉じる」をクリックします。
5. 自動的に更新されない場合は、「銀行名」フィールドに値を入力します。

注意: 「銀行名」フィールドに入力できない場合は、対応する処理オプションを変更して銀行名を変更できるようにしてください。

6. 追加情報を指定するには、「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。
7. 「追加情報」フォームで、「未充当相手勘定」、「参照」、および「ビジネスユニット」の各フィールドに値を入力し、「OK」をクリックします。
8. 「手形入力」フォームで、未充当手形レコードを作成する場合は「OK」をクリックします。または、この手形を請求書に対して消し込むか送金情報を入力するには、該当するステップを実行します。

| | |
|---|--|
| 支払人 | 情報の検索や入力を行うための住所録番号を入力します。 |
| 手形No. | <p>自社手形の場合は、請求書印刷(手形)または計算書の印刷(手形付き)で作成された番号を入力します。請求書テーブルの手形番号は自動的にチェックされます。</p> <p>顧客手形の場合は、顧客の手形番号を入力します。</p> |
| 手形日付 | システムに入金を入力した日付、または小切手に記載された日付を入力します。この入金日付は照会とレポート作成のためにのみ使用されます。 |
| 満期日 | 入金または支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付を入力します。銀行が支払を決済した日付ではありません。自動支払の場合、このフィールドは自動的に入力されます。手入力による支払の場合、決済日付が表示されるように処理オプションで指定すると、このフィールドで決済日付を手入力できます。 |
| 手形金額 | 入金または支払の実績金額を入力します。 |
| 支払手段 | 処理オプションで設定した支払手段が表示されます。処理オプションがブランクの場合は、顧客マスター・レコードの支払手段が使用されます。 |
| 会社 | 取引を入力する会社番号を入力します。 |
| 元帳日付 | 取引を転記する日付を入力します。 |
| 顧客口座No. | 会社、顧客、または仕入先の銀行口座番号を識別するために銀行によって割り当てられた番号を表します。 |
| <hr/> 注意: 北欧諸国のユーザー: 取引銀行、Bankgiro、またはPostgiroの口座番号を入力します。 | |
| 銀行/支店 | 連邦準備制度により銀行へ割り当てられる番号を表示します。顧客の銀行口座情報に定義されます。 |
| 銀行名 | 顧客の銀行口座情報に定義された銀行名を表示します。 |
| 未充当相手勘定 | <p>転記する際に相手勘定として使用する売掛金勘定のコードを表示します。</p> <p>この値を変更しない場合は、相手勘定UCとAAI項目RCUCを使って売掛金勘定が検索されます。</p> <p>顧客マスター・レコードからデフォルトの相手勘定を使用するよう処理オプションで設定することもできます。</p> |
| 参照 | 入金または手形レコードで2次参照番号として使用する英数値を入力します。 |

手形を消し込む未決済請求書の検索

手形を消し込む未決済請求書を検索します。手形処理において未決済請求書を検索する処理は、入金処理において未決済請求書を検索する処理とほぼ同じです。

参照: [第 9 章、「入金処理」、「未決済請求書の検索」、198ページ](#)

手形と請求書の消込

手形を請求書と消し込む処理は、入金を請求書と消し込む処理とほぼ同じです。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込」、207ページ

未充当入金と請求書の消込

「手形入力」フォームにアクセスします。

未充当手形を請求書に対して消し込むには、次の手順に従います。

1. 「フォーム」メニューから「ロード」または「選択」を選んで顧客の未決済項目を表示します。
2. 見出し領域で、「元帳日付」フィールドに値を入力します。

注意: 割り当てる元帳日付によって、F03B13テーブルの未充当手形レコードの元帳日付が更新されることはありません。F03B14テーブルに作成される手形明細レコードの元帳日付が請求書の消込に使用されます。

3. 詳細グリッドで、「入力タイプ」フィールドに該当するコードを入力します。
4. 必要に応じて、「入金額」、「割引実施額」、「備考」、「小額消去額」、「再請求金額」、または「損金金額」フィールドの値を変更します。
5. 「保留金額」と「未充当金額」フィールドに正しい情報が表示されていることを確認します。

請求書に対して手形の全額を消し込んだ場合、保留金額は入金見出しで指定した手形の金額と一致します。

「未充当金額」フィールドの金額の未充当手形レコードが作成されます。

6. 「OK」をクリックします。

割引実施額

特定の日付までに支払った場合に請求書や伝票から割引かれる金額を入力します。割引可能額と異なる金額にすることもできます。

小額消去額

顧客の売掛金残高から差し引く金額を入力します。AAI項目 RAxx (xxは小額消去理由コード)で指定した勘定科目が、指定した金額で更新されます。

小額消去額を入力したら、小額消去理由コードを入力する必要があります。

小額消去理由

小額消去として処理する理由を示すコードを入力します。代表的な理由コードは次のとおりです。

BD: 不良債権

DC: 破損品

MW: 小額消去

TF: 未解決税額/運送費

再請求金額

顧客に再請求するために作成する新しい請求書レコードの金額を入力します。

再請求金額を入力したら、再請求理由コードを入力する必要があります。

再請求理由

入金入力中に請求書に対して再請求が生成された理由を示すコードを入力します。代表的な再請求理由コードは次のとおりです。

DA: 問題のある金額

DD: 無効割引(割引不可)額

注意: ブランクは、ユーザー定義コード・テーブルで定義されていても有効な値として受け入れられません。

損金金額

損金の国内通貨金額を入力します。この金額の通貨は、基本通貨フィールド(BCRC)に表示されます。

損金額を入力したら、損金理由コードを入力する必要があります。

損金理由

顧客によって請求書の全額が入金されていない理由を示すコードを入力します。代表的な損金理由コードは、次のとおりです。

DG: 破損品

SS: 出荷不足

UD: その他の理由

再請求相手勘定

再請求の転記時に相手勘定として使用する売掛金勘定を示すコードを表示します。AAI項目RCとこのコードを結合して勘定科目が検索されます。次の順序で、再請求を計上する売掛金勘定が検索されます。

1. 多通貨を使用している場合、RCxxx (xxxは入金の通貨コード)が検索されます。
2. 見つからない場合、RCxxxx (xxxxは再請求相手勘定フィールド)が検索されます。
3. 見つからない場合、RCxx (xxは再請求理由コード)が検索されます。
4. 見つからない場合、入金レコードに指定されている会社のRCが検索されます。
5. 見つからない場合、会社00000のRCが検索されます。

未充当相手勘定

請求書や伝票の転記時に相手勘定として使用する売掛金勘定を示すコードを表示します。AAI項目RCとこの値を組み合わせて、売掛金勘定が検索されます。たとえば、「TRAD」と入力すると、AAI項目「RCTRAD」(売掛)が検索されます。

相手勘定を表す最大4文字の英数字、または3文字の通貨コード(多通貨環境で取引を入力する場合)を割り当てることができます。ただし、対応するAAI項目をシステムに設定しておく必要があります。この設定がない場合は相手勘定は無視され、指定された会社のPCまたはRCに設定されている勘定科目が使用されます。

顧客レコードの相手勘定フィールドにデフォルト値を設定した場合、取引入力では、値を変更しないかぎりこの値が使用されます。

注意: コード9999は使用しないでください。仕訳を作成しないように設定されている転記プログラムの予約コードです。

クレジット・メモと請求書の消込

クレジット・メモと請求書の消込処理は、手形処理や入金処理とほぼ同じです。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「入力タイプ・コードを使った入金または手形と請求書の消込」、207ページ

参照: 第 9 章、「入金処理」、「クレジット・メモと請求書の消込」、208ページ

単独レコード入力

単独レコード入力の処理は、手形処理や入金処理とほぼ同じです。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「単独レコード入力」、210ページ

事前承認手形処理

「手形日次処理」メニュー (G03B161) から「事前承認手形」を選択します。

事前承認手形 (R03B671) のデータ順序の設定

処理が正しく行われるようにするため、JD Edwards EnterpriseOne デモ・バージョンに設定されているデータ順序は変更しないでください。

1. 会社 (CO)
2. 基本通貨 (BCRC)
3. 通貨コード (CRCD)
4. 支払期日 (DDJ)
5. 計算書番号 (CTL)
6. 支払人住所番号 (PYR)
7. 住所番号 (AN8)
8. 伝票番号 (DOC)
9. 伝票タイプ (DCT)
10. 伝票会社 (KCO)
11. 支払項目 (SFX)

事前承認手形 (R03B671) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、手形を作成するのに使用するデフォルト値を指定します。

- | | |
|-----------|---|
| 1. 手形日付 | F03B13 テーブルと F03B14 テーブルのレコードに割り当てる手形日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。 |
| 2. 手形元帳日付 | F03B13 テーブルと F03B14 テーブルのレコードに割り当てる手形元帳日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。 |

- 3. 満期日** F03B11テーブルの請求書レコード(R1)に割り当てる手形満期日を指定します。空白にすると、請求書の支払日付が使用されます。
- 4. 受取手形勘定科目コード** 手形を総勘定元帳に転記する際に使用する受取手形勘定科目を指定します。標準の勘定科目コード形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で入力してください。空白の場合、AAI項目RD1x(xは顧客レコード(F03012)で指定されている支払手段)に関連付けられている勘定科目コードが使用されます。
- 5. 仕訳入力** 手形バッチごとに1件の集計仕訳を作成するか、各手形に対してそれぞれ仕訳を作成するかを指定します。ここで指定した値は、F03B13テーブルの売掛金転記フィールドに割り当てられます。転記プログラムでは、この値を使って仕訳レコードが作成されます。値は次のとおりです。
- 空白: 集計仕訳を作成する。転記する手形バッチごとに、伝票タイプRKの仕訳が1件作成されます。仕訳の伝票番号には手形のバッチ番号が割り当てられます。この方法を使用するには、次の事項を確認する必要があります。
- 売掛管理固定情報の売掛金集計方式がB(バッチ・モード)に設定されている。
 - バッチに外貨建て取引が含まれていない。
- 条件を満たしていない場合、仕訳は明細形式で作成されます。
- 1: 明細仕訳を作成する。バッチに含まれる手形ごとに、伝票タイプRCの仕訳が作成されます。入金仕訳の伝票番号は、仕訳入力(システム09)の自動採番によって自動的に割り当てられます。
- 監査証跡を記録するために、F03B14テーブルの次のフィールドは仕訳の情報で更新されます。
- 仕訳伝票タイプ(RZDCTG)
 - 仕訳伝票番号(RZDOCG)
 - 仕訳伝票会社(RZKCOG)
- 6. 割引理由コード** 割引が行われる際に使用される割引理由コードを指定します。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxxx(xxxは理由コード)も設定してください。

選択

この処理オプションでは、支払われた請求書を選択するための情報を指定します。

- 1. 支払終了日付** 支払期日がここで指定した日付と同じかそれより小さい請求書を売掛金元帳テーブル(F03B11)テーブルから選択します。
- 2. 最低手形金額** 手形を作成する最低金額を指定します。空白の場合、すべての請求書に対して手形が作成されます。

処理

この処理オプションでは、処理をテスト・モードと最終モードのどちらで行うか、仕訳を明細形式と集計形式のどちらで作成するか、手形番号をどのように割り当てるかといった、手形処理のガイドラインを指定します。

- 1. 処理モード**
- プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードでは、最終モードで実行した場合に作成される手形のレポートが印刷されます。最終モードでは、レポートが生成され、F03B13、F03B14、F03B11の各テーブルの手形レコードが更新されます。値は次のとおりです。
- ブランク: テスト・モード
- 1: 最終モード
- 2. 集計/明細**
- 請求書ごとに1件の手形を作成するか(明細)、請求書の支払期日別に各顧客または各支払人に対して1件の手形を作成するか(集計)を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 明細手形。各請求書に対して1件ずつ手形が作成されます。
- 1: 顧客集計手形。支払期日と同じ請求書について、各顧客に対して1件の手形が作成されます。
- 2: 支払人集計手形。支払期日と同じ請求書について、各支払人に対して1件の手形が作成されます。
- 3. マイナス手形**
- マイナスの金額の手形を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: マイナスの手形を作成しない。
- 1: マイナスの手形を作成する。
- 4. 手形番号**
- 手形番号を自動採番するか、計算書番号を手形番号として使用するかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 自動採番を使用する。
- 1: 計算書番号を使用する。
- 5. 未決済金額**
- F03B11テーブルに、未決済金額を含めて手形請求書レコード(伝票タイプR1)を作成するかどうかを指定します。この処理オプションによって、手形を年齢調べの対象とできるかどうかが決まります。未決済金額を含めずに手形を作成した場合、そのレコードは一時レコードとしてのみ使用できません。入金または年齢調べの対象としてこのレコードは選択できません。値は次のとおりです。
- ブランク: 未決済金額を含めて手形請求書レコード(R1)を作成する。
- 1: 未決済金額を含めずに手形請求書レコード(R1)を作成する。

クレジットカード

この処理オプションでは、入金見出しテーブル(F03B13)の手形レコードを受注オーダーのクレジットカード情報で更新するかどうかを指定します。

- 1. クレジットカード処理**
- 手形を使って受注オーダーを処理し、受注オーダー処理で前払を設定している場合に、前払取引テーブル(F004201)のクレジットカードと承認番号でF03B13テーブルのレコードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 受注オーダーで前払処理を使用しなかった。
- 01: 受注オーダーで前払処理を使用した。

2. 前払発生フラグ

前払取引が作成されたシステムを指定します(たとえば、受注オーダー入力の場合は01と入力します)。ユーザー定義コード00/POに設定されている値を指定してください。

受取手形の承認と転記

この項では、手形の承認と転記の概要、手形転記時に作成される仕訳の概要、および次の方法について説明します。

- 受取手形を転記するための転記プログラムの実行
- 手形仕訳の検討プログラムからの手形の転記

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「財務取引の転記」

手形の承認と転記について

手形を入力したら、承認して総勘定元帳に転記し、該当する勘定科目情報を更新する必要があります。会社の方針によっては、バッチを転記する前に管理者の承認が必要となる場合があります。バッチの検討および承認には、バッチ・タイプにかかわらず同じ処理が実行されます。手形バッチのバッチ・タイプはDBです。

注意:「手形入力」フォームを閉じるまで、手形バッチ見出しの状況は“使用中”のままです。

手形を転記するとすべての仕訳が取引明細テーブル(F0911)に作成されるため、転記プログラムが中断された場合のみ貸借不一致エラーが発生します。転記プログラムが完了する前に中止された場合は、転記プログラムを再度実行して自動作成済の仕訳を削除した後、もう一度転記プログラムを実行して新しい仕訳を作成します。

転記プログラムでは次の処理が実行されます。

- 次のテーブルから未転記入金取引が選択されます。
 - F03B13
 - F03B14

- 各取引の検証と確認が行われます。

エラーがない場合、次の処理が実行されます。

- 取引明細テーブル(F0911)で適切な勘定科目が借方と貸方に計上されます。
借方に計上される勘定科目は手形の状況によって決まります。
- F0911テーブルに売掛金勘定の自動仕訳が作成されます。
- 必要に応じて、割引、小額消去、再請求、損金勘定の自動仕訳が作成されます。
- 勘定残高テーブル(F0902)の残高が更新されます。
- F0911テーブルの取引の転記コードをP(転記済)が更新されます。
- F03B14テーブルの転記コード・フィールドがDに更新されます。

注意: F03B13テーブルのレコードは、手形が回収済かつ転記済になるまで更新されません。受取と取立の後に手形を転記した場合、転記コード・フィールドは更新されません。

- バッチ制御レコード・テーブル (F0011) のバッチ状況がDに更新されます。

手形仕訳の検討プログラム (P0011) を使って手形を転記することもできます。

注意: F03B11テーブルに転記状況Dの未充当手形 (RU)、手形 (R1)、再請求 (RB)、および損金 (R5) の各請求書レコードが作成されます。これらのレコードが転記されたかどうかを判断するには、元となる手形伝票の転記状況を検索して確認する必要があります。

手形の転記によって作成される仕訳について

手形を総勘定元帳に転記すると、仕訳の作成方法および転記時の手形の状況に基づいて、F0911テーブルにレコードが作成されます。

次の各表は、標準の手形、割引手形、偶発債務を伴う割引手形に対して作成される仕訳を示しています。各レコードの表に記載されているフィールドから勘定科目が取り込まれます。このフィールドは、手形の入力、取立、回収時にAAIに基づいて更新されます。

標準の手形

次の表は、標準の手形に対して作成される仕訳を示しています。

| 手形の状況 | 仕訳伝票タイプ | フィールド | 基準となるAAI | 借方勘定 | 貸方勘定 |
|--------|---|-----------------|--------------------------------|------|-------|
| 受取 (4) | R1 | AID2 | RD1x | 受取手形 | |
| 受取 (4) | AE | AID | なし フィールドは、支払われた請求書から更新されます。 | | 売掛金勘定 |
| 取立 (3) | R2 | AID2 | RD2x | 取立手形 | |
| 取立 (3) | R1 | 受取レコードの AID2 | RD1x | | 受取手形 |
| 回収 (1) | RC 注意: 仕訳の作成方法によって伝票タイプはRKの場合があります。 | GLBA | RBまたは R03B672の処理オプション | 銀行勘定 | |
| 回収 (1) | R2 | 取立レコードの AID2 | RD2x | | 取立手形 |

割引手形

次の表は、割引手形に対して作成される仕訳を示しています。

| 手形の状況 | 仕訳伝票タイプ | フィールド | 基準となるAAI | 借方勘定 | 貸方勘定 |
|-------|---------------------------------------|-------------|--------------------------------|----------|----------|
| 受取(4) | R1 | AID2 | RD1x | 受取手形 | |
| 受取(4) | AE | AID | なし フィールドは、支払われた請求書から更新されます。 | | 売掛金勘定 |
| 取立(3) | R2 | AID2 | RD3x | 取立手形(割引) | |
| 取立(3) | R1 | 受取レコードのAID2 | RD1x | | 受取手形 |
| 回収(1) | RC 注意: 仕訳の作成方法によって伝票タイプはRK場合があります。 | GLBA | RBまたはR03B672の処理オプション | 銀行勘定 | |
| 回収(1) | R2 | 取立レコードのAID2 | RD3x | | 取立手形(割引) |

偶発債務を伴う割引手形

次の表は、偶発債務を伴う割引手形に対して作成される仕訳を示しています。

| 手形の状況 | 仕訳伝票タイプ | フィールド | 使用されるAAI | 借方勘定 | 貸方勘定 |
|-------|---------------------------------------|-------------|--------------------------------|--------|--------|
| 受取(4) | R1 | AID2 | RD1x | 受取手形 | |
| 受取(4) | AE | AID | なし フィールドは、支払われた請求書から更新されます。 | | 売掛金勘定 |
| 取立(2) | R2 | AID2 | RD3x | 割引取立手形 | |
| 取立(2) | R1 | 受取レコードのAID2 | RD1x | | 受取手形 |
| 取立(2) | RC 注意: 仕訳の作成方法によって伝票タイプはRK場合があります。 | GLBA | RBまたはR03B672の処理オプション | 銀行勘定 | |
| 取立(2) | R2 | AID2 | RD4x | | 偶発債務手形 |

| 手形の状況 | 仕訳伝票タイプ | フィールド | 使用されるAAI | 借方勘定 | 貸方勘定 |
|-------|---------|-----------------|----------|--------|--------|
| 回収(1) | R2 | AID2 | RD4x | 偶発債務手形 | |
| 回収(1) | R2 | 取立レコードの AID2 | RD3x | | 割引取立手形 |

仕訳の形式

明細仕訳の作成と集計仕訳の作成との違いは、作成される仕訳の件数および割り当てられる伝票タイプと伝票番号です。

どちらの方法で仕訳を作成する場合も、作成される仕訳によって入金明細テーブル(F03B14)の次のフィールドが更新されます。

- RZDCTG (伝票タイプ - JE)
- RZDOCG (伝票番号 - JE)
- RZKCOG (伝票会社 - JE)

注意: 手形処理のすべての段階で、伝票番号は同じ方法を使って割り当てられます。

明細方式

処理オプションで明細方式の仕訳を作成するように設定した場合、手形を入力すると、F03B13テーブルの売掛金転記状況フィールド(ISTR)の値が1に更新されます。手形を転記すると、次の処理が実行されます。

- バッチ内の手形ごとに1件の伝票が、F0911テーブルに作成されます。
- 銀行勘定の仕訳に伝票タイプRCが割り当てられます(偶発債務を伴う割引手形を取り立てる場合は、回収または取立時に割り当てられます)。
- システム03B、行6(手形番号)の自動採番プログラムによって番号から伝票番号が割り当てられます。
- F03B14テーブルのレコードが、監査用として仕訳に割り当てられる伝票番号で更新されます。

集計方法

処理オプションで集計方式の仕訳を作成するように設定した場合、手形を入力しても入金見出しテーブル(F03B13)の売掛金転記フィールド(ISTR)は更新されません。手形を転記すると、次の処理が実行されます。

- 手形を転記したバッチごとに1件のレコードが、F0911テーブルに作成されます。
- 銀行勘定の仕訳に伝票タイプRKが割り当てられます(偶発債務を伴う割引手形を取り立てる場合、回収または取立時に割り当てられます)。
- バッチ番号が伝票番号として割り当てられます。

集計方式の仕訳を作成するには、次のことを確認する必要があります。

- 売掛管理固定情報の集計方式の値がB(バッチ・モード)に設定されている。
- 一般会計固定情報の会社間決済オプションが「2」と「3」以外の値に設定されている。

これ以外の設定の場合、仕訳は明細方式で生成されます。

使用される方式

次の表に、一般会計固定情報および売掛管理固定情報の設定を基に作成される仕訳タイプを示します。

| 会社間決済(一般会計固定情報) | 売掛金の集計方式(売掛管理固定情報) | 仕訳作成方式(集計(S)/明細(D)) | 作成される仕訳の形式(F0911) |
|-----------------|--------------------|---------------------|-------------------|
| 1(ハブ方式) | B | D | 明細 |
| 1 | Y | D | 明細 |
| 1 | S | D | 明細 |
| 2(詳細方式) | B | D | 明細 |
| 2 | Y | D | 明細 |
| 2 | S | D | 明細 |
| 3(構成ハブ方式) | B | D | エラー(仕訳作成は不可) |
| 3 | Y | D | 明細 |
| 3 | S | D | 明細 |
| 1 | B | S | 集計 |
| 1 | Y | S | 明細 |
| 1 | S | S | 明細 |
| 2 | B | S | 集計 |
| 2 | Y | S | 明細 |
| 2 | S | S | 明細 |
| 3 | B | S | エラー(仕訳作成は不可) |
| 3 | Y | S | 明細 |
| 3 | S | S | 明細 |

注意: 集計方式の記号は、次の内容を表します。

Y: 項目行の数に関係なく伝票ごとに1件の自動仕訳

S: 支払項目ごとに1件の自動仕訳

B: バッチごとに1件の自動仕訳

割引が実施されたかどうか、または小額消去、再請求、損金を伴う手形の消込が行われたかによって、別レコードが作成されます。

無効および残高不足 (NSF) 手形の転記

無効にした手形や残高不足 (NSF) と指定した手形を転記した場合も、仕訳が作成されます。処理オプションでの仕訳作成方法の設定にかかわらず、次の処理が行われます。

- 無効にした手形を転記すると、伝票タイプ RO の仕訳が作成されます。
- 残高不足 (NSF) と指定された手形を転記すると、伝票タイプ RV の仕訳が作成されます。

仕訳に割り当てられた伝票番号と伝票タイプを使って、F03B13 のレコードの DOCQ フィールドと DCTQ フィールドの値が更新されます。

金額ゼロの手形の転記

未充当手形を請求書に対して消し込んだ場合は、手形の金額が 0 のため仕訳は作成されません。

また、未充当手形が転記された売掛金勘定と請求書が転記された売掛金勘定が異なる場合のみ、自動仕訳 (伝票タイプ AE) が作成されます。未充当手形を記録する売掛金勘定と請求書の売掛金勘定が同じ場合、AE 仕訳は作成されず、転記編集レポートも作成されません。

手形の転記によって作成される自動仕訳

手形を転記すると、取引明細テーブル (F0911) に伝票タイプ AE の仕訳が自動的に作成されます。手形入力時に更新されたフィールドの略式 ID が使用されます。次の表は、入力した手形の種類によって、転記プログラムで AE 仕訳の勘定科目を検索するのに使用されるフィールドを示しています。

| 勘定科目 | 手形の種類 | フィールド | テーブル |
|-------|---------------------------|-------|--------|
| 売掛金勘定 | 消込済手形 (入カタイプ・コード 10) | AID | F03B14 |
| | 未充当手形 | AID | F03B13 |
| | 再請求 (入カタイプ・コード 11、16、26) | AIDC | F03B14 |
| 割引実施額 | 割引 (入カタイプ・コード 10) | AIDD | F03B14 |
| 小額消去 | 小額消去 (入カタイプ・コード 10、15、25) | AIDW | F03B14 |
| 損金仮勘定 | 損金仮勘定 (入カタイプ・コード 17、27) | DAID | F03B14 |

手形の承認と転記に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|--------|--------|--|---------------|
| バッチの処理 | W0011A | 「手形日次処理」メニュー (G03B161) から「手形仕訳の検討」を選択します。 | 手形バッチを検索します。 |
| バッチ承認 | W0011C | 「バッチの処理」フォームで、バッチを選択し、「ロー」メニューから「バッチ承認」を選択します。 | 転記用バッチを承認します。 |

受取手形を転記するための転記プログラムの実行

「手形日次処理」メニュー (G03B161) から「手形の転記」を選択します。

手形仕訳の検討プログラムからの手形の転記

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

転記対象のバッチを選択し、「ロー」メニューの「バッチ別の転記」を選択します。

手形の削除および無効化

この項では、手形状況の概要と手形の無効化と削除の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 手形状況の変更 (前状況に戻す)
- 手形の削除または無効化

手形の状況について

手形の取立や回収を誤って行った場合、最後まで処理してから無効にするのではなく、手形の状況を元に戻すことができます。このとき、複数の手形を選択して状況を元に戻すことが可能です。各手形の現在の状況において行われた変更がすべて取り消されます。

注意: 受取済の状況を前状況に戻したり、無効およびNSF (残高不足) 処理をした手形を前状況に戻すことはできません。

手形入力プログラム (P03B602) の処理オプションで、この機能を使用できるようにするかどうかを指定できます。

手形を前状況に戻すと、次の処理が行われます。

- 取立手形がすでに書面またはテープで銀行に送信されている可能性があることを警告するメッセージが表示されます。
- 手形が取立明細に含まれている場合、取立明細から手形が削除されます。
- F03B11テーブルの手形請求書レコード (R1) の支払状況が前状況に戻されます。
- 前状況とバッチでF03B13テーブルが更新されます。

- F03B14テーブルから現在の状況の未転記レコードが削除されます。
- F03B14テーブルから現在の状況の転記済レコードが逆仕訳されます。
- 手形取立ワークファイル・テーブル (F03B672) に手形レコードがある (テープを使って取り立てた) 場合、手形レコードは削除され、テキスト処理見出しテーブル (F007101) のレコードの状況が3 (保留/送信) に更新されます。

注意: テキスト処理見出しテーブルの状況は、ユーザー定義コード (00/TL) から取り込まれます。

手形の削除および無効化について

手形を誤って入力した場合は、その手形を削除するか、無効にすることができます。手形を削除したり無効にすると、その手形によって支払われた請求書が再び未決済になります。

手形は次の場合にのみ削除できます。

- 手形が転記されていない。
- 手形の状況が受取 (4)。

注意: 手形の状況が取立または回収の場合は削除できません。手形を転記してから無効にしてください。

手形を削除すると、次のテーブルから手形レコードが削除されます。

- 入金見出し (F03B13)
- 入金明細 (F03B14)
- 売掛金元帳 (F03B11)

手形が転記済の場合は、手形を無効にしてください。手形を無効にすると、F03B13テーブルで手形レコードの次のフィールドが更新されます。

- 入金NSF/無効コード (NFVD)

このフィールドはVに更新されます。

- 無効日付 (VDGJ)

手形を無効にする際に入力した元帳日付が使用されます。

- 無効理由コード (VRE)

手形を無効にする際に入力した理由コードが使用されます。

新しいバッチが作成されます。これを転記して逆仕訳を作成する必要があります。手形処理のどの段階でも手形を無効にすることができます。

事前設定

AAI項目RD5xが設定されていることを確認してください。このAAIは手形を無効にしたりNSFに指定した場合に使用されます。

手形の削除と無効化に使用するフォーム




| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-----------|----------|---|------------------------|
| 手形の処理 | W03B602A | 「手形日次処理」メニュー (G03B161) から「手形入力 (自社)」または「手形入力 (顧客)」を選択します。 | 手形を検索します。 |
| 手形を前状況に戻す | W03B602L | 「手形の処理」フォームで、手形を選択し、「ロー」メニューから「前状況」を選択します。 | 手形を前状況に戻します。 |
| 削除の確認 | W03B602D | 「手形の処理」フォームで、手形を選択し、「ロー」メニューから「無効/削除」を選択します。 | 手形の削除/無効化を確認します。 |
| 無効/NSF手形 | W03B602C | 「削除の確認」フォームが表示されます。「OK」をクリックします。 | 手形を無効にする元帳日付と理由を指定します。 |

手形状況の変更

「手形を前状況に戻す」フォームにアクセスします。

手形入力(自社) - 手形を前状況に戻す

OK(O) 取消(L) ツール(T)

警告: 回収済みまたは取立済みの手形を前状況に戻します。取立済みの手形がバッチに含まれている可能性があります。

続行する場合、元帳日付を入力してください。

元帳日付 会社番号

「手形を前状況に戻す」フォーム

手形の削除または無効化

「手形の処理」フォームにアクセスします。

次の例は、「無効/NSF手形」フォームを示しています。

手形入力(自社) - 無効/NSF手形 i |

OK(O) 取消(L) ツール(T)

| | | | |
|--------|------------|------------------|---|
| 支払人No. | 3434 | Emperador Hotels | |
| 手形No. | 526 | バッチ | DB 7920 2009/03/12 |
| 手形日付 | 2005/06/01 | 会社番号 | 00001 元帳日付 2005/07/01 |
| 満期日 | 2005/07/01 | 銀行名 | Bank of Madrid |
| 外貨手形金額 | 846.00 | 顧客口座No. | 54797789877 |
| 支払手段 | D | 銀行/支店コード | 8908809889 |
| 通貨 | EUR | 為替レート | 1.1760555 基本 USD <input checked="" type="checkbox"/> 外貨 |

| | |
|--------------------------------|-------------------------|
| NSF手形 | |
| 元帳日付 | 2005/06/30 理由コード DSP 商標 |
| <input type="checkbox"/> 一部NSF | |
| <input type="checkbox"/> 更新 | |

| | | |
|-------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 仕訳入力 | <input type="checkbox"/> 税付き仕訳入力 | <input type="checkbox"/> 請求書入力 |
|-------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|

「無効/NSF手形」フォーム

手形を削除または無効にするには、次の手順に従います。

1. 「手形の処理」フォームで、削除するか無効にする請求書を選び、「ロー」メニューから「無効/削除」を選択します。
2. 「削除の確認」で「OK」をクリックします。
3. 「無効/NSF手形」で、「元帳日付」フィールドと「理由コード」フィールドに入力して、「OK」をクリックします。

手形が転記済かどうかにかかわらず、両方のフィールドに値を入力する必要があります。

手形の取立

この項では、手形の取立、割引手形と偶発債務、およびオンライン手形明細の概要と、次の方法について説明します。

- 受取手形の明細の作成
- 手形の取立プログラムの実行
- 手形取立(R03B672)のデータ選択の設定
- 手形取立(R03B672)の処理オプションの設定

フランス、イタリアおよびスペインには、手形の取立のための国別機能が用意されています。

関連項目:

第 12 章、「受取手形の処理」、「手形の転記によって作成される仕訳について」、294ページ

手形の取立について

顧客の銀行から手形代金を回収するためには、取引銀行に手形を持ち込み(預け入れ)ます。国によっては、この処理が不要な場合もあります。銀行への手形の持込みは、テープまたは印刷した書面で行うことができます。通常、電子フォーマットを使用する場合は、完全な顧客の銀行口座情報が必要になります。

銀行に手形を持ち込む前に、銀行口座別に手形をまとめて明細を作成できます。手形レコードは銀行口座情報で更新され、明細番号が割り当てられます。この番号は、手形の取立プログラム(R03B672)の実行時にデータ選択で使用できます。

明細を作成しない場合、手形の取立プログラムを実行すると、手形レコードは銀行口座情報で更新されます。

このプログラムはテスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。

テスト・モードでは、次の処理が実行されます。

- F03B13テーブルから受取済の手形(手形状況4)が選択されます。
- 元帳日付が会社の会計期間内であるかどうかを検証されます。
- 取立手形のレポートが印刷されます。

受取手形の取立(ペーパー・フォーマット)プログラム(R03B672P)を最終モードで実行すると、テスト・モードで実行した場合と同様に次の処理が行われます。

- バッチ制御レコード・テーブル(F0011)に取立バッチの新しいバッチ見出しレコードが作成されます。
- F03B11テーブルの手形請求書レコードの支払状況がD(明細が作成されている場合は「#」)からG(手形預入済、満期日前)に変更されます。
- F03B13テーブルのレコードとF03B11テーブルの手形請求書レコードの手形状況が4(受取)から3(取立 - 現金化または割引)または2(取立 - 偶発債務)に変更されます。
- 現金化するため、または割り引いて現金化するために手形を持ち込むと、F03B14テーブルに次のレコードが作成されます。
 - 手形の受取状況が変更されたレコード
 - 手形の取立状況3(取立 - 現金または割引)を持つレコード
- 偶発債務を伴う手形を持ち込むと、F03B14テーブルに次のレコードが作成されます。
 - 手形の受取状況(手形状況4)が変更されたレコード
 - 手形の取立状況2(取立 - 偶発債務)を持つレコード
 - 偶発債務を記録するレコード
- 各手形に対して1件のレコードが手形取立テーブル(F03B672)に作成されます。
- レポートとなるPDFファイルが作成されると、F03B672テーブルから自動的にレコードが削除されます。

受取手形の取立(磁気テープ・フォーマット)プログラム(R03B672T)をテスト・モードで実行すると、ペーパー・フォーマット・プログラムを最終モードで実行した場合と同様に次の処理が行われます。

- テキスト処理見出しテーブル(F007101)が更新されます。
- テキスト処理明細テーブル(F007111)が更新されます。
- 自動採番プログラム(00/07)によって、バッチ番号が割り当てられます。

注意: テキスト・ファイル処理プログラム (P007101) を実行して、テキスト処理テーブル (F007101 と F007111) からバッチを削除する必要があります。手形取立バッチを削除すると、F03B672 テーブルからもレコードが削除されます。

手形の取立処理は、最終モードで実行する前にテスト・モードで実行することをお勧めします。これによって、レコードを更新する前にエラーを検討して修正できます。最終モードの実行時にエラーが見つかった場合は、レポートにエラー・メッセージが印刷されます。

手形を持ち込んだら、取立バッチを承認して総勘定元帳に転記します。適切な仕訳が自動的に作成されます。

エラー処理

手形の取立プログラム (R03B672) の実行時にエラーが発生した場合は、次のことを行ってください。

- 正しいバージョンを選択したことを確認する。
- 処理オプションで入力した元帳日付が正しいかどうかを確認する。
- 処理オプションで入力した基準日が、最新の手形の満期日と同じかそれ以降であることを確認する。
- 処理オプションで紙またはテープの取立プログラムとバージョンを入力したことを確認する。

割引手形と偶発債務について

手形の満期日前に銀行に対して支払を求めることができます。これは手形の割引と呼ばれます。手形を割引く場合は、割引手数料を差し引いた金額を回収できます。次のように、満期日になるまで偶発債務として計上することが義務付けられている国もあります。

- 満期日になるまで、(借) 現預金 / (貸) 偶発債務を記録する。
- 満期日になったら、回収処理によって偶発債務を相殺する。

偶発債務を伴う手形を持ち込むと、満期日前に手形の全額を回収できます。

割引および偶発債務を伴う手形を持ち込むには、手形の取立プログラム (R03B672) の処理オプションを正しく設定する必要があります。

取立手形を転記すると、割引手形および偶発債務によって割引かれた手形の両方に対して、次の仕訳が作成されます。

- 偶発債務なしで割引手形を取り立てると、(借) 割引取立手形 / (貸) 受取手形の仕訳が作成されます。割引取立手形勘定は、AAI 項目 RD3x (x は支払手段) に基づいて決まります。
- 手形代金を回収すると、(借) 銀行勘定 (RB) / (貸) 割引手形勘定 (RD3x) の仕訳が作成されます。

偶発債務を伴う割引手形を取り立てると、次のような仕訳が作成されます。

- (借) 割引取立手形 / (貸) 受取手形 - 割引取立手形勘定は、AAI 項目 RD3x (x は支払手段) に基づいて決まります。
- (借) 銀行勘定 / (貸) 偶発債務 - 偶発債務勘定は、AAI 項目 RD4x (x は支払手段) に基づいて決まります。

手形を回収 (現金化) すると、(借) 偶発債務 / (貸) 割引手形勘定の仕訳が作成されます。

注意: 満期日前に現金化できる割引手形は、割引請求書とは異なることに注意してください。

手形は、割引を伴う請求書に対しても割引を伴わない請求書に対しても消し込むことができます。

請求書の金額分の手形を持ち込んで、銀行による顧客の手形代金の回収が行われるまで待つか、満期日前に一部の現金を受け取るために割引手形として持ち込むか、または割引手形を持ち込んで満期日まで偶発債務を計上しておくことができます。

オンライン手形明細について

オンライン明細を手動で作成して、手形を銀行に持ち込む際に使用できます。これは、手形の取立処理では任意のステップです。明細を作成する際には、手形代金回収のために銀行に持ち込む手形を選択できます。同じ銀行口座に対して別の明細を作成するには、手形の取立プログラム(R03B672)を実行して、先に作成した明細に含まれる手形を銀行に持ち込む必要があります。ただし、持ち込む前に既存の明細に手形を追加したり削除することが可能です。

手形の取立(持ち込み)前に明細を作成する利点は次のとおりです。

- 回収用、手形を支払手段および満期日別に整理できます。
- 取立手形をオンラインで確認できます。
- 手形の取立プログラムの実行時に簡単に手形を選択できます(手形明細番号での選択が可能)。
- 手形の状況が更新されるため、同じ手形を誤って別の銀行に持ち込むことを防ぐことができます。

明細には標準の手形または割引手形を含めることができますが、すべての手形の取引通貨を同じにする必要があります。

手形明細を作成すると、次の処理が実行されます。

- バッチ制御テーブル(F0011)にバッチ・タイプ&Bのバッチ見出しレコードが作成されます。
- 選択された手形の請求書レコード(F03B11)の支払状況がD(受取)から#(支払選択済)に変更されます。
- 選択された手形の入金レコード(F03B13)の銀行勘定が更新されます。
- 選択された手形入金レコード(F03B13)に、5桁の数字(00001で始まる)とバッチ番号を結合した明細番号(DREGフィールド)が割り当てられます。

手形の取立に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-----------|----------|---|---|
| 受取手形明細の処理 | W03B675C | 「手形の取立/回収」(G03B162)、「手形明細の作成と検討」 | 既存の手形明細があるかどうかを確認します。 |
| 手形明細 | W03B675D | <ul style="list-style-type: none"> 「受取手形明細の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 「受取手形明細の処理」フォームで、手形明細を選択して「選択」をクリックします。 「バッチ制御」フォームで「予想合計」フィールドに金額を入力し、「OK」をクリックします。 | <p>手形を銀行に持ち込む際に使用するオンライン明細を作成します。</p> <p>手形明細を検討、改訂を行います。</p> |
| すべての手形の選択 | W03B675E | 「手形明細」フォームで、「フォーム」メニューから「手形」を選択します。 | <p>銀行に回収を依頼する各手形を検索および選択します。</p> <p>既存の明細に手形を追加します。</p> |

受取手形の明細の作成

「手形明細」フォームにアクセスします。

「手形明細」フォーム

受取手形の明細を作成するには、次の手順に従います。

1. 「勘定科目コード」フィールドに銀行勘定科目コードを入力します。

2. 「通貨コード」フィールドに値を入力します。
3. (省略可)「要求金額」フィールドに値を入力します。
4. 「フォーム」メニューから「手形」を選択します。
5. 「すべての手形の選択」フォームで、銀行に回収を依頼する各手形を選んで「選択」をクリックします。
6. 「手形明細」で、「OK」をクリックします。

勘定科目コード

銀行の勘定科目コードを入力します。

要求金額

選択した手形の金額が想定した金額と一致しているかどうかの確認を行うために、取り立てる手形の合計金額を入力します。

手形取立プログラムの実行

「手形の取立/回収」メニュー(G03B162)から「手形の取立」を選択します。

手形取立(R03B672)のデータ選択の設定

このプログラムには、いくつかのデモ・バージョンが用意されており、次の条件によって手形を選択できます。

- 手形に銀行勘定があるかどうか。
手形明細を作成しない場合、手形レコードには銀行勘定がありません。明細なしのバージョン(タイトルに「w/o Reg」が含まれているバージョン)を選択してください。
- テスト・モードと最終モードのどちらで実行するか。
- 紙とテープのどちらのフォーマットで手形を持ち込むか。

その他の条件を追加することも可能です。たとえば、支払手段に基づいて手形を選択できます。

手形取立(R03B672)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

テスト/最終

この処理オプションでは、テスト・モードと最終モードのどちらで手形の取立を処理するかを指定します。

1. 最終モード

このプログラムをテスト・モードで実行するか、最終モードで実行するかを指定します。テスト・モードでは、最終モードで実行した場合に取立が行われる手形のレポートの印刷のみが行われます。最終モードでは、レポートの印刷とともに、手形の支払状況がG(手形預入済、満期日前)に更新され、F0911テーブルに仕訳が作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード

1: 最終モード

基準日

この処理オプションでは、取立を行う手形レコードを選択するのに使用する日付を指定します。

- 1. 基準日** 取立を行う手形レコードを選択する日付を指定します。満期日が指定した日付と同じかそれより前のすべての手形が選択されます。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。

銀行

この処理オプションでは、手形明細に出力済かどうかに基づいて、選択する手形レコードを指定します。

- 1. 明細** 手形明細を使用して処理された手形レコード(F03B13)を選択するかどうかを指定します。明細を使用して理された手形レコードの銀行勘定フィールドには値が含まれています。明細を使用して処理されなかった手形レコードの銀行勘定フィールドには値が含まれていません。値は次のとおりです。
ブランク: 手形明細を使用して処理されなかった手形レコードを選択する。
1: 手形明細を使用して処理された手形レコードを選択する。
- 2. 取立手形銀行勘定** 明細を使用せずに処理された手形レコードの銀行勘定科目を指定します。標準の勘定科目コード形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で入力してください。

注意: 手形が明細を使用して処理されている場合はこの処理オプションをブランクにしてください。

取立

この処理オプションでは、勘定科目情報と為替レートを指定します。

- 1. 手形勘定用AAI** 取立手形を転記する場合に使用するAAIを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: AAI項目RD2x(現金)。xは支払手段を示します。
1: AAI項目RD3x(割引)。xは支払手段を示します。
2: AAI項目RD4x(偶発債務)。xは支払手段を示します。
- 2. RD2/RD3 AAIの手形勘定科目コードの一時変更** 取立手形を転記する場合に使用する勘定科目を指定します。前の処理オプションで指定したAAIに関連する勘定科目のかわりにこの勘定科目が使用されます。現金および割引手形(RD2xとRD3x)に対してのみこの勘定科目が使用されます。偶発債務手形(RD4x)の勘定科目を変更するには、次の処理オプションを設定してください。標準の勘定科目コード形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で入力してください。
- 3. RD4 AAIの勘定科目コードの一時変更** 取立手形を転記する場合に使用する勘定科目を指定します。前の処理オプションで指定したAAIに関連する勘定科目のかわりにこの勘定科目が使用されます。偶発債務手形(RD4x)に対してのみこの勘定科目が使用されます。標準の勘定科目コード形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で入力してください。
- 4. 為替レートの一時的変更** 外貨建て請求書に対して支払う手形に使用する為替レートを指定します。請求書の通貨にかかわらず、すべての手形にここで指定した為替レートが適用されます。この処理オプションをブランクにすると、為替レート・テーブル(F0015)で為替レートが検索されます。

注意: この処理オプションは、偶発債務を伴って取り立てた手形に対してのみ有効です。

元帳日付

この処理オプションでは、取立手形に対して作成される仕訳に使用する元帳日付を指定します。

- | | |
|------------|--|
| 1. 仕訳の元帳日付 | 取立手形に対して作成される仕訳に割り当てる元帳日付を指定します。この処理オプションをblankにすると、システム日付が使用されます。 |
|------------|--|

最高金額

この処理オプションでは、取り立てる手形の合計の上限金額を指定します。

- | | |
|-------------|--|
| 1. 最高累計手形金額 | 取り立てる手形の合計の上限金額を指定します。処理対象として選択された手形の合計金額がここで指定した金額を超えている場合、手形の取立は実行されません。この処理を実行するためには、金額が上限を超えないようにデータ選択で手形を絞り込む必要があります。 |
|-------------|--|

最低金額

この処理オプションでは、取り立てる手形の合計の下限金額を指定します。

- | | |
|-------------|--|
| 1. 最低取立処理金額 | 取り立てる手形を処理するのに必要な最低金額を指定します。選択した手形の合計金額がここで指定した金額以下の場合、手形は処理されません。 |
|-------------|--|

レポート/テープ

この処理オプションでは、銀行フォーマットに対して使用する手形取立プログラムを指定します。

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 紙/テープ取立プログラム | 銀行フォーマットに対して使用する手形取立プログラムを指定します。プログラムを指定しない場合、取立処理は行われません。指定できるプログラムは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • R03B672AR: 取立日付POテンプレートAGR • R03B672IP: 受取手形の取立 (RIBA磁気テープ・フォーマット) • R03B672IR: 受取手形の取立 (RID磁気テープ・フォーマット) • R03B672IT: 受取手形の取立 (RIBA磁気テープ・フォーマット) • R03B672P: 受取手形の取立 (ペーパー・フォーマット) • R03B672T: 受取手形の取立 (磁気テープ・フォーマット) |
| 2. 紙/テープ取立バージョン | 使用する取立プログラムのバージョンを指定できます。この処理オプションをblankにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |

カスタム・レポート

この処理オプションでは、カスタム取立レポートを印刷するプログラムを指定します。

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. カスタム取立レポート - プログラムID | 取立用カスタム・レポートの作成に使用するプログラムを指定します。この処理オプションをblankにすると、レポートは作成されません。 |
| 2. カスタム取立レポート - バージョンID | 使用するカスタム取立プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、レポートは作成されません。 |

手形の残高不足 (NSF) 指定

この項では、NSF (残高不足) 手形とNSF手形通知レポートの概要、および次の方法について説明します。

- 手形のNSF (全額または部分) 指定
- NSF手形通知レポートの印刷
- NSF手形通知レポート (R03B574) の処理オプションの設定

関連項目:

第 7 章、「請求書の処理」、「標準請求書入力について」、116ページ

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「仕訳の処理」、「基本仕訳の入力」

NSF手形について

顧客の銀行口座に手形を支払う十分な資金がない場合、手形をNSF (残高不足) に指定できます。手形の全額または一部をNSFに指定できます。

全額NSF手形

全額NSF手形は、まったく現金を回収できなかった手形です。手形処理のどの段階でもこのNSF機能を使用し、既存の請求書を再び未決済に戻して手形を処理できます。手形を残高不足 (NSF) に指定すると、次の処理が実行されます。

- F03B11テーブルの手形レコード (R1) から未決済金額が削除されます。
- 手形レコード (R1) に支払状況Pが割り当てられます。
- 決済日付として入力した元帳日付が手形レコード (R1) に割り当てられます。
- NSFレコードの新しいバッチが作成されます。

適切な仕訳を作成してF0911テーブルとF0902テーブルを更新するために、このバッチを転記する必要があります。

また、手形の更新機能を使って手形の更新 (期間延長) を行うこともできます。

手形をNSFに指定する際、該当するオプションを選択して、「無効/NSF手形」フォームから直接新しい請求書を追加したり仕訳を作成できます。これにより、銀行から請求される手数料を顧客に請求したり、その手数料の仕訳を作成できます。手数料に消費税がかかる場合は、請求書で消費税を指定するか、「税付き仕訳入力」チェックボックスを選択します。

部分NSF手形

手形の全額をNSFと指定するのではなく、部分NSFオプションを使って、回収できない手形の金額を指定できます。未決済に戻す請求書を自動的に特定することはできないため、部分NSFを指定すると、元の請求書は決済 (支払) 済のままの状態、NSF金額の単独再請求レコード (伝票タイプNP) が作成されます。

部分NSF手形は、取立と回収の間、または回収の後に入力できます。受取の段階では手形を部分NSFに指定することはできません。たとえば、銀行に手形を持ち込んだ後や、手形の状況を回収に変更した後で、顧客の銀行口座の残高が不足していることがわかった場合にこの機能を使用できます。

顧客がNSF手形の不足分を支払う見込みがある場合は、更新手形を作成できます。更新手形の総額は、NSF手形のコストと等しくなります。

部分NSFを作成すると、次の処理が実行されます。

- F03B14テーブルに、部分NSFを示す入力タイプ・コード30のレコードが作成されます。このレコードは、顧客の銀行から回収する金額を調整するために作成されます。
- F03B14テーブルに、部分NSFの結果作成された単独再請求レコードを示す入力タイプ・コード36のレコードが作成されます。
- F03B11テーブルに、NSFの金額の再請求レコード(伝票タイプNP)が作成されます。

注意: 与信履歴の更新プログラム(R03B16A)の実行時、NSFの計算には部分NSFが含まれます。部分NSFの単独再請求レコード(伝票タイプNP)は、NSFの計算には含まれません。

更新手形

手形を残高不足(NSF)に指定する場合は、その手形を更新するように指定できます。手形の更新を行うと、不足分の金額で新しい手形が作成されます。「無効/NSF手形」フォームでの「一部NSF」の設定に基づいて、新しい手形は再び未決済になった請求書または再請求に対して消し込まれます。

手形を更新すると、次の処理が行われます。

- F03B13、F03B14、およびF03B11の各テーブルに新しい手形が作成されます。
- 新しく作成された手形が未決済だった元の請求書と照合されます。または、「一部NSF」チェックボックスが選択されている場合は自動的に作成された再請求レコードと照合されます。必要に応じて請求書レコードの改訂、削除、追加を行うことができます。
- F03B13テーブルで元の手形の元帳日付が更新されます。

NSF手形通知レポートについて

残高不足のために戻された手形の合計金額をモニタリングするには、NSF手形通知レポートを印刷します。NSF手形がある各顧客に対して個別にレポートが印刷されます。また、顧客に対して追加情報を知らせるメッセージを印刷するように設定できます。重要度に応じて異なるメッセージを設定することもできます。たとえば、「次の手形は残高不足のため取引銀行より返却されました。至急御社の口座にご入金ください。」などのメッセージを印刷できます。

F03B14テーブルのレコードが印刷されますが、請求書日付はF03B11テーブルの手形レコード(伝票タイプR1)から取り込まれます。

手形を残高不足 (NSF) として指定するために使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------|----------|---|------------------------------------|
| 手形の処理 | W03B602A | 「手形日次処理」メニュー (G03B161) から「手形入力 (自社)」または「手形入力 (顧客)」を選択します。 | 手形を検索します。 |
| 削除の確認 | W03B602D | 「手形の処理」フォームで、手形を選択し、「ロー」メニューから「NSF」を選択します。 | 手形を残高不足 (NSF) に指定することを確認します。 |
| 無効/NSF手形 | W03B602C | 「削除の確認」フォームが表示されます。「OK」をクリックします。 | 手形をNSF (全額または部分) に指定します。 |
| 単独入金の作成 | W03B602H | 「無効/NSF手形」フォームで、部分NSFを作成するための情報を入力し、「OK」をクリックします。 | 受領していない支払の一部を小額消込するために、単独取引を作成します。 |

手形のNSF (全額または部分) 指定

「無効/NSF手形」フォームにアクセスします。

手形をNSF (全額または部分) と指定するには、次の手順に従います。

1. 「元帳日付」フィールドと「理由コード」フィールドに値を入力します。
2. 部分NSFに指定する場合は、「一部NSF」チェックボックスを選択して、「NSF金額」フィールドに値を入力します。全額NSFに指定する場合は、このステップはスキップしてください。
3. 更新情報を指定するには、「更新」、「手形No.」、「手形日付」、「満期日」、「支払手段」、および「為替レート」の各フィールドに値を入力します。

新しい手形が作成され、部分NSFに指定したかどうかによって、その手形が未決済請求書または新しく作成された再請求レコードに対して消し込まれます。

4. 銀行手数料の仕訳を作成するには、「仕訳入力」チェックボックスを選択します。
5. 税付き仕訳を作成するには、「税付き仕訳入力」チェックボックスを選択します。
6. 銀行手数料を顧客に請求する請求書を作成するには、「請求書入力」チェックボックスを選択します。
7. 「OK」をクリックします。
8. 部分NSFに指定した場合は、「単独入金の作成」フォームが表示されます。「顧客」、「顧客参照」、「再請求理由コード」、および「再請求相手勘定」の各フィールドに値を入力し、「OK」をクリックします。
9. 手形の更新を指定した場合は、新しく作成された手形と未決済請求書または再請求が「手形入力」フォームに表示されます。「手形入力」で、必要に応じて請求書情報を変更できます。

NSF金額 (残高不足の金額)

残高不足の金額を入力します。「一部NSF」チェックボックスを選択すると、このフィールドが表示されます。このフィールドに値を入力すると、F03B11テーブルに残高不足を示す伝票タイプNPの部分NSFレコードが作成されます。「一部NSF」チェックボックスの選択が解除

| | |
|----------|---|
| | <p>されている場合、この手形によって支払われる請求書は、この手形を消し込んだ全額が未決済に戻されます。</p> <p>このフィールドで指定した金額の再請求レコードが作成されます。</p> <p>手形の合計金額未満の金額を入力できます。外貨を使用する場合、このフィールドは「外貨NSF金額」と表示されます。</p> |
| 顧客参照 | <p>相互参照番号または2次参照番号として使用する英数値を入力します。通常は、顧客番号、仕入先番号、または作業番号を入力します。</p> |
| 再請求理由コード | <p>入金入力中に請求書に対して再請求が生成された理由を示すコードを入力します。代表的な再請求理由コードは次のとおりです。</p> <p>DA: 問題のある金額</p> <p>DD: 無効割引(割引不可)額</p> <hr/> <p>注意: ブランクは、ユーザー定義コード・テーブルで定義されているも有効な値として受け入れられません。</p> <hr/> |
| 再請求相手勘定 | <p>再請求の転記時に使用する売掛金勘定を指定するコードを入力します。AAI項目RCとこのコードを結合して勘定科目が検索されます。次の順序で、再請求を計上する売掛金勘定が検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多通貨を使用している場合、RCxxx (xxxは入金の通貨コード) が検索されます。 2. 見つからない場合、RCxxxx (xxxxは再請求相手勘定フィールド) が検索されます。 3. 見つからない場合、RCxx (xxは再請求理由コード) が検索されます。 4. 見つからない場合、入金レコードに指定されている会社のRCが検索されます。 5. 見つからない場合、会社00000のRCが検索されます。 |

NSF手形通知レポートの印刷

「手形の取立/回収」メニュー(G03B162)から「NSF(残高不足)手形通知」を選択します。

NSF手形通知レポート(R03B574)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

この処理オプションでは、レポートに印刷する情報を指定します。

- | | |
|---------|---|
| 1. 印刷日付 | レポートに印刷する日付を指定します。この処理オプションをブランクにした場合は、現在の日付が印刷されます。 |
| 2. 集計 | 伝票番号別に手形明細行を集計するかどうかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: 手形明細行を集計しない。各明細行が印刷されます。 |

1: 手形明細行を集計する。各伝票番号に対して1行の明細行が印刷されます。

日付範囲

この処理オプションでは、レポートに印刷するレコードを指定します。

1. 開始日付、2. 終了日付 レポートに出力するレコードの選択に使用する日付範囲を指定します。満期日が「開始日付」処理オプションで指定された日付と同じかそれ以降のすべての手形、および満期日が「終了日付」処理オプションで指定された日付と同じかそれ以前のすべての手形を印刷します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。

システム

この処理オプションでは、レポートに印刷するテキストを指定します。

レポートにメッセージを印刷するには、まず、汎用メッセージ/レート・レコード・プログラム(P00191)を使って製品コード、ユーザー・コード、レター・コード、メッセージを設定する必要があります。

P00191ではすべてのコードを自由に組合せ指定できますが、「システム」タブの処理オプションでは同じコードを指定する必要があります。

1. システム・コード、2. 汎用メッセージ詳細テーブル(F00192)から取り込み、レポートに印刷する
ユーザー定義コード、3. テキストに対応するシステム、ユーザー定義コード、NSFレターコード(製品
NSFレターコード コード)を指定します。

手形の回収

この項では、手形の回収の概要と次の方法について説明します。

- 手形回収(状況更新)プログラムの実行
- 手形回収(状況更新)(R03B680)の処理オプションの設定

手形の回収について

手形代金の回収は、次のいずれかの方法で行うことができます。

- 手形の満期日まで待つ。
- 手形を満期日前に銀行に持ち込んで現金化する。これは、手形の割引と呼ばれます。一般に、満期日前に銀行から手形の支払を受けた場合、手数料が請求されます。この手数料は、手形の回収時に別途処理する必要があります。

手形の満期日に、自社の取引銀行が顧客の銀行から手形代金を回収します。手形代金が回収できない場合は、取引銀行から通知があります。満期日が到来したら、自社と顧客の両方で資金の移動を計上します。手形が回収済であることを示すようにレコードの手形状況を更新します。

会社によって、手形の満期日に手形の決済を行う場合と、銀行取引明細に入金が表示されるまで待つ場合があります。処理オプションで、支払済の手形レコード(伝票タイプR1)に割り当てる支払状況コードや、手形を決済するかどうかを指定できます。手形を決済すると、手形レコードの未決済金額はクリアされ、F03B14テーブルにレコードが作成されます。手形レコードを未決済のままにする場合、F03B14テーブルに照合レコードを作成するために、手形回収(状況更新)プログラム(R03B680)は再度実行し、未決済にする手形レコードを選択して更新する必要があります。手形を回収して決済したら、適切な仕訳を作成するために手形バッチを転記してください。

また、手形の回収処理において手数料を請求する銀行もあります。手数料には、銀行情報の不足に対する追加手数料、手形割引、コミッションなどがあります。また、税法により、これらの手数料に税が課せられる国もあります。税付き仕訳入力プログラム(P09106)を使って、すべての手数料に対して仕訳を作成してください。

手形回収(状況更新)プログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。次は、2つのモードの相違点です。

テスト・モードでは、次の処理が実行されます。

- 受取済または取立済の手形が選択されます。
- 更新する手形を示すレポートが印刷されます。このレポートには、処理オプションで指定した満期日を待つ支払状況がG(手形預入済、満期日前)の手形がすべて表示されます。

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- バッチ制御レコード・テーブル(F0011)に、回収済の手形のバッチ見出しレコードが作成されます。適切な仕訳を作成するために、このバッチを転記する必要があります。
- 手形請求書レコード(伝票タイプR1)の支払状況がP(支払済)またはユーザーが選択した値に変更されます。
- 入金見出しテーブル(F03B13)のレコードの手形状況が2(取立 - 現金化または割引)または3(取立 - 偶発債務)から0(回収)に変更されます。
- 手形を取り立てるかどうかによって、入金明細テーブル(F03B14)に1件または複数のレコードが作成されます。手形を取り立てる場合、回収手形の他に取立手形の取消レコードが作成されます。

手形回収(状況更新)プログラムの実行

「手形の取立/回収」メニュー(G03B162)から「手形の回収(状況更新)」を選択します。

手形回収(状況更新)(R03B680)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

モード

この処理オプションでは、テスト・モードと最終モードのどちらで手形の回収を処理するかを指定します。

1. 最終モード

プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードでは、回収可能な手形のレポートが印刷されます。最終モードでは、レポートの印刷とともに、手形の支払状況がG(手形預入済、満期日前)からP(全額支払済)に更新され、仕訳が作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード

1: 最終モード

基準日

この処理オプションでは、回収する手形を選択するのに使用する日付を指定します。

- | | |
|--------|---|
| 1. 基準日 | 手形の回収処理に使用する日付を指定します。満期日が指定した日付と同じかそれより前の回収可能なすべての手形が選択されます。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。 |
|--------|---|

元帳日付

この処理オプションでは、自動的に作成される仕訳に元帳日付として割り当てる日付を指定します。

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 仕訳の元帳日付 | 回収した手形に対して作成される仕訳に割り当てる元帳日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。 |
| 2. 銀行勘定浮動日数から計算した元帳日付 | 手形の回収処理で作成された仕訳の元帳日付として使用された手形満期日に、銀行/支店マスター(F0030)の銀行勘定で指定された浮動日数を追加するかどうかを指定します。値は次のとおりです。 |

ブランク: 前の処理オプションの日付を使用する。

1: 手形満期日に銀行勘定の浮動日数を加算する。

注意: 自動的に計算される元帳日付ごとに個別の仕訳が作成されます。

- | | |
|-----------------------|---|
| 3. 入力した浮動日数から計算する元帳日付 | 元帳日付として使用するために満期日に追加する日数を、銀行/支店マスター(F0030)で銀行勘定に設定されている日数以外とは別の値にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。 |
| | ブランク: 浮動日数を指定しない。前の処理オプションのいずれかを使って元帳日付が決定されます。 |
| | 1: 次の処理オプションで指定する浮動日数を使って元帳日付を決定し、手形を選択する。次の処理オプションで浮動日数を指定しない場合は、前の処理オプションのいずれかまたはシステム日付が使用されます。 |

- | | |
|---------|--|
| 5. 支払手段 | 手形レコードを選択するために使用する支払手段を指定します。処理オプション3(入力した浮動日数から計算する元帳日付)で1を指定した場合のみ、この処理オプションを設定してください。そうでない場合は、手形レコードは支払手段別に選択されません。この処理オプションは必須ではありません。 |
|---------|--|

支払状況

この処理オプションでは、回収した手形請求書レコードの支払状況と、未決済金額がある場合にその金額をクリアするかどうかを指定します。

- | | |
|------------|---|
| 1. 支払状況コード | 回収した手形に割り当てる支払状況コードを指定します。支払状況コードのユーザー定義コード00/PSに設定されているコードを指定してください。ブランクの場合、P(全額支払済)が割り当てられます。 |
|------------|---|

注意: この処理オプションは、「手形の決済」処理オプションと組み合わせて設定します。支払状況をPに更新するよう選択した場合は、手形を決済しない設定にすると、手形は未決済とみなされ、次のように処理されます。

- F03B14テーブルに手形請求書レコード(R1)が作成されません。

- 手形レコード(R1)の支払状況はPではなくAに更新されます。
- バッチ・タイプがDBの空のバッチ見出しレコードが作成されます。空のバッチ見出しレコードを転記するか、バッチと明細の整合性レポート(R007031)を実行してそのレコードを削除できます。

2. 手形の決済

手形請求書レコード(R1)(F03B11)に未決済金額がある場合、その金額を削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書手形レコード(R1)から未決済金額を削除します。

1: 未決済金額を削除しません。

注意: この処理オプションは、「支払状況コード」処理オプションと組み合わせて設定します。支払状況をPに更新するよう選択した場合は、手形を決済しない設定すると、手形は未決済とみなされ、次のように処理されます。

- F03B14テーブルに手形レコード(R1)が作成されません。
- 手形レコード(R1)の支払状況はPではなくAに更新されます。
- バッチ・タイプがRBの空のバッチ見出しレコードが作成されます。空のバッチ見出しレコードを転記するか、バッチと明細の整合性レポート(R007031)を実行してそのレコードを削除できます。

為替レート

この処理オプションでは、回収済手形レコードの為替差損益の計算に使用する為替レートを指定します。

1. 為替レートの一時変更

外貨建て請求書に対して支払う手形に使用する為替レートを指定します。請求書の通貨にかかわらず、すべての手形にここで指定した為替レートが適用されます。この処理オプションをブランクにすると、為替レート・テーブル(F0015)で為替レートが検索されます。

注意: この処理オプションは、偶発債務なしで持ち込んだ手形に対してのみ有効です。

第 13 章

自動引落とし処理

この章では、自動引落としの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 自動引落としバッチの作成と処理
- 自動引落としバッチの承認と転記
- 自動引落としのフォーマット
- 銀行への自動引落としバッチの転送
- 自動引落としの除去

注意: オーストリア、ベルギー、フランス、ドイツ、アイルランド、イギリス、オランダおよびスイスには、自動引落としを処理するための国別機能が用意されています。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「銀行口座の設定」

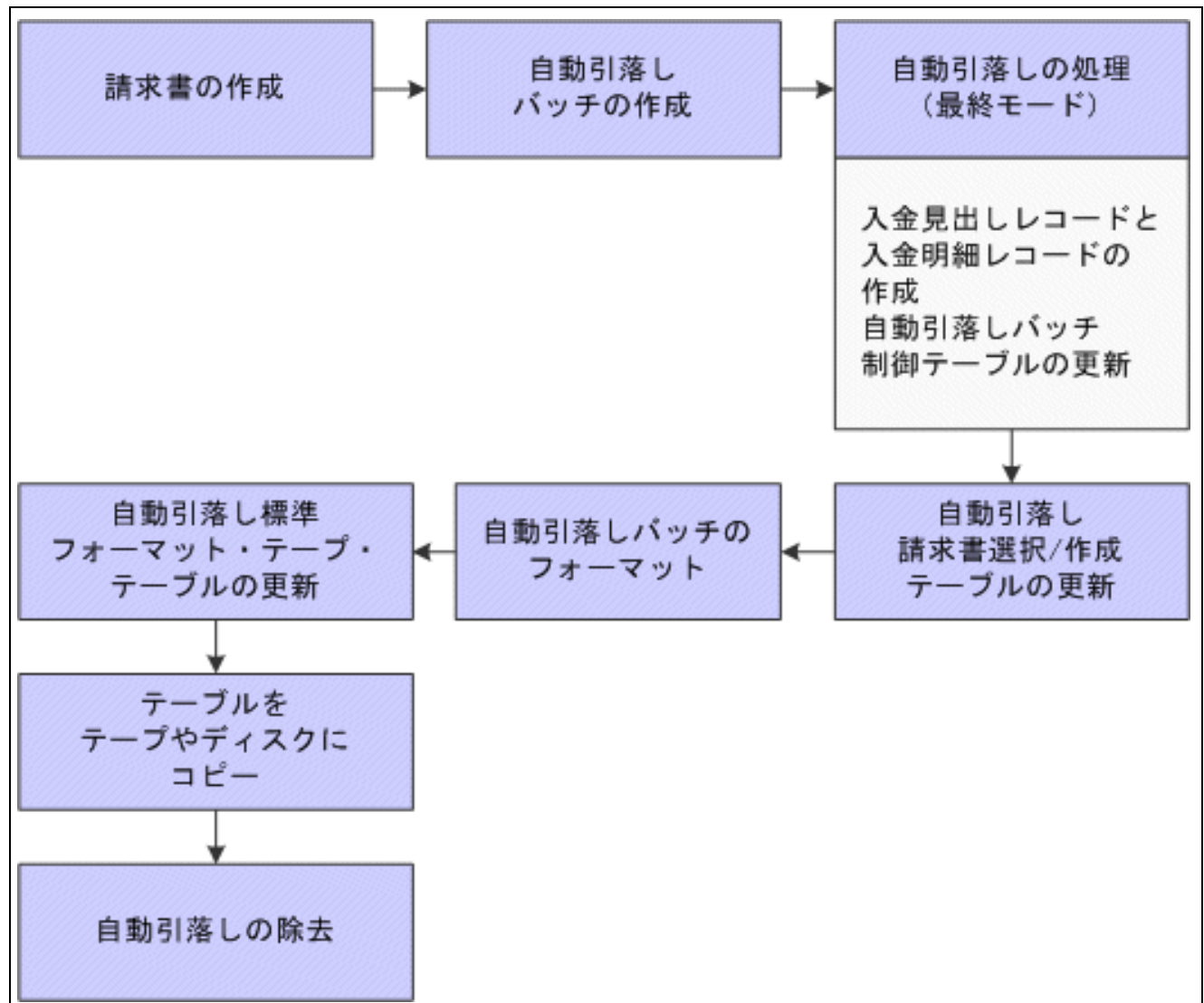
自動引落としについて

顧客の銀行口座から自動引落としをすることができます。そのためには、電子資金決済 (EFT) を使用して顧客の口座から引落としを行う銀行に送るテーブルを更新します。

自動引落とし処理では、テーブルの更新時に入金記録されます。テーブルを銀行仕様 (全銀協フォーマット) に変換するプログラムを実行し、そのファイルをテープや FD、CD などのメディアにコピーして銀行に送るか、電子送信します。銀行では顧客の口座から引落としが行われ、引落としが完了すると銀行から通知が来ます。

毎月、一定の金額を請求する場合に、自動引落としは便利です。また、請求期間ごとに異なる金額が自動的に引き落とされるようにすることもできます。

次の図は、自動引落とし処理の流れを示しています。



自動引落し処理の流れ

自動引落しの処理手順は次のとおりです。

- 自動引落し処理の契約をしている顧客を特定する。
- 引落しの対象となる顧客の請求書を選択する。
- 銀行に送るワークテーブルを作成して更新する。
- 顧客への請求書を支払済に更新する。
- 各国の銀行仕様(日本の場合、全銀協フォーマット)に準拠したフォーマットで、自動引落しデータを作成する。
- 自動引落しデータをテープなどのメディアにコピーして銀行に送るか電子送信する。
- 自動引落しバッチを削除する。

自動引落し処理では次のテーブルが更新されます。

- 自動引落しバッチ制御 (F03B571)
- 自動引落し請求書選択/作成 (F03B575)

- 自動引落し標準フォーマット・テープ・ファイル (F03B570W)

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 支払手段ユーザー定義コード (UDC) テーブル (00/PY) に、自動引落し用の支払手段コードが設定されていることを確認します。
- 「顧客マスターの改訂」フォームで、「支払手段」フィールドに「A」(自動引落し(売掛管理のみ))と入力して、「自動入金 (Y/N)」チェックボックスを選択します。

Aは、ハードコードではありません。他の値を使用することもできます。

参照: 第 3 章、「顧客マスター情報の設定」、「顧客マスター・レコードの入力」、29ページ

- 「住所別銀行口座設定」フォームで、顧客に自動引落し用の銀行勘定科目が設定されていることを確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「銀行口座の設定」、「銀行勘定科目の設定」

- 「銀行勘定科目の設定」フォームで、次の自動引落し番号が自動引落しにより入金される銀行勘定科目に指定されていることを確認します。
- (FRA)「BACS情報の改訂」(銀行自動決済システム情報の改訂)フォームで、送信者の銀行IDを「銀行ユーザーNo.」フィールドに入力し、フランス用の電子資金決済を処理します。
- 「売掛管理固定情報」フォームで、「自動入金」チェックボックスを選択します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定」、「売掛管理固定情報の設定」、6ページ

- 必要条件を満たすフォーマット・プログラムがない場合は、カスタム・プログラムを作成して、処理およびフォーマット済の自動引落しバッチを銀行が受け入れるメディアにコピーして銀行に渡すか、電子送信します。

自動引落しバッチの作成と処理

この項では、自動引落しバッチの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 自動引落しの処理 (P03B571) の処理オプションの設定
- 自動引落しバッチの作成 (R03B571) の処理オプションの設定
- 自動引落しバッチの作成
- 最終モードでの自動引落しバッチの処理

自動引落しバッチについて

自動引落しバッチを作成するには、自動引落しの処理プログラム (P03B571) を使用して、自動引落しバッチの作成プログラム (R03B571) を実行します。処理オプションとデータ選択で、バッチに含める請求書を指定します。

テスト・モードと最終モードのどちらでもバッチを作成できます。

テスト・モード

自動引落しバッチの作成プログラムをテスト・モードで実行すると、次の処理が行われます。

- 顧客の口座から自動的に引き落とされる請求書を確認します。
- F03B571テーブルに、自動引落しバッチのレコードを作成します。
このレコードは、「自動引落しバッチの処理」フォームに表示されます。
- F03B575テーブルに、データ選択条件と一致する請求書がすべて含まれたレコードを作成します。
- 次の2つのレポートを作成します。
 - 自動引落しバッチの作成 (R03B571) では、自動引落しバッチに含める請求書の選択で発生したエラーの例外レポートが作成されます。
エラーがない場合、「レコード処理済 - 例外なし」というメッセージが印刷されます。
 - 自動引落し処理 (R03B575) では、自動引落しバッチを構成する請求書が作成されます。
- F03B571テーブルの状況フィールドを1 (テスト・モード) に更新します。

作成できる自動引落しバッチの件数に制限はありません。これらの自動引落し情報は、レコードを削除または除去するまで各テーブルに保管されます。

最終モード

自動引落しバッチの作成プログラム (R03B571) を最終モードで実行すると、テスト・モードで行われるのと同じ処理が実行されます。さらに、次の処理も実行されます。

- 自動引落し処理プログラム (R03B575) のバージョン ZJDE0001 を実行します。
- バッチ制御レコード・テーブル (F0011) にバッチ・タイプ RB のレコードを作成します。
- 入金見出しテーブル (F03B13) と入金明細テーブル (F03B14) にレコードを作成します。これらのレコードは取引明細テーブル (F0911) に転記する必要があります。
支払われた請求書の件数にかかわらず、各顧客に対して1件の入金レコードが作成されます。
- 自動採番機能を使って、自動引落しレコードに支払番号を割り当てます。
- 請求書の支払状況をP (支払済) に変更します。
- F03B571テーブルの状況フィールドを2 (最終モード) に更新します。

最終モードで自動引落しバッチを作成する場合、国ごとの銀行要件を満たすフォーマットに自動的にフォーマットするように処理オプションを設定することもできます。このためには、銀行ファイル処理オプションで銀行ファイルのフォーマット・プログラムを指定してください。また、「自動引落し制御の改訂」フォームでプログラム番号を入力して、バッチの処理後に手動で自動引落しバッチのフォーマットを行うこともできます。

参照: 第 13 章、「自動引落し処理」、「自動引落しのフォーマット」、328 ページ

自動引落しバッチの削除

自動引落し処理中にエラーを見つけた場合は、そのバッチを削除して自動引落しワークテーブルに新しいバッチを作成できます。たとえば、顧客や請求書、銀行口座情報などを変更した場合、ワークテーブルに新しいバッチを作成する必要があります。これらの変更は、ワークテーブルにある既存の自動引落しバッチ情報には反映されません。

自動引落しバッチを削除すると、そのバッチによって作成された仕訳や入金レコードは削除されるか無効になり、関連する請求書が再び未決済になります。未決済になった請求書は、新しい自動引落しバッチに含めることができます。

データ選択

自動引落し処理プログラムのデータ選択で、自動引落しバッチに含める請求書を選択する必要があります。少なくとも支払手段を指定して、自動引落し処理で支払対象となる請求書を特定してください。

事前設定

ドイツ向けの German Bank File Format and Statement Diskette (R03B575DD) フォーマットを使用している場合、テキスト・ファイルに含まれる使用不可能な文字を置き換えるため UDC 04/RC を設定して使用可能な文字を指定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Foundation Guide

自動引落しバッチの作成と処理に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|---------------------------|----------|----------------------------------|---|
| 自動引落しバッチの処理 | W03B571A | 「自動引落し」(G03B131)、 「自動引落しの処理」 | 自動引落しバッチを作成し、テスト・モードまたは最終モードで処理します。テスト・モードで処理されたバッチを選択して最終モードで処理することもできます。 テスト・モードで自動引落しバッチを作成するには、自動引落しバッチの作成プログラム (R03B571) の処理オプションをテスト・モードに設定します。 最初にテスト・モードで自動引落しバッチを作成せずに最終モードで作成する場合は、自動引落しバッチの作成プログラム (R03B571) の処理オプションを最終モードに設定します。 |
| バッチ・バージョンの処理 – 使用可能なバージョン | W98305WA | 「自動引落しバッチの処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | 自動引落しバッチの作成プログラム (R03B571) を実行します。 |

自動引落しの処理 (P03B571) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

P0457D バージョン

この処理オプションでは、使用する銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラム (P0457D) のバージョンを指定します。

1. 銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラム(P0457D)のバージョン

銀行ファイルのコピーに使用する、銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

自動引落しバッチの作成(R03B571)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト処理

この処理オプションでは、自動引落し処理に必要な請求書を選択するための情報を指定します。

1. 処理モード

プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードでは、レポートは作成されますがどのテーブルも更新されません。最終モードでは、レポートが印刷されるだけでなく、入力した情報に基づいてF03B13テーブルとF03B14テーブルが更新されます。値は次のとおりです。

空白: テスト・モード

1: 最終モード

2. 処理終了日付

選択する支払請求書の処理終了日付を指定します。「比較する日付タイプ」処理オプションとあわせて支払対象となる請求書が選択されます。たとえば、処理終了日付を2008年6月30日、日付タイプをI(請求書日付)に設定した場合、請求書日付が2008年6月30日以前のすべての未決済請求書が選択されます。

空白にすると、システム日付が使用されます。

3. 比較する日付タイプ

請求書の選択に使用する日付タイプを指定します。「処理終了日付」処理オプションとあわせて支払対象となる請求書が選択されます。たとえば、処理終了日付を2008年6月30日、日付タイプをI(請求書日付)に設定した場合、請求書日付が2008年6月30日以前のすべての未決済請求書が選択されます。値は次のとおりです。

空白: 支払期日

D: 割引期日

I: 請求書日付

G: 元帳日付

S: 計算書日付

4. 通貨モード

自動引落しの処理に請求書の外貨(取引通貨)と国内通貨(基本通貨)のどちらを使用するかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 請求書の国内通貨

1: 請求書の取引通貨

銀行勘定科目

この処理オプションでは、入金を計上する銀行勘定科目を指定します。

1. 表示する銀行勘定科目

入金を計上する銀行勘定科目を指定します。標準の勘定科目コード形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で入力します。この処理オプションを

ブランクにすると、請求書に入力された会社のAAI(自動仕訳)項目RBで設定されている銀行勘定が使用されます。

銀行勘定が通貨勘定である場合は、請求書の通貨コードが銀行勘定の通貨と同じである必要があります。この必要条件を満たしていない場合、自動引落しバッチの作成レポート(R03B571)にエラー・メッセージが印刷されます。

割引

この処理オプションでは、割引を処理するかどうか、処理する場合はその方法を指定します。

1. 割引の処理

すべての割引可能額を適用するか、「割引終了日付」処理オプションを使用して適用する割引を決定するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「割引終了日付」処理オプションの日付によって適用する割引を決定する。割引期日が指定した日付以前になっている請求書の割引のみが適用されます。

1: すべての割引可能額を適用する。この場合、実際には実施されていない割引が適用される可能性があります。

2. 割引終了日付

どの割引を適用するかを決める日付を指定します。割引期日が指定した日付以降になっている請求書の割引のみ適用されます。この締め日付を使用する場合、「割引の処理」処理オプションはブランクにしてください。

3. 割引理由コード

割引を実施する際に使用するデフォルトの割引理由コードを指定します。ユーザー定義コード00/DEにある割引理由コードを入力してください。指定する割引理由コードに対応するAAI項目RKDxxx(xxxは理由コード)も設定してください。

元帳デフォルト

この処理オプションでは、システムによって作成される仕訳に関する情報を指定します。

1. 元帳日付

入金レコードを転記する元帳日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。

2. 仕訳の形式

転記プログラムで入金バッチに対して1件の集計仕訳を作成するか、入金ごとに仕訳を作成するかを指定します。この処理オプションで設定した値は、F03B13テーブルの売掛金転記フィールド(ISTR)に割り当てられます。転記プログラムでは、この値を使って仕訳レコードが作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: 集計仕訳を作成する。転記する入金バッチごとに、伝票タイプRKの仕訳が1件作成されます。仕訳の伝票番号には入金のバッチ番号が割り当てられます。この方法を使用するには、次の事項を確認する必要があります。

- 売掛管理固定情報の売掛金集計方式が「B」(バッチごと)に設定されている。
- バッチに外貨建て取引が含まれていない。

条件を満たしていない場合、仕訳は明細形式で作成されます。

1: 明細仕訳を作成する。バッチに含まれる入金ごとに、伝票タイプRCの仕訳が作成されます。入金仕訳の伝票番号は、仕訳入力(システム09)の自動採番によって自動的に割り当てられます。

監査証跡を記録するために、F03B14テーブルの次のフィールドは仕訳の情報で更新されます。

- 仕訳伝票タイプ (RZDCTG)
- 仕訳伝票番号 (RZDOCG)
- 仕訳伝票会社 (RZKCOG)

最高額/最低額オプション

この処理オプションでは、自動引落しバッチ処理を行う限度額を指定します。

- 1. 最低入金額**
自動引落しバッチ処理を行う最低額を指定します。請求書の合計未決済金額がここで指定した金額より大きいバッチのみ処理されます。たとえば、100と指定すると、3件の請求書の合計が100を超えるバッチの場合、そのバッチは処理されます。
- 2. 最高入金額**
自動引落しバッチ処理を行う最高額を指定します。請求書の合計未決済金額がここで指定した金額より小さいバッチのみ処理されます。たとえば、10,000と指定すると、30件の請求書の合計が10,000未満のバッチの場合、そのバッチは処理されます。

銀行ファイル

この処理オプションでは、自動引落しバッチのフォーマットに必要な情報を指定します。

- 1. 銀行ファイル・フォーマット・プログラム**
銀行ファイルのフォーマットに使用するプログラムを指定します。指定できるプログラム番号は次のとおりです。
R03B575AD: オーストラリア・フォーマット
R03B575BD: ベルギー・フォーマット
R03B575DD: ドイツ・フォーマット
R03B575DH: オランダ・フォーマット
R03B575FD: フランス・フォーマット
R03B575GB: イギリス・フォーマット
R03B575SD: スイス・フォーマット
- 2. 銀行ファイル・フォーマット・バージョン**
使用する銀行ファイルのフォーマット・プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

BACS

この処理オプションでは、BACS処理情報を指定します。

- 1. BACS処理**
自動引落しをBACSを使って処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: BACSを使って処理しない。
1: BACSを使って処理する。
- 2. BACS処理日付**
BACS処理日付を指定します。銀行ファイルは指定した日付で更新されます。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。

3. BACS日数 銀行ファイルに書き込む有効期限を決定するために、「BACS処理日付」処理オプションの日付に追加する日数を指定します。
4. 作業日カレンダー名 BACS有効期限を実際の作業日にあわせて調整するために使用するカレンダー名を指定します。BACS有効期限は、「BACS処理日付」処理オプションで指定した日付に「BACS日数」処理オプションの値を追加して計算されます。

自動引落しバッチの作成

「自動引落しバッチの処理」フォームにアクセスします。

「追加」をクリックして、「バッチ・バージョンの処理 – 使用可能なバージョン」フォームにアクセスし、設定済の自動引落しバッチの作成プログラム(R03B571)のバージョンを実行します。

最終モードでの自動引落しバッチの処理

自動引落しバッチが事前にテスト・モードで作成されている場合は、次の処理を行います。

注意: テスト・モードでバッチを作成したときに使用された、自動引落しバッチの作成プログラム(R03B571)のバージョンが実行されます。

「自動引落しバッチの処理」フォームにアクセスします。

最終モードで自動引落しバッチを処理するには、次の手順に従います。

1. 「自動引落しバッチの処理」フォームで、テスト・モードで処理したバッチを選択します。
2. 「ロー」メニューの「最終モード」を選択します。

自動引落しバッチを処理したら、「自動引落し仕訳の検討」メニューから入金バッチの結果を確認できます。バッチを確認したら、総勘定元帳に転記します。

自動引落しバッチの承認と転記

この項では、自動引落しの承認と転記の概要と次の方法について説明します。

- 自動引落しを転記する転記プログラムの実行
- 「自動引落し仕訳の検討」メニューからの自動引落しの転記

関連項目:

第 9 章、「入金処理」、「入金の承認および転記」、225ページ

自動引落しの承認と転記について

最終モードで自動引落しバッチを処理したら、総勘定元帳に転記する必要があります。自動引落しバッチを転記する前に、自動引落し仕訳の検討プログラム(P0011)を使って処理済のバッチを確認できます。売掛管理固定情報の設定によって、バッチの転記前に承認が必要な場合があります。

自動引落しバッチは入金バッチ(バッチ・タイプRB)なので、入金の転記と同じ手順で転記します。自動引落しバッチを転記すると、銀行勘定、売掛金勘定、割引が発生した場合は割引勘定に仕訳が転記されます。

自動引落しバッチの承認と転記に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|--------|--------|--|---------------------|
| バッチの処理 | W0011A | 「自動引落し」(G03B131)、 「自動引落し仕訳の検討」 | 自動引落しバッチを検索 します。 |
| バッチ承認 | W0011C | 「バッチの処理」フォーム で、バッチを選択し、「ロー」 メニューから「バッチ承認」 を選択します。 | 転記用バッチを承認 します。 |

自動引落しを転記する転記プログラムの実行

「自動引落し」メニュー(G03B131)の「自動引落しの転記」を選択します。

「自動引落し仕訳の検討」メニューからの自動引落しの転記

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

転記対象のバッチを選択し、「ロー」メニューの「バッチ別の転記」を選択します。

自動引落しのフォーマット

この項では、自動引落しのフォーマットの概要と自動引落しバッチのフォーマット方法について説明します。

自動引落しのフォーマットについて

国ごとに銀行が定める要件を満たすように、F03B570Wテーブルにレコードを作成します。このためには、「自動引落し制御の改訂」フォームで銀行ファイル・フォーマット・プログラムを指定します。

国ごとの要件を満たすプログラムがない場合は、カスタム・プログラムを作成する必要があります。

自動引落しファイルのフォーマットを実行するには、次の方法があります。

- 最終モードで実行する前に、自動引落しバッチの作成プログラム(R03B571)の処理オプションでフォーマット・プログラム番号(R03B575DDなど)を入力する。
- 「自動引落し制御の改訂」フォームでプログラム番号を入力し、「自動引落しバッチの処理」フォームで「ロー」メニューの「銀行ファイルのフォーマット」を選択して手動でプログラムを実行する。

この処理が完了すると、F03B571テーブルの状況フィールドの値は3(フォーマット済銀行ファイル)に変更されます。

カスタム・プログラムを使用している場合、自動引落しバッチ制御テーブルの状況フィールドが更新されることを確認してください。自動引落しバッチのフォーマットを行うためにカスタム・プログラムを作成する場合、テンプレートとして提供されているプログラムを使うことをお勧めします。

自動引落としのフォーマットに使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|--------------|----------|---|---|
| 自動引落としバッチの処理 | W03B571A | 「自動引落とし」(G03B131)、 「自動引落としの処理」 | 自動引落とし処理のフォーマットを実行します。 |
| 自動引落とし制御の改訂 | W03B571B | 「自動引落としバッチの処理」 フォームで、バッチを選択して「選択」をクリックします。 | 自動引落としバッチに対する銀行ファイル・フォーマット・プログラムとバージョンを指定します。 |

自動引落としバッチのフォーマット

「自動引落とし制御の改訂」フォームにアクセスします。

自動引落としの処理 - 自動引落とし制御の改訂 i ? M

OK(O) 取消(L) ツール(T) OK X T

ユーザー バージョン バッチ No. バッチ・タイプ

バッチ状況 テスト・モード

銀行勘定科目 *Bear Creek National Bank*

元帳日付 割引締め日付

BACS日付 BACS加算日数

営業日カレンダー

割引処理 仕訳作成方法

メディアヘファイル・コピー

カスタマイズ・プログラム

銀行フォーマット・プログラム メディア作成プログラム

銀行フォーマット・バージョン メディア作成バージョン

「自動引落とし制御の改訂」フォーム

自動引落としバッチのフォーマットを実行するには、次の手順に従います。

1. 「カスタマイズ・プログラム」の各フィールドに正しい値が選択されていることを確認し、正しくない場合は変更します。
2. 「OK」をクリックして「自動引落としバッチの処理」フォームに戻ります。
3. 「ロー」メニューの「銀行ファイルのフォーマット」を選択します。

銀行フォーマット・プログラム

各国の銀行ファイル・フォーマット・プログラム名を入力します。たとえば、ドイツ・フォーマットの場合は「R03B575DD」と入力します。

銀行フォーマット・バージョン

「銀行フォーマット・プログラム」フィールドに指定した各国の銀行ファイル・フォーマット・プログラムのバージョンを入力します。

メディア作成プログラム

F03B570Wテーブルから適切なメディアにデータをコピーする際に使用するプログラム名を入力します。顧客固有のカスタム・プログラムを指定します。

メディア作成バージョン

「媒体プログラムの作成」フィールドに指定した顧客固有のカスタム・プログラムのバージョンを入力します。

銀行への自動引落としバッチの転送

この項では、銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 銀行ファイルのフロッピー・ディスクへのコピー (P0457D) の処理オプションの設定
- フォーマット済の自動引落としバッチのコピー

銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラムについて

自動引落としバッチのフォーマットを行って、F03B570Wテーブルにレコードを作成したら、それらのレコードをメディアにコピーして銀行に送るか、または銀行に電子送信する必要があります。

銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラム (P0457D) は、F03B570Wテーブルのレコードから、銀行がすぐに利用できる形式のテキスト・ファイルを作成します。デフォルトでは、テキスト・ファイルはUCS2 (Unicode) 形式で作成されます。Unicodeフラット・ファイル・エンコード構成プログラム (P93081) で別のエンコード・コード・ページを設定して使用することで、別の形式を指定できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: System Administration Guide

注意: (CHE) スイス用LSVディスクのファイル名は、dtalsvにする必要があります。

銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラムを実行する際は、テキスト・ファイルのコピー先のパスを指定する必要があります。ハード・ディスク・ドライブ、別のPC、フロッピーディスク、またはCDへのパスを指定できます。銀行の要件に応じてファイルを送付しなければならないので、カスタム・プログラムの作成が必要な場合があります。

レコードをコピーすると、F03B571テーブルの状況フィールドが4 (媒体へコピー) に変更され、バッチを除去できるようになります。

置換文字と特殊文字

異なる形式でテキスト・ファイルを作成する機能の他に、銀行で認識できない文字に使用する置換文字を指定することもできます。たとえば、Zのかわりに0 (ゼロ) を使用するように指定できます。また、!、@、%、\$などの使用できない可能性のある特殊文字を、/などの使用できる特殊文字に置き換えるように指定できます。処理オプションとUDCテーブル (04/RCおよび04/SC) を組み合わせて使用すると、文字置換機能を使用できます。

銀行の要件に応じて、文字を置換する方式の1つまたは両方を使用できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Foundation Guide

銀行への自動引落しバッチの転送に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|--------------------|----------|--|--|
| 自動引落しバッチの処理 | W03B571A | 「自動引落し」(G03B131)、 「自動引落しの処理」 | 処理する自動引落しバッチ の検索や選択を行います。 |
| 自動引落し銀行ファイ ルの表示 | W03B571H | 「自動引落しバッチの処 理」フォームで、QBE(例示 照会プログラム)ローの「状 況」フィールドに「3」と入力 して、検索対象をフォー マット済のバッチに限定し ます。次に、「検索」をク リックします。 確認するフォーマット済の バッチを選択して、「ロー」メ ニューの「銀行ファイルの 表示」を選択します。 | 自動引落しバッチに関する 情報を確認します。 このフォームを使用して、 バッチに対してレコードを 追加したり削除したりする ことはできません。 レコードを追加する必要が ある場合は、自動引落し バッチを削除してレコード を含むようにプロセスを再 実行するか、別のバッチ で追加のレコードを処 理できます。 レコードを削除する必要が ある場合は、自動引落し バッチを削除して、削除し たいレコードを除外する データ選択を使用してプロ セスを再実行する必要 があります。 |
| 銀行ディスク書込み | W0457DA | 「自動引落しバッチの処理」 フォームで、ディスクに書き 込むバッチを選択して、 「ロー」メニューの「ディス クにコピー」を選択します。 | フラット・ファイルのパスを 確認して、新しくファイル を作成するか、または既存の ファイルにレコードを追 加するかを指定します。 |

銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー (P0457D) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、テキスト・ファイル生成時に使用されるデフォルト情報を指定します。

- 1. レコード長**

出力ファイルのレコード長を指定します。最高1500文字まで指定できます。空白にすると、元のレコード長で出力テーブルが作成されます。
- 2. 改行の挿入**

各レコードの末尾で強制改行を挿入するかどうかを指定します。空白にすると、出力ファイルは、複数の個別のレコードではなく、1つの長い文字列にフォーマットされます。
- 3. デフォルトのファイル・パス/ファイル名**

出力ファイルのデフォルトのパスとファイル名を指定します。パスとファイル名は、ファイルを格納するコンピュータのオペレーティング・システムのファイル構造および命名規則に従う必要があります。

たとえば、出力ファイルをローカル・マシンのCドライブに格納する場合は、ディレクトリ・パスをC:\FolderName\File Name.txtのように指定します。出力

ファイルをネットワーク・マシンのフォルダに格納する場合は、ネットワーク・パスを¥¥MachineName¥FolderName¥FileNameのように指定します。

この処理オプションを空白にすると、A:¥DTALSVが使用されます。

注意: Microsoft Windowsクライアント以外には、このファイルを格納しないでください。

データ

この処理オプションでは、置換文字を使用するかどうか、またすべての文字を大文字にするかどうかを指定します。

1. 事前定義文字(ユーザー定義コード04/RC)を1対1で置換する

特殊文字を置換するかどうかを指定します。特殊文字を置換するように指定すると、置換文字ユーザー定義コード(04/RC)が読み込まれ、その値に基づいて1文字が置換されます。次に、特殊文字UDC(04/SC)が読み込まれ、その値に基づいて特殊文字が置換されます。値は次のとおりです。

空白: 特殊文字を置換しない。

1: 特殊文字を置換する。

注意: P0457プログラムとP03B571プログラムでは、UDC 04/RCの記述01フィールドの最初の文字だけが記述02フィールドの最初の文字に置き換えられます。UDCが1対複数モードでマッピングされていても、最初の文字以外は置換されません。UDC 04/RCを使用している他のプログラムでは、UDCが1対複数でマッピングされていれば複数の文字に置き換えられます。

2. すべての文字を大文字にする

レコードのすべての英字を大文字にするかどうかを指定します。この処理オプションを空白にすると、大文字にはされません。

3. 文字(ユーザー定義コード04/SC)の置換

フィールドやテーブルに設定されている文字の中で、UDC 04/SCで定義されている文字と一致するものを、指定した文字または空白に置き換えるかどうかを指定します。特定の文字に置き換えるには、その文字を処理オプションに入力します。空白に置き換える場合は、処理オプションを空白のままにしておきます。

注意: UDC 04/SCに定義されている文字は、指定した文字または空白のどちらかに必ず置き換えられます。文字を一切置き換えない場合は、UDC 04/SCを空白にする必要があります。

フォーマット済自動引落しバッチのコピー

「自動引落しバッチの処理」フォームにアクセスします。

フォーマット済の自動引落しバッチをコピーするには、次の手順に従います。

1. QBEローの「状況」フィールドに「3」と入力して、検索対象をフォーマット済のバッチに限定し、「検索」をクリックします。
2. コピーするバッチを選択して、「ロー」メニューの「ディスクにコピー」を選択します。
3. 「銀行ディスク書込み」フォームで、パスが正しいことを確認し、「レコードの追加」オプションまたは「新規ファイルの作成」オプションのどちらかを選択します。

レコードのコピーが正常に終了すると、バッチ状況が4(媒体へコピー)に変更されます。

| | |
|-----------|--|
| レコードの追加 | このオプションを選択すると、バッチ内のレコードが指定されたパスの既存のファイルに追加されます。 |
| 新規ファイルの作成 | このオプションを選択すると、既存のファイル内のレコードが削除され、バッチ内のレコードに置き換えられます。 |

自動引落しの除去

この項では、自動引落しの除去処理の概要と自動引落としバッチの除去方法について説明します。

自動引落しの除去処理について

自動引落としバッチの処理が正常に終了したら、処理済のレコードを除去できます。自動引落としバッチを除去すると、次のテーブルからレコードが除去されます。

- F03B575
- F03B57OW

さらにF03B571テーブルのレコードも除去するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。F03B571テーブルのレコードを除去しない場合、バッチ・レコードの状況は5(除去済)に更新されますが、テーブルからは削除されません。後からでも、オプションを選択することでこれらのレコードを除去できます。

自動引落としバッチの状況が4(媒体へコピー)の場合にのみ、自動引落としバッチを除去してください。その他の状況のバッチを除去しようとすると、「除去の確認」ウィンドウが表示されます。

重要: 除去した自動引落とし情報は復元できません。監査証跡も残りません。

自動引落しの除去に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|--------------|----------|--|--|
| 自動引落としバッチの処理 | W03B571A | 「自動引落とし」(G03B131)、 「自動引落しの処理」 | 自動引落としバッチの検索 や除去を行います。 |
| 除去の確認 | W03B571K | 「自動引落としバッチの処 理」フォームでバッチを選 択し、「ロー」メニューの「除 去」を選択します。 | 自動引落としバッチの状況 が4以外のバッチを削除す るかどうかを確認します。 |
| 履歴情報の除去 | W03B571G | <ul style="list-style-type: none"> • 「自動引落としバッチの処 理」フォームでバッチを選 択し、「ロー」メニューの 「除去」を選択します。 • 「除去の確認」ウィンドウ で「はい」をクリックし ます。 | F03B575テーブルと F03B57OWテーブルのみ を除去するか、または F03B571テーブルも除去す るかを指定します。 |

自動引落としバッチの除去

「自動引落としバッチの処理」フォームにアクセスします。

自動引落としバッチを除去するには、次の手順に従います。

1. 除去対象のバッチを選択し、「ロー」メニューの「除去」を選択します。
2. 「除去の確認」ウィンドウが表示されたら「はい」をクリックします。
「除去の確認」ウィンドウは、バッチの状況が4ではない場合に表示されます。
3. 「履歴情報の除去」フォームで、フォームの右下にあるフィールドに何も入力せずに「OK」をクリックするとF03B575テーブルとF03B57OWテーブルのみが除去されます。フィールドに「1」と入力するとF03B571テーブルも除去されます。
4. 「OK」をクリックします。

第 14 章

売掛管理システムのEDIトランザクションの処理

この章では、売掛管理システムの電子データ交換(EDI)の概要、EDI入金データ、および次の方法について説明します。

- EDI受信データの転送
- EDI受信データの構成要素の検索と改訂
- EDI受信データの構成要素の追加
- EDI受信データの除去

関連項目:

第 11 章、「自動入金処理」、241ページ

売掛管理システムのEDIについて

磁気テープを使用して銀行から支払情報を受け取る代替の方法として、EDIを使用して電子的に情報を受信するようにシステムを設定できます。EDIトランザクションを処理する場合、取引先/変換ソフトウェアを使用してJD Edwards EnterpriseOneテーブル用のレコードを準備する必要があります。情報をJD Edwards EnterpriseOne EDIテーブルに受信したら、電子入金入力テーブル(F03B13Z1)に転送する前にそれを検討、改訂できます。

JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムでは、次の2種類のタイプの支払トランザクション・セットの電子入金を処理できます。

- 823 - ロックボックス
- 820 - 支払オーダー

使用するトランザクション・セットに関係なく、支払情報を受信、改訂、追加、および削除する処理は同一です。EDI入金処理が正常に完了すると、自動入金処理を行うことができます。

この章で使用する共通フィールド

処理済み(Y/N)

レコードが正常に処理されたかどうかを示します。アプリケーションに応じて、テーブルのEDSPフィールドが次のいずれかの値に更新されます。

1またはY: このレコードは正常に処理されました。

ブランクまたはN: このレコードは処理されませんでした。

レコード順序

H01、H02、D01などのように、EDIトランザクションの見出しまたは明細情報の相対位置を割り当てる識別子を入力します。

| | |
|------------------|--|
| レコード・タイプ | EDIランザクション・レコードが見出し情報が明細情報かを表す識別子を示します。このフィールドは、EDIの場合にのみ表示されます。 EDI制御情報のレコード・タイプは1(見出し)にする必要があります。 |
| ユーザー予約金額 | ユーザー用の15桁のコードです。 |
| ユーザー予約コード | ユーザー用の2桁のコードです。 |
| ユーザー予約日付 | ユーザー用の6桁のコードです。 |
| ユーザー予約No. | ユーザー用の8桁のコードです。 |
| ユーザー予約参照 | ユーザー用の15桁のコードです。 |

EDI入金データについて

EDIシステムを使用して売掛金の入金データを受信できます。入金データを受信するには、銀行から送信されたEDIテーブルのフォーマットからF03B13Z1テーブルのフォーマットにEDI情報を変換および移動するプログラムを実行します。

EDIを介して受信した入金データを処理するには、入金受信時の各構成要素のマッピング要件について理解しておく必要があります。

EDIデータ受信処理のマッピング要件

EDIデータは、次のEDIテーブルで受信します。

- EDIロックボックス/支払見出し - トランザクション (F47111): このテーブルにはトランザクション情報が保存されます。
- EDIロックボックス見出し - トランザクション (F47112): このテーブルには振込情報が保存されます。
- EDIロックボックス/支払明細 - バッチ (F47113): このテーブルには支払(入金)情報が保存されます。
- EDIロックボックス/支払明細 - 支払 (F47114): このテーブルには送金(請求書)情報が保存されます。

1回のEDI送信で複数のトランザクションを受信できます。各トランザクションには1件の振込データが含まれます。各振込データには複数の支払データが、各支払データには複数の送金データが含まれます。つまり、複数の請求書に対する支払を行うことができます。合計金額は、監査用に振込および小切手別に保存されますが、F03B13Z1テーブルには転送されません。

F47111、F47112、F47113、およびF47114の各EDIテーブルのキー・フィールドを使用して、トランザクションと関連構成要素が区別されます。すべてのEDIテーブルのキー・フィールドに同じ値を割り当てる必要があります。次の表は、これらのキー・フィールドについて説明しています。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義および入力する値 |
|-----------|-------|-----|----|--|
| EDI伝票キー会社 | EKCO | 数値 | 5 | トランザクションを一意に識別するためにEDI伝票番号(EDOC)、EDI伝票タイプ(EDCT)、およびEDI行番号(EDLN)の各フィールドの値と一緒に使用される番号です。 このフィールドには、会社固定情報テーブル(F0010)にある値を入力します。 |
| EDI伝票番号 | EDOC | 数値 | 9 | トランザクションを一意に識別するためにEDI伝票キー会社(EKCO)、EDI伝票タイプ(EDCT)、およびEDI行番号(EDLN)の各フィールドの値と一緒に使用される番号です。 |
| EDI伝票タイプ | EDCT | 文字 | 2 | トランザクションを一意に識別するためにEDI伝票キー会社(EKCO)、EDI伝票番号(EDOC)、およびEDI行番号(EDLN)の各フィールドの値と一緒に使用される2文字のコードです。 |
| EDI行番号 | EDLN | 数値 | 7 | トランザクションを一意に識別するためにEDI伝票キー会社(EKCO)、EDI伝票番号(EDOC)、およびEDI伝票タイプ(EDCT)の各フィールドの値と一緒に使用される番号です。 823と820の両方のトランザクション・セットに「1」を入力します。 |

EDIトランザクションを正しく処理するには、EDIロックボックス/支払見出し - トランザクション・テーブル(F47111)の追加必須フィールドに値を入力する必要があります。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義および入力する値 |
|------------------|--------|-----|----|--|
| EDIランザクション・セット番号 | Z1EDST | 数値 | 6 | <p>転送プログラムの形式を指定する番号です。</p> <p>EDIロックボックス・ランザクションを指定するには「823」、EDI受信支払オーダー・ランザクションを指定するには「820」を入力します。</p> |
| EDI送受信インディケータ | Z1EDER | 文字 | 1 | <p>ランザクションが受信と送信のどちらであるかを示すコードです。</p> <p>受信ランザクションを示すには「R」を入力します。</p> |
| 名称 | Z1ALPH | 文字 | 40 | <p>支払人の名前です。</p> <p>ロックボックス・ランザクション(823)を処理する場合は、銀行の名前を表します。</p> |
| EDI送信日付 | Z1EDDT | 日付 | 6 | <p>EDIデータが送信された日付です。</p> <p>レコードの処理にはこのフィールドの値は必要ではありませんが、EDI入荷通知(受信)の照会プログラム(P47110)ではこのフィールドを使用して表示されるレコードの数が制限されます。</p> |

EDIランザクションを正しく処理するには、EDIロックボックス/見出し - ランザクション・テーブル(F47112)の追加必須フィールドに値を入力する必要があります。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義および入力する値 |
|-------------------|--------|-----|----|---|
| EDIトランザクション・セット番号 | Z2EDST | 数値 | 6 | 転送プログラムの形式を指定する番号です。 EDIロックボックス・トランザクションを指定するには「823」、EDI受信支払オーダー・トランザクションを指定するには「820」を入力します。 |
| EDI送受信インディケータ | Z2EDER | 文字 | 1 | トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定するコードです。 受信トランザクションを指定するには「R」を入力します。 |
| 振込番号 | Z2DEPN | 文字 | 30 | 支払グループを指定する番号です。 |
| 送信合計額 | Z2TTOT | 数値 | 15 | 合計振込額を示す数値です。 |

EDIトランザクションを正しく処理するには、EDIロックボックス/支払明細 - バッチ・テーブル (F47113) の追加必須フィールドに値を入力する必要があります。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義および入力する値 |
|--------|--------|-----|----|--|
| 振込番号 | Z3DEPN | 文字 | 30 | 支払グループを指定する番号です。 このフィールドには、対応するEDIロックボックス見出し・トランザクション・テーブル (F47112) のフィールドに入力する情報と同じ情報を入力します。 |
| 行番号 | Z3LNID | 数値 | 6 | 振込内の入金を特定する番号です。 各レコードに一意の値を入力する必要があります。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義および入力する値 |
|----------|--------|-----|----|--|
| 入金番号 | Z3DOCM | 文字 | 8 | <p>入金を特定する番号です。</p> <p>レコードが処理されると、F03B13Z1テーブルのチェック番号フィールド(CKNU)がこのフィールドの値で更新されます。</p> |
| 銀行/支店コード | Z3TNST | 文字 | 20 | 顧客の支払が行われる銀行を特定する番号です。 |
| 顧客口座番号 | Z3CBNK | 文字 | 20 | 顧客の銀行口座を特定する番号です。 |
| 住所番号 | Z3AN8 | 数値 | 8 | <p>顧客の住所録番号です。</p> <p>「銀行/支店コード」フィールドおよび「顧客銀行口座No.」フィールドに値を指定するかわりに、顧客の住所録番号を入力できます。システムに情報が設定されていれば、顧客の住所録番号に基づき、銀行口座情報が特定されます。</p> |
| 送信合計額 | Z3TTOT | 数値 | 15 | <p>入金額を表す数値です。</p> <p>1回の振込に複数の入金が存在する場合は、このフィールドの合計がF47112テーブルの送信合計額フィールド(Z2TTOT)の値と等しくする必要があります。</p> |
| 通貨コード | Z3CRCD | 文字 | 3 | <p>入金額の通貨です。</p> <p>多通貨処理を使用して、F47114テーブルの外貨建て金額フィールド(Z4ACR)に値を入力する場合にのみこのフィールドに値を入力してください。</p> |

EDIランザクションを正しく処理するには、EDIロックボックス/支払明細 - 支払テーブル (F47114) の追加必須フィールドに値を入力する必要があります。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義および入力する値 |
|--------|--------|-----|----|--|
| 振込番号 | Z4DEPN | 文字 | 30 | 入力する値は、対応するF47112テーブルのフィールドに入力されている振込番号と同じである必要があります。 |
| 行番号 | Z4LNID | 数値 | 6 | 入力する番号は、対応するF47113テーブルのフィールドに入力されている行番号と同じである必要があります。 |
| 順序番号 | Z4SEQN | 数値 | 7 | 1回の入金で複数の請求書に対して支払を行う際に、入金支払項目を特定する番号です。 |
| 入金番号 | Z4DOCM | 数値 | 8 | 入力する番号は、F47113テーブルのチェック番号(データ項目DOCM)と一致する必要があります。 |
| 伝票番号 | Z4DOC | 数値 | 8 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 伝票タイプ | Z4DCT | 文字 | 2 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 伝票支払項目 | Z4SFX | 数値 | 3 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 総額 | Z4AG | 数値 | 15 | 請求書に適用する入金額を表す数値です。 入金額が外貨建ての場合は、このフィールドには値を入力しないでください。かわりに、外貨建て金額フィールド(Z4ACR)を使用します。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義および入力する値 |
|-----------|-------|-----|----|--|
| 外貨建て金額 | Z4ACR | 数値 | 15 | 請求書に適用する入金の外貨金額です。 多通貨を使用しているが入金は国内通貨で行われる場合、このフィールドには国内通貨での金額を入力しないでください。かわりに、総額フィールド(Z4AG)を使用します。 このフィールドに値を入力する場合は、F47113テーブルの通貨コード・フィールド(Z3CRCD)にも値を入力する必要があります。 |
| 入金照合参照番号1 | RMR1 | | | AR請求書をAR入金と照合するために使用する文字列変数です。 |

注意: 伝票番号フィールド(Z4DOC)、伝票タイプ・フィールド(Z4DCT)、および伝票支払項目フィールド(Z4SFX)によって、支払の対象となる請求書が特定されます。支払の対象となる各請求書および各請求書支払項目に対して、個別のレコードを作成する必要があります。

請求書に1つしか支払項目がない場合は、支払項目フィールドをブランクのままにできます。支払項目には001から始まる番号が付けられます。

F47114テーブルのZ4DOC、Z4DCT、およびZ4SFXフィールドで請求書伝票番号を指定するかわりに、次のフィールドのいずれかに値を入力できます。

購買オーダー(Z4PO)

制御/計算書番号(Z4CTL)

次の番号は、請求書が表示される計算書番号または、ユーザー定義の参照番号になります。

出荷番号(Z4SHPN)

これらのいずれかのフィールドを使用するトランザクションの処理では、該当のフィールドからF03B13Z1テーブルの汎用照合フィールド(GMFD)に値がコピーされます。

請求書を特定するために複数の方式を使用しないでください。Z4DOC、Z4DCT、Z4SFXフィールドを使用するか、Z4POフィールド、Z4CTLフィールド、Z4SHPNフィールドを使用するかのどちらかにしてください。

EDI受信データの転送

この項では、受信データの転送の概要と、次の方法について説明します。

- 電子入金の更新プログラムの実行
- 電子入金の更新(R47111)の処理オプションの設定

受信データの転送について

EDIテーブルからF03B13Z1テーブルへ受信データを転送するには、該当するメニューから電子入金の更新プログラム(R47111)を実行します。「ロック・ボックス(823)」メニューからこのプログラムを実行すると、823トランザクションが処理されます。「受信支払オーダー(820)」メニューからこのプログラムを実行すると、820トランザクションが処理されます。

このプログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。

テスト・モードでは、EDI - 電子入金の更新レポートが印刷されます。最終モードでプログラムを実行する前に、このレポートを使用してトランザクションを確認し、エラーを訂正します。レポートには、次の項目が印刷されます。

- F47114テーブルの請求書の消込金額(データ項目Z4AGまたはZ4ACR)
- F47113テーブルの入金額(データ項目Z3TTOT)
- F47112テーブルの振込合計金額(データ項目Z2TTOT)

テスト・モードを使用すると、振込合計金額と送金合計金額が一致するかどうかを確認できます。合計金額が正しくない場合、レポートにエラー・メッセージが印刷されます。

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- 自動入金消込プログラムでさらに処理するために、EDI受信データがF03B13Z1テーブルに転送されます。
- EDI - 処理済(Y/N)フィールド(EDSP)がYに更新されます。
- EDI - 電子入金の更新レポートが印刷されます。

注意: レコードは、エラーのあるなしに関係なくF03B13Z1テーブルに書き込まれます。エラーは自動入金消込プログラムの実行時に自動的に検出されますが、最初にテスト・モードで実行してエラーを修正してから最終モードで実行することをお勧めします。

電子入金の更新プログラムの実行

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

「ロック・ボックス(823)」メニュー(G47264)から「電子入金の更新」を選択します。

「受信支払オーダー(820)」メニュー(G47265)から「電子入金の更新」を選択します。

電子入金の更新(R47111)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト値

この処理オプションでは、トランザクション処理時に使用するデフォルト値を指定します。

1. **銀行勘定略式ID(必須)** F47112テーブルに値がない場合は、F03B13Z1テーブルのレコードに割り当てる銀行勘定の8桁の略式IDを指定します。たとえば、1.1110.BEARの略式IDは00000108です。

銀行勘定を特定できない場合、レコードは処理されません。

2. 元帳日付

F47112テーブルに値がない場合は、F03B13Z1テーブルのレコードに割り当てる元帳日付を指定します。元帳日付を特定できない場合、システム日付が使用されます。

3. 支払手段

F47113テーブルの「支払手段」フィールド(PYIN)に値がない場合は、F03B13Z1テーブルのレコードに割り当てる支払手段を指定します。X(EDI手形)などのユーザー定義コード(00/PY)に設定されているコードを選択します。

注意: この処理オプションは必須ではありません。F47113テーブルに値がある場合、その値は変更されません。

処理

この処理オプションでは、トランザクションの処理に使用する方式を指定します。

1. 処理モード

EDI支払をテスト・モードと最終モードのどちらで処理するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: EDI支払をテスト・モードで処理します。レポートは印刷されますが、F03B13Z1テーブルにレコードは作成されません。

1: EDI支払を最終モードで処理します。レポートが印刷され、F03B13Z1テーブルにレコードが作成されます。

EDI受信データの構成要素の検索と改訂

この項では、EDI入荷通知(受信)の照会プログラムの概要、制御情報、および次の方法について説明します。

- EDI入荷通知(受信)の照会(P47110)の処理オプションの設定
- EDI受信データのトランザクションの改訂
- EDI受信トランザクションの振込データの改訂
- EDI受信振込データの入金データの改訂
- EDI受信支払データの送金の改訂
- EDI受信データの制御情報の改訂
- 振込用EDI制御情報の改訂
- 支払用EDI制御情報の改訂
- 送金用EDI制御情報の改訂

EDI入荷通知(受信)の照会プログラムについて

テスト・モードで電子入金の更新プログラム(R47111)を実行した後、最終モードで実行する前にEDI受信データの修正や追加が必要な場合があります。

EDI入荷通知(受信)の照会プログラム(P47110)を使用して、EDI受信データの構成要素を検索および改訂します。このプログラムのバージョンは、「ロック・ボックス(823)」と「受信支払オーダー(820)」の両方のメニューから利用できます。2つのバージョンの唯一の違いは、デフォルトのランザクション・セットに関する処理オプションの設定です。各構成要素の情報は異なるテーブルに保存されます。EDI転送データは、次の構成要素から構成されています。

| 要素 | 説明 |
|-------------|---|
| ランザクション(取引) | 振込、支払、送金データを関連付ける見出し情報が含まれます。ランザクション情報は、F47111テーブルに保存されます。 |
| 振込 | ある一定の期間(1日など)に行われた銀行への振込に関するすべての情報が含まれます。振込情報は、F47112テーブルに保存されます。 |
| 支払 | 請求書または請求書支払項目を消し込む入金情報が含まれています。入金情報は、F47113テーブルに保存されます。 |
| 送金 | 支払対象の請求書情報が含まれます。送金情報は、F47114テーブルに保存されます。 |

EDIデータの構成要素を変更するには、まず該当の構成要素を特定します。構成要素の構造は階層型になっています。たとえば振込データを特定する場合は、まずその振込データを持つランザクションを特定します。支払データを特定するには、まずランザクションと振込データを特定します。同様に送金データを特定する場合、最初にランザクション、振込、および支払データを特定する必要があります。

EDIランザクションおよびその構成要素を特定できたら、該当の構成要素を改訂できます。

制御情報について

EDI受信データのEDI制御情報は、4つのEDIテーブルにそれぞれ保管されています。これらの4つのテーブルは、次のような階層構造になっています。

1. F47111 - ランザクション
2. F47112 - 振込
3. F47113 - 支払
4. F47114 - 送金

このため、ランザクション・テーブル(F47111)のEDI制御情報を変更すると、従属する各テーブル(F47112、F47113、F47114)にも自動的にこの変更が反映されます。支払テーブル(F47113)のEDI制御情報を変更すると、従属する送金テーブル(F47114)にも自動的にこの変更が反映されます。変更が反映されるのは下位のテーブルのみで、上位のテーブルは変更されません。たとえば、支払テーブル(F47113)のEDI制御情報を変更しても、振込テーブル(F47112)とランザクション・テーブル(F47111)には影響しません。

EDI受信データの構成要素の検索と改訂に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------------|---------|--|----------------------------|
| トランザクション状況の処理 | W47110A | <ul style="list-style-type: none"> 「ロック・ボックス(823)」「G47264)」「EDI入荷通知(受信)の照会」 「受信支払オーダー(820)」「G47265)」「EDI入荷通知(受信)の照会」 | EDIトランザクションが表示されます。 |
| トランザクション見出しの改訂 | W47110B | 「トランザクション状況の処理」フォームでトランザクションを選択して、「選択」をクリックします。 | EDI受信データのトランザクションを改訂します。 |
| EDI制御の改訂 | W47CTLB | 「トランザクション状況の処理」フォームでトランザクションを選択して、「ロー」メニューの「制御」を選択します。 | EDI受信データの制御情報を改訂します。 |
| 振込の処理 | W47110C | 「トランザクション状況の処理」フォームでトランザクションを選択して、「ロー」メニューの「振込」を選択します。 | トランザクションの振込データを確認します。 |
| 振込の改訂 | W47110D | 「振込の処理」フォームで変更する振込データを選択して、「選択」をクリックします。 | EDI受信トランザクションの振込データを改訂します。 |
| 入金の処理 | W47110E | 「振込の処理」フォームで振込データを選択して、「ロー」メニューの「入金」を選択します。 | EDI受信振込データの入金データを確認します。 |
| 入金の改訂 | W47110F | 「入金の処理」フォームで変更する支払データを選択して、「選択」をクリックします。 | EDI受信振込データの入金データを改訂します。 |
| 送金の処理 | W47110G | 「入金の処理」フォームで支払データを選択して、「ロー」メニューの「送金」を選択します。 | 支払データの送金データを確認します。 |
| 送金の改訂 | W47110H | 「送金の処理」フォームで変更する送金データを選択して、「選択」をクリックします。 | EDI受信入金データの送金を改訂します。 |

EDI入荷通知(受信)の照会(P47110)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、「トランザクション状況の処理」フォームに表示するトランザクション・セット番号を指定します。

- | | |
|----------------------|--|
| 1. EDIトランザクション・セット番号 | デフォルトのトランザクション・セット番号を指定します。ブランクにすると、823が使用されます。有効値は次のとおりです。 823: ロックボックス 820: 支払 |
|----------------------|--|

処理

この処理オプションでは、EDIトランザクションを更新モードで処理するか、追加モードで処理するかを指定します。

- | | |
|----------|---|
| 1. 処理モード | EDIトランザクションを更新モードで処理するか、追加モードで処理するかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: 更新モードでトランザクションが処理されます。既存のレコードを改訂できます。 1: 追加モードでトランザクションが処理されます。新しいレコードが追加されます。 |
|----------|---|

EDI受信データのトランザクションの改訂

「トランザクション見出しの改訂」フォームにアクセスします。

「名称」フィールドの値を変更します。

EDI受信トランザクションの振込データの改訂

「振込の改訂」フォームにアクセスします。

- | | |
|------|--|
| 決済日付 | 支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付を入力します。銀行が支払を決済した日付ではありません。自動支払の場合、このフィールドの値は自動的にセットされます。手入力による支払の場合、決済日付が表示されるように処理オプションで指定すると、このフィールドで決済日付を手入力できます。 |
|------|--|

- | | |
|------|------------------|
| 元帳日付 | 取引を転記する日付を入力します。 |
|------|------------------|

- | | |
|----|---|
| 参照 | 相互参照番号または2次参照番号として使用する英数字を入力します。通常は、顧客番号、仕入先番号、または作業番号を入力します。 |
|----|---|

- | | |
|--------------------------|--|
| DFI ID修飾子（預金金融機関ID番号タイプ） | 預金金融機関ID番号タイプを入力します。値は次のとおりです。 01: ABA転送番号 02: SWIFTコード 03: CHIPS (Clearing House Interbank Payments System: 銀行間決済システム) 04: カナダの銀行支店 ZZ: 相互定義 |
|--------------------------|--|

| | |
|------------|---|
| DFI ID No. | 預金金融機関ID番号を入力します。 |
| 参照2 | 仕入先の入札伝票番号、見積伝票、受注オーダー、作業オーダー、作業番号などの参照番号を入力します。 |
| 銀行勘定科目 | 取引を転記する銀行勘定を入力します。 |
| 振込額 | EDIランザクションで受信した合計金額を入力します。 |
| 売掛金バッチNo. | 1ユニットとして処理、残高計算されるランザクションのグループを識別する番号が表示されます。バッチ入力では、バッチ番号を手作業で割り当てることも、自動採番プログラムを使用して割り当てることもできます。 |
| 売掛金バッチ日付 | バッチの日付が表示されます。 |
| 売掛金バッチ・タイプ | バッチ・タイプが表示されます。このフィールドの有効値はRBだけです。変更しないでください。 |

EDI受信振込データの入金データの改訂

「入金改訂」フォームにアクセスします。

| | |
|--------|--|
| 小切手No. | 入金、支払、調整、貸方額などの照合伝票の番号が表示されます。当初伝票(DOC)を、請求書や伝票などの照合伝票(DOCM)で消し込みます。 |
| 照合日付 | 入金が入力された日付を入力します。 |
| 銀行/支店 | 入金決済を管理するために、連邦準備制度により銀行へ割り当てられる番号を入力します。 |
| 顧客銀行口座 | 顧客の口座を特定するために、銀行から割り当てられる番号を入力します。 |

注意: 北欧諸国のユーザー: 取引銀行、Bankgiro、またはPostgiroの口座番号を入力します。

| | |
|-----------------|---|
| ランザクション・タイプ・コード | 社内外を問わず実行されるアクションを指定するEDIコードを入力します。ANSI X.12のデータ項目305を参照してください。 |
| 支払手段 | 仕入先への支払方法/顧客からの入金方法を指定するユーザー定義コード(00/PY)を入力します。支払手段の例として、小切手、電子資金決済、ロックボックス、EDIなどがあります。 |
| 小切手伝票タイプ | 当初伝票と照合する伝票の種類を指定するユーザー定義コード(00/DT)が表示されます。 |
| 小切手決済日 | 小切手が銀行勘定の借方に記入された日付を入力します。この日付は、銀行テープによる残高調整の際に更新されます。 |
| 支払方法コード | 支払方法コードを入力します。ANSI S. 12のデータ項目591を参照してください。 |
| 勘定科目モード | <p>総勘定元帳の3つの勘定科目のうちデータ入力に使用される勘定科目を示すコードを入力します。有効なコードは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 略式ID 2: 標準勘定科目コード 3: 第3勘定科目コード(24桁) |

7: 勘定科目コードの1桁目で勘定科目コード形式が識別されます。データを入力しやすいように一般会計固定情報テーブル(F0009)で記号を設定できます。次に例を示します。

- ブランク: ビジネスユニット.主科目.補助科目形式のコード
- /: 第3勘定科目コード
- *: 略式ID

たとえば、勘定科目モードが7で勘定科目コードの1桁目が*の場合、勘定科目コードは略式IDとして入力されています。

| | |
|------------|---|
| 売掛金バッチNo. | 1ユニットとして処理、残高計算されるランザクションのグループを識別する番号が表示されます。 |
| 売掛金バッチ日付 | バッチの日付が表示されます。ブランクにすると、システム日付が使用されます。 |
| 小切手金額 | EDIランザクションで受信した合計金額を入力します。 |
| 売掛金バッチ・タイプ | バッチ・タイプが表示されます。このフィールドの有効値はRBだけです。変更しないでください。 |

EDI受信入金データの送金データの改訂

「送金の改訂」フォームにアクセスします。

| | |
|-----------|---|
| 支払項目 | 伝票または請求書の支払項目を識別する番号が表示されます。支払項目番号は、システムによって割り当てられます。伝票または請求書の支払項目が複数にわたる場合は、連番が割り当てられます。 |
| 計算書No. | 請求書を記載する計算書の計算書番号が表示されます。 |
| 総額 | 請求書の支払項目の合計金額を示す値を入力します。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。消込のときもこの総額は変わりません。取引を無効にすると、総額フィールドの金額はクリアされます。 |
| 割引実施額 | 特定の日付までに支払が行われた場合に請求書から割引引く金額を入力します。割引可能額と異なる金額にすることもできます。 |
| 外貨建て金額 | ランザクションに入力された外貨建て金額が表示されます。一般会計固定情報の多通貨換算オプションの値がYに設定されている場合、外貨金額に為替レートを乗算して国内通貨額が計算されます。多通貨換算オプションの値がZに設定されている場合は、外貨金額を為替レートで除算して国内通貨額が計算されます。 |
| 割引実施額(外貨) | 支払で未決済請求書を消し込む際に計上される割引金額(外貨建て)が表示されます。 |
| 入力タイプ | 現金入金処理における特定のランザクション処理用コードを入力します。入力タイプをブランクにすると、ランザクションはバイパスされます。詳細は、アクション・コード付き現金入力プログラム(P03103)のシステム・ヘルプの説明を参照してください。値は次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> 1: 割引請求書照合 2: 未決済請求書照合 |

- A: 調整
- B: 繰越残高
- C: 再請求 (未充当の借方)
- D: 請求書照合 (割引の再請求)
- F: 自動損益レコード (外貨のみ - マシンによる生成)
- G: 総勘定元帳
- I: 請求書照合
- R: 範囲の開始終了
- S: 配賦
- U: 仮受金
- W: 小額消去
- X: 範囲内で除外
- Z: 配賦の自動損益 (外貨のみ - マシンによる生成)

その他コード2

買掛金および売掛金の明細ファイルの内部処理で使用されるフラグが表示されます。このフィールドをブランクにすると、仕訳の転記プログラムにより取引明細テーブル (F0911) に税に対する相殺入力データが作成され、税テーブル (F0018) に書き込まれます。

オーダー処理および流通のシステムにより、このフィールドは税に対する相殺入力を表す 1 に更新され、相殺入力データが税テーブル (F0018) に書き込まれます。

このフィールドの値が 1 の場合、請求書入力プログラムでは手作業で税額情報を変更する必要があります。税額情報は、自動的に計算されません。このコードが 1 の場合、請求書入力プログラムで税額を変更しても F0018 テーブルには反映されません。

現金入力記録コード

現金入金からの現金レコードが明細/集計形式のどちらで書き込まれるかを示すコードが表示されます。バッチ内のすべてのレコードは同じ値を持ちます。値は次のとおりです。

ブランク: 現金レコードは集計形式で書き込まれます。

1: 現金レコードは明細形式で書き込まれます。

EDI 受信データの制御情報の改訂

「トランザクション状況の処理」フォームにアクセスします。

EDI トランザクションを選択して、「ロー」メニューの「制御」を選択します。

注意: トランザクションに対する変更は、振込、支払、送金の各テーブルにも反映されます。

振込用EDI制御情報の改訂

「トランザクション状況の処理」フォームにアクセスします。

振込データを選択して、「ロー」メニューの「制御」を選択します。

注意: 振込に対する変更は、支払と送金の各テーブルにも反映されます。

支払用EDI制御情報の改訂

「トランザクション状況の処理」フォームにアクセスします。

支払データを選択して、「ロー」メニューの「制御」を選択します。

注意: 支払に対する変更は、送金テーブルにも反映されます。

送金用EDI制御情報の改訂

「トランザクション状況の処理」フォームにアクセスします。

送金データを選択して、「ロー」メニューの「制御」を選択します。

| | |
|------------|---|
| 明細行数 | EDIトランザクションで伝送される明細行の数が表示されます。オーダーや請求書当たりの合計行数などです。 |
| EDI - 伝送日付 | EDIトランザクションが送信または受信された日付が表示されます。 |
| 取引先ID | EDI標準ビジネス伝票を交換している取引先を識別する修飾子を入力します。 |

EDI受信データの構成要素の追加

この項では、事前設定および次の方法について説明します。

- EDI受信トランザクションの追加
- EDI受信トランザクションへの振込データの追加
- EDI受信振込データへの入金データの追加
- EDI受信入金データへの送金データの追加

事前設定

EDI入荷通知(受信)の照会プログラム(P47110)の処理オプションを設定し、新しいレコードを追加できるように「処理モード」処理オプションの値を1に設定します。

EDI受信データの構成要素の追加に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------------|---------|--|--|
| トランザクション状況の処理 | W47110A | <ul style="list-style-type: none"> 「ロック・ボックス(823)」(G47264)、「EDI入荷通知(受信)の照会」 「受信支払オーダー(820)」(G47265)、「EDI入荷通知(受信)の照会」 | EDIトランザクションが表示されます。 |
| トランザクション見出しの改訂 | W47110B | 「トランザクション状況の処理」フォームで「追加」をクリックします。 | 既存の転送データに構成要素(複数可)を追加します。実際に転送する前のテストとして使用することもできます。 |
| 振込の処理 | W47110C | 「トランザクション状況の処理」フォームで、振込を追加するEDIトランザクションを選択して、「ロー」メニューの「振込」を選択します。 | トランザクションの振込データを確認します。 |
| 振込の改訂 | W47110D | 「振込の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | EDI受信トランザクションに振込データを追加します。 |
| 入金の処理 | W47110E | 「振込の処理」フォームで振込データを選択して、「ロー」メニューの「入金」を選択します。 | EDI受信振込データの入金データを確認します。 |
| 入金の改訂 | W47110F | 「入金の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | EDI受信振込データに入金データを追加します。 |
| 送金の処理 | W47110G | 「入金の処理」フォームで支払データを選択して、「ロー」メニューの「送金」を選択します。 | 支払データの送金データを確認します。 |
| 送金の改訂 | W47110H | 「送金の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | EDI受信支払データに送金データを追加します。 |

EDI受信トランザクションの追加

「トランザクション見出しの改訂」フォームにアクセスします。

トランザクションを追加するには、「EDI伝票No.」、「EDI伝票タイプ」、「EDI伝票会社」、「EDI行No.」、「名称」の各フィールドに値を入力します。その他のすべてのフィールドは任意です。

注意: EDI受信トランザクションを追加すると、対応するEDI制御情報が自動的に追加されます。

EDI受信トランザクションへの振込データの追加

「振込の改訂」フォームにアクセスします。

振込を追加するには、「振込No.」フィールドと「振込額」フィールドに値を入力します。その他のすべてのフィールドは任意です。

注意: EDI受信トランザクションに振込データを追加すると、対応するEDI制御情報が自動的に追加されます。

EDI受信振込データへの支払データの追加

「入金 of 改訂」フォームにアクセスします。

支払データを入力するには、「振込ID」、「小切手伝票タイプ」、「小切手金額」、「小切手No.」の各フィールドに値を入力します。その他のすべてのフィールドは任意です。

注意: EDI受信振込データに入金データを追加すると、対応するEDI制御情報が自動的に追加されます。

EDI受信入金データへの送金データの追加

「送金の改訂」フォームにアクセスします。

送金データを追加するには、「順序No.」、「小切手No.」、「小切手伝票タイプ」の各フィールドに値を入力し、「総額」フィールドまたは「外貨建て金額」フィールドのどちらかに金額を入力します。その他のすべてのフィールドは任意です。

注意: EDI受信入金データに送金データを追加すると、対応するEDI制御情報が自動的に追加されます。

EDI受信データの除去

この項では、EDI受信データの除去処理の概要と、EDI入荷通知(受信)の除去プログラムの実行方法について説明します。

EDI受信データの除去処理について

EDI受信トランザクションを正常に処理した後、除去プログラムを使ってEDI受信テーブルからトランザクションを削除できます。処理済のEDIトランザクションは、除去されるまでシステム47テーブルに保存されます。

EDI受信データを除去すると、次のテーブルから処理済(Y/N)フィールド(EDSP)の値がYのレコードが削除されます。

- F47111
- F47112
- F47113
- F47114

重要: このプログラムの実行では、削除されたトランザクションは除去テーブルにコピーされません。トランザクションはシステムから物理的に削除されます。

EDI入荷通知(受信)の除去プログラムの実行

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

「受信支払オーダー(820)」メニュー(G47265)から「EDI入荷通知(受信)の除去」を選択します。

「ロック・ボックス(823)」メニュー(G47264)から「EDI入荷通知(受信)の除去」を選択します。

第 15 章

損金処理

この章では、損金処理の概要と、次の方法について説明します。

- 損金の入力
- 損金の調査と解決
- 損金処理の無効化

関連項目:

[第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定」、「損金処理のための処理コードの設定」、26 ページ](#)

損金処理について

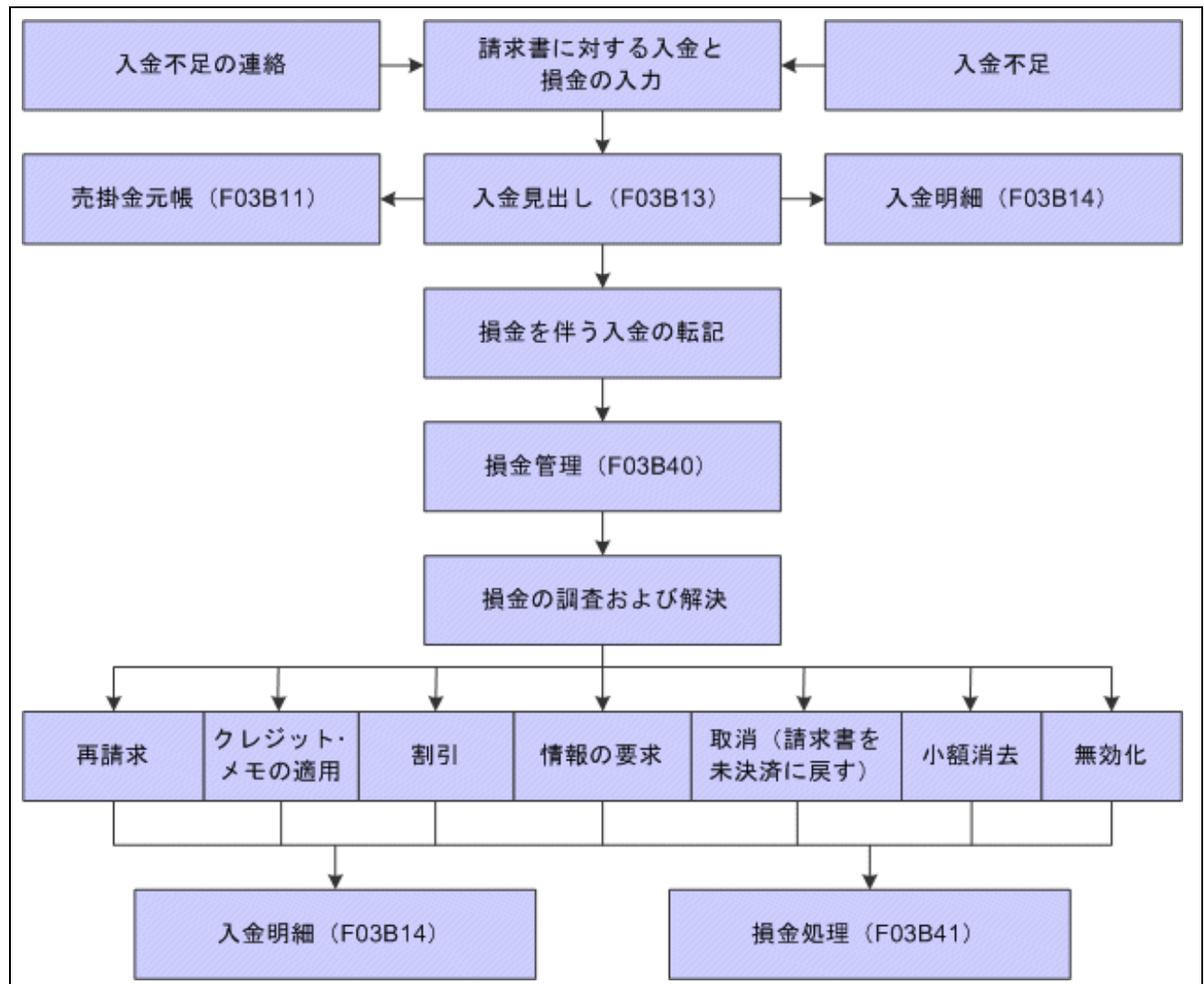
顧客から説明もなく請求額より少ない金額が入金されたり、破損品があったなどの理由で入金額が減額されたりする場合があります。顧客が差し引いた支払金額は損金と呼ばれます。

商品やサービスに欠陥があったり、納品数量が不足しているような場合に、顧客が金額を差し引いて支払う場合があります。損金の主な理由は次のとおりです。

- 破損品または欠陥品
- 出荷数量不足
- 販売促進のための割引
- 問題のある金額
- 請求ミス

社内規定に基づいて、損金処理に関する権限を持った担当者を決めることができます。たとえば、与信および回収部門に損金に関連する問題を解決する損金管理担当者を置くことができます。この情報は、顧客マスター・レコードで指定します。

次の図は、損金処理の流れを示しています。



損金処理

損金の原因追求には多くの時間を要します。まず初めに、その損金が正当な理由によるものかどうかを調べる必要があります。次に、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムでどう処理するかを決めます。たとえば、損金に対する正当な理由が顧客にないと判断したとします。この場合は、再請求を作成し顧客に損金額を請求します。

入金入力時には減額の理由がわからない場合があります。しかし、損金処理を保留にしたまま、入金された金額を記録して請求書に適用できます。損金処理に関する問題は、後で個別に対処することが可能です。

損金に関連した調査内容には、次のようなものがあります。

- 請求書や出荷などにミスがないかを確認する。
- 顧客に対して、さらに詳しい情報の提供を依頼する。
- 営業部門や与信部門など、社内の担当部署に連絡し、顧客勘定についての追加情報を入手する。

損金の調査に関する情報をシステムに記録できます。「損金処理の入力」フォームに各処理の結果を入力してください。この情報が、損金処理に関する監査証跡になります。

損金が特定の請求書に対して発生すると、その請求書は決済済になり、損金額の記録用に新しい請求書(R5伝票タイプ)が作成されます。損金問題を調査している間は、R5請求書伝票に関連した未決済金額の消込処理はできません。この請求書(損金額)は、問題が解決されるまで顧客の未決済残高に含まれます。

損金関連問題を調査したら、損金をどのように処理するかを決定します。次のような処理が可能です。

- 顧客に対して、損金分の再請求を作成する。
- 損金額の小額消去処理を行う。
- クレジット・メモを適用する。
- 損金額を無効割引額として処理する。
- 損金の取消処理を行う。

損金問題を解決する際に、R5請求書レコードを締め処理するために入金明細(F03B14)レコードが作成されます。作成された入金レコードを転記して、該当する総勘定元帳の勘定科目を更新する必要があります。

Oracle Demantraの統合

Oracle Demantraを使用時に、顧客からの入金が不足している場合、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに損金を入力できます。次に、損金処理を評価および決定するために損金情報をOracle Demantra内の決済管理システムに送信できます。損金の適切な処理を決定した後、情報がJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに送信され、小額消去または再請求を作成できるようになります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Application Integration with Oracle Demantra Guide

この章で使用する共通フィールド

| | |
|----------------|--|
| 損金処理コード | 未決済の損金額を割り当てる処理のコードを入力します。コードは、F03B42テーブルにある値を入力する必要があります。 処理にクレジット・メモを割り当てる場合は、クレジット・メモ用に設定されている処理コードを選択する必要があります。 |
| 損金理由コード | 顧客によって請求書の全額が入金されていない理由を示すコードを入力します。代表的な損金理由コードは、次のとおりです。 DG: 破損品 SS: 出荷不足 UD: その他の理由 |

損金の入力

この項では、損金入力の概要、請求書に関連した損金、入金に関連した損金、事前設定、および次の方法について説明します。

- 請求書に関連した損金の入力
- 入金に関連した損金の入力

損金の入力について

顧客から請求額より少ない金額が入金される場合があります。その理由は、特定の請求書に関連していることあれば、はっきりしないこともあります。たとえば、商品が破損品だったり、請求ミスや割引の問題がある場合などです。損金問題を調査して顧客との問題を解決すると同時に、損金情報をJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに正確に記録する必要があります。損金処理は、入金入力処理または「売掛金元帳照会の処理」フォームで行いますが、機能はどちらも同じです。

損金のタイプに応じて、次のいずれかの方法で損金情報の入力や照会を行います。

| 方法 | 用途 |
|---------|---|
| 売掛金元帳照会 | 「売掛金元帳照会の処理」フォームを使用して、顧客からの入金不足と関係ない損金情報を入力します。このタイプの損金は請求書と関連しています。 |
| 入金入力 | 「入金の入力」フォームを使用して、顧客からの入金に関連する損金を入力します。 この方法は、損金特定の請求書と関連していない単独損金処理にも使用できます。 |
| 手形入力 | 手形入力プログラムを使用して、顧客の手形に関連する損金を入力します。 この方法は、損金特定の請求書と関連していない単独損金処理にも使用できます。 |

注意: 損金管理テーブル(F03B40)に損金レコードを作成するために、入金および手形レコードを転記する必要があります。転記しないと、損金レコードを検討したり処理したりすることはできません。

請求書に関連した損金について

支払の前に、顧客から請求書の問題に関する連絡を受けた場合、「売掛金元帳照会の処理」フォームを使用して問題のある項目を確認します。次に、問題となっている項目を損金処理システムに入力します。これによって損金情報が担当者や責任者に通知され、後で問題を調査できます。

請求書と関連する損金を入力すると、次の処理が実行されます。

- 請求書の未決済金額を損金額分だけ差し引きます。請求書金額が損金額と等しい場合は、その請求書は決済済になります。

請求書を決済済にする場合は、支払状況Pが割り当てられます。

- 「売掛金元帳照会の処理」フォームに表示されるように、売掛金元帳テーブル(F03B11)に損金額の転記済R5伝票を作成します。

R5伝票は、その顧客に対して未決済残高があることを示す一時的な伝票です。この伝票には、当初請求書に対する監査証跡情報が記載されています。

- バッチ制御テーブル(F0011)に入金バッチ見出しレコード(バッチ・タイプRB)を作成します。
- 入金見出しテーブル(F03B13)に、金額ゼロの損金入金を作成します。

入金明細テーブル(F03B14)に、対応する入金明細が損金分の金額(支払ゼロ)で作成されます。

損金を入力したら、後で損金の検討と処理ができるように、入金バッチを転記してF03B40テーブルにレコードを作成する必要があります。請求書と関連する損金を入力して転記したら、「損金の処理」フォームで問題のある請求書に割り当てられた理由コードを検討できます。理由コードを検討するには、「売掛金元帳照会の処理」フォームで問題のある請求書を選択して、「ロー」メニューの「損金の処理」を選択します。

入金に関連した損金について

顧客が支払額を減額した場合、顧客が差し引いた金額分を損金として入力できます。不足分に関しては顧客からの説明がないことがほとんどです。このような場合、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムで通常どおり入金を消し込んでから、不足分について損金を作成します。

入金と関連する損金を入力すると、次の処理が実行されます。

- 関連する請求書に対する入金額と損金額を消し込みます。請求書金額が損金額と等しい場合は、その請求書は決済済になります。

請求書を決済済にする場合は、支払状況Pが割り当てられます。これによって、当初請求書の未決済金額が減額されます。

- F03B11テーブルに損金額分の転記済伝票レコード(伝票タイプR5)を作成します。

R5伝票は、その顧客に対して未決済残高があることを示す一時的な伝票です。「売掛金元帳照会の処理」フォームに表示されます。この伝票には、当初請求書に対する監査証跡情報が記載されています。

- F03B13テーブルに損金入金レコードを作成します。

また、これに対応する入金明細レコードが損金分の金額でF03B14テーブルに作成されます。

F03B40テーブルを更新するには、入金バッチを転記して後で損金の検討と処理ができるようにします。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 照会のために、顧客マスター・レコードに損金管理担当者を割り当てます。
- 損金AAI(RN)を設定して、損金仮勘定を特定できるようにします。
- 「入金の入力」フォームの見出し部分に値を入力する方法については、未充当入金の入力ステップを確認します。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「未充当入金の入力」、197ページ

- 手形を処理している場合、「手形の処理」フォームの見出し部分に値を入力する方法については、未決済手形の入力ステップを確認してください。

参照: 第 12 章、「受取手形の処理」、「未充当手形の入力」、285ページ

- 支払対象の請求書を検索する方法については、未決済項目の表示に関する情報を確認します。

参照: 第 9 章、「入金処理」、「未決済請求書の検索」、198ページ

損金の入力に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-------|---------|---|-------------------------|
| 損金入力 | W03B40E | 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「売掛金元帳照会」 「売掛金元帳照会の処理」フォームで、適切な請求書を選び、「ロー」メニューから「損金の入力」を選択します。 | 顧客の入金不足と関係ない損金情報を入力します。 |

請求書に関連した損金の入力

「損金入力」フォームにアクセスします。

OK(O)

取消(L)

ツール(T)

顧客No.

3333

伝票No.

1025

伝票タイプ

RI

伝票支払項目

001

伝票会社

00001

損金理由コード

DA

金額に対するクレーム

損金額

2500.00

請求書未決済金額

2500.00

損金記録日付

2009/03/12

通貨

USD

「損金入力」フォーム

損金額

損金の国内通貨金額を入力します。この金額の通貨は、基本通貨コード・フィールド(BCRC)に表示されます。

損金記録日付

損金管理レコード(F03B40)が作成された日付が表示されます。損金が入金から作成されている場合は、入金元帳日付が表示されます。損金が請求書から作成されている場合は請求書元帳日付が表示されますが、「損金入力」フォームでこの値を上書きすることができます。

入金に関連した損金の入力

入金に関連した損金を入力するには、単独損金のレコードを入力する手順に従います。

参照: [第 9 章、「入金処理」、「単独レコード入力」、210ページ](#)

損金の調査および解決

この項では、損金の解決の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 損金への処理コードの適用
- 損金へのクレジット・メモの適用

損金の解決について

損金を入力したら、損金理由を調査して解決する必要があります。たとえば、損金処理に追加情報が必要な場合や損金理由の正当性を確認するために、損金管理担当者が顧客に連絡することがあります。損金の調査や処理に時間がかかる場合、備忘日付を入力できます。

損金や転記済または未転記の活動に関連する詳細情報を変更できます。変更すると、「損金処理の入力」フォームにログが取られます。

損金の調査が終わったら、どのように処理するかを決める必要があります。次のような方法があります。

追加情報の要求

この処理では、解決処理コードの割当の際に金額は指定できません。関連する請求書は決済済のまま、損金管理システムの損金額は未決済のままになります。これは、必要な情報を入手した時点で処理できます。

小額消去

損金を小額消去として処理すると、伝票タイプR5(損金)の請求書の未決済金額が決済済となり、未転記の入金レコードがF03B14テーブルに新規のバッチで作成されます。これを転記すると、AAI項目RAxx(xxは小額消去理由コード)で指定された小額消去勘定科目の残高が更新されます。AAI項目RNxxで指定された勘定科目の仕訳が転記されます。損金を小額消去した場合、入金入力の処理オプションで指定した許容限度額は考慮されません。

小額消去理由コードには、「相手勘定」フィールドの値が使用されます。「損金処理の入力」フォームで「損金理由コード」フィールドに値を入力すると、「小額消去理由コード」フィールドの値が「相手勘定」フィールドのデフォルトの値として使用されます。ただし、このフィールドの値は上書きできます。小額消去のために使用されるAAI項目は、RAと明細行の「相手勘定」フィールドの値を組み合わせた項目(RAxx)になります。この値は、F03B14テーブルに格納されます。

小額消去の理由コードは、活動マスター(F03B42)に格納されます。各損金処理には損金処理コードを設定する必要があります。それぞれの損金処理コードに、個別に小額消去理由コードを設定できます。このため、同じ損金処理コードを持つすべての損金処理が、同じ小額消去理由コードを持つ場合があります。

再請求の作成

損金を顧客に対する再請求として処理する場合は、R5請求書損金レコードの未決済金額が決済済となり、新しくRB請求書伝票が作成されます。新しいバッチで未転記のレコードがF03B14テーブルに作成されます。再請求を転記すると、AAI項目RCxx(xxは再請求理由コードの値)で指定された売掛金勘定と、AAI項目RNで指定された損金勘定が更新されます。

「相手勘定」フィールドの値が再請求相手勘定値として使用されます。「損金処理の入力」フォームで損金処理コード・フィールドに値を入力すると、小額消去理由コード・フィールドの値が「相手勘定」フィールドのデフォルトの値として使用されます。ただし、このフィールドの値は上書きできます。再請求のために使用されるAAI項目は、RCと再請求相手勘定の値を組み合わせた項目(RCxx)になります。この相手勘定の値はF03B14テーブルに格納されます。

再請求または小額消去の理由コードは、F03B42テーブルに格納されています。各損金処理には損金処理コードを設定する必要があります。それぞれの損金処理コードに、個別に再請求理由コードを設定できます。このため、同じ損金処理コードを持つすべての損金処理が、同じ再請求理由コードを持つ場合があります。

無効割引の作成

無効割引を作成すると、伝票タイプR5(損金)の請求書の未決済金額が決済済となり、未転記のレコードがF03B14テーブルに新規のバッチで作成されます。入金を転記すると、AAI項目RKDで指定された割引額の残高と、AAI項目RNで指定された損金勘定の残高が更新されます。

クレジット・メモの適用

顧客に対するクレジット・メモがある場合、損金にクレジット・メモ(複数可)を適用して、その損金分をクレジット・メモの残高から減らすことができます。F03B14テーブルには、損金額とクレジット・メモの金額の2つのレコードが作成されます。これらのレコードを転記すると、指定された売掛金勘定と損金勘定の仕訳が作成されます。

損金の取消

問題がなかった場合、損金を取り消すことができます。たとえば、100.00の商品納入不足のために100.00の損金を記録した後、金額分が納入されていることがわかった場合などに、記録した損金を取り消します。

損金を取り消すと、その分の金額が再び未決済になります。この金額は、損金の全額または一部の金額になります。誤って取消処理を行った場合は、その活動を無効にします。単独損金処理の場合は、関連する請求書がないため、取消処理はできません。転記済の請求書を削除する場合は、その請求書を無効にします。

損金の無効化

誤って損金を入力した場合は、損金を無効にします。無効にすると請求書が再び未決済になり、請求書の全額に対する入金が必要になります。

損金処理のバッチに関する考慮事項

活動コードを損金請求書レコード(R5)に適用すると、転記が必要なF03B14レコードが作成されます。入金バッチ(バッチ・タイプRB)で入金レコードが作成されます。他の入金バッチと同様に、損金処理プログラム(P03B40)を完全に終了させる必要があります。完全に終了させないと、バッチが使用中のままになり転記できません。

事前設定

該当する損金処理コードが設定されているかどうか確認します。

損金の解決に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-------------|---------|--|------------------------|
| 損金処理の入力 | W03B40D | 「入金処理」(G03B12)、「損金処理」 「損金の処理」フォームで処理コードを適用する損金を選択して、「選択」をクリックします。 | 損金に処理コードを適用します。 |
| クレジット・メモの選択 | W03B40A | 「損金処理の入力」フォームで、「フォーム」メニューの「クレジット・メモ」を選択します。 | 損金に適用するクレジット・メモを選択します。 |

損金への活動コードの適用

「損金処理の入力」フォームにアクセスします。

「損金処理の入力」フォーム

損金問題を解決する際に、複数の処理方法を割り当てることができます。たとえば、損金額の一部に対して再請求を作成し、残りの金額を小額消去できます。「損金処理の入力」フォームの詳細グリッドで、各損金に適用する理由と金額を入力します。

損金備忘日付

調査が必要な損金の日付を入力します。このフィールドは任意フィールドです。このフィールドをブランクにすると、損金の元帳日付がデフォルト値になります。

損金管理者

損金を調査しなければならない損金管理者の住所録レコードを入力します。このフィールドは任意フィールドです。

処理金額

損金額を国内通貨額で入力します。この金額の通貨は、基本通貨コード・フィールド(BCRC)に表示されます。

| | |
|------|--------------------------------------|
| 処理日付 | 損金処理を入力した日付を入力します。 |
| 相手勘定 | 取引を転記する際に相手勘定として使用する売掛金勘定のコードを入力します。 |

損金へのクレジット・メモの適用

「クレジット・メモの選択」フォームにアクセスします。

損金レコードの会社および通貨について入力されたすべての顧客のクレジット・メモが表示されます。損金の会社および通貨と異なる会社または通貨に対して入力されたクレジット・メモは適用できません。

クレジット・メモを損金に適用するには、次の手順に従います。

1. 「クレジット・メモの選択」フォームの「アクティビティ・コード」フィールドに値を入力します。
クレジット・メモ活動用に設定されたコードを選択する必要があります。
2. 詳細グリッドの損金に適用するクレジット・メモを選択して、「選択」をクリックします。
選択したクレジット・メモの左側にチェックマークが表示されます。
3. 「閉じる」をクリックします。
選択したクレジット・メモが「損金処理の入力」フォームに表示されます。
4. 「損金処理の入力」フォームで、「損金理由」、「処理日付」、「元帳日付」、「処理金額」の各フィールドの値を必要に応じて上書きし、「OK」をクリックします。

クレジット・メモ活動コード 未決済の損金額に割り当てる処理のコードを入力します。コードは、F03B42テーブルにある値を入力する必要があります。

損金処理の無効化

この項では、損金処理の無効化の概要と次の方法について説明します。

- 損金処理の無効化
- 損金の無効化

損金処理の無効化について

誤って損金を作成したり、損金処理を割り当てたりした場合に、損金処理を無効にします。いずれの場合も、無効機能を使用すると、損金の金額に対する未充当入金を作成されます。

たとえば、次の2つの請求書に対する入金として650.00の入金があったとします。

- 請求額400.00の請求書123
- 請求額300.00の請求書124

両方の請求書を決済済にして、残りの請求書未決済金額(50.00)の損金を作成します。

この損金を無効にすると、次の処理が行われます。

- R5伝票の未決済金額をゼロにする。
- 請求書124(300.00)を未決済に戻す。

- 未充当入金 (RU) 伝票 (250.00) を作成する。

400.00 が消し込まれた請求書 123 は、決済済のままとなります。その後、この仮受金を請求書に適用するなどして、不足分を処理する必要があります。損金を無効にする前に、損金に処理を割り当てても、結果は同じになります。

注意: 損金を取り消すための処理を割り当てる場合は、請求書が損金額 (この例では 50.00) 分のみ再び未決済となりますが、RU のレコードは作成されません。

損金処理を無効にするために使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|---------|---------|--|----------------------------|
| 損金の処理 | W03B40C | 「入金処理」(G03B12)、 「損金処理」 | 損金処理を行う損金を検索し、選択します。 |
| 損金処理の入力 | W03B40D | 「損金の処理」フォームで 処理コードを適用する損金 を選択して、「選択」をク リックします。 | 損金処理を無効にします。 |
| 無効理由入力 | W03B40F | 「損金処理の入力」フォー ムで、無効にする損金処理 を選択して「削除」をク リックします。 削除しようとする処理が転 記済の場合、「無効理由 入力」フォームが表示さ れます。 | 損金処理を無効にする理 由と日付を指定します。 |
| 無効理由入力 | W03B40F | 「損金の処理」フォームで 無効にする損金を選択し て、「ロー」メニューの「無 効化」を選択します。 | 損金を無効にする理由と 日付を指定します。 |

損金処理の無効化

「損金処理の入力」フォームにアクセスします。

損金処理を無効にするには、次の手順に従います。

1. 「損金処理の入力」フォームで、無効にする損金処理を選択して「削除」をクリックします。
削除しようとする処理が転記済の場合、「無効理由入力」フォームが表示されます。未転記の場合は自動的に削除されます。
2. 「無効理由入力」フォームで、「無効理由コード」フィールドと「無効元帳日付」フィールドに値を入力して、「OK」をクリックします。

損金の無効化

「無効理由入力」フォームにアクセスします。

無効理由コード 入金が無効にされた理由を示すコードを入力します。

無効元帳日付 無効になった取引の転記先の会計期間を指定する日付を入力します。

第 16 章

請求書の印刷

この章では、売掛金請求書を印刷する方法について説明します。

注意: デンマーク、中国、フィンランド、ノルウェー、ロシアおよびスウェーデンには、請求書を印刷するための国別機能が用意されています。また、国際支払指示 (IPI) を使用する国の場合、IPI が添付された請求書を印刷できます。

売掛金請求書の印刷

この項では、請求書の印刷の概要と、次の方法について説明します。

- 請求書印刷プログラムの実行
- 請求書印刷プログラム (R03B505) の処理オプションの設定

アルゼンチンおよびスイスには、請求書を印刷するための国別機能が用意されています。

請求書の印刷について

請求書入力や入金入力で作成した請求書を印刷するには、請求書印刷 (R03B505) を実行します。このプログラムでは、標準請求書の他に、次の伝票も印刷されます。

- 再請求書 (伝票タイプ RB)
- クレジット・メモ (伝票タイプ RM)
- 延滞利息金請求書 (伝票タイプ RF)

割引可能額や消込済の税額がある場合、処理オプションの設定によってこれらの金額も請求書に印刷されます。また、入力した備考も請求書に印刷されます。

各請求書は、それぞれ別のページに印刷されます。

売掛金請求書の印刷には、次のテーブルの情報が使用されます。

- 売掛金元帳 (F03B11)
- 業種別顧客マスター (F03012)
- 住所録マスター (F0101)
- 住所録 - 人名録 (F0111)

「顧客マスターの改訂」フォームの「請求書送付先」(SITO) の値を使用して、請求書に印刷する請求先住所が決められます。業種別処理を行う場合は、請求書に入力されている会社に対応する顧客レコードから情報が取得されます。顧客レコードがその会社用に設定されていない場合は、会社 00000 の情報が使用されます。

住所録レコードの人名録の項目がタイプ・コードB(請求)用に設定されている場合は、その名前が請求先住所の下に印刷されますが、住所は「請求書送付先」フィールドの値から使用されます。

請求書を印刷する必要がない顧客の場合、「請求書送付先」フィールドに「N」を入力します。

請求書印刷プログラムの実行

「計算書/延滞通知処理」メニュー(G03B22)から「請求書の印刷」を選択します。

請求書印刷(R03B505)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷オプション

この処理オプションでは、使用する日付と、税額を請求書に印刷するかどうかを指定します。

1. 請求書印刷日付 請求書に印刷する日付を指定します。空白にすると、システム日付が使用されます。
2. 税額の印刷 請求書に税額を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 税額を印刷しない。
1: 税額を印刷する。

通貨オプション

この処理オプションでは、請求書に通貨情報を印刷するかどうかを指定します。

1. 通貨の印刷 金額を国内通貨と外貨のどちらで請求書に印刷するかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 通貨コードなしで国内通貨で印刷する。
1: 通貨コードとともに外貨で印刷する。

添付

この処理オプションでは、請求書に関連する汎用テキストを印刷するかどうかを指定します。

1. 添付の印刷 請求書レコードの汎用テキスト(添付)を請求書に印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 汎用テキストを印刷しない。
1: 汎用テキストを印刷する。

第 17 章

計算書の処理

この章では、計算書の処理の概要と、次の方法について説明します。

- 計算書の作成
- 計算書の利用
- 計算書/延滞通知の除去

計算書の処理について

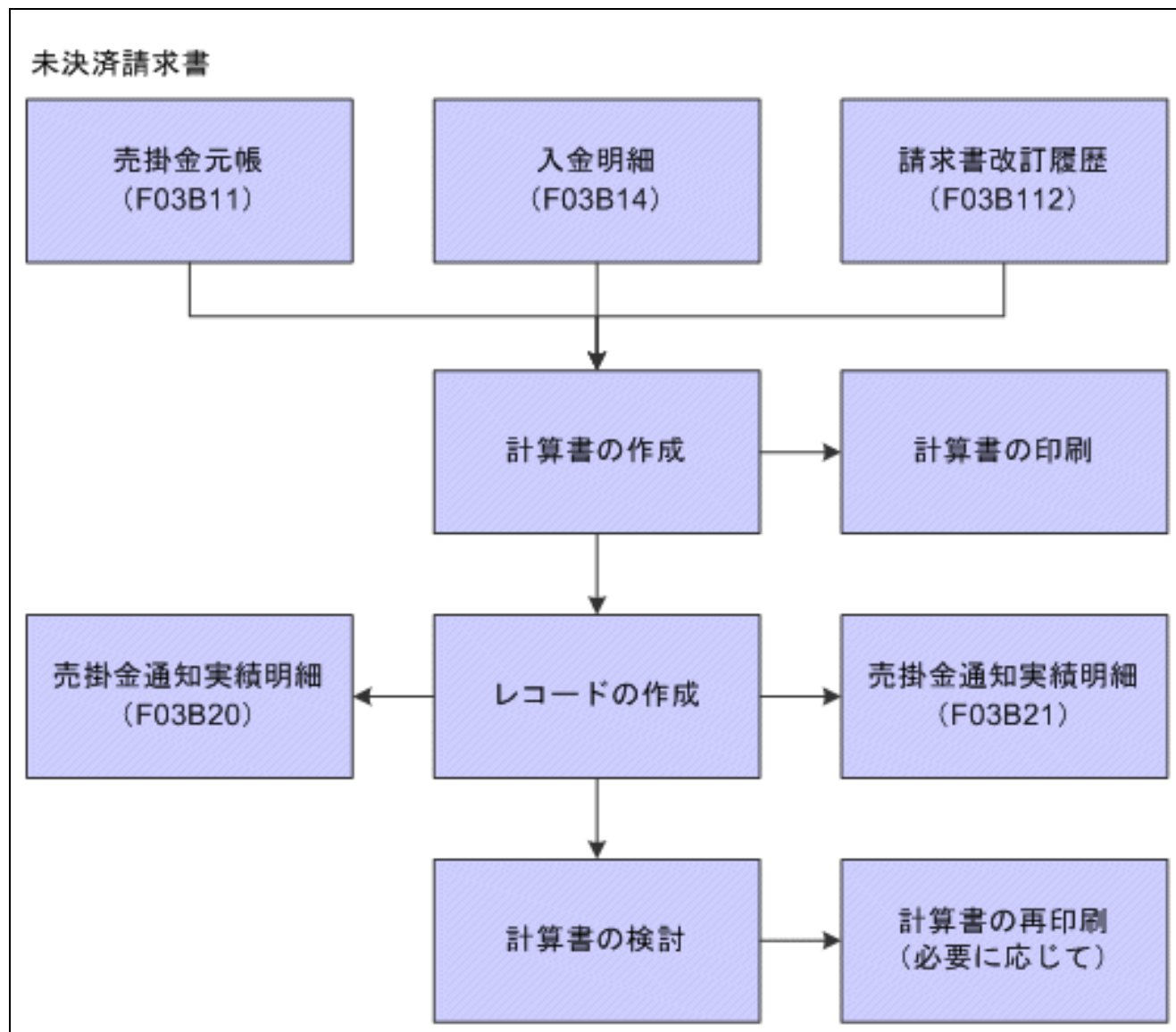
顧客に計算書を送付して、取引内容と支払方法を知らせます。計算書には未決済の請求書とその期日の他に、その期間内に決済された請求書情報が記載されます。計算書は、決済されるまで請求書情報が個別に記載される明細形式で作成することも、集計形式で作成することもできます。集計形式の場合、未決済の請求書は、クレジット・カードの計算書のように、繰越残高として1つの金額に集計されます。

計算書を作成すると、計算書に出力される請求書レコードの計算書番号と計算書日付が更新されます。また、次のテーブルが更新されます。

- 売掛金通知実績 (F03B20) - このテーブルには計算書に関する情報が保存されます。
- 売掛金通知実績明細 (F03B21) - このテーブルには計算書に表示される請求書に関する情報が保存されます。

計算書に関する情報はシステムに保存されるため、過去に作成した計算書をオンラインで照会して顧客からの問合せに対応したり、紛失した計算書をもう一度作成したりすることができます。また、最後に作成した計算書を再設定して、顧客からの直前の入金を反映したり、データ選択を変更したりすることができます。これらの情報は、削除されるまで計算書テーブルに保存されます。

次の図は、計算書がどのように処理されるかを示しています。



計算書の処理

計算書の作成

この項では、計算書の作成の概要と次の方法について説明します。

- 計算書データの再作成プログラムの実行
- 計算書データの再作成 (R03B500X) の処理オプションの設定
- 計算書の印刷プログラム (R03B5001) の処理オプションの設定

計算書の作成について

計算書を作成すると、F03B20テーブルおよびF03B21テーブルにレコードが作成されるだけでなく、次のテーブルのフィールドも更新されます。

| テーブル | 更新されるフィールド |
|-------------------|-----------------------------|
| 売掛金元帳 (F03B11) | 計算書番号 (CTL) 計算書日付 (SMTJ) |
| 請求書改訂履歴 (F03B112) | 計算書印刷フラグ (STPF) |
| 入金明細 (F03B14) | 計算書番号 (CTL) 計算書日付 (SMTJ) |

組織の要件にあわせて計算書をカスタマイズするには、処理オプションを使用します。たとえば、計算書の明細を印刷するプログラムとそのバージョンを指定できます。これにより、年齢調べ情報と勘定科目集計情報のどちらを印刷するか、請求書の支払項目は個別に印刷するか請求書ごとに集計して印刷するかを指定したり、計算書に印刷する日付を指定したりすることができます。

ユーザー定義コード03B/STに設定されている次の印刷プログラムは、計算書の作成に使用できます。

- R03B5001 - 計算書の印刷
標準の計算書印刷プログラムです。
- R03B5001JP - 鑑請求書の印刷
日本向けにローカライズされた計算書フォーマットです。
- R03B5002 - イタリア用計算書の印刷
イタリア向けにローカライズされた計算書フォーマットです。
- R03B5003 - クレジット・カード計算書の印刷
クレジット・カード・フォーマットで計算書を印刷するのに使用するプログラムです。新しい請求書だけが印刷されます。過去に印刷された請求書は、繰越残高に集計されます。
- R03B506 - 計算書の印刷 (手形付き)
手形情報を計算書に出力する場合に使用する計算書印刷プログラムです。

カスタム印刷プログラムを作成して使用することもできます。

計算書に印刷する請求書を制限したり、印刷する請求書の順番を変更したりする場合は、計算書印刷プログラムのデータ選択およびデータ順序設定を使用します。たとえば、決済済の請求書を計算書に出力しないようにすることができます。

注意: 決済済の請求書を計算書から除外するには、計算書印刷プログラムのバージョン・プロンプトのフォームで、次のようにデータ選択を指定します。

未決済金額がゼロ (Zero) と同等ではない

このように設定すると、マイナスの金額を含む未決済の請求書のみが印刷され、決済済の請求書は印刷されなくなります。

計算書データの再作成プログラム (R03B500X) のデータ選択では、計算書に印刷する請求書ではなく、作成する計算書を制御します。R03B500X のデータ順序設定は変更しないようにしてください。

計算書の作成の技術的考慮事項

計算書の作成に関連するプログラムは、次のとおりです。

| プログラム | 説明 |
|--|---|
| R03B500X | F03B20、F03B21、F03B11、F03B112、およびF03B14の各テーブルを更新します。 |
| R03B5005 | 処理オプションで指定した印刷プログラムの実行で使用される印刷ドライバです。このプログラムによって更新されるテーブルはありません。 |
| R03B5001、R03B5002、R03B5003、R03B5001JP、R03B506、R03B5001TW | 計算書を作成する印刷プログラムです。使用する印刷プログラムを選択できます。これらのプログラムの一部は、各国固有の要件を満たしています。 |

請求書の集計

計算書データの再作成プログラム(R03B500X)と計算書の印刷プログラム(R03B5001)には、請求書を集計する処理オプションがあります。

計算書データの再作成プログラムの処理オプションでは、各請求書レコードの他に、請求書の集計レコードをF03B20テーブルに作成するかどうかを指定します。この処理オプションは、計算書の印刷プログラムの対応するオプションとは独立して機能します。

計算書の印刷プログラムの処理オプションでは、計算書に請求書の支払項目を個別に印刷するか、すべての支払項目を集計して1つの請求書にして印刷するかを指定します。この処理オプションは、計算書データの再作成プログラムの対応する処理オプションに影響されます。また、集計請求書を印刷するには、集計請求書レコードを作成するように指定する必要があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「売掛管理固定情報の処理」フォームおよび「バッチ顧客マスターの改訂」フォーム(「タブを選択」で「回収」を選択)で、計算書の印刷オプションが設定されていることを確認します。
- 請求書、入金、手形をすべて転記します。
計算書処理では、転記済のレコードのみが処理対象になります。
- 住所録からの売掛金元帳の更新プログラム(R03B802)を実行して、請求書の顧客名称や親番号の変更が適切に計算書に反映されるようにします。

計算書データの再作成プログラムの実行

「計算書/延滞通知処理」メニュー(G03B22)から「計算書データの再作成」を選択します。

計算書データの再作成(R03B500X)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

連結

この処理オプションでは、すべての会社のレコードを含む計算書を作成するか、会社ごとに個別の計算書を作成するかを指定します。

1. 会社

送金先住所の特定に使用する会社を入力します。請求書でその会社が指定されているかどうかにかかわらず、ここで指定した会社の顧客ごとに計

算書が作成されます。会社固定情報の年齢調べ設定を使用するように指定した場合、送金先処理オプションおよび年齢調べの設定に基づいて、指定した会社番号から送金先住所が検索されます。

この処理オプションをblankにすると、顧客ごとに1件の計算書が会社別に作成されます。たとえば、会社00001、00020、00050の顧客に対する請求書を入力した場合、3件(会社ごとに1件)の計算書が作成されます。

年齢調べ

この処理オプションでは、計算書の経過日数の計算方法を指定します。

1. 会社固定情報

売掛管理固定情報から年齢調べの設定と計算書日付を取得するかどうかを指定します。この処理オプションをblankにすると、計算書日付、日付タイプ、年齢調べカテゴリの各処理オプションを使って年齢調べが行われます。値は次のとおりです。

blank: 処理オプション2から10を使用する。

1: 売掛管理固定情報を使用する。

2. 計算書日付

未決済請求書を割り当てる年齢調べカテゴリの決定に使用する日付を指定します。入力した日付と請求書の日付(「日付タイプ」処理オプションで指定した日付)を比較して、請求書の経過期間が計算されます。この日付が計算書の計算書日付として出力されます。

この処理オプションをblankにすると、未決済請求書の年齢調べにはシステム日付が使用されます。

3. 日付タイプ

年齢調べカテゴリの決定に使用する請求書の日付を指定します。ここで指定した日付と「計算書日付」処理オプションの日付を比較して、請求書の支払期日超過日数が計算されます。値は次のとおりです。

D: 請求書の支払期日を使用する。

I: 請求書日付を使用する。

G: 元帳日付を使用する。

S: 計算書日付を使用する。

4. 年齢調べカテゴリ

請求書の割当に使用する年齢調べカテゴリ指定します。「計算書日付」処理オプションで指定した日付と「日付タイプ」処理オプションで指定した値によって各請求書の経過期間が計算され、このコードで指定した年齢調べカテゴリに割り当てられます。値は次のとおりです。

1: 経過日数。「年齢調べカテゴリ1」から「年齢調べカテゴリ6」の処理オプションで指定した年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられます。年齢調べカテゴリには、自由に日数を設定できます。

2: 会計期間。会社レコードに割り当てられた期間パターンによって定義されている会計期間が、年齢調べカテゴリとして使用されます。

3: カレンダ。各カレンダー月が年齢調べカテゴリとして使用されます。

この処理オプションをblankにすると、デフォルト値の1(経過日数)が使用されます。

5. 年齢調べカテゴリ1 から 10. 年齢調べカテゴリ6

これらの処理オプションを使用して、年齢調べカテゴリの間隔を指定します。

- 11. マイナス金額** 年齢調べの設定に従ってクレジット・メモの年齢調べを行うか、マイナス金額を年齢調べの現行カラムに適用して計算書に印刷するかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: マイナス金額の年齢調べを行う。
- 1: マイナス金額を年齢調べの現行残高に適用する。
- 12. 将来金額を除外** 将来の請求金額が計算書に印刷されないようにするかどうかを指定します。請求書の金額が将来のものかどうかは、売掛管理固定情報または処理オプションの年齢調べの設定によって判断されます。たとえば、支払期日に基づいて請求書の年齢調べを行い、2008年6月30日付けの計算書を作成するとします。この場合、支払期日が2008年6月30日より後の請求書は、この計算書には印刷されません。
- 13. 多通貨** 国内通貨と外貨のどちらで計算書の作成および印刷を行うかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 国内通貨。国内通貨建てか外貨建てかにかかわらず、請求書と入金はずべて送金先会社の国内通貨で印刷されます。
- 1: 外貨。外貨建ての請求書は取引通貨、国内通貨建ての請求書は国内通貨で印刷されます。1つの計算書に複数の合計と年齢調べデータが出力される場合があります。
- 14. 手形の印刷** 計算書番号のかわりに手形番号を割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 計算書番号が割り当てられる。
- 1: 手形番号が割り当てられる。

印刷

この処理オプションでは、送金先住所を印刷する方法、使用する印刷プログラムのバージョン、計算書に印刷するテキストなどを指定します。

- 1. 送金先住所** 計算書に出力する送金先住所を指定します。顧客は、送金先住所宛てに支払を送付します。この住所は、住所録マスター (F0101) に設定されている、請求書で指定した会社の住所録レコードから取得されます。値は次のとおりです。
- ブランク: 「連結」処理オプションで会社が指定されていないかぎり、F03B11 テーブルに指定されている会社の住所が使用される。会社固定情報テーブル (F0010) から会社の住所録番号が取得されます。
- A: 会社レコードの第1住所番号フィールド (AN81) の値が使用される。
- B: 会社レコードの第2住所番号フィールド (AN82) の値が使用される。
- C: 会社レコードの第3住所番号フィールド (AN83) の値が使用される。
- D: 会社レコードの第4住所番号フィールド (AN84) の値が使用される。
- E: 会社レコードのファクタ/代替受取人フィールド (AN85) が使用される。
- F: 会社レコードの第5住所番号フィールド (AN86) の値が使用される。
- 住所録番号: 会社の住所録番号のかわりに使用する住所録番号を指定する。

たとえば、会社00001の計算書の作成で送金先をロックボックスとする場合、住所録システムのレコードにロックボックスを設定し、その住所録番号を会社00001の住所録レコードの住所録番号フィールドの1つに割り当てます。

2. 支払期日別計算書の印刷

請求書の支払期日別に計算書を印刷するかどうかを指定します。この処理オプションを選択すると、支払期日および通貨コード順に請求書が出力されます。有効値は次のとおりです。

ブランク: 支払期日別に計算書を印刷しない。

1: 支払期日別に計算書を印刷する。支払期日が変わるたびに新しい計算書が印刷されます。

3. 印刷プログラム

計算書の印刷に使用するプログラムの名前を指定します。有効な印刷プログラムのリストを表示するためのビジュアル・アシストを使用します。計算書データの再作成の印刷プログラム処理オプションを使用して、製造業のニーズに応える計算書を作成します。たとえば、クレジット・カードの計算書フォーマットを使用して印刷したり、手形を使用して計算書を印刷できます。

4. 印刷プログラムのバージョン

使用する計算書印刷プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

5. レター名

計算書に印刷する、あらかじめ定義されている文章を指定します。

6. レター・タイプ

「レター名」処理オプションで指定したレターのタイプを指定します。レター・タイプを指定しない場合、この処理オプションはブランクにしておきます。

更新

この処理オプションでは、基準日を使用して請求書の未決済金額を計算するかどうか、請求書および入金レコードの計算書番号を更新するかどうか、請求書または請求書支払項目ごとに売掛金通知実績明細レコード(F03B21)を1件ずつ作成するかどうかを指定します。

1. 基準日

前期間の計算書を作成する日付を指定します。特定の日付の計算書や当初作成した計算書とは異なる日付の計算書を顧客から求められた場合に便利です。

たとえば、数か月前からの計算書を作成する場合、計算書日付として使用する日付をこの処理オプションで指定すると、この日付と請求書の決済日付(入金日)が比較され、指定した基準日において請求書が未決済であったかどうか判断されます。請求書が未決済の場合、未決済金額が再計算され、計算書に印刷されます。現行の未決済金額に、元帳日付が基準日以降の、その請求書に適用されている入金額を加算して未決済金額が再計算されます。

以前に作成した前の期間の計算書を再度印刷するには、計算書の検討プログラム(P03B202)を使用します。

警告: 指定した日付時点で請求書が未決済であったかどうかを判断する処理には時間がかかります。このため、過去の特定の日付における計算書が必要でない場合は、この処理オプションを設定しないでください。基準日処理を実行するには、計算書データの再作成プログラム(R03B500X)のデータ選択で入金済の請求書を含める必要があります。また、データ選択でデータを制限して、特定の顧客に対する計算書を作成することもできます。

2. 計算書番号の更新

この処理オプションを使用して、複数の計算書に含まれる請求書の計算書番号を上書きするかどうかを指定します。たとえば、計算書123に含まれる未決済の請求書が再度計算書を実行したときもまだ未決済だった場合、新しい計算書番号がその請求書に割り当てられ、前回の番号は上書きされます。値は次のとおりです。

ブランク: すべての請求書レコードの計算書番号を更新する。

1: 「計算書番号」フィールド(CTL)がブランクの請求書レコードのみ計算書番号を更新する。

3. 請求書の集計

各請求書の支払項目レコードの他に、請求書の集計レコードをF03B21テーブルに作成するかどうかを指定します。このテーブルの情報を検討するには、計算書の検討プログラム(P03B202)を使用します。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書の支払項目レコードのみが作成される。

1: 請求書の支払項目レコードの他に、集計レコードが作成される。

注意: 計算書に請求書の集計情報を出力する場合は、使用する計算書印刷プログラム(R03B5001など)の該当する処理オプションを使用します。

計算書の印刷プログラム(R03B5001)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

この処理オプションでは、計算書に印刷する情報を指定します。

1. 年齢調べ情報の印刷

計算書に年齢調べ情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 年齢調べ情報を印刷しない。

1: 印刷する。

2. 取引集計の非表示

各計算書の一番下に取引の集計情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 集計情報を印刷する。

1: 集計情報を印刷しない。

3. 印刷する日付

計算書に印刷する日付を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 支払期日が印刷される。

1: 請求書日付が印刷される。

4. 計算書番号の印刷

各計算書の上部に計算書番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 計算書番号を印刷する。

1: 計算書番号を印刷しない。

5. 送金先住所の印刷

各計算書の上部に送金先住所を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 送金先住所を印刷しない。

1: 送金先住所を印刷する。

注意: 印刷する送金先住所は、計算書データの再作成プログラム (R03B500X) の該当する処理オプションで指定します。

6. 集計請求書の印刷

請求書ごとに集計して計算書に印刷するか、請求書の各支払項目を印刷するかを指定します。

ブランク: 請求書の各支払項目が計算書に印刷される。

1: 全支払項目が集計された請求書情報が計算書に印刷される。この処理オプションを1に設定する場合、計算書データの再作成プログラム (R03B500X) の該当する処理オプション (「更新」タブの「請求書の集計」) を適切に設定する必要があります。

計算書の利用

この項では、計算書の検討の概要と次の方法について説明します。

- 計算書の検討プログラム (P03B202) の処理オプションの設定
- 計算書の明細の検討
- 計算書の再印刷
- 計算書の再設定

計算書の検討について

計算書情報はシステムに保存されているので、計算書をオンラインで検討できます。これは、顧客が計算書について問い合わせた際に特に役立ちます。計算書の検討プログラム (P03B202) を利用すると、計算書をすぐに表示して顧客の問合せに対応できます。また、以前に作成された計算書を再印刷することもできます。

計算書情報を検討する場合、計算書に記録されている請求書と支払について検討できます。

計算書の検討では、次のような計算書情報を確認できます。

- すべての顧客の全計算書
- 特定の顧客の全計算書
- 特定の通知日付の計算書
- 特定の計算書の請求書および支払情報
- 計算書の集計情報 (関連付けられている年齢調べ情報など)

表示される情報は照会専用です。

計算書の検討では、F03B20テーブルおよびF03B21テーブルの情報を確認できます。これらのテーブルには、延滞通知に関する情報も格納されます。

計算書の再設定

印刷した計算書に最新の情報が含まれていない場合などに、計算書を再設定して計算書の内容を変更できます。この再設定では、請求書に対する支払情報、調整、変更などを再設定できます。たとえば、計算書の印刷後に入金があった場合、再設定を行って入金情報を含めた計算書を再印刷して顧客に送付できます。

再設定できるのは前回作成した計算書のみです。それ以前に作成した計算書を再設定しようとすると、エラー・メッセージが表示されます。

計算書の再設定では、計算書の検討プログラム (P03B202) の処理オプションで指定したバージョンの計算書/延滞通知のリセット・プログラム (R03B5015) が実行され、前回の処理前の状況に次のテーブルが再設定されます。

- F03B20
- F03B21
- F03B11

計算書に含まれる請求書の処理および印刷が行われたのが一度だけの場合、計算書番号 (CTL) と計算書日付 (SMTJ) はブランクに再設定されます。複数回この処理が行われている場合、CTL と SMTJ は前回処理されたときの値に再設定されます。

- F03B14

計算書番号と計算書日付がブランクに再設定されます。

- F03B112

計算書印刷フラグ (STPF) がブランクに再設定されます。

最新の計算書以外の計算書を改訂する必要がある場合は、計算書データの再作成プログラム (R03B500X) の「基準日」処理オプションを使用して新しい計算書を作成できます。

計算書の検討に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-------------|----------|--|---|
| 計算書の処理 | W03B202D | 「計算書/延滞通知処理」(G03B22)、「計算書の検討」 | 顧客計算書を検討します。 計算書番号を指定しない場合、顧客の延滞通知と計算書の両方が表示されます。計算書だけを表示するには、QBEローの「通知タイプ」フィールドに「ST」と入力します。 |
| 延滞通知の検討(詳細) | W03B201C | 「計算書の処理」フォームで計算書を選択し、「選択」をクリック、または「ロー」メニューの「検討」を選択します。 | 計算書の明細を検討します。 |
| 通知の要約 | W03B20B | 「延滞通知の検討(詳細)」フォームで、「フォーム」メニューから「連結」を選択します。 | 年齢調べ情報などの、計算書の集計情報を検討します。 計算書データの再作成プログラム(R03B500X)の処理オプションの設定に従って、請求書の年齢調べ情報が表示されます。 |
| 印刷情報 | W03B202J | 「計算書の処理」フォームで、「ロー」メニューの「印刷情報の変更」を選択します。 | 計算書を印刷する際に使用される情報を変更します。たとえば、計算書の再印刷に使用する印刷プログラムやバージョンを変更できます。 |

計算書の検討プログラム(P03B202)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

計算書通知リセット(R03B5015)バージョン

1. 計算書/延滞通知のリセット・プログラム(R03B5015)のバージョン

使用する計算書/延滞通知のリセット・プログラム(R03B5015)のバージョンを指定します。

この処理オプションを空白にすると、ZJDE0001が使用されます。

計算書の明細の検討

「計算書の検討」フォームにアクセスします。

請求書集計

請求書の支払項目の集計情報は、計算書データの再作成プログラム(R03B500X)の実行時に、対応する処理オプションが指定された場合にのみ、出力されます。

計算書の再印刷

「計算書の処理」フォームにアクセスします。

再印刷する計算書を選択し、「ロー」メニューの「再印刷」を選択します。

計算書の再設定

「計算書の処理」フォームにアクセスします。

計算書を再設定するには、次の手順に従います。

1. 再設定する計算書を選択し、「ロー」メニューの「リセット」を選択します。
該当する計算書のグリッド行に、再設定のマークが付けられます。
2. 計算書の選択を解除するには、マークされている計算書を選択して、「ロー」メニューの「リセット」を選択します。
3. 「閉じる」をクリックします。
「閉じる」をクリックすると、計算書/延滞通知のリセット・プログラム(R03B5015)が実行されます。
顧客の新しい計算書を再作成するには、計算書データの再作成プログラムを再実行する必要があります。

計算書/延滞通知の除去

この項では、計算書/延滞通知の除去の概要と次の方法について説明します。

- 計算書/延滞通知の除去プログラムの実行
- 計算書/延滞通知の除去プログラム(R03B5010)の処理オプションの設定

計算書/延滞通知の除去について

不要な計算書または延滞通知情報は削除できます。計算書/延滞通知の除去プログラムによって、F03B20テーブルおよびF03B21テーブルの計算書/延滞通知レコードが削除されます。除去されたデータは、別テーブルにアーカイブされません。削除したデータを保持する場合は、除去処理の前にテーブルのバックアップを取る必要があります。

データ選択で通知タイプを指定しないかぎり、計算書と延滞通知の両方が削除されます。

- 計算書のみを削除するには、通知タイプSTを指定します。
- 延滞通知のみを削除するには、通知タイプDLを指定します。

「除去日付」処理オプションおよび「月数」処理オプションで指定した値に基づいて、レコードが削除されます。これによって、適切な不要レコードのみが削除されます。これらの2つの処理オプションを組み合わせて使用する場合、「除去日付」処理オプションに入力された日付または「月数」処理オプションの値のどちらか古い方の日付を使用して、より少ない件数のレコードが削除されます。

注意: 除去プログラムでは、将来日付を持つレコードは削除されません。F03B20テーブルおよびF03B21テーブルのすべてのレコードを削除する場合は、データ・ファイル・ユーティリティの使用を検討してください。

計算書/延滞通知の除去プログラムの実行

「計算書/延滞通知処理」メニュー(G03B22)から「計算書/延滞通知の除去」を選択します。

計算書/延滞通知の除去プログラム(R03B5010)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

日付

この処理オプションでは、削除するレコードを指定します。また、テスト・モードと最終モードのどちらでプログラムを実行するかを指定します。

1. 除去日付

この処理オプションを使用して、「月数」処理オプションとあわせて使用して、F03B20テーブルおよびF03B21テーブルから削除するレコードを指定します。月数処理オプションの指定による削除対象レコード件数の方が少ない場合を除いて、指定した日付以前の通知日付を持つレコードがすべて削除されます。たとえば、通知日付を2008年12月31日と指定し、6か月分のデータを保持するように指定すると、削除するレコード数が少ない方の処理オプションが使用されます。この処理オプションをblankにすると、今日の日付が使用されます。

注意: 計算書レコードまたは延滞通知レコードのみを削除するには、データ選択で通知タイプ(DL: 通知、ST: 計算書)を指定します。

2. 月数

この処理オプションを使用して、「除去日付」処理オプションとあわせて使用して、F03B20テーブルおよびF03B21テーブルから削除するレコードを指定します。「除去日付」処理オプションの指定による削除対象レコード件数の方が少ない場合を除いて、指定した月数より古い通知日付を持つレコードがすべて削除されます。たとえば、6か月分のデータを保持するように指定し、通知日付に3か月前の日付を入力すると、通知日付が使用されます。

3. 最終モード

このプログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードでは、削除されるレコードのレポートの印刷のみが行われます。最終モードでは、レポートの印刷およびテーブルからのレコードの削除が行われます。値は次のとおりです。

blank: レポートの印刷のみが行われます。

1: レポートの印刷およびレコードの削除が行われます。

第 18 章

与信および回収管理

この章では、次の方法について説明します。

- 顧客勘定情報の更新
- 与信および回収処理のための顧客勘定の管理
- 勘定情報の検討
- 親/子勘定残高の検討
- 顧客勘定の処理
- 回収レポートの印刷
- 与信情報の検討と改訂
- 信用報告テープの作成

注意: フランスには、不良債権を管理するための国別機能が用意されています。

顧客勘定情報の更新

この項では、与信分析のリフレッシュ・プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 与信分析のリフレッシュ・プログラムの実行
- 与信分析のリフレッシュ (R03B525) の処理オプションの設定

与信分析のリフレッシュ・プログラムについて

顧客勘定の取引状況を効率よく分析するためには、まず最初に顧客勘定情報を更新する必要があります。そのためには、1日の始めか終わりに、与信分析のリフレッシュ・プログラム (R03B525) を実行します。これにより、常に最新の顧客勘定情報を照会して、与信および回収管理のための分析に役立てることができます。

与信分析のリフレッシュ・プログラムを実行すると、期日を過ぎているかどうかにかかわらず、与信/資金管理テーブル (F03B15) からすべての顧客の未決済残高が取り込まれ、「顧客取引残高照会」フォームに表示されます。

次の機能を実行するには、F03B15テーブルを更新するように設定された処理オプションを持つ与信分析のリフレッシュ・プログラムのバージョンを選択する必要があります。

- 親と子の両レベルで顧客別および会社別に未決済請求書情報を集計し、F03B15テーブルに書き込む。「顧客取引残高照会」または「親/子表示」のフォームでこの情報を検討し、顧客勘定の現在の状況を判断できます。

- 回収管理者による検討が必要な顧客勘定について、回収管理者にワークフロー・メッセージを送付する。たとえば、期日を過ぎている請求書に対して延滞利息金が科されたり、顧客に対して延滞通知が作成された場合などに、回収管理者にメッセージが送付されるように設定できます。
- 与信情報の検討が必要な顧客勘定について、与信管理者にワークフロー・メッセージを送付する。たとえば、顧客が与信限度額を超過したり、与信限度額が変更になった場合に、メッセージが送付されます。
- 「顧客マスターの改訂」フォームの「与信」タブにある与信メッセージを更新する。
- 外部機関による回収対象の請求書、および顧客レコードの「回収レポート」オプションを更新する。
- 規定に基づいて、顧客レコードの一時与信メッセージを更新する。
- 規定に基づいて、一時与信メッセージを与信メッセージの値にリセットする。

注意: リセット機能を有効にするには、データ選択で支払状況の値をPに指定する必要があります。このデータ選択が設定されたプログラムのバージョンを週に1回実行して、一時与信メッセージをリセットすることをお勧めします。未決済請求書を含むようにデータ選択を設定して再実行しないかぎり、顧客残高照会プログラムまたは親/子残高照会プログラムでは現在の請求書情報は表示されません。

- 処理が完了したことを通知するワークフロー・メッセージを作成する。

技術上の考慮事項

与信分析のリフレッシュ・プログラムを実行すると、各顧客に対し、少なくとも2つのレコードが与信/資金管理テーブル(F03B15)に作成されます。たとえば、会社00001の顧客1234に対して1件の請求書を入力した場合、テーブルに次のレコードが作成されます。

- 請求書が入力された会社(RTCO = 00001)の子情報(RTPART = C)について1レコード
 - 会社00000の子情報(RTPART = C)について1レコード
- 会社00000のレコードを使用して、すべての会社レコードの情報が合計されます。

複数の会社に対する請求書を入力した場合、さらに各会社に対して1件ずつレコードが作成されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 売掛管理固定情報を使って、顧客の請求書情報の年齢調べ方法を指定します。たとえば、支払が滞っているかどうかや、延滞日数を判断する基準として、次の情報を定義します。
- 年齢調べ方法
- 年齢調べの基準日
- 年齢調べカテゴリの開始と終了

参照: [第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定」、「売掛管理固定情報の設定」](#)、6ページ

- F03B15テーブルを更新するための処理オプションがブランクに設定されていることを確認します。

与信分析のリフレッシュ・プログラムの実行

「与信/回収管理」メニュー(G03B15)から「与信分析のリフレッシュ」を選択します。

与信分析のリフレッシュ(R03B525)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

年齢調べ

この処理オプションでは、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムで顧客の請求書の年齢調べを行う方法を指定します。たとえば、支払が滞っているかどうかや、延滞日数を判断する基準として、次の情報を定義します。

- 年齢調べ方法
- 年齢調べの基準日
- 年齢調べカテゴリの開始と終了

処理オプションで指定した基準日、日付タイプ、および年齢調べ方法に基づいて、各未決済請求書に割り当てられる年齢調べカテゴリが決定されます。延滞方針の設定されている年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられると、該当の処理オプションが有効な場合、延滞通知が作成されます。

- 1. 売掛管理会社固定情報** 売掛管理固定情報と年齢調べ処理オプションのどちらから年齢調べ設定を読み込むかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 年齢調べの処理オプションで指定された値を使用する。

1: 売掛管理固定情報で指定された値を使用する。売掛管理固定情報の基準日フィールドがブランクの場合、年齢調べ日付処理オプションの値が使用されます。年齢調べ日付処理オプションもブランクの場合には、システム日付が使用されます。このオプションを選択すると、処理オプションの2から12までは無視されます。

2. 年齢調べ日付

未決済請求書を割り当てる年齢調べカテゴリの決定に使用する日付を指定します。入力した日付と請求書の日付(「日付タイプ」処理オプションで指定された日付)が比較され、請求書の経過期間が計算されます。

この処理オプションをブランクにすると、未決済請求書の年齢調べにはシステム日付が使用されます。

3. 日付タイプ

年齢調べカテゴリの決定に使用する請求書の日付を指定します。ここで指定した日付と年齢調べ日付処理オプションの値を比較して、請求書の支払期日超過日数が計算されます。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書の支払期日を使用する。

- 1: 請求書日付を使用する。
- 2: 元帳日付を使用する。
- 3: 計算書日付を使用する。

4. 年齢調べ方法(1、2、3)

請求書の割当に使用する年齢調べカテゴリ指定します。「年齢調べ日付」処理オプションで指定した日付と、「日付タイプ」処理オプションで指定した値によって各請求書の経過期間が計算され、このコードで指定した年齢調べカテゴリに割り当てられます。値は次のとおりです。

1: 経過日数。年齢調べカテゴリ1から年齢調べカテゴリ8の処理オプションで指定された年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられます。年齢調べカテゴリには、自由に日数を設定できます。

2: 会計期間。会社レコードに割り当てられた期間パターンによって定義されている会計期間が、年齢調べカテゴリとして使用されます。

5. 年齢調べカテゴリ1 から 12. 年齢調べカテゴリ8

3: カレンダー。各カレンダー月が年齢調べカテゴリとして使用されます。

これらの処理オプションを使用して、年齢調べカテゴリの間隔を指定します。

注意: 延滞通知に将来の年齢調べカテゴリは印刷されません。

13. 仮受金の年齢調べ

仮受金に対する年齢調べ方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仮受金の年齢調べを行わない。仮受金の金額は、現行カラムを含むどの年齢調べカテゴリにも含まれません。

1: 「年齢調べ」タブの「日付タイプ」処理オプションで指定した年齢調べの方法を使用する。

2: すべての仮受金に対し、現行の年齢調べカラムを使用する。

3: 顧客の売掛金勘定の中で最も古い未決済請求書または未決済請求書のグループに対して仮受金を消し込む。たとえば、年齢調べカテゴリ1 - 30、60 - 90、150 - 180に含まれる請求書がある場合、まず150 - 180の年齢調べカテゴリで仮受金を消し込みます。このカテゴリのすべての請求書が支払済になったら、次に60 - 90の年齢調べカテゴリですべての請求書が支払済になるまで仮受金の消込を行います。

14. マイナス金額の年齢調べ

金額がマイナスの年齢調べ方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 返金請求書に対する年齢調べを行わない。

1: 「年齢調べ」タブの「日付タイプ」処理オプションで指定した年齢調べの方法を使用する。

2: すべての返金請求書に対し、現在の年齢調べカラムを使用する。

3: 顧客の売掛金勘定の中で最も古い未決済請求書または未決済請求書のグループに対して返金請求書を消し込む。たとえば、年齢調べカテゴリ1 - 30、60 - 90、150 - 180に含まれる請求書がある場合、まず150 - 180の年齢調べカテゴリで返金請求書を消し込みます。このカテゴリのすべての請求書が支払済になったら、次に60 - 90の年齢調べカテゴリですべての請求書が支払済になるまで返金請求書の消込を行います。

更新

この処理オプションでは、与信/資金管理テーブル (F03B15) を更新するかどうかを指定します。

1. 与信/資金管理テーブル (F03B15) の更新

この処理オプションを使って、与信/資金管理テーブル (F03B15) の未決済請求書および経過金額の情報を更新します。値は次のとおりです。

ブランク: F03B15テーブルを更新する。

1: F03B15テーブルを更新しない。

延滞通知

この処理オプションでは、延滞通知の作成方法を指定します。作成モード (テスト・モードまたは最終モード)、バージョン、および送金先住所などのオプションを指定できます。

1. 延滞通知の作成

延滞通知の作成方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 延滞通知を作成しない。

0: テスト・モード。延滞通知の送付対象となるすべての顧客と、顧客ごとに支払が滞納になっている請求書のレポートが作成されます。

1: 最終モード。対象となる各顧客に対して延滞通知が作成され、次のテーブルが更新されます。

- F03B20
- F03B21
- F03B11

2. 通知印刷プログラム

延滞通知の作成時に実行する延滞通知印刷プログラムを指定します。標準プログラムから選択することも、カスタム印刷プログラムを作成することもできます。使用可能な標準プログラムは次のとおりです。

R03B20: 延滞通知

R03B21: 階層化延滞通知

このフィールドをブランクにすると、R03B20が使用されます。

注意: R03B20とR03B21の両方に処理オプションがあります。

3. バージョン

「通知印刷プログラム」処理オプションで指定した延滞通知プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

4. 送金先住所

延滞通知に出力される送金先住所を指定します。顧客は、送金先住所に対して支払を行います。この住所は、住所録マスター(F0101)に設定されている、請求書で指定した会社の住所録レコードから取得されます。値は次のとおりです。

ブランク: F03B11の請求書レコードで指定されている会社の住所を使用する。会社固定情報テーブル(F0010)から会社の住所録番号が取得されます。

注意: すべての会社に対する延滞通知をひとまとめにして作成する場合、顧客に対して未決済請求書を持つ会社の中で会社番号が一番小さい会社の住所が使用されます。たとえば、会社00001、00050、00070に該当の顧客からの未払いの請求書がある場合、会社00001の住所が使用されます。

A: 会社レコードの第1住所番号フィールド(AN81)の値が使用される。

B: 会社レコードの第2住所番号フィールド(AN82)の値が使用される。

C: 会社レコードの第3住所番号フィールド(AN83)の値が使用される。

D: 会社レコードの第4住所番号フィールド(AN84)の値が使用される。

E: 会社レコードのファクタ/代替受取人フィールド(AN85)が使用される。

F: 会社レコードの第5住所番号フィールド(AN86)の値が使用される。

住所録番号: 会社の住所録番号のかわりに使用する住所録番号を指定する。たとえば、会社00001に対して通知を作成し、送金先をロックボックスとする場合、住所録システムのレコードにロックボックスの住所を設定し、そのロックボックスの住所録番号を会社00001の住所録レコードの住所録番号フィールドの1つに割り当てます。そして、この処理オプションで、どの住所録番号を使用するかを指定します。

注意: 延滞通知プログラム (R03B20) または階層化延滞通知プログラム (R03B21) の処理オプションで、送金先住所を印刷しないように設定できます。

5. 会社の集計

通知の作成方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 顧客別に、各会社に対して個別に通知を作成する。

1: 顧客別に、会社を集約した通知を作成する。

6. 重要度の決定

年齢調べカテゴリまたは請求書の重要度レベルのどちらに基づいて延滞通知指示 (方針) を検索するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 年齢調べカテゴリを使用する。

1: 送付された延滞通知の合計数で重要度レベルを決定する。たとえば、延滞通知の送付回数が2回の場合、年齢調べカテゴリ/重要度フィールドに「3」が設定されている延滞通知方針が検索されます。

7. 非延滞請求書の表示

この処理オプションを使用して、延滞通知に印刷される請求書明細を制御します。値は次のとおりです。

ブランク: 延滞請求書のみを詳細に表示する。与信は表示されません。

1: 与信を含むすべての請求書を詳細に表示する。

延滞利息金

この処理オプションでは、延滞利息金の作成方法を指定します。作成モード (テスト・モードまたは最終モード)、バージョン、利息金レコードおよびその通貨に割り当てる支払条件などのオプションを指定できます。

1. 延滞利息金レポートの印刷

延滞利息金の作成方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 延滞利息金を作成しない。

0: テスト・モード。延滞利息金明細が作成されます。この明細は、最終モードでプログラムを実行する際に作成される延滞利息金の一覧です。更新されるテーブルはありません。

1: 最終モード。売掛金元帳テーブル (F03B11) に利息金の金額で請求書伝票 (伝票タイプ RF) が作成されます。延滞利息金仕訳 (F03B22) および延滞利息金仕訳明細 (F03B23) の各テーブルにもレコードが作成され、延滞利息金明細が印刷されます。売掛金元帳 (F03B11) と入金明細 (F03B14) の各テーブルの前回利息金日付が、利息が作成された日付で更新されます。延滞処理方針に定義されている延滞利息金の間隔日数が経過するまで、同一の請求書に対する次の延滞利息金は発生しません。

2. 延滞利息金処理のバージョン

延滞利息金の作成時に使用される延滞利息金明細プログラム (R03B22) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

注意: 延滞利息金明細プログラムには、関連付けられた処理オプションがあります。

3. 元帳日付

延滞利息金 (RF) 請求書レコードに割り当てる元帳日付を指定します。最終モードで延滞利息金を処理する際に、これらの請求書が作成されます。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。

4. 延滞利息金の計算

この処理オプションを使って、延滞利息金プログラム(R03B221)を実行します。このプログラムにより、支払期日後に支払われた請求書の延滞利息金が作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: 支払期日後に支払われた額に対する利息金を計算しない。

1: 支払期日後に支払われた額に対する利息金を計算する。

注意: この処理オプションの設定に加えて、処理方針で期日後入金に対する延滞利息金の計算オプションを有効に設定しておく必要があります。

5. 延滞支払処理のバージョン

支払期日後に支払われた請求書に対する延滞利息金の作成に使用する延滞利息金プログラム(R03B221)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

注意: 延滞利息金プログラムには、関連付けられた処理オプションがあります。

6. 支払条件コード

延滞利息金(RF)請求書レコードに割り当てる支払条件コードを指定します。

7. 延滞利息金の通貨

延滞利息金請求書レコード(伝票タイプRF)の作成時に使用される通貨を指定します。為替レート・テーブル(F0015)の最新の為替レートを使って、指定通貨の延滞利息金が計算されます。値は次のとおりです。

1: 会社。請求書に出力された会社割り当てられている通貨で延滞利息金を作成します。

2: 顧客。業種別顧客マスター(F03012)の顧客レコードの住所録通貨コード・フィールド(CRCA)に設定された通貨で延滞利息金を作成します。

3: 請求書。請求書入力時に請求書に割り当てられた通貨で延滞利息金を作成します。

注意: この処理オプションで選択した設定にかかわらず、各会社に対して通貨コードごとに1件の延滞利息金請求書レコードが作成されます。たとえば、会社00001と会社00003にカナダ・ドルの通貨コードが割り当てられている場合、00001と00003のそれぞれに対してカナダ・ドル建ての延滞利息金請求書が1件ずつ作成されます。

与信および回収処理のための顧客勘定の管理

この項では、与信および回収処理の概要と次の方法について説明します。

- 顧客取引活動ログの印刷
- 顧客取引活動ログ・レポート(R03B31)の処理オプションの設定
- 顧客取引活動の検討
- 顧客取引活動の追加
- 顧客取引活動ログの除去プログラムの実行

関連項目:

第 6 章、「与信/回収管理の設定」、「活動コードの設定」、90ページ

第 19 章、「延滞通知と延滞利息金の処理」、413ページ

第 20 章、「顧客分析のための売掛管理統計の更新」、429ページ

与信/回収処理について

与信分析のリフレッシュ・プログラム (R03B525) を実行すると、最新の与信および回収情報をオンラインで検討して与信および回収活動を行うことができます。与信限度額を超過した顧客、与信の検討が必要な顧客、または勘定残高の支払期日が過ぎている顧客に関してワークフロー・メッセージが送信されるので、JD Edwards EnterpriseOne ワークフロー管理システムを使用して顧客勘定を管理するか、または「与信/回収管理」メニュー (G03B15) からプログラムを実行できます。

回収処理のために顧客勘定を管理する際は、このシステムを使って顧客の連絡先をトラッキングできます。たとえば、顧客 XYZ に支払期日を過ぎた残高がある場合、請求担当者に連絡して支払が行われたかどうか、またはいつ支払が行われるかを確認できます。回収活動の内容と支払予定期日をシステムに記録し、支払がその予定期日までに行われなかった場合に再度顧客勘定を検討するように促すメッセージを作成します。

同様に、与信限度額を超過した顧客、または顧客レコードに設定した与信検討日付を過ぎた顧客を検討します。

顧客取引活動ログ

与信/回収処理の一環として、顧客取引活動ログ・プログラム (P03B31) を使用して与信/回収処理の履歴を検討し、顧客の支払のパターンと傾向を確認できます。顧客取引活動ログを使用すると、計算書、延滞通知、延滞利息金を作成された日付や、与信限度が変更されたり検討されたりした日付など、顧客に関連するすべての与信および回収活動の一覧を検討できます。

顧客勘定に関連付けられた活動一覧から、特定の活動の詳細情報を表示して検討できます。たとえば、与信限度額の超過を示すログがあった場合、与信検討情報にアクセスして、その顧客の与信限度超過額と当初の与信限度額を検討できます。

延滞処理や回収検討が何度も行われている顧客勘定には注意が必要です。逆に、顧客取引活動ログがほとんど記録されていない顧客勘定の場合、その顧客の支払状況は良好と考えられます。

顧客取引記録は、活動日付別および優先順位別に表示されます。

顧客に関連した与信および回収活動のオンラインでの検討に加えて、活動ログの印刷プログラム (R03B31) を使って活動ログを印刷できます。これにより、ハード・コピーを使用して顧客の取引活動を検討、および管理することが可能です。データ選択を使用して、特定の顧客または活動タイプに限定したレポートを印刷できます。また、データ順序を変更して、活動タイプまたは活動日付別にレポートを印刷することもできます。

活動ログに関する情報は、顧客取引活動ログ・テーブル (F03B31) に保管されます。

顧客取引活動ログの削除

期間全体に対して作成された取引活動メッセージや、特定の顧客または活動に対するすべてのメッセージを削除する必要がある場合、顧客取引活動ログを消去できます。これにより、個々のレコードを手作業で選択することなく、取引活動ログから活動メッセージを完全に削除できます。

顧客取引活動ログの除去プログラム (R03B312) には、指定した日付時点のすべてのレコードを消去できる処理オプションがあり、データ選択を使用して除去対象を特定の顧客や活動タイプに限定することもできます。

消去された取引活動メッセージは別のテーブルに保存されるわけではありません。除去対象レコードは F03B31 テーブルから完全に削除されます。

事前設定

与信分析のリフレッシュ・プログラム (R03B525) を実行して、顧客勘定の情報を更新します。

与信および回収処理のための顧客勘定の管理に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------|---------|-------------------------------|--|
| 顧客取引活動ログ | W03B31A | 「与信/回収管理」(G03B15)、「顧客取引活動ログ」 | 顧客取引活動メッセージを検討および削除します。 顧客活動を削除するかわりに、除去できます。 |
| 活動メッセージ | W03B31G | 「顧客取引活動ログ」フォームで、「追加」をクリックします。 | 取引活動メッセージを手動で追加します。 新たに作成した活動コードの活動メッセージは自動的に処理されません。新規の活動コードを使用する活動に対しては、活動メッセージを手動で追加する必要があります。 |

顧客取引活動ログの印刷

「与信/回収管理」メニュー (G03B15) から「活動ログの印刷」を選択します。

活動ログ・レポート (R03B31) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

添付

この処理オプションでは、レポートに添付情報を印刷するかどうかを指定します。

1. 添付

レポートに、取引活動と関連する添付情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 添付情報を印刷しない。

1: 添付情報を印刷する。

顧客活動の検討

「顧客取引活動ログ」フォームにアクセスします。

取引活動に関する情報を検討するには、活動を選択して、「選択」をクリックします。活動メッセージに対応したフォームが表示されます。

会社

活動を検討する会社を入力します。会社に関係なく顧客の全活動を検討する場合は、「*」を入力します。

活動日付 活動が行われた日付、または注意を促す日付（約束活動の場合）が表示されます。

約束活動（活動タイプ30）の場合、通常、活動日付は、将来の日付を含む備忘日付です。このため、約束活動を表示するには、「日付範囲」の終了日を指定するフィールドに将来の日付を設定しなければならない場合があります。

顧客活動の追加

「活動メッセージ」フォームにアクセスします。

活動タイプ 活動を分類するコードを入力します。

活動日付 活動が行われた日付、または注意を促す日付（約束活動の場合）を入力します。

活動優先度 「顧客取引活動ログ」フォームで活動を表示する順番を管理する番号を入力します。

テキスト・ボックス 活動に関するコメントまたはメッセージを入力します。

顧客取引活動ログの除去プログラムの実行

顧客取引活動ログの消去を行う前に、顧客取引活動ログ・テーブル（F03B31）のバックアップを作成してください。

「与信/回収管理」メニュー（G03B15）から「顧客取引活動ログの除去」を選択します。

顧客勘定情報の検討

この項では、顧客勘定の残高情報と取引状況集計の概要、および次の方法について説明します。

- 顧客取引残高照会を使用した顧客勘定情報の検討
- 特定日付時点の顧客勘定情報の検討
- 顧客取引状況集計を使用した顧客勘定の検討

顧客勘定の残高情報について

回収目的のために顧客勘定を管理する際、意思決定や顧客分析に役立つ様々なタイプの売掛管理情報にすばやくアクセスし、検討することが可能です。たとえば、特定の日付における顧客勘定の未決済残高や、支払期日を過ぎている残高額を確認できます。

与信分析のリフレッシュ・プログラム（R03B525）を実行すると、F03B15テーブルの顧客勘定情報が更新され、「顧客取引残高照会」フォームに顧客および会社別にレコードが表示されます。顧客勘定情報は会社順に表示されます。会社00000のレコードは、その他のすべての会社レコードの合計を表します。

未決済金額は、次のフィールドの金額を合計して計算されます。

- 期限超過金額
- 未充当金額

- 期日前請求額
- 赤伝金額

顧客勘定の残高情報を検討する際、最後に与信分析のリフレッシュを実行した時点の取引状況が表示されますが、特定の日付を入力して年齢調べ情報を再計算し、オンライン表示することもできます。たとえば、今日の日付を指定して、今日時点の最新の顧客勘定情報を検討できます。

取引状況集計について

「顧客取引状況集計」を使用して、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの様々なテーブルに保管された関連情報を検討し、与信および回収活動の管理に役立てます。次の表に情報ソースを示します。

| テーブル | フィールド |
|----------------------|--|
| 売掛金統計サマリー (F03B16S) | <ul style="list-style-type: none"> • 初回請求書日付 • 前回請求書日付 • 前回充当金額 • 前回支払日付 • 支払までの平均日数 • 遅延支払額のパーセント • 最高残高 • 最高残高日付 |
| 与信/資金管理テーブル (F03B15) | <ul style="list-style-type: none"> • 与信限度超過額 • 基準日 • 未決済 • 期限超過 • 未充当 • すべての年齢調べカテゴリ |
| 業種別顧客マスター (F03012) | <ul style="list-style-type: none"> • 顧客レコード設定日 • 通貨コード • 与信限度額 • 次回与信検討日 • 支払条件 • 一時与信メッセージ |
| その他のフィールド | <ul style="list-style-type: none"> • 連絡先 タイプ・コードがBの顧客に対して人名録レコードに設定されている名前が表示されます。 • 市外局番と電話番号 連絡先に設定された電話番号が表示されます。 |

顧客勘定情報の検討に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|------------|----------|--|--|
| 顧客取引残高照会 | W03B218B | 「与信/回収管理」(G03B15)、「顧客残高照会」 | 勘定の情報を検討します。 |
| リアルタイム年齢調べ | W03B218E | 「顧客取引残高照会」フォームで顧客勘定を選択し、「ロー」メニューの「リアルタイム年齢調べ」を選択します。 | 特定日付時点の顧客勘定情報を検討します。 |
| 顧客取引状況集計 | W03B218C | 「顧客取引残高照会」フォームで、顧客勘定を選択して「選択」をクリックします。 | JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの様々なテーブルに保管された関連情報を検討します。 |

顧客取引残高照会を使用した顧客勘定情報の検討

「顧客取引残高照会」フォームにアクセスします。

顧客取引残高照会 - 顧客取引残高照会

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

回収管理者: *
与信管理者: *
会社番号: *
顧客No.: 3333 Continental Incorporated

☐ 親表示する取引
☐ 処理済み
☒ 未処理
☐ すべて

レコード 1-3

| 顧客No. | 名称 | 会社 | 期限超過金額 | 未決済金額 | 与信限度額 | 与信限度超過額 | 未充当金額 |
|-------|--------------------------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 3333 | Continental Incorporated | 00000 | 47,824.75 | 84,910.69 | 25,000.00 | 59,910.69 | |
| 3333 | Continental Incorporated | 00001 | 46,001.00 | 83,086.94 | 25,000.00 | 58,086.94 | |
| 3333 | Continental Incorporated | 00075 | 2,858.59 | 2,858.59 | 39,185.58 | | |

「顧客取引残高照会」フォーム

表示する取引

表示する取引を、約束メモ・メッセージを入力済(処理済)の取引に限定するか、未入力(未処理)の取引に限定するか、またはすべての取引を表示するかを指定します。

注意: 00000以外の会社については、金額は各会社レコードに割り当てられた通貨で表示されます。会社00000については、顧客レコードの住所録通貨コード・フィールド(CRCA)に割り当てられた通貨で金額が表示されます。

特定の日付時点における顧客勘定情報の検討

「リアルタイム年齢調べ」フォームにアクセスします。

顧客取引残高照会 - リアルタイム年齢調べ

顧客取引残高照会

リアルタイム年齢調べ

OK(O)

取消(L)

フォーム(F)

前

次

ツール(T)

住所No.

3333

Continental Incorporated

会社

00000

年齢調べ基準日

2005/06/30

合計

未決済金額

84,910.69

延滞金額

47,824.75

未充当金額

年齢調べ

将来

2,645.26

現行

34,440.68

1 - 30

21,764.86

31 - 60

26,059.89

61 - 90

91 - 120

121 - 150

151 - 999

超過 999

「リアルタイム年齢調べ」フォーム

特定の日付時点における顧客の取引情報を検討するには、次の手順に従います。

1. 「年齢調べ基準日」フィールドに値を入力します。
2. 「フォーム」メニューの「再計算」を選択します。入力した日付を基準にして再計算された情報が表示されます。

注意: 「リアルタイム年齢調べ」フォームで「OK」をクリックすると、「顧客取引残高照会」フォームに新しい年齢調べ情報が表示されますが、F03B15テーブルは更新されません。「顧客取引残高照会」フォームで再度照会を行うと、再計算前の情報が表示されます。

3. 「取消」をクリックします。

顧客取引状況集計を使用した顧客勘定の検討

「顧客取引状況集計」フォームにアクセスします。

顧客取引残高照会 - 顧客取引状況集計

顧客取引残高照会 顧客取引状況集計

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

顧客No. 3333 Continental Incorporate 親

会社 00000 Worldwide Company

顧客設定日 1998/10/12 前回支払金額 24.75-

初回請求書日付 2004/01/04 前回支払日 2005/08/10

前回請求書日付 2005/08/31 通貨コード USD

請求先/連絡先 Geoff Allen

市外局番 電話番号

統計

支払までの平均日数 8.506059658 最高残高 129,376.30

遅延支払額の比率(%) 98.92 最高残高日付 2005/05/31

与信

与信限度額 25,000.00 与信限度超過金額 59,910.69

支払条件 001 次の与信検討日

メッセージ

与信警告

前回活動

未決済

年齢調べ日付 2005/06/30

合計

未決済 84,910.69

延滞金額 47,824.75

未充当

年齢調べ

将来 2,645.26 F

現行 34,440.68 C

1 - 30 21,764.86 1

31 - 60 26,059.89 2

61 - 90 3

91 - 120 4

121 - 150 5

151 - 999 6

超過 999 7

「顧客取引状況集計」フォーム

年齢調べカテゴリの右側にあるボタンをクリックして、各年齢調べカテゴリを構成する請求書支払項目を確認します。「売掛金元帳照会の処理」フォームに請求書が表示されます。

注意: 親別に取引情報を検討するように指定している場合には、請求書支払項目の確認はできません。「親」チェックボックスが選択されている場合、年齢調べカテゴリの右側にあるボタンは使用できません。

親/子勘定残高の検討

この項では、親/子勘定残高の概要と、親勘定に対する子勘定および関連する孫勘定を表示する方法について説明します。

親/子勘定残高について

顧客勘定を検討する際、親勘定とそれに関連する子勘定の残高情報を検討できます。たとえば、子勘定の未決済合計金額を検討したり、子勘定が割り当てられた与信限度額を超過しているかどうかなどを調査したりすることが可能です。

親勘定の残高を検討するよう指定している場合、表示される情報は直下の子勘定に制限されません。孫、ひ孫などの勘定残高も参照可能です。親勘定の未決済合計金額には、関連する子勘定の残高すべてが含まれます。

親/子残高照会プログラム(P03B151)では、ツリー構造を使って親/子関係が表示されます。F03B15テーブルに保管された情報が使用されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「顧客マスターの改訂」フォームで必要な親/子関係を設定します。
- 住所録からの売掛金元帳の更新プログラム (P03B802) を実行して、売掛金元帳 (F03B11) レコードの親番号に対する変更を更新します。

親/子勘定残高の検討に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-------|----------|-------------------------------------|--|
| 親/子表示 | W03B151A | 「与信/回収管理」 (G03B15)、「親/子残 高照会」 | 親勘定に対する子勘定お よび関連する孫勘定情報 を検討します。 00000以外の会社について は、金額は各会社レコード に割り当てられた通貨で表 示されます。会社00000に ついては、顧客レコードの 住所録通貨コード・フィー ルド (CRCA) に割り当て られた通貨で金額が表 示されます。 |

親勘定に対する子勘定および関連する孫勘定情報の表示

「親/子表示」フォームにアクセスします。

親勘定に対する子勘定や関連する孫勘定を表示するには、「住所No.」の下に表示された該当するファイル・フォルダの左にある「+」ボタンをクリックします。

顧客勘定の処理

この項では、顧客勘定の回収処理とワークフローを使った顧客勘定管理の概要、および次の方法について説明します。

- 顧客取引残高照会を使用した顧客勘定の処理
- ワークフロー管理を使用した顧客勘定の処理

顧客勘定の回収処理について

顧客取引残高照会プログラム (P03B218) を使用して、顧客勘定の回収処理を行います。顧客勘定を処理する際、連絡先、連絡日付、支払約束の条件などの取引活動を詳細に記した約束メモ・メッセージを入力します。約束メモ・メッセージを入力することで、回収を促す通知、顧客との交信記録、および将来の活動を効率的に管理できます。

約束メモ・メッセージを入力する際、備忘日付も入力します。備忘日付が過ぎるまですべてのメッセージが保留されます。備忘日付に基づき、顧客勘定に注意を払うよう喚起するワークフロー・メッセージが作成されます。

次の各項目に該当する場合にのみ、顧客勘定は処理済とみなされます。

- 約束メモを入力した場合（活動タイプ30の場合のみ）
- 顧客勘定が備忘日付を迎えた場合
- 与信分析のリフレッシュ・プログラムを実行した場合

「顧客取引残高照会」フォームの「処理済み」オプションを使用して、処理済の取引をいつでも表示できます。

顧客の請求書が入力された各会社の取引レコードの他に、すべての会社の合計を示す会社00000の集計レコードが表示されます。顧客のすべての取引を処理するには、各会社の取引すべてを処理する必要があります。会社00000の取引を処理してもその顧客のすべての会社の取引が処理されるわけではありませんが、会社00000を処理することで、その顧客の会社すべてが処理済であることを示すことができます。たとえば、会社00000のレコードだけを検索して、対象レコードのみを処理できます。

注意: 顧客残高照会プログラムではなく顧客取引活動ログ・プログラムから直接約束メモ・メッセージを入力した場合でも、取引は処理済とみなされます。

ワークフローを使った顧客勘定の管理について

与信および回収の目的で顧客取引情報を管理する上で、早急な対処を要する取引に関連付けられたイベントについて通知を受ける必要があります。たとえば、顧客の支払が滞り、期限経過の請求書に対して延滞利息金を科すか、または延滞通知を作成するかを決める必要がある場合などに、回収管理者は通知を受ける必要があります。

このような通知機能を実現するために、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムではJD Edwards EnterpriseOneワークフロー管理システムに複数の待ち行列が用意されていて、特定の売掛管理のタスクに関するメッセージを受信したり、それに対して返信したりすることができます。これらの自動メッセージから該当するアプリケーションへアクセスし、処理を進めることができます。これにより、与信管理者や回収管理者は、顧客勘定の処理に必要なタスクを効率的に遂行できます。

売掛管理システムには次の待ち行列が設定されており、与信分析のリフレッシュ・プログラムにより作成された与信および回収のワークフロー・メッセージを円滑に処理できます。

| 待ち行列 | 用途 |
|------|--|
| 回収管理 | <p>回収上の理由から、回収管理者に検討の必要がある顧客勘定を通知する警告メッセージのための待ち行列です。この待ち行列内のメッセージは、顧客に対して設定されている延滞処理方針に基づいて自動作成されたものです。回収には、次のメッセージが使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 回収の検討が必要 • 外部回収機関推奨 <p>支払が滞っている顧客勘定に対してなんらかの処置が必要かどうかを判断する基準となるルールは、延滞処理方針で定義します。具体的には、延滞利息金や延滞通知の作成、または顧客勘定に要検討のフラグを立てる処理などがあります。</p> |

| 待ち行列 | 用途 |
|---------|--|
| 与信管理 | <p>この待ち行列は、顧客勘定が与信限度額を超過した場合、与信限度額が変更された場合、または与信検討日付が過ぎた場合に、与信管理者に警告を発します。</p> <p>与信管理者は、受信したワークフロー・メッセージから「与信情報の照会」フォームにアクセスし、顧客の与信限度額を検討および更新できます。</p> |
| 延滞通知承認 | <p>この待ち行列により、回収管理者は自動生成された延滞通知を、顧客への送付前に確認できます。</p> <p>回収管理者は、受信したワークフロー・メッセージから詳細情報にアクセスし、通知を承認または却下できます。メッセージとともに、通知金額および支払期日を過ぎている金額の合計が保管されます。</p> |
| 延滞利息金承認 | <p>この待ち行列により、回収管理者は、支払期日を過ぎた顧客勘定の残高に対して計算された延滞利息金を検討できます。</p> <p>与信管理者は、受信したワークフロー・メッセージから詳細情報へアクセスし、延滞利息金を承認または却下できます。メッセージとともに、延滞利息金額および支払期日を過ぎている金額の合計が保管されます。</p> |
| 支払約束 | <p>この待ち行列は、備忘日付に基づいて、顧客勘定に対して入力された約束メモ・メッセージを与信および回収管理者へ通知します。たとえば、約束メモ・メッセージとして、支払期日を過ぎている請求書や予定支払日に関して回収管理者と顧客の間で交わされた会話などが記録されます。</p> <p>ワークフロー・メッセージから直接約束メモ・メッセージにアクセスして、メッセージは更新できません。メッセージの更新には、「顧客取引活動ログ」フォームを使用します。</p> |

顧客勘定に備忘メッセージはあるが、期日超過の残高がない場合には、その取引は検討対象として表示されません。支払期日超過の残高が支払われると、その取引は決済済とみなされます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Foundation Guide

顧客勘定の処理に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------|----------|--|---|
| 顧客取引活動ログ | W03B31A | 「与信/回収管理」(G03B15)、「顧客残高照会」 「顧客取引残高照会」フォームで顧客勘定を選択し、「ロー」メニューの「支払約束」を選択します。 | 「活動メッセージ」フォームで顧客勘定を処理し、このフォームに戻ったら、「検索」をクリックしてフォームに表示される顧客勘定の情報をリフレッシュしてください。 注意: 金額フィールドは、延滞通知や延滞利息金など、支払約束以外の活動に使用されます。これらのフィールドは、ブランクのままにしておくことも、または必要に応じて入力することもできます。 |
| 活動メッセージ | W03B31G | 「顧客取引活動ログ」フォームで「追加」をクリックします。 | 連絡先、連絡日付、支払約束の条件などの取引活動を詳細に記した約束メモ・メッセージを入力して、顧客勘定の回収処理を行います。 |
| ワーク・センター | W012503F | 「ワークフロー管理」(G02)、「従業員ワーク・センター」 | ワークフロー管理を使って、顧客勘定の処理を行います。 |

顧客取引残高照会を使用した顧客勘定の処理

「活動メッセージ」フォームにアクセスします。

活動項目タイプ 活動項目タイプ30が表示されます。顧客勘定の処理を行うには、この活動項目タイプを使用する必要があります。

活動日付 与信分析のリフレッシュの実行時に使用される備忘日付を入力します。顧客勘定は、備忘日付まで処理済として更新されます。備忘日付以降に与信分析のリフレッシュを実行すると、顧客勘定は未処理状況に戻り、再び検討することが可能になります。

活動優先度 「顧客取引活動ログ」フォームで活動を表示する順番を管理する番号を入力します。

テキスト・ボックス 約束メモ・メッセージの内容を入力します。

ワークフロー管理を使用した顧客勘定の処理

「ワーク・センター」フォームにアクセスします。

ワークフロー管理を使用して顧客勘定を処理するには、次の手順に従います。

1. 与信および回収管理者宛てのメールがあるメールボックスの待ち行列を検索するために、「ワーク・センター」フォームの「関連付けられた住所No.」および「備忘日付」フィールドに値を入力し、「検索」をクリックします。

2. 与信管理の待ち行列を展開し、すべての与信メッセージを表示します。
最初の与信メッセージが表示されます。
3. 作業項目マネージャで顧客勘定の処理を行うには、メッセージを選択し、詳細メディア・オブジェクト・ボタンをクリックします。

メッセージの内容に基づいて、適切なフォームが表示されます。たとえば、与信承認が必要な場合は、「ワークフローの承認」フォームが表示されます。顧客が与信限度額を超過している場合は、「与信情報の照会」フォームが表示されます。

処理が終了したら、ワークフロー・メッセージを削除できます。

回収レポートの印刷

この項では、回収レポートの概要と次の方法について説明します。

- ・ 回収レポート・プログラムの実行
- ・ 回収レポート(R03B461)の処理オプションの設定

回収レポートについて

支払期日を過ぎた取引のある顧客の未入金項目を検討するには、回収レポートを印刷します。このレポートを使用して、特定の請求書または顧客を外部の回収機関に委託するかどうかを決定します。

請求書の外部回収を可能にするには、顧客マスター・レコードの回収レポート・オプションを有効にする必要があります。さらに、住所録からの売掛金元帳の更新プログラム(R03B802)を実行して、顧客の既存の未決済請求書レコード(F03B11)の回収レポート・フィールド(RPCOLL)の値を「Y」に更新する必要があります。回収レポートでは、このフィールドの値に基づいて請求書が選択されます。顧客マスター・レコードの回収レポート・オプションが有効になっている顧客に対し新規に入力される請求書のこのフィールドは、自動的に「Y」に更新されます。

この回収レポートは、テスト・モードまたは最終モードで実行できます。最終モードで実行する場合は、処理オプションで回収理由コードを入力する必要があります。回収理由コード・フィールド(RPCORC)は、レポートに印刷するように選択した請求書レコードに入力した理由コードに更新されます。データ選択を使用して、レポートに出力される請求書を限定したり、出力対象の顧客を除外したりできます。

レポートには、請求書の総額と未決済金額の両方が国内通貨と外貨で出力されます。

注意: 回収レポートの印刷後も、顧客レコードの回収レポート・オプションは自動的には無効になりません。必要に応じてオプションを手動で無効にする必要があります。

回収レポート・プログラムの実行

「売掛管理レポート」メニュー(G03B14)から「回収レポート」を選択します。

回収レポート(R03B461)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

この処理オプションでは、プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するか、および顧客レコードに割り当てる回収理由コードを指定します。

1. モード

プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モードで実行する。レポートが印刷されるだけで、テーブルは更新されません。

1: 最終モードで実行する。レポートが印刷され、F03B11テーブルの選択したレコードが「回収理由コード」処理オプションで指定した回収理由コードで更新されます。
2. 回収理由コード

処理の対象として選択したF03B11テーブルのレコードに割り当てる回収理由コードを指定します。指定する回収理由コードは、ユーザー定義コード03B/CL(回収理由コード)に設定されている必要があります。取引をこの回収理由コードで更新するには、レポートを最終モードで実行します。

与信情報の検討と改訂

この項では、与信情報の改訂の概要とその方法について説明します。

与信情報の改訂について

与信情報の検討および改訂を行う場合、顧客勘定を検索して、その勘定が与信限度額を超過していないか、または与信検討日付を過ぎていないかを判断します。

QBEローのフィールドを使用して、与信限度額が指定額以上のすべての顧客レコードを検索できます。与信検討日付が今月に設定されている顧客レコードや、特定の与信メッセージが設定されている顧客レコードを検索することもできます。

F03012テーブルの情報が「与信情報の照会」フォームに表示されます。会社別に設定された各レコードが表示されます。業種別処理を使用しない場合は、会社00000のレコードのみの情報が表示されます。

与信情報の検討と改訂に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-----------|----------|-------------------------------------|---------------------------------|
| 与信情報の照会 | W03B305C | 「与信/回収管理」(G03B15)、「与信承認/管理」 | 顧客の与信情報を確認します。 |
| 顧客マスターの改訂 | W03013B | 「与信情報の照会」フォームで、顧客を選択して「選択」をクリックします。 | 顧客の与信情報を改訂したり、新しい与信情報を入力したりします。 |

与信情報の改訂

「顧客マスターの改訂」フォームにアクセスします。

与信承認/管理 - 顧客マスターの改訂

与信情報の照会 顧客マスターの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

顧客No. 3333

詳細住所No.

会社番号 00000

タブを選択: 2-与信

| | | | |
|------------------|-------------|---------------|------------|
| 与信限度額 | 25,000.00 | 与信検討日付 | 2005/09/30 |
| 与信管理者 | CR02 与信管理者2 | 前回与信検討日付 | 2005/06/30 |
| 与信メッセージ | | 顧客レコード作成日付 | 1998/10/12 |
| 一時与信メッセージ | | | |
| 顧客情報認定者 | BW5482707 | ABCコード - 売上 | C C級 |
| 最終与信チェック者 | | ABCコード - 粗利益 | C C級 |
| 財務諸表受領日 | | ABCコード - 平均日数 | C C級 |
| Dun Bradstreet日付 | | | |
| Experian日付 | | | |

「顧客マスターの改訂」フォーム - 「与信」タブ

与信限度額

この顧客に対する掛売販売の限度額を入力します。この金額を超えるとワークフロー・メッセージが送信されます。この値は、与信管理プログラム全体で使用されます。与信限度額は子（顧客）レベルで管理され、親レベルでは管理されません。与信限度額の超過が発生すると、超過した顧客別にワークフロー・メッセージが送信されます。与信限度額を設定または変更すると、与信管理者宛てに、承認待ちの限度額変更があることを知らせるワークフロー・メッセージが送信されます。この与信限度額は、与信管理者が承認するまで顧客レコードには反映されません。

与信メッセージ

顧客または仕入先の与信状況を示すユーザー定義コード・テーブル00/CMの値を入力します。次に例を示します。

- 1: 与信限度額超過。
- 2: 購買オーダー必要。
- 3: メンテナンス契約上がない。

この与信メッセージは、買掛管理、受注管理、調達管理の各システムの照会フォームや取引入力フォームに表示されます。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムでは一時与信メッセージが表示されます。

一時与信メッセージ

暫定的な与信状況を示すユーザー定義コードを入力します。通常、このコードは、勘定の支払期日が過ぎた場合に手動で割り当てます。顧客に割り当てられている方針の延滞通知指示に基づいて、一時与信メッセージが自動的に更新されます。方針に含まれるこのオプションを有効にした場合、一時与信メッセージは自動的に与信メッセージにリセットされます。顧

客レコードに対し、一時与信メッセージの入力および更新を手動で行うことも可能です。

このフィールドをブランクにすると、与信分析のリフレッシュ (R03B525) の実行時に、「与信メッセージ」フィールドの値が割り当てられます。

一時与信メッセージは、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムと受注管理システムの取引入力フォームに表示されます。

| | |
|--------------------------|---|
| 与信検討日付 | 顧客の与信情報の検討日を入力します。 |
| 顧客レコード作成日付 | 顧客レコードが作成された日付が表示されます。 |
| 顧客情報設定者 | 顧客レコード作成者のユーザーIDが表示されます。ユーザーIDはシステムにより自動的に入力されます。 |
| 財務諸表受領日 | 会社の信用価値を評価するための財務諸表が受領された日付を入力します。 |
| Dun Bradstreet 日付 | Dun & Bradstreet 格付が提供された日付を入力します。 |
| Experian 日付 | Experian 格付が提供された日付を入力します。 |

与信限度額を変更して「OK」をクリックすると、「ワークフロー保留検討通知」ウィンドウが表示されます。「OK」をクリックして、承認を申請するワークフロー・メッセージを送信します。

信用報告テープの作成

この項では、信用報告テープとその要件の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- Experian 信用報告テープの作成プログラムと Creditel 信用報告テープの作成プログラムの実行
- Experian 信用報告テープの作成 (R03B920) の処理オプションの設定
- Creditel 信用報告テープの作成 (R03B920C) の処理オプションの設定

信用報告テープについて

顧客の与信情報管理の一環として、売掛金情報の磁気テープを外部信用調査機関に送付する場合があります。その場合、信用報告テープを作成する必要があります。

信用報告テープの作成時に、システムにより次の処理が実行されます。

- 処理オプションの設定に基づいた与信/資金管理テーブル (F03B15) の更新
- F03B15 テーブルに保管された情報の読込
- 特定の信用調査機関の標準様式に合せた顧客の売掛金情報のフォーマット
- Experian 信用報告テープ・テーブル (F03B920) または Creditel 信用報告テープ・テーブル (F03B920C) の更新

信用報告テープ・テーブルの情報を適切なメディアにコピーして、次の信用調査機関のいずれか (複数可) に送付します。

- Experian
- Dun & Bradstreet

- Creditel

これらの信用調査機関は、受領したテープの情報を処理して顧客の信用格付けを行います。

プログラムが実行されるたびに、信用報告テーブルのデータは削除されます。レコードがテーブルに追加されることはありません。

複数のバージョンの同時実行

信用報告テープの作成プログラムで複数のバージョンを同時に実行しようとする、バージョン間で信用テープ・テーブル (F03B902またはF03B902C) へのアクセス競合が発生し、エラー・メッセージが表示されます。

複数の会社の信用テープの作成

複数の会社に対して信用テープを作成する場合、信用報告テープの作成プログラムのバージョンを個別に設定してください。

信用報告テープの要件について

次の表は、各信用調査機関によって指定されている信用報告テープの要件を説明しています。

| 信用調査機関 | 信用報告テープの要件 |
|------------------|--|
| Experian | <p>この信用調査機関では、次の事項が要求されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 残高に関係なく、すべての顧客を信用報告テープに含める。残高がゼロの顧客も含まれるように処理オプションを設定できます。これにより、期日どおりに支払を済ませている顧客や、残高がゼロの顧客の漏れがなくなります。 • 報告テープに含まれる会社のSIC (標準産業コード) を指定する。顧客のSICは、顧客マスター・レコードで設定します。 • Experianから入手した4桁のビジネス・コードを処理オプションに入力する。 • 顧客の支払条件を示す7桁のビジネス・コードを使用する。そのためには、Experian定義と、ユーザー定義コード・リスト (03B/PT) の3桁の支払条件フィールドとの相互参照を設定する必要があります。 |
| Dun & Bradstreet | <p>この信用調査機関では、Experianの要件を満たすテープが受理されます。Dun & Bradstreetテープの処理には、Experian信用報告テープの作成プログラムを使用します。</p> |
| Creditel | <p>この信用調査機関では、特に要件の指定はありません。</p> |

Experian信用報告テープ・テーブル (F03B920) の値

次の表は、Experian信用報告テープの作成プログラム (R03B920) の実行時に、F03B920テーブルに書き込まれる値の一覧です。情報は3つのレコード・タイプにまとめられます。

Aレコード

次の表に、レコード・タイプAの各フィールドの値を示します。

| 内容 | サイズ |
|----------------------|-----|
| A | 1 |
| 処理オプションの提供者番号 | 6 |
| C75001 | 6 |
| スペース | 157 |
| システム日付 | 6 |
| TRW CONTRIBUTOR FILE | 20 |
| スペース | 154 |

Cレコード

次の表に、レコード・タイプCの各フィールドの値を示します。

| 内容 | サイズ |
|-----------------------|-----|
| C | 1 |
| 処理オプションの提供者番号 | 6 |
| 処理オプションのビジネス・カテゴリ・コード | 4 |
| 顧客名 | 40 |
| 親名称 | 40 |
| 顧客住所行1 | 30 |
| 顧客住所行2 | 30 |
| 会社のSICコード | 4 |
| スペース | 1 |
| 2 | 1 |
| 顧客の市町村 | 40 |
| 顧客の郵便番号 | 5 |
| 顧客の州/都道府県 | 2 |
| スペース | 3 |

| 内容 | サイズ |
|-------------------------------|-----|
| 処理オプションの締切日付 | 6 |
| 顧客の住所録番号 | 12 |
| 産業分類コード | 4 |
| 顧客の電話番号 | 10 |
| スペース | 8 |
| 年度顧客コード | 1 |
| 取引年数 | 2 |
| 前回請求日付 (YYMM) | 4 |
| 支払条件 | 7 |
| 0 | 1 |
| 最高残高 | 8 |
| 処理オプションの金額印刷形式 | 1 |
| 未決済金額 | 8 |
| スペース | 1 |
| 将来金額 + 現行金額 | 7 |
| スペース | 1 |
| 経過金額1 | 7 |
| スペース | 1 |
| 経過金額2 | 7 |
| スペース | 1 |
| 経過金額3 | 7 |
| スペース | 1 |
| 経過金額4 + 経過金額5 + 経過金額6 + 経過金額7 | 7 |
| スペース | 1 |
| 00 | 2 |

| 内容 | サイズ |
|-----------|-----|
| 0 | 1 |
| 000 | 3 |
| スペース | 1 |
| スペース | 1 |
| 000000000 | 9 |
| スペース | 12 |
| スペース | 1 |

Zレコード

次の表に、レコード・タイプZの各フィールドの値を示します。

| 内容 | サイズ |
|-------------------------------|-----|
| Z | 1 |
| Cレコードの件数 | 7 |
| 0000000000 | 10 |
| 未決済金額 | 10 |
| 将来金額 + 現行金額 | 10 |
| 経過金額1 | 10 |
| 経過金額2 | 10 |
| 経過金額3 | 10 |
| 経過金額4 + 経過金額5 + 経過金額6 + 経過金額7 | 10 |
| スペース | 272 |

Creditel信用報告テープ・テーブル(F03B920C)の値

次の表は、Creditel信用報告テープの作成プログラム(R03B920C)の実行時に、F03B920Cテーブルに書き込まれる値の一覧です。情報は3つのレコード・タイプにまとめられます。

Aレコード

次の表に、レコード・タイプAの各フィールドの値を示します。

| 内 容 | サイズ |
|---------------------|-----|
| " " | 1 |
| A | 1 |
| 処理オプションの提供者番号 | 6 |
| " " | 1 |
| 締切日付 | 6 |
| システム日付 | 6 |
| CREDITEL MEMBER A/R | 19 |
| スペース | 219 |

Dレコード

次の表に、レコード・タイプDの各フィールドの値を示します。

| 内 容 | サイズ |
|---------|-----|
| D | 1 |
| "3" | 1 |
| 住所番号 | 20 |
| 名 称 | 40 |
| 住所行1 | 40 |
| 市町村 | 40 |
| 州/都道府県 | 40 |
| 郵便番号 | 40 |
| 取引年数 | 2 |
| " " | 1 |
| "00000" | 5 |
| " " | 1 |
| 未決済金額 | 7 |
| " " | 1 |

| 内容 | サイズ |
|---------------|-----|
| 将来金額 + 現行期日金額 | 7 |
| ” ” | 1 |
| 経過金額1 | 7 |
| ” ” | 1 |
| 経過金額2 | 7 |
| ” ” | 1 |
| 経過金額3 | 7 |
| スペース | 5 |
| 電話番号 | 10 |
| ”0000000000” | 10 |
| スペース | 3 |

Zレコード

次の表に、レコード・タイプZの各フィールドの値を示します。

| 内容 | サイズ |
|--------------|-----|
| ” ” | 1 |
| Z | 1 |
| Cレコードの件数 | 7 |
| 000000000000 | 12 |
| 未決済金額 | 10 |
| 将来金額 + 現行金額 | 10 |
| 経過金額1 | 10 |
| 経過金額2 | 10 |
| 経過金額3 | 10 |
| スペース | 224 |

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 住所録からの売掛金元帳の更新プログラム (R03B802) を実行します。
- 信用調査機関に連絡して、必要な情報を入手します。
- 磁気テープ作成用のドライブを準備します。
- 与信分析のリフレッシュ・プログラム (R03B525) を実行します。別の方法として、テープの作成に先立ち、信用報告テープの作成プログラムの処理オプションを設定して与信分析のリフレッシュを実行できます。

Experian信用報告テープの作成プログラムおよびCreditel信用報告テープの作成プログラムの実行

「与信/回収管理」メニュー (G03B15) から「Experian信用報告テープ」 (R03B920) または「Creditel信用報告テープ」 (R03B920C) を選択します。

ExperianおよびDun & Bradstreet信用報告テープの作成 (R03B920) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

オプション

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. 提供者番号 | テープに記録されたレコードが正しく識別されるように、信用調査機関から割り当てられた提供者番号を指定します。 |
| 2. ビジネス・カテゴリ・コード | 信用調査機関から割り当てられた4桁のコードを指定します。 |
| 3. 処理日付 | 信用報告テープに使用する日付を指定します。ブランクにすると、システム日付が使用されます。 |
| 4. 金額印刷形式 | 信用報告書に印刷する金額のフォーマットに使用するコードを指定します。ユーザー定義コード03B/AC (金額印刷形式) に設定されている値を入力してください。値は次のとおりです。 0: 入力したとおりに金額を印刷する。この値がデフォルト値です。 1: 勘定残高が100,000を超える場合、+100,000と印刷する。 2: 勘定残高が200,000を超える場合、+200,000と印刷する。 3: 勘定残高が300,000を超える場合、+300,000と印刷する。 4: 勘定残高が400,000を超える場合、+400,000と印刷する。 5: 勘定残高が500,000を超える場合、+500,000と印刷する。 |
| 5. 与信分析のリフレッシュ (R03B525) のバージョン | 使用する与信分析のリフレッシュ・プログラム (R03B525) のバージョンを指定します。 |

Creditel信用報告テープの作成 (R03B920C) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

会社

この処理オプションでは、信用報告テープに書き込まれる情報を指定します。

1. **メンバー番号** テープに記録されたレコードが正しく識別されるように、信用調査機関から割り当てられたメンバー番号を指定します。
2. **処理日付** Creditel信用報告テープに使用する日付を指定します。空白にすると、システム日付が使用されます。

作成

この処理オプションでは、与信分析のリフレッシュ・プログラム (R03B525) を実行するかどうかを指定します。

1. **与信分析のリフレッシュ (R03B525) のバージョン** F03B920Cテーブルの更新に先立って実行する与信分析のリフレッシュ・プログラム (R03B525) のバージョンを指定します。与信分析のリフレッシュ・プログラムは、バージョンを指定した場合にのみ実行されます。

第 19 章

延滞通知と延滞利息金の処理

この章では、次の方法について説明します。

- 延滞通知の作成
- 延滞通知の処理
- 延滞料金の作成
- 延滞料金の処理

関連項目:

第 6 章、「与信/回収管理の設定」、85ページ

延滞通知の作成

この項では、延滞通知の作成の概要と、延滞通知の印刷プログラムの実行方法について説明します。

延滞通知の作成について

与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)の延滞通知の印刷バージョンを実行して延滞通知レコードを作成します。このバージョンには、延滞通知の印刷用に設定された事前定義済の処理オプションがあります。通知は、顧客に割り当てられた延滞方針に基づいて作成されます。

年齢調べカテゴリ/重要度

延滞通知の印刷プログラムの「重要度の決定」処理オプションによって、年齢調べカテゴリまたは重要度に基づいて方針情報(延滞通知指示)を読み込むかどうか制御されます。

- 年齢調べカテゴリを選択した場合は、売掛管理固定情報に設定されている年齢調べカテゴリを使用するか、処理オプション(「年齢調べ」タブ)に設定されている年齢調べカテゴリを使用するかを選択できます。

年齢調べ日付、日付タイプ、指定された年齢調べ方法によって請求書に使用する適切な年齢調べカテゴリが決定され、その年齢調べカテゴリに関連付けられている延滞通知指示が読み込まれます。

たとえば、期限超過請求書が年齢調べカテゴリ2にある場合、年齢調べカテゴリ2の延滞通知が読み込まれます。

- 重要度を選択した場合は、延滞通知送付回数フィールド(RMDS)の値によって、使用する延滞通知指示が決定されます。

たとえば、請求書が延滞通知2件に記載されている場合(RMDSの値が2)、重要度3に設定されている延滞通知指示が読み込まれます。

階層型延滞方針

方針定義時に階層型延滞方針を使用するかどうかは、階層型延滞方針使用オプションを選択して指定します。

- 階層型延滞方針を使用すると、請求書が割り当てられている年齢調べカテゴリ(または重要度)に対して方針が設定されている場合にかぎり通知が生成されます。

年齢調べカテゴリまたは重要度が定義されていない場合は、通知は生成されません。

たとえば、請求書が年齢調べカテゴリ5にあり、延滞通知指示が年齢調べカテゴリ5ではなく4に設定されている場合、延滞通知は生成されません。

- 階層型延滞方針を使用しない場合は、通知が生成されるように請求書を指定された年齢調べカテゴリに入れる必要はありません。

請求書が方針で指定されている年齢調べカテゴリよりも大きい年齢調べカテゴリ内にある場合も通知は生成されます。

たとえば、請求書が年齢調べカテゴリ5にあり、延滞通知指示が年齢調べカテゴリ5ではなく4に設定されている場合は、延滞通知が生成されます。

しきい値(%)、猶予日数、支払期限までの日数

方針の通知指示に年齢調べカテゴリまたは重要度を使うのとは別に、延滞通知が生成されるかどうかを決めるのに、この追加基準が使用されます。

- しきい値(%)

しきい値(%)を使って、生成する延滞通知の数を金額によって制限します。特定の年齢調べカテゴリ(または重要度)用の請求書の合計は、顧客の全未決済請求書のしきい値(%)以上である必要があります。

たとえば、顧客の未決済残高が7500.00でしきい値(%)が20の場合、年齢調べカテゴリの請求書の合計は1500.00以上である必要があります。1500.00に満たない場合は延滞通知が生成されません。

- 猶予日数

最初の延滞通知にかぎり、請求書の支払期日が猶予日数分延長されます。2回目以降の延滞通知では猶予日数は使用しません。督促状前回送付日フィールド(RDDJ)の値に前回の延滞通知からの日数が追加されます。請求書がその期日にまだ未収(かつ方針の他の要件を満たす)場合、さらに通知が生成されます。

- 支払期限までの日数

国によっては、延滞通知時に通知支払期日(新期日)を顧客に知らせることが法律によって定められている場合があります。顧客は通知支払期日までに支払う必要があります。このような場合は、通知方針の支払期限までの日数フィールド(PBDY)を使用します。この値が年齢調べ日付に加算され、通知支払期日(DTPB)の値が決定されて、延滞通知に印刷されます。猶予日数とは異なり、支払期限までの日数は、最初の延滞通知だけではなく、生成されるすべての延滞通知に使われます。

猶予日数および支払期限までの日数の両方を使うことができます。たとえば、期日が2008/6/15、年齢調べ日付が2008/6/30で猶予日数を3日、支払期限までの日数を5日に指定した場合、期日が2008/6/18に延長されて年齢調べカテゴリ(および通知方針)が決定され、その後、通知支払期日が2008/7/15に更新されます。階層化延滞通知の印刷プログラム(R03B21)を選択した場合のみ、延滞通知に通知支払期日が印刷されます。

注意: 方針に設定されている通知指示の要件に合う請求書が1つでもある場合は、生成される延滞通知に期限超過の請求書がすべて印刷されます。ただし、年齢調べカテゴリ(重要度)に設定されている最低金額に満たない請求書は除きます。通知指示で指定されている最低金額に満たない請求書は一切印刷されません。

複数の年齢調べカテゴリまたは重要度にある請求書から延滞通知を1件生成する場合は、最も古い年齢調べカテゴリまたは最も高い重要度の通知指示が使用されます。たとえば、年齢調べカテゴリ2と4にある請求書が方針の要件に合う場合、年齢調べカテゴリ4に設定されている通知指示のみが使用されます。

延滞通知の承認と却下

方針の「回収管理者の承認必須」チェックボックスを選択した場合は、顧客に送付する延滞通知の作成前に、回収管理者の承認が必要になります。顧客レコードで指定された回収管理者に、ワークフロー・メッセージが送信されます。回収管理者はこのメッセージから「延滞承認の処理」フォームにアクセスするか、メニューから延滞承認の処理プログラム(P03B201)にアクセスし、延滞通知を承認または却下できます。

管理者の承認が必要ない場合は、印刷用のスプール・ファイルが作成されます。

売掛金延滞通知の印刷

顧客に通知を送信するかは、方針を使用して決定されます。

延滞通知の印刷には次の2つのプログラムを使用できます。

- R03B20 – 売掛金延滞通知の印刷
- R03B21 – 階層化延滞通知の印刷

次の表は、この2つのプログラムの相違点を示しています。

| 相違点 | R03B20 | R03B21 |
|-------------|---|--|
| 印刷されるカラム | 通知には次の情報が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 伝票番号 • 請求書日付 • 期日 • 備考 • 外貨未決済金額 • 通貨コード • 未決済金額 • 基本通貨コード • 延滞通知送付回数 | 通知には、R03B20の全情報に加えて、次の情報が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 支払項目 • 外貨総額 • 総額 • 通知日付 |
| 人名録連絡先情報の印刷 | なし | タイプ・コードに基づいて人名録レコードから印刷する連絡先名を指定する処理オプションがあります。 |

| 相違点 | R03B20 | R03B21 |
|----------------|---------------------------|---|
| 請求書の集計または明細の印刷 | 通知には、各請求書支払項目が印刷されます(明細)。 | 各請求書の支払項目を印刷(明細)する、または各請求書の伝票を印刷(集計)する処理オプションがあります。 |
| 集計手数料 | なし | すべての手数料請求書レコードを通知の1明細行に集計する処理オプションがあります。 集計された手数料レコードの伝票番号には、*が印刷されます。 |

選択したプログラムに関係なく、延滞通知の印刷はテスト・モードでも最終モードでも実行できます。

- テスト・モード

テストに指定された通知が印刷されます。売掛金通知実績テーブル(F03B20)と売掛金通知実績明細テーブル(F03B21)から通知を印刷するために一時的に生成されたレコードは削除されます。

- 最終モード

通知が印刷され、レコードがF03B20テーブルとF03B21テーブルに作成されます。また、売掛金元帳テーブル(F03B11)の請求書レコードの次のフィールドが更新されます。

- 督促状前回送付日(RDDJ)
- 延滞通知送付件数(RMDS)
- 通知支払期日(DTPB)

延滞通知を印刷する際には、次の処理が行われます。

- 期日が過ぎ、最小金額の条件にあう請求書のみが延滞通知に含まれます。
- それぞれ別の年齢調べカテゴリに入る複数の請求書がある場合は、最新の年齢調べカテゴリに該当するレターが印刷されます。

たとえば、期限を30日過ぎている場合にレター1が印刷される請求書と、期限を90日過ぎている場合にレター3が印刷される請求書がある場合は、レター3が印刷され、このレターに期限を過ぎている両方の請求書が記載されます。

データ選択およびデータ順序

データ選択を使用して特定の顧客の通知を印刷するには、延滞通知の印刷プログラム(R03B525)を使用します。売掛金延滞通知の印刷プログラム(R03B20)や階層化延滞通知の印刷プログラム(R03B21)は使用しません。

重要: 特定の通知を印刷するようにデータ選択を変更するには、処理オプションを設定して与信/資金管理テーブル(F03B15)の更新を不可にします。この設定を行わないと、指定したデータ選択に応じてテーブルが更新されるため、回収管理者が日々行う回収活動に影響が出ることがあります。

通知に印刷される合計は適切なデータ順序に依存しています。このため、通知生成時に印刷プログラム(R03B20またはR03B21)や延滞通知の印刷プログラム(R03B525)のデータ順序は変更しないでください。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 延滞通知に印刷するテキストを設定します。
- 方針が定義済であること、その方針が顧客に割り当てられていること、与信および回収情報が設定されていることを確認します。
- 「売掛管理固定情報」フォームおよび「顧客マスターの改訂」フォーム（「回収」タブ）で、「延滞通知」チェックボックスが選択されていることを確認します。

延滞通知の印刷プログラムの実行

「計算書/延滞通知処理」メニュー（G03B22）から「延滞通知の印刷」を選択します。

延滞通知の使い方

この項では、次の方法について説明します。

- 売掛金延滞通知の印刷（R03B20）の処理オプションの設定
- 階層化延滞通知の印刷（R03B21）の処理オプションの設定
- 延滞通知の検討（P03B202）の処理オプションの設定
- 延滞通知の検討
- 年齢調べカテゴリによる請求書の集計情報の検討
- 延滞通知の検討、承認、却下
- 延滞通知の再印刷

関連項目:

第 17 章、「計算書の処理」、「計算書/延滞通知の除去」、380ページ

延滞通知の処理に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-------------|----------|--|---|
| 計算書の処理 | W03B202D | 「計算書/延滞通知処理」(G03B22)、「計算書の検討」 | 延滞通知を再印刷します。 「計算書の処理」フォームを閉じると、プログラムが実行されます。 |
| 延滞通知の検討(詳細) | W03B201C | 「計算書の処理」フォームで計算書を選択し、「選択」をクリック、または「ロー」メニューの「検討」を選択します。 | 延滞通知が生成されている期限超過請求書を検討します。期限超過請求書を検討するときに、紛失した通知のかわりに最初の延滞通知を印刷したり、顧客用に追加のコピーを印刷できます。 |
| 印刷情報 | W03B202J | 「計算書の処理」フォームで、「ロー」メニューの「印刷情報の変更」を選択します。 | 計算書を印刷する際に使用される情報を変更します。たとえば、計算書の再印刷に使用する印刷プログラムやバージョンを変更できます。 |
| 通知の要約 | W03B20B | 「延滞通知の検討(詳細)」フォームで、「フォーム」メニューから「要約」を選択します。 | 年齢調べカテゴリによる請求書の集計情報を検討します。 |
| 延滞承認の処理 | W03B201A | 「計算書/延滞通知処理」(G03B22)、「延滞通知の承認」 | 検索条件に合うF03B20テーブルの延滞通知をすべて表示します。 |
| 延滞通知の検討(詳細) | W03B201C | 「延滞承認の処理」フォームで延滞通知を選択し、「選択」をクリックします。 | 延滞通知の検討、承認、却下を行います。 |

売掛金延滞通知の印刷(R03B20)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

この処理オプションでは、特定の情報を延滞通知に印刷するかどうかを指定します。

1. 送金先住所

送金先住所を延滞通知に印刷するかどうかを指定します。与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)の処理オプション(「延滞通知」タブの「送金先住所」オプション)で指定された住所が印刷されます。値は次のとおりです。

ブランク: 送金先住所を印刷しない。

1: 送金先住所を印刷する。

2. 年齢調べ

延滞通知に年齢調べ情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 年齢調べ情報を印刷しない。

- 1: 印刷する。
- 3. 通貨タイプ** 延滞通知に通貨コードを印刷するか、「TOTAL CURRENCY BALANCE DUE」(合計通貨残高)をスタティック・テキストとして印刷するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: TOTAL CURRENCY BALANCE DUEを印刷する。
 1: 通貨コードを印刷する。
- 4. 延滞通知送付回数** 延滞通知に以前送付した延滞通知送付回数を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 送付回数を印刷しない。
 1: 送付回数を印刷する。

階層化延滞通知の印刷(R03B21)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

この処理オプションでは、特定の情報を延滞通知に印刷するかどうか、および印刷する情報の形式を指定します。

- 1. 送金先住所** 送金先住所を延滞通知に印刷するかどうかを指定します。与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)の処理オプション(「延滞通知」タブの「送金先住所」オプション)で指定された住所が印刷されます。値は次のとおりです。
 ブランク: 送金先住所を印刷しない。
 1: 送金先住所を印刷する。
- 2. 人名録連絡先レコード・タイプ** 住所録 - 人名録テーブル(F0111)内のどの名前を延滞通知に印刷するかを決定するために使用するタイプ・コードを指定します。「Attention:」(宛先)という言葉の後に指定された名前が印刷され、顧客の会社のこの特定の相手に送付されます。ブランクの場合、延滞通知に宛名行は印刷されません。
- 3. 年齢調べ** 延滞通知に年齢調べ情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 年齢調べ情報を印刷しない。
 1: 印刷する。
- 4. 通貨タイプ** 延滞通知に通貨コードを印刷するか、「TOTAL CURRENCY BALANCE DUE」(合計通貨残高)をスタティック・テキストとして印刷するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: TOTAL CURRENCY BALANCE DUEを印刷する。
 1: 通貨コードを印刷する。
- 5. 延滞通知送付回数** 延滞通知に以前送付した延滞通知送付回数を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 送付回数を印刷しない。
 1: 送付回数を印刷する。

6. 明細/集計形式

延滞通知に各請求書支払項目を印刷するか、全請求書支払項目の集計レコードを印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 明細を印刷する。各請求書の支払項目が別行で延滞通知に印刷されます。

1: 集計を印刷する。各請求書が1行で印刷され、金額が集計されます。

7. 延滞利息金の合算

延滞通知に、各延滞利息金レコードを印刷するか、すべての延滞利息金額を集計したレコードを1件印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 集計しない。延滞利息金の各レコードが別行で通知に印刷されます。

1: 集計する。すべての延滞利息金額を集計したレコードが1件印刷されます。

延滞通知の検討(P03B202)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

計算書通知リセット(R03B5015)バージョン

1. 計算書延滞通知のリセット・バージョン

使用する計算書/延滞通知のリセット・プログラム(R03B5015)のバージョンを指定します。このオプションをブランクにした場合は、ZJDE0001がデフォルト値として使用されます。

延滞通知の検討

「延滞通知の検討(詳細)」フォームにアクセスします。

延滞通知の検討 - 延滞通知の検討(詳細)

検索(I) 取消(L) フォーム(E) ツール(O)

顧客: 3333 通知日付: 2005/09/30

未決済金額: 82,401.83

☐ 集計請求書

承認済み

☒ 処理済み ☒ 保留 ☒ 承認済み ☒ 却下

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

| | 伝票 No. | 伝票 タイプ | 伝票 会社 | 支払 項目 | 請求書 日付 | 通知 支払期日 | 備考 | 期日 | 外貨 未決済金額 | 未決済 金額 |
|----------------------------------|--------|--------|-------|-------|------------|------------|-----------------------|------------|----------|--------|
| <input checked="" type="radio"/> | 1017 | R5 | 00001 | 001 | 2005/07/02 | 2005/09/30 | freight | 2005/07/02 | | 16.3 |
| <input type="radio"/> | 3574 | RI | 00001 | 001 | 2005/06/25 | 2005/09/30 | computer supplies | 2005/07/25 | | 500.0 |
| <input type="radio"/> | 3575 | RI | 00001 | 001 | 2005/06/26 | 2005/09/30 | supplies | 2005/07/26 | | 900.0 |
| <input type="radio"/> | 3575 | RI | 00001 | 003 | 2005/06/26 | 2005/09/30 | service pack upgrades | 2005/07/26 | | 500.0 |
| <input type="radio"/> | | | | | | | | | | |

「延滞通知の検討(詳細)」フォーム

集計請求書

請求書支払項目を1レコードに集計する場合に選択します。

請求書支払項目が集計されると「*」が「支払項目」フィールドに表示されません。

年齢調べカテゴリによる集計請求書情報の検討

「通知の要約」フォームにアクセスします。

延滞通知の検討 - 通知の要約

OK(O) 取消(L) ツール(T)

通知日付

2005/09/30

住所No.

3333

Continental Incorporated

支払条件

Net 30 Days

新規請求書

82,401.83

通貨コード

USD

U.S. Dollar

年齢調べ情報

| | |
|-----------|-----------|
| 将来金額 | |
| 現行 | |
| 1 - 30 | |
| 31 - 60 | 1,960.15 |
| 61 - 90 | 34,440.68 |
| 91 - 120 | 19,951.00 |
| 121 - 150 | 21,300.00 |
| 超過 150 | 4,750.00 |

「通知の要約」フォーム

延滞通知の検討、承認、却下

「延滞通知の検討(詳細)」フォームにアクセスします。

注意: 延滞通知を検討する必要がある場合は、「ロー」メニューから「承認」を選択して、「延滞承認の処理」フォームで延滞通知を承認または却下できます。

延滞通知の承認 - 延滞通知の検討(詳細)

延滞承認の処理 延滞通知の検討(詳細)

OK(O) 検索(S) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

顧客

3333

通知日付

2005/09/30

未決済金額

82,401.83

☐ 集計請求書

承認済み

☐ 処理済み ☐ 保留 ☒ 承認済み ☐ 却下

レコード 1 - 5

グリッドのカスタマイズ

| 伝票 No. | 伝票 タイプ | 伝票 会社 | 支払 項目 | 請求書 日付 | 通知 支払期日 | 備考 | 期日 | 外貨 未決済金額 | 未決済 金額 |
|----------------------------------|--------|-------|-------|--------|------------|------------|-----------------------|------------|--------|
| <input checked="" type="radio"/> | 1017 | R5 | 00001 | 001 | 2005/07/02 | 2005/09/30 | freight | 2005/07/02 | 16. |
| <input type="radio"/> | 3574 | RI | 00001 | 001 | 2005/06/25 | 2005/09/30 | computer supplies | 2005/07/25 | 500. |
| <input type="radio"/> | 3575 | RI | 00001 | 001 | 2005/06/26 | 2005/09/30 | supplies | 2005/07/26 | 900. |
| <input type="radio"/> | 3575 | RI | 00001 | 003 | 2005/06/26 | 2005/09/30 | service pack upgrades | 2005/07/26 | 500. |
| <input type="radio"/> | | | | | | | | | |

「延滞通知の検討(詳細)」フォーム

延滞通知を承認/却下するには、次の手順に従います。

1. 「集計請求書」チェックボックスを選択して、「検索」をクリックし、請求書支払項目を1レコードに集計します。
2. 延滞通知の情報を検討し、「承認済み」または「却下」オプションのいずれかを選択します。

重要: 「OK」をクリックして通知を承認または却下した後は、別のオプションは選択できません。

3. 「OK」をクリックします。

延滞通知を承認した場合、延滞通知を生成するには「延滞通知の検討(詳細)」フォームおよび「延滞承認の処理」フォームを終了する必要があります。通知生成時に延滞通知の印刷プログラム(R03B525)の処理オプションで指定されている通知印刷プログラムのバージョンが実行されます。延滞通知の検討プログラム(P03B202)を選択すると、「計算書の処理」フォームで確認できます。

F03B11テーブルの該当フィールドと、却下された通知の状況が更新されます。

承認済み 管理者承認が必要な延滞利息金または延滞通知承認する場合に選択します。

却下 管理者承認が必要な延滞利息金または延滞通知を却下する場合に選択します。

延滞通知の再印刷

「計算書の処理」フォームにアクセスします。

再印刷する延滞通知を選択し、「ロー」メニューから「再印刷」を選択します。

または、「延滞通知の検討(詳細)」フォームにアクセスします。

「フォーム」メニューから「再印刷」を選択し、「取消」をクリックします。

延滞利息金の作成

この項では、延滞利息金の作成の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 延滞利息金の生成プログラムの実行
- 延滞利息金の生成(R03B525)の処理オプションの設定
- 延滞利息金明細(R03B22)の処理オプションの設定
- 延滞利息金(R03B221)の処理オプションの設定

アルゼンチンおよびポーランドには、延滞利息金の国別機能が用意されています。

延滞利息金の生成について

回収処理の一環として、延滞利息金の作成と承認ができます。延滞利息金は、支払期日を過ぎている未入金 of 請求書や、期日後に入金された請求書に対して課す利息金のことです。

与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)の延滞利息金の作成バージョンを実行して、延滞利息金レコードを作成します。このバージョンの処理オプションは延滞利息金を作成するように設定されています。このバージョンは、テスト・モードまたは最終モードで実行できます。

延滞利息金の作成時には、次の処理が行われます。

- ・ 請求書の支払期日と方針の有効日付が比較され、延滞利息金を計算するためのレートを取得する際に使用する方針指示が決定されます。

請求書が支払済の場合は、入金元帳日付を使って延滞支払日数が計算されます。

延滞支払日数は入金元帳日付と基準日の日数差です。

- ・ 方針の年齢調べ開始日数と年齢調べ終了日数を使用して、請求書の支払期日を経過した日数(必要に応じて猶予日数を加算)が決定され、利息金と、利息金の計算に使用するレートと固定料金の作成が開始されます。

後続の利息金を作成される際に請求書が未払いである場合は、請求書レコードの前回利息金日付(LFCJ)と年齢調べ開始日数を使用して、利息金作成の開始日付が決定されます。後続の利息金には猶予日数は使用されません。

- ・ 方針の延滞利息金指示の設定に基づいて、未決済金額に対して計算するか、延滞支払額に対して計算するか、または複合延滞利息金など、以前作成した利息金に対して計算するかが決定されます。
- ・ 方針を使用して、年率、固定金額、またはこの両方のどれに基づいて利息金を計算するかを決定します。
- ・ 次の計算式を使用し、年間延滞利息率を使用して利息金が計算されます。

$$((\text{年間延滞利息率} \div \text{YYY}) \times .01) \times \text{請求書金額} \times \text{延滞日数}$$

YYY = 365日(または年間日数)

- ・ 対象となる請求書をまとめて、顧客と通貨ごとに延滞利息金を1つ作成します。
- ・ 延滞利息金明細(R03B22)を印刷します。

このプログラムをテスト・モードで実行すると、最終モードを実行した場合に作成される対象請求書の延滞利息金の額の詳細情報が記載される、延滞利息金仕訳が作成されます。

最終モードで実行すると、次の処理が行われます。

- ・ F03B11テーブルに延滞利息金伝票(伝票タイプRF)が作成され、顧客のすべての有効な請求書に対して利息金の合計が計算されます。
- ・ 延滞利息金仕訳テーブル(F03B22)と延滞利息金仕訳明細テーブル(F03B23)にレコードが作成されます。
- ・ F03B11テーブルと入金明細(F03B14)テーブルの最終料金日付(LFCJ)フィールドが更新されます。

利息金請求書レコードは、作成後に転記する必要があります。利息金を転記すると、使用する収益勘定と売掛金勘定を決定するためにAAI(自動仕訳)項目RFCとRFDを使用して取引明細テーブル(F0911)にレコードが作成されます。

方針の「回収管理者の承認必須」チェックボックスを選択した場合は、顧客に送付する延滞利息金が生産される前に、回収管理者の承認が必要になります。顧客レコードで指定された回収管理者に、ワークフロー・メッセージが送信されます。回収管理者は、このメッセージから「延滞利息金の処理」フォームへアクセスし、延滞利息金を承認または却下できます。

クレジット・メモおよび未充当入金

延滞利息金の処理では、クレジット・メモと未充当入金も考慮されます。ただし、顧客の全未決済金額の残高がマイナスの場合、延滞利息金は処理されません。クレジット・メモまたは未充当入金に対して計算された延滞利息金は、通常の請求書に対して計算された延滞利息金と相殺されます。これにより、顧客に対してクレジット・メモが消し込まれている請求書について過剰請求することがなくなり、また、延滞利息金を計算する前にクレジット・メモを請求書に対して手作業で消し込む必要もなくなります。

税金

延滞利息金明細プログラム (R03B22) の処理オプションを使用して、延滞利息金請求書レコードに税情報を含めることができます。

延滞利息金

延滞利息金の生成プログラムの該当処理オプションを指定するか、バッチ・バージョンから延滞利息金プログラム (R03B221) を実行することで延滞利息金を作成できます (メニューから延滞利息金プログラム (R03B221) は実行できません)。

延滞利息金を作成するには、入金レコード (F03B14) の請求書支払期日と方針の有効日付が比較され、利息金計算に使用するレートを取得するための方針が決定されます。

延滞利息金のデータ選択

特定の顧客の利息金を作成する場合、またはその他の基準に基づいて利息金を作成する場合は、延滞利息金明細プログラム (R03B22) ではなく延滞利息金の生成プログラム (R03B525) のデータ選択を変更します。

重要: データ選択で変更して特定の顧客の利息金を作成する場合は、処理オプションで与信/資金管理テーブル (F03B15) の更新を不可に設定する必要があります。この設定を行わないと、指定したデータ選択に応じてテーブルが更新されるため、回収管理者が日々行う回収活動に影響が出る場合があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 延滞利息金処理に使用するAAI (自動仕訳) 項目RFCとRFDを設定します。
- 「顧客マスターの改訂」フォームの「回収」タブにある「延滞利息金」チェックボックスが選択されていることを確認します。

延滞利息金の生成プログラムの実行

「計算書/延滞通知処理」メニュー (G03B22) から「延滞通知の生成」を選択します。

延滞利息金の生成 (R03B525) の処理オプションの設定

延滞利息金の生成と延滞通知の印刷は、それぞれ同じプログラムのバージョンです。そのため、処理オプションは同じです。処理オプションは、バージョンごとに処理オプションを設定する必要があります。

延滞利息金明細 (R03B22) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

税

この処理オプションでは、延滞利息金の税金情報の処理方法を指定します。

1. 延滞利息金に消費税を加える

延滞利息金に税を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 税を含む延滞利息金を作成しない。

1: 税を含む延滞利息金を作成する。

- 2. 税目コード** 延滞利息金レコード (F03B11、伝票タイプ RF) に割り当てる税目コードを指定します。この処理オプションをブランクにすると、業種別顧客マスター (F03012) の顧客マスター・レコードに割り当てられている税目コードが使用されます。
- 3. 税率/税域** 延滞利息金レコード (F03B11、伝票タイプ RF) に割り当てる税率と税域を指定します。この処理オプションをブランクにすると、顧客マスター・レコード (F03012) に割り当てられている税率と税域が使用されます。

延滞利息金 (R03B221) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

延滞

この処理オプションでは、延滞利息金をテスト・モードで処理するか最終モードで処理するかどうか、および利息金請求書レコードに割り当てる日付を指定します。

- 1. 延滞利息金レポートの印刷** プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードの場合、延滞利息金を課す顧客とその対象の請求書がレポートに印刷されます。最終モードの場合、レポートが生成され、F03B22、F03B23、F03B14 テーブルが更新されます。値は次のとおりです。
ブランク: テスト・モード。レポートの印刷のみ。テーブルを更新しない。
1: 最終モード。レポートを印刷し、テーブルを更新する。
- 2. 延滞利息金処理のバージョン** 延滞利息金計算に使用する延滞利息金明細プログラム (R03B22) のバージョンを指定します。ブランクの場合、デフォルト・バージョン ZJDE0001 が使用されます。
-
- 注意:** 延滞利息金明細プログラムには、処理オプションが関連付けられています。
-
- 3. 元帳日付** 請求書延滞レコード (RF) に割り当てる元帳日付を指定します。最終モードで延滞利息金を処理すると作成されます。このフィールドがブランクの場合には、現在の日付が使用されます。
- 4. 支払条件コード** 請求書延滞レコード (RF) に割り当てる支払条件コードを指定します。最終モードで延滞利息金を処理すると作成されます。
- 5. 延滞利息金の通貨** 延滞利息金レコード (RF) の通貨を決定するのに使用するレコードを指定します。延滞利息金レコードは、最終モードでの実行時に作成されます。ブランクの場合、デフォルト値の 1 (会社) が使用されます。値は次のとおりです。
1: 会社。請求書に入力した会社に割り当てられている通貨で延滞利息金を作成します。会社の通貨は F0010 テーブルに定義されています。
2: 顧客。F03012 テーブルの顧客レコードの住所録通貨コード・フィールド (CRCA) に指定されている通貨で延滞利息金を作成します。
3: 請求書。F03B11 テーブルの請求書レコードの通貨フィールド (CRCD) で指定されている通貨で延滞利息金を作成します。

延滞利息金の処理

この項では、延滞利息金の削除の概要と次の方法について説明します。

- 延滞利息金の検討 (P03B22) の処理オプションの設定
- 延滞利息金の検討、承認、却下
- 延滞利息金の削除
- 延滞利息金の除去 (R03B222) の処理オプションの設定

延滞利息金の削除について

延滞利息金の除去プログラム (R03B222) を実行して、F03B22 テーブルと F03B23 テーブルから選択したレコードを除去します。除去されたデータは、別テーブルにアーカイブされません。削除する情報を保持するには、削除前にテーブルをバックアップする必要があります。

処理オプションに入力した日付に基づいて利息金レコードが削除されます。また、日付に関係なく、却下された利息金レコードもすべて削除されます。処理オプションに加えデータ選択を使用して、選択したレコードを削除することもできます。

削除されたレコードのレポートは作成されません。

注意: 除去プログラムでは、将来日付を持つレコードは削除されません。F03B22 テーブルおよび F03B23 テーブルのすべてのレコードを削除する場合は、データ・ファイル・ユーティリティを使用することをお勧めします。

延滞利息金の処理に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|---------|---------|--|---|
| 延滞利息金明細 | W03B22B | 「計算書/延滞通知処理」 (G03B22)、「延滞利息金の検討」 「延滞利息金の処理」フォームで検討する利息金を選択し、「選択」をクリックします。 | 「延滞利息金明細」フォームには、各請求書と、その各請求書の延滞利息金が表示されます。クレジット・メモに対してはマイナスの延滞利息金が計算され、延滞利息金の合計からその分が差し引かれます。 |

延滞利息金の検討 (P03B22) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

延滞遅延金印刷のバージョン

バージョン 延滞利息金の処理時に使用される延滞利息金仕訳プログラム (R03B22) のバージョンを指定します。空白にした場合、デフォルトとして ZJDE0001 が使用されます。

延滞利息金の検討、承認、却下

「延滞利息金明細」フォームにアクセスします。

延滞利息金の 検 査 - 延滞利息金明細

延滞利息金の処理

延滞利息金明細

OK(O)

取消(L)

フォーム(F)

前

次

ツール(T)

住所No.

3333

Continental Corporat

延滞利息金

21.18

会社番号

00075

Cascades, Ltd

延滞利息金対象額

2,843.09

元帳日付

2005/08/31

通知日付

2005/08/31

承認

☒ 保留

☐ 承認済み

☐ 却下

☐ エラー

レコード 1-3

グリッドのカスタマイズ

| | 延滞利息金 | 延滞利息金対象額 | 基本通貨 | 会社 | 外貨延滞利息金 | 外貨延滞利息金対象額 | 通貨コード | 伝票番号 | 伝票タイプ | 伝票会社 | 支項 |
|----------------------------------|-------|----------|------|-------|---------|------------|-------|------|-------|-------|----|
| <input checked="" type="radio"/> | 9.73 | 1,306.29 | CAD | 00075 | | | CAD | 7775 | RI | 00075 | 00 |
| <input type="radio"/> | 11.45 | 1,536.80 | CAD | 00075 | | | CAD | 7775 | RI | 00075 | 00 |
| <input type="radio"/> | | | | | | | | | | | |

「延滞利息金明細」フォーム

フォームの見出し部分に、F03B22テーブルの延滞利息金レコードに関する情報が表示されます。

| | |
|----------|--|
| 延滞利息金 | 利息金レコード(伝票タイプRF)の金額が表示されます。 |
| 延滞利息金対象額 | 利息金の計算に使用される未決済請求書の合計金額が表示されます。 |
| 通知日付 | 利息金が作成された日付が表示されます。 |
| 延滞利息金 | 個々の請求書レコードの利息金が表示されます。 |
| 延滞利息金対象額 | 利息金の計算に使用される請求書の金額が表示されます。 |
| 承認済み、却下 | いずれかのオプションを選択し、延滞利息金を承認または却下します。 |
| エラー | エラーが表示されます。自分でエラー・オプションは選択できません。エラー・オプションが選択されている場合は、ワーク・センターにアクセスしてエラーを修正してください。エラーを修正すると、「延滞利息金明細」フォームで利息金の承認が可能になります。 |

延滞利息金の削除

「計算書/延滞通知処理」メニュー(G03B22)から「延滞利息金の除去」を選択します。

延滞利息金の除去(R03B222)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

日付

この処理オプションでは、削除するレコードを指定します。

1. 除去日付
- F03B22テーブルとF03B23テーブルから削除する延滞利息金レコードを決定するために使用する日付を指定します。指定した日付と同じかそれより古いレコードがすべて削除されます。この処理オプションをブランクにすると、「却下された延滞利息金」処理オプションの設定のみに基づいてレコードが削除されます。

- 2. 却下された延滞利息金** 却下された延滞利息金を削除する方法を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 除去日付を使用して、削除する却下済延滞利息金を決定します。
- 1: 却下された延滞利息金をすべて削除します。「除去日付」処理オプションの除去日付は無視されます。

第 20 章

顧客分析のための売掛管理統計の更新

この章では、売掛管理統計の概要を示し、次の作業を行う方法について説明します。

- 統計情報の更新
- 統計情報の分析
- 年次締め処理
- 統計実績レコードの除去

売掛管理統計について

複数の会計期間にわたる取引活動や、延滞売掛金回収平均日数(DSO)、加重平均延滞日数、平均請求書金額、入金遅れ請求書率などの統計を検討する場合は、与信履歴の更新プログラム(R03B16A)を実行します。このプログラムによって、一定期間にわたる回収のパフォーマンスに関する統計情報を収集したり、複数顧客の取引情報を同時に検討して比較できます。

小額消去額と不良債権額

与信履歴の更新プログラムを実行すると、売掛金統計履歴テーブル(F03B16)と売掛金統計サマリーテーブル(F03B16S)の小額消去額フィールド(MWO)と不良債権額フィールド(BDBT)の金額が累計されます。UDC(03B/RC)の特殊取扱コード・フィールドの値に基づき、それらのフィールドを更新する小額消去額が決定されます。

- UDCテーブルの特殊取扱コード・フィールドの値が1である場合、小額消去フィールドの小額消去額が累計されます。
- 特殊取扱コード・フィールドの値がブランクである場合、不良債権額フィールドの小額消去額が累計されます。

UDCテーブルの特殊取扱コード・フィールドを更新して、各フィールドと関連付ける理由コードを指定します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの設定」、「売掛管理のユーザー定義コード(UDC)の設定」、12 ページ

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Foundation Guide

統計情報の更新

この項では、与信履歴の更新プログラム、期間統計計算、期間統計上の年齢調べ情報の概要と、事前設定の一覧を示し、次の作業を行う方法について説明します。

- 与信履歴の更新プログラムの実行
- 与信履歴の更新 (R03B16A) の処理オプションの設定

与信履歴の更新プログラムについて

顧客分析の一環として与信履歴の更新プログラムを実行し、顧客勘定の統計情報を更新できます。これにより、特定の期間における顧客との取引を検討し、傾向分析や資金予測に役立てることができます。更新の対象は、次の決済済取引と未決済取引です。

- 請求書金額
- DSO

このバッチ処理を実行すると、転記済情報のみが対象になります。顧客勘定の開始日以降累計も更新されます。この情報は、顧客勘定の作成時以降の統計情報を累計している点を除いて、期間統計と同じです。次のデータが含まれます。

- 初回請求書と前回請求書の日付
- 前回入金日

このバッチ・プロセスの実行には時間がかかります。業務のピーク時を避けてこのプロセスを実行してください。

統計情報の更新時に、次のテーブルから情報が収集されます。

- 売掛金元帳 (F03B11)
- 請求書改訂履歴 (F03B112)
- 入金見出し (F03B13)
- 入金明細 (F03B14)

情報の収集後に、F03B16テーブルとF03B16Sテーブルが更新されます。F03B16Sのレコードには、F03B16のレコードのサブセットが集計されています。このサブセットは、処理オプションを使用して定義します。集計情報は、親/子レベルで保存されます。親レコードには、親顧客とそれに関連するすべての子顧客の情報が含まれています。

業種別顧客マスター (F03012) の次のフィールドも更新されます。

- 今年度請求額 (ASTY)
請求書に適用可能な税の有無にかかわらず、F03B11テーブルの総額 (AG) の値でこのフィールドが更新されます。
- 前年度請求額 (SPYE)
- 年累計延滞利息 (AFCY)
- 前回支払金額 (ALP)
- 初回請求書日付 (DFIJ)
- 前回請求書日付 (DLIJ)
- 前回支払日付 (DLP)

F03B16テーブルに請求書情報と入金情報が入力されると、処理済のレコードのISTC(資金管理への売掛金転記)フィールドが1に更新されます。これによって同じレコードが2回以上処理されることがなくなります。転記済の取引データをテーブルに含めないようにするには、データ・ファイル・ユーティリティを使用してISTCフィールドの値を1に変更してください。ISTCフィールドは、F03B11、F03B112、F03B13、およびF03B14テーブルにあります。

F03B14テーブルのR5損金レコードや、F03B11テーブルのRU(未充当入金)レコードやR1(手形)レコードは処理されません。

与信履歴の更新プログラムを正常に実行するには、次の手順に従います。

- システムに請求書や入金を入力したすべての会計年度について会社00000の与信/回収期間パターンを設定します。
- 処理対象の請求書と入金はすべて転記します。
- このプログラムのデータ選択やデータ順序を変更しないでください。
- 与信履歴の更新プログラム実行後は、最高残高の計算以外の処理オプションを変更しないでください。

期間統計計算について

顧客分析の一環として、処理オプションの設定に基づいて顧客勘定の統計情報を更新できます。この更新を行うには、与信履歴の更新プログラムを実行します。これにより、特定の期間における顧客勘定の動きを検討し、傾向分析と資金予測に役立てることができます。

この項では、設定に関する考慮事項、トラブルシューティングのヒント、システム内で行われる計算のクイック・リファレンスを示します。

設定に関する考慮事項

設定時には次の点に注意してください。

- 与信/回収期間パターンを少なくとも会社00000には指定して、すべての請求書と入金の元帳日付が設定されるようにしておく必要があります。
- 与信履歴の更新プログラムを実行する場合、データ選択の設定は変更しないでください。
- F03B16Sテーブルのレコードは、F03B16テーブルのレコードのサブセットの集計です。
このサブセットは、R03B16Aの処理オプション5と6で定義します。

トラブルシューティングのヒント

トラブルシューティングのヒントを次に示します。

- 顧客間の親子関係で、親を子の子として設定することはできません。
これはループ・エラーになります。
- 次のいずれかの条件を満たすレコードのみが与信履歴の更新プログラムの処理対象になります。
F03B11: RPPOST = D、RPISTC != 1、RPDCT != RU、RPN8 != 0
F03B112: RWPOST = D、RWISTC != 1、RWAN8 != 0
F03B13: RYNFVD = N、RYISTC != 1、RYAN8 != 0
F03B14: RZPOST = D、RZISTC != 1、RZAN8 != 0
- F03B11テーブルのR5レコードはISTC = 1で作成されるため、与信履歴の更新プログラムの処理対象には含まれません。

計算

「与信/回収管理」メニュー（G03B15）から「期間別統計」フォームにアクセスして、統計的（期間）計算結果を検討できます。次の表には、システム内で行われるこの情報の計算方法が示されています。

| ページ・フィールド | 計算情報 |
|-----------|---|
| 不良債権金額 | 小額消去理由コード・フィールドに値が自動入力され、03B/RC UDCテーブルの特殊取扱コード・フィールドがブランクの場合、小額消去金額は不良債権の合計に加算されます。それ以外の場合、金額は小額消去合計に加算されます。 |
| 小額消去 | 03B/RC UDCテーブルの特別取扱コード・フィールドが1の場合、小額消去金額がこの合計に加算されます。 |
| 不良債権比率 | 不良債権額が期間合計売上高で除算されます。 計算方法は、“不良債権額 ÷ 期間合計売上高”です。 |
| 小額消去合計 | このフィールドは、不良債権額と小額消去額の合計です。 計算方法は、“不良債権額 + 小額消去額”です。 |
| 平均日数 | <p>次の計算が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 合計日数 = 請求書の支払期日と入金日付との差 入金日付と請求書支払期日との日数差が計算され、計算結果が合計日数に加算されます。 平均日数 = 合計日数 ÷ 支払請求書数 平均日数は、合計日数を支払済請求書数で割ることで算出されます。 <p>請求書を締める入金、または決済済の請求書のみが支払済請求書数に含まれます。</p> <p>たとえば、期日に1日遅れて100,000が入金されたと想定します。それとは別に、期日に30日遅れて500が入金されたとします。それぞれの入金は1つの請求書に対して行われています。</p> <p>非加重の平均支払日数の計算を使用すると、平均支払日数は15.5日になります。</p> <p>請求書数 ÷ 支払日数 = 非加重平均支払日数 (2 ÷ 31 = 15.5)</p> |

| ページ・フィールド | 計算情報 |
|-----------|---|
| 加重平均日数 | <p>現時点での全入金額の比率に基づいて、平均支払日数の計算に対して重み付けが行われます。入金金額が大きいと、平均支払日数に対する影響が増します。</p> <p>次の計算が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 延滞日数 = 請求書の支払期日と入金日付との差 • 前の入金額 = 最後に受領した支払の金額 • 現在の入金の日数 = 入金額 ÷ (入金額 + 前の入金額) <p>たとえば、100,000の入金が期日に1日遅れ、500の入金が期日に30日遅れたと想定します。それぞれの入金は1つの請求書に対して行われています。</p> <p>加重平均延滞日数の計算を使用する場合、平均延滞日数は1.1日になります。前の入金額 ÷ (入金額 + 前の入金額) + 現在の入金の日数 (入金額 ÷ (入金額 + 前の入金額))</p> $100,000 \div (500 + 100,000) + 30 (500 \div (500 + 100,000)) = 1.1.$ <p>加重平均日数を求めるF03B16とF03B16Sレベルの計算は次のとおりです。</p> <p>前の平均支払日数 (前の入金額 ÷ (入金額 + 前の入金額合計)) = 現在の平均支払日数 (現在の入金額 ÷ (現在の入金額合計 + 前の入金額))</p> |

| ページ・フィールド | 計算情報 |
|-----------|--|
| DSO | <p>DSOの値は、F03B16に期間レベルで保存されます。DSOの計算方法は次のとおりです。</p> <p>逆算方式を使用し、現在の未回収残高が売上高合計よりも少ない場合は、“$DSO = (現行残高 \div 売上高合計) \times 指定した期間に含まれる日数$”です。</p> <p>それ以外の場合の計算は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現行残高から現在の期間の合計売上高を差し引いて、指定した期間に含まれる日数でDSOを増分します。 • 未回収残高から直前期間の売上高合計を差し引きします。 直前期間の売上高が未回収残高を上回るまでこの計算を続けます。 • 未回収残高が直前期間を下回った場合、“$DSO = 累積DSO + ((基準期間残高 \div 売上合計) \times 期間内の日数)$”です。 <p>基準期間残高を売上高で割る方式でのDSOの計算は次のように行います。 $DSO = (現行売掛金残高 \times n期間の日数) \div n期間内の請求書合計金額$ $n = \text{処理オプションで指定された期間数}$</p> <p>平均残高を売上高で割る場合の計算は次のように行います。 $DSO = ((期末残高 \times n期間数) \times 平均日数) \div n期間の合計売上高$</p> <p>値の定義は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • “売上金額”は請求書の課税対象額です。このフィールドをブランクにした場合は、総額が使用されます。 • “期末残高”は、その期間の最終日付における未決済売掛金の金額です。 • “日数”は対象期間の日数です。この値は、与信/回収期間パターン・テーブル(F03B08)で定義されます。 • nは、処理オプションで指定した期間数です。 <p>次に例を示します。</p> <p>1月は、売上が7,570.00で、期末残高が10,825.00で、期間日数は31です。 2月は、売上が4,566.00で、期末残高が10,596.00で、期間日数は28です。 3月は、売上が5,538.00で、期末残高が10,869.00で、期間日数は31です。</p> <p>$DSO = (10,869 + 10,569 + 10,825) \times 30 \div (5,538 + 4,566 + 7,570) = 54.81$ (3月)</p> <p>注意: サンプル計算の処理オプション設定は次のとおりです。1. DSO計算方法(平均残高) = 1、2. 期間数 = 3、3. 集計日数 = 開始日以降累計</p> |

DSOの例

次の表には、ここでのDSOの各種の計算に使用される金額が示されています。

| 期間 | 売上高 | 期末残高 | 期間日数 |
|----|------|-------|------|
| 1月 | 7570 | 10825 | 31 |
| 2月 | 4566 | 10596 | 28 |
| 3月 | 5538 | 10869 | 31 |

逆算方式

次の表には、逆算方式によるDSOの計算方法が示されています。

| | | |
|----|-----------------------------------|-------------------------|
| 3月 | $10869 - 5538 = 5331$ | 累計DSO = 31 |
| 2月 | $5331 - 4566 = 765$ | 累計期間日数 = $31 + 28 = 59$ |
| 1月 | $(765 \div 7570) \times 31 = 3.1$ | |
| | | $DSO = 59 + 3.1 = 62.1$ |

平均残高を売上高で割る方式

この例では、平均残高を売上高で割る方式でDSOを計算します。

$$((10869 + 10596 + 10825) \times 30) \div (5538 + 4566 + 7570)$$

$$DSO = 54.81$$

基準期間残高を売上高で割る方式

この例では、基準期間残高を売上高で割る方式でDSOを計算します。

$$(10869 \times 90) \div (5538 + 4566 + 7570)$$

$$DSO = 55.35$$

次の表には、その他の金額の計算方法が示されています。

| ページ・フィールド | 計算情報 |
|-----------|---|
| 与信日数 | DSOと同じ計算方法を使用します。ただし、現在期間の期末残高ではなく、現在または将来期日における残高を使用して計算される点が異なります。 計算方法は、“未決済金額 - 期日超過金額”です。 |
| 延滞日数 | 与信日数を超えて支払が滞納されている日数です。 計算方法は、“DSO - 与信日数”です。 |
| 延長日数 | 顧客との間で取り決めた支払条件を超えた日数です。 計算方法は、“与信日数 - 支払条件”です。 結果: セールス担当者が支払条件を超えて顧客に与える猶予日数 |

| ページ・フィールド | 計算情報 |
|-----------|------------------------|
| 請求金額 | 請求書の総額です。 |
| 売上高 | 請求書の課税対象額です。 |
| 延滞支払率 | 計算方法は、“請求金額 ÷ 延滞合計”です。 |

技術上の考慮事項

与信履歴の更新プログラムを実行すると、各顧客について、F03B16Sテーブルに少なくとも4つのレコードが作成されます。たとえば、会社00001の顧客1234に対して1件の請求書を入力した場合、テーブルに次のレコードが作成されます。

- 請求書が入力された会社(RTCO = 00001)の子情報(RSPART = C)について1レコード
- 会社00000の子情報(RSPART = C)について1レコード
会社00000のレコードを使用して、すべての会社レコードの情報が合計されます。
- 請求書が入力された会社(RSCO = 00001)の親情報(RSPART = P)について1レコード
親/子関係を使用しない場合でも、親レコードは作成されます。
- 会社00000(RSCO = 00000)の親情報(RSPART = P)について1レコード
会社00000のレコードを使用して、すべての会社レコードの情報が合計されます。

複数の会社に対して入力された請求書がある場合は、親と子の両方に、各会社に1つの追加のレコードが作成されます。

期間統計の年齢調べ情報について

「顧客取引残高照会」フォームや「顧客取引状況集計」フォームなどとは異なる様式で「期間別統計」フォームに表示される年齢調べ情報が取得されます。

与信履歴の更新プログラムを実行すると、年齢調べ請求書に次の基準が適用され、各期間の年齢調べ情報が表示されます。

| 条件 | 説明 |
|---------|--|
| 年齢調べ方法 | 与信/回収期間パターンで定義する会計期間別に年齢が調べられます。 |
| 年齢調べ日付 | 与信/回収日付パターンで定義する各会計期間の最終日を使用されます。 |
| 年齢調べ基準日 | 売掛管理固定情報の値が使用されます(支払期日、請求書日付、元帳日付、または計算書日付)。 |

年齢調べの例

この例には次の情報を使用します。

- 与信/回収期間パターン: カレンダー年度用に定義
- 年齢調べ基準日: 請求書支払期日

- ・ 支払期日が2008年6月15日で請求額が2000の請求書

2008年6月15日以降に与信履歴の更新プログラムを実行すると、請求書の金額(2000)は2008年6月30日に終了する期間の最初の年齢調べカテゴリに表示されます。

7月に与信履歴の更新プログラムを実行する際に請求書が未処理である場合、2008年6月30日に終了する期間と2008年7月31日に終了する期間の両方の最初の年齢調べカテゴリに「2000」が表示されます。8月に与信履歴の更新プログラムを実行する際に請求書が未処理である場合は、次のように表示されます。

- ・ 2008年8月31日に終了する期間の第3の年齢調べカテゴリに2000が含まれます。
- ・ 2008年7月31日に終了する期間の第2の年齢調べカテゴリに2000が含まれます。
- ・ 2008年6月30日に終了する期間の第1の年齢調べカテゴリに2000が含まれます。

次の表には、2008年6月15日に与信履歴の更新プログラムを実行した後、「期間別統計」フォームに年齢調べ情報がどのように表示されるかが示されています。

| 期末日付 | 経過金額1 | 経過金額2 | 経過金額3 | 経過金額4 |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 2008年6月30日 | 2000 | | | |

次の表には、2008年7月15日に与信履歴の更新プログラムを実行した後、「期間別統計」フォームに年齢調べ情報がどのように表示されるかが示されています。

| 期末日付 | 経過金額1 | 経過金額2 | 経過金額3 | 経過金額4 |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 2008年7月31日 | | 2000 | | |
| 2008年6月30日 | 2000 | | | |

次の表には、2008年8月15日に与信履歴の更新プログラムを実行した後、「期間別統計」フォームに年齢調べ情報がどのように表示されるかが示されています。

| 期末日付 | 経過金額1 | 経過金額2 | 経過金額3 | 経過金額4 |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 2008年8月31日 | | | 2000 | |
| 2008年7月31日 | | 2000 | | |
| 2008年6月30日 | 2000 | | | |

次の表には、2008年9月15日に与信履歴の更新プログラムを実行した後、「期間別統計」フォームに年齢調べ情報がどのように表示されるかが示されています。

| 期末日付 | 経過金額1 | 経過金額2 | 経過金額3 | 経過金額4 |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 2008年9月30日 | | | | 2000 |
| 2008年8月31日 | | | 2000 | |

| 期末日付 | 経過金額1 | 経過金額2 | 経過金額3 | 経過金額4 |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 2008年7月31日 | | 2000 | | |
| 2008年6月30日 | 2000 | | | |

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 会社00000の与信/回収期間パターンを設定します。
- すべての請求書と入金を転記します。
- 不良債権と小額消去の金額の累計に使用するUDCの値が指定済であることを確認します。
- 別のシステムから情報を変換する場合は、年次締めプログラム(R03B16A1)を実行して前年度請求金額を更新できます。

与信履歴の更新プログラムの実行

「与信/回収管理」メニュー(G03B15)から「与信履歴の更新」を選択します。

与信履歴の更新(R03B16A)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

DSO

この処理オプションでは、DSOを計算する方法を指定します。

1. DSO(売掛金回収平均日数)の計算方法 売掛金平均回収日数フィールド(DSO)の値の計算方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 逆算方式

1: 平均残高

2: 現行残高

2. 期間数

与信/回収期間パターンに基づき、売掛金回収平均日数フィールド(DSO)の値の計算に使用される会計期間の数を指定します。

計算

この処理オプションでは、売掛金回収平均日数と最高残高の金額を計算するかどうかを決定します。

1. DSO(売掛金回収平均日数)の計算

この処理オプションを使用して、売掛金回収平均日数フィールド(DSO)の値を計算するかどうかを指定します。この値の計算には、処理オプション「DSO(売掛金回収平均日数)の計算方法」と「期間数」にそれぞれ指定した値が使用されます。DSOの数値を得るためにシステム内で複雑な計算が行われるため、毎日夜間にDSOの計算を実行するよりも、定期的(週次や月次など)に実行した方が全体の処理時間を短縮できます。値は次のとおりです。

ブランク: DSOは計算されません。

1: 「DSO」タブで処理オプションに入力した値に基づいてDSOが計算されます。

2. 最高残高の計算

この処理オプションを使用して、最高残高を計算するかどうかを指定します。この処理オプションを選択すると、最高残高の計算プログラム (R03B162) が実行されます。与信履歴を更新するたびに最高残高を計算する必要がない場合は、この処理オプションをブランクにして、必要時にのみこの処理オプションを選択することで、処理時間を節約できます。値は次のとおりです。

ブランク: 最高残高は計算されません。

1: 最高残高が計算されます。最高残高は、期首残高 (直前期間の期末残高) に対して、直前期間の末日付からプログラム実行日の間に発生した請求額の加算と入金 の減算を行うことによって計算されます。今日の残高が前日の残高を超えた場合は、それが新規の最高残高になります。

レコード集計

この処理オプションでは、F03B16Sテーブルの更新に使用されるレコードを指定します。

1. 集計日数

このオプションを処理オプション「終了日付」と併用し、情報をレコードに集計してF03B16Sテーブルに保存するための、F03B16テーブルから取得する明細レコードのサブセットを指定します。

たとえば、処理オプション「集計日数」を365、「終了日付」を2006年9月30日とした場合、F03B16テーブルに保存されている2005年10月1日から2006年9月30日までのレコードでF03B16Sテーブルが更新されます。

日数を指定しない場合は、終了日付に入力した日付より前のすべてのレコード (開始日以降累計) が選択されます。この処理オプションの設定は、システムが計算に要する処理時間に大きく影響します。開始日以降累計情報を管理する必要がない場合は、集計日数を指定して、プログラムの全体の処理時間を短縮してください。集計レコードの金額を更新するには、与信/回収期間パターンで定義した1期間の日数を入力する必要があります。日数を入力しない場合、集計レコードは日付の値のみ更新されます。

F03B16Sテーブルは、与信/回収期間パターンで定義済の、完了した期間に対してのみ更新されます。たとえば、与信/回収期間パターンが通常のカレンダー年にあわせて設定されている場合、終了日付フィールドで4月15日を指定すると、F03B16Sテーブルは期間3 (3月) までの情報しか更新されません。このテーブルの情報を毎日更新するには、終了日付を次の期間の開始日付より前に設定するか、または会計年度末に設定します。

2. 終了日付

このオプションを処理オプション「集計日数」と併用し、情報をレコードに集計してF03B16Sテーブルに保存するための、F03B16テーブルから取得する明細レコードのサブセットを指定します。

たとえば、処理オプション「集計日数」を365、「終了日付」を2006年9月30日とした場合、F03B16テーブルに保存されている2005年10月1日から2006年9月30日までのレコードでF03B16Sテーブルが更新されます。

日数を指定しない場合は、終了日付に入力した日付より前のすべてのレコード (開始日以降累計) が選択されます。この処理オプションの設定は、システムが計算に要する処理時間に大きく影響します。開始日以降累計情報を管理する必要がない場合は、集計日数を指定して、プログラムの全体の処理時間を短縮してください。集計レコードの金額を更新するには、与信/回収期間パターンで定義した1期間の日数を入力する必要があります。日数を入力しない場合、集計レコードは日付の値のみ更新されます。

F03B16Sテーブルは、与信/回収期間パターンで定義済の、完了した期間についてのみ更新されます。たとえば、与信/回収期間パターンが通常のカレンダー年にあわせて設定されている場合、この処理オプションで4月15日と指定すると、F03B16Sテーブルは期間3(3月)までの情報しか更新されません。このテーブルの情報を毎日更新するには、終了日付を次の期間の開始日付より前に設定するか、または会計年度末に設定します。

統計情報の分析

この項では、統計情報の概要、事前設定の一覧を示し、次の作業を行う方法について説明します。

- 統計情報の検討
- 顧客勘定の期間別統計の検討

統計情報について

与信/回収活動の一環として、特定期間内における顧客の支払傾向を分析できます。たとえば、顧客の請求書の支払遅延平均日数や、顧客に請求した合計金額を検討できます。また、次のタイプの統計実績も検討できます。

- 顧客勘定が設定された日付
- 支払遅延請求書の金額と件数
- 顧客の最高残高の金額と日付
- DSO

統計情報は、与信/回収期間パターンで定義した会計期間別に検討できます。また、与信履歴の更新プログラムの実行時に設定した処理オプションに基づいて集計された統計情報を検討することもできます。

各顧客の統計情報が会社別に表示され、会社00000レコードに含まれるすべての会社の合計が示されます。

集計された統計情報はF03B16Sテーブルに保存され、期間別の情報はF03B16テーブルに保存されます。

注意: 1つ以上の請求書が次の期間に転記されないかぎり、前の期間から次の期間への情報の更新は行われません。たとえば、2008年6月30日で終了する期間の年齢調べカテゴリで請求書が表示される場合、その(それらの)請求書が未決済であっても、少なくとも1つの請求書が7月期に転記されないかぎり、2008年7月31日の年齢調べカテゴリでは表示されません。

事前設定

与信履歴の更新プログラムを実行して、F03B16テーブルとF03B16Sテーブルを更新します。

統計情報の分析に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|-----------|---------|--|---|
| 顧客別取引履歴照会 | W03B16E | <ul style="list-style-type: none"> 「与信/回収管理」(G03B15)、「顧客取引履歴の照会」 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「顧客取引履歴の照会」 | 顧客の請求書の支払遅延平均日数などの統計情報を検討したり、顧客に請求した合計金額を検討できます。 |
| 期間別統計 | W03B16F | 「顧客別取引履歴照会」フォームで顧客勘定を選択し、「選択」をクリックします。 | 「期間別統計」フォームでは、各期間の情報が個別の明細行に表示されます。合計は最終行の1行上に表示されます。最終行の黒い太字で表示されている数値は、そのカラムの平均値です。この平均には活動のない期間も含まれています。 |

統計情報の検討

「顧客別取引履歴照会」フォームにアクセスします。

顧客取引履歴の照会 - 顧客別取引履歴照会

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

顧客No. *

☐ 親

レコード 1 - 10

| 顧客No. | 顧客名 | 会社 | 会社名 | 残高 | 最高残高 | 最高残高日付 | 支払までの平均日数 | 請求金額 | 請求書件数 |
|-------|-----------------------------|-------|---------------------|-----------|------------|------------|----------------|-----------|-------|
| 150 | Property Management Company | 00000 | Worldwide Co... | 16,716.66 | 21,026.46 | 2005/05/01 | | 16,716.66 | |
| 150 | Property Management Company | 00050 | Project Manage... | 16,716.66 | 26,630.50 | 2005/06/30 | | 16,716.66 | |
| 1001 | AB Common | 00000 | Worldwide Co... | 36,092.80 | 74,055.85 | 2005/05/01 | .557887288- | 87,820.85 | |
| 1001 | AB Common | 00001 | Financial/Distri... | 36,092.80 | 100,966.90 | 2005/06/30 | .557887288- | 87,820.85 | |
| 1540 | DeAnna's Deli | 00000 | Worldwide Co... | 3,500.00 | 3,500.00 | 2005/07/01 | 1.0000000000- | 8,557.00 | |
| 1540 | DeAnna's Deli | 00150 | Real Estate Ma... | 3,500.00 | 7,000.00 | 2005/07/31 | 1.0000000000- | 8,557.00 | |
| 3001 | Global Enterprises | 00000 | Worldwide Co... | 53,108.95 | 678,138.74 | 2005/05/01 | 12.49244854... | 86,108.95 | |
| 3001 | Global Enterprises | 00001 | Financial/Distri... | 35,431.26 | 67,443.26 | 2005/05/31 | 12.49244854... | 68,431.26 | |
| 3001 | Global Enterprises | 00050 | Project Manage... | 17,677.69 | 619,907.48 | 2005/07/01 | | 17,677.69 | |
| 3002 | Atlantic Corporation | 00000 | Worldwide Co... | 47,426.47 | 92,323.30 | 2005/06/30 | 16.0000000000 | 75,323.30 | |

「顧客別取引履歴照会」フォーム

親レコードのみの情報を検討するには、「親」チェックボックスを選択して「検索」をクリックします。

顧客勘定の期間別統計の検討

「期間別統計」フォームにアクセスします。

顧客取引履歴の照会 - 期間別統計

顧客別取引履歴照会

期間別統計

選択(S)

検索(I)

閉じる(L)

フォーム(F)

ツール(T)

顧客No.

3333

Continental Incorporated

会社

00000

Worldwide Company

日付範囲

開始

*

終了

*

レコード 1 - 8

グリッドのカス

| | 期末 日付 | 残高 | 延滞 合計 | 未回 収 日数 | 与信 日数 | 延滞 日数 | 延長 日数 | 加重平均 日数 | 平均 日数 |
|----------------------------------|------------|-----------|-----------|---------------|----------|----------|----------|---------------|---------------|
| <input checked="" type="radio"/> | 2005/09/30 | 84,396.79 | 83,711.68 | 168 | 61 | 107 | 31.00 | | |
| <input type="radio"/> | 2005/08/31 | 84,396.79 | 83,711.68 | 194 | 2 | 192 | 28.00 | 25.939634552 | 24.8000000000 |
| <input type="radio"/> | 2005/07/31 | 88,994.94 | 87,899.68 | 116 | 1 | 115 | 29.00 | 11.0000000000 | 9.0000000000 |
| <input type="radio"/> | 2005/06/30 | 89,461.30 | 47,860.85 | 84 | 39 | 45 | 9.00 | 9.116071429 | 9.0000000000 |
| <input type="radio"/> | 2005/05/31 | 98,061.30 | 26,059.85 | 103 | 75 | 28 | 45.00 | 1.0000000000 | |
| <input type="radio"/> | 2005/04/30 | 99,036.45 | | 110 | 110 | | 80.00 | | |
| <input type="radio"/> | | | | | | | | | |
| <input type="radio"/> | | | | | | | | | |
| <input type="radio"/> | | 90,724.60 | 54,873.96 | | | | | | |

「期間別統計」フォーム

年次締め処理

この項では、年次締め処理の概要、事前設定の一覧を示し、次の作業を行う方法について説明します。

- 年次締めプログラムの実行
- 年次締め (R03B161) の処理オプションの設定

年次締めについて

年次締めプログラムは、次のような場合に実行します。

- 与信/回収期間パターンで定義した会計年度が完了した場合
- 別のシステムの請求書情報を変換した後で、前年度請求額フィールド (SPYE) に値を設定する場合

年次締めプログラムを実行すると、次の処理が行われます。

- 年累計請求額が再計算され、前年度請求額フィールド (SPYE) が更新されます。
会計年度の処理オプションに入力した値によって、その年度の請求金額が計算されます。
- 今年度請求額フィールド (ASTY) の金額がクリアされます。
- 与信/回収期間パターン・テーブルの現行年度を示す期間パターンが変更されます。

現行年度を示す会計期間パターンの値は2 (前年度) に変更されます。次会計年度に設定されている期間パターンは1 (現行年度) に変更されます。

今年度請求額フィールドと前年度請求額フィールドは、次のフォームで検討できます。

- 「顧客別取引履歴照会」フォーム（顧客取引履歴プログラムからアクセス）
- 「顧客追加情報」フォーム（顧客マスター情報プログラムからアクセス）

事前設定

会社の与信/回収期間パターンが次の会計年度について設定されていることを確認します。会社00000に期間パターンを設定しておく必要があります。

年次締めプログラムの実行

「期末処理」メニュー（G03B21）から「年次締め」を選択します。

年次締め（R03B161）の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

年度

この処理オプションでは、除去されるレコードが決まります。

1. 会計年度

設定した与信/回収期間パターンに基づいて、締め処理の対象の年度を入力します。指定した会計年度の年累計請求額が再計算され、前年度請求額フィールド（SPYE）が更新されます。

統計実績レコードの除去

この項では、統計実績の除去の概要を示し、次の作業を行う方法について説明します。

- 統計除去データの再転記プログラムの実行
- 統計除去データの再転記（R03B163）の処理オプションの設定

統計実績の除去について

統計除去データの再転記プログラムを実行すると、次の処理が行われます。

- データ選択の設定に基づいて、F03B16テーブルからレコードが除去されます。

重要: F03B16テーブルは会社別の合計とすべての会社（会社00000）の合計で構成されているため、データ選択で「Company」は使用しないでください。

- F03B11テーブルにある請求レコードとF03B14テーブルにある入金レコードの「資金管理への売掛金転記」フィールド（ISTC）の値が1から0にリセットされます。請求書に対する変更はF03B11テーブルに反映されるため、F03B112テーブルにあるレコードのISTCフィールドの値はリセットされません。

処理オプションの設定変更などによって、処理を最初からやりなおす必要がある場合は、F03B16テーブルのレコードを除去します。処理オプションでバージョンを指定した場合は、F03B16テーブルの情報が除去され、ISTCフィールドの状況がリセットされた後、与信履歴の更新プログラム(R03B16A)が自動的に再実行されます。このため、統計除去データの再転記プログラムの処理オプションでバージョンを指定する場合、除去を実行して再転記するには、与信履歴の更新プログラムの処理オプションを適切に設定しておく必要があります。F03B16テーブル用に作成する新規の値に基づいて、F03B16Sテーブルの情報の再計算が行われます。

統計除去データの再転記プログラムの実行

「売掛管理システムの上級/技術的操作」メニュー(G03B31)から「統計除去データの再転記」を選択します。

統計除去データの再転記(R03B163)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

オプション

この処理オプションでは、F03B16Sテーブルを再作成するために除去処理の完了時に実行される与信履歴の更新プログラムのバージョンが決まります。

1. R03B16Aのバージョン レコードの除去または再転記処理の完了後に実行される与信履歴の更新プログラムのバージョンを指定します。バージョンを指定しない場合、与信履歴の更新プログラムは実行されません。

日付

この処理オプションでは、F03B16テーブルからの除去処理の対象に選択されるレコードを指定します。

1. 開始日付、2. 終了日付 これらの処理オプションを使用して、F03B16テーブルから除去されるレコードの日付範囲を指定します。

第 21 章

払戻し処理

この章では、払戻しの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 払戻しの作成
- 払戻しの転記

払戻しについて

払戻しを使用して JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムで過入金を再分類し、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムで未払伝票を作成します。たとえば、リポートを出して顧客に過入金を返金できます。払戻しを作成すると、未決済のクレジット・メモに対して支払が行われ、顧客への払戻し伝票が作成されます。

払戻し処理は、顧客、会社および通貨の組合せに基づいて行うことができます。

注意: 払戻し処理の他に、売掛/買掛相殺プロセスを使用して、売掛管理と買掛管理の取引を相殺することもできます。

参照: [第 22 章、「売掛金と買掛金の相殺」、453 ページ](#)

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムと買掛管理システム間の仮勘定 (決済勘定) について、AAI (自動仕訳) 項目 NC を設定します。
- 顧客の仕入先マスター・レコードが住所録にあることを確認します。
- ユーザー定義コード 00/DV (伝票) と 00/DT (請求書) に有効な伝票タイプ NO が設定されていることを確認します。

払戻しの作成

この項では、払戻しの作成の概要と、次の方法について説明します。

- 払戻しの作成プログラムの実行

- 払戻しの作成 (R03B610) の処理オプションの設定

払戻しの作成について

払戻しの作成プログラム (R03B610) には、テスト・モードと最終モードの2つのバージョンがあります。払戻し可能な伝票リストを印刷するには、テスト・モードのバージョンを使用します。顧客、会社、通貨の組合せごとに個別の払戻しレコードが作成され、レポートに印刷されます。

払戻しを処理するには、払戻し可能な伝票のリストから伝票を選択し、最終モードでバージョンを実行します。システムによって次の処理が行われます。

- 入金レコードが入金見出しテーブル (F03B13) と入金明細テーブル (F03B14) に作成され、選択した請求書が決済済になります。
- 入金バッチ (バッチ・タイプ RB) が作成されます。このバッチは転記する必要があります。
入金バッチを転記すると、売掛金勘定に借方記入され、AAI項目NCで指定した仮勘定に貸方記入されます。
- 請求書の支払状況がP (支払済) に変更されます。
- 買掛金元帳テーブル (F0411) に伝票タイプNOの買掛伝票が作成されます。

注意: クレジット・メモの税情報が記された伝票は作成されません。

- 伝票バッチ (バッチ・タイプ V) が作成されます。このバッチは転記する必要があります。
伝票バッチを転記すると、買掛金勘定に貸方記入され、AAI項目NCで指定した仮勘定に借方記入されます。

両方のバッチが正常に転記されると、仮勘定の残高はゼロになります。残高がゼロにならない場合は、この2つのバッチのいずれかの転記に問題があります。

注意: 次の請求書伝票は払戻し処理に含まれません。

未充当入金 (RU)

手形 (R1)

損金 (R5)

未充当入金

払戻しの作成プログラムでは、未充当入金 (伝票タイプ RU) は処理されません。未充当入金の伝票は顧客に払戻しする必要がありますが、これらの伝票は入金プログラムによって作成されるため、F03B13テーブルとF03B14にもレコードが作成されています。

未充当入金について顧客に払戻しを行うには、入金を決済済にして、返金請求書を作成する必要があります。このためには、次の作業を行います。

- 金額ゼロの請求書を作成します。
- 入金入力で、未充当入金を選択します。
- 「フォーム」メニューの「選択」を選択します。請求書の選択で、金額がゼロの請求書を検索して選択します。
- 入力タイプ・コード・フィールドに「10」を入力し、支払金額フィールドに未充当金額を指定します。
- 「OK」をクリックします。

未充当入金を請求書に対して消し込む前に転記すると、未決済金額がゼロ(ブランク)になり、この入金
は決済済になります。請求書の未決済金額は、ゼロ(ブランク)から消し込まれた入金額をマイナスにし
た金額に変わります。

未充当入金が転記されなかった場合、F03B14テーブルと売掛金元帳テーブル(F03B11)の未充当レコー
ドが削除され、マイナスの金額で請求書が更新されます。これにより、払戻しの作成プログラムで請求書
にアクセスし、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムで伝票を作成して顧客に払戻しできるよう
になります。

自動採番

NO伝票の伝票番号は、システム04の自動採番テーブルの伝票入力行(行1)から割り当てられます。払
戻し用に作成した伝票に個別の自動採番を割り当てるには、次のいずれかの方法を使用します。

• 自動採番

ユーザー定義コード00/DVのコードNOの記述2フィールドに、行番号を指定する必要があります。次に、
システム04(買掛管理)の行に自動採番を指定します。

• 会社/会計年度別自動採番

このフォームは、該当する会計年度について伝票タイプNOに別個の行を作成する場合に使用します。

例: 払戻し用の伝票の選択

データ選択で指定したレコードの金額がマイナスの場合、払戻し伝票が作成されます。たとえば、次の
レコードがF03B11テーブルにあるとします。

| 顧客 | 会社 | 伝票タイプ | 金額 | 通貨コード |
|------|-------|-------|---------|-------|
| 4272 | 00001 | RM | -100.00 | USD |
| 4272 | 00001 | RI | 50.00 | USD |
| 4272 | 00001 | RI | 100.00 | USD |
| 4272 | 00001 | RM | -200.00 | USD |
| 4272 | 00010 | RI | 80.00 | USD |
| 4272 | 00010 | RM | -150.00 | USD |
| 4272 | 00010 | RI | 180.00 | USD |

データ選択で次のように指定します。

- データ選択で顧客番号4272とだけ指定した場合、顧客4272、会社00001、通貨コードUSDのグループに
基づいて150.00ドル(USD)の払戻しが作成されます。

払戻し処理が行われるのは、グループ分けに基づいた顧客勘定の残高がマイナスのときだけです。会
社00010の払戻しは、残高がプラスのため作成されません。

- データ選択で顧客番号4272、伝票タイプRMを指定した場合、顧客4272に次の2つの払戻しが作成され
ます。
- 300.00ドル(USD)。顧客番号4272、会社00001、通貨コードUSDに基づいた300.00ドルの払戻し
- 150.00ドル(USD)。顧客番号4272、会社00010、通貨コードUSDに基づいた150.00ドルの払戻し

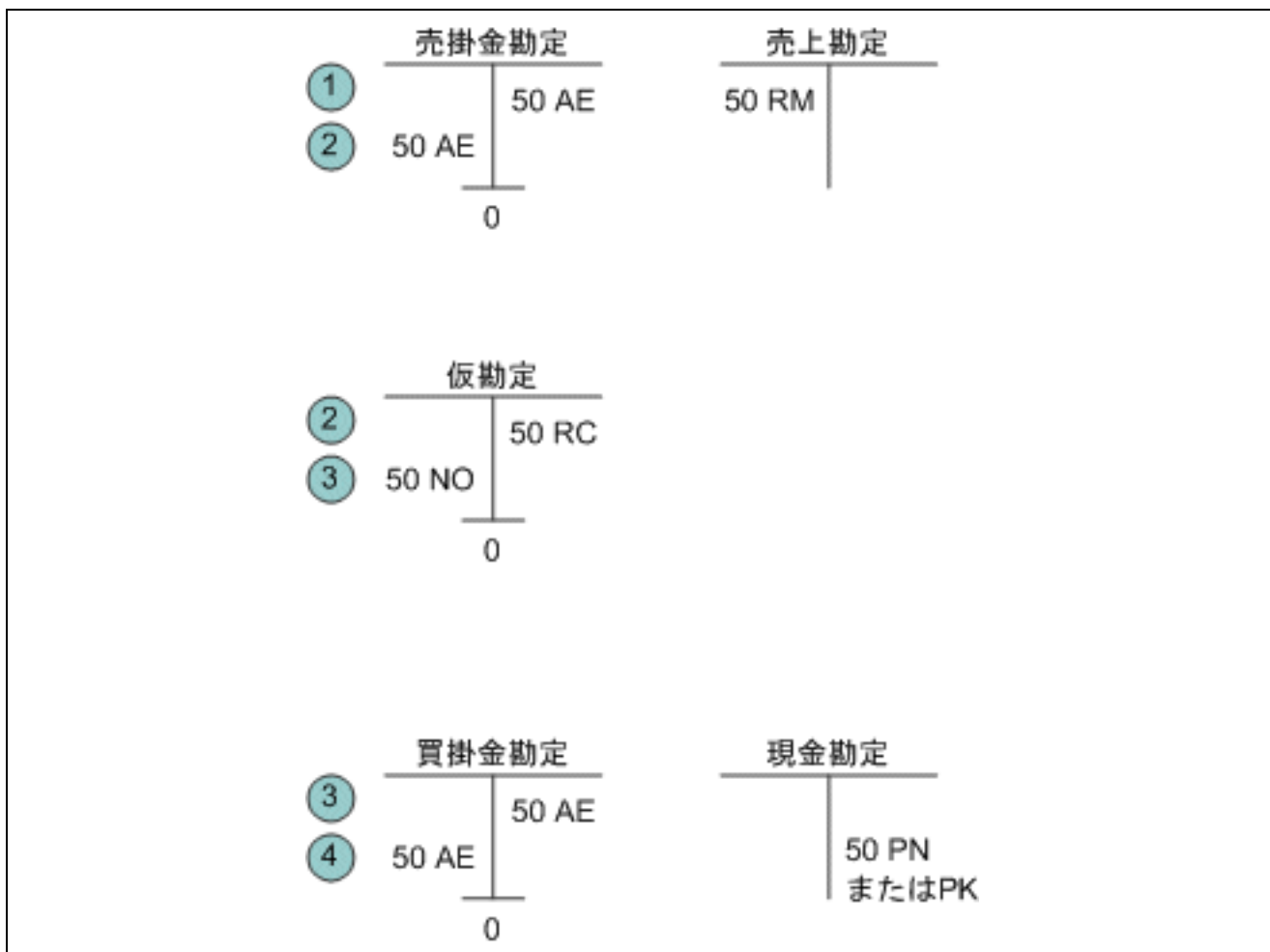
伝票タイプRMを指定したため、顧客の売掛金勘定の残高は考慮されません。

例: 払戻し金の会計処理

この例では、次の情報を使用します。

1. 顧客に対する破損品分50ドルのクレジット・メモを作成して取引を転記します。システムによって次の処理が行われます。
 - 売上(収益)勘定の借方記入
 - 売掛金勘定の貸方記入
2. 払戻し処理を行います。システムによって次の処理が行われます。
 - 貸方金額の売掛金勘定への借方記入および伝票タイプNOの割当
 - 仮勘定の貸方記入
3. また、次の処理も行われます。
 - JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システム(買掛金勘定の貸方記入)での、顧客に対する払戻し伝票(NO)の作成および転記
 - 伝票の仮勘定への借方記入および貸方金額の消込
4. JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムで顧客に対する払戻しのための支払伝票(伝票タイプPKまたはPN)を貸方金額で作成して転記します。システムによって次の処理が行われます。
 - 買掛金勘定の借方記入
 - 現金勘定の貸方記入

次の図は、前述の各手順についての会計処理を示しています。



払戻し処理の会計処理の例

払戻しの作成プログラムの実行

「期末処理」メニュー（G03B21）の「払戻しの作成」を選択します。

払戻しの作成（R03B610）の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト値

この処理オプションを使用して、払戻し処理を行う際のデフォルト情報を指定します。

- 元帳日付** 払戻しレコードに割り当てる元帳日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、システム日付が使用されます。
- 請求書日付** 払戻しレコードに割り当てる請求書日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、システム日付が使用されます。
- 買掛金勘定相手勘定** 自動作成される伝票の相手勘定を指定します。ここで指定した相手勘定とAAI項目PCの値を組み合わせ、買掛金勘定が特定されます。この処理オプションを空白にすると、仕入先マスター（F0401）で設定されている相手勘定が使用されます。

- 4. 仕入先住所番号** 払戻し伝票に割り当てる住所録番号を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 顧客の住所録番号が割り当てられます。
 1: 業種別顧客マスター (F03012) の支払人番号を割り当てます。
 2: 業種別顧客マスター (F03012) の親番号を割り当てます。
- 5. 伝票支払期日 (将来使用)** 払戻し伝票の満期日を指定します。この処理オプションをブランクにすると、仕入先マスターの支払条件に基づいて支払期日が計算されます。
- 6. 仮勘定相手勘定 (将来使用)** 自動作成される伝票の相手勘定を指定します。ここで指定した相手勘定の値とAAI項目NCの組合せで、仮勘定が特定されます。この処理オプションをブランクにすると、仕入先マスターで設定されている相手勘定が使用されます。
- 7. 買掛伝票タイプ (将来使用)** 払戻し伝票の伝票タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、指定した伝票入力 (P0400047) バージョンの伝票タイプ処理オプションが使用されます。

処理

この処理オプションを使用して、払戻しの実行モード (テスト・モードまたは最終モード) と伝票の作成モード (集計モードまたは明細モード) を指定します。

- 1. 実行モード** プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードでは、レポートのみ印刷されます。最終モードでは、レポートが印刷され、払戻し伝票が作成されます。値は次のとおりです。
 ブランク: テスト・モード
 1: 最終モード
- 2. 明細/集計モード** 支払項目 (クレジット・メモ) を1つに集計した払戻し伝票を作成するか、クレジット・メモごとに個別に支払項目を持つ払戻し伝票を作成するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 集計。払戻し額の合計金額を1つの支払項目とする払戻し伝票が作成されます。
 1: 明細。顧客のクレジット・メモごとに個別の支払項目を持つ払戻し伝票が作成されます。

実行バージョン

この処理オプションを使用して、払戻しの作成に使用するプログラムのバージョンを指定します。

- 1. 入金入力 (P03B102) バージョン** 入金レコードの作成に使用する入金入力プログラム (P03B102) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 2. 伝票入力 (P0400047) バージョン** 伝票レコードの作成に使用する伝票入力MBF処理オプション・プログラム (P0411) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 3. 仕訳入力 (P0900049) バージョン** 伝票レコードの作成に使用する仕訳入力MBF処理オプション・プログラム (P0900049) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

払戻しの転記

この項では、払戻しの転記の概要、事前設定、および払戻しの転記プログラムの実行方法について説明します。

関連項目:

第 9 章、「入金処理」、「入金の承認および転記」、225ページ

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「財務取引の転記」

払戻しの転記について

払戻し処理の最終ステップは、生成された仕訳の転記です。入金と伝票を転記すると、F03B13、F03B14、およびF0411の各テーブルが更新され、必要な仕訳が作成されます。

事前設定

伝票バッチと入金バッチを確認して承認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチの処理」

払戻しの転記プログラムの実行

「期末処理」メニュー (G03B21) の「入金の転記」または「伝票の転記」を選択します。

第 22 章

売掛金と買掛金の相殺

この章では、売掛金/買掛金相殺の概要、事前設定、および次の作業を行う方法について説明します。

- 売掛金と買掛金の相殺
- 売掛金/買掛金相殺取引の処理

売掛金/買掛金相殺について

取引先との間において、仕入と販売の両方に大量の取引がある場合、売掛金相殺および買掛金相殺（売掛金/買掛金相殺）を行ってJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムと買掛管理システムでの取引を集約することで、業務効率を上げ、運用コストを削減できます。

JD Edwards EnterpriseOneで売掛金/買掛金相殺を実行する場合、取引を買掛金から売掛金に、また売掛金から買掛金に再分類します。たとえば、買掛金のデビット・メモを売掛金の請求書に再分類したり、売掛金のクレジット・メモを買掛金伝票に再分類できます。

次に示すとおり、どちらのシステムへ再分類するかによって、売掛金相殺または買掛金相殺を実行することになります。

- 売掛金相殺を行う場合は、買掛金取引を売掛金勘定に再分類します。
- 買掛金相殺を行う場合は、売掛金取引を買掛金勘定に再分類します。

売掛金/買掛金相殺はJD Edwards EnterpriseOneの払戻し処理に似ていますが、売掛金/買掛金相殺には次の追加機能があり、手動で処理を行う点が異なります。

- 仮受金(RU)の相殺機能
- 売掛金と買掛金間での取引の再分類機能
- 相殺取引の監査証跡機能

この章で使用する共通フィールド

| | |
|--------|---|
| 顧客/仕入先 | 売掛金/買掛金相殺を実行する顧客および仕入先の住所番号を入力します。 |
| 会社コード | 売掛金/買掛金相殺を実行するソース伝票の会社番号を入力します。 |
| 通貨コード | 売掛金/買掛金相殺を実行するソース伝票の通貨コードを入力します。売掛金/買掛金相殺は、同じ通貨コードの取引にのみ実行できます。 |

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムと買掛管理システム間の仮勘定（決済勘定）について、AAI（自動仕訳）項目NCを設定します。
- 仕入れと販売の両方を行う取引先の住所録レコードの売掛金/買掛金相殺フィールドに「Y」（はい）が設定されていることを確認します。

売掛金と買掛金の相殺

この項では、売掛金/買掛金相殺処理の概要と次の方法について説明します。

- 手動相殺機能（P03B455）の処理オプションの設定
- 売掛金相殺取引の入力
- 買掛金相殺取引の入力

売掛金/買掛金相殺処理について

売掛金/買掛金相殺を実行する際、次の3種類の伝票を使用します。

- ソース伝票は、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムまたは買掛管理システムに再分類される伝票です。
- 振替伝票は、ソース伝票を締めるために作成される伝票です。
- 結果伝票は、ソース伝票を相殺するために作成される伝票です。

たとえば、売掛金のクレジット・メモを再分類する場合、マイナスの入金と伝票が作成されます。この場合、クレジット・メモがソース伝票、マイナスの入金が振替伝票、そして伝票が結果伝票となります。

次の表は、主なソース伝票と、各ソース伝票の再分類時に作成される振替伝票および結果伝票を示しています。

| ソース伝票 | 振替伝票 | 結果伝票 |
|---------------|--------------|---------------|
| 請求書 (RI) | 入金 (RC) | デビット・メモ (PD) |
| クレジット・メモ (RM) | マイナスの入金 (RC) | 伝票 (PV) |
| 仮受金 (RU) | なし | 伝票 (PV) |
| 伝票 (PV) | 手動支払 (PN) | クレジット・メモ (RM) |
| デビット・メモ (PD) | 手動支払 (PN) | 請求書 (RI) |

注意: 伝票入力MBF処理オプション（P0400047）および請求書入力MBF処理オプション（P03B0011）の各プログラムで、結果伝票に割り当てられる独自の伝票タイプを指定できます。そのため、結果伝票に割り当てられる伝票タイプは、前述の表に示す伝票タイプとは異なる場合があります。

注意: 次の伝票に対しては、売掛金/買掛金相殺を実行できません。

手形 (R1、P1)

再請求 (RB)

損金 (R5)

一部支払済の取引

売掛金/買掛金相殺を実行するには、手動相殺機能プログラム (P03B455) を使用して相殺取引を作成します。相殺取引の作成には、再分類する売掛金または買掛金のいずれかの取引を選択し、振替伝票および結果伝票を転記します。「転記済み伝票」処理オプションを使って、転記済の取引のみを相殺対象とするか、または転記済および未転記の両方の取引を相殺対象とするかを指定できます。

相殺取引を作成すると、次の処理が実行されます。

- ソース伝票を締めるための振替伝票が振替バッチに作成されます。
振替伝票バッチを転記すると、AAI項目NCで指定された勘定科目に基づいて、買掛金勘定または売掛金勘定が相殺されます。
- ソース伝票の支払状況が「P」(支払済)に更新され、未決済額がゼロになります。
- ソース伝票を相殺するための結果伝票が結果バッチに作成されます。
結果伝票バッチを転記すると、AAI項目NCで指定された勘定科目に基づいて、買掛金勘定または売掛金勘定が相殺されます。
- ソース伝票、振替伝票、結果伝票の相殺取引ID、相殺伝票番号、および相殺行IDの各フィールドに値が割り当てられます。
- 結果伝票の相殺状況フィールドの値が「0」(相殺無効)に更新され、この取引に対する売掛金/買掛金相殺が無効に設定されます。
- 売掛金結果伝票の入力システム・フィールドの値が、売掛金/買掛金相殺処理によって作成されたことを示す「5」(売掛金/買掛金相殺)に更新されます。

注意: ソース伝票に税金や割引額が含まれている場合、これらの金額は結果伝票に振り替えられません。税金および割引はソース・システムで処理されます。

売掛金相殺または買掛金相殺にかかわらず、両方のシステムから取引を選択して、それらの取引の正味合計を表示することができます。ただし、再分類されるのは、実行する相殺方法に適用される取引のみです。

たとえば、売掛金相殺を実行する場合、買掛金と売掛金の両方の取引を選択できます。相殺入力をする、と、選択した買掛金取引は売掛金に再分類されますが、売掛金で選択した取引は再分類されず、決済または改訂されます。買掛金相殺を実行すると、選択した売掛金取引は買掛金に再分類されますが、選択した買掛金取引は再分類されません。両方のシステムの取引を選択することで、どちら側に負債があるか、つまり、選択した売掛金取引と買掛金取引のどちらの残高が多いかを判断できます。これは、売掛金/買掛金相殺を実行するかどうかを判断するのに役立ちます。

注意: 相殺状況フィールドに「1」が設定されている取引のみが売掛金/買掛金相殺の対象となります。顧客/仕入先の住所録レコードの売掛金/買掛金相殺フィールドに「Y」が設定されている場合、このフィールドの値が自動的に「1」に更新されます。売掛金/買掛金相殺フィールドが「N」(いいえ)に設定されている売掛金取引および買掛金取引を入力した場合には、スピード・リリース・プログラム (P03B114 および P0411S) を使って、これらの取引の相殺状況フィールドの値を「1」に変更できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 9.0 製品ガイド、「支払伝票の準備」、「スピード・リリース・プログラムを使用した伝票の検討と改訂」

参照: 第 7 章、「請求書の処理」、「スピード・リリースを使用した個々の請求書の更新」、150ページ

参照: 第 7 章、「請求書の処理」、「スピード・リリースを使用した請求書のグループの更新」、150ページ

売掛金相殺の会計入力の例

次の例を使って、売掛金相殺処理と、売掛金相殺の各ステップで行われる勘定項目への転記について説明します。

この例のシナリオは次のとおりです。

- ある顧客に対し、請求書 (RI 101) を作成し、1,500 の請求を行います。
- 仕入先でもある同一の顧客から請求書を受領し、1,000 の伝票 (PV 001) を入力します。
- その顧客から500の支払を受け、これを入金 (RC 201) として入力します。

ステップ1

金額1,500の請求書RI 101と、金額1,000の伝票PV 001を入力します。取引を転記すると、次の勘定項目に仕訳が転記されます。

| 買掛金 | | 売掛金 | |
|--------|-------|-------|--------|
| PV 001 | 1,000 | 1,500 | RI 101 |

請求書と伝票の仕訳の転記

ステップ2

顧客が2つの取引を相殺し、支払金額500を送金してきます。入金を入力するには、まず売掛金相殺を実行する必要があります。売掛金相殺を実行するには、伝票PV 001を選択し、売掛金勘定に再分類します。金額1,000の手動支払伝票 (PN 211) が作成され、伝票PV 001の未決済額がゼロ、支払状況が「P」に更新されます。手動支払伝票を転記すると、買掛金勘定の借方と、AAI項目NCで定義された相殺仮勘定の貸方に仕訳が転記されます。

| 買掛金 | | 売掛金 | | 相殺仮勘定 | |
|--------|-------|-------|--------|-------|--------|
| PV 001 | 1,000 | 1,500 | RI 101 | | |
| PN 211 | 1,000 | | | 1,000 | PN 211 |

振替伝票の仕訳の転記

ステップ3

また、手動支払伝票を相殺するためのクレジット・メモ (RM 102) も作成されます。クレジット・メモを転記すると、売掛金勘定の貸方、および相殺仮勘定の借方に仕訳が転記されます。

| 買掛金 | | 売掛金 | | 相殺仮勘定 | |
|--------|-------|-------|-------|--------|-------|
| PV 001 | | 1,000 | 1,500 | RI 101 | 1,000 |
| PN 211 | 1,000 | | 1,000 | RM 102 | |
| | | | | RM 102 | 1,000 |

結果伝票の仕訳の転記

相殺仮勘定の残高がゼロになり、顧客に対する未決済の正味請求額は500となります。この額は顧客からの支払額と一致します。

| 買掛金 | | 売掛金 | | 相殺仮勘定 | |
|--------|-------|-------|-------|--------|-------|
| PV 001 | | 1,000 | 1,500 | RI 101 | 1,000 |
| PN 211 | 1,000 | | 1,000 | RM 102 | |
| | | | 500 | RM 102 | 1,000 |

売掛金勘定の正味残高

ステップ4

入金として金額500の支払を入力し、その入金で取引RI 101とRM 102を消し込みます。

| 買掛金 | | 売掛金 | | 相殺仮勘定 | | 現金勘定 | |
|--------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-----|
| PV 001 | | 1,000 | 1,500 | RI 101 | 1,000 | | |
| PN 211 | 1,000 | | 1,000 | RM 102 | | | |
| | | | 500 | RC 201 | | | |
| | | | | | | RC 201 | 500 |

入金の仕訳の転記

売掛金および買掛金相殺に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|----------|----------|---|--|
| 相殺照会の処理 | W03B455B | <ul style="list-style-type: none"> 買掛金相殺を実行するには、「相殺処理」(G03B23)の「手動相殺機能」を選択します。 売掛金相殺を実行するには、「相殺処理」(G0423)の「手動相殺機能」を選択します。 | 売掛金および買掛金の相殺済伝票と未相殺伝票を確認します。相殺済伝票については、関連するソース伝票、結果伝票、および振替伝票を確認し、相殺取引を削除したり無効にしたりすることもできます。 |
| 買掛金相殺の入力 | W03B455D | 「相殺照会の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | 売掛金取引を買掛金勘定に再分類します。 |
| 売掛金相殺の入力 | W03B455D | 「相殺照会の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 | 買掛金取引を売掛金勘定に再分類します。 |

手動相殺機能(P03B455)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、売掛金/買掛金相殺のデフォルト処理を指定します。

- 支払手段の一時変更**

結果伝票に割り当てる支払手段として、業種別顧客マスター(F03012)および仕入先マスター(F0401)のレコードに定義されているデフォルトの支払手段のかわりに、「支払手段」処理オプションで指定した手段を使うかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 「支払手段」処理オプションで定義された支払手段を割り当てません。業種別顧客マスターおよび仕入先マスターのレコードに定義されている支払方法が割り当てられます。業種別顧客マスターと仕入先マスターのレコードに支払手段が定義されていない場合は、データ辞書のデフォルト値が割り当てられます。

1: 「支払手段」処理オプションで定義された支払手段が結果伝票に割り当てられます。
- 支払手段**

結果伝票に割り当てる支払手段コード(ユーザー定義コード00/PY)を指定します。「支払手段の一時変更」処理オプションが空白の場合、この処理オプションは無視されます。
- 備考**

結果伝票および振替伝票に割り当てる備考を指定します。
- 支払状況コード**

結果伝票に割り当てる支払状況コード(ユーザー定義コード00/PS)を指定します。この処理オプションを空白にすると、データ辞書でデータ項目PST(支払状況)に設定されている値が使用されます。

注意: 売掛金相殺では、「E」、「G」、「P」および「S」の支払状況コードは無効です。買掛金相殺では、「#」、「D」および「P」の支払状況コードは無効です。

- 5. 買掛金勘定相手勘定** 結果伝票の勘定に使用する相手勘定を指定します。この処理オプションをブランクにすると、売掛金相殺処理には業種別顧客マスター (F03012) で指定した値が、買掛金相殺処理には仕入先マスター (F0401) で指定した値がそれぞれデフォルトとして使用されます。
- 6. 仮勘定相手勘定** 振替伝票および結果伝票の仮勘定 (相殺仮勘定) に使用する相手勘定を指定します。ここで指定した相手勘定の値とAAI項目NCの組合せで、仮勘定が特定されます。この処理オプションをブランクにすると、売掛金相殺処理には業種別顧客マスター (F03012) で指定した値が、買掛金相殺処理には仕入先マスター (F0401) で指定した値がそれぞれデフォルトとして使用されます。
- 7. 受取人番号** 相殺処理の結果伝票に割り当てる受取人番号を指定します。このオプションは買掛金相殺処理でのみ使用されます。値は次のとおりです。
ブランク: 売掛金元帳テーブル (F03B11) の顧客番号が割り当てられます。
1: 住所録のファクタ/代理受取人フィールドの住所番号が割り当てられます。ファクタ/代理受取人フィールドがブランクの場合には、F03B11テーブルの顧客番号が割り当てられます。

処理

この処理オプションを使用して、売掛金/買掛金相殺取引の処理方法を指定します。

- 1. 相殺方向** 売掛金相殺または買掛金相殺のどちらを実行するかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 買掛金相殺が実行されます。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの取引がJD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムに再分類されます。「買掛金相殺の入力」フォームの「買掛金」タブで取引を選択すると、これらの取引は売掛金勘定には再分類されず、決済または改訂されます。選択された取引の合計額が「買掛金相殺の入力」フォームの見出し領域に表示され、選択された売掛金および買掛金の取引の正味残高を確認できます。
1: 売掛金相殺が実行されます。JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの取引がJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに再分類されます。「売掛金相殺の入力」フォームの「売掛金」タブで取引を選択すると、これらの取引は買掛金勘定には再分類されず、決済または改訂されます。選択された取引の合計額が「売掛金相殺の入力」フォームの見出し領域に表示され、選択された買掛金および売掛金の取引の正味残高を確認できます。
- 2. 処理モード** 相殺取引の処理を、追加/更新モードまたは照会モードのいずれで行うかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 追加/更新モードで取引を処理します。
1: 照会モードで取引を処理します。
- 3. 転記済み伝票** 転記済および未転記のソース伝票の相殺の可否を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 転記済と未転記の両方のソース伝票の相殺を実行できます。
1: 転記済のソース伝票のみ相殺を実行できます。

4. 仮伝票

仮伝票の相殺の可否を指定します(売掛金相殺のみ)。値は次のとおりです。

ブランク: 仮伝票の相殺が許可されます。

1: 仮伝票の相殺は許可されません。

5. マイナス金額の相殺

相殺取引において相殺額の合計がマイナスになるのを許可するかどうかを指定します。買掛金相殺でこの処理オプションを「1」にすると、選択された買掛伝票の合計金額が選択された売掛伝票の合計金額より少ない場合にエラーが表示されます。逆に、売掛金相殺でこの処理オプションを「1」にすると、選択された売掛伝票の合計金額が選択された買掛伝票の合計金額より少ない場合にエラーが表示されます。

たとえば、買掛金相殺処理で、合計額12,000の売掛金取引と合計額5,000の買掛金取引を選択した場合、「買掛金相殺の入力」フォームの見出し領域にある「正味」カラムに計算結果として相殺額-7,000(5,000 - 12,000)が表示されます。この処理オプションが「1」に設定されている場合には、エラー・メッセージが表示され、相殺額がマイナスになる買掛金相殺取引の入力を防止できます。値は次のとおりです。

ブランク: マイナス金額の相殺が許可されます。

1: マイナス金額の相殺は許可されません。

6. 自動転記(将来使用)

この処理オプションは将来使用するために用意されています。

割引

この処理オプションでは、割引の処理方法を指定します。

1. 割引

選択したソース伝票の割引可能額フィールドの金額を割引フィールドにロードするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 割引フィールドに割引可能額フィールドが金額をロードされます。

1: 割引フィールドに割引可能額フィールドの金額はロードされません。

2. 割引認識方法

すべての割引を処理するか、または有効な割引のみ処理するかを指定します。割引を有効にするには、振替伝票の相殺元帳日付がソース伝票の割引期日以前である必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: すべての割引が処理されます。

1: 有効な割引のみが処理されます。

バージョン

この処理オプションでは、売掛金/買掛金相殺の伝票作成に使用するプログラムのバージョンを指定します。

1. 請求書入力バージョン

請求書レコードの作成に使用する請求書入力MBF処理オプション・プログラム(P03B0011)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

注意:「標準請求書伝票タイプ」および「クレジット・メモ伝票タイプ」処理オプションで、相殺結果伝票固有の伝票タイプが設定されているバージョンを指定することをお勧めします。

2. 伝票入力バージョン

伝票レコードの作成に使用する伝票入力MBF処理オプション・プログラム (P0400047) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

注意:「買掛伝票の伝票タイプ」および「デビット・メモの伝票タイプ」処理オプションで、相殺結果伝票固有の伝票タイプが設定されているバージョンを指定することをお勧めします。

3. 入金入力バージョン

入金レコードの作成に使用する入金入力プログラム (P03B102) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

4. 仕訳バージョン

相殺結果伝票の作成に使用する仕訳入力MBF処理オプション・プログラム (P0900049) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

5. 請求書転記バージョン(将来使用)

この処理オプションは将来使用するために用意されています。

6. 支払転記バージョン(将来使用)

この処理オプションは将来使用するために用意されています。

7. 伝票転記バージョン(将来使用)

この処理オプションは将来使用するために用意されています。

8. 入金転記バージョン(将来使用)

この処理オプションは将来使用するために用意されています。

売掛金相殺取引の入力

「売掛金相殺の入力」フォームにアクセスします。

| 手動相殺機能 - 買掛金相殺の入力 | | | | | |
|--|------------|--------------------------|-----------|-------|------------|
| OK(O) 検索(I) 取消(L) ツール(T) | | | | | |
| <div>     </div> | | | | | |
| 相殺元帳日付 | 2005/06/30 | 相殺支払期日 | | | |
| 結果バッチNo. | 7924 | 売掛金合計 | | 買掛金合計 | 正味 |
| 振替バッチNo. | 7925 | 指定項目 | | | |
| 取引ID | 11 | 表示項目 | 42,150.00 | | 42,150.00- |
| データ選択 | | | | | |
| 顧客/仕入先 | 3333 | Continental Incorporated | 元帳日付 | | |
| 会社番号 | | 通貨コード | USD | 期日 | |

「売掛金相殺の入力」フォーム (1/2)

売掛金
買掛金

レコード 1-6

| □ | 伝票 番号 | 伝票 タイプ | 伝票 会社 | 請求書 日付 | 元帳 日付 | 期日 | 総額 | 未決済 金額 | 金額 (外) |
|---|----------|-----------|----------|------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|
| □ | 3152 | PV | 00070 | 2005/06/15 | 2005/06/20 | 2005/07/15 | 950.00 | 950.00 | |
| □ | 3157 | PV | 00077 | 2005/06/15 | 2005/06/30 | 2005/07/15 | 1,896.60 | 1,896.60 | |
| □ | 3157 | PV | 00077 | 2005/06/15 | 2005/06/30 | 2005/07/15 | 11,323.91 | 11,323.91 | |
| □ | 3160 | PV | 00070 | 2005/06/15 | 2005/06/20 | 2005/07/15 | 165.37 | 165.37 | |
| □ | 3166 | PV | 00001 | 2005/06/05 | 2005/06/30 | 2005/07/05 | 8,460.00 | 8,460.00 | |
| □ | | | | | | | | | |

選択/選択解除
仕入先元帳

選択件数

「売掛金相殺の入力」フォーム (2/2)

売掛金相殺取引を入力するには、次の手順に従います。

1. 「通貨コード」フィールドに値を入力します。
2. (省略可)「相殺元帳日付」および「相殺支払期日」フィールドに値を入力します。
3. (省略可)「顧客/仕入先」、「会社番号」、「元帳日付」および「期日」の各フィールドに値を入力し、表示する取引の選択条件を絞り込みます。
4. 「検索」をクリックします。
 選択条件を満たし、かつ「相殺状況」フィールドに「1」が設定されているすべての未決済取引が表示されます。
5. 「買掛金」タブに表示された取引の中から売掛金勘定に再分類する取引を選択し、「選択/選択解除」をクリックします。
 選択した取引の横に、その取引が売掛金勘定に再分類されることを示すチェック・マークが表示されます。再度「選択/選択解除」をクリックすると、取引の選択状態が切り替わります。
 また、「売掛金相殺の入力」フォームの見出し領域にある「買掛金合計」カラムに、選択した取引の合計金額が表示され、詳細グリッドの下にある「選択件数」フィールドに選択した伝票の数が表示されます。
6. (省略可) 選択した買掛金取引と特定の売掛管理取引の相殺結果を確認するには、「売掛金」タブをクリックして、相殺結果を確認する取引を選択し、「選択/選択解除」をクリックします。
 選択した取引の横にチェック・マークが表示され、「売掛金相殺の入力」フォームの見出し領域にある「売掛金合計」カラムに選択した取引の合計金額が表示されます。
7. 「OK」をクリックします。

「相殺照会の処理」フォームが表示されます。さらに同じ振替伝票および結果伝票のバッチ番号に相殺取引を追加する場合は、「追加」をクリックして前述の手順に従って売掛金相殺取引を入力します。

注意: 振替バッチおよび結果バッチの状況は、手動相殺機能プログラムを終了するまで“使用中”のままになります。振替および結果バッチを転記するには、手動相殺機能プログラムを終了して、買掛管理および売掛管理の入力に対する管理者承認が必要かどうかに応じてバッチ状況が“承認済”または“保留”に更新されるようにする必要があります。

買掛金相殺取引の入力

「買掛金相殺の入力」フォームにアクセスします。

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムへ再分類する取引を、「買掛金」タブではなく「売掛金」タブから選択する点以外は、売掛金相殺を実行するのと同じ手順に従います。選択した売掛金取引と特定の買掛管理取引の相殺結果を確認するには、「買掛金」タブから取引を選択します。

| | |
|----------|---|
| 相殺元帳日付 | 振替伝票の元帳日付フィールドに割り当てる日付を入力します。 このフィールドをブランクにすると、現在の日付が割り当てられます。 |
| 相殺支払期日 | 結果伝票の支払期日フィールドに割り当てる日付を入力します。 このフィールドをブランクにすると、ソース伝票に割り当てられている相殺支払期日が割り当てられます。 |
| 結果バッチNo. | 結果伝票が作成されるバッチ番号が表示されます。 |

注意: 手動相殺機能プログラムを終了するまで、相殺取引は同一の結果バッチ番号および振替バッチ番号に追加されます。

| | |
|----------|---|
| 振替バッチNo. | 振替伝票が作成されるバッチ番号が表示されます。 |
| | 注意: 手動相殺機能プログラムを終了するまで、相殺取引は同一の結果バッチ番号および振替バッチ番号に追加されます。 |

| | |
|------|--|
| 取引ID | 自動採番プログラム (P0002) から売掛金元帳 (F03B11)、入金見出し (F03B13)、入金明細 (F03B14)、買掛金元帳 (F0411)、買掛金照合伝票 (F0413)、および買掛金照合伝票明細 (F0414) の各テーブルの売掛金/買掛金相殺伝票に割り当てられる番号が表示されます。この番号により、売掛金/買掛金相殺取引を構成するソース伝票、振替伝票、結果伝票を識別することが可能となるため、監査証跡となります。 |
|------|--|

| | |
|------|--|
| 指定項目 | <p>「売掛金」および「買掛金」の各タブで選択した取引の累計額が表示されます。</p> <p>「売掛金」タブで選択した取引については、算出された取引の合計額が「売掛金合計」の下に表示されます。</p> <p>「買掛金」タブで選択した取引については、算出された取引の合計額が「買掛金合計」の下に表示されます。</p> <p>さらに、売掛金相殺を実行する場合には、売掛金合計額から買掛金合計額が差し引かれ、正味合計額が算出されます。逆に、買掛金相殺を実行する場合には、買掛金合計額から売掛金合計額が差し引かれ、正味合計額が算出されます。</p> |
|------|--|

たとえば、買掛金相殺を実行する場合、「売掛金」タブで選択した取引の合計額が5,000、「買掛金」タブで選択した取引の合計額が8,000だとすると、「指定項目」の各フィールドには次の金額が表示されます。

- 売掛金合計: 5,000
- 買掛金合計: 8,000
- 正味: 3,000

表示項目

指定した選択条件に基づき「売掛金」および「買掛金」の各タブに表示されたすべての取引の合計額が表示されます。さらに、売掛金相殺を実行する場合には、売掛金合計額から買掛金合計額が差し引かれ、正味合計額が算出されます。逆に、買掛金相殺を実行する場合には、買掛金合計額から売掛金合計額が差し引かれ、正味合計額が算出されます。

たとえば、買掛金相殺を実行する場合、「売掛金」タブに表示された取引の合計額が20,000、「買掛金」タブに表示された取引の合計額が35,000だとすると、「表示項目」の各フィールドには次の金額が表示されます。

- 売掛金合計: 20,000
- 買掛金合計: 35,000
- 正味: 15,000

元帳日付

売掛金/買掛金相殺の実行対象となるソース伝票に割り当てる元帳日付を入力します。

期日

売掛金/買掛金相殺の実行対象となるソース伝票に割り当てる支払期日を入力します。

売掛金/買掛金相殺取引の処理

この項では、売掛金/買掛金相殺取引の改訂の概要と次の方法について説明します。

- 売掛金/買掛金相殺取引に関連付けられた伝票の確認
- 売掛金/買掛金相殺取引の無効化と削除

売掛金/買掛金相殺取引の改訂について

売掛金/買掛金相殺取引の入力が済んだら、手動相殺機能プログラムを使って、取引に関連付けられたソース伝票、振替伝票、結果伝票を確認したり、相殺済や未相殺の取引を確認したりすることができます。

さらに、関連付けられた結果伝票が未払いの相殺取引を削除、または無効にすることができます。相殺取引の削除と無効化は同一の手順に従って行います。振替伝票と結果伝票が未転記の場合、結果レコードおよび振替レコードが削除されます。振替伝票と結果伝票が転記済の場合には、新しい逆仕訳レコードが作成されます。

相殺取引を削除または無効にするには、結果伝票を選択して削除、または無効化の処理を開始する必要があります。結果伝票を削除または無効にすると、対応する振替伝票が自動的に削除または無効化されます。

結果伝票を削除する場合、次の処理が行われます。

- ソース伝票の未決済金額が復元されます。

- ・「P」(支払済)に設定されているソース伝票の支払状況が、ソース伝票が売掛金取引の場合には顧客マスター・レコードに割り当てられた値に、ソース伝票が買掛金取引の場合には仕入先マスター・レコードに割り当てられた値に変更されます。顧客マスターおよび仕入先マスターのレコードに支払状況の値が設定されていない場合には、データ辞書の値が割り当てられます。
- ・ソース伝票の相殺取引ID、相殺伝票番号、および相殺行IDの各フィールドの値が削除されます。
- ・振替伝票および結果伝票が削除されます。

結果伝票を無効にする場合、次の処理が行われます。

- ・ソース伝票の未決済金額が復元されます。
- ・「P」に設定されているソース伝票の支払状況が、ソース伝票が売掛金取引の場合には顧客マスター・レコードに割り当てられた値に、ソース伝票が買掛金取引の場合には仕入先マスター・レコードに割り当てられた値に変更されます。
- ・ソース伝票の相殺取引ID、相殺伝票番号、および相殺行IDの各フィールドの値が削除されます。
- ・振替伝票および結果伝票に無効の印が付けられます。
- ・相殺取引ID、相殺伝票番号、および相殺行IDの各フィールドの値がそのままの振替伝票と結果伝票に対して取消レコードが作成されます。

注意: 相殺伝票の削除や無効化は、手動相殺機能プログラムで行う必要があります。伝票が属するアプリケーションで、相殺伝票を削除したり無効にしたりすることはできません。たとえば、伝票入力プログラムで結果伝票を削除したり無効にしたりすることはできません。

売掛金/買掛金相殺取引の処理に使用するフォーム

| フォーム名 | フォームID | ナビゲーション | 用途 |
|---------|----------|---------------------------------|--|
| 相殺照会の処理 | W03B455B | 「相殺処理」(G03B23またはG0423)、「手動相殺機能」 | 相殺済および未相殺の取引や、関連付けられたソース伝票、振替伝票、結果伝票を確認したり、売掛金/買掛金相殺取引の削除および無効化を実行します。 |

売掛金/買掛金相殺取引に関連付けられた伝票の確認

「相殺照会の処理」フォームにアクセスします。

手動相殺機能 - 相殺照会の処理

閉じる(L)

検索(I)

追加(A)

フォーム(F)

ツール(T)

✖

🔍

➕

📄

🔧

顧客/仕入先

3333

Continental Incorporated

元帳日付

会社番号

期日

通貨コード

取引ID

☒ 未相殺伝票

☐ 相殺済伝票

売掛金

買掛金

レコード 1 - 99

| 伝票番号 | 伝票タイプ | 伝票会社 | 支払項目 | 請求書日付 | 総額 | 未決済金額 | 相殺取引ID | 相殺伝票No. |
|------|-------|-------|------|------------|----------|----------|--------|---------|
| 3081 | RI | 00001 | 002 | 2005/06/06 | 145.00 | 145.00 | | |
| 3095 | RF | 00001 | 001 | 2005/08/31 | 685.11 | 685.11 | | |
| 3574 | RI | 00001 | 001 | 2005/06/25 | 500.00 | 500.00 | | |
| 3574 | RI | 00001 | 002 | 2005/06/25 | 800.00 | 800.00 | | |
| 3575 | RI | 00001 | 001 | 2005/06/26 | 900.00 | 900.00 | | |
| 3575 | RI | 00001 | 002 | 2005/06/26 | 250.00 | 250.00 | | |
| 3575 | RI | 00001 | 003 | 2005/06/26 | 500.00 | 500.00 | | |
| 7775 | RI | 00075 | 001 | 2005/05/15 | 1,306.29 | 1,306.29 | | |
| 7775 | RI | 00075 | 002 | 2005/05/15 | 1,536.80 | 1,536.80 | | |

削除/無効

振替伝票

売掛金元帳

ソース/結果伝票

「相殺照会の処理」フォーム

売掛金/買掛金相殺の取引を確認するには、次の手順に従います。

- (省略可)「顧客/仕入先」、「会社番号」、「通貨コード」、「元帳日付」、「期日」、および「取引ID」の各フィールドに値を入力し、表示する取引の選択条件を絞り込みます。
- 「相殺済伝票」オプションを選択し、「検索」をクリックして相殺済伝票を確認します。
詳細グリッドに相殺済のソース伝票と結果伝票が表示されます。

注意: ソース伝票は「相殺状況」フィールドに「1」が設定されています。結果伝票は「相殺状況」フィールドに「0」が設定されています。

- ソース伝票または結果伝票と関連付けられた振替伝票を確認するには、詳細グリッドに表示されたソース伝票または結果伝票を選択し、「振替伝票」をクリックします。
振替伝票が、伝票の種類に応じたフォームで表示されます。たとえば、振替伝票が手動支払(PN)の場合、「支払の処理」フォームが表示されます。

4. 結果伝票と関連付けられたソース伝票を確認するには、「相殺照会の処理」フォームで結果伝票を選択し、「ソース/結果伝票」をクリックします。

ソース伝票が、伝票の種類に応じたフォームで表示されます。

5. ソース伝票と関連付けられた結果伝票を確認するには、「相殺照会の処理」フォームでソース伝票を選択し、「ソース/結果伝票」をクリックします。

結果伝票が、伝票の種類に応じたフォームで表示されます。

売掛金/買掛金相殺取引の無効化と削除

「相殺照会の処理」フォームにアクセスします。

売掛金/買掛金相殺取引を無効にしたり削除したりするには、次の手順に従います。

1. 削除または無効にする相殺取引と関連付けられた結果伝票を選択します。
2. 「削除/無効」をクリックします。
3. 「削除の確認」フォームが表示されます。「OK」をクリックします。
 - ・ 買掛金相殺取引を無効にする際、結果伝票と振替伝票が転記済の場合には、「無効情報の入力」フォームが表示されます。「無効日付」および「理由コード」(03B/VR)のフィールドにそれぞれ日付と理由コードを入力し、「OK」をクリックします。
 - ・ 売掛金相殺取引を無効にする際、結果伝票と振替伝票が転記済の場合には、「無効情報の入力」フォームが表示されます。「無効日付」および「請求書改訂コード」(03B/AR)の各フィールドに日付と理由コードを入力します。

未相殺伝票 まだ売掛金/買掛金相殺を実行していない取引のみを表示する場合に選択します。

相殺済伝票 売掛金/買掛金相殺を実行済の取引を表示する場合に選択します。

詳細グリッドに表示されるフィールド

次のフィールドは、「相殺照会の処理」フォームの詳細グリッドに表示されます。

取引ID 相殺取引を識別するために、ソース伝票、振替伝票、および結果伝票に割り当てられる番号が表示されます。取引IDには1つ以上の相殺伝票が含まれます。

相殺伝票No. 相殺振替伝票および相殺結果伝票を作成する際に元となる相殺ソース伝票を相互参照するために割り当てられる番号が表示されます。この番号は自動採番プログラム(P0002)によって割り当てられます。

相殺行ID このフィールドは、将来使用のために予約されています。現時点では、すべての相殺伝票において、このフィールドの値は「1」に設定されます。

第 23 章

売掛管理レポートの印刷

この章では、次の方法について説明します。

- 相殺レポートの印刷
- 顧客/仕入先残高レポートの印刷
- キャッシュフローの予測

関連項目:

付録 D、「JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理レポート、」547 ページ

相殺レポートの印刷

この項では、相殺レポートの概要、売掛金相殺ワークファイル、売掛金/買掛金の相殺レポート、年齢調べ相殺レポート、事前設定、および次の方法について説明します。

- 相殺レポート・ファイルの作成プログラムの実行
- 相殺レポート・ファイルの作成 (R03B465) の処理オプションの設定
- 売掛金/買掛金の相殺レポートの印刷
- 年齢調べ相殺レポートの印刷
- 年齢調べ相殺レポート (R03B466) の処理オプションの設定

相殺レポートについて

取引先との間で仕入と販売の両方に大量の取引がある場合、売掛金と買掛金を相殺できます。取引を相殺する場合、相互の未決済請求額を計算します。その結果、双方とも未決済の取引が1回の支払または入金処理で済みます。

相殺レポートを印刷して、支払額または請求額を確認できます。これらのレポートでは勘定元帳に対する調整は行われませんが、売掛金と買掛金の差を確認できるので、次の状況で役立ちます。

- 売掛金の貸方に残高がある。
- 買掛金の借方に残高がある。
- 顧客または仕入先に売掛金と買掛金の両方の残高がある。

この情報を使用して売掛金残高と買掛金残高を相殺できます。

注意: この章で説明する相殺レポートは、売掛金/買掛金の相殺処理には関連しません。

売掛金相殺ワークファイルについて

相殺レポートを印刷するには、レポートに使用するワークファイルを更新する必要があります。相殺レポート・ファイルの作成プログラムを実行すると、売掛金元帳テーブル(F03B11)と買掛金元帳テーブル(F0411)にある最新の情報に基づいて、売掛金相殺ワークファイル・テーブル(F03B465)が再作成されます。

相殺レポート・ファイルの作成プログラム(R03B465)を実行すると、次の2つのプログラムが実行されます。

- 売掛金相殺ファイルの再作成(R03B4651)
- 買掛金相殺ファイルの再作成(R03B4652)

これらの2つのプログラムには、処理オプションはありません。

データ選択

デフォルトでは、F03B465テーブルから未決済の請求書と伝票のみが読み込まれます。データ選択を使用して、テーブルサイズを限定できます。たとえば、会社と会計期間に基づいてレコードを選択できます。

データ選択は、次のように変更します。

- 売掛管理の場合は、売掛金相殺ファイルの再作成プログラム(R03B4651)でデータ選択を変更します。
- 買掛管理の場合は、買掛金相殺ファイルの再作成プログラム(R03B4652)でデータ選択を変更します。

売掛金/買掛金の相殺レポートの印刷

買掛金と売掛金の未決済残高の相殺額を自動的に計算するには、売掛金/買掛金の相殺レポートを印刷します。

このレポートには、F03B11テーブルとF0411テーブルの情報がリストされます。

このレポートを印刷すると、次の処理が実行されます。

1. 売掛金勘定および買掛金勘定の未決済額の残高がそれぞれ合計されます。
2. 2つの合計が比較されます。
3. 相殺金額が計算されます。
たとえば、未決済売掛金残高が50,000ドル、未決済買掛金残高が30,000ドルの場合、相殺の結果20,000ドルの売掛金が残ります。この逆の場合は相殺の結果、買掛金が残ります。
4. 2つの相殺金額フィールドの金額を計算して、該当するカラムに総合計をリストします。

このレポートに処理オプションはありません。

このレポートを実行する前に、相殺レポート・ファイルの作成プログラム(R03B465)を実行して、売掛金相殺ワークファイル・テーブルを更新してください。

データ選択

各データ選択フィールドは、*ALLに等しくなるように設定します。これによって、すべてのデータがレポートに含まれ、正確な相殺額が把握できます。

データ順序

このレポートは住所番号別と会社別の順序になっています。この順序は変更しないでください。

年齢調べ相殺レポートについて

残高の年齢を調べるには、年齢調べ相殺レポートを印刷します。このレポートには、通貨別に年齢を調べた顧客と仕入先による取引がリストされます。

このレポートを異なるバージョンで作成すると、明細情報と集計情報を印刷できます。また、多通貨または国内通貨用のバージョンでレポートを作成することもできます。

このレポートには、F03B465テーブルの情報がリストされます。

このレポートを印刷すると、次の処理が実行されます。

- 売掛金勘定および買掛金勘定の未決済額の残高がそれぞれ合計されます。
- 処理オプションで指定した勘定科目ごとに残高の年齢調べが行われます。

このレポートを実行する前に、相殺レポート・ファイルの作成プログラム (R03B465) を実行して、売掛金相殺ワークファイル・テーブルを更新してください。

データ選択

データ選択を使用して、レポートに表示するデータを絞り込むことができます。たとえば、F03B11テーブルとF0411テーブルで共有している多くのフィールドの他に、住所録マスター (F0101) のフィールドを指定できます。

データ順序

このレポートは、会社番号別と住所番号別の順序になっています。順序は追加できますが、住所番号と会社の順序は変更はしないでください。

事前設定

F03B465テーブルがあることを確認します。他のプログラムとは異なり、相殺レポート・ワークファイルの作成プログラムでは、テーブルが存在しない場合、テーブルの作成は行われません。

相殺レポート・ファイルの作成プログラムの実行

「売掛管理レポート」メニュー (G03B14) から「売掛金/買掛金相殺結果のリフレッシュ」を選択します。

相殺レポート・ファイルの作成 (R03B465) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

バージョン

この処理オプションでは、相殺レポート・ファイルの作成プログラム (R03B465) の実行時に使用するプログラムのバージョンを指定します。

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1. 売掛金相殺ワークファイルの作成 (R03B4651) | 実行する売掛金相殺ファイルの再作成プログラム (R03B4651) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。 |
| 2. 買掛金相殺ワークファイルの作成 (R03B4652) | 実行する買掛金相殺ファイルの再作成プログラム (R03B4652) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。 |

売掛金/買掛金の相殺レポートの印刷

「売掛管理レポート」メニュー (G03B14) から「売掛金/買掛金の相殺」を選択します。

年齢調べ相殺レポートの印刷

「売掛管理レポート」メニュー (G03B14) から「年齢調べ相殺レポート」を選択します。

年齢調べ相殺レポート (R03B466) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

形式

1. 外貨と国内通貨

年齢調べ情報を国内通貨のみで印刷するか、国内通貨と外貨の両方で印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 国内通貨のみで年齢調べ情報が印刷されます。

1: 国内通貨と外貨の両方で年齢調べ情報が印刷されます。
2. 仕入先の請求書番号

レポートに仕入先ごとの請求書番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先請求書番号はレポートに印刷されません。

1: 仕入先請求書番号がレポートに印刷されます。

年齢調べ

3. 売掛管理会社固定情報

売掛管理固定情報と年齢調べ処理オプションのどちらから年齢調べ設定を読み込むかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 年齢調べの処理オプションで指定された値を使用する。

1: 売掛管理固定情報で指定された値を使用する。売掛管理固定情報の基準日フィールドがブランクの場合、「年齢調べ日付」処理オプションで指定した日付が使用されます。この値もブランクの場合は、現在の日付が使用されます。このオプションを選択すると、処理オプションの3から12までは無視されます。
4. 年齢調べ日付

未決済請求書を割り当てる年齢調べカテゴリの決定に使用する日付を指定します。入力した日付と請求書の日付 (「日付タイプ」処理オプションで指定した日付) を比較して、請求書の延滞日数が計算されます。

この処理オプションをブランクにすると、未決済請求書の年齢調べにはシステム日付が使用されます。
5. 日付タイプ

年齢調べカテゴリの決定に使用する請求書の日付を指定します。ここで指定した日付と「年齢調べ日付」処理オプションの値を比較して、請求書の延滞日数が計算されます。値は次のとおりです。

D: 請求書の支払期日を使用する。この値がデフォルト値です。

I: 請求書日付を使用する。

G: 元帳日付を使用する。

6. 年齢調べ方法 (1、2、3)

請求書の割当に使用する年齢調べカテゴリ指定します。「年齢調べ日付」処理オプションで指定した日付と「日付タイプ」処理オプションで指定した値によって各請求書の経過期間が計算され、このコードで指定した年齢調べカテゴリに割り当てられます。値は次のとおりです。

1: 経過日数。処理オプションの「年齢調べカテゴリ1」から「年齢調べカテゴリ5」で指定した年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられます。年齢調べカテゴリには、自由に日数を設定できます。

2: 会計期間。会社レコードの会計期間パターンで定義されている会計期間を使用して、年齢調べカテゴリが作成されます。

3: カレンダー。各カレンダー月が年齢調べカテゴリとして使用されます。

**7. 年齢調べカテゴリ1 から
11. 年齢調べカテゴリ5**

これらの処理オプションを使用して、年齢調べカテゴリの間隔を指定します。

12. マイナス金額の年齢調べ

金額がマイナスの年齢調べ方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 金額がマイナスの請求書の年齢調べは実行されません。マイナスの金額は現行年齢調べカラムに算入されます。

1: 「年齢調べ」タブの「日付タイプ」処理オプションで指定した年齢調べの方法が使用されます。

最高日数**13. 最高経過日数**

このレポートに含める取引の最高経過日数を指定します。この処理オプションをブランクにすると、経過日数に関係なくすべての取引が含まれます。

四捨五入**14. 四捨五入単位**

このレポートの金額に使用する四捨五入単位を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 四捨五入は行われません。

0: 小数点以下が四捨五入されます。

1: 10で除算されます。

2: 100で除算されます。

3: 1000で除算されます。

4: 10000で除算されます。

5: 100000で除算されます。

ファイル作成**15. ファイル作成オプション**

売掛金ファイル作成のバージョンおよび買掛金ファイル作成のバージョンの処理オプションと組み合わせて、ワークファイルを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ワークファイルは作成されません。

1: 最終ワークファイルが作成されます。

2: 一時ワークファイルが作成されます。一時ワークファイルは、このレポートが作成されるとクリアされます。

- | | |
|---|--|
| 16. 売掛金ファイル作成 (R03B4651)のバージョン | 実行する売掛金相殺ファイルの再作成プログラム(R03B4651)のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。 |
| 17. 買掛金ファイル作成 (R03B4652)のバージョン | 実行する買掛金相殺ファイルの再作成プログラム(R03B4652)のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルト・バージョンとしてZJDE0001が使用されます。 |

顧客/仕入先残高レポートの印刷

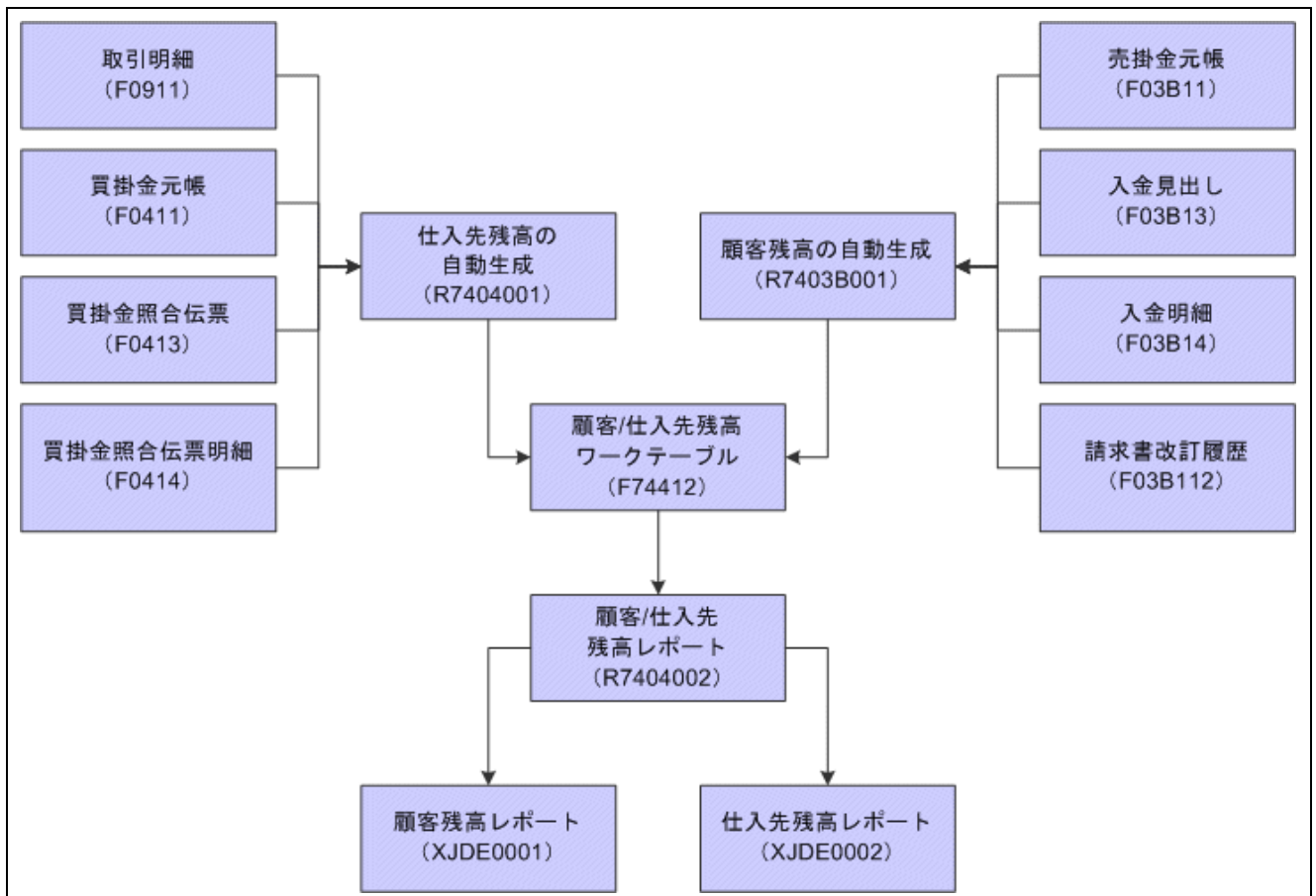
この項では、顧客/仕入先残高ワークテーブルの概要、顧客残高レポートと仕入先残高レポートの概要、および次の方法について説明します。

- 顧客/仕入先残高ワークテーブルの作成
- 仕入先残高の自動生成(R7404001)の処理オプションの設定
- 顧客残高の自動生成(R7403B001)の処理オプションの設定
- 顧客残高レポートと仕入先残高レポートの印刷
- 顧客/仕入先残高レポート(R7404002)の処理オプションの設定

顧客/仕入先残高ワークテーブルについて

顧客/仕入先残高ワークテーブル(買掛金/売掛金)(F74412)には、顧客および仕入先の取引に関する情報が含まれます。F74412テーブルは、仕入先残高の自動生成(R7404001)プログラムと顧客残高の自動生成(R7403B001)プログラムを実行して作成します。F74412テーブルには、顧客/仕入先残高レポート(R7404002)に関する情報が格納されます。

次の図は、顧客/仕入先残高レポートに適用されるF74412テーブルの作成プロセスを示しています。



顧客および仕入先残高レポート・プロセス

F74412テーブルの情報をどのようにグループ化するかによって、顧客残高レポートと仕入先残高レポートでの情報の表示方法が異なります。F74412テーブルの情報は次のようにグループ化できます。

- 相手勘定および顧客/仕入先番号別
- 相手勘定および顧客/仕入先の親番号別
- 買掛/売掛勘定および顧客/仕入先番号別
- 買掛/売掛勘定および顧客または仕入先の親番号別
- 顧客/仕入先番号別
- 顧客/仕入先の親番号別

F74412テーブルの情報をグループ化する方法を指定するには、仕入先残高の自動生成プログラムと顧客残高の自動生成プログラムの処理オプションを設定します。

相手勘定別にF74412テーブルの情報をグループ化すると、手形と損金は顧客/仕入先残高レポートから除外されます。他のグループ化では、手形はレポートに含まれます。

仕入先残高の自動生成プログラムでは、次のテーブルから情報を取得します。

- F0411
- F0413
- F0414
- F0911

顧客残高の自動生成プログラムでは、次のテーブルから情報を取得します。

- F03B11
- F03B112
- F03B13
- F03B14

F74412テーブルは、仕入先残高の自動生成プログラムと顧客残高の自動生成プログラムを実行するたびに再作成されます。仕入先残高の自動生成プログラムは買掛金レコードのみを再作成し、顧客残高の自動生成プログラムは売掛金レコードのみを再作成します。

顧客残高レポートと仕入先残高レポートについて

仕入先残高レポートと顧客残高レポートは、同一のプログラム(R7404002)の異なるバージョンです。プログラムのバージョンが仕入先残高レポートを作成するか顧客残高レポートを作成するかは処理オプションによって決まります。

仕入先残高レポートと顧客残高レポートを印刷して、会社と顧客/仕入先間の取引の明細を確認します。このレポートには、指定した日付範囲と選択した会社について、顧客/仕入先ごとに次の情報が出力されます。

- 初期残高
- 借方/貸方の残高
- 終了残高

仕入先残高レポートと顧客残高レポートには、他に次のような特徴があります。

- 取引は、借方と貸方の金額が個別に印刷されます。
- 手形額を含む取引金額をユーロまたは別の通貨でレポートに印刷できます。
- このレポートを集計モードまたは明細モードで印刷できます。
- 顧客/仕入先残高ワークテーブル(買掛金および売掛金)(F74412)の作成時に相手勘定別でグループ化すると、データ選択、順序設定、小計で元帳クラスを使用できます。
- 仕入先残高の自動生成プログラム(R7404001)と顧客残高の自動生成プログラム(R7403B001)の処理オプションで指定した開始日付と終了日付に基づいて、特定の日付の顧客/仕入先の残高を算出できます。
- 仕入先残高の自動生成プログラムと顧客残高の自動生成プログラムの処理オプションで指定した期間内の取引が印刷されます。
- 相手勘定または売掛金/買掛金勘定別に、顧客と仕入先の残高を各勘定の残高と比較できます。

仕入先残高レポートと顧客残高レポートは、顧客/仕入先残高ワークテーブル(買掛金および売掛金)(F74412)の情報に基づいて作成されます。顧客残高レポートと仕入先残高レポートを実行する前に、仕入先残高の自動生成プログラム(R7404001)と顧客残高の自動生成プログラム(R7403B001)を使用してワークテーブルを作成する必要があります。

初期残高は、仕入先残高の自動生成プログラムと顧客残高の自動生成プログラムの開始日付処理オプションで指定した日付の前日に基づいて計算されます。

注意: 源泉徴収の対象となる仕入先の伝票を支払うと、仕入先残高の自動生成プログラムの処理オプションの設定に応じて、仕入先残高レポートの支払行の直後に源泉徴収額が印刷されます。

顧客/仕入先残高ワークテーブルの作成

次のナビゲーションのいずれかまたは両方を使用します。

「買掛管理レポート」メニュー (G0414) から「仕入先残高の自動生成」を選択します。

「売掛管理レポート」メニュー (G03B14) から「顧客残高の自動生成」を選択します。

注意: 仕入先残高の自動生成 (R7404001) と顧客残高の自動生成 (R7403B001) は、次のメニューからでも利用できます。

Spanish Reports (スペイン語レポート) (G74S09)

French Reports (フランス語レポート) (G093151)

Italian Reports (イタリア語レポート) (G093152)

仕入先残高の自動生成 (R7404001) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

この処理オプションを使用して、取引の選択に使用する日付を指定します。

1. Date From 、2. Thru Date

選択する取引明細の元帳日付範囲の開始日付と終了日付を入力します。
この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。

注意: 初期残高は、入力した日付の1日前の値を基に算出されます。

処理

この処理オプションを使用して、取引をグループ化する方法と源泉徴収を個別に出力するかどうかを指定します。

1. Group Mode

相手勘定または売掛/買掛勘定別に情報をグループ化するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: グループ化されません。

1: 相手勘定別にグループ化されます。

2: 売掛/買掛勘定別にグループ化されます。

注意: 相手勘定別にグループ化する場合、手形と損金は除外されます。

2. Process Mode

親仕入先番号別または仕入先番号別のどちらで情報をグループ化するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先番号別にグループ化されます。

1: 親仕入先番号別にグループ化されます。

3. Withholding Tax

源泉徴収税に対して支払伝票ごとに個別の行を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 支払伝票ごとに1行が作成されます。

1: 源泉徴収税ごとに個別の行が作成されます。

顧客残高の自動生成(R7403B001)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

この処理オプションを使用して、取引の選択に使用する日付を指定します。

1. Date From 、 2. Thru Date 選択する取引明細の元帳日付範囲の開始日付と終了日付を入力します。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。

注意: 初期残高は、入力した日付の1日前の値を基に算出されます。

処理

この処理オプションを使用して、取引をグループ化する方法を指定します。

1. Group Mode 相手勘定または売掛/買掛勘定別に情報をグループ化するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: グループ化されません。

1: 相手勘定別にグループ化されます。

2: 売掛/買掛勘定別にグループ化されます。

注意: 相手勘定別にグループ化する場合、手形と損金は除外されます。

2. Process Mode 親顧客番号別または顧客番号別のどちらで情報をグループ化するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 顧客番号別にグループ化されます。

1: 親顧客番号別にグループ化されます。

顧客/仕入先残高レポートの印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

- 「買掛管理レポート」メニュー (G0414) から「仕入先残高レポート」を選択します。
- 「売掛管理レポート」メニュー (G03B14) から「顧客残高レポート」を選択します。
- 「Spanish Reports」メニュー (G74S09) から「Customer/Supplier Balance Report」を選択します。
- 「French Reports」メニュー (G093151) から「Customer/Supplier Balance Report」を選択します。

顧客/仕入先残高レポート(R7404002)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

1. Balance from 買掛金 (仕入先) 残高レポートを印刷するか、売掛金 (顧客) 残高レポートを印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 買掛金レポートが印刷されます。

1: 売掛金レポートが印刷されます。

モデル・ビジネスユニット

1. Print Mode

印刷モードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 初期残高、終了残高、および選択した期間のすべての伝票などの明細が印刷されます。

1: 終了残高のみが印刷されます。

通貨

1. As-If Currency

この処理オプションを使用して、システムに保管されている金額の通貨以外の通貨に金額を換算して出力するかどうかを指定します。国内通貨建ての金額がこの仮定通貨に換算されます。

たとえば、仏フラン (FRF) 建ての金額をユーロ (EUR) で出力できます。この処理オプションをブランクにすると、国内通貨建ての金額が印刷されます。

注意: この処理オプションによって出力される仮定通貨の金額は一時的に算出されたものです。この金額は保存されません。

2. As-If Currency Date

仮定通貨処理オプションで通貨コードを指定する場合は、基準日を指定する必要があります。ここで指定した日付の為替レートで換算が行われます。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。

注意: 基準日時点の為替レートが為替レート・テーブルに設定されている必要があります。

キャッシュフローの予測

この項では、資金予測データのリフレッシュ・プログラムの概要と実行方法について説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「資金予測データの処理」

資金予測データのリフレッシュ・プログラムについて

資金予測データのリフレッシュ・プログラム (R00522) を実行する場合は、次のプログラムのバージョンを指定します。

- A/R 資金予測データの抽出 (R03B522)
- A/P 資金予測データの抽出 (R04522)

注意: 資金予測データのリフレッシュ・プログラムには、G/L 資金予測データの抽出プログラム (R09522) のバージョンも含まれます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「資金予測データの処理」、「資金予測データのリフレッシュ」

A/R資金予測データの抽出プログラムとA/P資金予測データの抽出プログラムでは、次の処理が実行されます。

- 資金タイプ規則テーブル(F09521)から、売掛金と買掛金の有効な資金タイプ規則が取得されます。
- F03B11テーブルから、金額が0以外、支払状況がA(承認済)、転記コードがD(転記済)の未決済請求書と、転記コードがD以外で改訂が1の未決済請求書が抽出されます。
- F0411テーブルから、金額が0以外で支払状況がP(支払済)以外の未決済伝票が抽出されます。

どの未決済請求書と未決済伝票を資金予測データに含めるかは、開始日付と終了日付の処理オプションによって決まります。開始日付は、基準日処理オプションで指定します。終了日付は、将来日数処理オプションで指定した値に基づいて計算されます。支払期日が開始日付と終了日付の間にある請求書と伝票が、資金予測データに含まれます。

- 資金タイプの期限超過オプションが有効になっているかどうかによって、次の処理のいずれかが実行されます。
- 資金タイプの期限超過オプションが有効な場合は、処理オプションで指定した基準日より前の支払期日のデータが次のように選択されます。

期限超過日数の開始日数と終了日数(ともにマイナス値)によって基準日が調整され、期限超過日付(最も新しい日付と最も古い日付)がそれぞれ計算されます。この期限超過日付の範囲内に支払期日がある取引が選択され、売掛管理と買掛管理の新しい資金予測レコードがF09522テーブルに書き込まれます。

- 資金タイプの期限超過オプションが有効でない場合は、処理オプションで指定した基準日から終了日付までの支払期日のデータが選択され、新しい売掛金予測レコードと買掛金予測レコードがF09522テーブルに書き込まれます。
- どの資金タイプ・コードでも、F09522テーブルは新しい資金予測レコードでリフレッシュされます。この資金予測レコードには、銀行口座と支払期日別の集計金額が含まれています。

抽出プログラムでは、従来の方法で資金予測を行います。買掛金予測データの抽出プログラムでは、見積割引を含まない金額が予測されます。

資金予測データのリフレッシュ・プログラムの実行

「資金予測」メニュー(G09319)から「資金予測データのリフレッシュ」を選択します。

第 24 章

売掛管理データの整合性の確認

この章では、売掛金整合性レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 売掛金元帳 - 総勘定元帳(バッチ別)レポートの実行
- 売掛金元帳 - 勘定残高(略式ID別)レポートの実行
- 売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートの実行

売掛金整合性レポートについて

整合性レポートによってJD Edwards EnterpriseOneのデータに関する問題や不整合を発見し、解決することにより、システム間の整合性を保つことができます。このレポートを使用して、売掛金データと総勘定元帳データが一致していること、および売掛金取引の支払状況が正しいことを確認します。

整合性レポートには、基準日機能はありません。このため、月末など特定の日付を指定してその日付におけるレポートを実行し、データの不一致は確認できません。このレポートは現行日付でのみ実行できます。

整合性レポートを実行する場合には、次の点を考慮する必要があります。

- 他のユーザーがシステムにアクセスしていないことを確認して実行します。
- 頻繁に実行することによって会計システムのデータを常に正確に保ちます。
- ソフトウェアの新規導入時のデータ移行やトレーニング段階で必要に応じて実行します。これにより、導入初期のミスやエラーをすばやく見つけて修正できます。移行したデータの整合性に問題がある場合にも、問題を発見できます。

整合性の問題の削減および解決のため、次の点に留意する必要があります。

- ネットワークが安定していて、通信障害による問題がないことを確認します。
- ソフトウェアのカスタマイズを行った場合、データの整合性への影響がないか確認します。
- 整合性問題の原因を調査する際には、裏付けとなる情報をできるだけ多く文書化します。文書化した情報は、製品の追加サポートを受ける場合に役立ちます。
- JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを使用して問題を解決します。その他のデータベース・ユーティリティ・ソフトウェアを使用すると、問題の解決がより困難になる場合があります。

整合性テストを実行している間にデータが変更されないように、整合性レポートは、ピーク時を避けて実行するようにしてください。

売掛金元帳 – 総勘定元帳(バッチ別)レポートの実行

この項では、売掛金元帳 – 総勘定元帳(バッチ別)レポートの概要と次の方法について説明します。

- 売掛金元帳 – 総勘定元帳(バッチ別)レポートの印刷
- 売掛金元帳 – 総勘定元帳(バッチ別)レポートの処理オプションの設定

売掛金元帳 – 総勘定元帳(バッチ別)レポートについて

売掛金元帳 – 総勘定元帳(バッチ別)整合性レポート(R03B701)を実行すると、F03B11テーブルの取引のバッチ金額と、それに対応するF0911テーブルのレコードのバッチ金額を比較できます。この整合性テストでは、次の処理が行われます。

- 税タイプと税額に基づいて、F03B11テーブルの各バッチおよび勘定科目の総額(転記済)が合計されます。
- F0911テーブルの転記済バッチの支払項目が合計されます。
- F03B11の金額とF0911の金額が比較されます。差額はゼロになります。
- F03B11の金額と自動相殺額が比較されます。差額はゼロになります。

不整合が見つかった場合は、レポートに印刷されます。

また、このレポートを実行すると、F03B11の各取引の支払状況が正しいかどうか確認できます。支払状況と未決済金額が次のようになっている請求書がないか検証されます。

- 請求書の未決済金額がゼロなのに、支払状況がP(支払済)になっていない。
- 請求書に未決済金額があるのに、支払状況がP(支払済)になっている。

このような請求書がある場合、その請求書レコードは整合性レポートに印刷されます。

このプログラムを実行する前に、すべての請求書バッチ(バッチ・タイプIB)を転記する必要があります。整合性レポートでは、未転記または除外されたバッチは無視されます。「バッチ一時変更」フォームでオプションを選択して、バッチを処理の対象から除外できます。

金額不一致の解決

金額の合わない請求書バッチが検出されると、その原因調査のため、対象となるバッチの金額がレポートに印刷されます。次のような状況がレポートされます。

1. 売掛金元帳(F03B11)の請求金額(税込み)が取引明細テーブル(F0911)の金額と一致しない。
金額が一致しない請求書を調べるには、請求仕訳帳または仕訳帳でそのバッチの仕訳を印刷するか、オンラインで請求書を照会して請求金額と仕訳の金額を比較します。
この金額の不一致は、次のような場合に起こります。
 - 請求書入力で意図的に異なる金額を入力した場合
 - 仕訳入力プログラム(P0911)で請求書仕訳の金額を変更した場合

- ・ 無効にした請求書の支払項目を転記していない場合

注意: これは、請求書に複数の支払項目が含まれる場合にのみ起こります。請求書に支払項目が1つしかなく、それが無効で未転記の場合、整合性レポートでは、この請求書は金額不一致ではないとみなされます。請求書が無効にすると請求書全体から転記コードが削除されるので、その請求書はレポートの対象とはなりません。ただし、複数ある支払項目のうちの1つが無効で未転記の場合、整合性レポートでは、この請求書は金額不一致であるとみなされます。

この問題を解決するには、バッチに含まれるすべての取引が転記されていることを確認します。すべての取引が転記済の場合は、金額不一致の請求書を検索して、請求額と一致するように仕訳の金額を修正します。ただし、請求額が正しくない場合は、取引の金額を一致させてからその請求書は無効にします。

2. 取引明細テーブル(F0911)の売上勘定と売掛金勘定の金額が一致しない。

この状況は、転記プログラムの処理が完了していない場合にのみ起こります。

この問題を解決するには、売掛金勘定の足りない金額を突き止め、その金額で片側仕訳を作成して貸借不一致のまま転記します。

また、データ・レコードが損傷を受けている場合にも、前述のいずれかの状況がレポートに出力される場合があります。データ・レコードは、ハードウェア障害を含む、様々な理由で損傷を受ける可能性があります。破損したレコードを特定するには、F03B11テーブルおよびF0911テーブルに対して会社番号や元帳日付、伝票番号、会計年度、西暦などのキー・フィールドでクエリーを実行し、NULLやブランクのフィールドがないか、またはシステムで認識できない特殊文字が含まれていないかを確認してください。

この問題を解決するには、キー・フィールドを修復するか、破損したレコードをテーブルから削除します。破損したレコードの特定と修復の詳細は、データベース管理者に連絡してください。

無効な支払状況

請求書の支払状況が正しくない場合、支払状況が無効であることを示すエラー・メッセージとともにレポートの右側に請求書の情報が印刷されます。請求書を調べて、支払状況と未決済金額のどちらが正しくないかを判別する必要があります。データ・ファイル・ユーティリティを使用して、必要なフィールドを更新してください。詳細は、データベース管理者に連絡してください。

売掛金元帳 - 総勘定元帳(バッチ別)レポートの印刷

「期末処理」(G03B21)、「売掛金元帳 - 総勘定元帳(バッチ別)」

売掛金元帳 - 総勘定元帳(バッチ別)レポート(R03B701)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

日付

この処理オプションを使用して、請求書選択のための日数または日付を指定します。

1. 日数

何日前までの転記済請求書バッチ(IB)を選択するかを指定します。バッチ日付が指定した日数を遡った日付以降のすべての転記済請求書が処理されます。たとえば、今日の日付が2008年6月15日で、指定した日数が45である場合、2008年5月1日から2008年6月15日までのすべての転記済請求書バッチが処理されます。この処理オプションがブランクのまま、「日付

範囲」処理オプションに値を指定していない場合は、すべての転記済請求書バッチが処理されます。

日付範囲を指定する場合は、この処理オプションに値を入力しないでください。

開始日付、終了日付

処理対象の請求書バッチ (IB) の選択に使用する日付範囲を指定します。指定した日付範囲内 (指定した日付を含む) の請求書バッチが処理対象として選択されます。

「日数」処理オプションに値を入力した場合は、日付範囲を指定しないでください。

売掛金元帳 – 勘定残高 (略式ID別) レポートの実行

この項では、売掛金元帳 – 勘定残高 (略式ID別) レポートの概要と次の方法について説明します。

- 売掛金元帳 – 勘定残高 (略式ID別) レポートの印刷
- 売掛金元帳 – 勘定残高 (略式ID別) レポートの処理オプションの設定
- 売掛金元帳 – 勘定残高 (略式ID別) レポートのデータ選択とデータ順序の設定

売掛金元帳 – 勘定残高 (略式ID別) レポートについて

売掛金元帳 – 勘定残高 (略式ID別) レポート (R03B707) を実行すると、略式ID別の相殺勘定ごとに、勘定残高テーブル (F0902) で更新された金額と次の取引テーブルの転記済金額を比較できます。

- F03B11
- F03B112
- F03B13
- F03B14

請求書改訂履歴テーブルにある未転記の取引は、転記済とみなして計算されます。

このレポートの対象となる売掛金取引に関する勘定科目は次のとおりです。

- 売掛金 (AAI項目 RC)
- 小額消去 (AAI項目 RA)
- 損金 (AAI項目 RN)
- 割引実施額 (AAI項目 RKD)
- 銀行勘定 (AAI項目 RB)
- 延滞利息金 (AAI項目 RFCおよびRFD)
- 為替差損益 (AAI項目 RGおよびRL)
- 代替為替差損益勘定 (RYおよびRZ)
- 端数調整勘定 (AAI項目 R8)

取引 (F03B11、F03B13、およびF03B14) 入力時に、勘定科目の略式IDが自動的に設定されます。

このレポートを実行すると、次のフィールドをキーにして売掛管理システムの各取引テーブルの金額が集計されます。

- 略式ID
- 会社
- 会計年度
- 西暦上2桁
- 会計期間
- 基本通貨コード

レポートには、前述の計算結果とそれに対応するF0902の残高が印刷されます。

注意: 様々な売掛金勘定の金額を計算するために各種のテーブルが使用されます。たとえば、売掛金勘定金額の計算にはF03B11、F03B112、およびF03B14の各テーブルの金額が使用されますが、銀行勘定の金額の計算にはF03B13テーブルの金額だけが使用されます。

このレポートでは、F03B11テーブルの次の伝票タイプは考慮されません。

- R1 (手形請求書)
- RU (未充当入金)
- RB (再請求)
- R5 (損金)

金額不一致の解決

取引テーブル (F03B11、F03B112、F03B13、およびF03B14) の金額と勘定残高テーブル (F0902) の金額に不一致が検出されると、差異金額が印刷されます。不一致がある場合は、調べて修正する必要があります。次のレポートを実行して、金額不一致の問題を解決します。

- 請求書 - 総勘定元帳 (バッチ別) 整合性レポート (R03B701)
- 入金 - 総勘定元帳 (バッチ別) 整合性レポート (R890911BI)
- 取引明細の再転記レポート (R099102)

通常、他の整合性レポートで問題がない場合、不一致が起こるのは次の場合のみです。

- 売掛管理システム以外で作成した仕訳の転記による売掛金勘定の更新

売掛金AAIで指定されている売掛金勘定を通常の仕訳入力で使った場合、その仕訳を転記すると勘定残高テーブル (F0902) が更新されます。JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システム以外で作成した仕訳は、売掛管理の取引テーブルには対応する取引がないため、不一致のレポートが出力されます。

この問題を解決するには、仕訳を無効にして、売掛金AAIで使用していない勘定科目を使って仕訳を再入力します。

- 他システムとの勘定科目の共有

銀行勘定などの売掛金勘定がJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでも更新される場合、F0902勘定残高は、この勘定科目の売掛金取引残高と等しくなりません。

この問題を解決するには、処理オプションでこのような勘定科目をレポートの処理対象から除外します。

- 転記プログラム未完了による差額の未調整

転記プログラムが実行中の場合、取引レコードの転記状況が転記済となっても、対応する勘定残高テーブル (F0902) がまだ更新されていない場合があります。取引明細の再転記プログラム (R099102) を実行して、このような状況で発生した勘定残高の差異を調べることができます。

- 会計期間パターンの変更

一般会計システムで会計期間パターンを変更すると、売掛管理システムの各レコードの期間と勘定残高テーブル (F0902) の期間の同期がとれなくなり、不一致が生じます。

この問題を解決するには、売掛管理システムの各取引テーブル (F03B11、F03B13、F03B14) の期間を新しい期間パターンにあわせて変更します。詳細は、データベース管理者に連絡してください。

- 前期間日付で無効にした請求書がある場合の現行期間でのレポートの実行

次の例を参照してください。

- 7月の元帳日付 (期間7) で金額100の請求書を2件入力しました。これらの請求書を転記すると、F0902 テーブルの期間7の残高は200になりました。

- 1つの請求書しか入力すべきでなかったことに気づき、請求書の1つを無効にすることにしました。ただし、7月に請求書を無効にするのではなく、6月 (期間6) の元帳日付を使用して無効にします。これによりF03B11テーブルのこの請求書レコードの元帳日付は6月に更新されます。

- 処理オプションで期間7を指定してレポートを実行しました。

勘定残高テーブル (F0902) の7月の残高は200ですが、F03B11テーブルには7月の元帳日付の請求書は1件 (100) しかないため、100が不一致としてレポートに印刷されます。処理オプションで期間7を指定したため、6月に記録されている100 (マイナス) は無視されます。

この場合、レポートには不一致と表示されますが、実際の勘定残高と売掛金元帳の金額は一致しています。レポートを修正するには、処理オプションで期間6を指定するか、ブランク (すべての期間) にして再度実行します。

会計年度でも同じ状況が発生します。前年度日付で請求書を無効にした場合に、現行年度でレポートを実行すると、この問題が発生します。

- 請求書支払時の割引実施額/小額消去のVAT調整

総勘定元帳転記レポート・プログラム (R09801) の税規則と処理オプションの設定に応じて、入金転記時にVAT調整のために割引実施額/小額消去勘定科目に対して調整が行われる場合があります。

VAT調整を行う場合は、割引実施額/小額消去の勘定科目を手作業で調整するか、これらの勘定科目をレポートの印刷対象から除外する必要があります。VAT調整では、その他の勘定科目の金額不一致はレポートされません。

- データ・レコードの破損

このエラーは、ハードウェアの障害を含む様々な理由によって、どの整合性レポートでも発生する可能性があります。破損したレコードを特定するには、各テーブルに対して会社番号や元帳日付、伝票番号、会計年度、西暦などのキー・フィールドでクエリーを実行し、NULLやブランクのフィールドがないか、またはシステムで認識できない特殊文字が含まれていないかを確認します。

この問題を解決するには、キー・フィールドを修復するか、破損したレコードをテーブルから削除します。F0902テーブルにレコードがある場合、F0911テーブルへの再転記が必要な場合があります。

破損したレコードの特定と修復の詳細は、データベース管理者に連絡してください。

- データ・レコードの移行の問題

システム導入時に既存のシステムからすべてのデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに移行していない場合、たとえば、総勘定元帳と請求書レコードのみ移行して、入金レコードを移行していない場合、不一致が生じる可能性があります。

整合性の問題が生じた際に問題を特定できるよう、すべての売掛管理レコードを移行できない場合は、データ移行直後に実行した整合性レポートを残しておき、後で問題が生じたときに比較対象として使用してください。

売掛金元帳 - 勘定残高(略式ID別)レポートの印刷

「期末処理」(G03B21)、「売掛金元帳 - 勘定残高(略式ID別)」

売掛金元帳 - 勘定残高(略式ID別)レポート(R03B707)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

この処理オプションでは、F03B11テーブルからのデータ選択を指定します。

略式ID

この処理オプションを使用して、ここで指定した勘定科目のみがレポートに印刷されます。自動生成された8桁の略式IDを入力します。ゼロも含めて正しい値を入力してください。たとえば、売掛勘定1.1210の略式IDが6251の場合は、「00006251」と入力します。

この処理オプションをブランクにすると、他の処理オプションの設定に基づいて、該当するすべての勘定科目が印刷されます。

西暦上2桁

この処理オプションを使用して、西暦上2桁がここで指定した値のレコードのみをレポートに印刷します。西暦上2桁が指定した値と同じかそれより大きいレコードが印刷されます。たとえば「19」と入力すると、1900年から現行年度までのレコードが印刷されます。「20」と入力すると、2000年から現行年度までのレコードが印刷されます。

会計年度

この処理オプションを使用して、指定した会計年度のレコードのみレポートに印刷します。会計年度が指定した値と同じかそれより大きいレコードが含まれます。この処理オプションを使用するには、「西暦上2桁」処理オプションも指定する必要があります。指定しない場合、ここで入力した値は無視されます。たとえば、西暦上2桁を20、会計年度を05と指定すると、会計期間パターンの定義に基づいて2008年からのすべてのレコードが含まれます。

期間

この処理オプションを使用して、ここで指定した会計期間のレコードのみをレポートに印刷します。指定した期間およびそれより後のレコードが印刷されます。この処理オプションを使用するには、「会計年度」と「西暦上2桁」処理オプションも指定する必要があります。これらの処理オプションをあわせて指定しない場合、ここで入力した値は無視されます。たとえば、「西暦上2桁」を「20」、「会計年度」を「05」、「期間」を「6」と指定すると、会計期間パターンの定義に基づいて2008年第6期間以降のすべてのレコードが印刷されます。

処理

この処理オプションでは、整合性の検証対象とし、レポートに含める勘定科目を指定します。

F03B11とF03B14の売掛金勘定

F03B11テーブルのRPAIDフィールドとF03B14テーブルのRZAIDフィールドで指定された売掛金勘定をレポートに印刷するかどうかを指定します。F03B14テーブルの再請求取引勘定(RZAIDC)もレポートに印刷されます。

| | |
|-----------------------------------|--|
| | <p>ブランク: 売掛金勘定を含めない。</p> <p>1: 売掛金勘定を含める。</p> |
| 割引勘定 | <p>F03B14テーブルの割引実施額勘定(RZAIDD)をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 割引実施額勘定を含めない。</p> <p>1: 割引実施額勘定を含める。</p> |
| 損金勘定 | <p>F03B14テーブルの損金勘定(RZDAID)をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 損金勘定を含めない。</p> <p>1: 損金勘定を含める。</p> |
| 小額消去勘定 | <p>F03B14テーブルの小額消去勘定(RZAIDW)をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 小額消去勘定を含めない。</p> <p>1: 小額消去勘定を含める。</p> |
| 為替差損益勘定 | <p>F03B14テーブルの為替差損益勘定(RZAIDT)をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 為替差損益勘定を含めない。</p> <p>1: 為替差損益勘定を含める。</p> |
| 代替通貨為替差損益勘定 | <p>F03B14テーブルの代替通貨為替差損益勘定(RZAIDA)をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 代替通貨為替差損益勘定を含めない。</p> <p>1: 代替通貨為替差損益勘定を含める。</p> |
| 銀行勘定 | <p>F03B13テーブルの銀行勘定(RYGLBA)をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 銀行勘定を含めない。</p> <p>1: 銀行勘定を含める。</p> |
| 四捨五入差異勘定 | <p>F03B14テーブルの四捨五入差異勘定(RZRASI)をレポートに印刷するかどうかを指定します。</p> <p>ブランク: 四捨五入差異勘定を含めない。</p> <p>1: 四捨五入差異勘定を含める。</p> |
| 表示 | |
| この処理オプションでは、レポートに表示する詳細レベルを指定します。 | |
| レポート・モード | <p>F03B13テーブルの銀行勘定(RYGLBA)をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 銀行勘定を含めない。</p> <p>1: 銀行勘定を含める。</p> |

売掛金元帳 - 勘定残高(略式ID別)レポートのデータ 選択とデータ順序の設定

このレポートのデータ選択とデータ順序は変更しないでください。データの範囲や特定のレコードを指定するには、処理オプションを使用してください。

売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートの実行

この項では、売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートの概要と次の方法について説明します。

- 売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートの印刷
- 売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートの処理オプションの設定

売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートについて

売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポート(R890911BI)を実行すると、F03B14テーブルの転記済レコードの各バッチの金額がF0911テーブルの対応する総勘定元帳入金額と一致しているかどうか、および売掛金勘定への自動仕訳(AEレコード)と一致しているかどうかを検証できます。レポートには不一致のみが表示されます。

注意: 整合性の問題がないことを断定することが、プログラムの難しい場合があります。レポートには、存在しない不一致が印刷される場合があります。レポートされた問題は調査し、それが実際に存在していることが確認できたら修正する必要があります。プログラムによりこのような不確定な状況のレポートが行われなければ、整合性の問題が未報告のまま残る可能性が発生しています。

重要: このプログラムには、不一致が見つかった場合に貸借一致仕訳をF0911テーブルに作成する処理オプションがあります。ただし、このオプションは、通貨換算にのみ使用することを推奨します。このオプションには、使用にあたっての前提条件があります。

このプログラムを実行する前に、すべての入金バッチ(バッチ・タイプRB)を転記する必要があります。未転記または除外されたバッチは無視されます。また、「バッチ一時変更」フォームでオプションを選択して、バッチを処理の対象から除外できます。

金額不一致の解決

金額の合わない入金バッチがあると、調査が必要なそのバッチの金額がレポートに印刷されます。次のような状況がレポートされます。

- 入金明細テーブル(F03B14)の入金額が取引明細テーブル(F0911)の金額と一致しない。

この状況は、転記プログラムの処理が完了していない場合にのみ起こります。

この問題を解決するには、転記プログラムをもう一度実行して、すべての自動仕訳を削除します。不一致のバッチがあった場合、F0911テーブルのすべての仕訳が削除されます。その後、再度(3回目)転記プログラムを実行して正しい仕訳を作成してください。

- 入金明細テーブル(F03B14)の入金額が取引明細テーブル(F0911)の売掛金勘定の金額と一致しない。

この状況は、転記プログラムの処理が完了していない場合にのみ起こります。

この問題を解決するには、転記プログラムをもう一度実行して、すべての自動仕訳を削除します。不一致のバッチがあった場合、F0911テーブルのすべての仕訳が削除されます。その後、再度(3回目)転記プログラムを実行して正しい仕訳を作成してください。

また、データ・レコードが損傷を受けている場合にも、前述のいずれかの状況がレポートに出力される場合があります。データ・レコードは、ハードウェア障害を含む、様々な理由で損傷を受ける可能性があります。破損したレコードを特定するには、F03B14テーブルおよびF0911テーブルに対して会社番号や元帳日付、伝票番号、会計年度、西暦などのキー・フィールドでクエリーを実行し、NULLやブランクのフィールドがないか、またはシステムで認識できない特殊文字が含まれていないかを確認してください。

この問題を解決するには、キー・フィールドを修復するか、破損したレコードをテーブルから削除します。破損したレコードの特定と修復の詳細は、データベース管理者に連絡してください。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「取引明細の再転記と会計年度の再計算」

売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポートの印刷

「期末処理」(G03B21)、「売掛金元帳 - 総勘定元帳入金」

売掛金元帳 - 総勘定元帳入金レポート(R890911BI)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理オプション

この処理オプションでは、このプログラムを実行する際のモードを指定します。

1. **F0911の更新** プログラムを実行するモードを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: テスト・モード。F0911テーブルは更新されません。
 1: 最終モード。F0911テーブルは更新されます。

第 25 章

請求書および入金の除去

この章では、請求書および入金の除去の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 請求取引の除去
- 入金取引の除去

注意: ブラジルには、請求書を除去するための国別機能が用意されています。

請求書および入金の除去について

現行の取引用のディスク・スペースを確保するために、取引の履歴レコードを除去することが必要な場合があります。

売掛金除去プログラムにより、次のテーブルから請求書と入金を除去できます。

- 売掛金元帳 (F03B11)
- 入金見出し (F03B13)
- 入金明細 (F03B14)

前述のレコードは次の各テーブルに移されます。

- 売掛金元帳除去 (F03B11P)
- 入金見出し除去 (F03B13P)
- 入金明細除去 (F03B14P)

取引レコードを除去した後、除去テーブルの名前を変更し、他の環境や媒体にコピーして保存しておくことができます。

総勘定元帳取引

売掛金取引を除去する場合、対応する取引明細テーブル (F0911) のレコードを除去するまで、各バッチのデータは不一致になります。対応するレコードを同時に除去しない場合は、整合性レポートのデータ選択を変更して、特定の日付前の取引をレポートの対象外にする必要があります。

請求書と入金の除去の調整

売掛管理システムには除去プログラムがいくつかありますが、それぞれのプログラムは関連していません。このため、入金を照会せずに請求書を除去したり、その逆を行ったりする可能性があります。請求書と関連する入金を両方とも除去しないと、照会時にエラー・メッセージが表示されたり、整合性の問題がレポートされる可能性があります。

事前設定

除去する取引のバックアップをとってください。

請求取引の除去

この項では、請求取引の除去プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 請求取引の除去プログラムの実行
- 請求取引の除去 (R03B800) および入金取引の除去 (R03B801) の処理オプションの設定

請求取引の除去プログラムについて

請求取引を除去する場合、除去する請求書を決定する際に次の条件が使用されます。

- 元帳日付が請求取引の除去プログラムの処理オプションで指定した日付以前の請求書
- 転記済の請求書
- 入金済の請求書
- 未決済金額がない請求書

除去処理が完了した後、関連テーブルを最適化してインデックスを再作成できます。この処理の詳細は、データベース管理者に問い合わせてください。

請求取引の除去プログラムの実行

「売掛管理システムの上級/技術的操作」(G03B31) の「請求取引の除去」(R03B800) を選択します。

請求取引の除去 (R03B800) および入金取引の除去 (R03B801) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

この処理オプションでは、F03B11、F03B13、およびF03B14テーブルから除去するレコードの選択に使用する日付を指定します。

1. 元帳日付
除去対象の請求書レコードの選択に使用する元帳日付を指定します。ここで指定した日付以前の元帳日付を持つすべての請求書レコードがF03B11テーブルから除去されます。

入金取引の除去

この項では、入金取引の除去プログラムの概要とその実行方法について説明します。

入金取引の除去プログラムについて

入金取引を除去する場合、除去する入金を決定する際に次の条件が使用されます。

- 元帳日付が入金取引の除去の処理オプションで指定した日付以前の入金
- 転記済の入金

除去処理が完了した後、関連テーブルを最適化してインデックスを再作成できます。この処理の詳細は、データベース管理者に問い合わせてください。

入金取引の除去プログラムの実行

「売掛管理システムの上級/技術的操作」(G03B31)の「入金取引の除去」(R03B801)を選択します。

付録 A

バッチ請求書処理のためのフィールドのマッピング

この付録では、次のバッチ請求書処理テーブルのフィールドのマッピングについて説明します。

- バッチ請求書テーブル (F03B11Z1)
- 仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1)
- 税 - 請求書サフィックス・バッチ入力別税額A A - 03Bテーブル (F76A19Z1)
- F76H3B10 EDIタグ・ファイル - CHI - 03Bテーブル (F76H3B1Z)
- F76H3B15 EDIタグ・ファイル - CHI - 03Bテーブル (F76H3B5Z)

バッチ請求書テーブル (F03B11Z1) のフィールドのマッピング

この項では、F03B11Z1テーブルのフィールドの一覧を記載します。バッチ請求処理プログラム (R03B11Z1A) を実行するには、いくつかのフィールドの入力が必須となります。また、フィールドによっては、値をblankにしておくことができます。すべてのフィールドが、売掛管理のフォームに表示されたり、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムで使用されたりするわけではありません。

これらのテーブルのフィールド名は、対話型フォームのフィールド名に対応しています。

必須フィールド

次のF03B11Z1テーブルのフィールドは、バッチ請求書処理で必須のフィールドです。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|----------------|--------|-----|----|---|
| EDI-ユーザーID | VJEDUS | 文字 | 10 | <p>プロセスを実行する人のユーザーID、または従業員ワークセンターでメッセージを受け取る人のユーザーIDを入力します。</p> <p>このフィールドとEDI-トランザクション番号 (VJEDTN)、EDI-バッチ番号 (VJEDBT)、EDI-行番号 (VJEDLN) の各フィールドを組み合わせ、請求書を一意に識別します。</p> |
| EDI-トランザクション番号 | VJEDTN | 文字 | 22 | <p>トランザクションを相互参照できるように、ソース・システムの伝票番号を入力します。</p> <p>EDI-行番号フィールド (VJEDLN) と組み合わせ、各取引を一意に識別します。各トランザクション番号はそれぞれ別の請求書を示します。行番号が異なる場合を除き、1つのバッチに同じ番号のトランザクションを置くことはできません。</p> |
| EDI-行番号 | VJEDLN | 数値 | 7 | <p>取引に複数の支払項目が含まれている場合にのみ支払項目番号を入力します。トランザクションに支払項目が1つしかない場合は、このフィールドはブランクにすることができます。</p> <p>EDI-トランザクション番号フィールド (VJEDTN) と組み合わせ、請求書の各支払項目を識別します。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------------------|--------|-----|----|--|
| EDI-処理済み(Y/N) | VJEDSP | 文字 | 1 | このフィールドはblankにしてください。 レコードが正常にアップロードされた場合、自動的に値が入力されます。ゼロ(0)は、未処理か、処理中にエラーが発生したことを示します。トランザクションが正常に処理されると、このフィールドの値は1に変更されます。 |
| EDI-トランザクション・アクション | VJEDTC | 文字 | 1 | このフィールドには「A」と入力します。その他の値は無効です。 |
| EDI-トランザクション・タイプ | VJEDTR | 文字 | 1 | このフィールドには「I」(請求書)と入力します。 トランザクションのタイプを識別するコードです。 |
| EDI-バッチ番号 | VJEDBT | 文字 | 15 | 処理するトランザクションをグループ化する番号を入力します。 このフィールドとEDI-トランザクション番号(VJEDTN)、EDI-ユーザーID(VJEDUS)、EDI-行番号(VJEDLN)の各フィールドを組合せて、バッチの中でトランザクションを一意に識別します。また、このフィールドではレベル区切りも指定します。この値が変わるたびに新しいバッチ番号が割り当てられます。一度に処理するトランザクション・グループごとにバッチ番号を割り当てると、パフォーマンスが向上します。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|-------|-----|----|--|
| 住所番号 | VJAN8 | 数値 | 8 | 請求書取引に関連付けられている顧客の住所録番号を入力します。 住所録マスター (F0101)にある番号を入力してください。 |
| 元帳日付 | VJDGJ | 日付 | 6 | データベースと同じ日付形式で元帳日付を入力します。データベースによって、グレゴリオ暦の日付形式 (yy/mm/dd) が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式による入力が必要な場合があります。 ユリウス暦の日付は、cyyddd (cは世紀数下1桁) という形式で表します。日付が20世紀の場合は0(ゼロ)、21世紀の場合は1を入力します。たとえば、99/06/01 (1999年6月1日) はユリウス暦では099152になります。04/06/01 (2004年6月1日) は、2004年がうるう年で2月29日までであるため、104153になります。 別の方法として、このフィールドをブランクにして、VJDGM (mm)、VJDGD (dd)、VJDGY (yy)、VJDG# (cc) の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド (VJDG#) には年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2008年の場合は「20」と入力します。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|--------|-----|----|---|
| 請求書日付 | VJDIVJ | 日付 | 6 | <p>データベースと同じ日付形式で請求書日付を入力します。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、元帳日付が使用されます。入力例は、元帳日付(VJDGJ)のデータ項目を参照してください。</p> <p>別の方法として、このフィールドをブランクにして、VJDIVM(mm)、VJDIVD(dd)、VJDIVY(yy)、VJDIV#(cc)の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド(VJDIV#)には年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2008年の場合は「20」と入力します。</p> |
| 会社 | VJCO | 数値 | 5 | <p>請求書が属する組織を識別する番号。この番号は、会社固定情報テーブル(F0010)に存在し、適切な貸借対照表を保持した企業を表す番号である必要があります。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|----------|-------|-----|----|--|
| 相手勘定 | VJGLC | 文字 | 4 | <p>このフィールドの値と会社番号フィールド(VJCO)の組合せにより、転記する売掛金(相殺)勘定を指定します。AAI項目RCxxxx(xxxxは相手勘定フィールドの値)で設定した勘定科目が、転記処理で使用されます。AAIは会社別に、または会社00000(デフォルト)に対して設定できます。</p> <p>取引によって異なる相殺勘定科目を割り当てる場合を除き、このフィールドには値を入力する必要はありません。</p> |
| 総額 | VJAG | 数値 | 15 | <p>データベースと同じ形式で金額を入力します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。</p> <p>外貨建て(通貨モードF)で入力する場合は、このフィールドをブランクにして外貨建て金額フィールド(VJACR)を使用します。</p> |
| 勘定科目形式 | VJAM | 文字 | 1 | すべてのレコードに対して「2」を入力します。 |
| ビジネスユニット | VJMCU | 文字 | 12 | <p>ビジネスユニット・マスター(F0006)にある値を入力してください。このフィールドをブランクにすると、顧客住所録レコードのセキュリティ・ビジネスユニット・フィールド(MCU)の値が使用されます。</p> |

バッチ請求書処理(割引あり)の必須フィールド

割引のあるバッチ請求書の処理では、前述の一覧表に示したフィールドに加え、次のF03B11Z1テーブルのフィールドへの入力が必要不可欠です。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|---------|-------|-----|----|---|
| 支払条件コード | VJPTC | 文字 | 3 | <p>支払条件コードを入力するか、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>このフィールドに入力する値は、支払条件テーブル(F0014)に存在している必要があります。支払条件に割引の計算が設定されている場合、それに応じて売掛金元帳テーブル(F03B11)の割引可能額(VJADSC)、割引期日(VJDDNJ)、支払期日(VJDDJ)の各フィールドが更新されます。</p> <p>このフィールドと割引可能額フィールド(VJADSC)がブランクで、業種別顧客マスター(F03012)に支払条件が設定されている場合、その支払条件を使用して割引額と割引期日が計算されます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|--------|-----|----|---|
| 割引可能額 | VJADSC | 数値 | 15 | <p>支払条件コードを入力した場合は、このフィールドはブランクのままにします。</p> <p>支払条件コードを入力しなかった場合は、データベースと同じ形式で割引額を入力してください。データベースによって、小数を入力できる場合があります。割引額を入力する場合、割引期日フィールド(VJDDNJ)にも値を入力する必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、支払条件コード・フィールド(VJPTC)の値に基づいて割引額と割引期日が計算されます。支払条件コード・フィールドがブランクの場合、F03012テーブルに支払条件が設定されていれば、その支払条件を使用して割引額と割引期日が計算されます。</p> <p>このフィールドに割引率(%)は指定できません。たとえば、米ドルを使用する場合、「.05」と入力すると、割引額は5セントとみなされます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|-------|-----|----|--|
| 支払期日 | VJDDJ | 日付 | 6 | <p>支払条件コード・フィールド(VJPTC)に値を入力した場合は、このフィールドはブランクのままにします。請求書の処理時に支払期日が自動的に計算されます。</p> <p>支払条件を使用しない場合、データベースと同じ日付形式で支払期日を入力してください。詳細は、元帳日付(VJDGJ)のデータ項目を参照してください。</p> <p>別の方法として、このフィールドをブランクにして、VJDDM(mm)、VJDDD(dd)、VJDDY(yy)、VJDD#(cc)の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド(VJDD#)には年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2008年の場合は「20」と入力します。</p> <p>割引の有無にかかわらず、このフィールドによって請求書の支払期日が指定されます。支払条件コード・フィールドがブランクで、F03012テーブルに支払条件が設定されている場合、その支払条件を使用して割引額と割引期日が決定されます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|--------|-----|----|--|
| 割引期日 | VJDDNJ | 日付 | 6 | <p>支払条件コード・フィールド(VJPTC)に値を入力した場合は、このフィールドはブランクのままにします。請求書の処理時に割引期日が自動的に計算されます。</p> <p>支払条件を使用せずに割引可能額を使用する場合は、データベースと同じ日付形式で日付を入力してください。詳細は、元帳日付(VJDGJ)のデータ項目を参照してください。</p> <p>別の方法として、このフィールドをブランクにして、VJDDNM(mm)、VJDDND(dd)、VJDDNY(yy)、VJDDN#(cc)の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド(VJDDN#)には年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2008年の場合は「20」と入力します。</p> <p>このフィールドには、入金後の割引を適用できる最後の日付を入力します。このフィールドは、請求書の処理時に、支払条件の定義に基づいて自動的に更新されます。</p> <p>支払条件コード・フィールド(VJPTC)と割引可能額フィールド(VJADSC)がブランクで、F03012テーブルに支払条件が設定されている場合、その支払条件を使用して割引可能額(VJADSC)と割引期日(VJDDNJ)が決定されます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|---------------------|--------|-----|----|---|
| バッチ・ファイル割引 処理フラグ | VJEDDH | 文字 | 1 | このフィールドは空白にしてください。請求書の処理時に、支払条件コード(VJPTC)と割引可能額(VJADSC)に基づいて自動的に更新されます。 |
| 割引実施額 | VJADSA | 数値 | 15 | このフィールドは空白にしてください。割引が行われる場合、入金消込時にF03B11テーブルのこのフィールドが更新されます。 |

任意フィールド

次のF03B11Z1テーブルのフィールドは、バッチ請求書処理を行う上で任意のフィールドです。これらのフィールドを使用して、請求書に関する情報を追加できます。

システムによって更新される特定のフィールドは空白にしておくことをお勧めします。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|---------------|--------|-----|----|------------------------------------|
| EDI - 処理済明細行数 | VJEDDL | 数値 | 5 | 特定のトランザクションに含まれる明細行数です。ユーザー検証専用です。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|-------|-----|----|---|
| 伝票番号 | VJDOC | 数値 | 8 | <p>F03B11テーブルの取引を識別する番号です。このフィールドがblankの場合、システム03Bの自動採番を使用して伝票番号が自動的に割り当てられます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合は、F03B11テーブルに存在しない値を入力します。既存の値を入力すると、取引が重複しているとみなされ、処理されません。また、このフィールドに値を入力する場合は、仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)の対応するフィールドに同じ値を入力する必要があります。</p> <p>このフィールドは、blankにしておくことをお勧めします。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|-------|-----|----|---|
| 伝票タイプ | VJDCT | 文字 | 2 | <p>取引タイプを指定するコードです。このフィールドをblankにすると、請求書入力MBF処理オプション・プログラム(P03B0011)の処理オプションによって値が指定されます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、ユーザー定義コードの00/DT(伝票タイプ-すべての伝票)と00/DI(伝票タイプ-請求書のみ)に設定されている値を入力する必要があります。また、このフィールドに値を入力する場合は、F0911Z1テーブルの対応するフィールドにも同じ値を入力する必要があります。</p> <p>このフィールドは、blankにしておくことをお勧めします。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|-------|-----|----|---|
| 伝票会社 | VJKCO | 文字 | 5 | <p>取引を行った会社を指定するコードです。このフィールドは、トランザクション番号を会社別に区別する場合にのみ使用します。このフィールドがブランクの場合、会社フィールド(VJCO)に入力した値が使用されます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、F0010テーブルに存在する値を入力してください。</p> <p>このフィールドに値を入力して、F0911Z1テーブルの対応するフィールド(VNKCO)に値を入力しないと、このフィールドの値が自動的にコピーされます。</p> <p>このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。</p> |
| 伝票支払項目 | VJSFX | 文字 | 3 | <p>請求書の支払項目番号を指定するコードです。このフィールドをブランクにすると、支払項目に「001」から始まる番号が割り当てられます。支払項目が複数ある取引を指定するには、EDI-行番号フィールド(VJEDLN)を使用します。</p> <p>EDI-トランザクション番号(VJEDTN)とEDI-行番号(VJEDLN)の組合せが重複していると、伝票支払項目フィールド(VJSFX)の指定の有無にかかわらず、以降の取引はすべて無視されます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|---------|--------|-----|----|--|
| バッチ・タイプ | VJICUT | 文字 | 2 | 請求書や伝票など、処理中の取引のタイプを指定するコードです。入力する場合には、「IB」(請求書バッチ)を入力する必要があります。このフィールドをブランクにすると、請求書の処理時に自動的に「IB」に更新されます。 |
| バッチ番号 | VJICU | 数値 | 8 | 同時に処理する請求書をグループ化するために使用する番号です。このフィールドをブランクにすると、システム00の自動採番を使用してバッチ番号が生成されます。 このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|--------|-----|----|--|
| バッチ日付 | VJDICJ | 日付 | 6 | <p>バッチが入力された日付です。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、バッチ処理プログラムが実行された日付が使用されます。入力する場合は、データベースと同じ日付形式の値を入力します。詳細は、元帳日付(VJDGJ)のフィールド定義を参照してください。</p> <p>別の方法として、このフィールドをブランクにして、VJDICM(mm)、VJDICD(dd)、VJDICY(yy)、VJDIC#(cc)の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド(VJDIC#)には年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2008年の場合は「20」と入力します。</p> |
| 会計年度 | VJFY | 数値 | 2 | <p>このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。このフィールドは、元帳日付と会社に基づいて自動的に更新されます。</p> |
| 西暦上2桁 | VJCTRY | 数値 | 2 | <p>このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。このフィールドは、元帳日付と会社に基づいて自動的に更新されます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|-------|-----|----|--|
| 期間 | VJPN | 数値 | 2 | このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。このフィールドは、元帳日付と会社に基づいて自動的に更新されます。 |
| 略式ID | VJAID | 数値 | 8 | <p>売掛金勘定に対応する略式IDです。</p> <p>このフィールドは、請求書の処理時に、AAI項目RCxxxx (xxxxは相手勘定・フィールドの値)の勘定科目に関連付けられた略式IDに自動的に更新されます。略式IDは勘定科目マスター(F0901)に保管されています。</p> <p>このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。</p> |
| 親住所番号 | VJPA8 | 数値 | 8 | <p>顧客の親住所番号です。</p> <p>住所録マスター(F0101)にある値を入力してください。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、F03012テーブルで顧客に割り当てられた親番号が使用されます。F03012テーブルに親番号がない場合は、顧客の住所録番号が使用されます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|-----------|--------|-----|----|---|
| 代替受取人住所番号 | VJAN8J | 数値 | 8 | <p>顧客の代替支払人の住所番号です。</p> <p>請求書に対して顧客以外から入金される場合、このフィールドに支払人の住所録番号を入力してください。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、F03012 テーブルの計算書送付先フィールドの値に自動的に更新されます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、住所録マスター (F0101) にある値を入力してください。</p> |
| 支払人住所番号 | VJPYR | 数値 | 8 | <p>顧客の代替支払人の住所番号です。</p> <p>請求書に対して顧客以外から入金される場合、このフィールドに支払人の住所録番号を入力してください。</p> <p>入力した値は住所録マスター (F0101) と自動的に照合されます。住所録マスターにある値を入力してください。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、代替受取人フィールド (VJAN8J) の値が使用されます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------|--------|-----|----|---|
| 転記コード | VJPOST | 文字 | 1 | <p>取引の転記状況を指定するコードです。</p> <p>このフィールドはブランクにしてください。 このフィールドの値は、総勘定元帳転記レポート・プログラム (R09801) の実行によって更新されます。</p> <p>すでに過去のデータを仕訳入力として処理している場合、関連する取引を仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) に作成し、売掛金勘定を勘定科目として使用することをお薦めします。その場合、取引を転記しても会計に影響を与えません。</p> <p>残高の一致しない転記済の請求書取引 (つまり仕訳アップロード・テーブルに対応するレコードがない請求書) を処理する場合は、このフィールドに「D」と入力します。ただし、その場合、後でこれらの取引を無効にすることができなくなり、売掛金バッチ整合性レポートに不整合が生じます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|---------|--------|-----|----|--|
| 売掛金転記状況 | VJISTR | 文字 | 1 | このフィールドはブランクにします。このフィールドの値によって、該当の請求書に対する変更レコードが請求書改訂履歴テーブル (F03B112) に存在するかどうかわかります。バッチ請求書処理 (R03B11Z1A) では、請求書の変更は処理できません。転記済の請求書を変更するには、請求書入力 (P03B2002) を使用します。 |
| 仕訳の貸借一致 | VJBALJ | 文字 | 1 | このフィールドは、請求書の総額と取引に関連付けられた仕訳の金額が一致するかどうかを示します。 このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。 |
| 支払状況コード | VJPST | 文字 | 1 | 請求書の状況 (未決済、支払済、保留中) を示します。ユーザー定義コードの 00/PS (支払状況コード) に設定されている値を入力してください。 このフィールドをブランクにすると、請求書入力MBF処理オプション・プログラム (P03B0011) の処理オプションの設定に基づいてフィールドが更新されます。処理オプションが設定されていない場合、データ辞書項目 PST のデフォルト値が使用されます。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|----------|--------|-----|----|--|
| 未決済金額 | VJAAP | 数値 | 15 | 値が指定されているかどうかにかかわらず、未決済金額フィールド(VJAAP)は総額フィールド(VJAG)の値で更新されます。このアプリケーションでは、一部入金処理されません。 このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。 |
| 主科目 | VJOB | 文字 | 6 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 補助科目 | VJSUB | 文字 | 8 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 補助元帳タイプ | VJSBLT | 文字 | 1 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 補助元帳 | VJSBL | 文字 | 8 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 延滞通知送付回数 | VJRMDS | 数値 | 3 | 顧客に送付した延滞通知の合計数を入力します。このフィールドをブランクにすると、請求書の延滞通知を作成するたびに、自動的に更新されます。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|-------------|--------|-----|----|--|
| 回収レポート(Y/N) | VJCOLL | 文字 | 1 | <p>このフィールドで、顧客を回収レポートに含めるかどうかを指定します。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、F03012テーブルでポリシーにより顧客に割り当てられた値に自動的に更新されます。</p> |
| 回収理由コード | VJCORC | 文字 | 2 | <p>このフィールドは、回収レポート(R03B461)の実行時に自動的に更新されます。</p> <p>このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。</p> |
| 延滞金利息金の適用 | VJAFC | 文字 | 1 | <p>このフィールドをブランクにすると、F03012テーブルで顧客に割り当てられた値に自動的に更新されます。</p> |
| 当初伝票 | VJODOC | 文字 | 8 | <p>このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、F03B11テーブルの伝票番号フィールドに割り当てられた値に自動的に更新されます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------------|--------|-----|----|--|
| 当初伝票タイプ | VJODCT | 文字 | 2 | <p>このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、F03B11テーブルの伝票タイプ・フィールドに割り当てられた値に自動的に更新されます。</p> |
| 伝票会社(当初オーダー) | VJOKCO | 文字 | 5 | <p>このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、F03B11テーブルの伝票会社フィールドに割り当てられた値に自動的に更新されます。</p> |
| 当初伝票支払項目 | VJOSFX | 文字 | 3 | <p>このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、F03B11テーブルの支払項目フィールドに割り当てられた値に自動的に更新されます。</p> |
| 仕入先請求書番号 | VJVINV | 文字 | 25 | <p>このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|----------------|--------|-----|----|---|
| 購買オーダー | VJPO | 文字 | 8 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 伝票タイプ - 購買オーダー | VJPDCT | 文字 | 2 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 伝票会社 (購買オーダー) | VJPKCO | 文字 | 5 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| オーダー・タイプ | VJDCTO | 文字 | 2 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 行番号 | VJLNID | 数値 | 6 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 受注伝票番号 | VJSDOC | 数値 | 8 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------------|--------|-----|----|---|
| 受注伝票タイプ | VJSDCT | 文字 | 2 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 伝票会社(受注オーダー) | VJSKCO | 文字 | 5 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| オーダー・サフィックス | VJSFXO | 文字 | 3 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| コミッション・コード1 | VJCMC1 | 数値 | 8 | コミッションを受け取るセールス担当者の住所録番号を入力できます。通常、これは受注管理システムでトラッキングされます。このフィールドに入力した値は、妥当性チェックなしで読み込まれます。 |
| 参照 | VJVR01 | 文字 | 25 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 区画 | VJUNIT | 文字 | 8 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|-----------|--------|-----|----|--|
| ビジネスユニット2 | VJMCU2 | 文字 | 12 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 備考 | VJRMK | 文字 | 30 | このフィールドには、請求書の支払項目に関する記述を入力します。これはユーザー定義のフィールドで、「請求書の入力」フォームに表示されます。 |
| 名称 | VJALPH | 文字 | 40 | このフィールドを空白にすると、住所録マスター (F0101) の住所録番号に関連付けられた名称が使用されます。 住所録マスターにある名称と異なる値を入力すると、問題が発生する場合があります。 |
| 名称 | VJALPH | 文字 | 40 | このフィールドを空白にすると、住所録マスター (F0101) の住所録番号に関連付けられた名称が使用されます。 住所録マスターにある名称と異なる値を入力すると、問題が発生する場合があります。 |
| 定期頻度 | VJRF | 文字 | 2 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 定期支払回数 | VJDRF | 数値 | 3 | この表の後の注意を参照してください。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|-------------|--------|-----|----|---|
| 制御/計算書フィールド | VJCTL | 文字 | 13 | この請求書に対して最後に作成した計算書の計算書番号を入力します。 このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 略式品目番号 | VJITM | 数値 | 8 | 在庫品目番号を入力します。 このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 数量 | VJU | 数値 | 15 | このフィールドに入力する値はすべて、F03B11テーブルに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 単位 | VJUM | 文字 | 2 | このフィールドで、単位を指定します。入力する値は、ユーザー定義コード 00/UM(単位)に存在している必要があります。 |
| 転記コード - 代替6 | VJALT6 | 文字 | 1 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは入金処理時に自動的に更新されます。 |
| 支払手段 | VJRYIN | 文字 | 1 | ユーザー定義コードの00/PY(支払手段)に設定されている値を入力してください。このフィールドをブランクにすると、請求書の処理時にF03012テーブルの対応する値に更新されます。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|-----------------------|---|-----|----|--|
| 無効日付 | VJVDGJ | 日付 | 6 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは、請求書を無効にすると自動的に更新されます。 |
| 無効理由コード | VJVRE | 文字 | 3 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは、請求書を無効にすると自動的に更新されます。 |
| 売掛/買掛 - その他 コード1 | VJRP1 | 文字 | 1 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは、受注処理システムによって自動的に更新されます。 |
| 売掛/買掛 - その他 コード2 | VJRP2 | 文字 | 1 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは、受注処理システムによって自動的に更新されます。 |
| 現金入力コード | VJRP3 | 文字 | 1 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは、受注管理システムによって更新されます。 |
| 売掛管理レポート・ コード1から10 | VJAR01、VJAR02、 VJAR03、VJAR04、 VJAR05、VJAR06、 VJAR07、VJAR08、 VJAR09、VJAR10 | 文字 | 3 | このフィールドをブランクにすると、この顧客の住所録カテゴリ・コード (AC01からAC10) の値が使用されます。 顧客の住所録カテゴリ・コードがすでにある場合でも、F03B11Z1テーブルに入力した値が使用されます。 このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。 |
| 入力者 | VJTORG | 文字 | 10 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは取引の処理時に更新されます。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------------|---------|-----|----|---|
| ユーザーID | VJUSER | 文字 | 10 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは取引の処理時に更新されます。 |
| プログラムID | VJPID | 文字 | 10 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは取引の処理時に更新されます。 |
| 更新日付 | VJUPMJ | 日付 | 6 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは取引の処理時に更新されます。 |
| 最終更新時刻 | VJUPMT | 数値 | 6 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは取引の処理時に更新されます。 |
| ワーク・ステーションID | VJJOBID | 文字 | 10 | このフィールドはブランクにします。このフィールドは取引の処理時に更新されます。 |

注意: 定期頻度フィールド(VJRF)および定期支払回数フィールド(VJDRF)への入力は、請求書が定期的に再作成される場合にのみ行います。定期的に反復する情報を使用して作成する伝票のタイプは、「RR」になります。定期頻度フィールド(VJRF)には、ユーザー定義コードのH00/RF(定期頻度)に設定されている値を入力してください。

支払回数は、請求書を再作成する回数に対応します。支払回数が「1」の場合は、請求書は再作成できません。

無視されるフィールド

次の表に示すF03B11Z1テーブルのフィールドは無視されます。入力された値はどこにも渡されません。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ |
|--------------------|--------|-----|----|
| レコード・タイプ | VJEDTY | 文字 | 1 |
| レコード順序 | VJEDSQ | 数値 | 2 |
| EDI-伝票タイプ | VJEDCT | 文字 | 2 |
| EDI-トランザクション・セット番号 | VJEDTS | 文字 | 6 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ |
|---------------------|--------|-----|----|
| EDI-変換フォーマット | VJEDFT | 文字 | 10 |
| EDI-伝送日付 | VJEDDT | 日付 | 6 |
| EDI-送受信インディケータ | VJEDER | 文字 | 1 |
| バッチ・ファイル-取引明細レコード作成 | VJEDGL | 文字 | 1 |
| ユーザー住所番号 | VJEDAN | 数値 | 8 |
| 銀行勘定科目 | VJGLBA | 文字 | 8 |
| 略式ID | VJAID2 | 文字 | 8 |
| 勘定科目形式 | VJAM2 | 文字 | 1 |
| 延滞通知前回送付日付 | VJRDDJ | 日付 | 6 |
| 延滞通知送付再開日付 | VJRDSJ | 日付 | 6 |
| 計算書日付 | VJSMTJ | 日付 | 6 |
| 延滞通知内容 | VJNBRR | 文字 | 1 |
| 前回送付した延滞通知のレベル | VJRDRL | 文字 | 1 |
| 小額消去理由コード | VJRSCO | 文字 | 2 |
| 入金番号 | VJCKNU | 文字 | 25 |
| 決済日付 | VJVLDT | 日付 | 6 |
| 決済済み | VJFNLP | 文字 | 1 |
| 計算書日付-月 | VJSMTM | 数値 | 2 |
| 計算書日付-日 | VJSMTD | 数値 | 2 |
| 計算書日付-年 | VJSMTY | 数値 | 2 |
| 計算書日付-世紀 | VJSMT# | 数値 | 2 |
| 延滞通知前回送付日-月 | VJRDDM | 数値 | 2 |
| 延滞通知前回送付日-日 | VJRDDD | 数値 | 2 |
| 延滞通知前回送付日-年 | VJRDDY | 数値 | 2 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ |
|-----------------|--------|-----|----|
| 延滞通知前回送付日 - 世紀 | VJRDD# | 数値 | 2 |
| 延滞通知送付再開日付 - 月 | VJRDSM | 数値 | 2 |
| 延滞通知送付再開日付 - 日 | VJRDS | 数値 | 2 |
| 延滞通知送付再開日付 - 年 | VJRDSY | 数値 | 2 |
| 延滞通知送付再開日付 - 世紀 | VJRDS# | 数値 | 2 |
| 実績通貨換算レート | VJHCRR | 数値 | 15 |
| 実績日付 - ユリウス暦 | VJHDGJ | 日付 | 6 |
| 実績日付 - 月 | VJHDGM | 数値 | 2 |
| 実績日付 - 日 | VJHDGD | 数値 | 2 |
| 実績日付 - 年 | VJHDGY | 数値 | 2 |
| 実績日付 - 世紀 | VJHDG# | 数値 | 2 |

ユーザー予約フィールド

次に示すF03B11Z1テーブルのフィールドは、ユーザー用に予約されたフィールドです。これらのフィールドは、プログラムで更新されたり、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムのフォームに表示されたりすることはありません。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|-----------|--------|-----|----|---|
| ユーザー予約コード | VJURC1 | 文字 | 3 | 3文字以内の英数字を入力します。 |
| ユーザー予約日付 | VJURDT | 日付 | 6 | このフィールドには、日付を入力します。データベースと同じ形式で入力してください。 詳細は、元帳日付 (VJDGJ) のデータ項目を参照してください。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|----------|--------|-----|----|--|
| ユーザー予約金額 | VJURAT | 数値 | 15 | このフィールドには、金額を入力します。データベースと同じ形式で入力してください。 |
| ユーザー予約番号 | VJURAB | 数値 | 8 | 8桁以内の数字を入力します。 |
| ユーザー予約参照 | VJURRF | 文字 | 15 | 15文字以内の英数字を入力します。 |

仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)のフィールドのマッピング

次の一覧表に、バッチ請求書処理するうえで入力が必要となるF0911Z1テーブルのフィールドを示します。その他の必須フィールドは、レコードの処理時に自動的に更新されます。残りの必須フィールドには、F03B11Z1テーブルの情報に基づいて値がロードされます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「バッチ仕訳処理のフィールドのマッピング」

必須フィールド

次のF0911Z1テーブルのフィールドは、バッチ請求書処理で必須のフィールドです。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------------------|--------|-----|----|--------------------|
| EDI-ユーザーID | VNEDUS | 文字 | 10 | この表の後の注意を参照してください。 |
| EDI-トランザクション番号 | VNEDTN | 文字 | 22 | この表の後の注意を参照してください。 |
| EDI-処理済み(Y/N) | VNEDSP | 文字 | 1 | この表の後の注意を参照してください。 |
| EDI-トランザクション・アクション | VNEDTC | 文字 | 1 | この表の後の注意を参照してください。 |
| EDI-トランザクション・タイプ | VNEDTR | 文字 | 1 | この表の後の注意を参照してください。 |
| EDI-バッチ番号 | VNEDBT | 文字 | 15 | この表の後の注意を参照してください。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|-----------|--------|-----|----|--|
| EDI - 行番号 | VNEDLN | 数値 | 7 | 請求書を転記する勘定科目(明細行)ごとに値が1つずつ増えます。たとえば、1件の請求書で勘定科目の明細行が10行ある場合、行番号は1から10までとなります。EDI-トランザクション番号フィールド(VNEDTN)の値が同じであるかぎり、同じ請求書に対して計上する勘定科目のレコードはまとめて処理されます。 |
| 伝票会社 | VNKCO | 文字 | 5 | このフィールドに値を入力する場合、F03B11Z1テーブルの対応するフィールドに入力した値と同一の値を入力する必要があります。 このフィールドをブランクにすると、F03B11Z1テーブルの対応するフィールド(VJKCO)に入力した値が使用されます。 |
| 伝票タイプ | VNDCT | 文字 | 2 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 伝票番号 | VNDOC | 数値 | 8 | この表の後の注意を参照してください。 |
| バッチ番号 | VNICU | 数値 | 8 | この表の後の注意を参照してください。 |
| バッチ・タイプ | VNICUT | 文字 | 1 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 元帳日付 | VNDGJ | 日付 | 6 | このフィールドには、F03B11Z1テーブルの対応するフィールドに入力した値と同一の値を入力する必要があります。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|---------|-------|-----|----|---|
| 勘定科目コード | VNANI | 数値 | 29 | 標準形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で勘定科目コードを入力します。 |
| 勘定科目モード | VNAM | 数値 | 1 | 勘定科目コード・フィールド(VNANI)に入力した値に対応するように「2」を入力します。 |
| 元帳タイプ | VNLT | 文字 | 2 | このフィールドには「AA」と入力します。この値はユーザー定義コードの09/LT(元帳タイプ)で設定されている必要があります。 |
| 金額 | VNAA | 数値 | 15 | 入力した勘定科目コードに対応する金額を入力します。データベースと同じ形式で入力してください。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。 |
| 摘要 | VNEXA | 文字 | 30 | 顧客の名称を入力します。 このフィールドをブランクにすると、住所録マスター(F0101)から名称が取り込まれます。このフィールドに値を入力すると、処理のパフォーマンスが向上します。 |

注意: 次のフィールドには、F03B11Z1テーブルの対応する各フィールドに入力した値と同一の値を入力する必要があります。

EDI - ユーザーID (VNEDUS)

EDI - トランザクション番号 (VNEDTN)

EDI - 処理済み (VNEDSP)

EDI - トランザクション・アクション (VNEDTC)

EDI - トランザクション・タイプ (VNEDTR)

EDI - バッチ番号 (VNEDBT)

次のフィールドに値を入力する場合、F03B11Z1テーブルの対応する各フィールドに入力した値と同一の値を入力する必要があります。

伝票タイプ (VNDCT)

伝票番号 (VNDOC)

バッチ番号 (VNICU)

バッチ・タイプ (VNICUT)

これらのフィールドをblankにする場合、F03B11Z1テーブルの対応する各フィールドもblankにする必要があります。

収益性分析システムを使用したバッチ請求書処理の必須フィールド

収益性分析システム(システム16)を使用する場合は、F0911Z1テーブルのその他の必須フィールドの入力が必要となります。システムによりこれらのフィールドが処理され、取引明細テーブル(F0911)に保存されます。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 入力する値/定義 |
|--------------------|-----------------------------|-----|----|---|
| コスト・オブジェクト・タイプ1から4 | VNABT1、VNABT2、VNABT3、VNABT4 | 文字 | 1 | 最大で4つまでのコスト・オブジェクト・タイプを入力します。これらのフィールドを使用して、対応するコスト・オブジェクト・フィールド(VNABR1からVNABR4)に入力する値が検証されます。このフィールドのどれか1つに値を入力した場合は、対応するコスト・オブジェクト・フィールドにも値を入力する必要があります。コスト・オブジェクト・タイプ・フィールドの値は、コスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に存在している必要があります。 |
| コスト・オブジェクト1から4 | VNABR1、VNABR2、VNABR3、VNABR4 | 文字 | 12 | 最大で4つまでのコスト・オブジェクトを入力します。コスト・オブジェクトの各フィールドに入力する値は、対応するコスト・オブジェクト・タイプ・フィールド(VNABT1からVNABT4)の編集ルールに準拠している必要があります。 |
| 転記コード1から10 | VNPM01からVNPM10 | 文字 | 1 | これらのフィールドはブランクにします。 |
| 品目番号 | VNITM | 数値 | 8 | 入力する値は、品目マスター(F4101)と照合されます。 |

付録 B

自動入金処理のためのフィールドのマッピング

この付録では、電子入金入力テーブル (F03B13Z1) のフィールドのマッピングについて説明します。

電子入金入力テーブル (F03B13Z1) のフィールドのマッピング

この項では、F03B13Z1テーブルのフィールドの一覧を記載します。これらのフィールドには、必須のものがあります。また、フィールドによっては、値を空白にしておくことができます。必須フィールドおよび任意フィールドは、銀行のデータ・テープから値がロードされる入力フィールドです。自動更新フィールドは、入金見出しの更新プログラム (R03B551) の実行時に、システムによって自動的に値がロードされます。

必須フィールド

次のF03B13Z1テーブルのフィールドは、自動入金処理で必須のフィールドです。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|------------|--------|-----|----|---|
| EDI-ユーザーID | RUEDUS | 文字 | 10 | <p>プロセスを実行する人のユーザーID、または従業員ワークセンターでメッセージを受け取る人のユーザーIDを入力します。</p> <p>このフィールドとEDI-トランザクション番号 (RUEDTN)、EDI-バッチ番号 (RUEDBT)、EDI-行番号 (RUEDLN) の各フィールドを組み合わせて、入金を一意に識別します。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|----------------|--------|-----|----|--|
| EDI-バッチ番号 | RUEDBT | 文字 | 15 | <p>処理するトランザクションをグループ化する番号を入力します。</p> <p>このフィールドとEDIユーザーID (RUEDUS)、EDI-トランザクション番号 (RUEDTN)、EDI-行番号 (RUEDLN) の各フィールドを組み合わせて、バッチの中でトランザクションを一意に識別します。また、このフィールドではレベル区切りも指定します。この値が変わるたびに新しいバッチ番号が割り当てられます。</p> <p>一度に処理するトランザクション・グループごとにバッチ番号を割り当てると、パフォーマンスが向上します。</p> |
| EDI-トランザクション番号 | RUEDTN | 文字 | 22 | <p>トランザクションを相互参照できるように、ソース・システムの伝票番号を入力します。</p> <p>このフィールドによって、入金レコードが識別されます。新しいトランザクション番号は新しい入金レコードを示します。EDI-行番号 (RUEDLN) の値が異なる場合を除き、1つのバッチに同じ番号のトランザクションを複数置くことはできません。</p> <p>アップロード元のトランザクションを簡単に識別できるように、通常はソース・システムの伝票番号が使用されます。</p> |
| EDI-行番号 | RUEDLN | 数値 | 7 | <p>1件の入金で複数の請求書に対応する場合に、入金の各支払項目を区別するために使用します。</p> |
| 入金番号 | RUCKNU | 文字 | 25 | <p>EDI-トランザクション番号フィールド (RUEDTN) と同じ値を入力します。</p> <p>このフィールドによって、バッチに含まれる各入金が識別されます。この値は、顧客または支払人が商品やサービスに対する支払に使用する小切手番号と対応します。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|---------|--------|-----|----|---|
| バッチ・タイプ | RUICUT | 文字 | 2 | バッチ・タイプを識別します。自動入金処理のバッチ・タイプを表す「9B」を入力してください。これ以外の値は無効です。 |
| 住所番号 | RUAN8 | 数値 | 8 | <p>顧客の住所録番号を入力します。住所録マスター (F0101) に存在する番号を入力してください。</p> <p>このフィールドをブランクにして、顧客銀行口座フィールド (RUCBNK) および銀行/支店フィールド (RUTNST) に値を入力すると、これらの銀行口座情報から取得された支払人番号が顧客に割り当てられます。</p> <p>RUAN8、RUCBNK、RUTNST の各フィールドがブランクで、伝票番号フィールド (RUDOC) または汎用照合フィールド (RUGMFD) のどちらかに値が入力されている場合、これらのフィールドの請求書情報によって特定された支払人番号が顧客に割り当てられます。伝票番号フィールドと汎用照合フィールドもブランクの場合、入金見出しの更新プログラムの処理オプションで設定したデフォルト値を使用して支払人番号および顧客番号が取得されるか、または仮入金レコードが作成されます。</p> <p>パフォーマンスを向上させるには、他のテーブルから値を取得しなくても済むように顧客の住所録番号を入力します。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|--------|--------|-----|----|--|
| 元帳日付 | RUDGJ | 日付 | 6 | <p>データベースと同じ日付形式で元帳日付を入力します。データベースによって、グレゴリオ暦の日付形式 (yy/mm/dd) が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式による入力が必要な場合とがあります。</p> <p>ユリウス暦の日付は、cyyddd (c は世紀数下1桁) という形式で表します。日付が20世紀の場合は0 (ゼロ)、21世紀の場合は1を入力します。たとえば、1999年6月1日はユリウス暦では099152になります。2004年はうるう年なので、2004年6月1日は104153になります。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、この値は入金見出しの更新プログラムの処理オプションで指定した値になります。</p> |
| 小切手金額 | RUCKAM | 数値 | 15 | <p>入金された金額を入力します。複数の請求書、または複数の支払項目がある1件の請求書に対する入金の場合、最初の入金トランザクションに対してのみこの金額を入力します。同じ入金の金額が複数のトランザクションに含まれていると、処理が正しく行われません。</p> <p>マイナスの金額は入力しないでください。</p> |
| 伝票番号 | RUDOC | 数値 | 8 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 伝票タイプ | RUDCT | 文字 | 2 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 伝票会社 | RUKCO | 数値 | 5 | この表の後の注意を参照してください。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|--------|-------|-----|----|---|
| 伝票支払項目 | RUSFX | 数値 | 3 | <p>支払項目が複数ある請求書に対する入金に対し、既知請求書照合（金額指定あり）プログラム（R03B50D）のアルゴリズムを使用する場合、支払項目番号を指定する必要があります。指定しないと、その請求書の支払項目は1件のみとみなされ、最初の支払項目に対してのみ入金が処理されます。</p> <p>支払項目番号は、000ではなく001から始まります。</p> |
| 総額 | RUAG | 数値 | 15 | <p>既知請求書照合（金額指定あり）プログラムのアルゴリズムを使用する場合にのみ、このフィールドに値を入力します。請求書または請求書の支払項目に対して適用する入金の金額を指定します。たとえば、入金された金額が100でも、50しかその請求書に支払わない場合は50と指定します。</p> <p>支払項目が1つしかない請求書の全額に対する入金の場合、このフィールドの金額は入金額フィールド（RUCKAM）の金額と同じになります。</p> <p>クレジット・メモに対する支払の場合は、マイナスの金額を入力してください。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|--------|--------|-----|----|--|
| 銀行勘定科目 | RUGLBA | 数値 | 8 | <p>銀行への振込(入金)を記録するために使用する銀行勘定科目の略式IDを入力します。略式IDが8桁に満たない場合、足りない桁に0を入力してください。たとえば、108の場合は00000108と入力します。勘定科目マスター(F0901)に登録されている勘定科目コードを入力する必要があります。</p> <p>また、このフィールドがblankで、銀行口座フィールド(RUEHBK)および銀行/支店フィールド(RUEHTN)に値が入力されていると、その銀行口座の勘定科目と銀行/支店コードが銀行勘定科目プログラム(P0030G)によって設定されている場合、これらの値に基づいて略式IDが特定されます。</p> <p>RUGLBA、RUEHBK、RUEHTNのすべてのフィールドがblankの場合、このフィールドの値は入金見出しの更新プログラムの処理オプションに基づいて更新されます。</p> |
| 会社 | RUCO | 文字 | 5 | <p>入金に割り当てられている会社番号を入力します。会社固定情報テーブル(F0010)に存在する値を入力する必要があります。この会社番号は、未充当入金および仮入金を計上する売掛金勘定に対するAAIの取得に使用されます。</p> <p>このフィールドをblankにすると、銀行勘定科目が指定されている場合はその勘定科目から会社番号が取得されます。銀行勘定科目が指定されていない場合は、入金見出しの更新プログラムの処理オプションで設定した値が使用されます。</p> |
| 顧客銀行口座 | RUCBNK | 数値 | 20 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 銀行/支店 | RUTNST | 数値 | 20 | この表の後の注意を参照してください。 |

注意: 伝票番号 (RUDOC)、伝票タイプ (RUDCT)、伝票会社 (RUKCO) の各フィールドによって、支払の対象となる売掛金元帳テーブル (F03B11) の請求書が識別されます。

既知請求書照合 (金額指定あり) プログラム (R03B50D) または既知請求書照合 (金額指定なし) プログラム (R03B50E) のアルゴリズムを使用する場合、これらのフィールドか汎用照合フィールド (RUGMFD) を使用して請求書を指定する必要があります。

これらのフィールドが必須ではないアルゴリズムもありますが、これらのフィールドに値を入力すると、パフォーマンスを向上させることができます。

注意: 手形を処理する場合、これらのフィールドには顧客または支払人の銀行口座情報を入力します。

また、これらのフィールドを空白にして、顧客または支払人の銀行口座名を備考フィールドに入力すると、F0030テーブルから銀行口座情報を特定できます。顧客または支払人の銀行口座情報を特定できない場合、手形トランザクションは処理されません。

手形を処理しない場合、これらのフィールドは必須ではありません。これらのフィールドに値を入力すると、その情報からF0030テーブルの住所録番号が特定され、F03B13テーブルの支払人フィールド (PYR) に使用されます。同じ銀行/支店の口座のレコードが2件ある場合、支払人レコード (レコード・タイプP) が使用されます。そうでない場合は、顧客レコード (レコード・タイプC) が使用されます。

任意フィールド、無視されるフィールド、自動更新フィールド

次のF03B13Z1テーブルのフィールドは、入力が任意のフィールド、システムによって無視されるフィールド、またはシステムによって更新されるため空白にしておくフィールドです。

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|--------|-------|-----|----|--|
| バッチ番号 | RUICU | 数値 | 8 | <p>同時に処理する入金をグループ化するために使用される番号です。この番号は、F03B13Z1テーブル内で固有な番号にする必要があります。</p> <p>このフィールドが空白の場合、バッチ番号は入金見出しの更新プログラムの実行時に自動採番によって割り当てられます。</p> <p>このフィールドは、空白にしておくことをお勧めします。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|--------|--------|-----|----|--|
| 計算書番号 | RUCTL | 文字 | 13 | <p>このフィールドはblankにしてください。 このフィールドに値が含まれていると、請求書照合処理が実行できません。</p> <p>請求書に対する入金を計算書番号別に処理するには、汎用照合フィールド(RUGMFD)に計算書番号を入力します。</p> |
| 汎用照合 | RUGMFD | 文字 | 50 | <p>このフィールドは、既知請求書照合(金額指定あり)プログラム(R03B50D)または既知請求書照合(金額指定なし)プログラム(R03B50E)のアルゴリズムで請求書を参照および特定するために使用されます。次の値の中から1つを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 伝票番号 • 受注オーダー番号 • 顧客参照番号 • 計算書番号 <p>このフィールドまたはRUDOCフィールドに入力された値によって請求書が特定されます。</p> |
| 参照 | RUVR01 | 文字 | 25 | <p>入金のあった請求書に関する情報を入力するためのテキスト・フィールドです。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|---------------|--------|-----|----|--|
| 支払ID | RUPYID | 数値 | 15 | <p>入金の識別に使用されるフィールドです。</p> <p>このフィールドには、入金処理時に自動的に番号が割り当てられます。この値は、入金特定するための内部参照用の値として使用されます。</p> <p>このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。</p> |
| 自動入金アップロード状況 | RUEUPS | 文字 | 1 | <p>自動入金処理中のトランザクションの状況を示すフィールドです。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブランク: 未処理。 • B: 処理可能。 • E: エラー発生。 • H: 入金見出しの更新プログラムは実行済だが、入金の消込プログラム (R03B50) で照合する請求書がない。 • Y: 正常終了。 <p>このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。</p> |
| バッチ日付 - 西暦上2桁 | RUDIC# | 数値 | 2 | <p>バッチ日付の西暦上2桁を入力するフィールドです。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、入力したバッチ日付に基づいて自動的に値が入力されます。</p> <p>このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|------------------|--------|-----|----|---|
| バッチ日付 | RUIDCJ | 日付 | 6 | F03B13Z1テーブルに トランザクションが入 力された日付です。 このフィールドをブラ ンクにすると、トラン ザクションが処理さ れた日付に自動的に 更新されます。 |
| ユーザーID | RUUSER | 文字 | 10 | トランザクションを処 理したユーザーの ユーザーIDです。 |
| 元帳日付 - 西暦上2 桁 | RUDG# | 数値 | 2 | 元帳日付の西暦上 2桁です。 このフィールドは、ブ ランクにしておくこ とをお勧めします。 |
| 入金日付 - 月 | RUDMTM | 数値 | 2 | この表の後の注意を 参照してください。 |
| 入金日付 - 日 | RUDMTD | | | この表の後の注意を 参照してください。 |
| 入金日付 - 年 | RUDMTY | | | この表の後の注意を 参照してください。 |
| 入金日付 - 西暦上2 桁 | RUDMT# | | | このフィールドはブラ ンクにしてください。 入金日付に基づいて 自動的に値が入力さ れます。 |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|--------|--------|-----|----|---|
| 入金日付 | RUDMTJ | 日付 | 6 | <p>入金日付(実際に入金された日付や小切手の日付)です。入金日付は、参照およびレポート作成のためにのみ使用されます。</p> <p>データベースと同じ日付形式で入金日付を入力します。データベースによって、グレゴリオ暦の日付形式(yy/mm/dd)が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式による入力が必要な場合があります。</p> <p>ユリウス暦の日付は、cyyddd(cは世紀数下1桁)という形式で表します。世紀のフィールドには、日付が20世紀の場合は「0」(ゼロ)、21世紀の場合は「1」を入力します。たとえば、1999年6月1日はユリウス暦で099152、2004年6月1日は104153になります。</p> <p>また、このフィールドをブランクにして、RUDMTM(mm)、RUDMTD(dd)、RUDMTY(yy)の各フィールドに値を入力することもできます。</p> |

| フィールド名 | エイリアス | タイプ | 長さ | 定義 |
|-----------|--------|-----|----|---|
| 備考 | RURMK | 文字 | 30 | <p>入金に関する情報を入力するためのテキスト・フィールドです。</p> <p>また、手形を処理するときに顧客銀行口座フィールド(RUCBNK)および銀行/支店フィールド(RUTNST)に値を入力していない場合、このフィールドに支払人の銀行名を入力できます。この銀行名を使用して、銀行/支店マスター(F0030)から銀行口座情報が特定されます。支払人の銀行口座情報が特定できない場合、トランザクションは処理されません。</p> |
| 勘定科目モード | RUAM | 文字 | 1 | <p>入力した銀行勘定科目の勘定科目形式を指定するフィールドです。</p> <p>このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。</p> |
| 銀行口座 | RUEHBK | 文字 | 20 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 銀行/支店 | RUEHTN | 文字 | 20 | この表の後の注意を参照してください。 |
| 支払手段 | RUPYIN | 文字 | 1 | 顧客の支払方法を指定するフィールドです。ユーザー定義コードの00/PY(支払手段)に設定されている値を入力してください。 |
| 入金タイプ・コード | RUTYIN | 文字 | 1 | このフィールドはブランクにしてください。このフィールドには、入金処理時に自動的に値が割り当てられます。 |

注意: 入金日付 - 月 (RUDMTM)、入金日付 - 日 (RUDMTD)、入金日付 - 年 (RUDMTY) の各フィールドを使用して、入金日付 (実際に入金された日付や小切手の日付) を入力します。入金日付は、参照およびレポート作成のためにのみ使用されます。

入力する場合は、yy/mm/dd の日付形式で入力してください。また、これらのフィールドをブランクにして、入金日付フィールド (RUDMTJ) に値を入力することもできます。

入金日付が特定できない場合、元帳日付が使用されます。

注意: 銀行勘定科目フィールド (RUGLBA) がブランクの場合、銀行口座フィールド (RUEHBK) および銀行 / 支店 (RUEHTN) フィールドを使用して、銀行勘定科目を識別できます。これらのフィールドに入力された値に基づいて銀行勘定科目を特定するには、F0030 テーブルに銀行勘定科目が設定されている必要があります。

RUEHBK、RUEHTN、RUGLBA のすべてのフィールドがブランクの場合、入金見出しの更新プログラムの処理オプションで設定された、デフォルトの略式銀行勘定 ID フィールドの値が使用されます。

銀行勘定科目が特定できない場合、該当の入金は処理されません。

付録 C

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の標準ワークフローについて説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: Workflow Tools Guide

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の標準ワークフローについて説明します。

与信限度額変更の承認

この項では、与信限度額変更の承認ワークフローについて説明します。

内容

| | |
|-------------|---|
| ワークフローの概要 | ユーザー（カスタマ・サービス担当者など）によって顧客の与信限度額が変更されると、与信管理者にワークフロー・メッセージが送信されます。与信管理者が承認するまで、与信限度額の変更は顧客マスター・レコードに反映されません。また、与信管理者には、新規に追加された顧客に対する初期与信限度額の承認を求めるワークフロー・メッセージも送信されます。 |
| ワークフロー・トリガー | 顧客マスターへの新規レコードの追加、または既存レコードの与信限度額フィールドの更新により、トリガーが起動されます。 |
| ワークフロー処理 | 与信限度額が変更された顧客の与信管理者に、変更の承認を要請するワークフロー・メッセージを送信します。与信管理者がアクセスする承認フォームには、変更前の与信限度額、新しい与信限度額、および新しい与信限度額を承認または却下するオプションが表示されます。 |

ワークフロー・オブジェクト

| | |
|----------------|-------------------|
| システム | 01 |
| ワークフロー・オブジェクト名 | CREDLIMIT |
| オブジェクトID | N0100042 |
| イベント記述/関数名 | MBFCustomerMaster |
| 順序/行番号 | 2442、2531 |

付録 D

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理レポート

この付録では、売掛管理レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理レポート

この項では、次の2種類の売掛管理レポートの概要を説明します。

- 標準
- 分析

標準レポート

標準レポートを印刷する目的は、次の事項に関する未決済売掛金残高と年齢調べ情報を検討および管理することです。

- すべての顧客
- 特定の顧客
- 特定のカテゴリ・コード
- 多通貨金額

これらのレポートを印刷する際、次のテーブルから情報が読み込まれます。

- 業種別顧客マスター (F03012)
- 売掛金元帳 (F03B11)
- 入金見出し (F03B13)
- 入金明細 (F03B14)

レポートの処理時間は、これらのテーブルに保管されたデータの件数によって異なります。標準レポートは、ピーク時を避けて印刷することをお勧めします。

分析レポート

分析レポートを印刷する目的は、次の事項に関する情報を検討および分析することです。

- 顧客別および支払状況別合計
- 至急の対応を要する顧客や未解決の問題などの回収情報

- 割当与信限度額を超過している場合などの与信限度額
- 最高残高および売掛金回収平均日数(DSO)などの顧客の傾向と統計

JD Edwards EnterpriseOneでは、顧客の取引履歴や支払傾向の分析に役立つ様々な分析レポートを提供しています。過去の支払実績に基づいて支払傾向を判断できます。たとえば、ある顧客に対するこれまでの再請求の件数や、残高不足(NSF)入金の件数を示すレポートを印刷できます。分析レポートを利用して、取引を続けることに問題がある顧客を見極めることができます。

レポートの処理時間は、対応する各テーブルに保管されたデータの件数によって異なります。分析レポートはピーク時を避けて印刷することをお勧めします。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理のすべてのレポート

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理のレポートをレポートID順に示します。各レポートに関する詳細は、この付録の後のレポート詳細を参照してください。

| レポートID/レポート名 | 説明 | ナビゲーション |
|------------------------------|---|-----------------------------------|
| R03B155 未決済売掛金集計分析レポート | 顧客の売掛金勘定の状況を一覧表示します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金集計分析」 |
| R03B165 統計傾向分析レポート | 特定の期間内における顧客の傾向情報を印刷します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「統計傾向分析」 |
| R03B166 年齢調べ傾向分析レポート | 一定期間における顧客の支払傾向を印刷します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「年齢調べ傾向分析」 |
| R03B167 入金傾向分析レポート | 特定の期間内における顧客の支払実績を印刷します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「入金傾向分析」 |
| R03B168 請求書傾向分析レポート | 特定の期間内における顧客の請求書実績を印刷します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「請求書傾向分析」 |
| R03B1691 統計計算(会社別)レポート | 売掛金統計履歴テーブル(F03B16)の期間情報を会社別に集計します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「統計計算(会社別)」 |
| R03B1692 統計計算(与信管理者別)レポート | 売掛金統計履歴テーブル(F03B16)の期間情報を与信管理者ごとに集計します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「統計計算(与信管理者別)」 |
| R03B1693 統計計算(回収管理者別)レポート | 売掛金統計履歴テーブル(F03B16)の期間情報を回収管理者ごとに集計します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「統計計算(回収管理者別)」 |
| R03B305 請求書仕訳 | 請求書仕訳情報を印刷します。 | 「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「請求仕訳帳」 |

| レポートID/レポート名 | 説明 | ナビゲーション |
|-------------------------------|--|--|
| R03B311 入金仕訳帳 | 入金仕訳情報を印刷します。 | 次のメニューのいずれかで「入金仕訳帳」または「入金仕訳レポート」を選択します。 「入金処理」(G03B12) 「自動入金処理」(G03B13) 「入金処理」(G1513) |
| R03B408 振込仕訳 | 特定のバッチ日付、または特定のバッチ日付の期間において処理したすべての入金を印刷します。このレポートには、無効入金とNSF(残高不足)入金も表示されます。 | 「入金処理」(G03B12)、「振込仕訳」 |
| R03B413A 未決済売掛金明細(集計)レポート | 顧客の売掛金勘定に関する現在の集計情報を印刷します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金明細(集計)」 |
| R03B4201A 未決済売掛金(備考)レポート | 顧客ごとに請求書、クレジット・メモ、仮受金などの未決済項目のリストを印刷します。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金(備考)」 |
| R03B4201B 未決済売掛金(年齢調べ)レポート | 特定の年齢調べカテゴリの未決済売掛金項目を印刷します。このレポートには、会社ごとの合計とすべての会社の総合計が表示されます。 | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金(年齢調べ)」 |
| R03B450 売掛金/買掛金の相殺レポート | 買掛金と売掛金の未決済残高の相殺額を印刷します。 参照: 第 23 章、「 <u>売掛管理レポートの印刷</u> 」、「 <u>相殺レポートについて</u> 」、469 ページ | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「売掛金/買掛金の相殺」 |
| R03B461 回収レポート | 期限超過の勘定がある顧客について、未回収項目のリストを印刷します。 参照: 第 18 章、「 <u>与信および回収管理</u> 」、「 <u>回収レポートの印刷</u> 」、401 ページ | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「回収レポート」 |
| R03B466 年齢調べ相殺レポート | 通貨別に年齢調べを行った顧客と仕入先ごとの取引が表示されます。 参照: 第 23 章、「 <u>売掛管理レポートの印刷</u> 」、「 <u>年齢調べ相殺レポートについて</u> 」、471 ページ | 「売掛管理レポート」(G03B14)、「年齢調べ相殺レポート」 |
| R03B560 入金処理記録 | すべての処理済項目のリストを印刷します。 | 「自動入金処理」(G03B13)、「入金処理記録」 |

| レポートID/レポート名 | 説明 | ナビゲーション |
|----------------------------|---|---|
| R03B574 NSF (残高不足) 手形通知 | 残高不足のために戻された手形の合計額を印刷します。 <u>参照: 第 12 章、「受取手形の処理」</u> <u>、「NSF 手形通知レポートについて」</u> <u>、311 ページ</u> | 「手形の取立/回収」(G03B162)、 「NSF (残高不足) 手形通知」 |
| R7404002 顧客/仕入先残高レポート | 会社と顧客または仕入先との間の取引の詳細を印刷します。 | 次のいずれかのナビゲーションを使用します。 「買掛管理レポート」(G0414)、「仕入先残高レポート」 「売掛管理レポート」(G03B14)、「顧客残高レポート」 「Spanish Reports」(G74S09)、「Customer / Supplier Balance Report」 「French Reports」(G093151)、「Customer / Supplier Balance Report」 |

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理の主なレポート

この項では、個々のレポートについて処理オプションなどの詳細情報を説明します。説明は、レポートIDのアルファベット順に記載されています。

関連項目:

第 20 章、「顧客分析のための売掛管理統計の更新」、429 ページ

R03B155 - 未決済売掛金集計分析

このレポートを利用して、次の情報を検討できます。

- 親レベルまたは子レベルの勘定残高
- 未決済金額とそれに関連する年齢調べカテゴリ
- 顧客および会社レベルで標準与信限度額を超過している顧客 (処理オプションの設定に基づく)
- 保証与信限度額を超過している顧客
- 与信限度額を下回っている顧客
- 未決済金額の顧客通貨
- 会社レベルの集計情報

該当する日付情報を更新するには、与信分析のリフレッシュ・プログラム (R03B525) を実行する必要があります。未決済売掛金集計分析レポートを印刷する際に、与信/資金管理テーブル (F03B15) と信用保険テーブル (F03B29) から情報が読み込まれます。

未決済売掛金集計分析 (R03B155) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

保証与信限度額

この処理オプションでは、レポートでの保証与信限度額の表示方法を指定します。

1. 未決済金額の最低限度額

顧客残高の比較対象となる金額を指定し、レポートにその顧客を含めるかどうかを決定します。この処理オプションで指定した金額の通貨には、「未決済金額」処理オプションで指定された通貨が使用されます。為替レート・テーブル (F0015) から取り込んだ為替レートを使って換算した顧客の未決済残高が、この処理オプションで指定した金額と比較され、その顧客をレポートに含めるかどうか決定されます。顧客の残高が、この処理オプションで指定した金額以上の場合のみレポートに印刷されます。

注意: 印刷される残高の通貨は、「未決済金額の通貨コード」処理オプションで指定された通貨ではなく、顧客マスター・レコード (F03012) の住所録通貨コード・フィールド (CRCA) で指定された通貨です。

2. 未決済金額の通貨コード

「未決済金額の最低限度額」処理オプションで入力した金額の通貨を指定します。指定した通貨に基づいて計算された顧客の未決済残高が「未決済金額の最低限度額」処理オプションで入力した金額と比較され、その顧客をレポートに含めるかどうか決定されます。

この処理オプションを空白にした場合、米ドル (USD) が使用されます。

注意: 指定した通貨はデータを選択するためのみに使用されます。印刷される金額はその通貨で表示されるわけではありません。

3. 標準または保険の与信限度額

レポートに含める顧客レコードを指定します。値は次のとおりです。

空白: すべてのレコードが印刷されます。

1: 未決済金額が顧客マスター・レコード (F03012) で設定された与信限度額以上のレコードが印刷されます。

2: 未決済金額が保証与信限度額以上のレコードが印刷されます。

注意: 「未決済金額の最低限度額」処理オプションで金額を指定した場合、この処理オプションは無視されます。

R03B165 - 統計傾向分析レポート

顧客管理および回収活動の一環として、統計傾向分析レポートを印刷します。このレポートにより、特定期間内の顧客の傾向を分析できます。データ選択に応じて、このレポートには顧客に関する次の履歴情報が表示されます。

- 期間別未決済残高
- 売掛金回収平均日数 (DSO) と延滞 DSO
- 与信日数
- 加重平均延滞日数
- 非加重平均延滞日数

統計傾向分析レポートを印刷する際、次のテーブルから情報が読み込まれます。

- 売掛金統計履歴 (F03B16)
- 売掛金統計サマリー (F03B16S)

このレポートに処理オプションはありません。

最新の統計情報をレポートに出力できるよう、まず与信履歴の更新プログラム (R03B16A) を実行してからこのプログラムを実行してください。

R03B166 – 年齢調べ傾向分析レポート

年齢調べ傾向分析レポートを印刷して、顧客の支払傾向を分析します。このレポートでは、長期にわたる顧客の支払傾向を確認できます。たとえば2年間の月次合計に基づいて、顧客からの入金が年々遅延傾向にあるかどうかを判断できます。

年齢調べ傾向分析レポートを印刷する際、次のテーブルから情報が読み込まれます。

- F03B16
- F03B16S

このレポートに処理オプションはありません。

最新の統計情報をレポートに出力できるよう、まず与信履歴の更新プログラム (R03B16A) を実行してからこのプログラムを実行してください。

R03B167 – 入金傾向分析レポート

入金傾向分析レポートを印刷して、特定期間内の顧客の支払実績を分析します。データ選択に応じて、このレポートには次の情報が表示されます。

- 終了日付と支払金額
- 延滞支払
- 割引実施額、割引可能額、無効割引額
- NSF (残高不足) 支払の入金件数と金額
- 再請求の件数と金額

入金傾向分析レポートを印刷する際、次のテーブルから情報が読み込まれます。

- F03B16
- F03B16S

このレポートに処理オプションはありません。

最新の統計情報をレポートに出力できるよう、まず与信履歴の更新プログラム (R03B16A) を実行してからこのプログラムを実行してください。

R03B168 – 請求書傾向分析レポート

請求書傾向分析レポートを印刷して、特定期間内の顧客の請求書実績を分析します。データ選択に応じて、このレポートには次の情報が表示されます。

- 終了日付と終了残高

- 総額
- 請求書件数
- 売上金額
- 割引実施額とクレジット(マイナス)金額
- 延滞利息金

請求書傾向分析レポートを印刷する際、次のテーブルから情報が読み込まれます。

- F03B16
- F03B16S

このレポートに処理オプションはありません。

最新の統計情報をレポートに出力できるよう、まず与信履歴の更新プログラム(R03B16A)を実行してからこのプログラムを実行してください。

R03B1691 – 統計計算(会社別)レポート

このレポートには、F03B16テーブルの期間情報が会社別に集計され、出力されます。顧客情報は会社レベルで表示されます。会社00000に属するすべての会社の統計情報が集計されます。このように、会社00000を使用して組織の統計情報をまとめることができます。

データ選択を設定してレポートの対象範囲を絞ることができますが、データ順序は変更しないでください。レポートの合計は決まったデータ順序で計算されるため、データ順序を変更すると正しい集計結果を得られません。

このレポートに処理オプションはありません。

最新の統計情報をレポートに出力できるよう、まず与信履歴の更新プログラム(R03B16A)を実行してからこのプログラムを実行してください。

R03B1692 – 統計計算(与信管理者別)レポート

このレポートには、F03B16テーブルの期間情報が与信管理者別に集計され、出力されます。すべての顧客情報を与信管理者と会社に基づいて見ることができます。

データ選択を設定してレポートの対象範囲を絞ることができますが、データ順序は変更しないでください。レポートの合計は決まったデータ順序で計算されるため、データ順序を変更すると正しい集計結果を得られません。

このレポートに処理オプションはありません。

最新の統計情報をレポートに出力できるよう、まず与信履歴の更新プログラム(R03B16A)を実行してからこのプログラムを実行してください。

R03B1693 – 統計計算(回収管理者別)レポート

このレポートには、F03B16テーブルの期間情報が集計され、出力されます。すべての顧客情報を回収管理者と会社に基づいて見ることができます。

データ選択を設定してレポートの対象範囲を絞ることができますが、データ順序は変更しないでください。レポートの合計は決まったデータ順序で計算されるため、データ順序を変更すると正しい集計結果を得られません。

このレポートに処理オプションはありません。

最新の統計情報をレポートに出力できるよう、まず与信履歴の更新プログラム (R03B16A) を実行してからこのプログラムを実行してください。

R03B305 - 請求仕訳

通常、請求書仕訳情報はオンラインで検討する方が簡単です。ただし、貸借不一致の問題がある場合や、バッチの取引件数が多い場合には、印刷された請求仕訳帳が便利です。

請求書仕訳情報を印刷する際に、F03B11 テーブルと取引明細テーブル (F0911) から取引が選択されます。

このレポートには、右端のカラムの横の空白部分にメッセージが表示されます。メッセージの内容は次のとおりです。

- 残高差異 (総額/割引額の合計が勘定科目の合計金額と一致しない場合)
- 会社間取引 (1 件の伝票に複数の会社の会計取引が含まれる場合)

請求仕訳 (R03B305) のデータ選択

通常、データ選択ではバッチ番号、ユーザー ID およびバッチ日付が使用されます。

このレポートのバージョンを追加作成する場合、データ順序を次に示す順序に設定する必要があります。

1. ユーザー ID (アルファベット順)
2. バッチ日付
3. バッチ No. (日付の新しい順)
4. 伝票会社
5. 伝票タイプ
6. 伝票 No. (昇順)
7. 支払項目

R03B311 - 入金仕訳帳

オンラインでの入金確認にかわる手段として、入金仕訳帳 (R03B311) を実行できます。いくつかの異なるバージョンを作成し、特定の情報を表示できます。たとえば、特定の日付やユーザーに基づく特定のバッチを表示するレポートのバージョンを設定できます。

入金仕訳帳を実行すると、各銀行勘定科目に入力された入金の一覧と、各入金により支払済となった請求書 (該当する請求書がある場合) が表示されます。手形の場合には、手形が偶発債務となるか回収状況になるまで、レポートのヘッダーに銀行勘定科目コードは表示されません。レポートには、データ選択を使って転記コード「D」を指定しないかぎり、未転記取引が印刷されます。

このレポートには、入金見出しテーブル (F03B13) および入金明細テーブル (F03B14) の情報が含まれます。

カラム見出し

カラム見出し「TI」は、入金を入力時にシステムによって F03B13 テーブルの TYIN フィールドに割り当てられる入金タイプ・コードを表します。割り当てられるコードは、次のユーザー定義コード 03B/TI のいずれか 1 つです。

| 入金タイプ・コード | コード記述 |
|-----------|----------|
| A | 消込済み入金 |
| D | 手形 |
| G | 総勘定元帳入金 |
| L | 仮入金 |
| R | 端数処理レコード |
| U | 仮受金 |

データ順序

取引データは次の順序で表示されます。

1. ユーザーID
2. バッチ番号
3. バッチ日付
4. 銀行勘定科目
5. 会社
6. 住所No.
7. 入金No.

注意: レポートに出力される金額合計は、この順序に基づいて計算されます。順序を変更する場合には、合計額の計算方法を決めるプログラム・ロジックもあわせて変更する必要があります。

入金仕訳帳 (R03B311) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

この処理オプションでは、レポートに勘定科目コードを印刷する際に使用する形式を指定できます。

1. 勘定科目コード形式 - 総勘定元帳入金および手形

レポートに勘定科目コードを印刷する際に使用する形式を指定します。総勘定元帳入金および手形の場合のみ、レポートの詳細セクションに勘定科目コードが印刷されます。それ以外の場合には、支払済の請求書の伝票番号が印刷されます。この処理オプションをブランクにすると、勘定科目コードは印刷されません。値は次のとおりです。

- 1: 標準形式 (ビジネスユニット、主科目、補助科目) で勘定科目コードを印刷します。
- 2: 勘定科目マスター (F0901) で勘定科目コードに割り当てられる8桁の勘定科目IDを印刷します。
- 3: 勘定科目マスター (F0901) の自由形式 (第3勘定科目No.) フィールドで割り当てた勘定科目コードを印刷します。

2. 勘定科目コード形式 - 銀行勘定科目

レポートに銀行勘定科目コードを印刷する際に使用する形式を指定します。銀行勘定科目コードはレポートの見出しセクションに印刷されます。手形を処理する際、手形がまだ受け入れ段階にあり、登録が済んでいない場合には、レポートに銀行勘定科目コードは印刷されません。この処理オプションをブランクにすると、銀行勘定科目コードは印刷されません。値は次のとおりです。

- 1: 標準形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)で勘定科目コードを印刷します。
- 2: 勘定科目マスター(F0901)で勘定科目コードに割り当てられる8桁の勘定科目IDを印刷します。
- 3: 勘定科目マスター(F0901)の自由形式(第3勘定科目No.)フィールドで割り当てた勘定科目コードを印刷します。

R03B408 - 振込仕訳

入金入力時に指定した元帳日付や入金日付にかかわらず、バッチ日付には常にシステム日付が割り当てられます。このため、このレポートを実行して期待したデータが得られなかった場合、バッチ日付に基づいて正しい日付範囲を入力したかどうかを確認してください。

このレポートにはF03B13テーブルの情報のみが印刷されます。

振込仕訳(R03B408)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

バッチ日付

この処理オプションでは、レポートに出力するレコードの選択に使用する日付範囲を指定します。

1. 開始日付、2. 終了日付 F03B13テーブルからレポートに出力する入金または手形レコードを選択するためのバッチ日付の範囲を指定します。バッチ日付が指定日または指定日以降のレコードが選択されます。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。

R03B560 - 入金処理記録

入金処理記録(R03B560)を印刷して、すべての処理済項目を検討できます。このレポートでは、未充当入金レコードと消込済入金レコードを確認できます。レポートには、入金見出しテーブル(F03B13)および入金明細テーブル(F03B14)の情報が印刷されます。

入金処理記録(R03B560)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

一時変更

1. 外貨建て金額の表示 レポートに、国内通貨建て金額に加えて外貨建て金額を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 国内通貨建て入金額のみ印刷
1: 国内通貨と外貨両方の入金額を印刷

- 2. 各入金ごとに改ページ** 改ページを顧客ごとに行うか、または入金ごとに行うかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 顧客ごとに改ページ
- 1: 入金ごとに改ページ

R03B413A – 未決済売掛金明細(集計)レポート

レポートには、次の項目別に情報を集計するための複数のバージョンがあります。

- 会社
- 親番号
- 住所録カテゴリ・コード01
- 住所録カテゴリ・コード01および会社
- 売掛管理カテゴリ・コード01
- 売掛管理カテゴリ・コード01および会社
- 会社合計のみ

合計金額と年齢調べ金額には、データ選択で指定した取引が反映されます。

未決済売掛金明細(集計)(R03B413A)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

年齢調べ

- 1. 固定情報の設定を使用** 売掛管理固定情報または処理オプションのいずれの年齢調べ設定を使用するかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 処理オプションを使用する。
- 1: 売掛管理固定情報を使用する。
- 2. 年齢調べ日付** 未決済残高の年齢調べに使用する日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。
- 3. 年齢調べ基準日** 勘定科目の年齢調べを開始する日付を指定します。値は次のとおりです。
- D: 支払期日(デフォルト)
- I: 請求書日付
- G: 元帳日付
- S: 計算書日付
- 4. 年齢調べ方法** 請求書の割当に使用する年齢調べカテゴリ指定します。「年齢調べ日付」処理オプションで指定した日付と「日付タイプ」処理オプションで指定した値によって各請求書の経過期間が計算され、このコードで指定した年齢調べカテゴリに割り当てられます。値は次のとおりです。
- 1: 経過日数。処理オプションの「年齢調べカテゴリ1」から「年齢調べカテゴリ6」で指定した年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられます。年齢調べカテゴリには、自由に日数を設定できます。

2: 会計期間。会社レコードに割り当てられた期間パターンによって定義されている会計期間が、年齢調べカテゴリとして使用されます。

3: カレンダ。各カレンダー月が年齢調べカテゴリとして使用されます。

経過日数

この処理オプションでは、年齢調べ設定を指定します。

5. 経過日数

勘定科目の年齢調べに使用する経過日数を指定します。「固定情報の設定を使用」処理オプションに「1」を入力した場合には、この処理オプションは無視されます。

マイナス金額

この処理オプションでは、貸方金額の年齢調べを行うかどうかを指定します。

6. 貸方金額の年齢調べ

貸方金額の年齢調べを行うかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 貸方金額の年齢調べを行わない。貸方金額は現行年齢調べカラムに表示されます。

1: 貸方金額の年齢調べを行います。

印刷オプション

この処理オプションでは、レポートに親番号を印刷するかどうかを指定します。

7. 親番号印刷

レポートに親番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: レポートに親番号を印刷しない。

1: レポートに親番号を印刷する。

R03B4201A - 未決済売掛金(備考)レポート

このレポートには、各支払項目に関連付けられた備考が表示されます。たとえば、請求書入力時に、顧客に請求するサービスや製品のタイプを備考として入力できます。このレポートには、会社ごとの合計とすべての会社の総合計が表示されます。

次の情報を含むバージョンのレポートを実行できます。

- 割引情報(割引付き売掛金明細、正味金額、備考)
- 留保金(未収留保金)
- 入金履歴(顧客入金履歴)。このバージョンには、各顧客の支払済と未決済両方の支払項目が含まれます。このレポート・バージョンの情報は、「顧客入金の照会」でオンライン参照できる情報と類似しています。

このレポートを実行して、月末など特定の日付時点での情報の一覧を出力できます。その場合、適切な処理オプションで基準日を指定してください。

未決済売掛金(備考)レポート(R03B4201A)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

この処理オプションでは、レポートに印刷する情報を指定します。

1. 入金印刷

レポートに入金情報を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 未充当入金以外の入金情報はレポートに含めない。

1: 入金情報を含める。

2. 入金を合計に含める

レポートに表示する合計に入金額を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入金額を合計に含めない。

1: 入金額を合計に含める。「1」を入力した場合、「入金の印刷」処理オプションも「1」に設定する必要があります。そうしないと合計には入金額が含まれません。

3. 基準日

未決済請求金額を再計算し、レポートに印刷するために使用する日付を指定します。ここで入力した日付と入金の元帳日付を比較して、指定した日付時点で請求書が未決済、または入金済のどちらであったかが判断されます。入力した基準日より入金の元帳日付が後の場合、請求書は未決済とみなされ、レポートに印刷されます。入金の元帳日付が基準日と同日以前の場合、請求書は決済済とみなされ、レポートには含まれません。

たとえば、元帳日付が2008年6月15日の請求書を入力し、入金の元帳日付が2008年7月15日とします。基準日を2008年6月30日とした場合、請求書は未決済としてレポートに表示されます。このように基準日を指定すると、顧客から指定された日付でレポートを印刷する必要がある場合や、一度処理した日付とは別の日付で印刷する場合に便利です。

この処理オプションをブランクにすると、基準日の処理は実行されません。

注意: 指定した基準日において請求書が未決済かどうかを正しく判断されるよう、データ選択で支払状況や未決済金額を指定しないでください。基準日処理のための適切なデータ選択が設定されているレポートのデモ・バージョンが用意されています。

警告: 基準日機能を使用するとレポートの処理時間が非常に長くなります。

4. 通貨コード - 再換算

レポートに表示する金額を再換算する際に使用する通貨を指定します。有効な通貨コードを入力します。為替レートは、為替レート・テーブル (F0015) から取り込まれます。為替レートが設定されていない場合、レポートには何も印刷されません。この処理オプションをブランクにすると、金額は国内通貨で表示されます。

R03B4201B - 未決済売掛金 (年齢調べ) レポート

このレポートを実行して、月末など特定の日付時点での情報の一覧を出力できます。その場合、適切な処理オプションで基準日を指定してください。

未決済売掛金 (年齢調べ) レポート (R03B4201B) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

年齢調べ

この処理オプションでは、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムで顧客の請求書の年齢調べを行う方法を指定します。

1. 年齢調べ設定

年齢調べ設定を売掛管理固定情報から取り込むか、または年齢調べの処理オプションで指定した値を使うかを指定します。

注意: 「1」を入力して売掛管理固定情報から年齢調べ設定を取り込む場合、「年齢調べ日付」処理オプション以外のすべての年齢調べの処理オプションは無視されます。固定情報の「指定日付」フィールドがブランクの場合のみ、「年齢調べ日付」処理オプションの値が使用されます。システム日付を使用するために固定情報の「指定日付」フィールドをブランクにしている場合は、「年齢調べ日付」オプションには何も入力しないでください。

2. 年齢調べ日付

未決済の請求書を割り当てる年齢調べカテゴリの決定に使用する日付を指定します。入力した日付と請求書の日付（「日付タイプ」処理オプションで指定された日付）が比較され、請求書の経過期間が計算されます。

この処理オプションをブランクにすると、未決済請求書の年齢調べにはシステム日付が使用されます。

3. 日付タイプ

年齢調べカテゴリの決定に使用する請求書の日付を指定します。ここで指定した日付と「年齢調べ日付」処理オプションの値を比較して、請求書の経過期間の日数が計算されます。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書の支払期日を使用する。

1: 請求書日付を使用する。

2: 元帳日付を使用する。

3: 計算書日付を使用する。

4. 年齢調べ方法

請求書の割当に使用する年齢調べカテゴリ指定します。「年齢調べ日付」処理オプションで指定した日付と「日付タイプ」処理オプションで指定した値によって各請求書の経過期間が計算され、このコードで指定した年齢調べカテゴリに割り当てられます。値は次のとおりです。

1: 経過日数。「年齢調べカテゴリ1」から「年齢調べカテゴリ6」の処理オプションで指定した年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられます。年齢調べカテゴリには、自由に日数を設定できます。

2: 会計期間。会社レコードに割り当てられた期間パターンによって定義されている会計期間が、年齢調べカテゴリとして使用されます。

3: カレンダ。各カレンダー月が年齢調べカテゴリとして使用されます。

5. 年齢調べカテゴリ1 から 10. 年齢調べカテゴリ6

レポートに印刷する年齢調べカテゴリの間隔を指定します。

11. 貸方金額の年齢調べ

年齢調べの設定に従ってクレジット・メモの年齢調べを行うか、または貸方金額を現行年齢調べカラムに適用してレポートに印刷するかを指定します。

入金

この処理オプションでは、レポートおよび合計に入金額を含めるかどうかを指定します。

1. 入金印刷

入金情報をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書および未充当金額情報のみが印刷されます。

1: 入金情報を印刷します。

2. 当初合計

入金情報をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 当初金額のみのがこのカラムに合計表示されます。

1: レポートの当初金額合計カラムに入金額を含めて表示します。

日付

この処理オプションは、基準日処理機能を有効にするために使用します。

1. 日付 - 基準日

特定の日を基準日としてレポートを作成する必要がある場合に基準日を指定します。誤ってこの日付を年齢調べ日付として使用すると、レポートの処理時間が非常に長くなります。

基準日を使用した処理を行うと、入力した日付を基準として未決済請求書の金額が再計算されます。システムは入金の元帳日付に基づいて請求書が入金済かどうかを判断します。入力した基準日より入金の元帳日付が後の場合、請求書は未決済とみなされ、レポートに印刷されます。入金の元帳日付が基準日と同日以前の場合、請求書は決済済とみなされ、レポートには含まれません。

たとえば、元帳日付が2008年6月15日の請求書を入力し、入金の元帳日付が2008年7月10日だったとします。基準日を2008年6月30日とした場合、請求書は未決済としてレポートに表示されます。このように基準日を指定すると、顧客から指定された日付でレポートを印刷する必要がある場合や、一度処理した日付とは別の日付で印刷する場合に便利です。

注意: 指定した基準日において請求書が未決済かどうかを正しく判断されるよう、データ選択で支払状況や未決済金額を指定しないでください。これにはデモ・バージョンが用意されています。

2. 通算/基準日

前払入金情報をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 通常の基準日処理

1: 選択された請求書が基準日処理の対象となり、請求書の元帳日付より前の支払活動はすべて未決済金額カラムに当初金額と反対の符号で表示されます。

通貨

この処理オプションは、別の通貨で再換算を行う場合に使用します。

1. 通貨コード - 再計算

再計算に使用する通貨を指定します。為替レート・テーブル(F0015)に有効な為替レートが存在する場合のみ、再計算が行われます。たとえば、米ドルで入力した金額をカナダ・ドルでレポートに印刷する場合、この処理オプションで「CAD」と入力します。為替レートが検索され、金額が再計算されます。国内通貨を使用する場合、この処理オプションはブランクにしてください。

保証与信限度額

この処理オプションでは、レポートでの保証与信限度額の表示方法を指定します。

- | | |
|------------------------|--|
| 1. 未決済金額の最低限度額 | レポートに含める顧客レコードを指定します。金額を入力します。未決済金額がこの金額以上のレコードだけがレポートに印刷されます。この処理オプションをブランクにすると、すべての保証与信限度額レコードがレポートに印刷されます。 |
| 2. 未決済金額の通貨コード | 「未決済金額の最低限度額」処理オプションで入力した金額の通貨を指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト通貨の米ドル (USD) が使用されます。 |
| 3. 標準または保険与信限度額 | <p>レポートに含める顧客レコードを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: すべてのレコードが印刷されます。</p> <p>1: 未決済金額が与信限度額以上のレコードが印刷されます。</p> <p>2: 未決済金額が保証与信限度額以上のレコードが印刷されます。</p> <p>「未決済金額の最低限度額」処理オプションでブランク以外の値を入力している場合、その値が優先され、この処理オプションで指定する値は無効となります。</p> |

JD Edwards EnterpriseOne用語集

| | |
|------------------------|---|
| アクセサ・メソッド/アクセサ | 値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。 |
| アクティビティ・ルール、処理規則 | フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。 |
| 追加モード | ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。 |
| 拡張プランニング・エージェント (APAg) | 業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。 |
| 代替通貨 | <p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p> |
| アプリケーション・サーバー | 分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。 |
| 仮定通貨処理 | 取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。 |
| 基準日処理 | ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。 |
| 自動コミット・トランザクション | すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。 |
| バック・ツーバック・プロセス | JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。 |
| バッチ処理 | <p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p> |
| バッチ・サーバー | バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。 |
| 一括バッチ処理 | <p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p> |
| ベスト・プラクティス | 開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。 |

| | |
|--|--|
| BPEL | Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。 |
| BPEL PM | Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。 |
| ビルド構成ファイル | ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。 |
| ビルド・エンジニア | アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。 |
| ビルド・プログラム | ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。 |
| ビジネス・アナリスト | EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。 |
| ビジネス関数 | ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。 |
| ビジネス関数イベント・ルール | “ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。 |
| ビジネス・サービス | Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。 |
| ビジネス・サービス・アーティファクト | ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。 |
| ビジネス・サービス・クラス・メソッド | ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。 |
| ビジネス・サービス構成ファイル | interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。 |
| ビジネス・サービス相互参照 | オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。 |
| ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ | JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。 |
| ビジネス・サービス開発環境 | 統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。 |
| ビジネス・サービス開発ツール | JDeveloperという名前でも知られています。 |
| ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト | EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。 |

| | |
|----------------------------------|--|
| ビジネス・サービス・フレームワーク | 特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。 |
| ビジネス・サービス・ペイロード | エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。 |
| ビジネス・サービス・プロパティ | ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。 |
| ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール | 開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。 |
| ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ | ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。 |
| ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化 | ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。 |
| ビジネス・サービス・プロパティ・キー | ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。 |
| ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ | EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。 |
| ビジネス・サービス・プロパティ値 | ビジネス・サービス・プロパティの値です。 |
| ビジネス・サービス・リポジトリ | ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。 |
| ビジネス・サービス・サーバー | ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。 |
| ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス | ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。 |
| ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート | Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。 |
| ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ | ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。 |
| ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト | ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。 |
| ビジネス・ビュー | アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。 |
| セントラル・オブジェクトのマージ | 現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。 |
| セントラル・サーバー | 最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD |

| | |
|--------------------|---|
| | Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。 |
| チャート | JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。 |
| チェックイン・リポジトリ | 開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。 |
| コネクタ | JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。 |
| 相殺/相手勘定 | JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。 |
| コントロール・テーブル・ワークベンチ | インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。 |
| コントロール・テーブルのマージ | 顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。 |
| 関連データ | ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。 |
| コスト割当 | JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。 |
| 原価要素 | JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。 |
| 資格証明 | JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。 |
| 相互参照ユーティリティ・サービス | EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。 |
| セグメント間編集 | コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。 |
| 通貨再換算 | 通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。 |
| cXML | 伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。 |
| データベース資格証明 | 有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。 |
| データベース・サーバー | データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。 |

| | |
|-------------------------|---|
| データ・ソース・ワークベンチ | インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。 |
| 期間パターン | 標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。 |
| 指定通貨 | 会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。 |
| デプロイメント・アーティファクト | サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。 |
| デプロイメント・サーバー | エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。 |
| 明細情報 | JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。 |
| ダイレクト接続 | クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。 |
| DNT (Do Not Translate) | BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。 |
| 2重価格設定 | 商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。 |
| 重複した公開ビジネス・サービス承認レコード | 同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。 |
| 埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス | JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。 |
| 編集コード | レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。 |
| 編集モード | ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。 |
| 編集ルール | ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。 |
| 電子データ交換 (EDI) | JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。 |
| 埋込みイベント・ルール | 特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。 |
| 従業員ワーク・センター | 発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。 |
| エンタープライズ・サーバー | JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。 |

| | |
|-------------------------------------|---|
| ESB (Enterprise Service Bus) | イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。 |
| EnterpriseOne管理者 | EnterpriseOne管理システムの担当者です。 |
| EnterpriseOne資格証明 | EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。 |
| EnterpriseOneオブジェクト | アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。 |
| EnterpriseOne開発クライアント | 以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。 |
| EnterpriseOne拡張機能 | EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。 |
| EnterpriseOneプロセス | JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。 |
| EnterpriseOneリソース | 権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。 |
| 環境ワークベンチ | インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。 |
| エスカレーション・モニター | 処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。 |
| イベント・ルール | フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。 |
| 明示的トランザクション | ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。 |
| 公開されたメソッド/値オブジェクト | 公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。 |
| 施設、事業所 | 原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。 |
| 略式コマンド | 特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。 |
| ファイル・サーバー | ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネッ |

| | |
|---------------------------|--|
| | トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。 |
| 最終モード | データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。 |
| 基盤 | 実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBJがあげられます(この他にもあります)。 |
| FTPサーバー | FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。 |
| 見出し情報 | テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。 |
| HTTPアダプタ | 特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。 |
| インスタンス化 | “作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。 |
| 統合開発者 | EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。 |
| インテグレーション・ポイント(IP) | ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。 |
| インテグレーション・サーバー | コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。 |
| 整合性テスト | データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。 |
| インターフェイス・テーブル | “Zテーブル”の説明を参照してください。 |
| 内部メソッド/値オブジェクト | 公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。 |
| インタオペラビリティ・モデル | サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。 |
| エラー表示の有効化 | JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。 |
| IServerサービス | Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。 |
| 代替ラベル | 代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。 |
| Javaアプリケーション・サーバー | サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。 |
| JDBNET | 異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。 |

| | |
|---------------------------------|--|
| JDEBASEデータベース・ミドルウェア | JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。 |
| JDECallObject | ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。 |
| jde.ini | JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。 |
| JDEIPC | サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。 |
| jde.log | JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。 |
| JDENET | JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。 |
| JDeveloperプロジェクト | JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。 |
| JDeveloperワークスペース | JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。 |
| JMSキュー | ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。 |
| リスナー・サービス | HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。 |
| ローカル・リポジトリ | ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。 |
| ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー | アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。 |
| ロケーション・ワークベンチ | インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。 |
| ロジック・サーバー | アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。 |
| 差し込み印刷ワークベンチ | 業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。 |
| 手動コミット・トランザクション | コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。 |
| マスター・ビジネス関数(MBF) | データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット |

| | |
|----------------------------|--|
| | が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。 |
| マスター・テーブル | “パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。 |
| 照合伝票 | 取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。 |
| メディア・ストレージ・オブジェクト | Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。 |
| メッセージ・センター | 発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。 |
| メッセージング・アダプタ | サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。 |
| メッセージング・サーバー | メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。 |
| 中間層BPEL/ESBサーバー | アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。 |
| 監視アプリケーション | 管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。 |
| ネームド・イベント・ルール (NER) | カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。 |
| Nota Fiscal | ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。 |
| Nota Fiscal Factura | ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。 |
| オブジェクト構成マネージャ (OCM) | JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。 |
| オブジェクト・ライブラリアン | アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。 |
| オブジェクト・ライブラリアンのマージ | これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。 |
| オープン・データ・アクセス (ODA) | データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。 |

| | |
|-------------------|--|
| 出力ストリーム・アクセス(OSA) | JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。 |
| パッケージ | JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。 |
| パッケージ・ビルド | 既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。 |
| パッケージ・ロケーション | パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。 |
| パッケージ・ワークベンチ | インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。 |
| パスコード・ディレクトリ | EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。 |
| パターン | ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。 |
| 計画ファミリ | 設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。 |
| 優先プロファイル | 品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。 |
| プリント・サーバー | ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。 |
| プリステイン環境 | JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。 |
| 処理オプション | バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド |

| | |
|------------------------|---|
| | <p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p> |
| 本稼働用環境 | <p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p> |
| 本稼働レベルのファイル・サーバー | <p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p> |
| 本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス | <p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p> |
| プログラム一時修正 (PTF) | <p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p> |
| プロジェクト | <p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p> |
| プロモーション・パス | <p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p> |
| プロキシ・サーバー | <p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p> |
| 公開ビジネス・サービス | <p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p> |
| 公開ビジネス・サービス識別情報 | <p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p> |
| 公開ビジネス・サービスのWebサービス | <p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p> |
| パブリッシュ済テーブル | <p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p> |
| パブリッシュ | <p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p> |
| プル・レプリケーション | <p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p> |

| | |
|-----------------------------------|--|
| QBE | Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。 |
| リアルタイム・イベント | 外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。 |
| リフレッシュ | 新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース(B73.2やB73.2.1など)に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を修正する機能です。 |
| レプリケーション・サーバー | クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。 |
| Rt-Addressing | ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。 |
| 規則 | ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。 |
| 見積オーダー | JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。 |
| Secure by Default | 特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。 |
| SSL (Secure Socket Layer) | 通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。 |
| SEI実装 | サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。 |
| 選択項目 | JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。 |
| シリアルライズ | オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。 |
| サーバーワークベンチ | インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。 |
| サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI) | クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。 |
| SOA | Service Oriented Architectureの略語です。 |
| ソフトコーディング | 指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。 |
| ソース・リポジトリ | HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。 |
| スポット・レート | 取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。 |

| | |
|----------------------|---|
| スペックのマージ | オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。 |
| スペック | JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。 |
| スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ | インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。 |
| SSL証明書 | ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。 |
| オフライン処理 | サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。 |
| サブスクリイバ・テーブル | F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。 |
| スーパークラス | クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。 |
| 補足データ | <p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p> |
| テーブル・アクセス管理(TAM) | ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。 |
| テーブル変換ディレクタ | JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。 |
| テーブル変換 | JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。 |
| テーブル・イベント・ルール | データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。 |
| ターミナル・サーバー | このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。 |
| 3ステップ処理 | JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。 |

| | |
|-----------------------------|--|
| 3方向伝票照合 | JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。 |
| トランザクション処理 (TP) モニター | ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。 |
| トランザクション処理方法 | 手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。 |
| トランザクション・セット | 複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。 |
| トリガー | データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。 |
| トリガーイベント | 特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。 |
| 2方向認証 | クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。 |
| 2方向伝票照合 | JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。 |
| ユーザー識別情報 | ユーザーID、ロールまたは*publicです。 |
| ユーザー一時変更のマージ | 新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。 |
| 値オブジェクト | データ構造がデータを渡すのと同様のように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。 |
| 差異 | JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。 |
| 公開ビジネス・サービスのバージョン | 既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。 |
| バージョン・リストのマージ | バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。 |
| ビジュアル・アシスト | ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。 |
| 用語一時変更 | 特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。 |
| wchar_t | ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。 |

| | |
|--|--|
| Webアプリケーション・サーバー | Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。 |
| Webサーバー | ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。 |
| WSDL (Web Service Description Language) | ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。 |
| WSIL (Web Service Inspection Language) | 使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。 |
| Webサービス・プロキシ基盤 | WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。 |
| Webサービス・ソフトコーディング・レコード | Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。 |
| Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート | ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。 |
| WHERE句 | データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。 |
| Windowsターミナル・サーバー | マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。 |
| ウィザード | JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。 |
| ワークベンチ | 関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。 |
| 作業日カレンダー | JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。 |
| ワークフロー | ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。 |
| ワークグループ・サーバー | マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。 |
| XAPIイベント | システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した |

| | |
|------------------------|---|
| | サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。 |
| XML CallObject | ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。 |
| XMLディスパッチ | JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。 |
| XMLリスト | JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。 |
| XMLサービス | JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。 |
| XMLトランザクション | 事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。 |
| XMLトランザクション・サービス (XTS) | JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。 |
| Zイベント | インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。 |
| Zテーブル | JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。 |
| Zトランザクション | JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。 |

索引

- AAI, 参照: AAI(自動仕訳)
- AAI(自動仕訳)
 - 売掛管理AAIの概要 21
 - 売掛金勘定(RC) 23
 - 延滞利息金(RFCとRFD) 25
 - 仮入金(RCLC) 24
 - 銀行勘定(RB) 23
 - 小額消去(RAxx) 24
 - 相殺(NC) 25
 - 損金(RN) 25
 - 手形処理(RDxx)の設定 52
 - 未充当入金(RCUC) 24
 - 割引実施額(RKD) 24
- Creditel信用報告テーブル 404, 405
- Creditel信用報告テーブル・プログラム(R03B920)
 - 処理オプション 411
- Creditel信用報告テーブル・プログラム(R03B920C)
 - 処理オプション 411
 - 要件 405
 - 用途 404
- Customer Connection Webサイト xxviii
- Dun & Bradstreet
 - 信用報告テーブル 404, 405
 - マッピング 405
- EDI, 参照: 電子データ交換(EDI)
- EDI入荷通知(受信)の照会プログラム(P47110)
 - 処理オプション 346
 - 用途 344
- EFT, 参照: 電子資金決済(EFT)
- Experian信用報告テーブル 404, 405
- Experian信用報告テーブル・プログラム(R03B920)
 - 処理オプション 411
 - 要件 405
 - 用途 404
- F0009テーブル 6
- F0010テーブル 6
- F00165テーブル 100
- F03012Aテーブル 39, 40
- F03012テーブル 29, 40
- F03B08テーブル 88
- F03B112テーブル 236
- F03B11テーブル 39, 44
- F03B13テーブル 171
- F03B14テーブル 171
- F03B16Sテーブル 430, 440
- F03B16テーブル 430, 440
- F03B20テーブル 369, 416
- F03B21テーブル 369
- F03B28テーブル 100
- F03B465テーブル 470
- F03B571テーブル 320
- F03B575テーブル 320
- F03B570Wテーブル 320
- F47111テーブル 336, 345
- F47112テーブル 336, 345
- F47113テーブル 336, 345
- F47114テーブル 336, 345
- F74412テーブル 474
- NSF, 参照: 残高不足(NSF)
- NSF(残高不足)手形通知プログラム(R03B574)
 - 処理オプション 313
 - 用途 311
- P0000プログラム 6
- P0100042プログラム 32
- P03013プログラム 33
 - 処理オプション 31
 - 用途 30
- P03B0001プログラム
 - 処理オプション 217
 - 用途 167
- P03B0011プログラム
 - 処理オプション 124
 - 用途 118
- P03B08プログラム 87
- P03B102プログラム
 - 処理オプション 190
 - 用途 167
- P03B114プログラム
 - 処理オプション 149
 - 用途 146
- P03B11SIプログラム
 - 処理オプション 123
 - 用途 119
- P03B11Z1プログラム
 - 処理オプション 155

- 用途 154
- P03B11プログラム
 - 処理オプション 122
 - 用途 116
- P03B120プログラム 137
- P03B121プログラム 251, 252, 253
- P03B151プログラム 396
- P03B16プログラム 436, 440
- P03B2002プログラム
 - 概要 233
 - 処理オプション 239
 - 入金明細の検討 237
 - 用途 236
- P03B201プログラム 421
- P03B202プログラム 420
 - 処理オプション 379, 420
 - 用途 377, 378
- P03B218プログラム 395, 397, 398
- P03B22プログラム
 - 処理オプション 426
 - 用途 426
- P03B2501プログラム 92, 96
- P03B2801プログラム 100
- P03B2901プログラム 102, 103
- P03B30プログラム 90
- P03B31プログラム 390
- P03B40プログラム 360
- P03B42プログラム 26
- P03B455プログラム
 - 処理オプション 458
 - 用途 455
- P03B52プログラム 60
- P03B571プログラム
 - 処理オプション 323
 - 用途 321
- P03B602プログラム
 - 処理オプション 278
 - 用途 269
- P03B675プログラム 306
- P0457Dプログラム
 - 処理オプション 331
 - 用途 330
- P15103プログラム 207
- P47110プログラム
 - 処理オプション 346
 - 用途 344
- PeopleCodeの表記規則 xxx
- R00310プログラム 56
- R00314プログラム
 - 処理オプション 56
- 用途 56
- R00522プログラム 479
- R03012Aプログラム
 - 処理オプション 43
 - データ選択とデータ順序 43
 - 用途 38, 39, 40
- R03012Bプログラム
 - 処理オプション 43
 - 用途 39, 40
- R03B0041Aプログラム
 - 処理オプション 255
 - 用途 254
- R03B11Z1Aプログラム
 - 処理オプション 162
 - 用途 158
- R03B155プログラム
 - 処理オプション 551
 - 用途 550
- R03B161プログラム
 - 処理オプション 443
 - 用途 442
- R03B163プログラム
 - 処理オプション 444
 - 用途 443
- R03B165プログラム 551
- R03B166プログラム 552
- R03B167プログラム 552
- R03B168プログラム 552
- R03B1691プログラム 553
- R03B1692プログラム 553
- R03B1693プログラム 553
- R03B16Aプログラム
 - 処理オプション 438
 - 用途 429, 430, 431
- R03B20プログラム
 - 処理オプション 418
 - 用途 415
- R03B21プログラム
 - 処理オプション 419
 - 用途 415
- R03B221プログラム
 - 処理オプション 425
 - 用途 424
- R03B222プログラム
 - 処理オプション 427
 - 用途 426
- R03B22プログラム
 - 処理オプション 424
 - 用途 422
- R03B305プログラム

- 処理オプション 138
- データ順序 138
- データ選択 554
- 用途 134, 554
- R03B311プログラム
 - 処理オプション 555
 - データ順序 555
 - 用途 554
- R03B312プログラム 390
- R03B31プログラム
 - 処理オプション 391
 - 用途 390
- R03B408プログラム
 - 処理オプション 556
 - 用途 556
- R03B413Aプログラム
 - 集計オプション 557
 - 処理オプション 557
- R03B4201Aプログラム
 - 処理オプション 558
 - 用途 558
- R03B4201Bプログラム
 - 処理オプション 559
 - 用途 559
- R03B450プログラム 470
- R03B461プログラム
 - 処理オプション 401
 - 用途 401
- R03B4652プログラム 470
- R03B465プログラム
 - 処理オプション 471
 - 用途 470
- R03B466プログラム
 - 処理オプション 472
 - 用途 471
- R03B5001JPプログラム
 - 用途 371
- R03B5001プログラム
 - 処理オプション 376
 - 用途 371
- R03B5002プログラム 371
- R03B5003プログラム 371
- R03B500Xプログラム
 - 処理オプション 264, 372
 - データ選択とデータ順序 264
 - 用途 369
- R03B5010プログラム
 - 処理オプション 381
 - 用途 380
- R03B5051プログラム
 - 処理オプション 263
 - データ選択とデータ順序 263
 - 用途 262
- R03B505プログラム
 - 処理オプション 368
 - 用途 367
- R03B506プログラム
 - 処理オプション 268
 - 用途 371
- R03B50Aプログラム
 - 処理オプション 76
 - 用途 62
- R03B50Bプログラム
 - 処理オプション 75
 - 用途 62
- R03B50Dプログラム
 - 処理オプション 68
 - 用途 61
- R03B50Eプログラム
 - 処理オプション 73
 - 用途 62
- R03B50Fプログラム
 - 処理オプション 79
 - 用途 64
- R03B50プログラム
 - 処理オプション 249
 - 用途 248
- R03B525プログラム
 - 処理オプション 385
 - 用途 383, 413, 422
- R03B551プログラム
 - 処理オプション 244
 - 用途 242
- R03B560プログラム
 - 処理オプション 556
 - 用途 556
- R03B571プログラム
 - 処理オプション 324
 - 用途 322
- R03B574プログラム
 - 処理オプション 313
 - 用途 311
- R03B610プログラム
 - 処理オプション 449
 - 用途 445, 446
- R03B671プログラム
 - 処理オプション 290
 - データ順序 290
 - 用途 276
- R03B672プログラム

処理オプション 307
 データ選択 307
 用途 305
 R03B680プログラム
 処理オプション 315
 R03B701プログラム
 貸借不一致状況 482
 用途 482
 R03B707プログラム
 処理オプション 487
 貸借不一致状況 485
 データ選択とデータ順序 489
 用途 484
 R03B800プログラム
 処理オプション 492
 用途 491, 492
 R03B801プログラム
 処理オプション 492
 用途 491, 493
 R03B802プログラム
 処理オプション 235
 用途 39, 235
 R03B8101プログラム
 処理オプション 139
 用途 135
 R03B920Cプログラム
 処理オプション 411
 要件 405
 用途 404
 R03B920プログラム
 処理オプション 411
 要件 405
 用途 404
 R09801プログラム
 請求書処理の概要 141
 入金処理概要 225
 R47111プログラム
 処理オプション 343
 用途 343
 R7403B001プログラム
 処理オプション 478
 用途 474
 R7404001プログラム
 処理オプション 477
 用途 474
 R7404002プログラム
 処理オプション 478
 用途 476
 R890911BIプログラム
 処理オプション 490

用途 489
 UDC, 参照: ユーザー定義コード(UDC)

あ

アプリケーションの基礎 xxvii
 アルゴリズム
 既知請求書照合(金額指定あり)
 (R03B50D) 61
 既知請求書照合(金額指定なし)プロ
 グラム(R03B50E) 62
 組合せ請求書照合プログラム
 (R03B50F) 64
 残高繰越照合プログラム
 (R03B50B) 62
 実行リストでの定義 81
 請求書選択照合プログラム
 (R03B50A) 62
 定義 60
 アルゼンチン
 顧客マスター 37

い

イタリア
 計算書フォーマット 371

う

売掛/買掛の相殺, 参照: 売掛金/買掛
 金相殺
 売掛管理固定情報
 会社制御 8
 概要 6
 拡張固定情報
 業種別処理 7
 有効日付カテゴリ・コード 7
 システム固定情報 8
 設定 6
 売掛管理システム制御
 設定 10
 売掛管理の設定, 参照: システム設定
 売掛管理レポートの印刷 547
 売掛金延滞通知の印刷プログラム
 (R03B20)
 処理オプション 418
 用途 415
 売掛金/買掛金相殺
 売掛金相殺 461
 買掛金相殺 463
 会計入力の例 456
 概要 453

相殺伝票の確認 465
 相殺取引の改訂、削除、無効化 464
 ソース伝票、振替伝票、結果伝票に
 ついて 454
 売掛金/買掛金の相殺プログラム
 (R03B450) 470
 売掛金相殺ファイルの再作成プログラム
 (R03B4651) 470
 売掛金元帳 - 勘定残高(略式ID別)プロ
 グラム(R03B707)
 処理オプション 487
 貸借不一致状況 485
 データ選択とデータ順序 489
 用途 484
 売掛金元帳照会プログラム(P03B2002)
 概要 233
 処理オプション 239
 請求書改訂履歴の検討 236
 請求書明細の検討 240
 入金明細の検討 237
 用途 236
 売掛金元帳 - 総勘定元帳入金プログ
 ラム(R890911BI)
 処理オプション 490
 貸借不一致状況 489
 用途 489
 売掛金元帳 - 総勘定元帳(バッチ別)プ
 ログラム(R03B701)
 貸借不一致状況 482
 用途 482

え

延滞承認の処理 421
 延滞承認の処理プログラム
 (P03B201) 421
 延滞通知
 延滞通知指示の設定 97
 概要 413
 検討 420
 再印刷 422
 承認 421
 除去 380
 方針の設定 92
 レターテキストの設定 100
 延滞通知の印刷 413, 422
 延滞通知の検討プログラム
 (P03B202) 420
 延滞通知プログラム(P03B202)
 処理オプション 420

延滞通知レターテキスト・プログラム
 (P03B2801) 100
 延滞方針の設定 92
 延滞方針の定義プログラム
 (P03B2501) 92, 96, 97
 延滞利息金
 AAI(自動仕訳) 25
 延滞利息金指示の設定 96
 承認、却下、検討 426
 除去 426
 生成 422
 方針の設定 92
 延滞利息金の却下 426
 延滞利息金の検討プログラム(P03B22)
 処理オプション 426
 用途 426
 延滞利息金の承認 426
 延滞利息金の除去プログラム(R03B222)
 処理オプション 427
 用途 426
 延滞利息金プログラム(R03B221)
 処理オプション 425
 用途 424
 延滞利息金明細プログラム(R03B22)
 処理オプション 424
 用途 422

お

親/子勘定残高 396, 397
 親/子残高照会プログラム
 (P03B151) 396

か

買掛金相殺ファイルの再作成プログラム
 (R03B4652) 470
 会社の年齢調べ設定 11
 回収管理者UDC(01/CM) 15
 回収理由コード 16
 回収レポート・プログラム(R03B461)
 処理オプション 401
 用途 401
 階層化延滞通知の印刷プログラム
 (R03B21)
 処理オプション 419
 用途 415
 改訂
 仮入金 224
 実行リスト 81
 請求書

定期 138
 転記済 148
 未転記 147
 手形 276
 手形明細 305
 電子入金 251
 入金 223
 バッチ請求書 154
 与信情報 402
 鑑請求書プログラム(R03B5001JP)
 用途 371
 カスタマ・セルフサービス 234
 活動
 検討と削除 391
 追加 392
 活動コード
 活動コードの追加 91
 損金への適用 363
 追加 90
 活動タイプ・コードの追加 91
 活動ログの印刷プログラム(R03B31)
 処理オプション 391
 用途 390
 カテゴリ・コード
 顧客マスター 38
 有効日 39
 仮入金
 改訂 224
 顧客への割当 222
 入力(入力タイプ・コード3) 222
 仮入金(入力タイプ・コード3)の追加 222
 管理者承認 8
 関連ドキュメンテーション xxviii

き

期間パターン
 与信/回収のための設定 88
 基準日機能 236
 既知請求書照合(金額指定あり)プログラム(R03B50D)
 処理オプション 68
 用途 61
 既知請求書照合(金額指定なし)プログラム(R03B50E)
 処理オプション 73
 用途 62
 業種別処理
 概要 7
 設定 9
 共通フィールド xxxii

銀行口座検証プログラム(R00314)
 処理オプション 56
 用途 56
 銀行口座例外プログラム(R00310) 56
 銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラム(P0457D)
 処理オプション 331
 用途 330
 銀行への自動引落としバッチの転送 330

く

組合せ請求書照合の例 64
 組合せ請求書照合プログラム(R03B50F)
 処理オプション 79
 用途 64
 繰越残高入金(入力タイプ・コード2) 221
 クレジット・カード計算書の印刷プログラム(R03B5003) 371
 クレジット・メモ
 請求書に対する消込 206
 損金への適用 361, 364
 入力 119, 131
 クレジット・メモの入力 131

け

警告 xxxi
 計算書
 印刷(手形付き) 262, 264
 印刷プログラム 371
 検討 377, 379
 再印刷 380
 再設定 378, 380
 作成 370
 除去 380
 処理の概要 369
 フォーマット
 イタリア 371
 クレジット・カード 371
 日本 371
 レターテキストの設定 100
 計算書印刷(イタリア)プログラム(R03B5002) 371
 計算書/延滞通知の除去プログラム(R03B5010)
 処理オプション 381
 用途 380
 計算書データの再作成プログラム(R03B500X)
 処理オプション 264, 372

データ選択とデータ順序 264
 用途 369
 計算書の印刷(手形付き)プログラム
 (R03B506)
 処理オプション 268
 用途 371
 計算書の印刷プログラム(R03B5001)
 処理オプション 376
 用途 371
 計算書の検討プログラム(P03B202)
 処理オプション 379
 用途 377, 378
 計算書の処理の印刷プログラム 371
 検討
 延滞通知 420
 延滞利息金 426
 親/子勘定残高 396, 397
 計算書 377, 379
 顧客勘定情報 392, 394
 顧客勘定(「取引状況集計」を使
 用) 393, 395
 再請求、損金、未充当入金、手形請求
 書レコード 237
 請求書 147
 請求書明細 240
 定期請求書 134
 統計情報 441
 与信/回収情報 390

こ

ご意見 xxxii
 更新手形 311
 顧客カテゴリ・コード
 住所録からの自動更新 38
 手動追加 38
 割当 38
 顧客からの自動資金回収 319
 顧客勘定
 オンラインの検討 233
 関連項目: 売掛金元帳照会プログラ
 ム(P03B2002)
 管理 390
 検討 392, 394
 処理 397, 400
 顧客残高照会プログラム
 (P03B218) 395, 397, 398
 概要 392
 顧客残高の自動生成プログラム
 (R7403B001)
 処理オプション 478

用途 474
 顧客/仕入先残高レポート・プログラム
 (R7404002)
 処理オプション 478
 用途 476
 顧客統計, 参照: 統計情報
 顧客取引活動
 検討と削除 391
 追加 90, 392
 顧客取引活動ログの除去プログラム
 (R03B312) 390
 顧客取引活動ログ・プログラム
 (P03B31) 390
 活動の検討 391
 取引活動の追加 392
 顧客に割り当てられた延滞方針 111
 顧客の追加 33
 顧客の統計の更新 429
 顧客分析のための統計, 参照: 統計情報
 顧客への実行リストの割当 83
 顧客への払戻し処理 445, 446
 顧客マスター
 アルゼンチン用 37
 ベルギー用 37
 顧客マスターMBF処理オプション・プログ
 ラム(P0100042) 32
 顧客マスター情報 29
 関連項目: 顧客レコード
 概要 29
 顧客マスター情報プログラム
 (P03013) 33
 処理オプション 31
 与信情報 107
 顧客マスター・プログラム(P03013)
 用途 30
 顧客マスター・レコード
 検討 44
 削除 44
 追加 33
 入力 31
 顧客与信履歴プログラム(P03B16) 436,
 440
 顧客レコード
 改訂 44
 入力 33
 与信/回収管理者の設定 105
 与信/回収情報の追加 107
 与信/回収情報の割当 106
 割当済の延滞方針の相互参照 111
 顧客レコードへの与信情報の追加 107

ご要望 xxxii

さ

再請求

作成 178

損金からの作成 361

再請求理由コード 16

残高繰越照合プログラム(R03B50B)

処理オプション 75

用途 62

残高不足(NSF) 231, 232

全額または部分指定 312

手形の指定 310

し

仕入先残高の自動生成プログラム

(R7404001)

処理オプション 477

用途 474

資金予測データのリフレッシュ・プログラ

ム(R00522) 479

システム設定

AAI(自動仕訳) 21

関連項目: AAI(自動仕訳)

機能 5

固定情報 6

自動採番 20

支払条件 25

損金処理 26

ユーザー定義コード(UDC) 12

システム・セットアップ・プログラム

(P0000) 6

事前承認手形プログラム(R03B671)

処理オプション 290

データ順序 290

用途 276

実行リスト

改訂 81

顧客への割当 83

定義 81

実行リストの作成 81

実行リストの定義 81

実行リストの定義プログラム

(P03B50) 81

自動処理のための入金のマッピン

グ 59, 531

自動手形処理 275

自動入金処理

概要 241

請求書に対する入金の消込

自動 248

手動 254

設定

アルゴリズム 60

概要 57

銀行勘定科目 58

実行リスト 81, 83

電子入金の検討、改訂、および追

加 251

電子入金の削除 251

電子入金の除去 254

入金レコードの自動作成 242

入金レコードのマッピング

概要 59

入金のマッピングのための任意

フィールド、無視されるフィールド、

自動更新フィールド 537

入金のマッピングのための必須

フィールド 531

バッチのアップロード状況の変更 253

自動引落とし

概要 319

銀行への転送 330

作成 321, 327

バッチの削除 322

バッチの承認 327

バッチの除去 333

バッチの転記 327

バッチのフォーマット 329

自動引落としの処理 321

自動引落としの処理プログラム(P03B571)

処理オプション 323

用途 321

自動引落としバッチの作成

概要 321

最終モード 327

テスト・モード 327

自動引落としバッチの作成プログラム

(R03B571)

処理オプション 324

用途 322

自動引落としバッチの承認 327

自動引落としバッチの転記 327

自動引落としバッチのフォーマット 329

支払手段

手形用の設定 55

支払条件の設定 25

集計方法

B 144

- S 143
- Y 143
- 住所録
 - 売掛金情報更新 235
 - 与信/回収管理者の設定 105
- 住所録からの売掛金元帳の更新プログラム(R03B802)
 - 処理オプション 235
- 住所録からの売掛金元帳の更新プログラム(R03B802)
 - 用途 39, 235
- 手動相殺機能プログラム(P03B455)
 - 処理オプション 458
 - 用途 455
- 手動入金処理
 - 概要 167
 - 仮入金の改訂 224
 - 削除および無効化 229
 - スピード入金入力 215
 - 請求書照合(入力タイプ・コード10)の入力 204, 208, 213
 - 請求書照合を伴わない単独取引の入力 214
 - 請求書に対するクレジット・メモの消込 206
 - 請求書に対する未充当入金の消込 205, 208
 - 請求書の選択 202
 - 請求書のロード 201
 - 総勘定元帳入金 209
 - 単独再請求(入力タイプ・コード26) 211
 - 単独小額消去(入力タイプ・コード25) 211
 - 単独損金(入力タイプ・コード27) 212
 - 転記 225
 - 転記済および未転記の改訂 223
 - 入力タイプ・コード
 - 10 177, 179
 - 11 178
 - 15 179
 - 16 178
 - 17 180
 - 概要 175
 - 入力方法 167
 - 日付、伝票タイプ、入力タイプ・コード 172
 - 標準入金入力 184
 - 複数の入力タイプ・コードを使った請求書照合 182
 - マイナスの入金 182
 - 未決済請求書の表示 199
 - 未充当入金 189
 - 手動入金処理の概要 171
 - 小額消去
 - 自動/手動 179
 - 理由コード 17
 - 照合伝票タイプ・コード 14
 - 除去
 - 延滞通知 380
 - 計算書 380
 - 自動引落としバッチ 333
 - 請求書および入金 491
 - バッチ請求書 165
 - 処理
 - 損金の無効化 364, 365
 - 処理コード
 - 損金処理用 26
 - 処理済バッチ請求書の除去プログラム(R03B11Z1P) 165
 - 仕訳用モデルの選択 131
 - 信用報告テーブル
 - Creditelマッピング 408
 - Dun & Bradstreetマッピング 405
 - Experianマッピング 405
 - 作成 404, 405
 - 信用保険契約
 - 概要 102
 - 設定 103
 - 信用保険の処理プログラム(P03B2901) 102, 103
- す
 - スピード請求書入力プログラム(P03B11SI)
 - 処理オプション 123
 - 用途 119
 - スピード請求書の追加 133
 - スピード入金
 - 仮入金の顧客への割当 222
 - 入力
 - 仮入金(入力タイプ・コード3) 222
 - 繰越残高入金(入力タイプ・コード2) 221
 - 総勘定元帳入金(入力タイプ・コード4) 222
 - 未充当入金(入力タイプ・コード1) 221
 - 入力タイプ・コード 215
 - スピード入金入力プログラム(P03B0001)

処理オプション 217
 用途 167
 スピード・リリース・プログラム(P03B114)
 個々の請求書の更新 150
 処理オプション 149
 請求書の一括更新 150
 用途 146

せ

請求書 113
 関連項目: 請求書の処理
 印刷 367
 印刷(手形付き) 262, 263
 勘定科目情報の検討および改訂 147
 勘定科目情報の入力 129
 クレジット・メモの入力 119, 131
 検索 126
 検討 126
 改訂 236
 概要 233
 特定の日付 236
 明細 240
 削除 140
 システムからの除去 491, 492
 支払の選択 199
 住所録からの情報の更新 235
 処理の概要 113
 スピード請求書の入力 133
 スピード・リリースを使用した更新
 (P03B114) 146, 150
 請求書仕訳情報の印刷 554
 請求書スピード・リリースを使用した一
 括更新 150
 請求書に対する入金金の自動消込 248
 整合性レポート 482
 損金の入力 358
 貸借不一致での入力 119, 131
 定期
 改訂 134, 138
 解約 135
 概要 134
 検討 134, 137
 再作成 139
 再作成処理 135
 入力 136
 定期の再作成 135
 転記済支払項目の無効化 149
 転記済の改訂 145, 148
 転記済の無効化 145, 148
 添付の追加 118

入金消込用請求書の選択 202
 入金消込用請求書のロード 201
 入力方法 114
 バッチ請求書処理, 参照: バッチ請求
 書処理
 標準請求書の入力 116, 128
 未充当手形と請求書の消込 288
 未転記の改訂 120
 未転記の検討および改訂 147
 モデル仕訳の使用 131
 割引の入力 117, 132
 請求書印刷(手形)プログラム(R03B5051)
 処理オプション 263
 データ選択とデータ順序 263
 用途 262
 請求書印刷プログラム(R03B505)
 処理オプション 368
 用途 367
 請求書および入金金の伝票タイプ 172
 請求書傾向分析プログラム
 (R03B168) 552
 請求書照合入金金の追加(入力タイプ・コー
 ド10) 204, 207, 208, 213
 請求書仕訳の検討プログラム
 (P03B11A) 147
 請求書選択照合
 例 62
 請求書選択照合の例 62
 請求書選択照合プログラム(R03B50A)
 処理オプション 76
 用途 62
 請求書転記によって作成される自動仕
 訳 142
 請求書転記の集計方式 142
 請求書伝票タイプ・コード 13
 請求書に対するクレジット・メモの配
 賦 206
 請求書に対する未充当入金金の消
 込 205, 208
 請求書入力MBF処理オプション・プログ
 ラム(P03B0011)
 処理オプション 124
 用途 118
 請求書の印刷
 標準 367
 請求書の勘定科目情報の改訂 147
 請求書の検索 126
 請求書の再設定 378, 380
 請求書の処理
 概要 113

カテゴリ・コードの更新 117
 請求書入力とスピード請求書入力の
 比較 114
 デフォルトの収益勘定 117
 転記処理 141
 転記によって作成される自動仕
 訳 142
 パーセント仕訳の入力 117
 標準請求書入力 116
 モデル仕訳 117
 割引の適用 117
 請求書の転記 141
 請求書の入力
 概要 114
 スピード 133
 定期 136
 標準 116
 割引の適用 132
 請求書への勘定科目情報の追加 129
 請求書への勘定科目情報の入力 129
 請求仕訳プログラム(R03B305)
 データ選択 554
 用途 554
 請求取引の除去プログラム(R03B800)
 処理オプション 492
 用途 491, 492
 整合性レポート
 売掛金元帳 - 勘定残高(略式ID別)プ
 ログラム(R03B707) 484
 売掛金元帳 - 総勘定元帳入金プログ
 ラム(R890911BI) 489
 売掛金元帳 - 総勘定元帳(バッチ別)
 プログラム(R03B701) 482
 製品ガイド
 注文 xxviii
 設定
 AAI(自動仕訳) 21
 関連項目: AAI(自動仕訳)
 業種別処理 9
 顧客マスター・カテゴリ・コード 38
 顧客マスター・レコード 29
 固定情報 6
 会社制御 11
 拡張固定情報 9
 集計方法 10
 バッチ制御 10
 自動採番 20
 自動入金処理 57
 関連項目: 自動入金処理
 支払条件 25

損金処理コード 26
 単一方針 102
 手形 49
 ユーザー定義コード(UDC) 12
 与信/回収管理 85
 関連項目: 与信/回収の設定
 全額NSF手形の入力 310
 前提知識 xxvii

そ

総勘定元帳転記レポート・プログラム
 (R09801)
 請求書処理の概要 141
 手形処理の概要 293
 入金処理概要 225
 バッチ請求書処理の概要 164
 払戻し処理の概要 451
 総勘定元帳入金
 概要 209
 「スピード入金入力」を使用した入
 力 222
 入金入力プログラムを使った入
 力 209
 未充当入金の作成 210
 総勘定元帳入金の追加 209, 222
 相互参照 xxxi
 顧客と延滞方針 111
 相殺
 売掛/買掛 453
 売掛金相殺ワークファイル・テーブ
 ルの作成(F03B465) 470
 相殺レポート 469
 相殺レポートの印刷 469
 相殺レポート・ファイルの作成プログラ
 ム(R03B465)
 処理オプション 471
 用途 470
 損金
 AAI(自動仕訳) 25
 解決のための活動コードの適用 363
 クレジット・メモの消込 364
 処理コード 26
 損金処理の無効化 365
 損金を伴う入金入力 180
 調査および解決 361
 入金に対する入力 360
 入力 358
 請求書用 358
 入金用 359
 無効化 364, 365

損金解決のための活動コードの適用 363

損金処理 355

関連項目: 損金

概要 355

設定 26

損金の原因追求 356

損金処理マスター・プログラム

(P03B42) 26

損金の逆仕訳 361

損金へのクレジット・メモの適用 361, 364

損金理由コード 16

た

貸借不一致の請求書入力 119

単独レコード

概要 210

再請求(入力タイプ・コード26) 211

小額消去(入力タイプ・コード25) 211

請求書照合を伴わない 214

損金(入力タイプ・コード27) 212

単独レコードの入力

再請求(入力タイプ・コード26) 211, 213

小額消去(入力タイプ・コード25) 211, 213

損金(入力タイプ・コード27) 212, 213

ち

注意 xxxi

注意事項 xxxi

つ

追加ドキュメンテーション xxviii

て

定期請求書

改訂 134, 138

解約 135

概要 134

検討 134

再作成 135

支払の改訂 138

入力 136

定期請求書の再作成プログラム

(R03B8101)

処理オプション 139

用途 135

定期請求書の照会プログラム

(P03B120) 138

定期請求書用の再作成処理 135

定期請求書履歴の処理プログラム

(P03B120) 137

定期請求書レポート・プログラム

(R03B305)

処理オプション 138

データ順序 138

用途 134

手形

AAI(自動仕訳) 25

NSF手形通知レポート(R03B574)の

印刷 311

計算書の印刷 371

更新手形の作成 311

手形入力結果の検討 237

入金の高不足(NSF)指定 310, 312

明細の作成 306

手形回収(状況更新)プログラム

(R03B680)

処理オプション 315

手形処理

受取 269

回収 314

改訂 276

概要 257

偶発債務 304

自動手形 275

設定

AAI(自動仕訳) 52

銀行/支店情報の検証 56

自動採番 55

支払手段 55

手形タイプ別AAI(自動仕訳) 53

ユーザー定義コード(UDC) 49

総勘定元帳への影響 260

手形状況の変更(前状況に戻す) 299

手形タイプ 257

手形の改訂、削除、無効化 299

手形の承認と転記 293

手形の取立 302

手入力手形の入力 269

入力タイプ・コード 269

バッチの転記 293

振出 261

関連項目: 手形の振出

未充当手形と請求書の消込 288

明細 306

明細の作成と改訂 305

手形処理ステップ
 受取 258
 回収 260
 取立 259
 振出 258
 手形入力(顧客)プログラム(P03B602)
 処理オプション 278
 用途 269
 手形入力(自社)プログラム(P03B602)
 処理オプション 278
 用途 269
 手形の受取 269
 手形の回収 314
 手形の銀行/支店情報の検証 56
 手形の偶発債務 304
 手形の取立
 エラー処理 304
 概要 303
 手形の取立プログラム(R03B672)
 処理オプション 307
 データ選択 307
 用途 305
 手形の振出
 計算書の印刷(手形付き) 262, 264
 請求書の印刷(手形付き) 262, 263
 手形バッチの転記 293
 手形明細の作成 305, 306
 手形明細の作成と検討プログラム
 (P03B675) 306
 転記の集計方式
 B 144
 S 143
 Y 143
 概要 142
 電子資金決済(EFT) 319
 電子データ交換(EDI)
 概要 335
 受信データの検討と改訂 344
 受信データの除去 353
 受信データの転送 343
 マッピング要件 336
 ロックボックス転送データの追加 351
 ロックボックス・トラランザクションの受
 信 336
 電子入金
 自動処理のための入金のマッピン
 グ 59
 除去 254
 電子入金の検討プログラム
 (P03B121) 251, 252, 253

電子入金の更新プログラム(R47111)
 処理オプション 343
 用途 343
 電子入金の削除 251
 電子入金の除去プログラム(R03B0041A)
 処理オプション 255
 用途 254
 電子入金の追加 251, 252
 伝票タイプ・コード 13
 添付
 請求書への追加 118

と

統計傾向分析プログラム(R03B165) 551
 統計計算 432
 統計計算(会社別)プログラム
 (R03B1691) 553
 統計計算(回収管理者別)プログラム
 (R03B1693) 553
 統計計算(与信管理者別)プログラム
 (R03B1692) 553
 統計情報
 検討 440, 441
 更新 430, 436
 除去 443
 年次締めプログラムの実行 442
 年齢調べ 436
 統計除去データの再転記プログラム
 (R03B163)
 処理オプション 444
 用途 443
 ドキュメンテーション
 関連 xxviii
 最新版 xxviii
 ダウンロード xxviii
 ドキュメンテーションのダウンロード
 ド xxviii

に

日本
 計算書フォーマット 371
 入金 167
 関連項目: 手動入金処理
 NSFとしての指定 231, 232
 一般会計 209
 削除または無効化 230
 システムからの除去 491, 493
 自動 57, 241
 関連項目: 自動入金処理

- 請求書に対するクレジット・メモの消込 208
 - 請求書に対する未充当入金の消込 208
 - 請求書のロード 201
 - 整合性の検証 489
 - 損金の入力 359
 - 単独 210
 - 入金自動処理のための実行リストの定義 81
 - 入金入力結果の検討 237
 - 入金の請求書支払項目の削除または無効化 231
 - 入力
 - 再請求を伴う入力(入力タイプ11と16) 178
 - 自動小額消去を伴う入力(入力タイプ10) 179
 - 手動小額消去を伴う入力(入力タイプ15) 179
 - スピード入金入力(P03B0001)を使用 215
 - 請求書照合(入力タイプ・コード10) 177
 - 損金を伴う入金(入力タイプ・コード17) 180
 - マイナス 182
 - 未充当 189
 - 割引を伴う入力(入力タイプ10) 178
 - 標準入金入力 184
 - 複数の入力タイプ・コードを使った請求書照合 182
 - 未決済請求書の表示 199
 - 入金傾向分析プログラム(R03B167) 552
 - 入金消込アルゴリズムの定義プログラム(P03B52) 60
 - 入金消込用請求書の選択 199
 - 入金消込用請求書のロード 199
 - 入金処理記録プログラム(R03B560)
 - 処理オプション 556
 - 用途 556
 - 入金仕訳帳プログラム(R03B311)
 - 処理オプション 555
 - データ順序 555
 - 用途 554
 - 入金調整(損金)処理プログラム(P03B40) 360
 - 入金転記
 - 概要 225
 - 作成される自動仕訳 228
 - 入金転記自動仕訳 228
 - 入金伝票タイプ・コード 14
 - 入金取引の除去プログラム(R03B801)
 - 処理オプション 492
 - 用途 491, 493
 - 入金入力
 - 一般会計 209
 - 再請求を伴う入力(入力タイプ11と16) 178
 - 小額消去を伴う入力(入力タイプ10と15) 179
 - 請求書照合(入力タイプ・コード10) 204, 207, 208, 213
 - 損金を伴う入金(入力タイプ・コード17) 180
 - 入力タイプ・コード10を使用 177
 - 複数の入力タイプ・コードを使った入金入力 182
 - マイナス 182
 - 未充当 189, 197
 - 有効な割引(入力タイプ10) 184
 - 入金入力プログラム(P03B102)
 - 処理オプション 190
 - 用途 167
 - 入金の消込プログラム(R03B50)
 - 処理オプション 249
 - 用途 248
 - 入金の削除 229
 - 入金の承認 225
 - 入金の請求書支払項目の削除 231
 - 入金見出しの更新プログラム(R03B551)
 - 処理オプション 244
 - 用途 242
 - 入力タイプ・コード
 - 1 215
 - 2 215
 - 3 215
 - 4 215
 - スピード入金 18, 215
 - 手形処理 269
 - 標準入金 17
 - 例 172
- ね
- 年次締めプログラム(R03B161)
 - 処理オプション 443
 - 用途 442
 - 年齢調べ傾向分析プログラム(R03B166) 552

年齢調べ相殺レポート・プログラム
(R03B466)
処理オプション 472
用途 471

は

バッチ請求書処理
概要 153
除去処理済請求書 165
請求書の改訂 154
請求書の削除 154
請求書の追加 154
請求書の転記 164
フィールドのマッピング 495
F03B11Z1 495
F0911Z1 526
概要 154
収益性分析用 529
バッチ請求書処理プログラム
(R03B11Z1A)
処理オプション 162
用途 158
バッチ請求書の改訂プログラム
(P03B11Z1)
処理オプション 155
用途 154
バッチ請求書の削除 154
バッチ請求書の追加 154
バッチ制御必須 8
払戻し
概要 445
作成 446, 449
転記 451
払戻しの作成 445, 446
払戻しの作成プログラム(R03B610)
処理オプション 449
用途 445, 446

ひ

備忘メッセージ 400
備忘メッセージの追加 400
表記規則 xxx
標準請求書入力プログラム(P03B11)
処理オプション 122
用途 116
標準レポート 547

ふ

不動産管理の入金入力プログラム
(P15103)
売掛金元帳のすべての未決済請求
書のロード 207
自動小額消去による入金の追加 207
部分残高不足(NSF)手形の入力 310
振込仕訳プログラム(R03B408)
処理オプション 556
用途 556
分析用レポート 547

へ

ベルギー
顧客マスター 37

ほ

方針
延滞通知指示の設定 97
延滞利息金指示の設定 96
顧客への割当 106
信用保険契約 102
信用保険の設定 102, 103
方針相互参照プログラム
(P03B2502) 111

ま

マイナスの入金 182

み

未決済売掛金集計分析プログラム
(R03B155)
処理オプション 551
用途 550
未決済売掛金(年齢調べ)レポート
(R03B4201B)
処理オプション 559
用途 559
未決済売掛金プログラム(R03B4201A)
処理オプション 558
用途 558
未決済売掛金明細(集計)レポート・プロ
グラム(R03B413A)
集計オプション 557
処理オプション 557
未充当手形
請求書に対する消込 288
入力 285
未充当手形と請求書の消込 288

未充当手形の入力 285
 未充当入金
 スピード入金での入力 221
 請求書に対する消込 205, 208
 総勘定元帳入金による作成 210
 払戻しの作成 446
 標準的な入金入力 189, 197
 未充当入金の請求書への配賦 205, 208
 未充当入金の追加 197
 未転記の請求書
 改訂 120

む

無効化
 損金 361, 364, 365
 損金処理 364, 365
 転記済請求書 148
 転記済請求書支払項目 149
 入金 229, 230
 入金の請求書支払項目 231

も

モデル仕訳 117

ゆ

有効日付カテゴリ・コード
 改訂 39
 除去 43
 追加 39, 42
 入力 38
 有効化 7, 39
 有効日付カテゴリ・コードの更新プログラム (R03012A)
 処理オプション 43
 データ選択とデータ順序 43
 用途 38, 39, 40
 有効日付カテゴリ・コードの除去プログラム (R03012B)
 処理オプション 43
 用途 39, 40
 有効日付カテゴリ・コードの追加 42
 有効日付カテゴリ・コードの入力 42
 ユーザー定義コード(UDC)
 00/CM 12
 00/DE 13
 00/DI 13
 00/DT 13, 14
 00/PS 14, 51

00/PY 15, 50
 01/CM 15
 01/CR 15
 01/DB 15
 01/LP 15
 01/TR 15
 03B/AG 16
 03B/CB 16
 03B/CL 16
 03B/CR 16
 03B/DS 49
 03B/PL 17
 03B/PR 17
 03B/RC 17, 429
 03B/RE 17
 03B/SA 18
 03B/VR 18
 04/RC 18
 04/SC 19
 H00/AG 16

よ

与信/回収活動コード・プログラム (P03B30) 90
 与信/回収管理者のUDCの追加 105
 与信/回収期間パターンの設定 87
 与信/回収期間パターン・プログラム (P03B08) 87, 88
 与信/回収情報の顧客への割当 106
 与信/回収処理
 売掛管理統計の更新 429
 関連項目: 統計情報
 延滞通知の生成 413
 延滞利息金の生成 422
 親/子勘定残高の検討 396, 397
 顧客勘定の管理 390
 顧客勘定の検討 392, 394
 顧客勘定の処理 397
 顧客取引活動の管理 390
 顧客取引活動ログの除去 390
 信用報告テープの作成 404, 405
 請求書の印刷 367
 年齢調べ統計情報 436
 備忘メッセージの追加 400
 与信情報の改訂 402
 与信分析のリフレッシュ・プログラム (R03B525) の利用 383
 ワークフロー管理を使用した顧客勘定の処理 398, 400
 与信/回収の設定

延滞通知指示 97
 延滞通知と計算書のレターテキスト 100
 延滞方針 92
 延滞利息金指示 96
 概要 85
 活動コード 90
 期間パターン 87, 88
 顧客レコード 106
 信用保険契約 101, 103
 保険契約 102
 与信/回収管理者 105
 ワークフロー・メッセージ 111
 与信管理者UDC(01/CR) 15
 与信承認/管理プログラム
 (P03B305) 402
 与信分析のリフレッシュ・プログラム
 (R03B525)
 概要 422
 処理オプション 385
 用途 383, 413
 与信メッセージ・コード 12
 与信履歴の更新プログラム(R03B16A)
 処理オプション 438
 用途 429, 430, 431

り

理由コード
 回収 16
 再請求 16
 小額消去 17
 損金 16
 無効/NSF(残高不足) 18

れ

レターテキスト
 延滞通知と計算書のための設定 100
 通知と計算書のための設定 100
 レポート
 標準 547
 分析用 547
 連絡先情報 xxxii

ろ

ロックボックス処理 336

わ

割引
 請求書での入力 132

請求書の計算 117
 損金からの作成 361
 無効割引に対する再請求の作成 178
 割引理由コード 13
 ワークフロー・メッセージ
 顧客勘定の管理 398, 400
 与信/回収管理者の有効化 111
 与信限度額承認の有効化/無効化 111

